

山梨県北杜市
竹宇1遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大除・竹宇工区に伴う
埋蔵文化財調査報告

2016
北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所

山梨県北杜市
ちくういち
竹宇1遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大除・竹宇工区に伴う
埋蔵文化財調査報告

2016
北杜市教育委員会
山梨県中北農務事務所

例　　言

1. 本書は、山梨県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大除・竹宇工区に伴い北杜市教育委員会が平成 24 年度に実施した竹字 1 遺跡発掘調査の報告書である。
2. 調査地点は、山梨県北杜市白州町白須 2849-1 番地で、調査面積は 1,390 m²である。
3. 調査は、山梨県中北農務事務所の委託を北杜市が受託して実施したものである。
4. 現地における発掘調査は平成 24 年 10 月 22 日から平成 25 年 3 月 13 日に北杜市教育委員会学術課が実施した。整理作業は平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで実施した。
5. 調査組織は以下のとおりである。
調査主体……… 北杜市教育委員会教育長 藤森顕治
調査事務局……… 北杜市教育委員会学術課
調査担当……… 北杜市教育委員会学術課 佐野隆
6. 本書は佐野が執筆・編集した。第 4 章第 2 節は石器属性観察業務を委託した有限会社アルケーリサーチが執筆した原稿を佐野が編集した。
7. 調査において、調査支援業務を特定非営利活動法人茅ヶ岳歴史文化研究所、石器属性観察業務を有限会社アルケーリサーチ、出土土器胎土分析を公益財団法人山梨文化財研究所に委託した。
8. 本調査に係る調査記録および出土品は北杜市教育委員会学術課（埋蔵文化財センター）が保管している。

凡　　例

1. 竹字 1 遺跡の位置は、国土地理院発行 2 万 5 千分の一数値地図『長坂上条』に該当する。そのほか本書中の地図は旧白州町発行『白州町全図』、北杜市地理情報システム収録図を用いた。
2. 報告書中の土壤および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。
3. 報告書中の遺構図および遺物実測図、石器写真の縮尺は、各図版ごとに示す。
4. 報告書中のトーンの意味するところは、各図版ごとに記載した。原則として遺構の場合は焼土、磨石類は摩滅面、ハンマー・敲石類は敲打痕、土器は彩色範囲を示している。
5. 図版中の石器の遺物番号は整理作業の際に付した整理番号をそのまま利用した。点数が多く図版番号を振り直すことで誤りが生じることを恐れたためである。
6. 土坑一覧表の断形欄にあるア～カは、下に示す断面形を表している。



7. 付録 DVD に、報告書に記載した土坑、ピットの写真、出土遺物写真、「打製石器属性観察表」、「種子圧痕報告書」、種子圧痕資料写真を収録した。

目 次

例言

凡例

目次

第1章	遺跡の概要と調査に至る経緯	1
第1節	遺跡の概要	1
第2節	発掘調査の経緯	1
第3節	発掘調査の方法	3
第2章	周辺遺跡の環境	13
第1節	地理的環境	13
第2節	歴史的環境	13
第3章	遺構と遺物	14
第1節	縄文時代の遺構と遺物	14
第2節	平安時代の遺構と遺物	39
第4章	理化学分析の目的と結果	230
第1節	土器圧痕の調査と結果	230
第2節	出土石器の属性観察と分析結果	232
第3節	竹宇1遺跡出土石器のまとめ 特に打製石斧と横刃形石器について	238
第5章	調査の総括	244

表目次

第1表	周辺遺跡地名表	6～8
第2表	土坑ビット観察表	152～161
第3表	土器観察表	162～192
第4表	石器組成表	193・194
第5表	打製石器観察表	195～221
第6表	磨製石器観察表	222～225
第7表	種子圧痕一覧表	226～229

図版目次

第1図	竹宇1遺跡の位置と周辺遺跡	5	第7図	4号住居土坑・出土遺物	42
第2図	竹宇1遺跡と周辺遺跡	9	第8図	4号住居出土遺物	43
第3図	調査地点の位置	10	第9図	5号住居 出土遺物	44
第4図	埋蔵文化財包蔵地範囲と調査地点	10	第10図	5号住居出土遺物	45
第5図	調査区全体図	11・12	第11図	6号住居・出土遺物	46
第6図	4号住居	41	第12図	6号住居出土遺物	47

第13図	6号住居出土遺物	48
第14図	6号住居出土遺物	49
第15図	7号住居	50
第16図	7号住居炉・出土遺物	51
第17図	7号住居出土遺物	52
第18図	9号住居・出土遺物	53
第19図	9号住居出土遺物	54
第20図	9号住居出土遺物	55
第21図	9号住居出土遺物	56
第22図	10号住居・出土遺物	57
第23図	10号住居出土遺物	58
第24図	10号住居出土遺物	59
第25図	10号住居出土遺物	60
第26図	11号住居・出土遺物	61
第27図	11号住居出土遺物	62
第28図	12A号住居・出土遺物	63
第29図	12A号住居出土遺物	64
第30図	12B号住居・出土遺物	65
第31図	12B号住居出土遺物	66
第32図	13号住居・出土遺物	67
第33図	13号住居出土遺物	68
第34図	13号住居出土遺物	69
第35図	14号住居	70
第36図	14号住居ピット・出土遺物	71
第37図	14号住居出土遺物	72
第38図	15号住居	73
第39図	15号住居土坑・出土遺物	74
第40図	15号住居出土遺物	75
第41図	15号住居出土遺物	76
第42図	15号住居出土遺物	77
第43図	15号住居出土遺物	78
第44図	16号住居・出土遺物	79
第45図	16号住居出土遺物	80
第46図	16号住居出土遺物	81
第47図	17号住居・出土遺物	82
第48図	17号住居出土遺物	83
第49図	17号住居出土遺物	84
第50図	18号住居	85
第51図	18号住居出土遺物	86
第52図	18号住居出土遺物	87
第53図	19号住居・出土遺物	88
第54図	19号住居出土遺物	89
第55図	19号住居出土遺物	90
第56図	20号住居	91
第57図	20号住居出土遺物	92
第58図	20号住居出土遺物	93
第59図	20号住居出土遺物	94
第60図	20号住居出土遺物	95
第61図	20号住居出土遺物	96
第62図	21号住居出土遺物	97
第63図	22号・31号・32号住居出土遺物	98
第64図	23号住居	99
第65図	23号住居出土遺物	100
第66図	23号住居出土遺物	101
第67図	23号住居出土遺物	102
第68図	23号住居出土遺物・24号住居	103
第69図	25号住居出土遺物	104
第70図	25号住居出土遺物	105
第71図	25号住居出土遺物	106
第72図	25号住居出土遺物	107
第73図	25号住居出土遺物	108
第74図	25号住居出土遺物	109
第75図	26号・29号住居・26号住居出土遺物	110
第76図	26号住居出土遺物	111
第77図	29号住居遺物出土状況	112
第78図	29号住居出土遺物	113
第79図	29号住居出土遺物	114
第80図	29号住居出土遺物	115
第81図	27号住居出土遺物	116
第82図	27号住居出土遺物	117
第83図	27号住居出土遺物	118
第84図	28号住居出土遺物	119
第85図	28号住居出土遺物	120
第86図	33号住居・出土遺物	121
第87図	33号住居出土遺物	122
第88図	33号住居出土遺物	123
第89図	33号住居出土遺物	124
第90図	33号住居出土遺物	125
第91図	29号土坑・30号土坑	126
第92図	34号土坑・35号土坑	127
第93図	40号土坑・41号土坑	128
第94図	41号土坑・42号土坑	129
第95図	32号土坑・33号土坑・54号土坑	130
第96図	64号土坑・72号土坑	131
第97図	77号土坑・78号土坑	132
第98図	78号土坑出土遺物・86号・87号土坑	133

第99図	103 号土坑・104号土坑	134	第108図	遺構外出土遺物	143
第100図	109 号土坑・112号土坑	135	第109図	遺構外出土遺物	144
第101図	114 号土坑・117号土坑	136	第110図	遺構外出土遺物	145
第102図	土坑出土遺物	137	第111図	遺構外出土遺物	146
第103図	土坑出土遺物	138	第112図	遺構外出土遺物	147
第104図	土坑出土遺物	139	第113図	遺構外出土遺物	148
第105図	土坑出土遺物	140	第114図	1号住居・出土遺物	149
第106図	ピット出土遺物	141	第115図	2号住居・出土遺物 3号住居・出土遺物	150
第107図	遺構外出土遺物	142	第116図	1号掘建柱建物	151
写真図版 1 ~ 32			251 ~ 282		
抄録					
奥付					

付録 DVD収録内容：

1. 土坑・ピット写真
2. 出土遺物写真
3. 打製石器属性観察表
4. 種子丘痕資料写真

第1章 遺跡の概要と調査に至る経緯

第1節 遺跡の概要

周知の埋蔵文化財包蔵地である竹宇1遺跡は、縄文時代中期を主体とした集落跡である。昭和58年3月に旧白州町教育委員会（現北杜市）が作成した『白州町遺跡分布調査報告書』には、「竹宇遺跡」の名称で登録され、竹宇集落の北側の尾根状の台地に位置し、縄文土器（曾利式）と中世土器片が採集されたと記載されている。台帳に添付された採集遺物の写真には、曾利式土器と後期の土器と思われる破片がみえる。台帳の注意書きには、「昭和47年の遺跡台帳記載の竹宇遺跡とは異なる。桜井①遺跡参照」とある。台帳の別頁には竹宇集落の南側尾根の130m×70m範囲に「桜井①遺跡」が登録され、同じく注意書きに「昭和47年分布調査台帳記載の竹宇遺跡がこれに当るとと思われる。」とあり、藤内式から曾利式土器が採集されたと記載されている。

以上のように竹宇集落の南北では、昭和47年の遺跡分布調査時から埋蔵文化財包蔵地が存在すると認識されていた。住宅が立ち並ぶ竹宇集落自体は表面採集ができないため包蔵地から除外されていたと推測される。本書で報告する竹宇1遺跡の発掘調査は、この「竹宇遺跡」と「桜井①遺跡」の中間地点にあたり、昭和58年台帳が記したとおり縄文時代中期の集落跡が確認されたが、その調査成果から現在、北杜市教育委員会の埋蔵文化財包蔵地図では遺跡範囲を大きく変更している。

平成18年には甲斐駒ヶ岳広域農道建設に伴い、竹宇1遺跡の東北東280m地点において竹宇3遺跡の発掘調査を北杜市が実施した。曾利II式期の堅穴住居2軒が検出され、平成19年に『竹宇3遺跡』発掘調査報告書を刊行している。

平成23年と24年には、県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業に伴い、竹宇1遺跡の東側350mにある堰口遺跡で発掘調査を実施した。この調査により堰口遺跡は、縄文時代前期前葉の中越式期から前期後葉の諸磯式期の集落遺跡であることが確認された。さらに中期中葉と末葉の住居も若干、検出されている。

平成26年3月には、太陽光発電施設建設に伴い竹宇1遺跡の西側に隣接する桜井1遺跡内で試掘調査が実施された。縄文時代中期だけでなく後期、堀之内式から加曾利B式土器が出土した。

以上のように竹宇1遺跡周辺では、縄文時代前期から後期に至る濃密な土地利用が確認されているが、後述するとおり、本調査に先立って実施した試掘調査では遺構・遺物の空白地帯が認められており、竹宇1遺跡、竹宇3遺跡、堰口遺跡はそれぞれ別個の埋蔵文化財包蔵地として扱うこととする。

第2節 発掘調査の経緯

北杜市では耕作放棄地を有効に活用するために土地改良事業を実施して民間農業法人を誘致する事業を積極的に推進している。北杜市白州町地区でも平成22年度から県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業を実施することが検討され、山梨県中北農務事務所と北杜市農政課が地元地権者との協議、関連法令との調整を進めた。その一環で、平成22年8月19日に工事計画地内の周知の埋蔵文化財包蔵地について北杜市農政課から口頭での照会があった。県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大陰・竹宇工区には、本書で報告する「竹宇1遺跡」が所在するため、地権者同意などの条件が整ったところで試掘調査が必要であると回答した。平成23年2月8日、土地改良事業側と北杜市教育委員会学術課とで再度、協議し、早急に埋蔵文化財の分布範囲と遺構の密度、時代などを確認するための試掘調査を、他の工区を含めた約15ヘクタールを対象に実施することとした。

試掘調査は、山梨県中北農務事務所の依頼を受けて平成23年4月4日から4月25日に実施した。大陰・竹宇工区では9.7ヘクタールを対象に2m四方の試掘坑101ヶ所を発掘した。その結果、北杜市白州町白須2849-1番地と2850-1番地の2筆、計2419m²で、縄文時代中期中葉から末葉の集落跡の所在が確認された。

平成 23 年 4 月 25 日、試掘調査の結果を踏まえて、事業主体である山梨県中北農務事務所と北杜市農政課、北杜市教育委員会学術課とで埋蔵文化財の取扱方針を協議した。遺跡が確認された 2 箇は広い工区の飛び地で、水田 2 箇のみが施工対象となっていた。2 箇の水田を 1 箇にまとめる計画であり、盛土造成される 1 箇は埋蔵文化財の現状保存が可能であったが、切土造成される 1 箇は施工により埋蔵文化財の破壊が避けられない。そこで切土造成される白州町白須 2849-1 番地 1 箇、1390 m²を対象に記録保存のための発掘調査を実施することとした。さらに調査対象地の休耕の可否、北杜市学術課の調査対応の可否と民間調査機関への委託の可否についても協議し、休耕なしでの調査は調査期間の制約上、困難であること、民間調査機関への委託は、試掘調査において正確な遺構数が把握できなかつたため設計が難しく困難であることを確認した。

発掘調査は平成 24 年 10 月 22 日から平成 25 年 3 月 13 日に北杜市教育委員会学術課が実施した。当初計画では平成 24 年 9 月から 11 月までの 3 ヶ月間に調査を実施することとしていたが、この調査に先立ち着手していた別工区の発掘調査が大幅に遅延したため、10 月下旬の着手となった。

さらに試掘調査は、埋蔵文化財の確認面が黒色土であったため遺構数と遺構密度が充分に確認できないまま終了していた。発掘調査に着手し表土を剥ぎ取ったところ、水田 1 箇の全面から濃密に遺物が出土し、多数の住居跡が広がっていることが判明した。この時点ですでに 11 月中旬を迎えることから、施工計画なども確定しており平成 24 年度内に調査を完了しなければならない状況に至っていたことから、厳冬期をはさんで調査を実施せざるを得なくなった。

1 月と 2 月の厳冬期の発掘調査は、地面の凍結との格闘であった。遺構が確認された地点は凍結防止を施したが、早朝には氷点下 10 度を下回る寒さで養生の効果は充分ではなかった。昼間でも気温が 0 度以上にならない日には、厚さ 10 cm に及ぶ凍結層を重機で剥ぎ取り調査を進めざるを得ない。凍結層にも遺物が含まれており、日差しに当て、またガスバーナーで解凍して遺物を回収したが回収しきれないものもあった。

こうした厳しい条件下で調査は思うように進捗せず、年度内で調査を完了させることが困難と見込まれた。そこで山梨県中北農務事務所と北杜市教育委員会で協議し、調査対象地 1 箇の切土量が少なくなるよう施工計画を変更し、埋蔵文化財の現状保存範囲を広げることとした。その結果、調査対象地 1 箇 1390 m² のうち 1000 m²で遺構を完掘し、390 m²では掘削深度まで掘り下げて遺構を確認し、出土遺物を取り上げながら、遺構を現状保存することになった。最終的に縄文時代中期の住居 28 軒、平安時代の住居 3 軒、土坑 113 基を検出し、うち縄文時代中期の住居 15 軒、平安時代の住居 3 軒を完掘し、縄文時代中期の住居 9 軒を現状保存した。土坑 113 基は完掘した。現状保存区域で土坑が検出されたが正確な数は未確認である。

整理作業は平成 25 年度に遺構測量図の調整、出土品の洗浄・注記、土器の接合・復元、実測・トレース、石器の分類と資料化対象石器の抽出、遺構図の照合・調整・トレース、出土土器の胎土分析、平成 26 年度に土器の実測・トレース、石器の属性観察と写真撮影委託を行い、平成 27 年度に発掘調査報告書原稿の編集と印刷製本を行った。

平成 24 年度から平成 27 年度までの年度ごとの調査経費と財源内訳は以下のとおりである。

平成 24 年度(現地調査) 10,947,486 円 (農政側負担額 9,809,000 円、文化財側負担額 1,138,486 円)

平成 25 年度(整理作業) 10,290,594 円 (農政側負担額 9,221,000 円、文化財側負担額 1,069,594 円)

平成 26 年度(整理作業) 7,092,501 円 (農政側負担額 6,345,000 円、文化財側負担額 747,501 円)

平成 27 年度(報告書刊行) 1,830,000 円 (農政側負担額 1,647,000 円、文化財側負担額 183,000 円)

合計 30,160,581 円 (農政側負担額 27,022,000 円、文化財側負担額 3,138,581 円)

竹字 1 遺跡の発掘調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 22 (2010) 年度

平成 23 年 2 月 21 日 埋蔵文化財の試掘調査の実施について (依頼)

平成 23 (2011) 年度

平成23年4月25日 白州地区荒廃農地解消・発生防止基盤整備事業に伴う埋蔵文化財取扱協議資料
(試掘結果報告)

平成24(2012)年度

平成24年9月25日 中北農第2487号埋蔵文化財発掘調査について(通知)
平成24年9月26日 中北農第2299号埋蔵文化財発掘の通知について
平成24年9月26日 埋蔵文化財発掘調査費に関する協定書
平成24年9月27日 北杜学術第277号埋蔵文化財発掘調査実施計画書
平成24年9月28日 中北農第4270号平成24年度埋蔵文化財発掘調査費について(通知)
平成24年10月1日 北杜学術第280-1号埋蔵文化財発掘の通知について(進達)
平成24年10月16日 教学文第1966号周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)
平成25年1月7日 北杜学術第280-4号埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成25年3月25日 北杜学術第280-5号埋蔵文化財調査終了報告
平成25年3月25日 北杜学術第280-6号埋蔵文化財保管証
平成25年3月25日 北杜学術第280-7号埋蔵物発見届
平成25年3月25日 北杜学術第280-8号埋蔵文化財保管請証
平成25年3月29日 北杜学術第277-2号埋蔵文化財発掘調査実施結果報告書

平成25(2013)年度

平成25年4月1日 北杜学術第37号埋蔵文化財発掘調査実施計画書
平成25年4月1日 中北農第5684号平成25年度埋蔵文化財発掘調査費について(通知)
平成25年5月16日 教学文第407号埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について(通知)
平成26年3月31日 北杜学術第37-2号埋蔵文化財発掘調査実施結果報告書

平成26(2014)年度

平成26年4月1日 北杜学術第25号埋蔵文化財発掘調査実施計画書
平成26年5月20日 中北農第4301号平成26年度埋蔵文化財発掘調査費について(通知)
平成26年10月24日 北杜学術第25-2号埋蔵文化財発掘調査変更実施計画書
平成26年10月27日 埋蔵文化財発掘調査費に関する変更協定書
平成26年10月27日 中北農第4434号平成26年度埋蔵文化財発掘調査費の変更について(通知)
平成27年3月31日 北杜学術第536号埋蔵文化財発掘調査実施結果報告書

平成27(2015)年度

平成27年4月9日 北杜学術第13号埋蔵文化財発掘調査実施計画書
平成27年4月9日 中北農第2027号平成27年度埋蔵文化財発掘調査費について(通知)
平成28年3月31日 北杜学術第13-2号埋蔵文化財発掘調査実施結果報告書

第3節 発掘調査の方法

前節にのべたとおり、竹字1遺跡の記録保存のための発掘調査は、山梨県北杜市白州町白須2849-1番地1筆、1390m²を対象に実施した。このうち1000m²で遺構を完掘し、390m²は遺構確認と出土遺物の取上げにとどめ遺構を現状保存した。また隣接する白須2850-1番地は盛土造成により遺跡が現状保存されるため発掘調査を実施しなかった。

調査対象地の表土は0.7立米重機を用いて剥ぎ取った。表土剥ぎ取り作業と併行して遺構確認面の精査を行った。遺構確認面は砂質黒色土で遺物が濃密に出土するが個々の遺構の検出は難しかった。そこで調査対象地の南西を原点とする10mグリッドを設定し、さらに2mの小グリッドに細分して、小グリッド単位で

土層觀察ベルトを残しながら発掘調査を進め、住居跡、土坑などを確認した（第5図）。

出土遺物の取上げ方法を記す。表土剥ぎ取り作業中に出土した表土中の遺物は「遺跡一括」と記載して取上げた。遺構確認面の精査時とグリッド単位の発掘調査で出土した土器小破片は小グリッド単位で取上げた。大きな土器破片や石器などは「遺構外出土遺物（IG）」と記載して光波測量器で出土位置を記録しながら取上げた。住居、土坑等の遺構が確認された後には遺構名を付し、小遺物は「遺跡一括」で、それ以外は遺構名を付して光波測量器で位置を記録して取り上げた。

本遺跡で用いる遺構略記号と遺構名の付け方について記す。縄文時代の住居は略記号を「PJ」とし連番号を付した。平安時代の住居は略記号を「PH」とし連番号を付した。土坑は「DK」、ピットは「PT」、掘立柱建物は「HO」とそれぞれ略記号と番号を付した。土坑とピットは、住居の構造材としての柱を立てたと思われる穴をピット、それ以外の穴を土坑とした。住居に付属すると思われる土坑やピットは住居ごとに番号を振らず連番とした。

現地の発掘調査の過程で出土した遺物は、單一の遺構に帰属する場合であっても、出土したタイミングにより、小グリッド単位で取上げたもの、遺構外遺物として取上げたもの、遺構名を付して取上げたもの、とに分かれることとなった。平成25年度の整理では、洗浄、注記の基礎的作業の後に、まず、上記のように取り上げた遺物を遺構に還元する分別作業を行った。竹宇1遺跡では住居が重複し合い、4軒の住居が重なり合う地点もある。光波測量器で出土位置を記録した遺物は、遺構の重複関係と出土位置の検討から特定の遺構に還元することができたが、小グリッド単位で取上げた遺物は還元できない場合が生じた。そこで、これら還元できない遺物は、便宜上、小グリッド内に占める遺構の面積比と遺構時期の新旧関係を勘案して、最適と思われる遺構に振り分けて報告する。

発掘調査中は、遺構等を中判フィルムカメラと35mm判デジタルカメラを用いて記録写真を適宜、撮影した。必要に応じて遺構埋土断面図、炉跡等の平面・断面図、遺物の出土状況図などを1/10から1/20縮尺で実測した。遺構埋土の観察は客觀性を確保するため、財團法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を用いて土色を表記した。

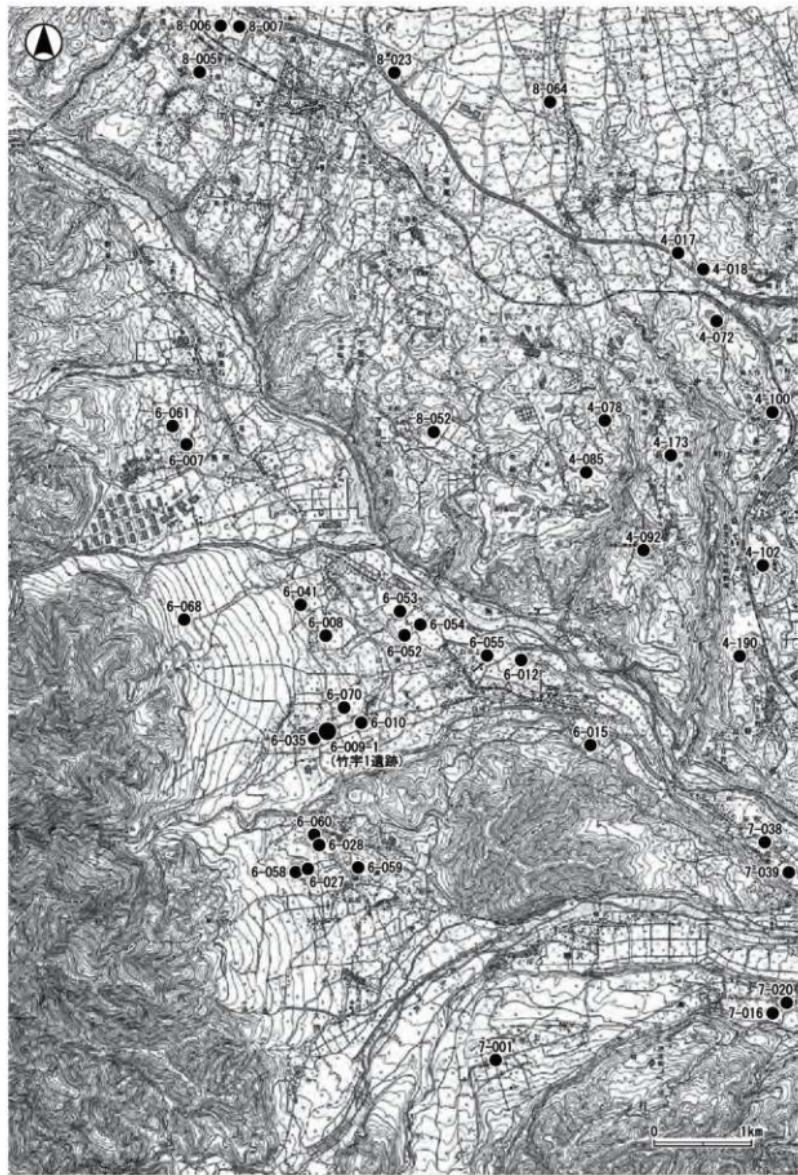
住居埋土には微小遺物、炭化物、動植物遺存体が含まれていると見込まれることから、いくつかの住居で埋土のサンプルを採取し、水洗選別して炭化物等の回収を試みた。埋土サンプルは土嚢袋1袋ないし2袋程度を採取した。水洗選別の結果は、第3章において個々の遺構ごとに報告する。

整理作業において出土土器に残された種子等の圧痕をレプリカ法を用いて調査、分析した。この結果は第4章第1節で概要を報告し、詳細は添付のDVDに収録する。

出土石器の属性観察と写真撮影を有限会社アルケーリサーチに、出土土器の胎土分析を公益財團法人山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。石器の観察結果は第4章第2節で概要を報告し、詳細は添付のDVDに収録した。土器の胎土分析は遺跡内で出土した縄文時代前期前葉の土器破片6点を対象に実施し、在地的特徴を示す試料と長野県天竜川流域の特徴を示す試料があることが報告された。

発掘調査報告書は写真、遺構実測図、遺物実測図をAdobe社製ソフトを用いて調整し、InDesignで編集してPDF化して印刷した。

出土遺物は、報告書に掲載したものは図版番号を元に分別し、掲載しなかったものは遺構番号ごとに分別して、調査記録とともに北杜市埋蔵文化財センターに保管している。



第1図 竹字1遺跡の位置と周辺遺跡 (1/50,000)

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名	発行機関
4-017	西下屢敷	北杜市 長坂町	縄文中期初期	土坑7基（五重台）、1・時期不明8基、ピット10基（縄文後期4・晚期1・時期不明4基）。	村松住幸	2005	「西下屢敷跡」	北杜市文化財調査 第5集
			縄文中期後期	竪穴住居（縄文中期後期～後期初期）、土坑7基（五重台）、1・時期不明8基、ピット10基（縄文後期4・晚期1・時期不明）。				北杜市教育委員会
4-018	新田森	北杜市 長坂町	縄文中期後期	竪穴住居（縄文中期後期～後期初期）、1・中期後期～後期初期2・後期初期4基）、土坑18基（竪穴12基、傍石2基、窓内1基）。	村松住幸	2005	「新田森跡」	北杜市文化財調査 第6集
4-072	越中久保	北杜市 長坂町	縄文中期後期	竪穴住居4軒、加賀剣Eの埋蔵跡跡2堆、土坑20基（うち竪穴13基）、傍石1基、窓内2基、1・中期後期～後期初期2・後期初期3基。	吉田光男	2002	「越中久保跡」	長坂町文化財調査 第2集
4-073	東巣4	北杜市 長坂町	縄文中期後期	竪穴住居1軒、土坑8基、ピット5基、石器埋積1基。	小窓山隆	2001	「東巣4遺跡」「ハケ田考古古 半成12年度年報」	北巨摩市町文化財担当者会
4-085	西無南	北杜市 長坂町	平安	竪穴住居2軒、土坑8基、ピット22基、俵土路1基。	村松住幸	2002	「西無南遺跡」「ハケ田考古古 半成12年度年報」	北巨摩市町文化財担当者会
4-092	清春白椿 美術館前	北杜市 長坂町	縄文中期中期	竪穴住居3軒、土坑10基（うち前期末葉13基）。	村松住幸	2003	「清春白椿美術館跡跡」	長坂町文化財調査 第5集
			縄文中期後期	竪穴住居4軒、土坑10基（うち前期末葉13基）。				長坂町教育委員会
			縄文中期初期					
			縄文中期後期					
			縄文中期中期					
4-100	東松	北杜市 長坂町	縄文中期後期	竪穴住居（縄文中期後期～後期）、土坑10基・溝1条（縄文中期中期～後期）。	小窓山隆・ 山下大輔	1999	「東松遺跡」「ハケ田考古古 半成10年度年報」	北巨摩市町文化財担当者会
			縄文中期中期					
			縄文中期後期					
4-102	酒呑場 G区	北杜市 長坂町	縄文中期初期		小窓山隆	1996	「酒呑場跡 G区」	長坂町文化財調査 第1集
			縄文中期中期					
			縄文中期後期					
			井戸尻一・菅原一					
			縄文中期前～中期					
4-102	酒呑場	北杜市 長坂町	縄文中期初期		保坂康夫	2005	「酒呑場跡（第1～3次）全2巻」	山西県文化財センター 調査報告 第26集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期					
			縄文中期後葉					
			縄文中期初期		野代幸和	1997	「酒呑場跡（第1・2次）」	山西県文化財センター 調査報告 第3集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期					
			縄文中期後葉					
			縄文中期初期	竪穴住居（前期初期2・中期後葉3・中期初期29・中期後葉30・中期後葉34・中期後葉39・後期初期1・古墳前期14・統一中期2・3・中期後葉1・中期1・井戸尻一・菅原1）、約500基の土坑（隕隕一・菅原1）、	保坂康夫	1997	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第3集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期					
			縄文中期後葉					
			縄文中期初期		保坂康夫・ 村松住幸	1998	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第4集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期		保坂康夫	1997	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第5集
			縄文中期後葉					山西県教育委員会
			縄文中期初期		保坂康夫・ 村松住幸	1998	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第6集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期		保坂康夫	1997	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第7集
			縄文中期後葉					山西県教育委員会
			縄文中期初期		保坂康夫・ 村松住幸	1998	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第8集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期		保坂康夫	1997	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第9集
			縄文中期後葉					山西県教育委員会
			縄文中期初期		保坂康夫・ 村松住幸	1998	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第10集
			縄文中期前葉					山西県教育委員会
			縄文中期中期		保坂康夫	1997	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第11集
			縄文中期後葉					山西県教育委員会
			縄文中期初期		保坂康夫・ 村松住幸	1998	「酒呑場跡（第1次）～酒原」	山西県文化財センター 調査報告 第12集
4-172	健康村	北杜市 長坂町	縄文中期初期	埋甕1基、土坑1基、時期不明の割引井9基・溝1条。	板倉歎之助	1994	「酒呑場跡」	新宿区区民健康 活動課団
			縄文中期後葉	竪穴住居1軒、埋甕1基、時期不明の割引井9基・溝1条。				
			平安	竪穴住居4軒、時期不明の埋甕1条。				

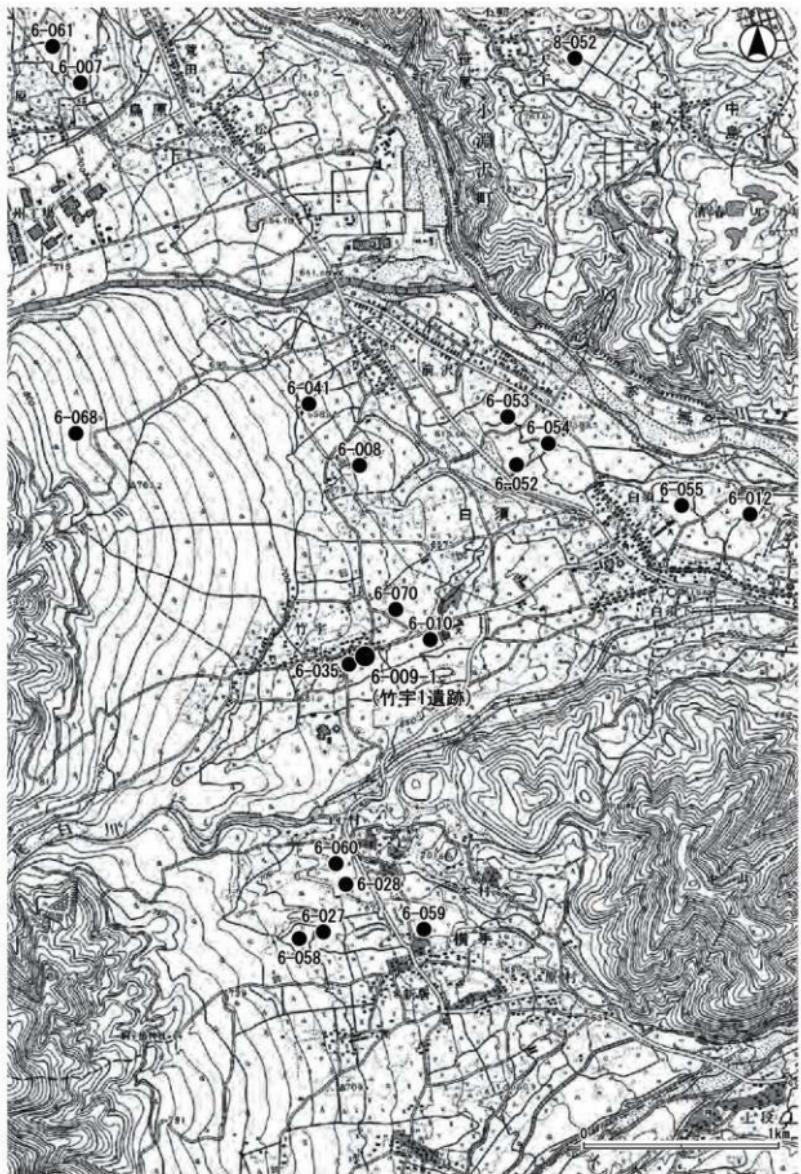
第1表 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名		発行機関
4-190	市之平北	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 10軒、圓錐柱跡物 1棟、土坑群（礎文～中世）。	長谷川 誠	2004	「市之平北遺跡」（ハッセ考古学 平成 15年度年報）		北巨摩市町村文化財担当者会
6-007	上小用	北杜市 白州町	縦文中朝後葉	竪穴住居 2軒。	杉本 克	2000	『白川平造跡調査 II』		白州町教育委員会
			縦文中朝中葉	竪穴住居 5軒、土坑 1基。					
			縦文中朝後葉	竪穴住居 10軒、土坑 21基。	杉本 克・ 云深孝廣	2005	『白川平造跡調査 III』	北杜市町村文化財担当者会 第 1集	北杜市教育委員会
			平安	竪穴住居 3軒、土坑 6基。					
6-008	北原	北杜市 白州町	縦文中朝後葉	竪穴住居 1軒、縦文～中世までの時期不明の土坑約 300 基。					
			縦文中朝後葉	竪穴住居 21軒、墓石 1基、土坑竪穴住居 1軒、縦文～中 世までの時期不明の土坑約 300 基。	五味考廣	2007	『白川平造跡調査 IV』	北杜市町村文化財担当者会 第 2集	北杜市教育委員会
			平安	竪穴住居 5軒、縦文～中世までの時期不明の土坑約 300 基。					
			縦文中期	土坑（縦文中期 II、中世 II を含む時期不明の土坑約 300 基）、 墓石 1基、（うち 4基は縦文中期 I、後土器（等））					
6-009-1	竹平 I	北杜市 白州町	縦文中期	菅原式主体の集落跡					
			平安	住居 1軒。		未報告			
6-010	堰口	北杜市 白州町	縦文中朝中期	竪穴住居 7軒。					
			縦文中朝後葉	竪穴住居 1軒。		未報告			
6-012	大久保	北杜市 白州町	縦文中朝中期	竪穴住居 2軒。					
			縦文中朝後葉	竪穴住居 9軒、土坑。	村松信幸	2009	『大久保（白原）遺跡』	北杜市町村文化財担当者会 第 3集	北杜市教育委員会
6-015	櫛古屋	北杜市 白州町	縦文中朝後葉	竪穴住居 12軒、中期末葉を主とした中期前葉～後葉にかけ ての 2 基の土坑。	野村 伸	1985	『櫛古屋遺跡』		白州町教育委員会
6-027	新原道上	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 7軒。平安～中世までの土坑 109 基。	折井 敦	1991	『「新原」遺跡・新原道上遺跡』		白州町教育委員会
6-028	上北田	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 1 軒。時期不明の土坑 22 基、柱列、粘土窯 窓穴、渠。	杉本 克・ 武雄雄六	1993	『上北田遺跡』		白州町教育委員会
6-035	程井 I	北杜市 白州町	縦文中朝中期						
			縦文中朝後葉						
			縦文後期前葉	中期中葉～後期中葉 住居 12軒。			未報告		
			縦文後期						
6-041	越木	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 7軒。	杉本 克	1997	『越木遺跡』		白州町教育委員会
6-052	坂下	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 4軒。小窓穴 3基。獨立柱跡物 1 棟、ピット跡。	折井 敦	1988	『坂下遺跡』		白州町教育委員会
6-053	所寄 I	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 6軒。獨立柱跡物 4 棟、土坑 11 基。	折井 敦	1989	『所寄 I 遺跡』		白州町教育委員会
6-054	所寄 II	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 10軒。獨立柱跡物 2 棟。平安と中世の土坑 8 基。	折井 敦	1989	『所寄 I・所寄 II 遺跡』		白州町教育委員会
6-055	田原原小学校	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 6軒。	杉本 克	1997	『田原原小学校遺跡』		白州町教育委員会
6-058	上北田 I	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 3軒。縦文中朝～近世までの土坑 10 基。時期不 明の竪穴式構造 1 基と配石 4 基。	折井 敦	1991	『上北田 I 遺跡・新原道上遺跡』		白州町教育委員会
6-059	吉御所東	北杜市 白州町	縦文中朝後葉	竪穴住居 1軒。					
			平安	竪穴住居 4軒。獨立柱跡物 1 棟。	杉本 克	1999	『吉御所東遺跡』		白州町教育委員会
6-060	西之久保	北杜市 白州町	平安	竪穴住居 2 軒。時期不明の竪穴式造営 4 基と溝状造営 5 基。	杉本 克	1998	『西之久保遺跡』		白州町教育委員会
6-061	熊来石民宿	北杜市 白州町	縦文中朝後葉	竪穴住居 4軒。土坑 2 基。	折井 敦	1990	『熊来石民宿遺跡』		白州町教育委員会
6-068	大原 I	北杜市 白州町	縦文中朝初期	土坑 1 基。					
			平安	竪穴住居 1 軒。	杉本 克	1997	『大原 I 遺跡』（ハッセ考古 古・平成 8年度年報）		北巨摩市町村文化 財担当者会

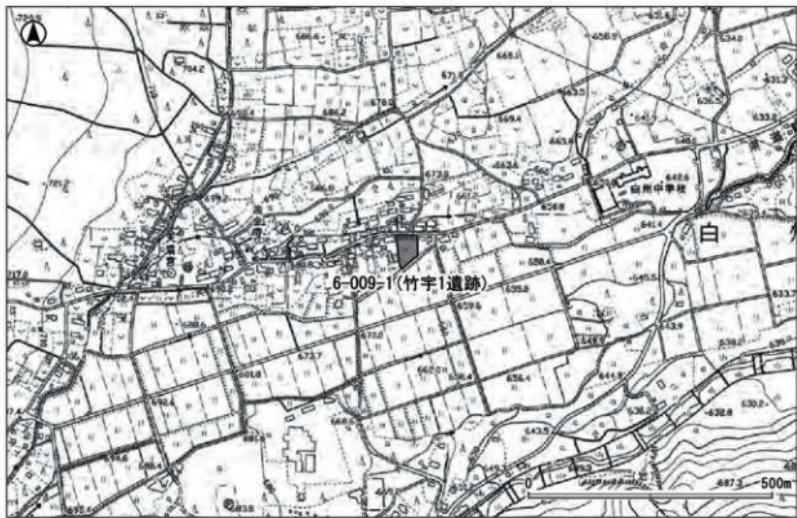
第 1 表 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	町名	時代	遺構数	編著者	発行年	報告書名	発行機関
6-070	竹平3	北杜市 白州町	绳文中期後葉	竪穴住居2軒。	坂口広太・ 佐野博	2007	「竹平3遺跡」	北杜市歴史情報告 第24集
			绳文中期後葉	竪穴住居2軒。土坑。	武田真人	1997	「真原人遺跡」「八ヶ岳考古 平成5年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期後葉	竪穴住居2軒。土坑2基。	武田真人	1998	「真原人遺跡」「八ヶ岳考古 平成6年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期後葉	竪穴住居1軒。土坑2基。	武田真人	1999	「真原人遺跡」「八ヶ岳考古 平成7年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
7-001	真原A	北杜市 武川町	绳文中期後葉	曾利式竪穴住居6軒。土坑10基。	平山惠一・ 坂口広太	2003	「真原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成11年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期後葉	竪穴住居4軒。土坑4基。	平山惠一・ 坂口広太	2004	「真原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成12年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期後葉	竪穴住居2軒。土坑200基。(保存) (これまでの全調査で實物住居29軒。土坑約350基。)	坂口広太	2006	「真原A遺跡 第7-9次調査(北杜市文化財監修 保存 17年度度)」	北杜市歴史委員会
			绳文中期後葉	竪穴住居5軒。土坑多數。	坂口広太	2007	「真原A遺跡」「北杜市文化財監修 平成18年度」	北杜市歴史委員会
7-016	東原B	北杜市 武川町	绳文中期初期	竪穴住居1軒。	平山惠一	2002	「東原B遺跡」「八ヶ岳考古 平成10年度」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期前葉	新造一棟内の住居3軒。				
			绳文中期中期	新造一棟内の住居4軒。				
7-020	実原A	北杜市 武川町	绳文中期初期	竪穴住居1軒。土坑群	武田真人	1999	「実原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成10年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期初期	竪穴住居1軒。土坑40基	平山惠一・ 坂口広太	2004	「実原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成15年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期初期	土坑群	武田真人	1999	「実原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成10年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期前葉	土坑群	武田真人	1999	「実原A遺跡」「八ヶ岳考古 平成10年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
7-028	御崎	北杜市 武川町	平安	平安住居7軒と時期不明の掘穴状遺構・墓・土坑2基。	平山惠一・ 坂口広太	2005	「御崎遺跡」	北杜市歴史委員会
7-039	宮間田	北杜市 武川町	平安(若干中世付近)	竪穴住居4軒(うち3軒は小堀古道構) 墓立社跡物46種。	平野 樹他	1988	「宮間田遺跡」	武川町歴史委員会
8-005	竹原	北杜市 小鹿沢	平安	竪穴住居3軒。鐵冶跡、鐵芯炉跡。	佐野勝広	1988	「小鹿沢竹原遺跡」	小鹿沢教育委員会
	竹原 (中世)-墓地	北杜市 小鹿沢	平安	竪穴住居1軒。		2001	「竹原380-1(舊地遺跡)」「八ヶ岳考古 平成10年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
8-006	沢の田	北杜市 小鹿沢	绳文中期初期	绳文時代の住居6軒(井戸1つ・壁文5)。绳文時代の土坑10基(前期末期・中期初期)。	佐野勝広	1984	「沢の田遺跡」	小鹿沢教育委員会
			绳文中期中期	绳文時代の住居6軒(井戸1つ・壁文5)。绳文時代の土坑10基(前期末期・中期初期)。				
8-007	中原	北杜市 小鹿沢	绳文中期後葉	竪穴住居(中期後葉6-8軒)・礎石遺構(1基)・平安3-4(鍵形3)・紀元後葉3-4(鍵形1)・鐵芯炉遺構1基。絶文と平安の土坑26基(曾利1・納招不明)。	末木 健	1974	「山梨県中央道遺跡文化財担当者会調査報告書第1号(小鹿沢町中原)」	山梨県教育委員会
			平安	竪穴住居(中期後葉6-8軒)・紀元後葉1-4(鍵形1)・平安3-4(鍵形3)・紀元と平安の土坑25基(曾利1・時野不明)。	佐野勝広	2001	「中原380-1(舊地遺跡)」「八ヶ岳考古 平成12年度年報」	北巨摩市町村文化財担当者会
			绳文中期後葉	竪穴住居6軒。				
8-023	上平出	北杜市 小鹿沢	绳文中期初期	絶文と平安の土坑15基(中期初期5-中期後葉1・中期1・後期1・時野不明)。焼跡不明の掘穴状構1基。	末木 健	1974	「山梨県中央道遺跡文化財担当者会調査報告書第1号(北杜市小鹿沢町中原)」	山梨県教育委員会
			绳文中期後葉	竪穴住居(中期後葉2-後期前葉1・平安1)・礎石立社跡物1棟。絶文と平安の土坑15基(中期初期5-中期後葉1・中期1・後期1・時野不明)。	末木 健	1974	「山梨県中央道遺跡文化財担当者会調査報告書第1号(北杜市小鹿沢町中原)」	山梨県教育委員会
			平安	竪穴住居(中期後葉2-後期前葉1・平安1)・礎石立社跡物1棟。絶文と平安の土坑15基(中期初期5-中期後葉1・中期1・後期1・時野不明)。				
8-052	前田	北杜市 小鹿沢	平安	竪穴住居4軒。掘立柱跡物1棟。時期不明の土坑2基と溝1条。	佐野勝広	1983	「前田」	小鹿沢教育委員会
8-064	猪八田	北杜市 小鹿沢	绳文中期後葉	竪穴住居1軒。	佐野勝広・ 鈴木 茂	1992	「西の入遺跡・猪八田遺跡」	山梨県教育文化財センター調査報告書 第1集

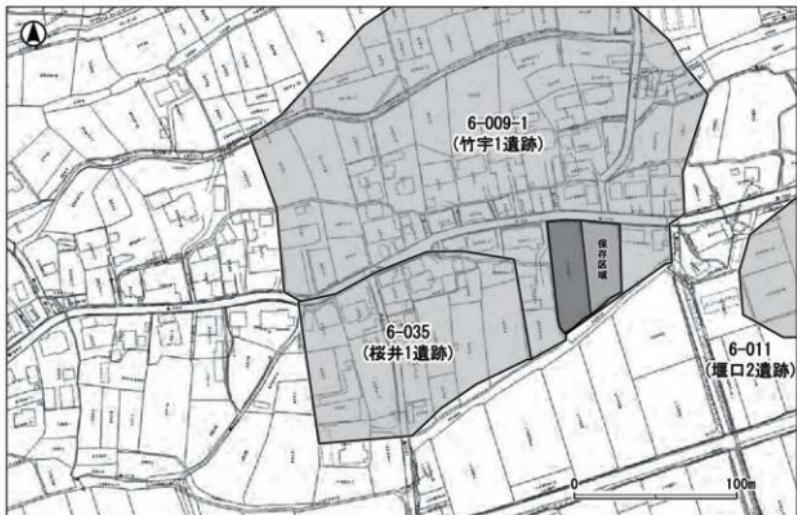
第1表 周辺遺跡地名表



第2図 竹宇1遺跡と周辺遺跡 (1/25,000)



第3図 調査地点の位置 (1/10,000)



第4図 埋蔵文化財包蔵地範囲と調査地点 (1/3,000)



B

C

D

E

F

G

H

I

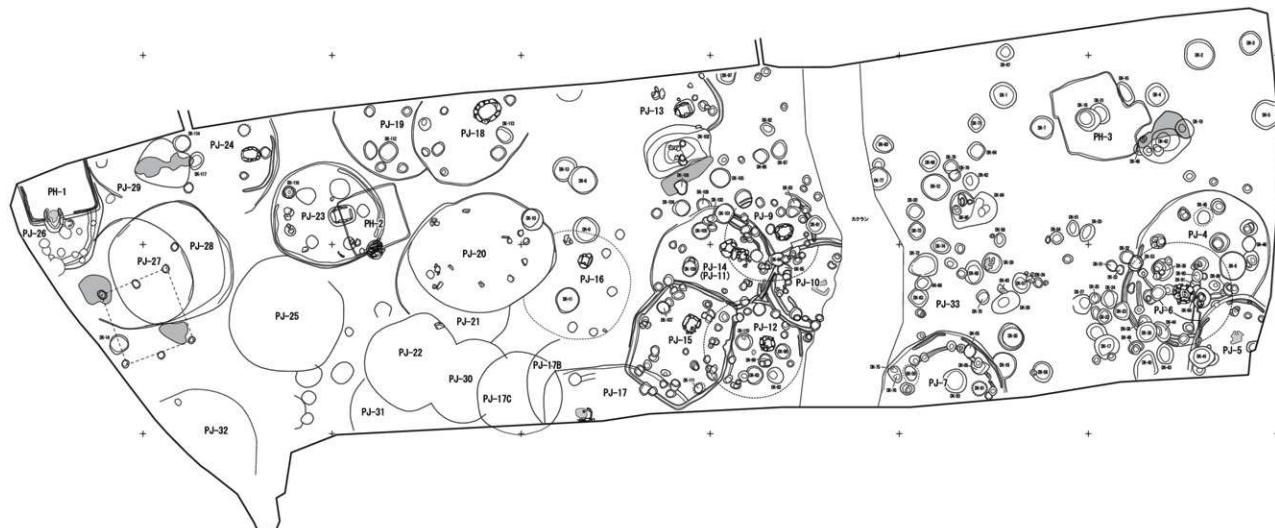
1

2

3

4

5



0
1/200 10m

第5図 調査区全体図 (1/200)

第2章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境

竹字1遺跡は、山梨県北杜市白州町白須2849-1番地とその周辺に所在する。

白州町は南アルプスの前衛、巨摩山地の東縁にあたり、巨摩山地を源流とする大小河川が形成した扇状地が山地裾に沿って南北に連続している。東側には富士川の支流、釜無川が南流して河川低地と河岸段丘を形成している。竹字1遺跡の一帯では、南に釜無川の支流、尾白川が西から東に流れ下り、北に田沢川が流れる。遺跡はこの二河川が形成した高位段丘上、標高666m付近に立地する。地形の状況と地元住民の話によると遺跡一帯は、主に田沢川の氾濫堆積物で形成された扇状地と推測され、遺跡は洪水の影響が少ない高位段丘面に位置する。竹字1遺跡の東、320m地点にある堰口遺跡では縄文時代中期中葉から平安時代までの間に発生した田沢川の洪水による1m厚の黄褐色砂層が検出されたが、竹字1遺跡では確認されなかった。また竹字1遺跡の西側に隣接する桜井1遺跡では縄文時代中期中葉から後期中葉の遺構が検出されていることから、縄文時代中期から後期の間は安定した環境にあったものと推測される。

第2節 歴史的環境

先述のとおり北杜市白州町は釜無川右岸の巨摩山地裾にあたり、大小河川の扇状地が連続している。現代に至るまで土砂災害を経験した土地柄であるが、縄文時代前期から後晩期に至る遺跡が多数、知られている(第1図、第1表)。

まず竹字1遺跡の西側に隣接して桜井1遺跡(6-035)がある。平成25年度に開発行為に伴って実施した試掘調査では縄文時代中期中葉から後期中葉までの住居12軒と土坑が確認されている。遺跡発見の経緯から竹字1遺跡と桜井1遺跡は別個の名称で周知されているが、中期段階では同一の集落を形成したとみてよい。この点を考えると竹字1遺跡の調査地点は中期環状集落の東部分に相当する可能性がある。

竹字1遺跡から東へ320m地点には堰口遺跡(6-010)がある。堰口遺跡は、縄文時代前期前葉中越式期、前期中葉有尾式期、前期後葉諸磧a式期からb式期、中期中葉藤内式期、中期末葉曾利II式期にかけて断続的に利用された集落跡で、特に前期段階の住居は限定された調査範囲で100軒前後、検出されている。中期中葉頃に河川環境の変化で竹字1遺跡に集落立地を移動したことも考えられる。

前期前葉中越式期の集落跡、上北田遺跡(6-028)が竹字1遺跡の南南西1.3kmにある。堰口遺跡の中越式期集落よりもやや先行する段階の集落跡である。

堰口遺跡の北側に隣接して竹字3遺跡(6-070)がある。甲斐駒ヶ岳広域農道建設に伴い発掘調査を実施した遺跡で、曾利II式期に限定した小規模な集落跡が確認されている。堰口遺跡で1軒のみ確認された曾利II式期の住居と一体となって集落を形成していたのであろう。曾利II式期は竹字1遺跡でも遺構が確認されているから、この時期には三遺跡が併存していたと考えられる。

竹字3遺跡の北側1km、竹字1遺跡の北北東1km地点に北原遺跡(6-008)がある。圃場整備して野菜の水耕栽培ハウスを建設するために平成23年度に試掘調査を実施し、規模は不明ながら曾利式期の集落が洪水堆積層に覆われていることが確認された。洪水堆積層は50cmほどで、ハウスは集落範囲を現状保存して建設された。この洪水堆積層が堰口遺跡で確認された洪水堆積層と同一のものが不明である。堰口遺跡のそれは黄褐色のやや細かい砂であったが、北原遺跡では人頭大以上の花崗岩を交えた灰白色と黄褐色の粗い砂層であった。

竹字1遺跡の直近にある遺跡は以上のとおりであるが、さらに周辺に所在する中期集落を確認しておきたい。

竹字1遺跡の東2.8kmの尾白川右岸河岸段丘上に根古屋遺跡(6-015)がある。曾利I式期から曾利V式期の集落跡で、昭和59年に団体営圃場整備事業に伴い住居12軒が発掘調査されている。

竹宇1遺跡の北東2.2kmに大久保遺跡（6-012）がある。井戸尻式3段階から曾利II式期の集落跡で、市道建設に伴い平成19年度に発掘調査を実施し、住居11軒などが検出されている。

竹宇1遺跡の北北西3.3kmに上小用遺跡（6-007）がある。県営畠地帯総合整備事業に伴い、切土造成地区に限って発掘調査され、猪沢式期から曾利式期を主体とする住居57軒が検出されている。

竹宇1遺跡の南南東3.8kmに真原A遺跡（7-001）がある。曾利式期の中規模環状集落と見込まれる遺跡である。

以上が竹宇1遺跡周辺の主要な縄文時代遺跡である。遺跡は比較的に標高の低い金無川右岸の段丘面に立地する遺跡と、巨摩山地根の高位段丘面のやや標高の高い地点に立地する遺跡があり、前期から中期、あるいは中期から後期と長期継続する規模の大きな集落遺跡は高位段丘面に展開する。これらの集落遺跡の相互関係や土地利用状況は第5章調査の総括に述べる。

第3章 遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

本発掘調査で縄文時代の住居28軒、土坑113基を検出した。ただし確認にとどめて現状保存した遺構もあるため正確な遺構数ではない。土坑、ピットは調査時の略記号（土坑はDK番号、ピットはPT番号）そのまま用いて記載した。

土坑とピットの属性は第2表にまとめて掲載する。出土した土器と石器は遺存状態と重要性を勘案して抽出・図示した。図示したものの属性は第3表・第5表・第6表に掲載した。報文中の土器形式名は今福1999、2011に拠った。

今福利恵1999『2縄文時代の編年(8)中期中葉(勝坂式土器)(9)中期後半(曾利式土器)』『山梨県史資料編2原始・

古代2考古(遺構・遺物)』山梨県

今福利恵2011『縄文土器の文様生成構造の研究』アム・プロモーション

住居

4号住居（PJ004 第6～8図、写真図版3）

位 置：H-2、H-3 グリッドで検出された。

重 複：東側で5号住居を切り、南側で6号住居に切られる。DK6とDK32に切られ、DK53を切る。

規 模：長軸7.0m×短軸推定6.6m、竪穴の現存深さは0.3mである。

調査所見：遺構検出面は風化した花崗岩の小さな岩片が多量に混じる黒色砂質土で、遺構の存在は確認できるものの遺構間の重複関係が分かりにくい土質であった。そのため東側では5号住居の床面まで掘り下げてしまい、その結果、4号住居の壁と床面が失われてしまった。6号住居との重複は埋土観察で確認できたが、床面高は同等で、6号住居の炉跡を検出して確信を得た状況であった。4号住居と6号住居の柱穴を決定するに際しては、その位置と深さ、形状をもとに構造的に妥当な柱穴をそれぞれに別々に決定した。

炉 跡：住居中央からやや北西に寄った位置で掘り方を検出した。焼土は検出されなかった。6号住居に切られるため炉石は失われている。

床 面：砂質の暗褐色土の床面に断片的な黄褐色の粘質土が検出された。硬くしまった床面は検出されなかつたが、軟弱ではなかつた。

- 周溝**：北東部で部分的に検出した。その他の部分は精査したが検出されなかった。
- 柱穴**：炉奥壁側から PT10、PT11、PT14、PT19、PT18、PT89、PT71、PT45、PT46、PT72、PT73、PT22、PT23、PT24、PT16、PT25、PT26、PT3、PT4、PT13 を検出した。これらの柱穴は 2 基から 3 基が同一箇所で重複し、1 回から 2 回の建替えがあったと考えられる。
- 貯蔵穴**：DK45 と DK46 の 2 基を検出した。これらの貯蔵穴は断面形が袋状で、直径は 0.7m 前後と大きく、0.9m 近い深さがある。DK45 の埋土下層と底面では打製石斧 2 点と横刃形石器 1 点、風化した花崗岩 10 点が出土した。また DK46 では小形粗製石匙 1 点、横刃形石器 2 点と打製石斧 1 点、磨石破片 1 点、砂岩剥片 1 点、安山岩の大形剥片 2 点、風化した花崗岩 1 点が出土した。
- 出土遺物**：調査所見のとおり 4 号住居と 6 号住居の分離が遅れたため、6 号住居に帰属すべき遺物を 4 号住居として取り上げてしまった。光波測量器で出土位置を記録した遺物、あるいは小グリッド単位で取上げた遺物は、その位置から両住居に分別したが、遺構一括で取上げたものは、両住居の時期にほとんど差が認められないこともあり、分離しきれなかった。出土した土器の総量は 13,520g であるが、多分に 6 号住居に帰属すべきものを含んでいると思われる。
- 図示した土器は出土位置から 4 号住居に帰属すべきとしたものである。いずれも中小破片であり、貯蔵穴、柱穴から出土したもの以外は埋土からの出土である。土偶破片 3 点が出土している。7 図 13 は土偶の下半身であるが、4 号住居床面から 25cm ほど浮いた埋土中でまとめて出土した破片が接合したものである。
- 石器は、楔形石器 5 点、館衛縁石器 1 点、小形石錐 1 点、打製石斧 18 点、横刃形石器 9 点、大形粗製石匙 4 点、小形粗製石匙 1 点、大形二次的剥離のある剥片 4 点、小形二次的剥離のある剥片 1 点、大形不規則剥離のある剥片 6 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点、黒曜石原石 1 点、磨製石斧 1 点、磨石類 1 点が出土した。
- PT16 から炉石の破片と思われる礫が出土した。7 図 158・8 図 161、8 図 170、8 図 174 は貯蔵穴とした 46 号土坑で出土した。8 図 171～8 図 173 は 45 号土坑で出土した。7 図 156 は PT24、7 図 157 は PT18、7 図 165 は PT16、8 図 176 と 8 図 178 は PT45、8 図 177 は PT72 で出土している。8 図 95、8 図 96、8 図 97 の打製石斧 3 点、8 図 104 の横刃形石器、7 図 108 と 8 図 109 の石匙は、7 図 8 の土器破片とともに炉から 45 号土坑にかけての埋土中、床面から 20cm ほど浮いた位置の狭い範囲で集中して出土している。廃屋となった本住居の埋土中に投棄されたものであろう。
- 時期**：出土した土器から井戸尻式 2 段階に廃絶した住居と推測される。
- 5号住居（PJ005 第 9・10 図、写真図版 4）**
- 位置**：H-3 グリッドで検出された。
- 重複**：西側で 4 号住居と 6 号住居に切られるが、本住居の豊穴が深いため、住居平面形は残存している。DK41 に切られる。
- 規模**：北側と東側は調査区外で、住居規模は不明である。豊穴の現存深さは 0.48m である。
- 調査所見**：本住居の発掘中に 4 号住居と 6 号住居のプラン、床面があつたはずだが、気づくことはできなかつた。
- 炉跡**：床面で焼土を検出した。わずかに床面がくぼみ、地床炉と思われる。炉石は検出されなかつたが、本来、炉石があつたのか不明である。
- 床面**：黄褐色の地山を床面としている。地床炉周辺がやや硬くしまつていて。
- 周溝**：調査区内の壁沿いで検出した。周溝内に小穴を検出した。
- 柱穴**：柱穴に認定できる形状と深さのビットは、PT12、PT35、PT28、PT33、PT34 のみである。
- 貯蔵穴**：調査区内では検出されていない。

出土遺物：土器破片および石器が埋土中から散漫に出土した。6号住居と重複していることから、遺物の出土位置を確認して本住居に帰属する可能性の高いものを分別した。

土器は総量7,488gが出土したが、小破片ばかりである。9図1、9図2は貉沢式3段階と思われる深鉢破片である。9図6は土偶頭部のような形状をした土器口縁部の突起であろう。楕円区画文をもつ藤内式土器（9図8）が出土しているが、これは他の遺構からの混入もしくは廃棄によるものと思われる。本住居出土の土器破片のうち図示したもの以外では貉沢式、新道式、藤内式、井戸尻式、曾利Ⅳ式、無文で型式比定できないものがある。特に井戸尻式の破片が多く、6号住居から混入していると思われる。

出土した石器は、黒曜石製石鏃1点（10図35）、横刃形石器4点（10図24～10図27）、楔形石器5点（10図36～10図40）、小形不規則剥離のある剥片1点（10図43）、打製石斧21点（10図3～12、10図14～22）、大形粗製石匙1点（10図30）、側縁石器1点（10図28）、磨石類2点（10図1）、黒曜石原石1点、黒曜石の小形石核1点（10図41-B）が出土した。土器破片に6号住居からの混入が少なからず認められるため、石器も同様の状況を考慮しなければならないだろう。

時 期：出土土器から貉沢式期後半に位置づけられる。

6号住居（PJ006 第11～14図、写真図版4、5）

位 置：H-3グリッドで検出された。

重 複：4号住居と5号住居を切る。北壁をDK6に切られ、南壁をDK39とDK53に切られる。DK23を切る。

規 模：直径推定6mの円形で、遺構検出面から堅穴床面までの深さは4号住居と同じ0.3mである。ただし周辺の遺構との重複のため壁を検出することができなかった。

炉 跡：住居中央に石囲い炉を検出した。住居床面に浅いくぼみがあり、その周間に拳大から人頭大の平たい花崗岩を楕円形に置いた形状で、石囲いの一部は二重に巡っている。炉石は埋め込まれていない。くぼみの底面で焼土が検出された。

周 溝：南壁から東壁にかけて周溝と思われる小溝を検出した。

柱 穴：穴：炉奥壁側からPT27、PT43、PT29、PT17、PT44、PT31、PT20、PT21を検出した。これらのピットは床面からの深さが41cmから90cmほどあり、主柱穴と思われる。PT30は20cm、PT15は37cmとやや浅かった。PT17、PT44でピットより一回り小さい柱痕が確認され、PT43のピット底面で堅くしまり黒く変色した部分が検出された。PT17で打製石斧が出土した。

貯 藏 穴：断面が袋状になる明瞭な貯藏穴は検出されなかつたが、DK38が本住居の屋内貯藏穴である可能性がある。

出土遺物：出土遺物の多くがグリッド単位の調査過程で出土した。出土位置から4号住居と分別し、本住居に帰属する可能性が高いものを抽出した。

土器は総量17,688gが出土した。ほかに器台1点183gがある。実測しなかつた土器破片は井戸尻式に比定されるものが大半で、貉沢式、藤内式、曾利Ⅱ式が混じり、無文で時期比定できないものがある。

11図1と11図3は炉北側の床面で出土した深鉢である。当初は4号住居の柱穴PT45とPT46が単一の土坑にみえたため、47号土坑として認識し、これらの土器が47号土坑に帰属するものと考えたが、土坑自体を調査し、埋土を観察する過程で2基の柱穴であると判明したため、土器自体は柱穴と関係なく、本住居床面に遺棄されたものと判断した。

多量の剥片石器などが出土している。内訳は、石鏃1点、鋸歯縁石器1点、楔形石器5点、打製石斧36点、大型粗製石匙3点、小形粗製石匙1点、横刃形石器12点、小形二次的剥離のある

剥片 1 点、大形不規則剥離のある剥片 5 点、小形不規則剥離のある剥片 3 点、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点、側縁石器 2 点、敲石 2 点、石皿破片 1 点、「の」の字形石製品を再生した蛇紋岩製垂飾 1 点である。

調査所見：楕円形の石組炉から感じられる炉の主軸方向と柱穴配置から想定される住居の主軸方向がややずれている。

時期：出土した土器から本住居は井戸尻式 2 段階に位置づけられる。

7号住居 (PJ007 第 15 ~ 17 図、写真図版 6・7)

位置：G-3 グリッドで検出された。

重複：西側で曾利 II 式期と思われる 33 号住居に切られる。

規模：推定長軸 6.5m、短軸 6m ほどの楕円形と思われる。竪穴の現存深さは最大で 0.7m である。埋土の一部が大きく搅乱されているが搅乱は床面まで達していない。住居南端も大きな搅乱で失われている。

調査所見：グリッド単位で発掘調査を進める過程で完形の器台、曾利 II 式土器などがまとまって出土したことから、住居跡の存在を認識した。しかし、曾利 II 式期の遺物は住居の範囲を超えて西側にも分布していた。加えて、柱穴、貯蔵穴の調査を進めると、出土品、炉体土器は井戸尻式期に位置づけられることが判明した。この段階に至って、ようやく新しい時期の住居の存在に思い至り 33 号住居を設定した。埋土断面図の第 1 層と第 3 層は 33 号住居埋土、第 2 層、4 層、5 層、6 層が 7 号住居の埋土と推測され、33 号住居の遺物が 7 号住居内にまで落ち込んだものと思われる。

整理作業では、出土位置を考慮しながら、明らかに時期が異なる井戸尻式 2 段階の土器と曾利 II 式の土器を仕分け、石器はそれぞれの時期の土器の出土位置、調査記録写真と対照して、2 軒の住居に振り分けた。したがって石器、特に小型の石器や黒曜石剥片等では両住居の遺物が混在した可能性がある。

7 号住居埋土中の搅乱層を住居跡と認証して 8 号住居 (PJ08) としたが、搅乱と判明し欠番とした。

炉跡：住居中央からやや北西に寄った位置で検出された。当初は黒色、円形の落ち込みとして確認され、住居を切る土坑と判断して 50 号土坑 (DK50) と遺構番号を付けて発掘したところ、井戸尻式の炉体土器が出土し、炉を囲ったと思われる小礫 4 点を検出した。これらにより、焼土、炭化材はほとんど検出されなかつたものの本住居の炉跡と認定した。

周溝：北壁から西壁にかけて 2 本の小溝を検出した。1 本は壁に沿って巡り、もう 1 本は主柱穴を連結するように検出された。

柱穴：炉奥壁側から PT41、PT50、PT51、PT38、PT47 が主柱穴と思われる。PT56、PT58 は建替え以前の旧い柱穴であろうか。PT57 は床面からの深さが 12cm と浅く、本住居を切る別の遺構と思われる。PT38 で径 15 ~ 20cm ほどの柱径が検出された。

貯蔵穴：55 号土坑 (DK55)、59 号土坑 (DK59)、61 号土坑 (DK61) の 3 基が本住居の貯蔵穴と思われる。これら 3 基の土坑は断面が袋状で深さが 60 ~ 70cm 程度と形状が類似する。55 号土坑は埋土最上面の一部に床面と思われる黄褐色土がかぶっており、建替え以前の旧い貯蔵穴と考えられる。花崗岩礫、打製石斧破片、土器破片が出土した。土器破片は 59 号土坑の出土品と接合する。59 号土坑は出土した土器破片が 55 号土坑の出土品と接合し、埋土質も 55 号土坑と類似していることから、本住居に付属する施設と判断した。61 号土坑は黄褐色土に黒色土が混じる埋め戻したような埋土で花崗岩礫 2 点と打製石斧破片 1 点が出土した。

出土遺物：先述のとおり 7 号住居の名称で取上げた遺物には曾利 II 式期の 33 号住居に帰属すべき遺物が多数混入している。ここでは分別の結果、7 号住居に帰属すると判断されたものののみを記載する。

土器は 10,651g が出土した。16 図 1 は炉体土器である。口縁部と底部を打ち欠いて炉体土器とし

ている。16図7は貯藏穴と判断した55号土坑から出土した小形土器である。16図8は土器破片であるが、水流で磨耗したように角が丸くなり器厚も薄くなっている。集落内にあって自然の営為でこのように強く磨耗することは考えにくい。この磨耗は人為的な行為の結果なのであろうか。

石器は住居埋土と柱穴、貯藏穴から出土した。器種ごとの内訳は、楔形石器1点、打製石斧9点、大形粗製石匙3点、横刃形石器7点、大形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片1点、小形不規則剥離のある剥片4点、黒曜石原石1点、磨製石斧3点、石皿1点、台石1点、磨石類6点である。

住居の南端、75号土坑、76号土坑の上面と周辺で曾利I式土器破片がまとまって出土している。この土器は本住居でもなく重複する33号住居でもない別遺構に帰属すると思われるが、搅乱範囲も近いため正確なことは分らない。

時期：出土した炉体土器などから、本住居は井戸戻式2段階に位置づけられる。

9号住居（PJ009 第18～21図、写真図版8）

位置：F-2グリッドで検出された。

重複：本住居に重複して10号、11号、14号住居が検出された。出土土器から本住居が最も新しい遺構と考えられる。

規模：断片的に残る周溝と柱穴配置から推測すると、直径5m程度の円形住居と思われる。竪穴の現存深さは0.35mである。

調査所見：遺物が出土し始める遺構確認面では本住居のプランを認識することができなかつたため、グリッド境界に設定したセクションベルトを残しながら発掘調査を進めた。その結果、炉を検出して本住居を認識した。埋土断面図から想定されるとおり本住居は搅乱と思しき4層を除くと自然堆積土により埋没したと考えられる。出土遺物は炉南東側からPT108とPT110の中間地点にかけての床面から40cmほど高い埋土から床面にかけて出土した。土器は出土位置で割れたような状態で、あるいは横倒しになって出土しており、いずれも廃絶後の住居埋土に投棄されたものと思われる。周辺に重複する住居の埋土中に本住居の床面が検出できたはずだが、調査中に認識できなかつた。出土遺物は本住居の名称で取上げたものと、2m小グリッド単位で取上げたものがある。

炉跡：住居中央から北西に寄った地点で石圓炉を検出した。花崗岩の円錐9点を梢円形に並べてあり、縦に埋め込む炉石は2点のみであった。そのうちの1点は台石のような扁平丸石を使用している。砂礫質の地山のためか焼土は発達していない。

周溝：北壁沿いで小溝が検出された。西壁沿いに断片的な小溝を検出した。これらが周溝と思われる。

柱穴：炉奥壁側からPT102、PT108、PT110、PT116の一部、PT107の5基が本住居の主柱穴と思われる。PT102とPT108では、直径17cmほどの柱痕が確認された。本住居内で検出された他の土坑、ピットはいずれも本住居より古い遺構である。

出土遺物：出土土器の総量は27,159gである。19図4はPT116付近で床面から20cmほど浮いて出土した唐草文系土器である。18図6は炉の南、18図3、18図5、19図1、19図2は炉の東側の埋土中でまとめて出土した。18図4はPT116付近で床面上に横倒しになって出土した。

石器も大半は土器とともに埋土から出土した。9号住居の名称で取上げた石器と9号住居に該当する小グリッドで取上げた石器の内訳は、石鐵未成品1点、楔形石器2点、鋸歯縁石器1点、打製石斧13点、横刃形石器6点、大形粗製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片1点、黒曜石の原石1点、磨製石斧1点、磨石類4点、台石1点、台石状の扁平丸石1点である。

9号住居と10号住居が重なるF-3-3グリッドで取上げた石器は、本住居が新しく、グリッド

に占める本住居の面積が卓越することから本住居に帰属する確率が高い。石器の内訳は、楔形石器 2 点、側縁石器 1 点、打製石斧 4 点、横刃形石器 2 点、大形二次的剥離のある剥片 2 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点である。

9 号住居と 11 号住居が重なる F-3-1 グリッドで取上げた石器は、本住居が新しく、グリッドに占める本住居の面積が 1/2 以上を占めることから本住居に帰属する確率が高いが、断定できない。石器の内訳は、側縁石器 2 点、打製石斧 5 点、横刃形石器 2 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点、棒状礫 1 点である。

同様に F-2-21 グリッドも 9 号住居と 11 号住居が重なり、出土した石器は本住居に帰属する確率が高いが断定できない。石器の内訳は、側縁石器 1 点、打製石斧 1 点、横刃形石器 1 点、大形二次的剥離のある剥片 1 点、大形不規則剥離のある剥片 3 点、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点である。

時 期：出土遺物から曾利 II 式新段階に位置づけられる。

10 号住居 (PJ010 第 22 ~ 25 図、写真図版 9・10)

位 置：F-3 グリッドで検出された。北側 1/3 が深い搅乱で失われている。

重 複：南西を 9 号住居に切られ、南側で 14 号住居を、東側で 12 号住居を切る。南側で 11 号住居と重複するが新旧関係を埋土断面で確認できなかった。出土遺物からみると 10 号住居が新しいと思われる。

規 模：推定長軸 5.8m × 短軸 5.2m。竪穴の現存深さは 0.5m である。

調査所見：他の住居と同じく遺構が明瞭に確認できなかつたため、2m 小グリッドを掘り下げる過程で本住居を認識した。小グリッドを 30cm ほど掘り下げるとき曾利 I 式土器が黒色土中で出土し、やがて黄褐色の床面と地床炉を検出し、住居の存在を確認した。主な出土遺物は光波測量器で出土位置を記録して取り上げ、柱穴と周溝から住居平面形を確認した。

地床炉の北側には大きな搅乱があり、床面と同等の深さまで掘り下げるときも搅乱が続いたため、住居の北側部分は破壊されたものと判断した。この搅乱は本住居の地床炉付近にまで及んでいた。

炉 跡：住居中央付近に焼土を検出した。これは地床炉と思われ、北側に石團炉が存在したと考えられるが、搅乱により破壊されている。

周 溝：北側の搅乱で失われた部分を除き全周で小溝が検出され、東壁では 3 本が同心円状に検出された。

柱 穴：西壁側から PT76、PT79、PT86、PT83 の 4 本が主柱穴と思われる。これらの内側で PT76B、PT82、PT88、PT101 を検出した。PT80、PT89、PT90 も本住居の柱穴かもしれない。2 本ないし 3 本ずつ柱穴が検出されているのは 3 本の周溝とともに 2 回の拵張に対応するものと思われる。PT88 は埋土中で貼床断片を検出した。PT86 で剥片石器と打製石斧が出土した。PT76、PT82、PT83 で直径 20 ~ 23cm の柱痕を検出しが、柱痕を認識できたのは床面から 30cm 以上掘り下げた深さであった。

埋 蔋：PT95 は柱穴と同等の大きさであるが主軸線と想定される線上に位置し、埋土中層から底部を穿孔した曾利 I 式の小形深鉢が逆位で出土した。他の遺構に帰属する可能性は否定できないが、曾利 II 式期以降に盛行する住居内の埋甕と同じような意図をもって埋納された可能性があり、本住居に伴う遺構と考えておきたい。

貯 藏 穴：PT78 は断面形が袋状にならないが大きさと位置から推測し、貯藏穴の可能性がある。PT78 を切るビットが検出されているから、10 号住居より新しい遺構が存在している可能性があるが、認識できなかった。

出土遺物：9 号住居とは床面の高さと時期が異なるため、出土土器は容易に分離できた。時期が近い 11 号住居の土器とは分離が困難であったが、同様に出土位置で分離した。

出土遺物は床面から10cmほど浮いた高さで出土していく、本住居の廃絶後に投棄されたものと思われる。出土した土器の総量は30,463gである。図示した土器は地床炉を取り囲むような位置で、床面から浮いて出土している。24図5はPT95で出土した小形深鉢である。口縁部側を斜め下にして出土した。底部は焼成後に穿孔されている。24図11の耳栓はPT76北側の搅乱内で出土した。本住居に帰属しない可能性もある。24図12の耳栓はPT83とPT90の間の小溝内で石棒破片とともに出土した。

石器も土器と同様の方法で本住居に帰属すると思われるものを抽出した。内訳は、楔形石器2点、側縁石器6点、大形石錐1点、打製石斧11点、横刃形石器2点、大形粗製石匙2点、小形精製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片1点、大形不規則剥離のある剥片2点、潰れを伴う剥離のある剥片1点、磨石類3点、石棒破片1点である。

時期：出土した土器から本住居は曾利I式新段階に位置づけられる。

11号住居（PJ011 第26・27図、写真図版10）

位置：E-3グリッド周辺で検出された。

重複：北西で9号住居、北側で10号住居と重複する。14号住居を切り、東側では12号住居と15号住居を切る。9号住居と105号土坑に切られる。10号住居との新旧関係は埋土観察では確認できなかったが、出土遺物からみると本住居が古い段階に位置づけられる。

規模：竪穴が確認できなかつたため、大きさは不明である。柱穴と推定したピットの配置からみると、長軸6.5m×短軸6m程度と推測される。検出された炉跡から床面を想定すると竪穴の深さは0.4mである。

調査所見：本住居は10号住居を発掘していたところ、炉跡が検出されて住跡として認識したものであり、先述のとおり住居の平面形、明瞭な堅くしまった床面は検出されなかつた。こうした理由で、柱穴、出土遺物は調査記録の整理段階で検討したものであり、正確さを欠くところがある。しかし、この地点で繰り返し竪穴住居の建設を繰り返した一段階がこの住居である点は確実視される。

炉跡：柱穴から想定される住居の中央からやや北西に寄つた位置で検出された。風化した花崗岩の円礫3個、風化していない花崗岩の円礫、亜角礫3個、安山岩礫1個の計7個の礫が円形に並んで検出された。本来はもう1個の礫があつたものと思われる。浅いくぼみが検出されたが、焼土は検出されなかつた。

周溝：周溝は検出されなかつた。

柱穴：炉奥壁側からPT109、PT128、PT134、PT160、PT166、PT122、PT117の一部の7基が柱穴と推測される。PT122とPT128、PT134は14号住居の主柱穴でもあるが、掘り方が細長い、あるいは大きく、現地調査の時点では認識できなかつたが、2基の柱穴が重複していると思われる。

貯蔵穴：検出されなかつた。106号土坑は14号住居の貯蔵穴と考えたが、その位置から本住居に帰属するものとみることもできよう。

出土遺物：出土遺物は出土位置と高さから10号住居、14号住居と分離し、11号住居に帰属すべきものを抽出した。出土土器の総量は15,695gである。26図6は100号土坑上の埋土で出土したもので、14号住居との新旧関係から本住居に帰属させた。この土器とともにごく少量の獸骨と思われる骨片が出土した。骨片は細片のため同定分析を行わなかつた。

石器は、鋸歯縁石器1点、側縁石器3点、打製石斧8点、横刃形石器2点、大形粗製石匙3点、大形不規則剥離のある剥片1点、石皿1点、磨石類2点が出土した。

E-2-25グリッドは11号住居と14号住居に該当する、グリッド出土遺物は遺構の時期から本住居に帰属する確率が高い。出土した石器の内訳は、石器未成品1点、楔形石器1点、打製石斧1点、横刃形石器1点、大形粗製石匙1点、小形二次的剥離のある剥片1点、潰れを伴う

剥離のある刺片 1 点である。

本住居と 12 号、14 号、15 号住居にまたがる F-3-6 グリッドで、土偶破片 1 点、楔形石器 1 点、小形不規則剥離のある刺片 2 点が出土した。想定される 11 号住居の範囲から 11 号住居に帰属する確率が高いと思われるが、時期が新しい 15 号住居に帰属する可能性もある。

本住居埋土の一部を水洗選別したところ炭化材、炭化したクルミ外殻少量、堅果類外皮少量、不明種子 2 点が検出された。

時 期：出土遺物から曾利 I 式古段階に位置づけられる。

12 号住居 (PJ012)

位 置：F-3 グリッドで検出された。住居の北東部分は搅乱により破壊されている。

重 複：本住居は、10 号、14 号、15 号住居と重複する。

調査所見：遺構確認面では新旧関係を認識できなかったが、周辺の重複住居のなかでは、出土遺物から本住居がもっとも古い段階の遺構と推測される。12 号住居と認識した範囲で 2 基の炉跡が検出されたことから、本住居をさらに 12A 号住居と 12B 号住居とに区別して報告する。

12A 号住居 (PJ012 第 28・29 図、写真図版 11)

規 模：長軸推定 5.4m × 短軸推定約 5m。竪穴は遺構確認面から 0.4m 程度であったと思われる。

炉 跡：扁平な円礫を円形に並べた石圓炉が検出された。石圓炉の南東 0.4m の床面は焼土化しており、石圓炉に伴う地床炉と考えられる。炉石に用いられた礫は花崗岩が主体である。炉底の焼土はあまり発達しておらず、炭化物も検出されなかった。

周 溝：北壁と西壁側で周溝とみられる小溝を検出したのみである。

柱 穴：北壁側から PT96、DK92、PT148、PT131、PT124、PT93 の 6 基を検出した。これらが主柱穴と思われる。PT100 は 28cm と浅いが、その位置からみると本住居の奥壁柱穴とみることもできよう。

貯 藏 穴：西壁沿いで PT94 を検出した。直径 69cm、深さ 83cm の土坑で、黒褐色土が堆積していた。位置と底部がやや膨らむ形状から貯藏穴と推測される。遺物は出土していない。

出土遺物：井戸尻式 2 段階と井戸尻式 3 段階に位置づけられる土器が混在しているが、後述のとおり旧い段階の土器は 12B 号住居からの混入と判断した。

土器は総量 31,692g が出土した。図示したとおり貉沢式など古い段階の土器、井戸尻式土器が混在している。古い段階の土器は他の遺構、もしくは 12B 号住居に由来するものであろう。28 図 1 は炉直上で出土しており本住居の時期を示しているものと思われる。29 図 4 は 12B 号住居炉である 110 号土坑の直上から出土したが、12A 号住居床面想定高さより高い位置であることから 12A 号住居に帰属させた。

ほかに器台 1 点が出土している。

石器は、石鐵未成品 1 点、楔形石器 4 点、鋸齒縁石器 1 点、打製石斧 18 点、大形粗製石匙 1 点、横刃形石器 7 点、側縁石器 2 点、大形二次的剥離のある刺片 1 点、小形不規則剥離のある刺片 3 点、潰れを伴う剥離のある刺片 1 点、黒曜石の小形石核 1 点、磨製石斧 1 点、磨石類 5 点、花崗岩と砂岩の円礫 2 点が出土した。耕作土直下で五輪塔の火輪破片も出土している。

時 期：出土遺物から井戸尻式 3 段階に位置づけられる。

12B 号住居 (PJ012 第 30～31 図、写真図版 12)

規 模：平面形が確認できなかったため規模は不明である。柱穴配置から推測すると 5m 径程度と思われる。

調査所見：12A 号住居の炉跡は炉石がきれいに残り、12B 号住居の炉跡は掘り方が残るのみであったことから、

12A 号住居が新しく本住居が旧いと推測されるが、両住居の新旧関係を判断する根拠は炉跡の遺存状況のみである。

炉 跡：検出時には円形土坑のように見えたため 110 号土坑（DK110）として調査したところ、焼土と井戸尻式の深鉢を検出し、炉跡と判断した。深鉢破片はほぼ 1 個体分が揃っているが、意図的に割つて炉底に置かれたようにみえた。

周 溝：検出されなかった。

柱 穴：現地調査の段階で本住居の柱穴を認識することはできなかった。炉跡の位置から図上で想定すると、DK99 内のやや深いビット、PT98、PT137、PT169、PT124 が該当する可能性がある。これらのビットの組み合わせが正しいとすると、PJ12A 炉跡のすぐ西側にも柱穴があつてよいと思うが検出できなかった。

貯 藏 穴：前述の柱穴の組み合わせが正しいとすると、本住居に帰属する貯藏穴は検出されていない。

出土遺物：30 図 1 は炉跡で出土した深鉢である。30 図 2 は PT98 で出土した土製円盤である。PT98 では打製石斧 1 点、横刃形石器 1 点も出土した。12B 号住居に帰属させられる遺物はこれらのみである。

時 期：炉内出土の土器から井戸尻式 2 段階に位置づけられる。

13 号住居（PJ013 第 32 ~ 34 図、写真図版 12）

位 置：E-2 グリッドで検出された。

重 複：東壁側で 102 号土坑に切られる。

規 模：平面形が確認できなかつたため、規模は不明である。柱穴配置と遺物の出土位置から推測すると径 4.5m 程度のやや小型の住居と推測される。遺構確認面で平面形が把握できず、掘り下げて住居を認識したため、竪穴は明瞭に確認できなかつたが、本来、竪穴は深さ 30cm ほどが残つていとと思われる。

調査所見：調査時点から本住居と 102 号土坑の新旧関係が疑問であった。本住居の柱穴 PT129 は 102 号土坑の上面で見出すことはできず、本住居の周溝も 102 号土坑に切られているように思われた。一方で本住居の炉跡周辺から南側の地点でまとまって出土した廃棄された土器は、本住居内でとどまらず 102 号土坑上にも分布し、102 号土坑埋土内でも大きく搅乱されていない状態で出土した。こうした状況から推測すると、本住居の廃絶後にさほど時期をおかげずに 102 号土坑が掘られ、掘削土の一部が土坑の東側に置かれてローム塊を形成し、102 号土坑が埋積した後に廃屋となつた本住居内に土器が一括廃棄されたという過程が想定される。

炉 跡：花崗岩の炉石 6 個を方形に並べて炉としている。南辺の炉石は三角形で平たく置かれ、他の炉石は立てて埋め込まれていた。

周 溝：北壁沿いで小溝を検出した。

柱 穴：PT120、PT123、PT129 は床面からの深さが 55cm ~ 72cm と深く、柱穴と推測される。PT129 は 102 号土坑の底面で確認した。この 3 基のビットは正三角形を描くように配置され、さらに南側でビットが確認されなかつたので、本住居は 3 本主柱穴構造であったと思われる。

貯 藏 穴：確認されていない。

出土遺物：炉上から炉南、102 号土坑範囲にかけて複数個体の土器破片がまとめて廃棄されたような状態で出土した。いずれの土器も完形に復元できなかつた。出土した土器の総量は、29,951g である。

石器も投棄された土器とともに出土した。石礫 1 点、楔形石器 6 点、打製石斧 1 点、横刃形石器 8 点、大形粗製石匙 2 点、大形不規則剥離のある剥片 1 点、小形不規則剥離のある剥片 4 点、黒曜石の小形石核 1 点、石英岩の原石 1 点、磨石類 3 点、敲石 1 点、扁平疊 1 点が出土した。

時 期：出土土器から曾利 II 式新段階に位置づけられる。

14号住居（PJ014 第35～37図、写真図版13・14）

位 置：E-3グリッドからF-3グリッドにまたがって検出された。

重 複：9号住居と11号住居、15号住居に切られ、10号住居と12号住居を切る。105号土坑に切られる。

規 模：長軸6.5m×短軸5.9m、竪穴の現存深さは0.5mである。南東側は15号住居に切られて失われている。

調査所見：小グリッドを掘り下げる過程で出土土器、床面、炉跡を検出して住居と認定した。本住居の埋土下層で11号住居の炉を検出し、11号住居に切られていることが確認されたが、その時点では多くの遺物を14号住居の遺物として取り上げてしまっていた。そこで11号住居の床面高さと14号住居の床面高さの違いにより遺物を分別した。

炉 跡：住居中央から北西寄りで石圍炉を検出した。5個の炉石は埋め込まれずに楕円形に並べ置かれていた。1個が安山岩の亜円礫、残る4個は風化して脆くなった花崗岩の亜円礫である。炉底から焼土は検出されず、地床炉もなかった。

周 溝：北壁側で2本の小溝を検出した。西壁側は精査したが周溝を検出できなかった。

柱 穴：住居内で多数のビットを検出した。3組の主柱穴の組み合わせが想定できる。最も古い段階は炉の周囲に小さくまとまる組み合わせで、炉奥壁からPT112、PT128、PT142、PT161、PT117の5本が想定される。次の段階は大きく拡張され、炉奥壁側からPT104、DK100、PT134、PT135、PT168、PT125、PT118の7本が想定される。最も新しい段階は炉奥壁側からPT104、PT121、PT133、PT136、PT170、PT122、PT116の7本が想定される。

以上の柱穴の組み合わせから2回の拡張が想定される。最も古い段階の住居平面と最新段階とでは主軸長で約2倍、面積で4倍ほどの開きがある。

PT116の埋土中で井戸尻式2段階か3段階の深鉢1個体が逆位で出土した。10号住居のPT95に似た状況である。DK100の底部で柱との接触で黒変し堅くしまった箇所を検出した。PT121で柱痕を検出した。PT133で直径14cm、PT134で直径23cm、PT135で直径21cm、PT125で直径20cmの柱痕をそれぞれ検出した。これらの柱痕は床面レベルでは確認できず、ビット埋土を底部近くまで掘り込こんでから確認された。

貯蔵穴：PT119とDK106の2基は断面が袋状で貯蔵穴と思われる。DK106は本住居の古い段階の柱穴PT142を切る。PT119では複数の土偶破片、打製石斧が出土した。この2基の貯蔵穴は拡張後に設けられたものと思われる。

出土遺物：土器は住居を認識する以前のグリッド調査段階で出土しており、多くが11号住居に帰属するものである。11号住居と14号住居は土器型式では分別できないほど時間的に近接して重複している。そのため遺物は11号住居の想定床面高さよりも低い位置で出土したものを機械的に14号住居に分類した。両住居間でかなりの混在があるものと思われる。

土器は総量で18,517gが出土した。36図2は埋土中で出土した深鉢だが破片の一部が36図1とともに116号ビットで出土した。36図1は116号ビット埋土下層で出土した深鉢である。

土偶破片4点が出土した。37図1と37図3は貯蔵穴と判断した119号ビットの埋土上層で出土している。おそらくは床直上に遺棄されたものがビット埋土の圧縮とともにビット内に落ち込んだものと思われる。

石器は、鋸齒縁石器2点、楔形石器3点、側縁石器5点、打製石斧9点、横刃形石器9点、大形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片1点、小形不規則剥離のある剥片1点、潰れを伴う剥離のある剥片1点、磨製石斧1点、磨石類2点が出土した。磨石類2点は貯蔵穴とした106号土坑で出土している。

時 期：出土土器は井戸尻式3段階と曾利I式古段階が主である。特に主柱穴とした116号ビットで出土した井戸尻式3段階と考えられる深鉢が本住居の廃絶時期を示す可能性が高い。出土遺物の多

くを占める曾利1式古段階の土器は、廃絶後の投棄と11号住居からの混入の可能性がある。

15号住居 (PJ015 第38~43図、写真図版15・16)

位 置：E-3グリッドで検出された。

重 慣：西壁側で11号、14号住居を切る。東壁側で17号住居に切られる。北壁側で12号住居を切る。

規 模：平面形は縦長の六角形で、長軸推定6.2m×短軸5.9m。竪穴の現存深さは0.7mである。

調査所見：周辺の他住居と同様に砂質の地山を掘りこんで竪穴住居を建築しているため、床面は軟弱で、明瞭な硬化面は検出されなかつた。

炉 跡：住居中央から西寄りで石圓炉を検出した。長さ20cmから55cmほどの扁平な安山岩と花崗岩を四角く敷き並べて炉を開んでいて、東側半分の炉石は失われていた。花崗岩の炉石は風化し脆くなっていた。炉底で焼土は検出されなかつた。炉内から獸骨と思われる骨片が少量出土したが、細片のため同定分析は行わなかつた。

周 溝：17号住居に切られる東壁以外で壁沿いに周溝を検出した。北壁沿いで周溝が二重になる箇所があるが、この溝が本住居に帰属するものか判断できなかつた。

柱 穴：床面上で多数の土坑とピットを検出した。これらのピットのうち12号住居、14号住居の柱穴と推測されるものを除いても、なお多数のピットがあることから、本住居は建替えを経ているものと思われる。まずもっとも外側の壁に近い位置をめぐるピットの組み合わせ、すなわち炉奥壁北側からPT140、PT138、PT158、PT164、PT151、PT146の6基がもっとも新しい居住時期の柱穴と想定される。

PT151、PT138は周囲のピットと重複している。またPT158、PT164の周辺にもピットが規則的に並んでいる。このことから本住居は2~3回程度の拡張が想定される。特に南東側(出入り口側)へ拡張を繰り返していると想定される。最も古い段階の柱穴は、PT141、PT145、PT144、PT156、PT154、PT143の6基が想定される。次の段階は南東方向へ拡張され、PT159、PT157が該当しよう。

貯蔵穴：南壁沿いのDK107、北東壁沿いのDK111の2基は、断面が袋状で貯蔵穴と推測される。もっとも新しい居住時に機能した貯蔵穴であろう。

出土遺物：図示した土器は本住居を認識した後で出土したもので、床面から10~30cm程度浮いた埋土下層からの出土である。廃絶した本住居内に投棄されたようにみえる状態で出土している。柱穴、炉などで出土したものはない。出土した土器総量は48,473gである。40図13のミニチュア土器も出土した。

土偶破片2点、器台破片2点、土製円盤2点が出土した。40図14は土偶の脚部破片である。40図10は器台脚部破片である。40図11は脚高の器台脚部と思われる。2個1組の穿孔が4ヶ所に認められ、高台底部は回転摩滅度が明瞭である。

石器は、石鐵7点、楔形石器2点、鋸齒縁石器9点、側縁石器1点、打製石斧32点、大形粗製石匙2点、小形粗製石匙1点、横刃形石器4点、大形不規則剥離のある剥片7点、小形不規則剥離のある剥片4点、潰れを伴う剥離のある剥片1点、黒曜石原石2点、ハンマー2点、磨製石斧4点、台石1点、磨石類8点が出土した。

2mグリッド単位で出土し、本住居と他の住居の境界付近で出土した石器は、便宜上、もっとも新しい段階に位置づけられる本住居の遺物として報告する。本住居と12号住居にまたがるF-3-11グリッドで、石鐵未成品1点、側縁石器2点、打製石斧3点、横刃形石器1点、大形不規則剥離のある剥片1点、敲石1点、磨製石斧1点が出土した。本住居と11号、14号住居にまたがるE-3-10グリッドで、楔形石器1点、横刃形石器2点、ハンマー1点が出土した。このグリッドは面積比でいうと大半が15号住居の範囲に該当するため、本住居埋土に帰属する確率が高い。

堅穴埋土の一部を水洗選別して、炭化材、クルミ外殻少量、堅果類外皮少量、ミズキ種子1点、不明種子1点、少量の骨片を回収した。骨片は細片のため同定分析を行わなかった。

時 期：曾利I式新段階に位置づけられる。

16号住居 (PJ016 第44~46図、写真図版16・17)

位 置：E-3グリッドで検出された。

重 複：9号土坑と11号土坑に切られる。南側で20号住居に切られる。東側で17号住居と重複する。

規 模：遺構確認面以下は圃場整備工事の造成計画高に応じた掘削深度よりも深くなるため遺構を発掘せず現状保存した。遺構確認面で想定されたプランから径5.5m程度の円形住居と思われる。グリッドを設定して発掘したためプランの一部は床面まで掘り下げたが、堅くしまった床面は検出されなかった。

炉 跡：住居と想定されるプランの中央より西に偏った位置で石圍炉を検出した。扁平な花崗岩4個を平置きし、1個を縦に埋め込んだ炉で、炉検出面上で砂岩の円礫が出土した。炉跡は検出したにとどめ現状保存した。

柱 穴：石围炉の検出高から想定される床面で柱穴と思われるビット5基を検出した。その配置から6本柱穴と推測される。

出土遺物：遺物の大半は小グリッドを発掘する過程で出土した。住居として認識した後は光波測量器で出土位置を記録しながら取上げ、最終的に遺物の出土位置から本住居に帰属するものを抽出した。

出土した土器の総量は35,098gで、ほとんどの土器は埋土中に投棄された状態で出土した。44図1と44図2は住居内の3ヶ所ほどに離れて、埋土下層からばらばらの破片状態で出土した深鉢である。45図2は20号住居と接するあたりの埋土下層で出土した。45図10は住居中央の床面上で二つに割れた状態で出土した耳栓である。45図9は埋土中で出土した土偶の脚部破片である。

石器は、楔形石器6点、側縁石器9点、周縁加工石器1点、打製石斧22点、横刃形石器3点、大型粗製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片3点、小形二次的剥離のある剥片1点、大形不規則剥離のある剥片4点、小形不規則剥離のある剥片2点、石英岩の小形石核1点、黒曜石原石3点、磨製石斧1点、磨石類3点、安山岩の扁平円礫1点、砂岩と花崗岩の円礫5点が出土した。

時 期：井戸戸式3段階に位置づけられる。

17号住居 (PJ017 第47~49図、写真図版17・18)

位 置：E-3グリッドで検出された。

重 複：15号住居を切り、16号住居と重複する。

規 模：現状保存のため遺構を完掘しておらず、規模は不明である。

調査所見：15号住居を調査する過程で本住居があることを認識したが、調査の過程で出土土器に時期差があること、炉跡が検出されたことから、17号住居とした。調査途上で土器のまとまりから17号住居、17B号住居、17C号住居と分離した。17号住居は15号住居と接する部分、17B号住居は炉周辺、17C号住居は30号住居との中間地点である。ただし遺構を完掘していないため、この認識が正しいか不明である。また出土遺物は若干、古い段階の土器が混在するものの大形破片の土器は曾利II式でまとまる。

炉 跡：調査区東端で17B号住居の石围炉を検出した。花崗岩と安山岩を略方形に並べた炉で焼土を伴う。炉の存在に気づくまえに南西側の炉石は発掘し、除去してしまった可能性がある。炉石の一部は台石を転用していた。

柱 穴：現状保存のため柱穴の検出には至らなかったが、15号住居の調査の過程でPT162、PT163を検出した。これらのビットは17号住居に帰属する可能性がある。

出土遺物：17号住居全体で26,897gの土器破片が出土した。47図1はPT162付近で出土した深鉢である。

出土位置から15号住居に帰属する可能性があるが出土した高さが15号住居床面よりも10cm以上低かったため、本住居の遺物と扱った。47図2は17B号住居に帰属すると考えた炉の南側で出土した。想定した床面よりも25cmほど浮いた位置である。48図1は床面から25cmほど浮いた位置で出土した。

17号、17B号、17C号住居と想定した範囲で出土した石器は、楔形石器3点、鋸歯縁石器2点、側縁石器4点、打製石斧23点、横刃形石器12点、大形粗製石匙2点、大形二次的剥離のある剥片1点、大形不規則剥離のある剥片2点、小形不規則剥離のある剥片3点、磨耗痕のある剥片1点、黒曜石原石1点、ハンマー1点、台石2点、磨石類3点が出土した。

本住居と15号住居にまたがるE-3-19グリッドで、周縁加工石器1点、打製石斧1点、横刃形石器4点、敲石1点が出土した。グリッド面積の1/2が本住居に該当するから、本住居に帰属する確率は1/2程度である。

時期：出土土器をみる限り、17号住居、17B号住居、17C号住居の全てが、曾利II式に位置づけられると思われる。

18号住居（PJ018 第50～52図、写真図版18・19）

位置：D-2グリッドで検出された。

重複：19号住居を切る。113号土坑は出土遺物から本住居より旧い遺構と判断される。

規模：長軸推定6.5m×短軸推定5.5m。窓穴の現存深さは0.3～0.4mである。

調査所見：住居北西は調査区外である。住居埋土はレンズ状に自然堆積したと思われる。

炉跡：住居中心から北西側に寄った位置で石圍炉を検出した。花崗岩と安山岩を長円形に敷き並べた炉で、炉底までの深さは10cmと浅い。炉底で焼土を検出した。炉石の西辺に磨石も並べられていた。

周溝：検出されなかった。床面が黒褐色土で遺構確認が難しく、認識できなかつた可能性もある。

柱穴：炉奥壁側からPT182、PT183、PT173、PT171を検出した。これらの配置から5本の主柱穴を有すると推測される。PT183は土器、石器が出土し、柱穴とするには大きめであるが、その位置から柱穴とした。ただしPT183を柱穴と認めず、13号住居と同様の3本主柱穴構造を想定することもできよう。

埋甕：住居南端で正位に埋設された両耳壺1基を検出した。両耳壺の口縁部は失われている。

出土遺物：埋甕を含んだ出土土器総量は25,389gである。51図1は埋甕である。51図4は埋甕と炉の中間地点、床面よりも若干浮いて出土した深鉢の大形破片である。51図3は床面から10cmほど浮いて、51図2は住居全体に散在して出土した。51図5は無文の土製円盤である。

石器は、石礫1点、楔形石器4点、側縁石器1点、打製石斧6点、横刃形石器8点、大形粗製石匙2点、大形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片3点、小形不規則剥離のある剥片1点、潰れを伴う剥離のある剥片1点、石皿1点、磨石類2点、敲石2点が出土した。52図1685は炉石とともに並べられていた磨石である。51図1672、51図1678、52図1674、52図1675、52図1677、の5点は183号ピットで出土した石器である。

時期：曾利II式古段階に位置づけられる。

19号住居（PJ019 第53～55図、写真図版20）

位位置：D-2グリッドで検出された。

重複：18号住居に切られる。112号土坑と重複する。112号土坑には人頭大より大きな花崗岩と深鉢土器が伴い、これらの礫と土器は本住居の床面よりも明らかに高かつたため、112号土坑が新しいと判断される。

- 規** 模：西側半分は調査区外、北側半分は 18 号住居に切られて規模は不明である。竪穴の現存深さは 0.4m である。
- 炉** 跡：住居の中心と思われる位置で炉体土器と思われる正位の埋設土器を検出した。明瞭な焼土は検出されなかったが、埋設土器内の埋土にわずかな焼土粒子と炭化物粒子が認められたため、この埋設土器を本住居の炉と判断した。
- 周** 溝：検出されなかった。床面が黒褐色土で遺構確認が難しく、認識できなかつた可能性もある。
- 柱** 穴：北側から PT186、PT189、PT188、PT187、PT172、PT185 の 6 基のビットを検出した。32cm ~ 47cm とやや浅いがこれらが主柱穴と思われる。
- 出土遺物**：出土した土器の総量は炉体土器を含めて 16,497g である。53 図 1 は正位に埋設された土器で炉体土器と判断した。井戸尻式 2 段階か 3 段階に位置づけられよう。54 図 8 は PT187 で出土した前期前葉、中越式と思われる小破片である。ほかの土器は床面から 10cm ほど浮いた埋土下層で出土したもので、炉体土器よりも新しく井戸尻式 3 段階から曾利 I 式古段階に位置づけられる。石器は、鋸齒縁石器 3 点、側縁石器 13 点、打製石斧 14 点、横刃形石器 3 点、大形粗製石匙 1 点、敲石 1 点、ハンマー 1 点、大形二次的剥離のある剥片 1 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点が出土した。54 図 1731 の打製石斧は PT186 で出土した。
- 時** 期：炉体土器は井戸尻式 2 段階か 3 段階、住居埋土で出土した土器は曾利 I 式古段階である。八ヶ岳南麓では曾利式段階になると石圍炉が一般的となる。また、井戸尻式 2 段階に位置づけられる 112 号土坑との関係からも、本住居は井戸尻式 2 段階に位置づけられよう。

20 号住居 (PJ020 第 56 ~ 61 図、写真図版 21・22)

- 位** 置：D-2、D-3 グリッドで検出された。
- 重** 複：周辺で検出された住居と重複する。周辺の遺構は検出したのみで現状保存したため正確な時期が分からぬが、本住居が最も新しい遺構と推測される。
- 規** 模：現状保存し完掘していないため規模は不明である。竪穴の深さは 0.5m 以上と推測される。
- 調査所見**：グリッドを掘り下げている過程で多数の土器、石器が出土し、住居と認識した。圃場整備工事の掘削深度まで掘り下げ、西壁のみを確認したところで現状保存とした。検出した西壁から想定される住居はかなり大型であり、炉の可能性がある跡が 2 ヶ所で検出され、床面の一部と思われる黒褐色土の広がり、さらに深く落ち込みそうな黒色部分などが確認された。この黒色部分は 21 号住居と認定した。おそらく 21 号住居を含めて最低 3 軒の住居が重複していると思われる。
- 伏甕と釣手土器が出土した地点の西側で石皿、台石、扁平丸石が並んで出土し、立った状態で埋まっている扁平礫が検出された。この扁平礫は炉石の可能性がある。これらと別に 20 号住居とした範囲の南端で石皿破片と風化した花崗岩、炉石と思われる扁平礫、正位に埋設された曾利 II 式土器が検出された。これは埋甕の可能性があるが、発掘せずに現状保存した。
- 伏甕と釣手土器の周囲では、伏甕の下端と同じ高さで石皿、台石が出土しており、炉石、埋甕の検出も考慮すると、発掘調査がほぼ床面近くまで及んだと判断される。ただし明瞭な硬化した床面は検出されず、柱穴も認識できなかつた。
- 出土遺物**：20 号住居と想定した範囲内で総量 52,936g の土器が出土した。調査範囲で明瞭な床面が検出されていないため全て埋土からの出土となる。58 図 1 は本住居埋土と 23 号住居埋土で出土した破片が接合している。
- 57 図 2 は 57 図 1 の釣手土器の横で、口縁部を下にした逆位の状態で出土した。伏甕と考えられるが、墓坑のような掘り込みは確認されなかつた。伏甕埋土の上面で打製石斧 60 図 1869 が出土した。また釣手土器の中から横刃形石器 60 図 1868-B と剥片 61 図 1868-A+1868-B が出土した。

59図4は埋土中で出土した曾利V式土器である。ほかの土器と明らかな時期差があり、本住居とは別の遺構に帰属する可能性が高いが、土坑など掘り込みは認識できなかった。

石器は、石鏃および石鏃未成品7点、楔形石器3点、鋸齒縁石器1点、側縁石器3点、周縁加工石器1点、打製石斧13点、横刃形石器16点、大形粗製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片1点、小形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片3点、潰れを伴う剥離のある剥片2点、黒曜石の小形石核2点、石英岩原石1点、多量の黒曜石微小剥片、石皿2点、台石3点、磨石類1点が出土した。

炉と思われる位置の北側で石鏃未成品(59図1788-1、59図1788-2、59図1788-3、59図1788-8)、楔形石器(59図1788-4)、小形石核(59図1788-6)などと多量の黒曜石の微小剥片が集中して出土した。微小な剥片は8,854点、重量212.7gで、大きな剥片は3cm大、小さなものは数mm程度である。これらは黒曜石製の剥片石器を製作する工程で生じたものと思われ、不要となった石器などとともに一括して廃棄されたと推測される。

竪穴埋土中から少量の炭化したクルミ外殻が出土した。

時 期：埋土中で出土した伏甕、土器などから曾利II式新段階に位置づけられる。

21号、22号、30号、31号、32号住居 (PJ021～PJ032 第62・63図、写真図版23)

位 置：D-3グリッドからC-4グリッドで検出された。

調査所見：遺構確認面が圃場整備工事の掘削深度よりも深くなつたため、発掘調査せずに現状保存した。6軒の住居を認識したが、発掘調査していないため時期、遺構数ともに確定的ではない。21号住居は20号住居とした範囲を切るように検出された。

出土遺物：21号住居とした範囲で10,816gの土器が出土した。62図1、62図2、62図3、62図5は21号住居とした範囲で出土した。井戸尻式後半に位置づけられる。62図4は土偶脚部破片である。

21号住居出土の石器は、側縁石器1点、打製石斧9点、横刃形石器4点、大形粗製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片2点、大形不規則剥離のある剥片2点、潰れを伴う剥離のある剥片1点、磨石類3点である。

22号住居では63図1と63図2、63図3が出土した。曾利I式と思われる。63図4と63図5は土偶脚部破片である。

22号住居の石器は、側縁石器1点、打製石斧2点、横刃形石器3点、大形二次的剥離のある剥片2点、小形不規則剥離のある剥片2点が出土した。

31号住居では打製石斧63図250が出土した。32号住居では土器991gが出土した。

時 期：発掘調査していないので出土した土器から想定されるのみであるが、21号住居は井戸尻式後半段階、22号住居は曾利I式期と推測される。

23号住居 (PJ023 第64～68図、写真図版23～25)

位 置：C-2～D-3グリッドで検出された。

重 慣：平安時代の2号住居(PH002)に切られる。25号住居を切る。

規 模：長軸6.0m×短軸5.6m。竪穴の現存深さは0.45mである。堅くしまった床面は検出されず、炉跡から床面を想定し、柱穴が確認された高さで発掘を停止した。

調査所見：竪穴埋土を発掘したが、床面以下は圃場整備工事の掘削深度より深いため床面、柱穴、炉跡を検出したのみで現状保存し、発掘調査しなかつた。ただし炉埋土と埋設土器は発掘調査し、埋設土器を上げた。

炉 跡：住居中心から奥壁寄りの位置で石圓炉を検出した。花崗岩2個と安山岩5個、小礫3個を長方

形に配した石囲炉で、うち安山岩 1 個は平坦に置かれ、残りの礫は縦に立てられていた。炉底までの深さは 15cm 程度と浅く、炉底で焼土は検出されなかった。炉南東角は小形の石皿を立てて炉石としていた。ほかの炉石も台石を転用している。炉南西角には打製石斧と半分に欠けた磨石が立てられて炉石の隙間を埋めていた。

周溝：南西側を除くほぼ全周で検出した。

柱穴：主柱穴と思われるビット 7 基を検出した。

埋設土器：住居南西端で埋設土器 1 基を検出した。曾利 II 式の X 字把手付大形深鉢を正位に埋設したもので、口縁部が 10cm ほど床面から突出していた。この状況からいわゆる埋甕ではなく貯蔵施設かと考えて 116 号土坑と番号を付したが、埋設された深鉢の胴部に意図的な穿孔が認められたことから、貯蔵施設ではなく儀礼的な目的で埋設された、いわゆる埋甕と判断した。

出土遺物：出土した土器の総量は埋甕を含めて 67,955g で、うち埋甕が 24,000g である。65 図 1 は正位に埋設された埋甕である。胴部に内側から敲打した意図的な穿孔がある。ほかの土器は床面から 5cm ~ 25cm ほど浮いた埋土下層から出土している。65 図 9、66 図 1、66 図 2 は唐草文系土器である。曾利 II 式土器と唐草文土器は出土位置からみてほぼ同時期に住居埋土に投棄されたものと考えられる。

石器は、楔形石器 2 点、打製石斧 10 点、横刃形石器 2 点、大形粗製石匙 2 点、ヘラ状石器 1 点、大形二次的剥離のある剥片 1 点、大形不規則剥離のある剥片 2 点、磨製石斧 1 点、石皿 1 点、台石 4 点、磨石類 6 点、土器研磨石 1 点が出土した。

66 図 1918、66 図 1919、66 図 1920、66 図 1922 の打製石斧 4 点は東壁沿いの床面で、剥片 1 点とともに並んで出土したものである。66 図 1943 の打製石斧は石囲炉の南西角部に炉石、磨石破片と共に立てられていた。67 図 1909 は炉南東角部に炉石の一部として立てられていた石皿、67 図 1908、67 図 1910 は炉石に使用されていた台石、68 図 1912 は炉南西角部に打製石斧と共に添えられていた磨石、67 図 1950 は埋甕内で出土した磨石である。

時期：埋設土器と埋土の出土土器から曾利 II 式期に位置づけられる。

24 号住居 (PJ024 第 68 図、写真図版 25)

位置：C-2 グリッドで検出された。

重複：28 号住居、29 号住居と重複すると思われるが、遺構確認面で明瞭な新旧関係は認識できなかった。

規模：精査したが住居平面形を把握できなかつたため、不明である。

調査所見：遺構を確認した時点で遺構平面形を把握しようと繰り返し精査したが、遺構全体を認識できなかつた。本住居と 29 号住居の間には 102 号土坑のような黄褐色土集積を伴う大きな土坑があり、このために住居平面形が認識できなかつたものと思われる。柱穴と遺物の出土状況から平面形を想定すると、長軸 6m 程度の円形住居と推測される。

炉跡：住居中心から北側に寄った位置で石囲炉を検出した。やや小ぶりの花崗岩礫 8 個、砂岩 1 個、安山岩 1 個を楕円形に置き並べた炉で、炉底までの深さは 8cm と浅い。炉底で焼土は検出されなかつた。

周溝：北壁沿いで小溝を検出した。

柱穴：PT190、PT181、PT184、PT191 の 4 基のビットを検出した。これらのうち PT191 を除く 3 基が主柱穴と思われる。PT191 は本住居に帰属するか不明である。柱穴と認定できる 3 基の配置から本住居は 5 本ないし 7 本主柱穴構造と推測されるが、残る柱穴は精査に努めたものの検出できなかつた。PT184 は断面形状から貯蔵穴の可能性もある。

出土遺物：出土した土器の総量は 1,124g である。68 図 1 は PT184 で出土した小形の深鉢である。石器は鋸齒縁石器 1 点、打製石斧 3 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点、磨製石斧 1 点が出土した。68 図 2335 の打製石斧は PT184 で出土した。

時 期：出土土器から曾利II式期に位置づけられる。

25号住居（PJ025 第69～74図、写真図版25・26）

位 置：C-3グリッドで検出された。

重 複：23号住居と重複する。

規 模：造構確認時に認識した平面形は径6mの円形住居で、竪穴の現存深さは20cm以上であるが発掘調査では床面まで検出しなかった。

調査所見：圃場整備工事の掘削深度よりも浅い造構埋土を発掘調査し、出土遺物を取り上げ、造構は現状保存した。造構確認面から20cmほど掘り下げたが、床面、柱穴、炉跡は検出されなかった。竪穴埋土から獸骨と思われる骨片が少量出土したが、細片のため同定分析は行わなかつたが、管状の骨の一部と分かる骨片も認められる。

出土土器は、井戸尻式3段階から曾利I式、曾利II式、曾利IV式と時間幅が大きい。曾利II式、曾利IV式はより浅い位置で出土し、井戸尻式3段階と曾利I式土器はより深い位置で出土する傾向がある。曾利II式期、曾利IV式期の造構も想定されるが調査の過程で認識できなかつた。調査範囲のなかで古い時期の土器がかなり出土しているため、新しい時期の造構はそもそも削平されるなどして失われている可能性も考えられる。

出土遺物：出土した土器の総量は96,659gである。69図1～3は井戸尻式3段階、69図4～70図5は曾利I式、70図6～71図1は曾利II式、71図2と71図3は曾利IV式土器、72図2は釣手土器である。72図6は土製円盤、72図7は焼成粘土塊、72図3、72図4、72図5は土偶である。

出土した石器の内訳は、石礫1点、楔形石器1点、側縁石器2点、小形石錐1点、打製石斧17点、横刃形石器8点、大形不規則剥離のある剥片3点、小形不規則剥離のある剥片1点、石皿2点、磨石類6点、敲石3点、石柱1点である。

時 期：出土土器から、井戸尻式3段階から曾利IV式の幅のなかで複数の造構が重複しているか、もしくは竪穴の埋没期間が長期に及んだ可能性が考えられる。

26号住居（PJ026 第75～77図、写真図版27）

位 置：B-2、B-3グリッドで検出された。

重 複：平安時代の1号住居（PH001）に切られる。27号住居と重複する。

規 模：平安時代の住居に切られ、規模は不明である。造構が残存していた住居北東1/4では竪穴30cmほどが残っていた。

調査所見：平安時代の住居と水田の畔間に切られて竪穴の3/4が失われている。埋土は風化した花崗岩由来の砂が混じる黒褐色土で、地山の黄褐色砂質土が床面と思われる。床面で硬化は確認されなかつた。床面が圃場整備の掘削深度よりも深くなるため、床面と炉の検出時点で調査を中断し、現状保存した。

炉 跡：住居の中心と思われる位置で石閉炉を検出した。拳ふたつ分ほどの大きさの花崗岩礫5個を円形に置き並べただけの炉である。現状保存したため炉内は発掘していない。

周 溝：壁沿いのピットを連結するように小溝を検出した。

柱 穴：柱穴と思われるピットを検出したが未調査である。平安時代の1号住居内にも柱穴が残存していると思われるが未確認である。

出土遺物：出土した土器の総量は、24,826gである。土器の多くは完形に近い状態で、もしくは大形の破片に割れた状態で、床面から10cm～30cmほど浮いた高さの埋土中に大きな砾とともに投棄されたと思われる状況で出土した。北壁から炉にかけての範囲でまとめて出土した。井戸尻式3段

階から曾利Ⅰ式古段階の土器が主体である。ほかに土偶破片、土製円盤各1点が出土した。平安時代の1号住居埋土中から4kgを超える縄文土器が出土しているが、これらも26号住居に由来する可能性があろう。

石器は、石鏃未成品1点、周縁加工石器1点、抉入石器1点、側縁石器4点、鋸齒縁石器1点、打製石斧9点、横刃形石器3点、磨製石斧1点、磨石類2点、円礪2点が出土した。これらの石器のうち4点は、平安時代のPH001号住居内で出土したものを本住居に帰属させた。

時期：出土した土器が埋土中に投棄されたと考えられることと、炉の形状から井戸戸式3段階に位置づけられると思われる。

27号住居（PJ027 第81～83図、写真図版28）

位置：B-2～C-3グリッドで検出された。

重複：26号住居、28号住居を切る。

規模：遺構確認したのみで正確な規模は不明である。遺構確認時に住居と認識した平面形は径7mの円形である。

調査所見：遺構確認面が圃場整備の掘削深度よりも深くなるため、遺構確認にとどめて現状保存した。住居と認識するまでにグリッド単位で発掘した埋土中から多数の土器破片等が出土した。

出土遺物：発掘調査した範囲で出土した土器は曾利V式が多い。28号住居が曾利II式期に位置づけられると思われ、明らかな時期差がある両遺構の遺物の分離は容易であった。出土した土器の総量は34,147gである。ある程度の大きさまで復元できる個体が多いが、出土した時点ではばらばらな破片状態であった。いずれの廃屋となった住居の竪穴中に投棄されたものであろう。82図6は縄文時代前期の土器破片、82図7はミニチュア土器破片、82図8と82図9は土偶脚部破片である。

出土した石器の内訳は、石鏃（未完成）3点、楔形石器2点、側縁石器3点、鋸齒縁石器1点、打製石斧6点、横刃形石器2点、黒曜石原石1点、大形不規則剥離のある剥片1点、小形不規則剥離のある剥片1点、磨製石斧1点、台石1点、磨石類4点、棒状礪2点である。わずかな数枚であるが、他の遺構で少ない石鏃が3点出土している。

時期：床面まで掘り下げていないため正確な時期は不明であるが、出土土器から曾利V式期かそれより幾分古い時期に位置づけられると推測される。

28号住居（PJ028 第84・85図、写真図版28）

位置：B-2～C-3グリッドで検出された。

重複：27号住居に切られる。29号住居と重複すると思われる。

規模：遺構確認のみで現状保存したため正確な規模は不明である。遺構確認時に住居と認識した平面形は径7mの円形である。

調査所見：27号住居と同様に遺構確認面が圃場整備工事の掘削深度より深くなるため、遺構確認にとどめて現状保存した。当初、27号住居と同一遺構と考えていたが、埋土中で出土する土器に明らかな時期差が認められたため、精査を繰り返し、27号住居と28号住居を分別した。

出土遺物：発掘調査した範囲で出土した土器は曾利II式でまとまる。出土した土器の総量は35,245gである。図示した土器はいずれも埋土中で出土したもので、廃屋となった竪穴内に投棄されたものであろう。

出土した石器の内訳は、打製石斧5点、横刃形石器2点、大形粗製石匙1点、大形二次的剥離のある剥片1点、小形二次的剥離のある剥片1点、小形不規則剥離のある剥片1点、磨製石斧3点である。

時期：遺構確認にとどめたため正確な時期は不明であるが、出土した土器は曾利II式でまとまるところから

曾利Ⅱ式期かそれをやや遡る程度の時期に位置づけられると推測される。

29号住居 (PJ029 第75・77~80図、写真図版29)

位 置：B-2グリッドで検出された。

重 複：南側を平安時代の1号住居に切られる。北側は黄褐色土集積を伴う大形土坑に切られる。東側で27号、28号住居と重複するはずだが、遺構確認時に新旧関係を認識することは出来なかった。

規 模：保存状態が悪く南壁の一部を検出したのみであるため規模は不明である。

調査所見：遺構確認までにグリッド単位で発掘調査していたところ井戸尻式2段階の人面突起付土器、完形に近い土器が出土したため、住居の存在を予期して精査した。住居と思われる範囲内には黄褐色土集積を伴う大形土坑があり、また遺構確認面が黒褐色土であるため明確に遺構平面形を認識することができなかつた。図面中の南壁はわずかな土色の違いを頼りに発掘した結果を示しているが、これが住居の南限を示すかはつきりしない。ただし、これより外側で遺構がない部分では遺物が出土していない。

圃場整備工事の掘削深度を超えた時点で調査を中断し遺構を現状保存した。発掘調査した範囲内で硬化した明瞭な床面は検出されず、床面の高さも未確認である。北側に隣接する24号住居では同じ高さで炉が検出されている。

炉 跡：調査範囲では検出されなかつた。調査区外に存在するか、もしくは黄褐色土集積を伴う大形土坑に切られて失われていると思われる。

周 溝：調査範囲では検出されなかつた。

柱 穴：ビット1基を検出したが未調査のため柱穴かどうか不明である。

出土遺物：出土土器の総量は10,376gである。78図1は出産文モチーフをもつ人面突起付土器である。出土状況を示した写真は土坑で出土したようにみえるが、冬季の発掘調査であったことから土器が凍結破損する前に急ぎ土器の周囲だけを発掘して出土状況を図化し、取上げたためである。

人面突起付土器は人面が上を向くようにして斜め横倒しになって出土し、そのうえに他の深鉢がのついていた。人面把手土器は土圧のため小さな破片に割れていたが、完形の姿をとどめていた。他の個体がうえにのついていたことからみて当初から横倒しに遭棄されたものと思われる。周囲から79図2170の石柱、80図2167の台石、剥片、花崗岩が出土した。これらの土器と石器は1.5m範囲内のほぼ同じ高さでまとめて出土している。

人面突起付深鉢、石柱、台石という組み合わせは、その背景に儀礼的行為を想定させるが、住居そのものの保存状態が悪かつたため、そうした意図的な行為を積極的に裏付ける情報は認識できなかつた。

79図1は78図1の人面突起の上に重なって出土した深鉢である。口縁部を上にした状態で、ほぼ完形に復元できる土器である。79図2は79図1と入れ子状に重なって出土し、口縁部を欠損している。79図3はさらに東側で出土した深鉢の胴下半部である。人頭大の縁とともに底部を下にして出土した。これらの土器3点はほぼ同一地点の同じ高さで出土しており、まとめて遭棄されたように感じられた。

79図4は土偶脚部破片である。グリッド調査の過程で出土し、29号住居の範囲内にあるためここに報告するが、人面突起付土器などと較べると60cmほど高い位置で出土しており、本住居に帰属する遺物かはつきりしない。

29号住居と認識した範囲で出土した石器は、鋸歯縁石器1点、側縁石器1点、打製石斧4点、小形不規則剥離のある剥片1点、磨製石斧1点、台石1点、磨石状の円礫1点、石柱状角礫1点である。79図2172と79図2173の打製石斧2点は人面突起付深鉢の底部付近でまとめて出

土した。79 図 2170 の角縁は整形してあり石柱と考えられる。人面突起付深鉢の北 50cm で出土した。80 図 2167 は人面突起付土器の北東 1.5m で、斜めに立った状態で出土した。

時 期：まとまって出土した土器から井戸尻式 2 段階に位置づけられる。

33 号住居 (PJ033 第 86 ~ 90 図、写真図版 30)

位 置：G-3 グリッドで検出された。

重 複：7 号住居を切る。南側は搅乱で失われている。

規 模：精査し平面形の把握に努めたが確認できなかった。

調査所見：グリッド単位で発掘調査している過程で曾利 II 式土器など遺物がまとまって出土したため住居の存在を想定して、床面、炉、柱穴の検出に努めた。重複する 7 号住居を調査するうちに 7 号住居に落ち込むようにして曾利 II 式土器が出土することが確認された。これらの曾利 II 式土器は 33 号住居に帰属するものが、7 号住居埋土が沈み込む過程で 7 号住居内に落ち込んだものと判断した。柱穴と思われる 2 基のビット、遺物の出土範囲から住居の範囲を想定したが、周溝、壁ともに検出できず、炉も確認できなかった。南側を除いて目立った搅乱は認識できなかったが、あるいは耕作等の搅乱により遺構が失われていたのかもしれない。住居と想定した範囲内で土坑などが検出されたが、調査の過程で新旧関係は確認できなかった。

整理作業の過程で土器の出土位置と土器形式を対照させたところ、7 号住居西壁沿いで曾利 II 式土器と器台などの分布がまとまり、一方、曾利 I 式土器が 68 号土坑周辺に分布がまとまることが判明した。

のことから 33 号住居と想定した遺構は曾利 I 式期と曾利 II 式期の 2 基の遺構に分離される可能性が高い。ただし両者ともに住居であるとはつきりしない。報告の便宜上、曾利 I 式期の遺構を 33A 号住居、曾利 II 式期の遺構を 33B 号住居とする。

炉 跡：検出されなかった。29 号土坑の埋土上層に焼土が検出された。29 号土坑にともなうものと判断したが、曾利 I 式期段階の住居に伴う炉ないし焼土である可能性がある。

柱 穴：PT48、PT53、DK70などを検出した。大きさと深さから本住居の主柱穴になりうるのはこの 3 基であるが、柱穴配置がはつきりしない。柱穴であるならば曾利 I 式期の 33A 号住居に伴うものであろう。29 号土坑上面の焼土が炉跡とするとビットとの位置関係は不自然ではない。

出土遺物：33 号住居で取上げた土器の総量は 5,296g である。これに加えて 33A 号住居の遺物として図示した曾利 I 式土器が 11,733g、33B 号住居の遺物として図示した曾利 II 式土器が 24,670g 出土している。出土位置は第 86 図に示した。88 図 8、88 図 9 は、器形や施文技法に唐草文系土器、あるいは伊那地方の土器の影響が感じられる。86 図 1 は柱穴の可能性がある DK70 で出土した両耳深鉢である。土器のほかに 33B 号住居で器台 2 点、土偶破片 1 点が出土した。

石器も出土位置から 33A 号住居と 33B 号住居とに分別した。33A 号住居では、打製石斧 3 点、横刃形石器 2 点、大形粗製石匙 1 点、小形不規則剥離のある剥片 4 点、黒曜石の小形石核 1 点、黒曜石原石 2 点、が出土した。33B 号住居では、楔形石器 1 点、鋸歯縁石器 1 点、打製石斧 8 点、横刃形石器 2 点、大形二次的剥離のある剥片 4 点、大形不規則剥離のある剥片 1 点、小形不規則剥離のある剥片 1 点、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点、黒曜石の小形石核 1 点、磨石類 2 点が出土した。

以上のほか両住居の周辺グリッドで出土した遺物を 33 号住居として整理した。内訳は楔形石器 1 点、鋸歯縁石器 1 点、側縁石器 1 点、打製石斧 6 点、横刃形石器 4 点、大形粗製石匙 3 点、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点、粘板岩の石核 1 点、黒曜石原石 2 点、磨石類 1 点である。

時 期：曾利 I 式期と曾利 II 式期に位置づけられるが、住居と認定すべき確証がない。

土坑

検出された 113 基の土坑のうち特筆すべきものを以下に記載する。他の土坑の属性は第 2 表に報告する。

29 号土坑 (DK029 第 91 図)

位 置 : G-3-3 グリッドで検出された。

規 模 : 径 1.1m ほどの不整円形で、現存深さは 0.55m である。

調査所見 : 33 号住居の調査過程で住居床面と思われる高さまで掘り下げたところ、本土坑を確認した。土坑埋土の最上層、すなわち遺構確認面には焼土がまとまって検出された。この焼土は 33 号住居とした遺構のうち曾利 I 式期に位置づけられる住居の炉かもしれない。

焼土の下層は黒褐色埋土が 20cm ほど堆積し、その下から花崗岩礫がまとまって出土した。これらの礫は石閉戸のような形状ではなく、また焼土とのレベル差が大きい。花崗岩礫のなかには被熱し変色したものが含まれる。多孔石 1 個が混じる。

本土坑は 33 号住居と別遺構と思われるが、焼土は偶然、同一地点で重複したものかもしれない。

出土遺物 : 井戸尻式土器破片 (91 図 1、91 図 2) と黒曜石の剥片 1 点 (91 図 499)、多孔石 1 点 (91 図 525) が出土した。井戸尻式土器破片は焼土層の下層の黒褐色土中から出土している。

時期 : 井戸尻式期に位置づけられる

30 号土坑 (DK030 第 91 図)

位 置 : G-2 グリッドで検出された。

規 模 : 径 90cm ほどの不整円形で、確認面からの深さは 25cm である。

調査所見 : グリッド単位で発掘調査を進める過程で深鉢がまとまって出土し、精査したところ土坑の存在を認識した。

出土遺物 : 91 図 4 が横倒しになって潰れた状態で出土した。91 図 3 は 30 号土坑がある 2m 四方の小グリッドの調査中に出土した小形土器で、本土坑に帰属する遺物と判断した。91 図 353 の黒曜石剥片が出土した。

時期 : 井戸尻式 1 段階か 2 段階に位置づけられる。

34 号土坑 (DK034 第 92 図、写真図版 31)

位 置 : G-3-4 ~ G-3-9 グリッドで検出された。

規 模 : 径 0.5m の不整円形、確認面からの深さは 0.4m である。

調査所見 : グリッド単位の発掘調査の過程で曾利 II 式土器がまとまって検出されたため、埋設土器かもしれないと思い、掘り方を精査したところ本土坑を確認した。本来は住居に伴う埋甕の可能性を考えられたが、周囲で炉、柱穴が検出できなかったため、土坑として報告するが、本来は住居に伴う埋甕である可能性は否定しきれない。

土器は胴部以上が破片に断片化していたが、底部から胴部下半は原形をとどめていて、正位で埋設されたことが確認できた。断片化した胴上半は埋設時点での破壊されたものか、埋設後の搅乱で破壊されたものか調査時には判断できなかったが、同一個体の破片が 10m ほど離れた 10 号住居で出土しているため、後代の搅乱で相当程度破壊されたものと推測される。

出土遺物 : 92 図 1 が埋設された長胴の深鉢である。口縁部から底部まで破片が確認されている。頸部が完全に失われている点は不自然で、口縁部と頸部以下は埋設時に意図的に破壊され、頸部が除去された可能性がある。頸部がないが X 字状把手がつく深鉢であろう。

時期 : 曾利 II 式新段階に位置づけられる。

35号土坑 (DK035 第92図)

位 置：G-3-13～G-3-14 グリッドで検出された。

規 模：径 1.4m ほどの不整形で、現存深さは 1m。断面形は袋状に下端がふくらむ。

調査所見：黒褐色土が層状に自然堆積した袋状土坑で、その規模と断面形から貯蔵穴のような機能が想定される。埋土中には花崗岩礫、土器破片が混じる。土坑の大きさから住居内の貯蔵穴ではなく、屋外に設けられた貯蔵穴と推測される。

出土遺物：埋土下層から 92 図 2、92 図 3、完形の打製石斧 1 点、打製石斧破片 3 点が出土した。

時 期：曾利 II 式期に位置づけられる。

40号土坑 (DK040 第93図)

位 置：H-3-17 グリッドで検出された。

規 模：長軸 1.3m 以上 × 短軸 1.3m、現存深さは 0.3m である。

調査所見：調査区端で検出された土坑で、東側は水田境界で削平され失われている。

出土遺物：93 図 1、打製石斧 1 点 93 図 291、横刃形石器 2 点 93 図 290、93 図 292、敲石 1 点 93 図 320 が出土した。

時 期：曾利 I 式新段階

41号土坑 (DK041 第93・94図)

位 置：H-3-13～H-3-19 グリッドで検出された。

重 複：5 号住居と柱穴を切る。

規 模：長軸 1.4m × 短軸 1.1m。竪穴の現存深さは 0.7m である。

調査所見：5 号住居の床面で柱穴を精査中に検出した。5 号住居確認面で本土坑を認識できなかつたが、土坑検出後にセクションベルトで住居との新旧関係を確認し、本土坑が新しいと判断した。埋土は分層できない黒褐色土で埋土中に花崗岩礫、土器、石器が出土した。土器の一部は大き目の破片がまとまって出土していることから、埋土への偶発的混入ではなく意図的に埋めたものと思われる。

出土遺物：深鉢破片 93 図 2、93 図 3、鋸齒縁石器 1 点 94 図 51、打製石斧 3 点 94 図 56、94 図 58、94 図 59、横刃形石器 1 点 94 図 49、大形二次的剥離のある剥片 1 点 94 図 57、潰れを伴う剥離のある剥片 1 点 94 図 50、敲石 1 点 94 図 52、黒曜石の小形石核 1 点 94 図 61 が埋土中で出土した。

時 期：曾利 I 式古段階

42号土坑 (DK042 第94図)

位 置：H-2-7～H-2-13 グリッドで検出された。

重 複：19 号土坑、8 号、9 号、39 号ビットと重複する。

規 模：長軸 2.9m × 短軸 2.1m。現存深さは 0.8m である。

調査所見：確認面で地山の黄褐色粘質土を含んだ乱れた土層が認識でき、大形土坑と判断して発掘調査した。埋土は黒色土と地山由來の黄褐色土、黒褐色土、灰褐色土が乱雜に混じり、埋め戻した結果と考えられる。土坑の大きさにもかかわらず遺物は曾利 V 式土器の小破片など少量しか出土していない。19 号土坑を切ると判断した。19 号土坑から加曾利 E III 式土器が出土していることから、中期末葉以降の土坑と推測される。

この土坑によく似た大きな不整形土坑がほかに 2 基検出されている。ひとつは E-2 グリッドの 102 号土坑であり、一基は 29 号住居北側で検出された黄褐色土集積を伴う土坑である。この 3 基の土坑は、26～28m 間隔で直線状に並んでいる。さらに B-3 グリッド、C-3 グリッドで確認された黄褐色土集積も発掘調査していないが、同様の土坑の可能性がある。B-3 グリッドの黄褐色土

集積は、平安時代の掘立柱建物の柱穴 PT177 に切られているから、縄文時代中期末葉以降、平安時代以前に位置づけられる。

この土坑の機能は不明である。地山は黄褐色の砂質粘質土で、粘土採取が目的とも考えにくく、粘土採取なら直線に並ぶ必要もない。

出土遺物：94 図 1 の土器小破片、横刃形石器 1 点 94 図 354、大形不規則剥離のある剥片 1 点 94 図 355 が出土した。

時期：縄文時代中期末葉以降、9 世紀後半以前としか分からぬ。

32 号・53 号土坑（DK032・DK53 第 95 図）

位：置：H-3-1、H-3-2 グリッドで検出された。

重：複：4 号住居、6 号住居に切られる。32 号土坑が 53 号土坑を切る。

規：模：32 号土坑は径 0.7m の円形、現存する深さ 0.4m。53 号土坑は長軸 0.8m、短軸 0.7m の長円形で、現存深さ 0.4m である。

調査所見：6 号住居の発掘調査過程で土坑を確認した。最初に 32 号土坑を検出し半截したところで 53 号土坑を認識した。53 号土坑確認面の上面には人頭大程度の花崗岩礫 6 個がまとまって検出され、その下から藤内式土器の大形破片が出土した。32 号土坑の埋土は地山由来の黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。53 号土坑埋土は黄褐色土の小ブロックをわずかに含む黒褐色土である。

出土遺物：32 号土坑で土器破片 95 図 2、95 図 3、大形粗製石匙 1 点 95 図 238、小形不規則剥離のある剥片 1 点 95 図 250 が出土した。53 号土坑から深鉢大形破片 95 図 1、焼成粘土塊 95 図 4 が出土した。

時期：32 号土坑は曾利 II 式期、53 号土坑は藤内式後半に位置づけられる。32 号土坑出土の 95 図 2 は高台付深鉢の破片であり、曾利 V 式期まで下る可能性もある。

54 号土坑（DK054 第 95 図、写真図版 31）

位：置：G-2-25 グリッドで検出された。

規：模：長軸 0.7m × 短軸 0.6m の不整円形で、現存深さは 0.3m である。

出土遺物：95 図 6、95 図 7 の赤彩された小形土器、95 図 5 の浅鉢破片、95 図 8 の土器破片、花崗岩礫 1 点が出土した。

時期：95 図 8 から曾利 IV 式期と推測される。

64 号土坑（DK064 第 96 図）

位：置：G-2-12、G-2-13 グリッドで検出された。

規：模：長軸 0.9m × 短軸 0.8m、堅穴の現存深さは 0.45m である。

出土遺物：土坑埋土から花崗岩礫がまとまって出土し、そのなかには安山岩製の石棒破片 2 点 96 図 346、96 図 347、打製石斧破片 1 点 96 図 348、井戸尻式土器破片 96 図 1 が混じっていた。礫は土坑底面に 30cm 大の大きな礫、埋土中に 20cm 大の小ぶりの礫が充填されていた。96 図 1 は多喜窪タイプの深鉢の塔状突起の一部と思われる。

時期：井戸尻式 2 段階。

72 号土坑（DK072 第 96 図）

位：置：G-3-1 グリッドで検出された。

重：複：69 号土坑と重複する。

規：模：長軸 1.6m × 短軸 1.2m の長円形で、現存深さは 0.2m である。

出土遺物：拳大から40cm大の花崗岩礫と安山岩礫が多数出土した。礫のなかには安山岩製の台石の破片1点96図523、楔形石器1点96図510、打製石斧5点（96図512～96図514、96図517、96図520）大形不規則剥離のある剥片1点96図516、小形不規則剥離のある剥片1点96図511、黒曜石の小形石核1点96図509、96図2の土器破片が混じっていた。

時期：井戸尻式3段階か。

77号土坑（DK077 第97図、写真図版31）

位置：F-2-20グリッドで検出された。

重複：63号ピットと重複する。新旧は不明。

規模：径1.2m、現存深さは0.3mである。

調査所見：南側は深い搅乱で破壊され失われている。

出土遺物：土坑の底面から30cmほど浮いた埋土中において、胴部以下が欠損した曾利II式の深鉢97図1が横倒し状態で出土した。ほかに敲石1点97図934、黒曜石剥片1点97図936が出土した。

時期：曾利II式期

78号土坑（DK078 第97・98図）

位置：G-2-12グリッドで検出された。

重複：79号土坑と重複する。新旧は不明である。

規模：径0.8m、現存深さは0.2mである。

出土遺物：遺構確認面で井戸尻式土器3個体の破片97図2、97図3、98図1がまとめて出土したほか、打製石斧1点98図357、黒曜石剥片1点が出土した。

時期：井戸尻式2段階に位置づけられる。

86号土坑（DK086 第98図）

位置：F-2-12グリッドで検出された。

規模：径0.7m、確認面からの深さは0.1mである。

出土遺物：遺構確認面で15cmから40cm大の花崗岩6個を検出した。

時期：出土土器がなく不明。

87号土坑（DK087 第98図）

位置：F-2-12グリッドで検出された。

規模：長軸1m×短軸0.8m、現存深さは0.1mである。

出土遺物：遺構確認面で15cm～40cm大の花崗岩5個を検出した。86号土坑と隣接し、似たような状況の土坑である。

時期：出土土器がなく不明。

94号土坑（DK094 第104図、写真図版31）

位置：F-3-2グリッドで検出された。

規模：長軸0.8m×短軸0.75m、現存深さは0.45mである。10号、14号住居などと重複するが、検出時に新旧関係を確認できなかった。

出土遺物：土坑底面からやや浮いて人頭大の花崗岩と土器の口縁部破片104図2が出土した。

時期：曾利I式期であろうか。

102号土坑 (DK102 第104・105図、写真図版31)

位 置：E-2グリッドで検出された。

規 模：長軸3.7m、短軸2.3mの不整形土坑で、現存深さは0.6mである。

出土遺物：横刃形石器2点105図1379、105図1380、チャート剥片1点105図1381が出土した。

時 期：曾利II式期の13号住居を切ることから、曾利II式期以降と考えられる。

103号土坑 (DK103 第99図)

位 置：F-2-16グリッドで検出された。

規 模：径1m、現存深さは0.3mである。

出土遺物：石柱状の大きな安山岩礫、井戸尻式土器破片2点、花崗岩礫4個、頁岩剥片1点99図937など
が出土した。石柱状の安山岩礫は整形の痕跡が認められなかった。

時 期：井戸尻式期。

104号土坑 (DK104 第99図)

位 置：E-2-20グリッドで検出された。

規 模：長軸約1m×短軸0.8m、現存深さは0.35mである。

出土遺物：土坑の埋土上層で10cmから20cm大の花崗岩と安山岩の礫が多数出土した。礫中には安山岩製
の石皿破片1点99図1397が混じる。それらを取り外すと埋土下層から土坑底面で井戸尻式土
器の大きめの破片99図1と打製石斧1点99図1395、磨石1点99図1396が出土した。

時 期：井戸尻式期。

109号土坑 (DK109 第100図)

位 置：E-2-20グリッドで検出された。

重 複：14号住居と重複する。埋土観察で新旧が確認できなかつたが、本土坑の礫がまとまって検出さ
れたことから本土坑が新しいと思われる

規 模：長軸0.77m×短軸0.65m、現存深さは0.15mである。

出土遺物：20cm大ほどの花崗岩礫6個と安山岩製の磨石1点100図1403、台石1点100図1401、滑石製
の块状耳飾1点100図1402が出土した。

時 期：出土土器がなく、14号住居すなわち曾利I式古段階より新しいということしか分からぬ。

112号土坑 (DK112 第100図、写真図版31)

位 置：D-2-12グリッドで検出された。

重 複：19号住居を切る。

規 模：長軸約1m×短軸0.9m、現存深さは約0.4mである。

調査所見：19号住居の確認面で土器の上端が出土した。当初は19号住居埋土中の土器と思ったが19号住
居の床面と思われるレベルまで掘り下げたところで土坑があることを確認した。埋土どうしの観
察で新旧関係を確認できなかつたが、土器の出土状況から本土坑が新しいと判断した。

出土遺物：井戸尻式2段階の深鉢1個体100図1と打製石斧1点100図1691、砂岩の剥片1点100図
1690、大きな花崗岩礫1個が出土した。

時 期：井戸尻式2段階に位置づけられる。

114号土坑（DK114 第101図、写真図版31）

位 置：C-2-12グリッドで検出された。

重 複：24号、29号住居と重複する。出土土器から24号住居に切られると推測されるが、29号住居との新旧関係は分からぬ。

規 模：径約0.9m、現存深さは約0.4mである。

調査所見：24号住居と29号住居の柱穴を精査している過程で検出した。いずれかの住居の柱穴かと思われるが、大きさ、深さから別個の遺構と判断した。土坑埋土中から井戸尻式の浅鉢と深鉢の破片、新道式の深鉢小破片がばらばらな状態で出土した。

出土遺物：101図1は井戸尻式の浅鉢である。ほかに打製石斧2点101図2147、101図2148、横刃形石器1点101図2143が出土した。

時 期：井戸尻式1段階か2段階と思われる。

117号土坑（DK117 第101図、写真図版31）

位 置：C-2-12グリッドで検出された。

重 複：24号住居、29号住居と重複する。曾利II式期の24号住居、井戸尻式2段階の29号住居に切られるると推測される。

規 模：長軸0.95m×短軸0.73m、現存深さは0.3mである。

調査所見：24号住居の柱穴を精査する過程で検出された。花崗岩礫3個と土器が出土し、土坑が確認された。

出土遺物：101図2は土坑内で口縁部を上にして斜めに傾いた状態で出土した深鉢である。藤内式4段階に位置づけられようか。

時 期：藤内式4段階と思われる。

第2節 平安時代の遺構と遺物

平安時代の住居3軒、掘立柱建物跡1棟を検出した。出土した土師器の編年は山下・瀬田1999に拠った。

山下孝司・瀬田正明1999「5奈良・平安時代の編年」『山梨県史資料編2原始・古代2考古(遺構・遺物)』山梨県

1号住居（PH001 第114図、写真図版32）

位 置：B-2グリッドで検出された。

重 複：26号住居を切る。

規 模：南北3.9mの方形住居で、豎穴の現存深さは最大0.7mである。東西長は西壁側が調査区外のため不明であるが、ほぼ正方形の平面形であろう。

カマド：東壁の中央よりやや南寄りに位置する。焼土化した粘質土と袖石の一部が残存するのみで、原形はとどめていない。煙道が東壁から60cmほど延びている。カマドの廐棄に伴う破壊行為で生じたと思われる焼土化した粘質土がカマド掘り方に堆積しており、土師器壺が出土した。

周 溝：調査範囲内の壁沿いで小溝を検出した。

出土遺物：住居埋土から6,950gの土師器、土器破片が出土し、うち4,231gは縄文時代中期の土器破片である。114図1はカマド埋土中で二つに割れた状態で出土した土師器壺である。墨書が認められるが判読できない。みこみ部に放射状の線刻がある。114図2はカマド横、南壁沿いの埋土下層で出土した土師器壺である。114図3はカマド埋土中から出土した土師器甕である。

調査所見：床面の一部に地山由来の粘質黄褐色土が検出されたが、大半の床は黒褐色土である。床は住居中心あたりがやや硬化しており検出は容易であった。

時 期：甲斐型土師器の編年観から 9 世紀後半に位置づけられる。

2 号住居 (PH002 第 115 図、写真図版 32)

位 置：D-2 グリッドで検出された。

重 複：23 号住居を切る。

規 模：東西 3.2m × 南北 3.2m の方形で、竪穴の現存深さは約 0.3m である。

カ マ ド：東壁の中央よりやや南寄りに位置する。袖石と天井石、焼土化した粘質土が残存していた。カマドを構築した袖石などの石材がよく残されているが、原形はとどめていない。花崗岩の小さな礫がカマド底面からやや煙道寄りの位置で立った状態で検出され、支石かと思われたが、すこし奥に寄りすぎているように思われる。

周 溝：精査したが検出されなかった。

出土遺物：埋土中から 2,590g の土師器、土器破片が出土した。うち 2,450g は縄文時代の土器破片である。

115 図 1 はカマド横、東壁沿いの埋土中で出土した土師器壺である。底部に十字形の線刻がある。

調査所見：竪穴が浅いため埋土断面図を作図しなかったが、埋土は微小な風化花崗岩が多量に混じる砂質の黒褐色土で、壁際はやや明るい暗褐色土が三角堆積していた。床は住居の中心付近で地山由来のにぶい黄褐色の粘質土が貼られ硬化していたが、壁沿いは黒褐色土で硬化は認められなかった。

時 期：甲斐型土師器の編年観から 9 世紀後半に位置づけられる。

3 号住居 (PH003 第 115 図、写真図版 32)

位 置：G-2, H-2 グリッドで検出された。

重 複：16 号、21 号土坑と重複する。

規 模：不明。

カ マ ド：東壁近くで焼土を検出したのみである。

周 溝：検出されなかった。

出土遺物：わずかな埋土中と床面と想定した高さで土師器破片など 1,855g が出土した。うち 362g は縄文時代の土器破片である。

調査所見：ほんやりと方形で黒い落ち込みが確認され、平安時代の住居跡と判断し調査した。遺構の保存状態が悪く、硬化した床面も検出されなかった。竪穴が浅いため壁も判然とせず、北に突出した部分も本来の住居の平面形を示しているのか自信がない。床面が明瞭に認識できなかつたため、焼土の高さよりも若干掘り下げた高さを床面と想定した。その床面で 2 基の土坑を検出した。16 号土坑埋土から平安時代の土師器破片が出土したことから 16 号土坑は本住居に伴うものと判断されたが、21 号土坑は 16 号土坑よりも古いということしか分からない。

時 期：甲斐型土師器の編年観から 9 世紀後半に位置づけられる。

1 号掘立柱建物 (HO-001 第 116 図、写真図版 32)

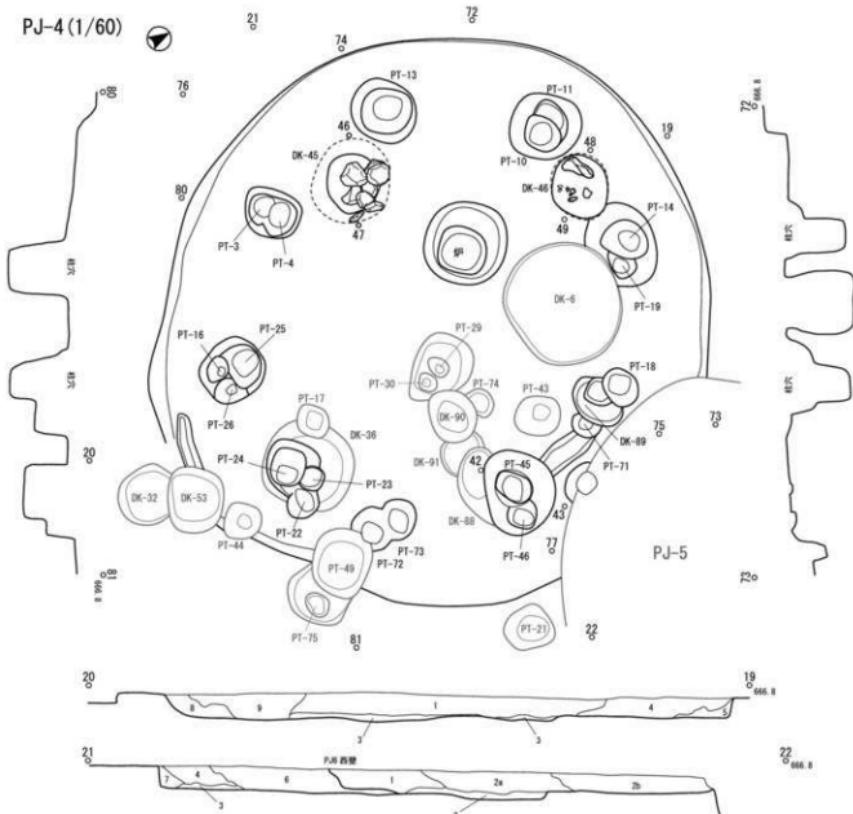
位 置：B-3, C-3 グリッドで検出された。

重 複：27 号住居を切る。

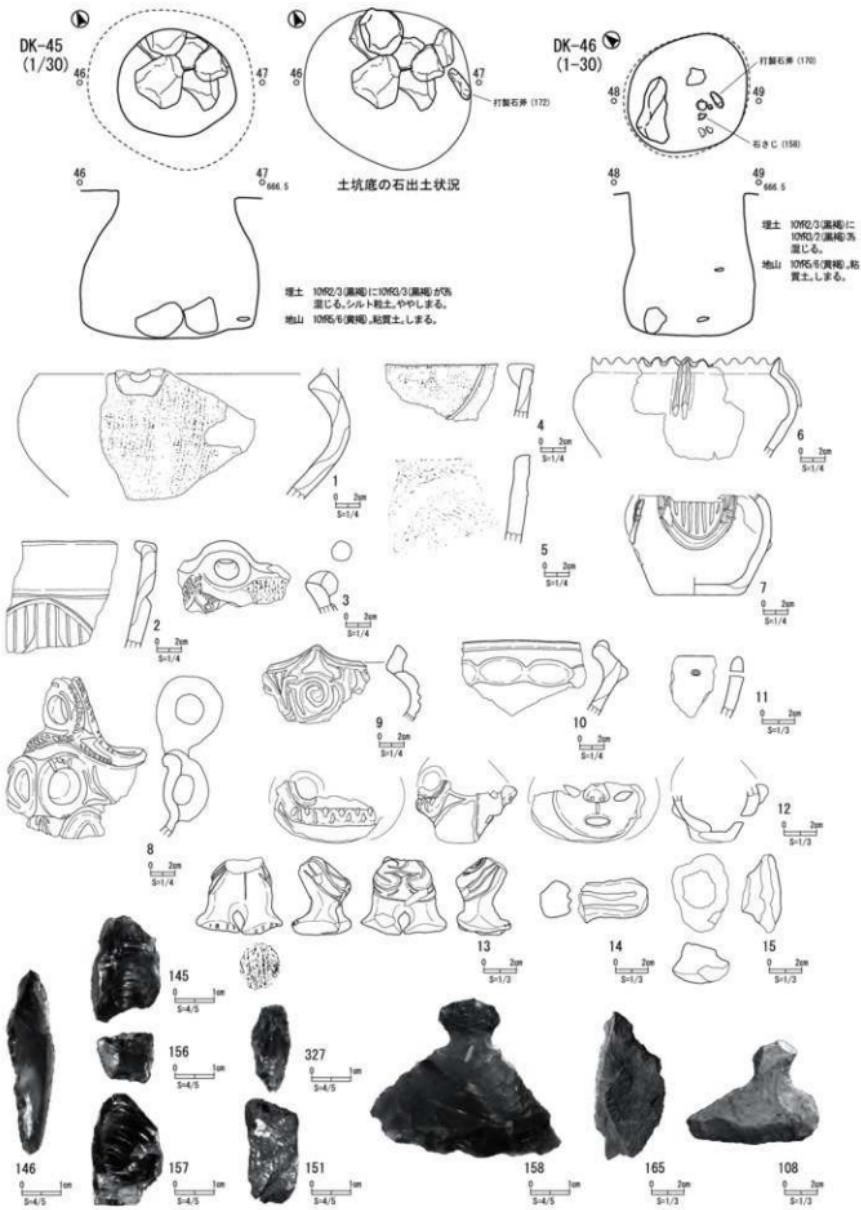
規 模：南北 2 間、東西 1 間で、南北の柱間 1.8m、東西の柱間 3.8m である。

調査所見：PT174, PT175, PT177, PT178, PT179, PT180 の 6 基の柱穴で構成される。南側は調査区外となるため、さらに 1 間延びるのが不明である。ピット埋土は黒色土で明瞭に検出された。PT174, PT175, PT177 では径 20cm 前後の柱痕が検出された。PT180 で平安時代の土師器破片が出土している。

時 期：平安時代に位置づけられる。周辺の住居と同様、9 世紀代の所産であろう。



第6図 4号住居

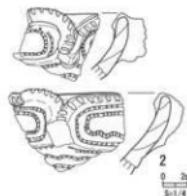
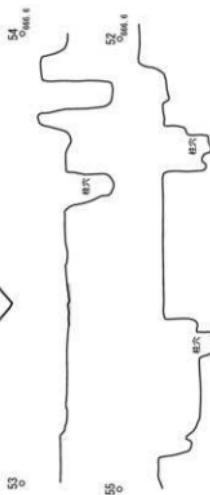
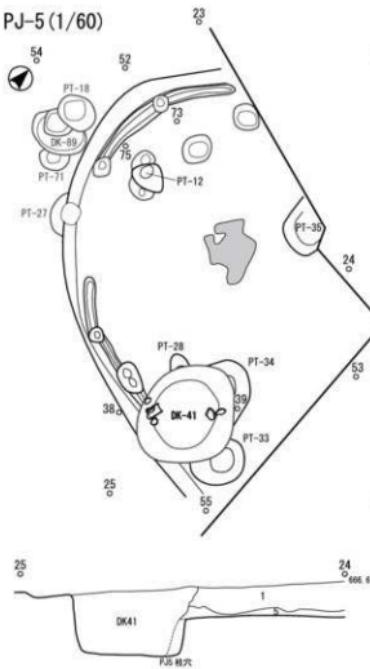


第7図 4号住居土坑・出土遺物



第8図 4号住居出土遺物 (149-A、149-B以外は1/3)

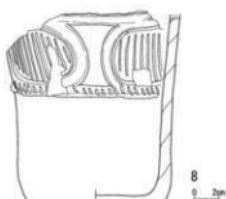
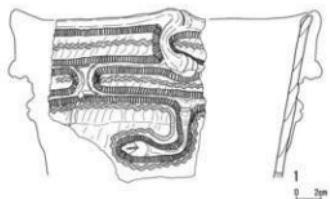
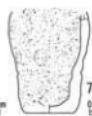
PJ-5 (1/60)



- 1層 10m6.1(奥)に花崗岩岩系の白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 2層 10m6.1(奥)に10m6.2(裏面)が10mになる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 3層 10m6.2(裏面)に10m6.4(前面)が10mになる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 4層 10m6.3(裏面)に10m6.5(奥)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 5層 10m6.5(奥)に10m6.6(前面)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 6層 10m6.7(奥)に10m6.8(前面)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。

床 10m6.8(前面)に10m6.9(奥)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。

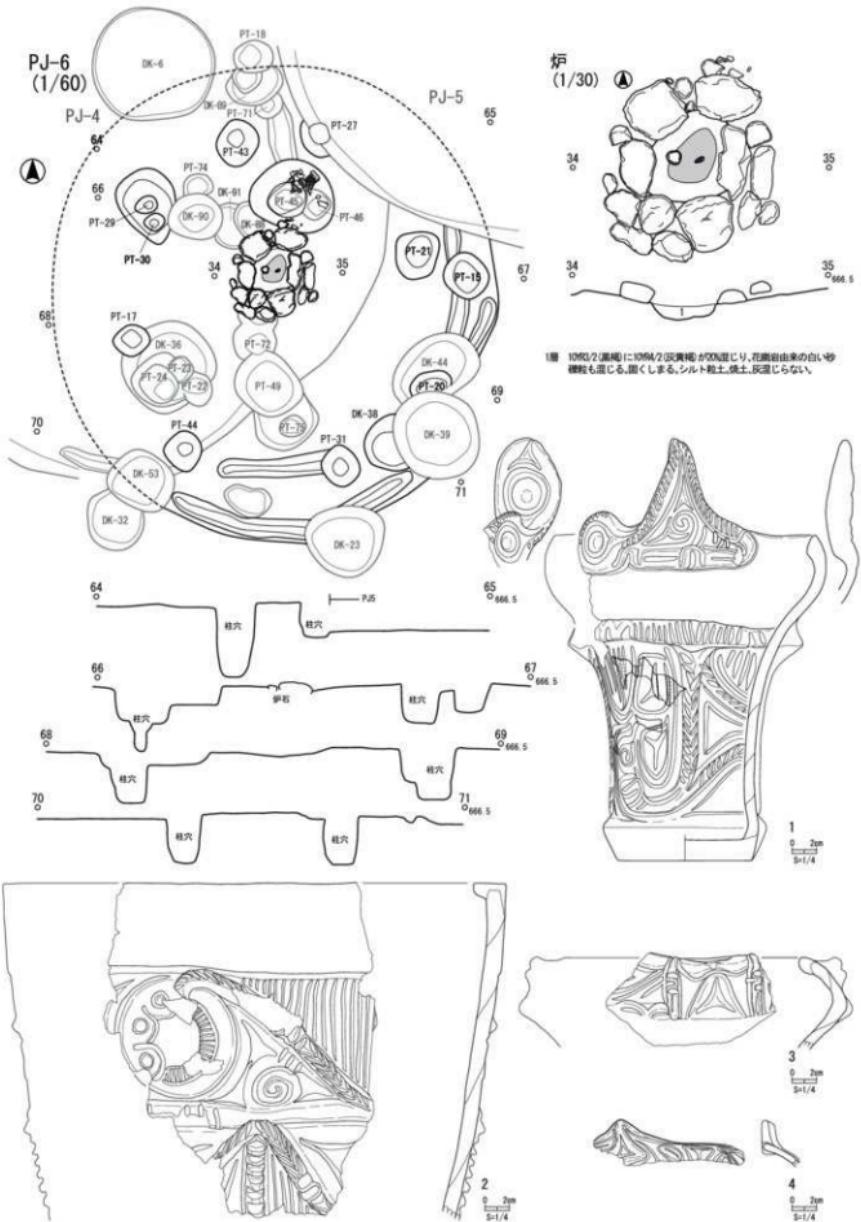
- 7層 10m6.9(奥)に10m7.1(奥)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。
- 8層 10m7.1(奥)に10m7.2(奥)が10m延びる。白い砂礫岩(2m大～1m)が10m延びる。固くしまる。シルト粒土・粘性やわらぎ。



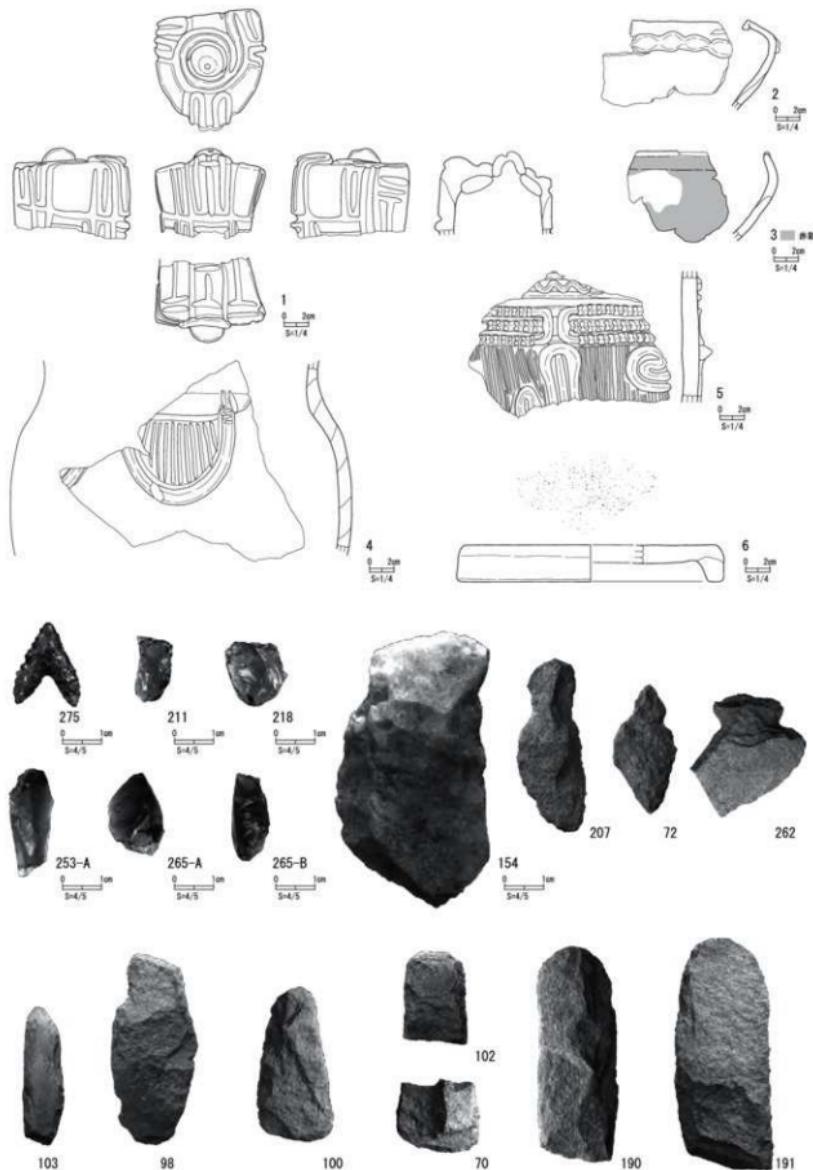
第9図 5号住居 出土遺物



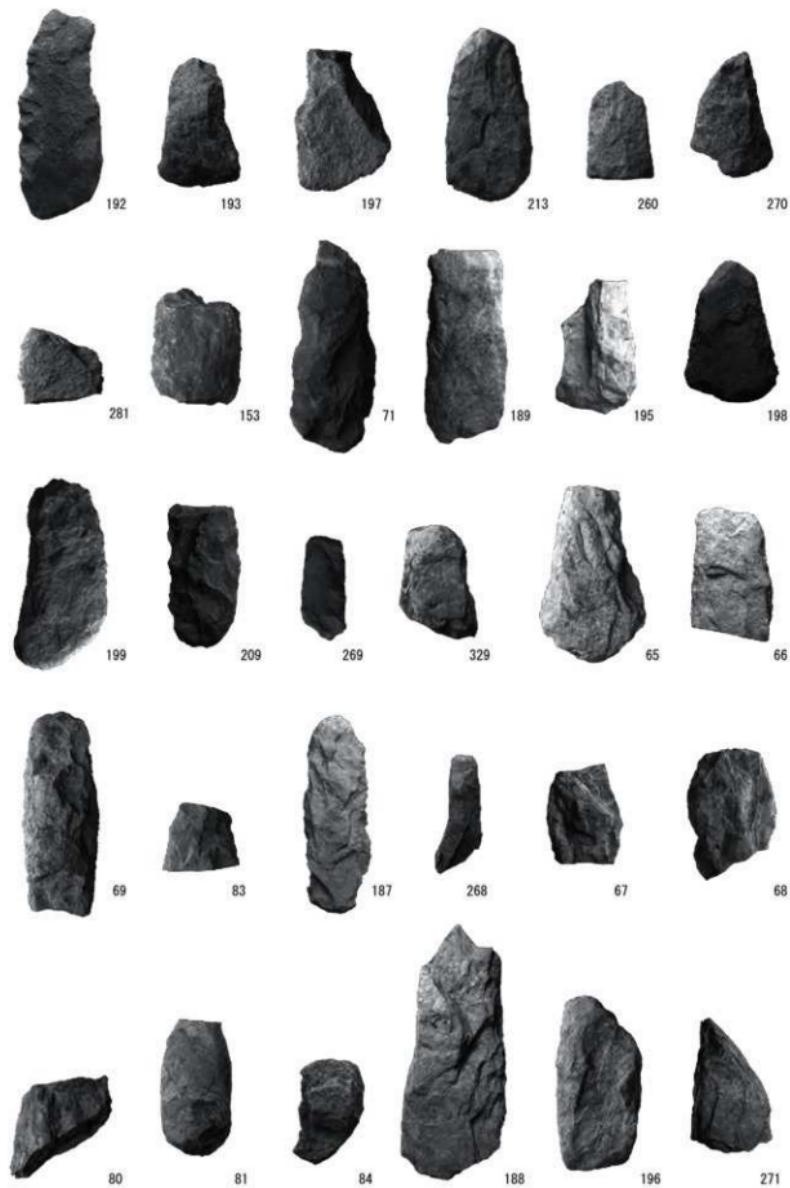
第10図 5号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



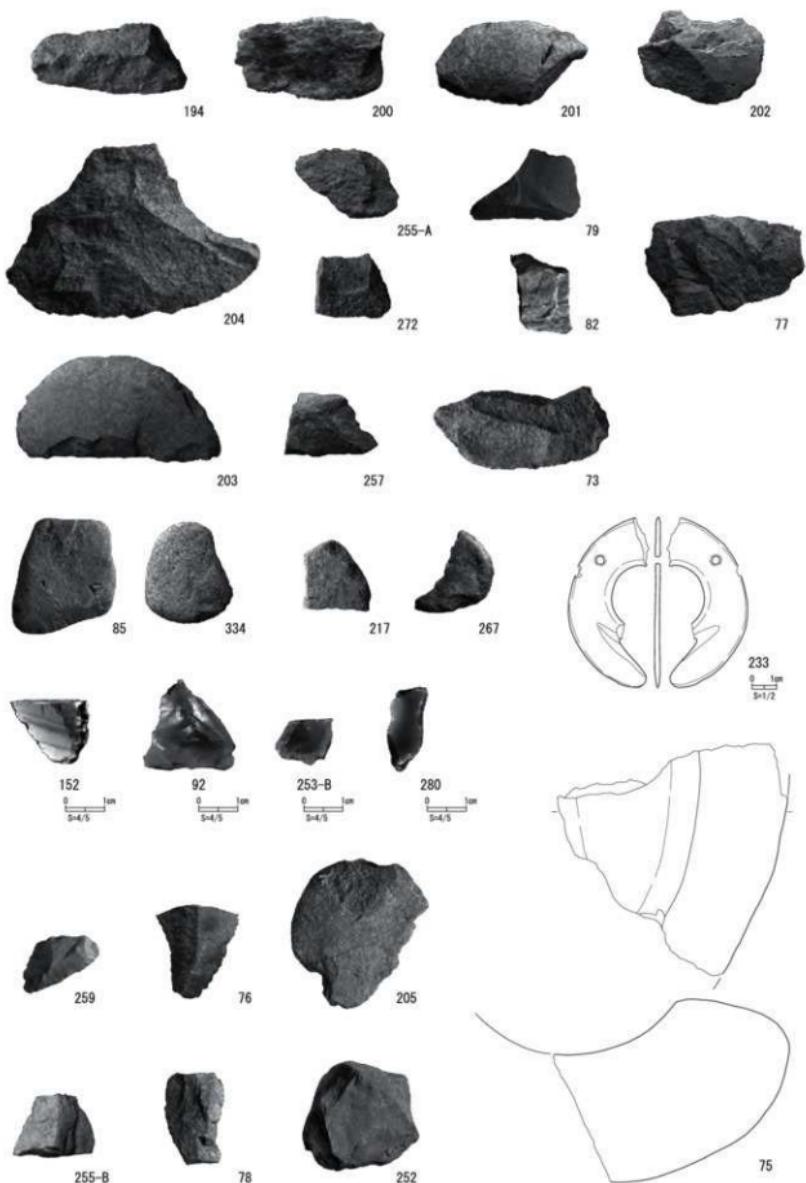
第11図 6号住居・出土遺物



第12図 6号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

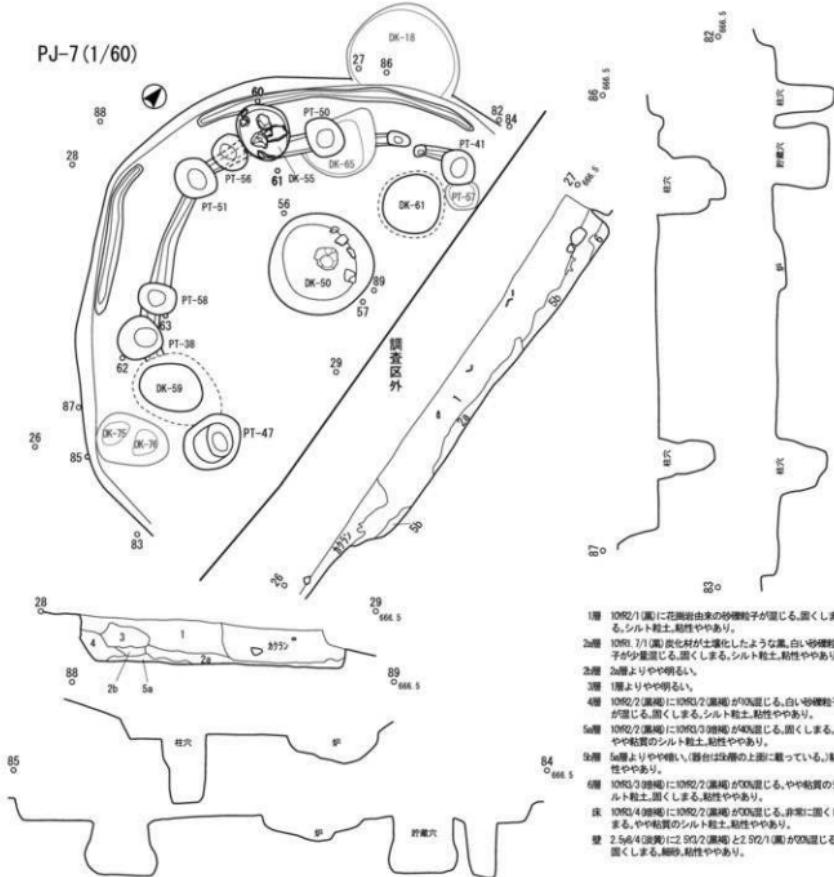


第13図 6号住居出土遺物 (1/3)

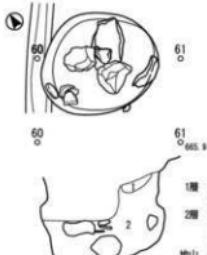


第14図 6号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

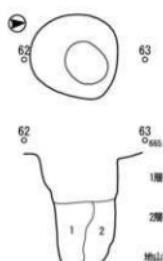
PJ-7 (1/60)



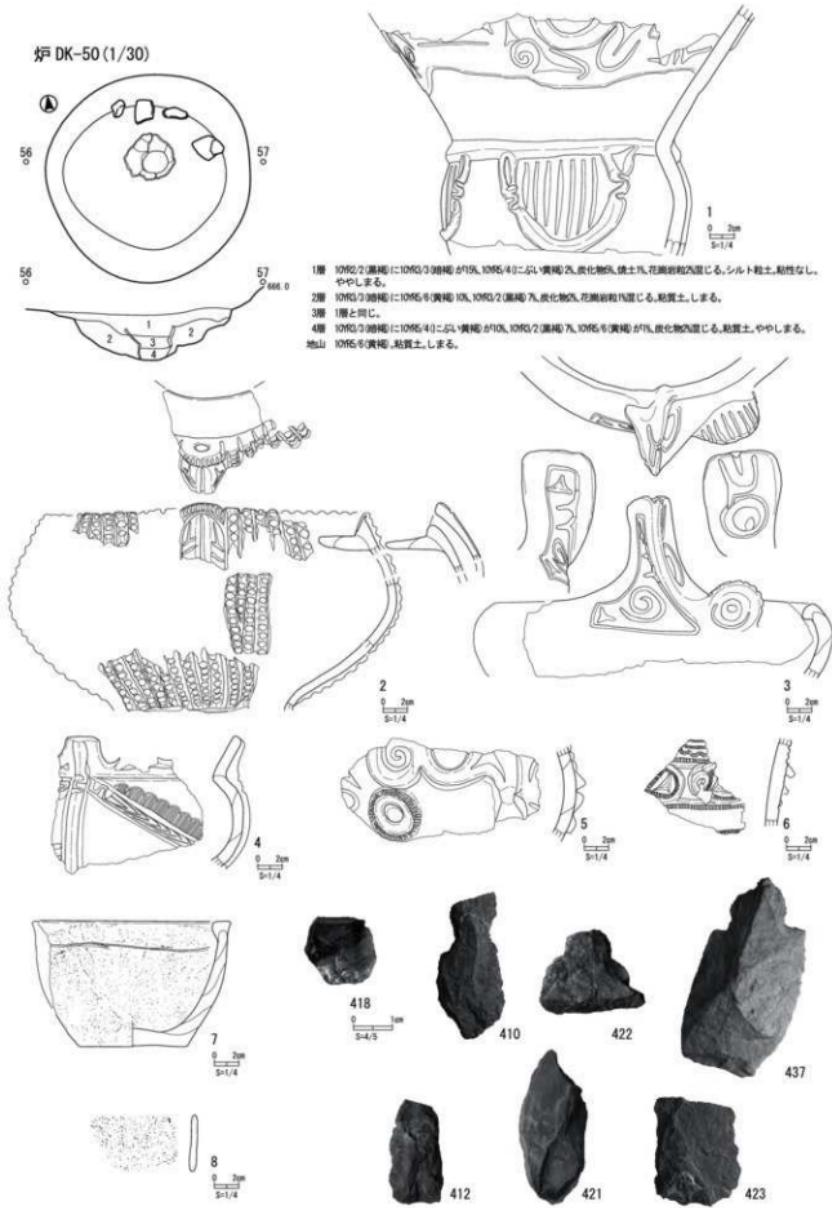
DK-55 (1/30)



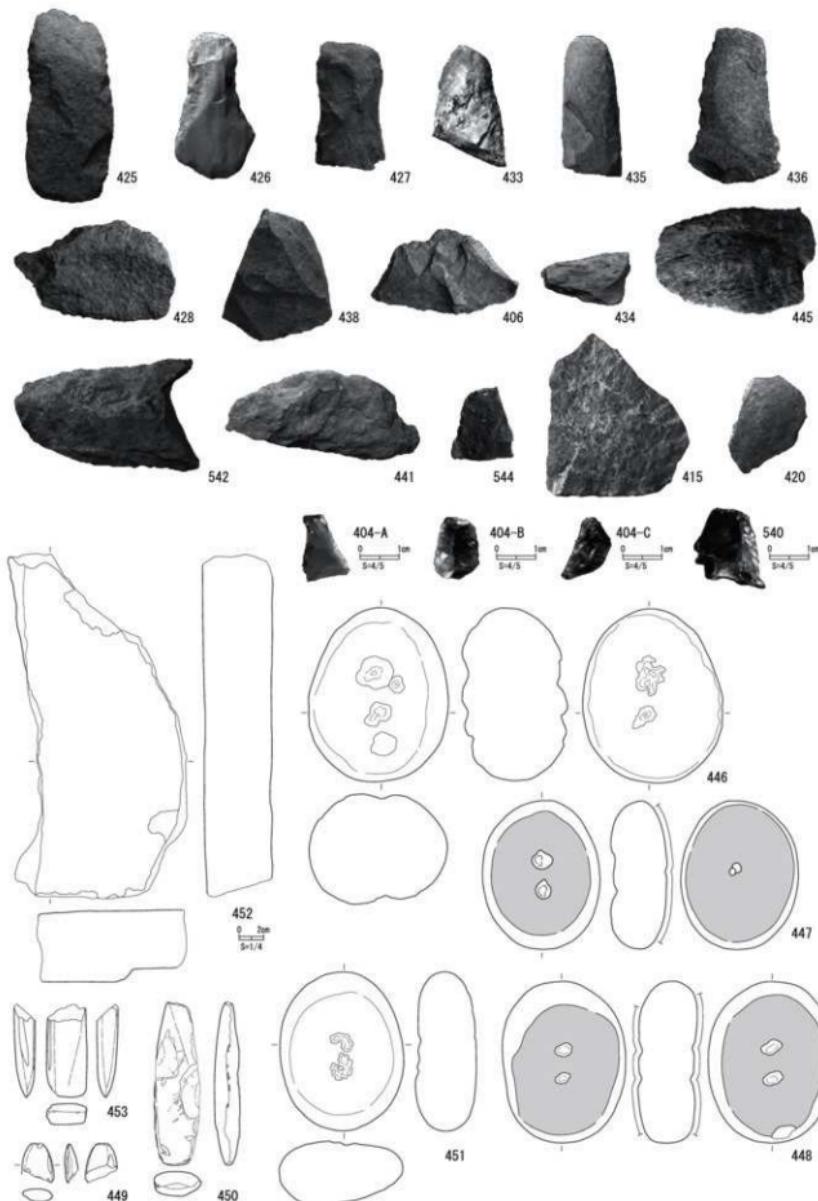
PT-38(1/30)



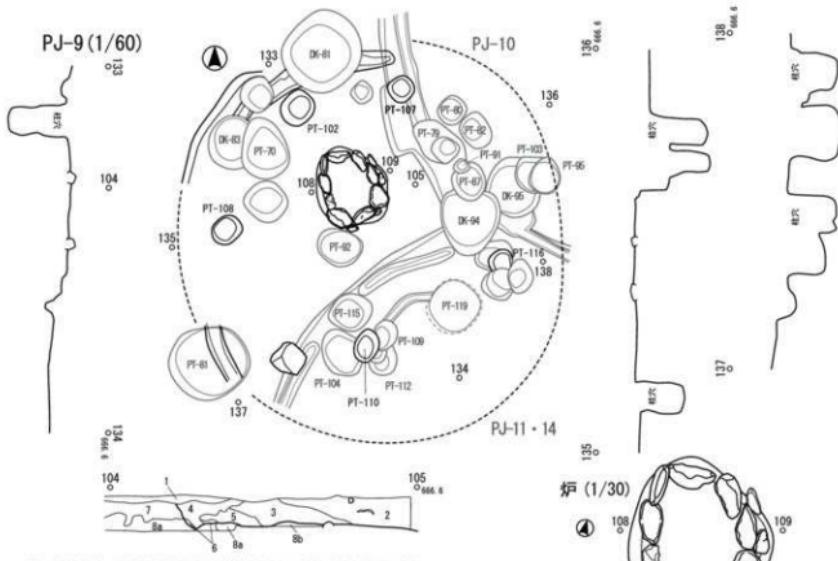
第15図 7号住居



第16図 7号住居炉・出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



第 17 図 7 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



1層 10m2/2(黒褐色)に10m3/3(暗褐色)があり、花崗岩粒が介在する。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。

2層 10#2/2(黒褐色)に10#3/4(暗褐色)が互い、炭化物 \pm 、花崗岩粒(5mm~15mm)が混在する。シルト粘土、粘性なし、しまる。

3種 10M2/2(風化地)に10M2/2(風化地)から10%、10M4/4(粘土)が3%、炭化物2%、花崗岩様(5mm~20mm)が5%混じる。シルト粘土、粘性なし。

（二）被取扱いの範囲：被取扱いの範囲は、本規約の第1章第1項に規定するところによる。

4番 1050/2(裏地)に1050/4(地)があり、炭化物K₂O、花崗岩的凸起じる。シルト粒土、粘性ややあり。しまる

59 1093/3(黒褐色)に1095/4(にじい黄褐色)が1%,1095/5(黄褐色)が1%,炭化物を認める。シルト粘土、粘性ややあり。しま

6回(床面)10F3/2(裏地)に10F5/4(にらい黄緑)が10F6/0F6/8(黄褐)が1花施粒輕乳混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しま

7層(地山)10m/2(高橋に10m/3階橋)が10%、10m/5(引い渡橋)が10%、花崗岩粒が10%、(底10mの砂含む)湿じる、シルト粒粘性ややあり、上達み。

結果(表山1065/4)に示すと、播種量は1065/2(黒穀)の約1.1倍であるが、花穂密度が少く、播種量の確倍率は現にする粘質土-1.3

(地山山麓の上層部にある10mの褐鐵)が多く入っているため地質よりいへシルト質土-粘性土や砂利土である。

医師は医療と同じ。

登 7階、8階、9階と同じ。

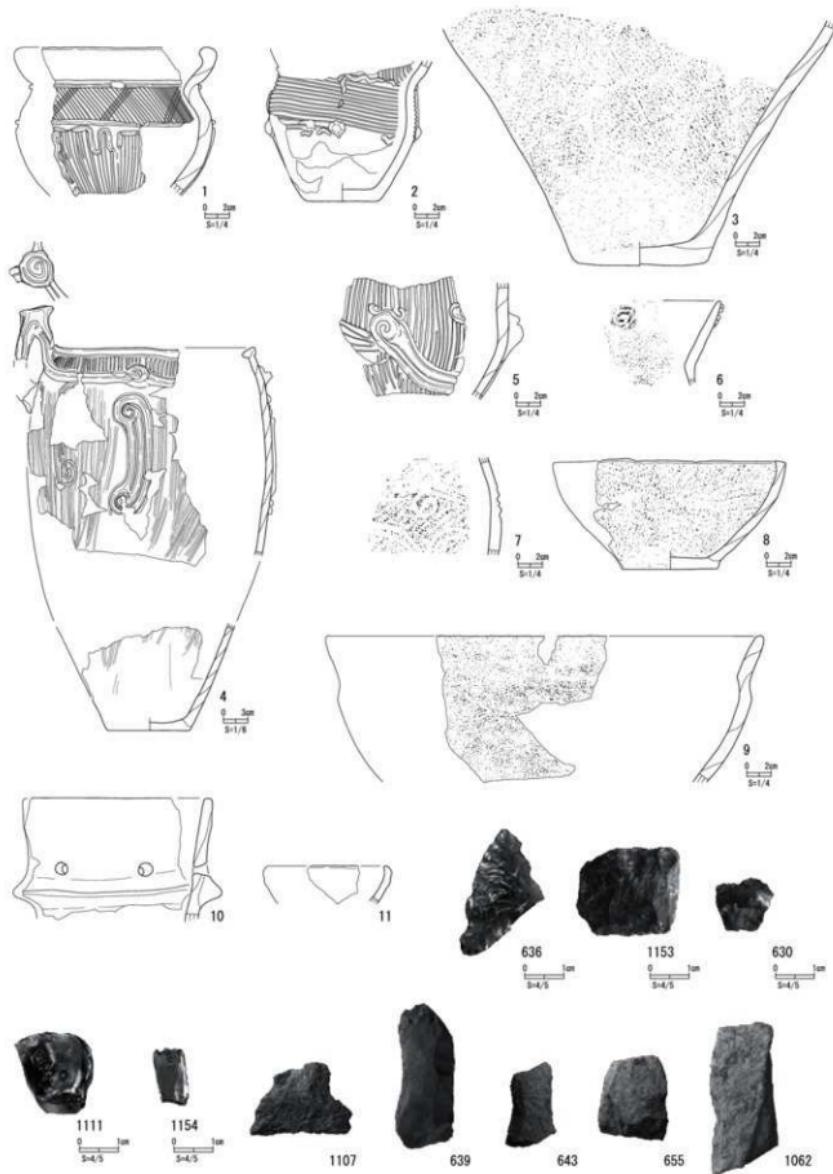
卷之三

100

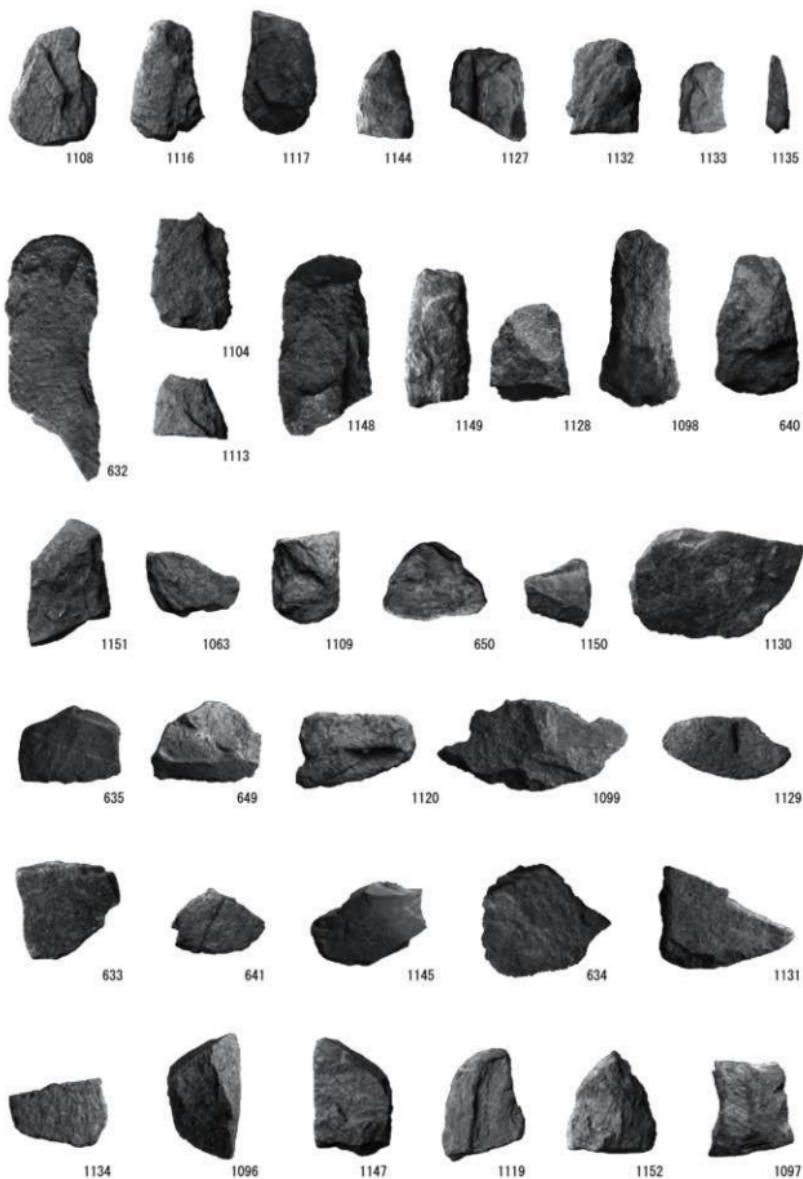
140



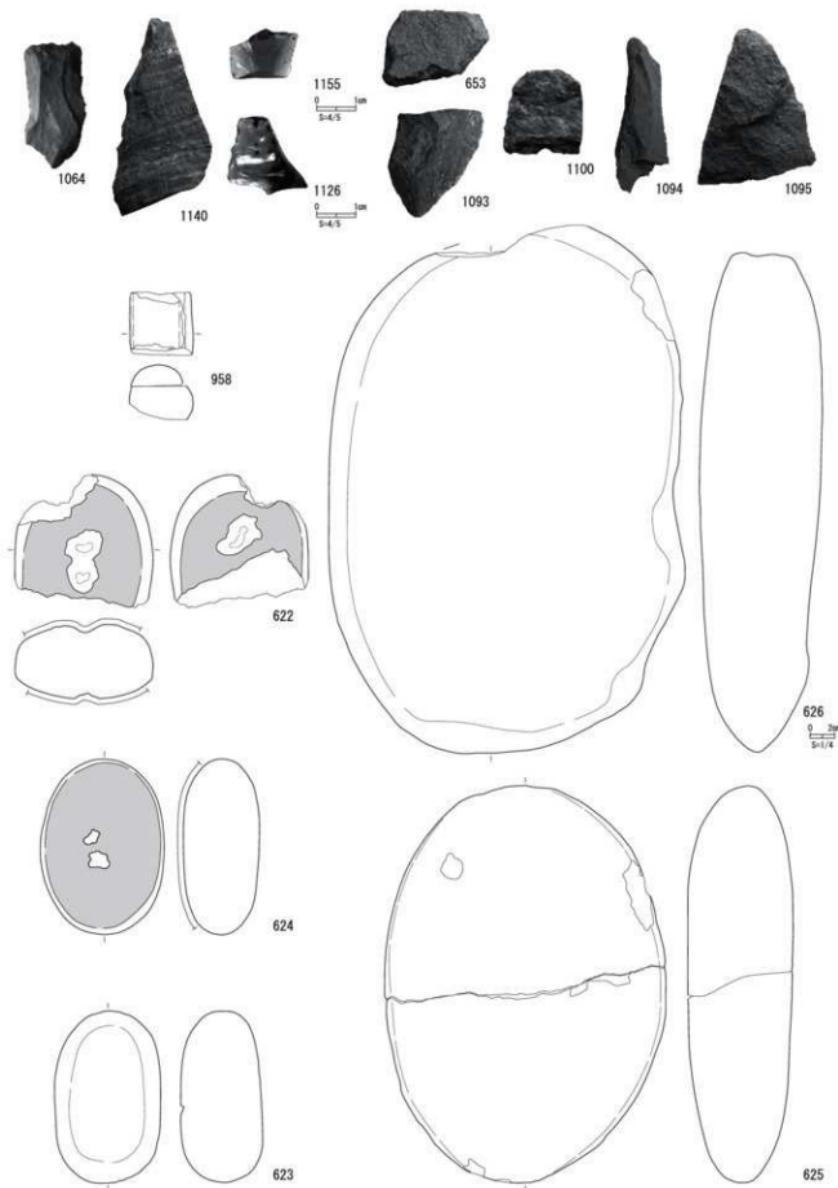
第18図 9号住居・出土遺物



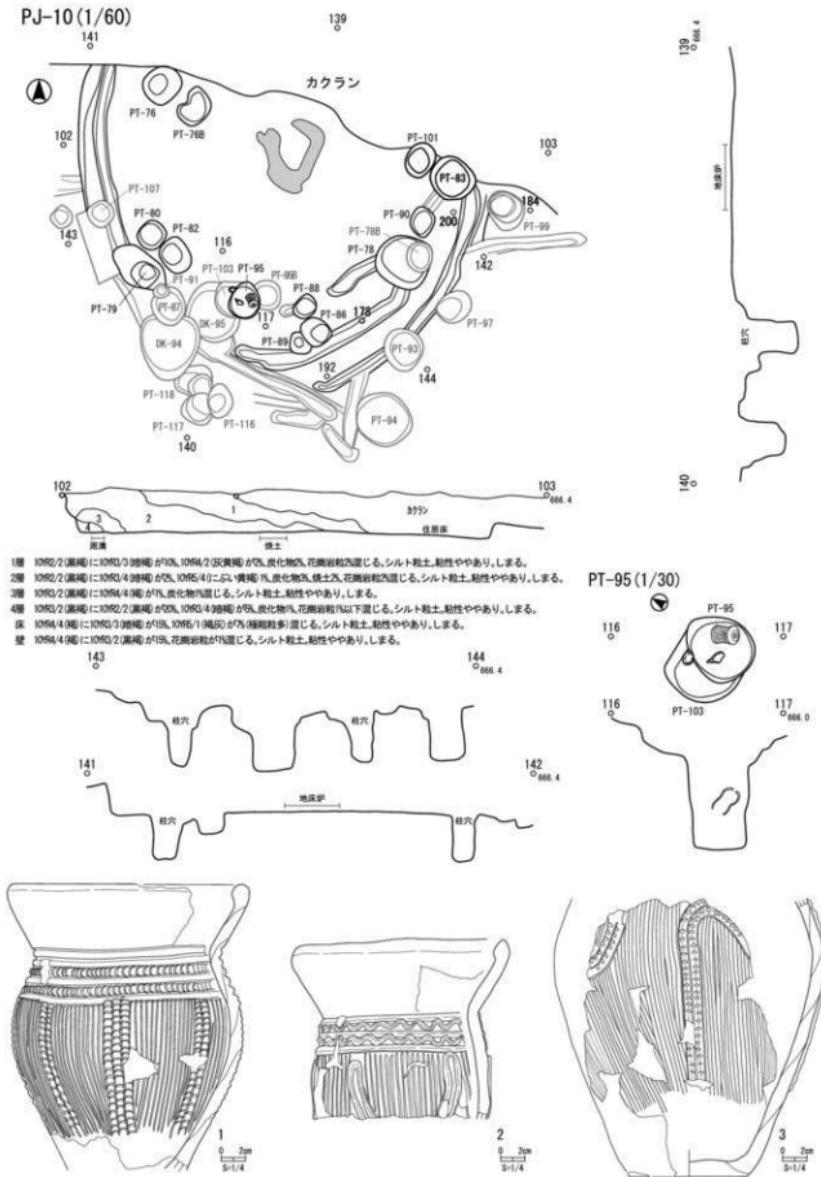
第19図 9号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



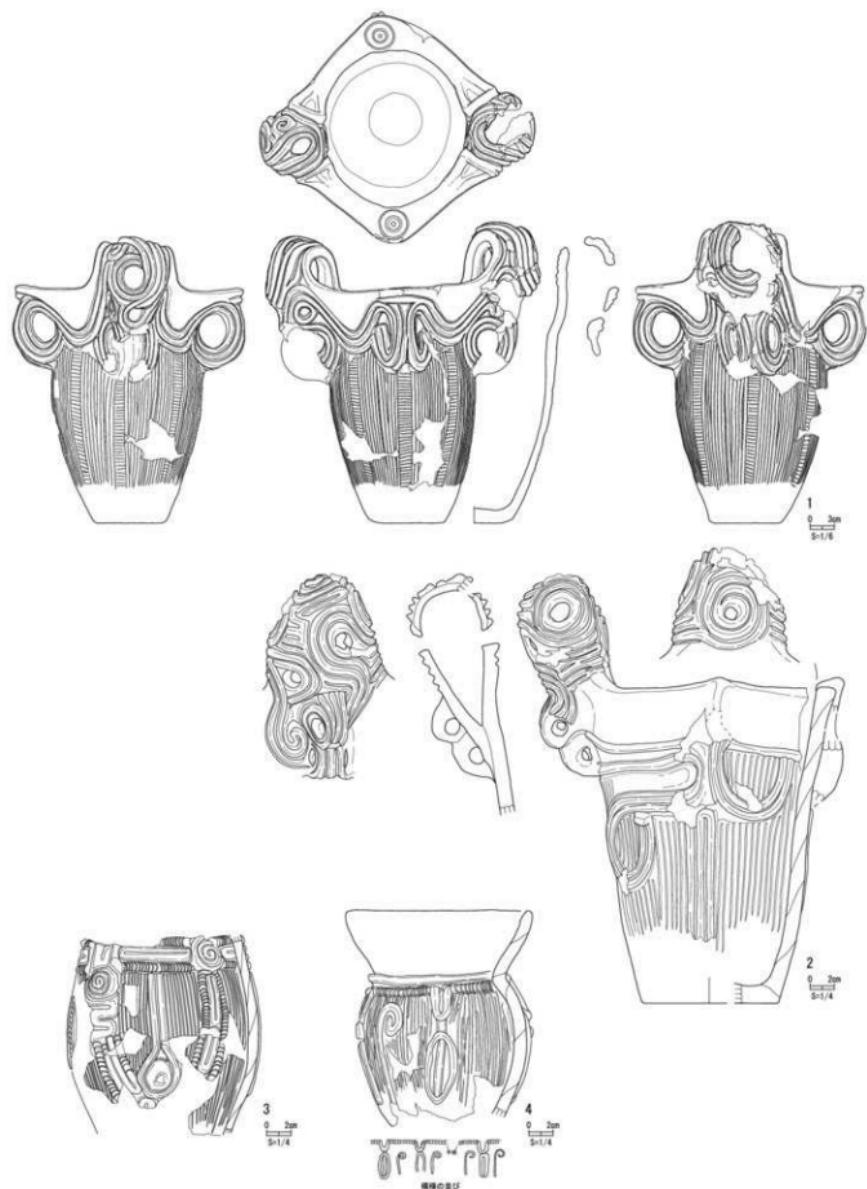
第 20 図 9 号住居出土遺物 (1/3)



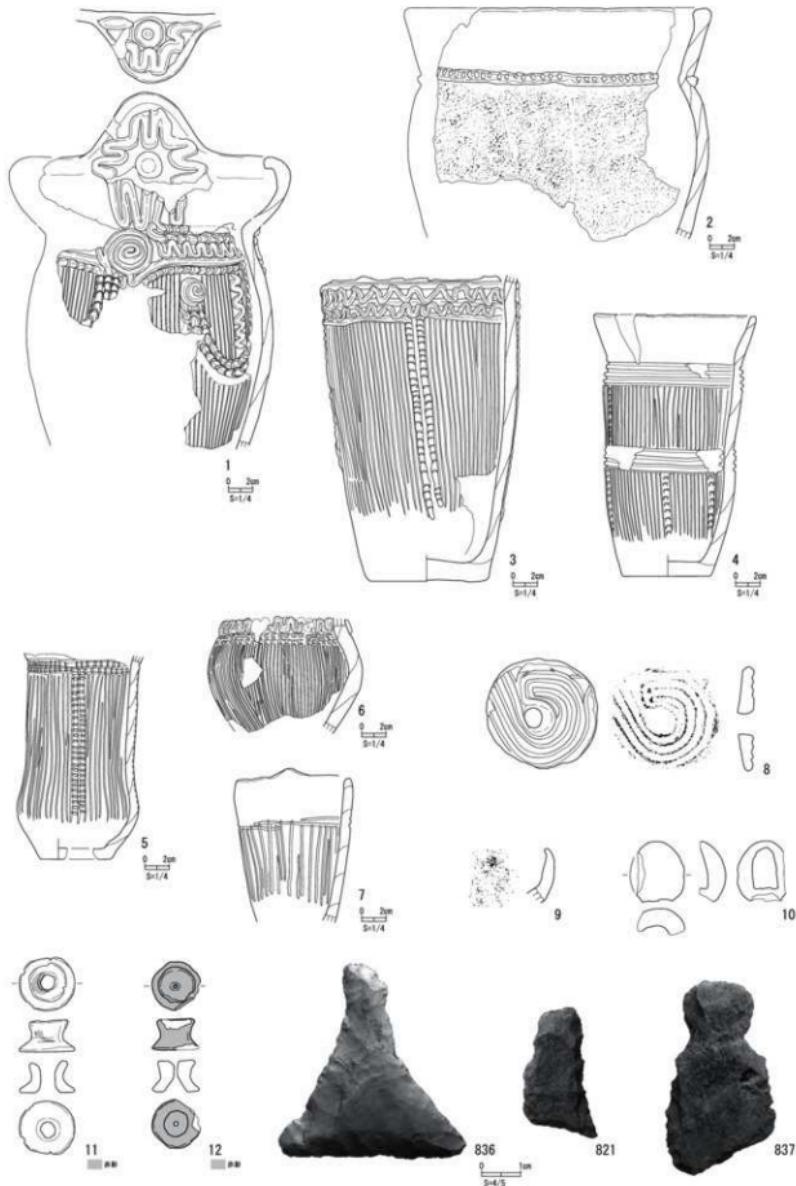
第 21 図 9 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



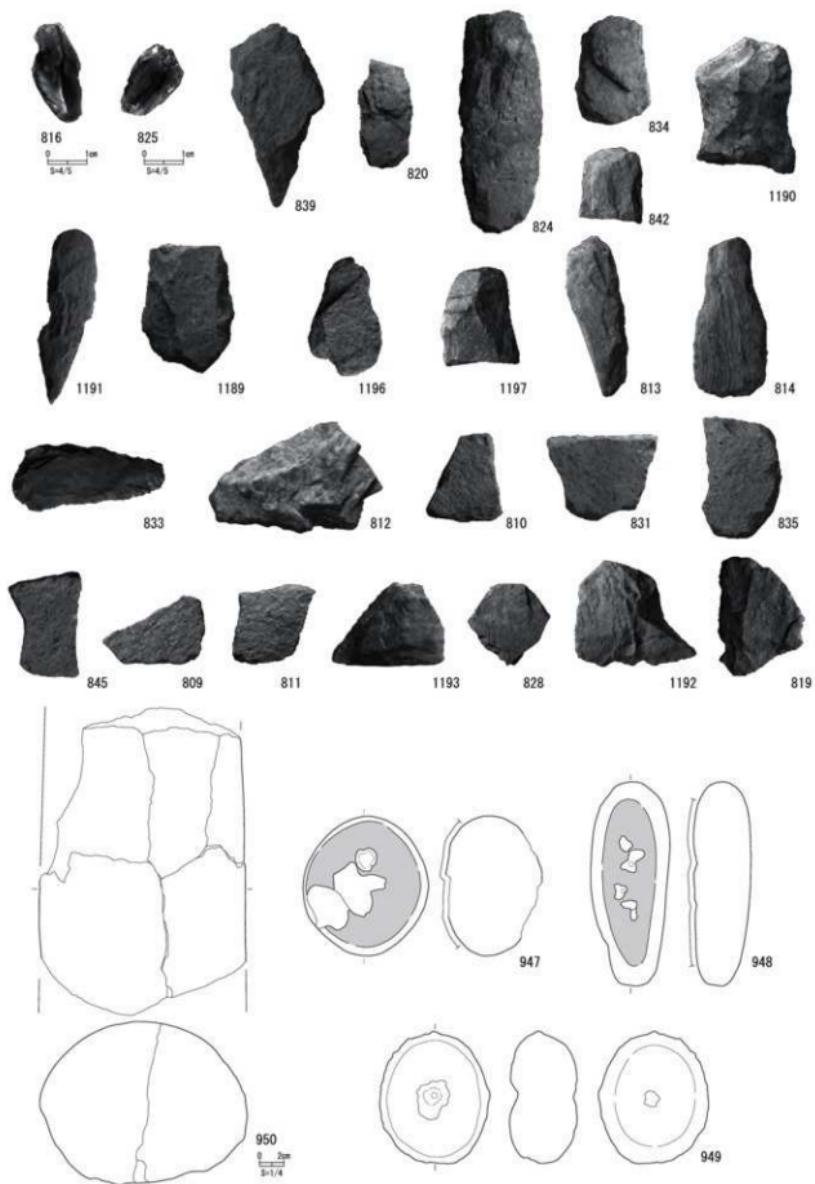
第22図 10号住居・出土遺物



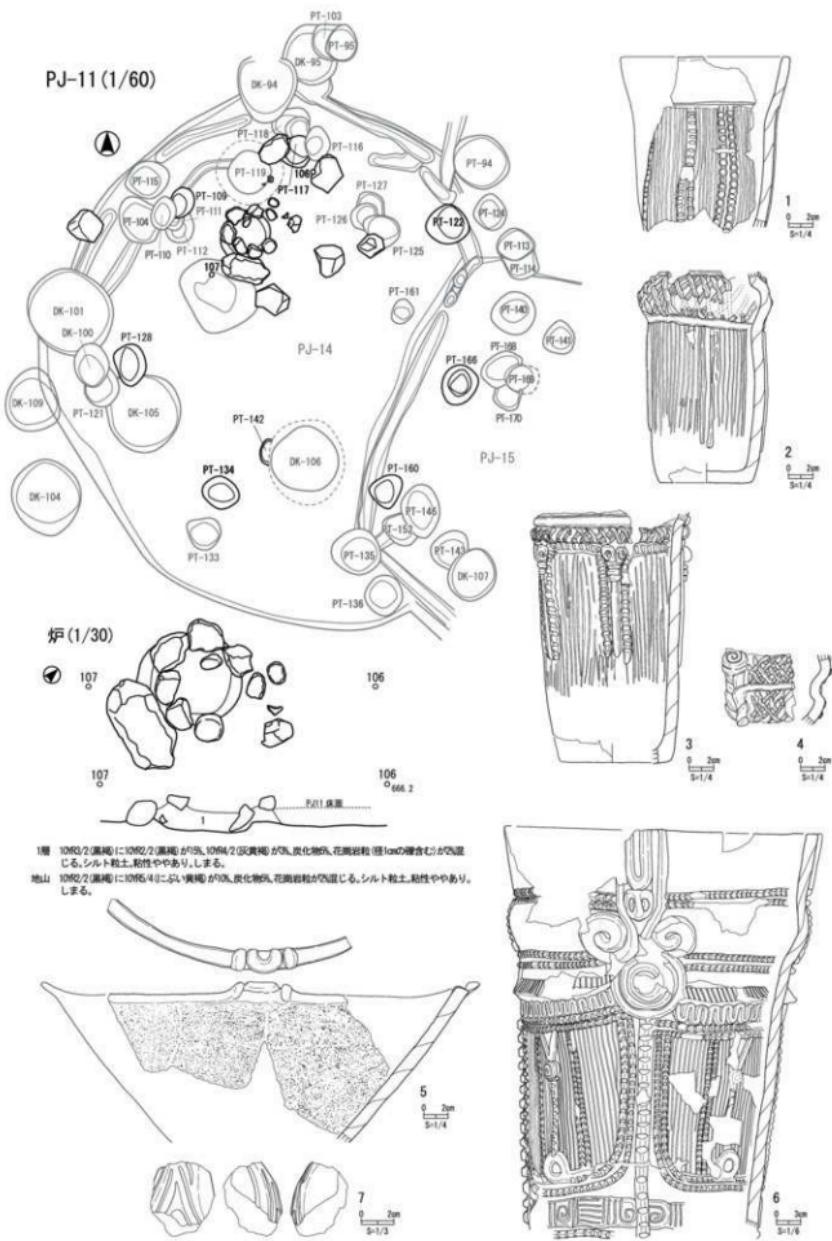
第23図 10号住居出土遺物



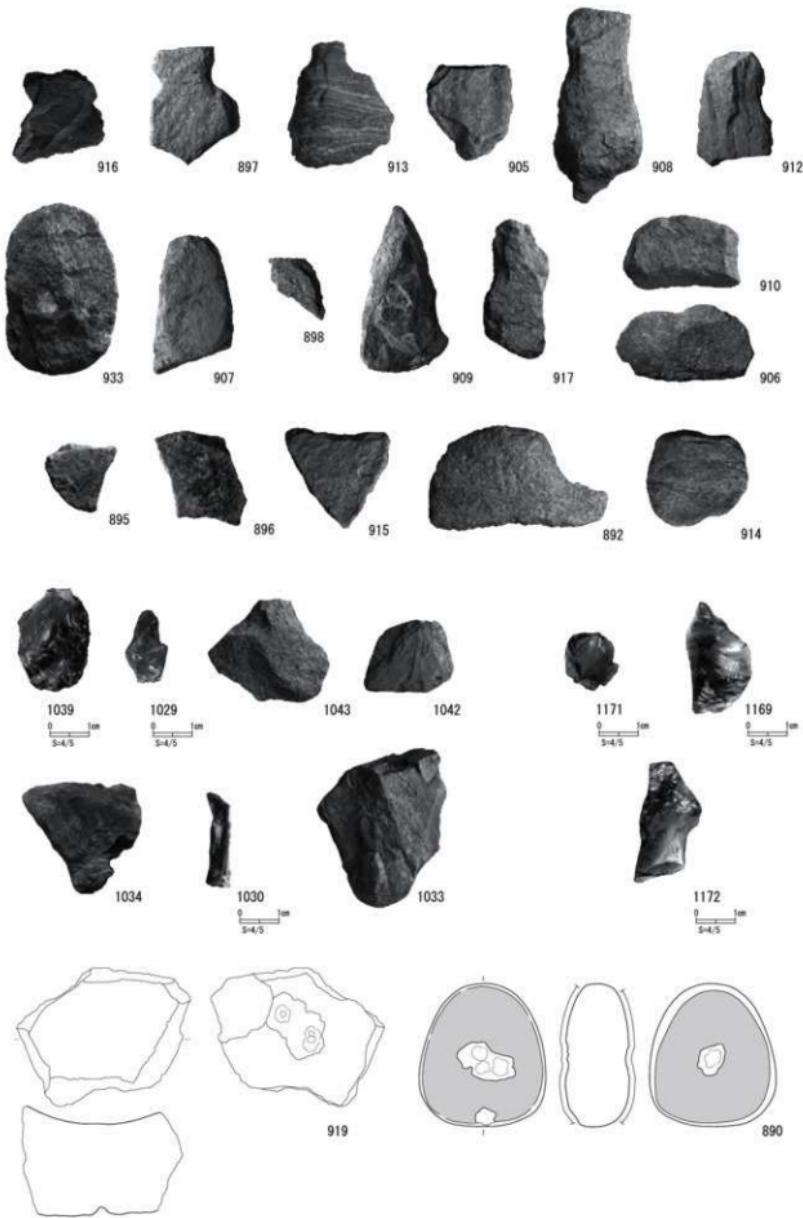
第24図 10号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



第25図 10号住居出土遺物 (816、825、950以外は1/3)

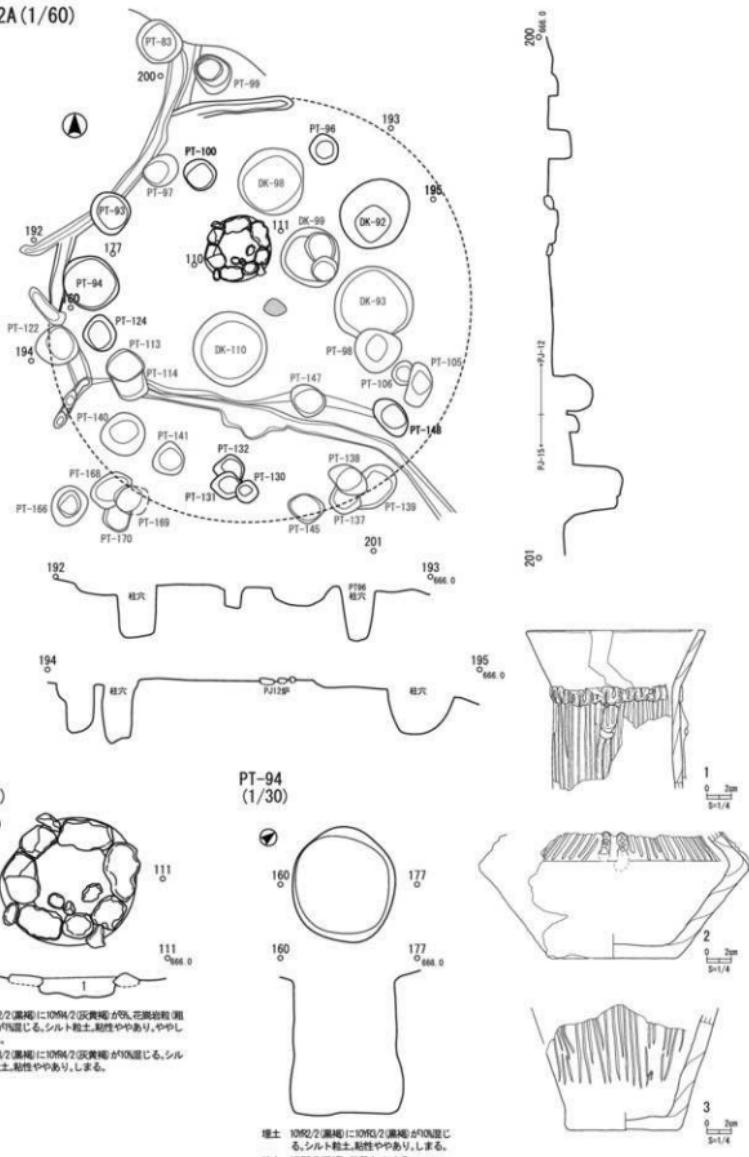


第26図 11号住居・出土遺物

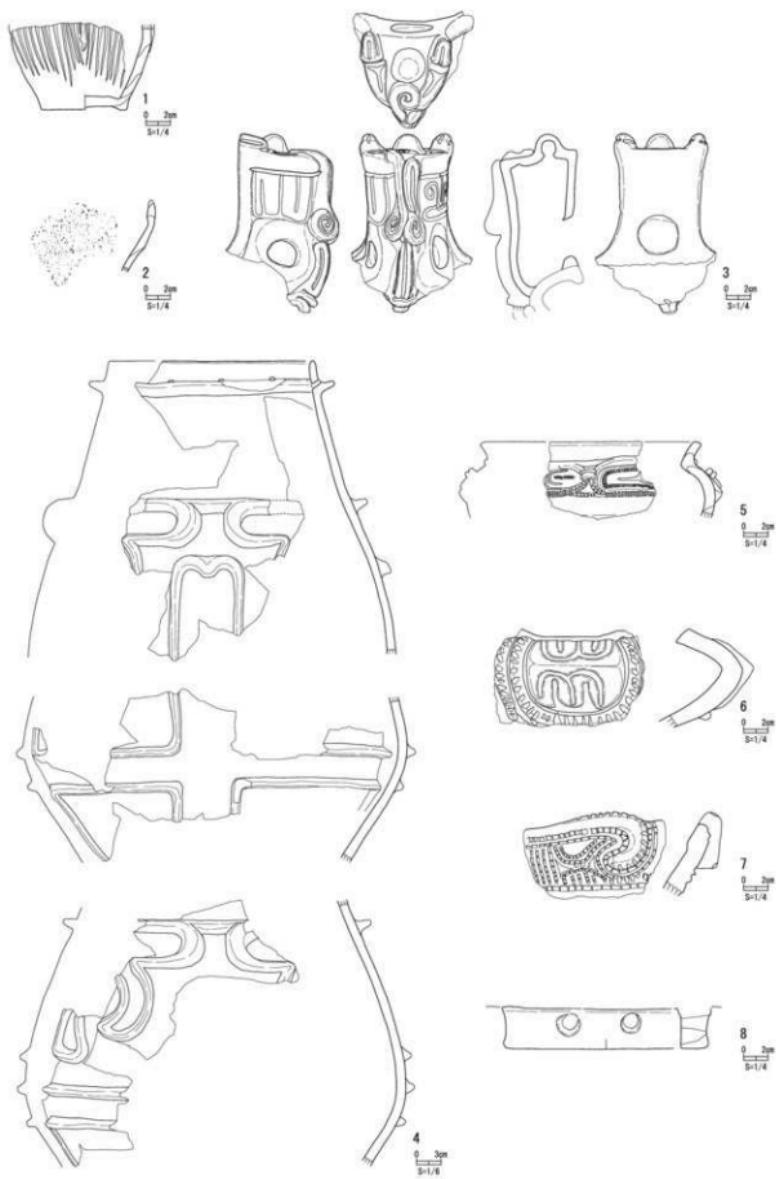


第27図 11号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

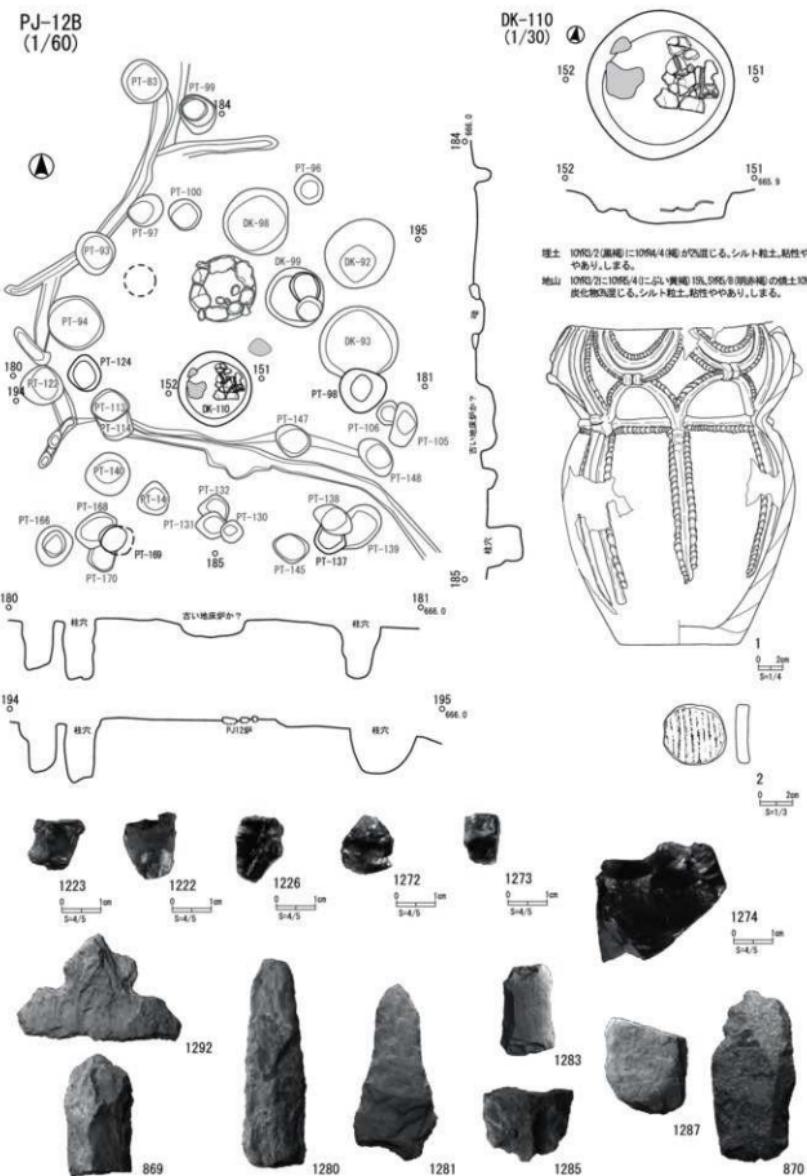
PJ-12A (1/60)



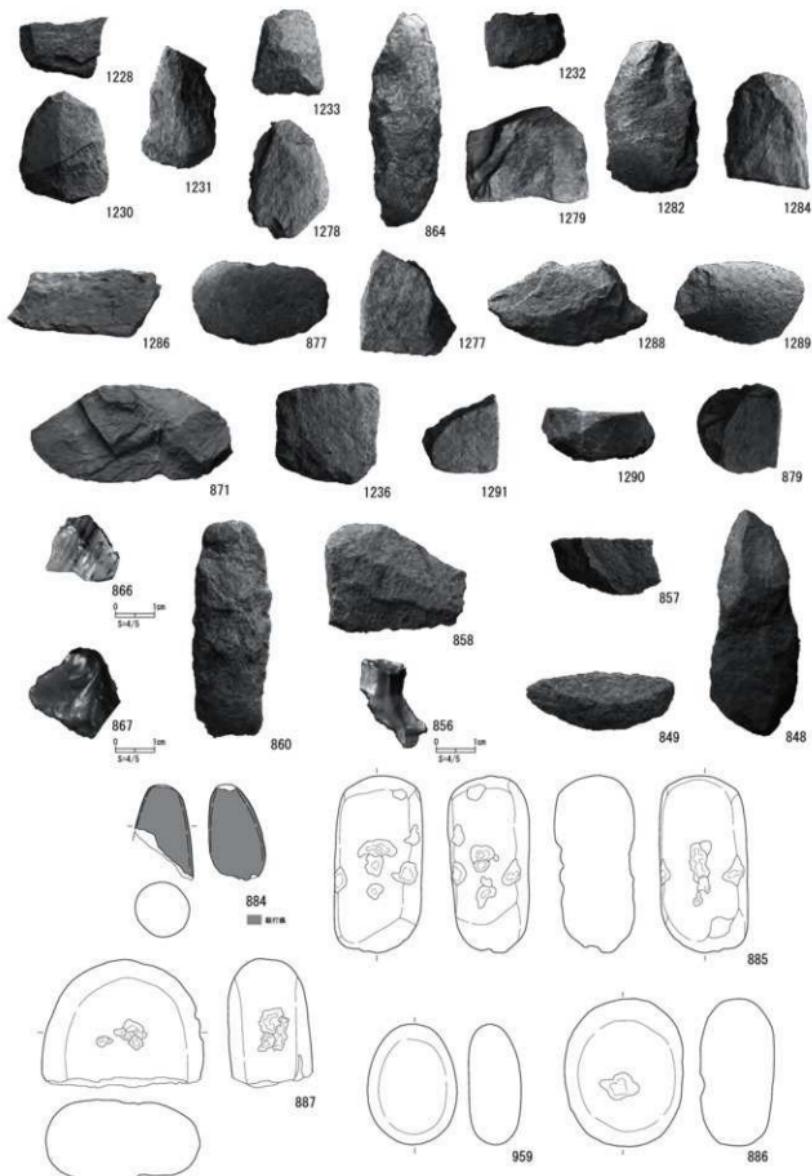
第28図 12A号住居・出土遺物



第29図 12A号住居出土遺物

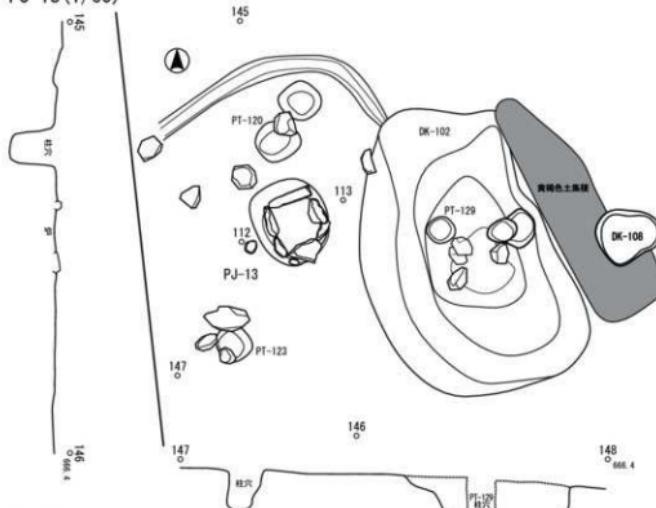


第30図 12B号住居・出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

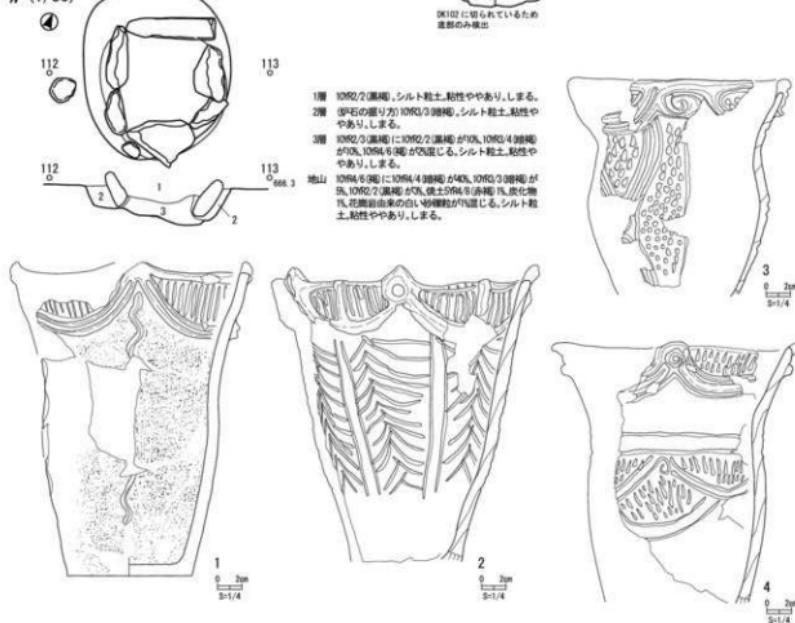


第31図 12B号住居出土遺物 (866、867、856以外は1/3)

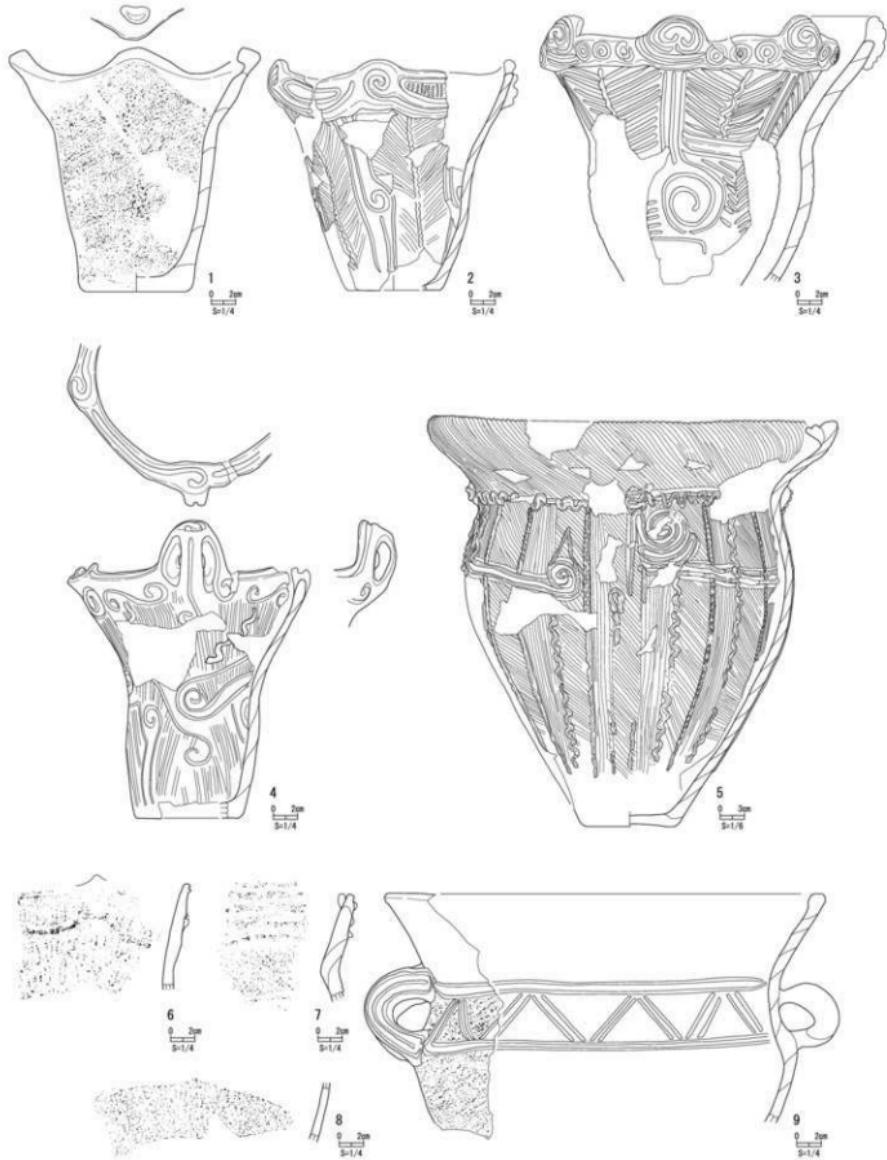
PJ-13 (1/60)



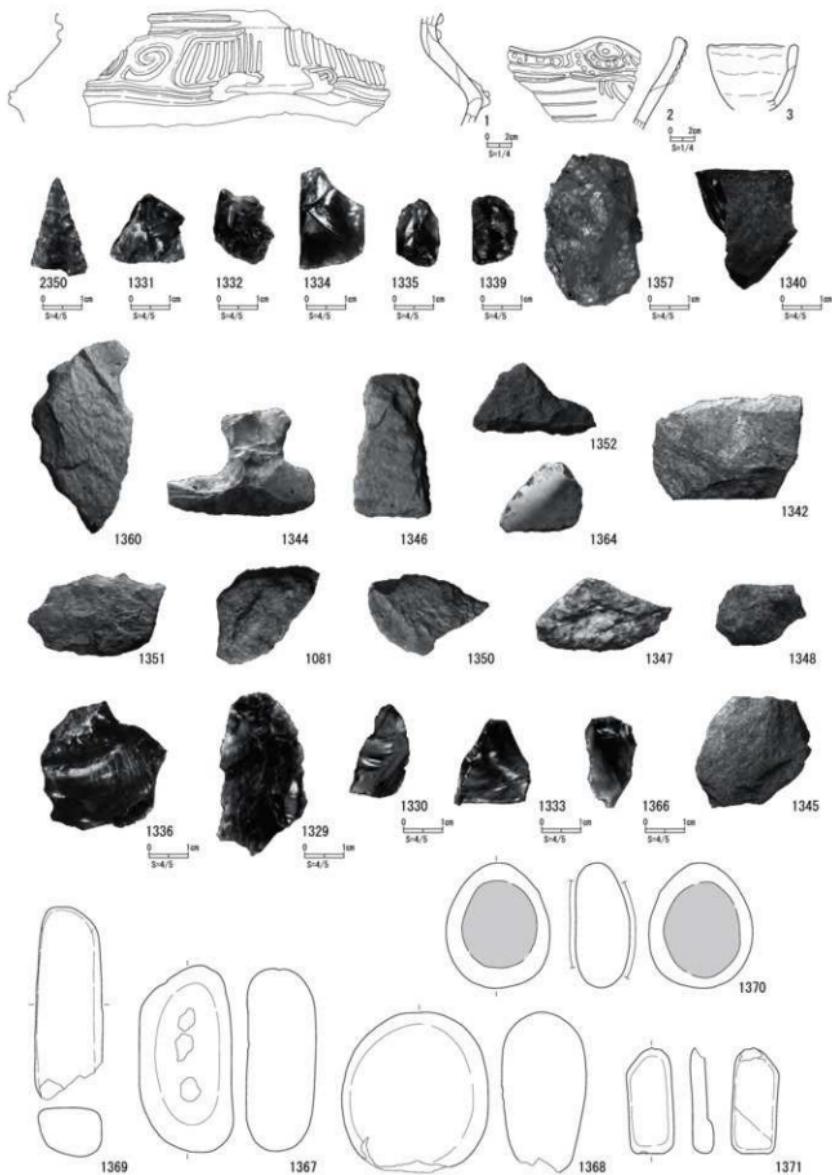
炉(1/30)



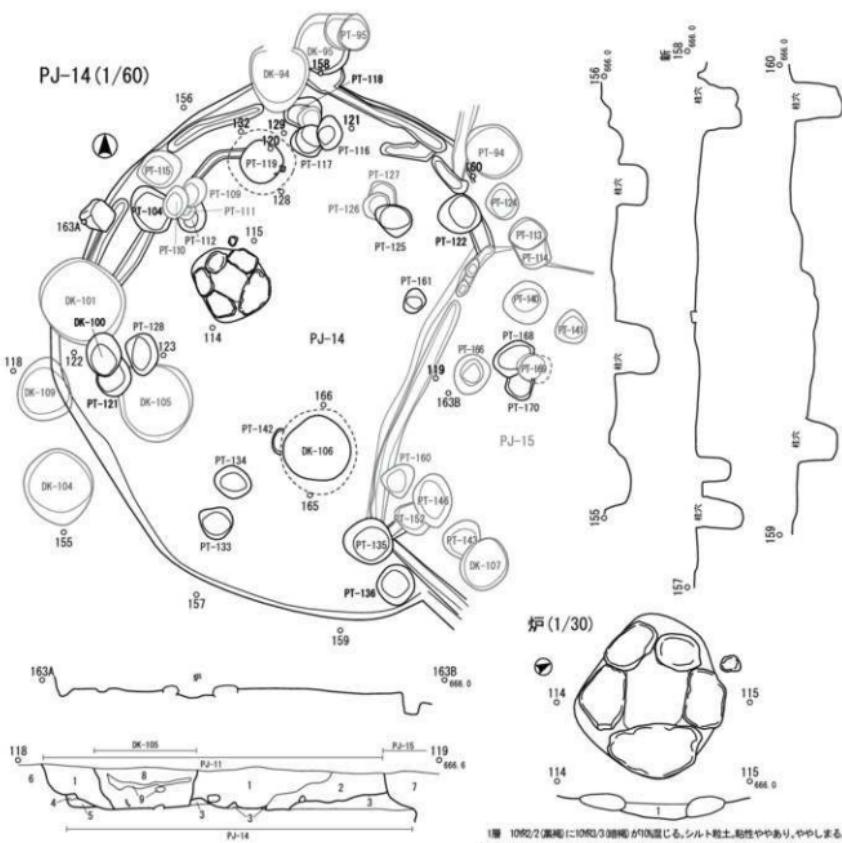
第32図 13号住居・出土遺物



第33図 13号住居出土遺物



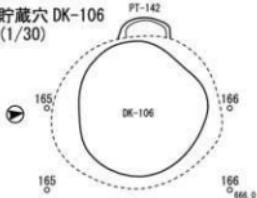
第34図 13号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



1番 10% / 2(黒帯)に10% / 3(緑帯)が混じる。シルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
地山 10% / 3(緑帯)に10% / 2(黒帯)が15%、炭化物石、焼土5% / 8(赤褐色)が混じる。シルト
粘土、粘性ややあり、しまる。

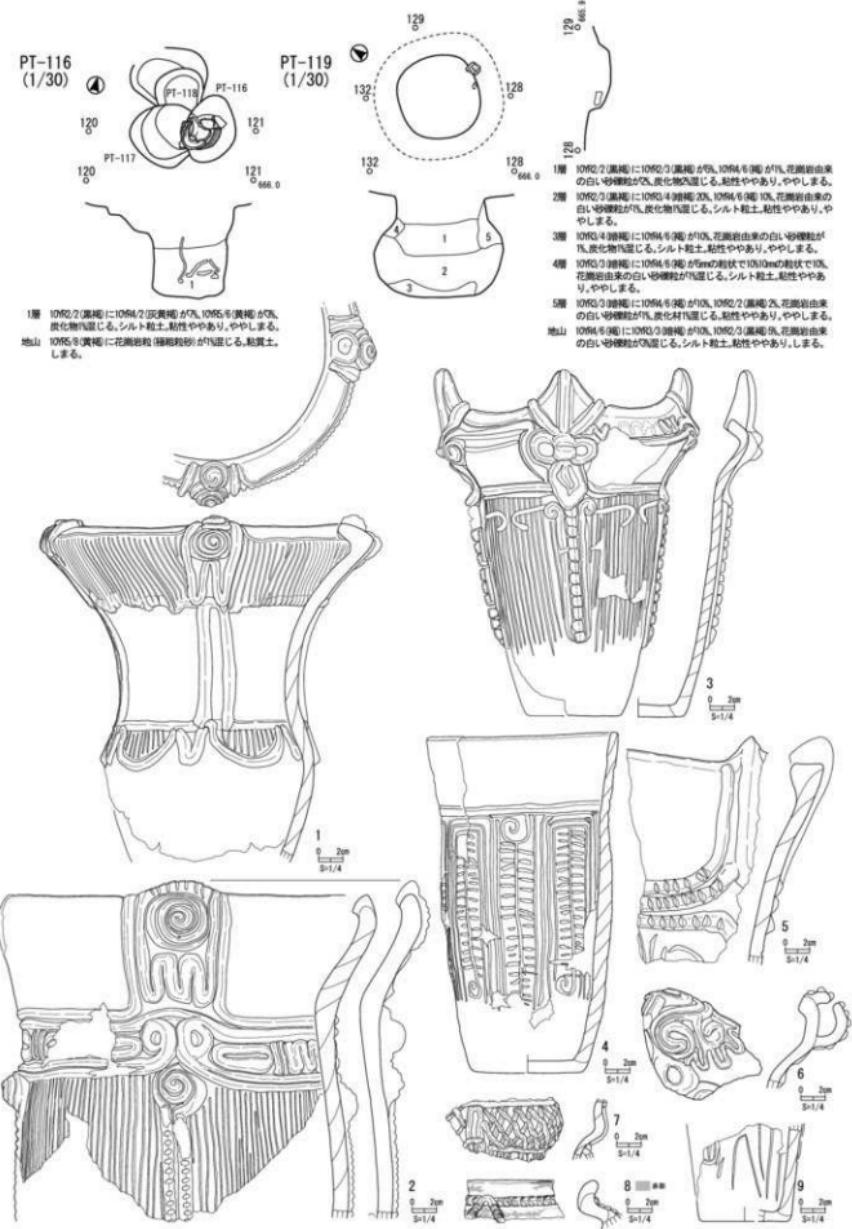
整 69

貯藏穴 DK-106

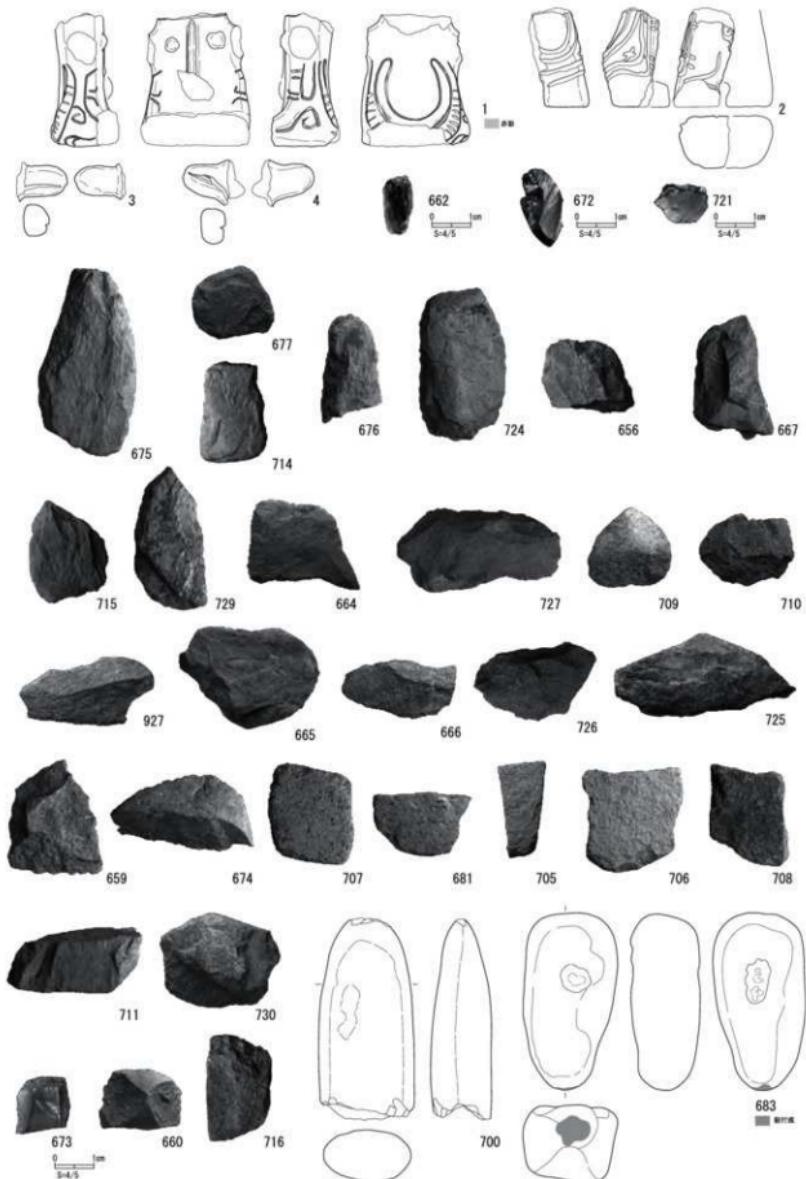


埋土 10M²/1(裏)に10M⁶/6(裏)1%混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
地山 10M⁶/6(裏)、粘質土。しまる。

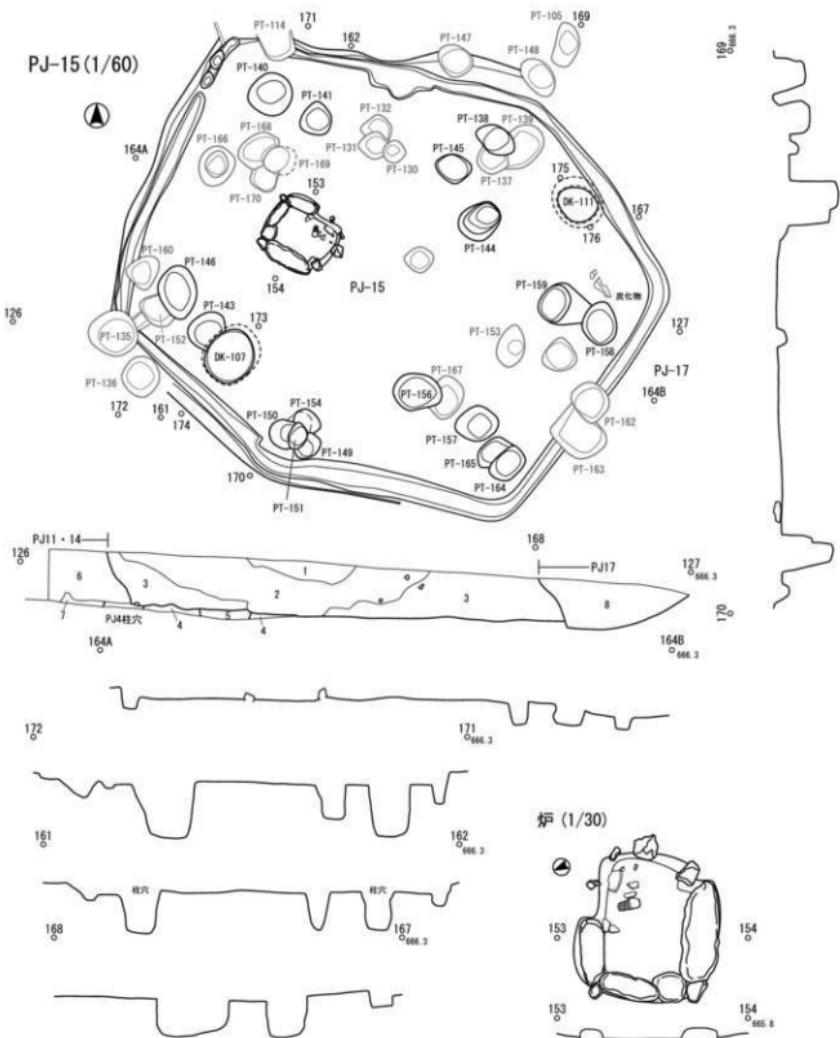
第35図 14号住居



第36図 14号住居ピット・出土遺物

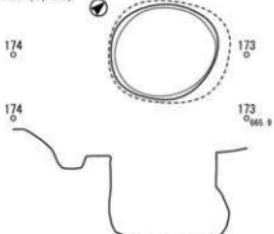


第37図 14号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

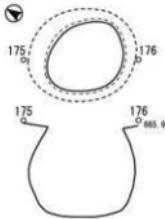


第38図 15号住居

DK-107 (1/30)

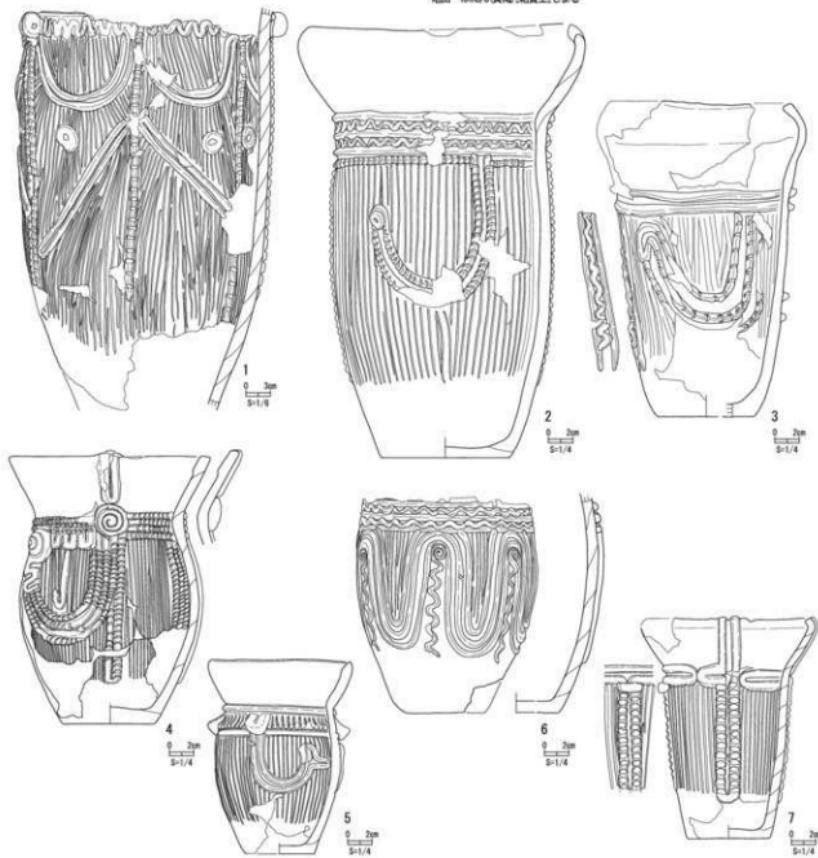


DK-111 (1/30)

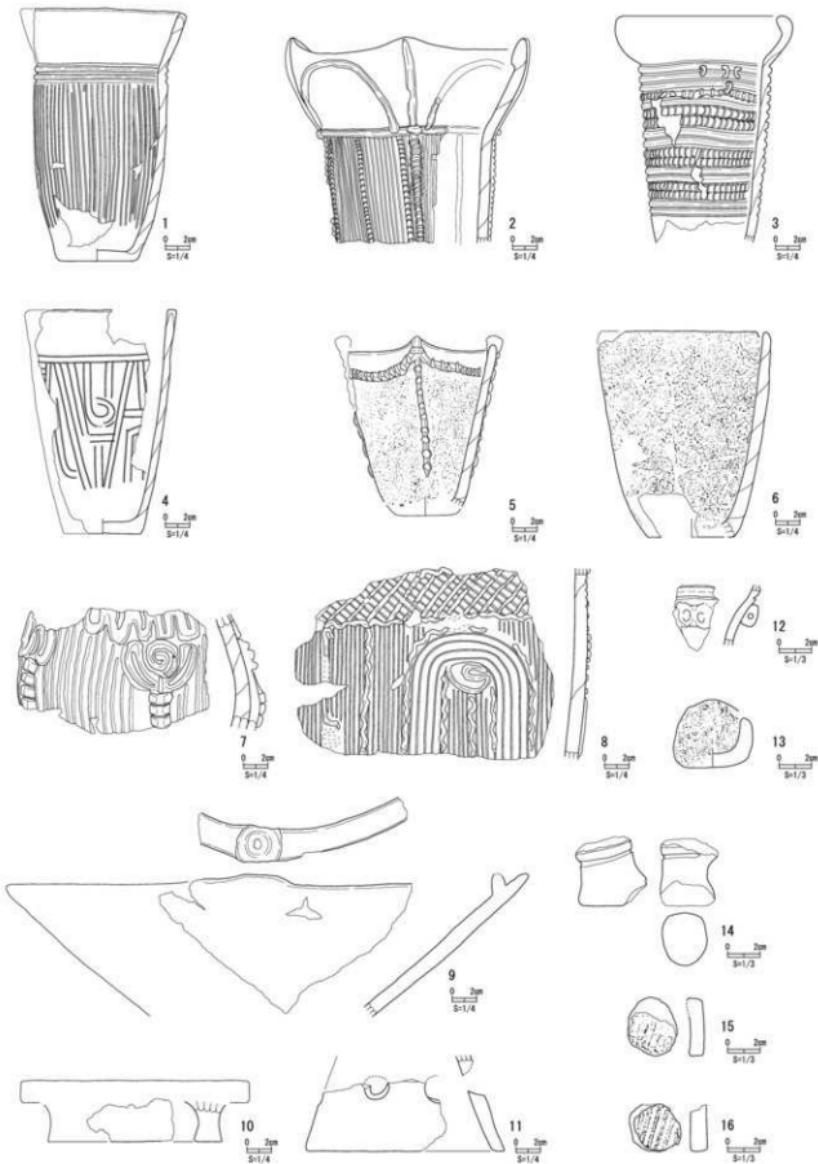


埋土 1092/2(黒褐色)に1096/6(深黄褐色)15cmに亘る。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
地山 1095/6(黄褐色)、粘質土。しまる。

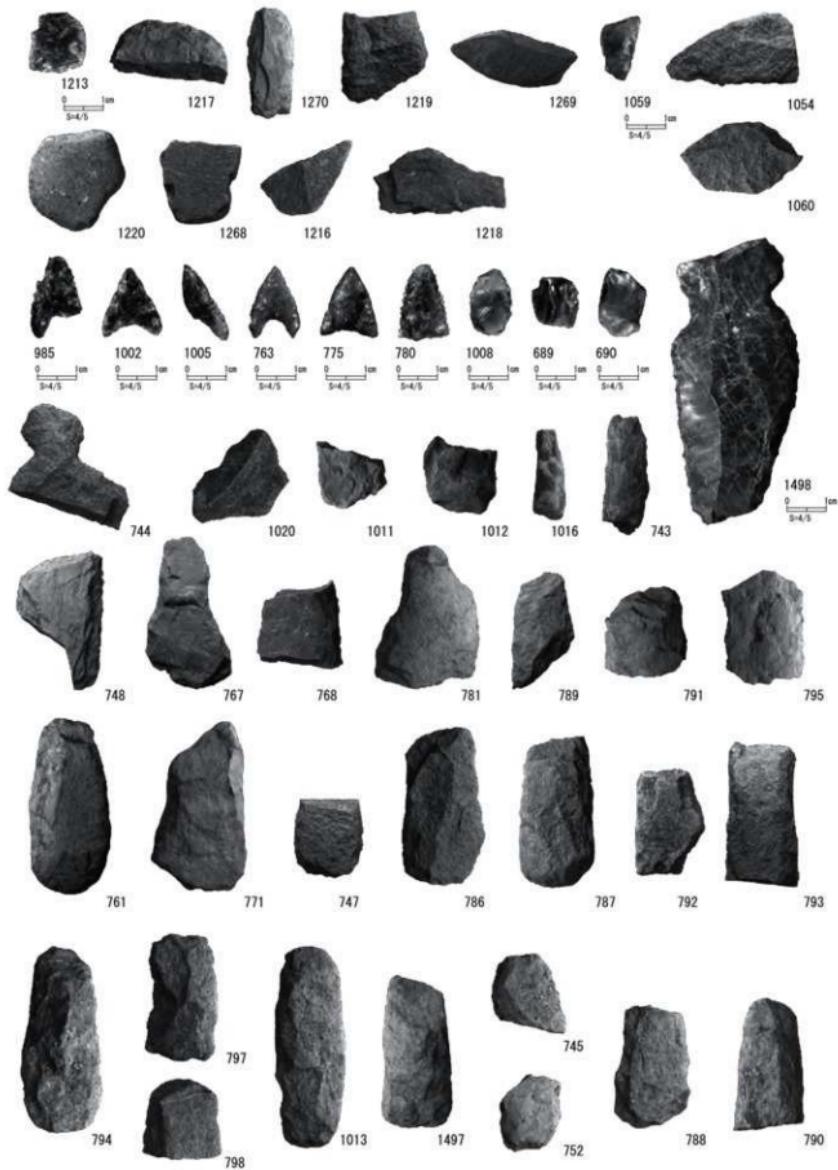
埋土 1094/2(こぶしい黄褐色)に1092/2(黒褐色)が7.5cmに亘る。シルト粘土、粘性ややあり。
しまる。
地山 1095/6(黄褐色)、粘質土。しまる。



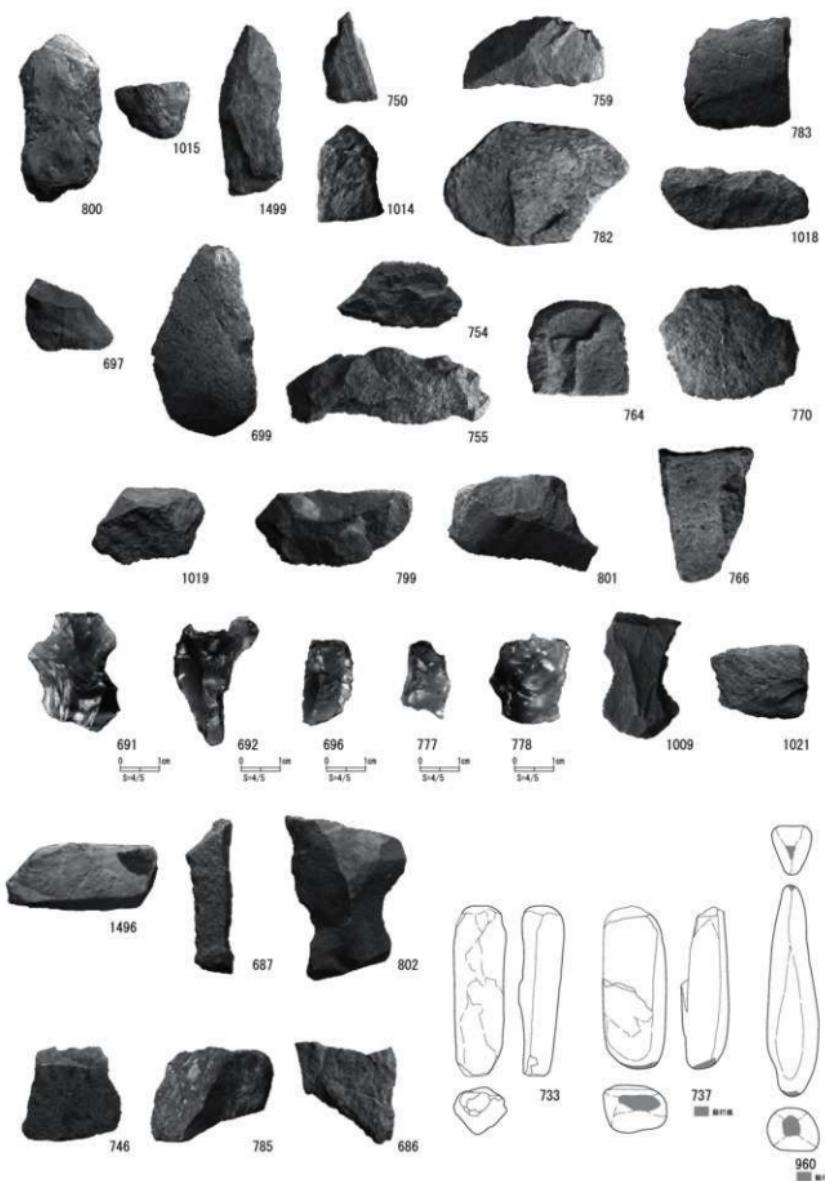
第39図 15号住居土坑・出土遺物



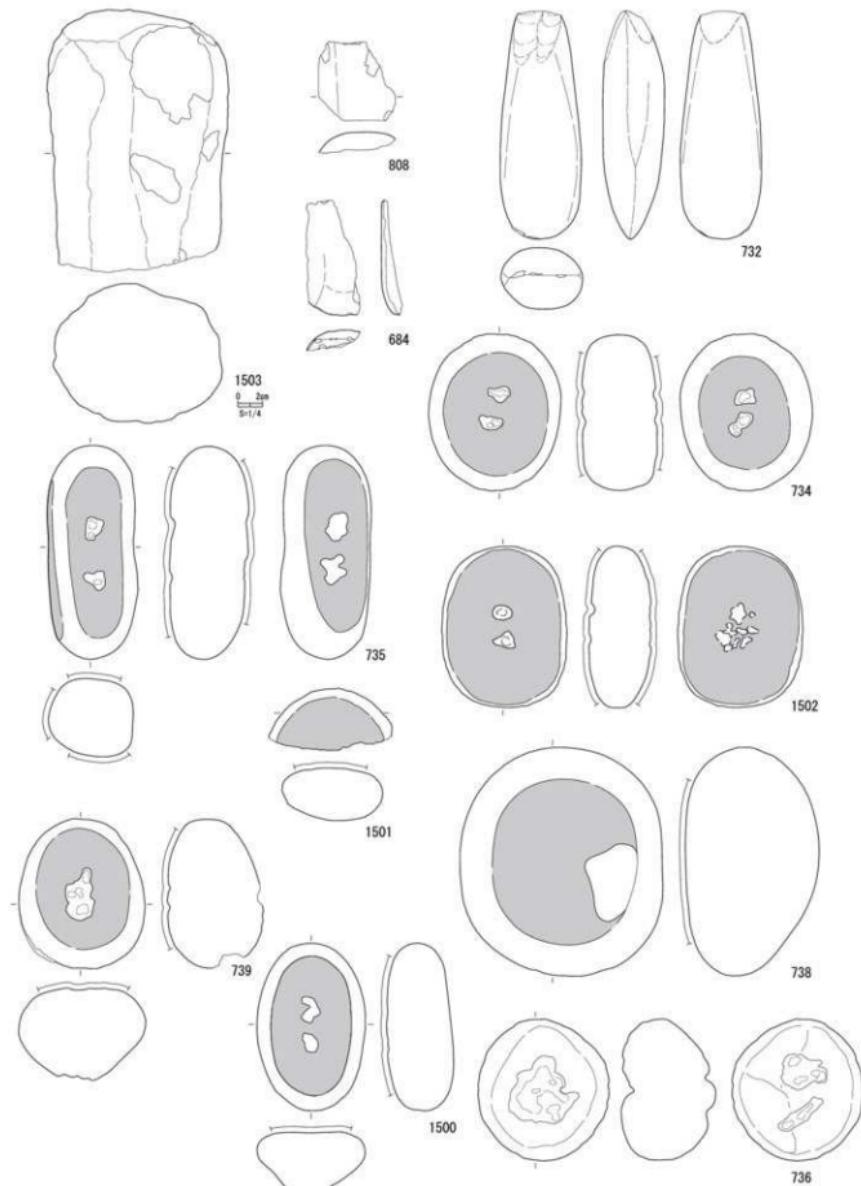
第40図 15号住居出土遺物



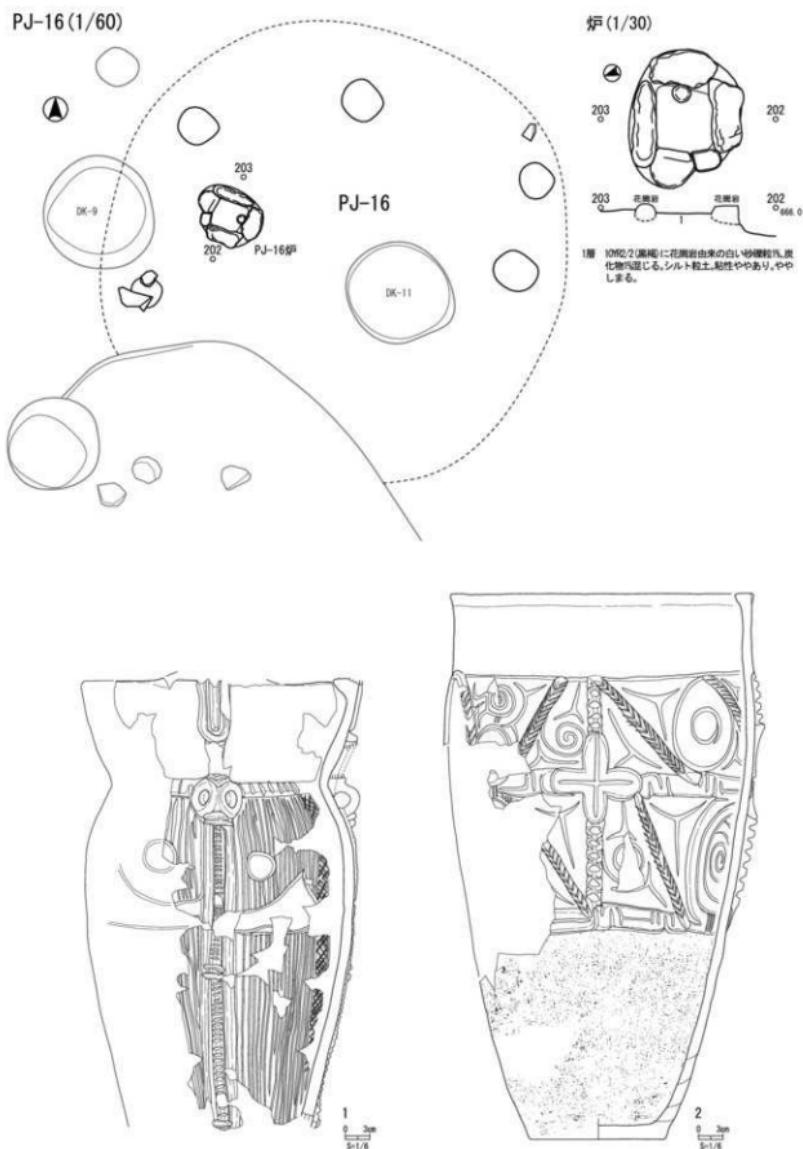
第 41 図 15 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



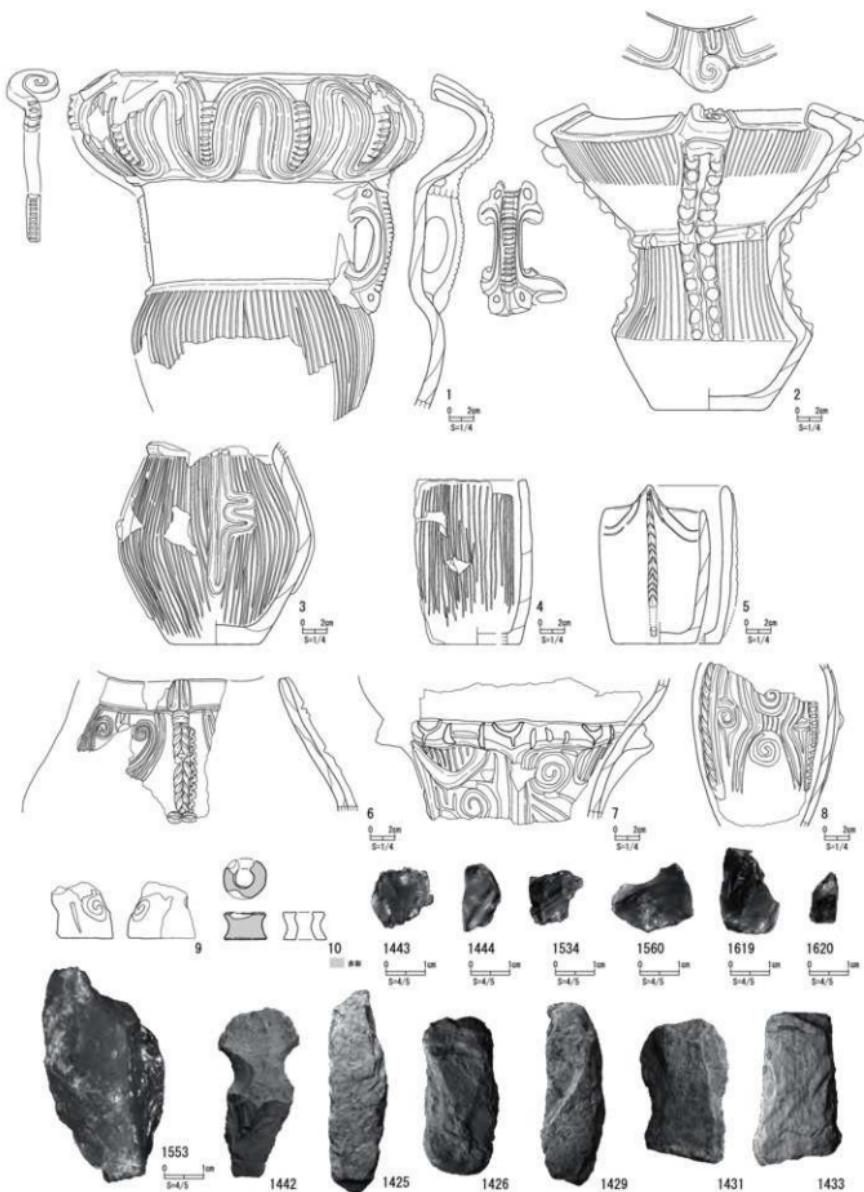
第42図 15号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



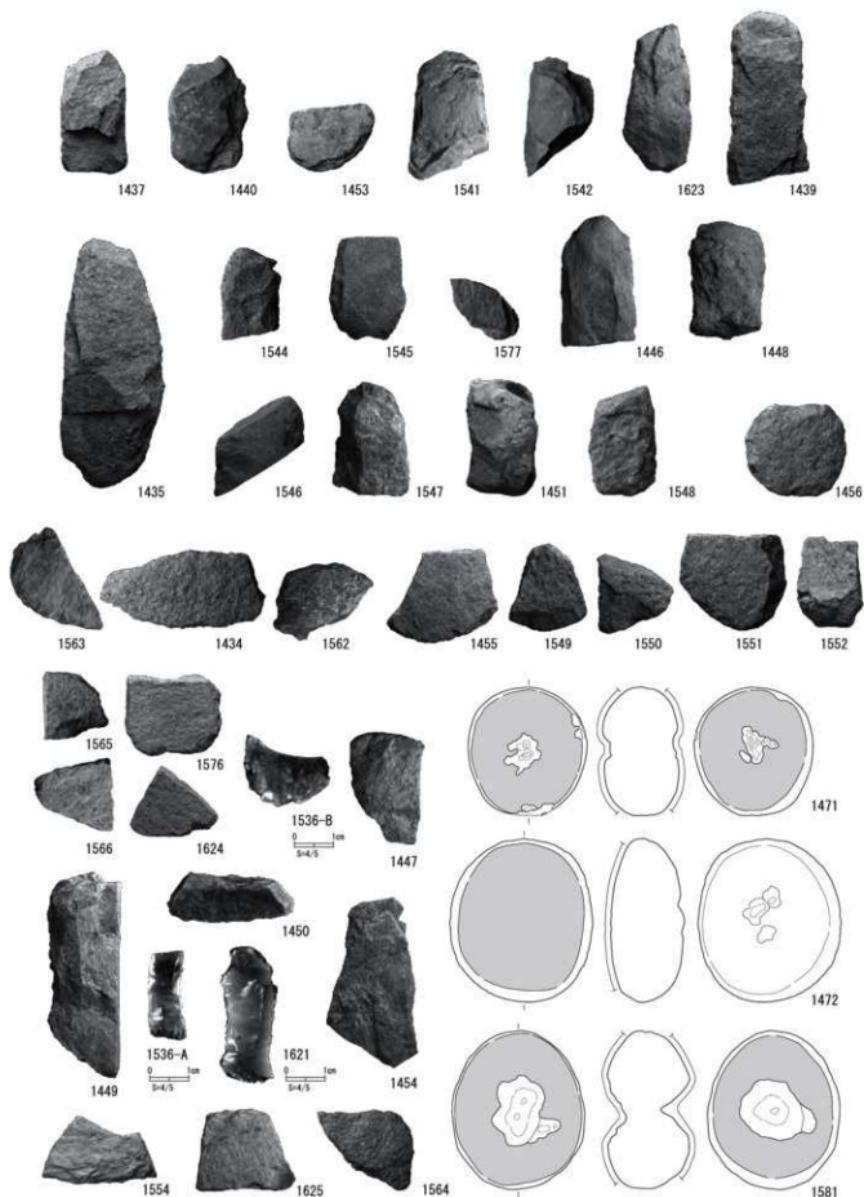
第43図 15号住居出土遺物 (1503以外は1/3)



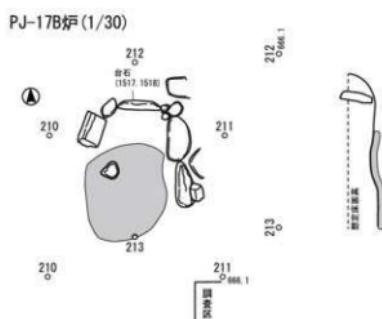
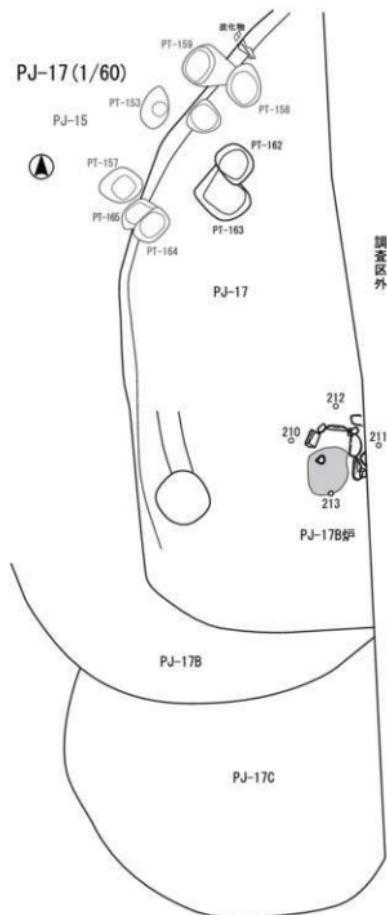
第44図 16号住居・出土遺物



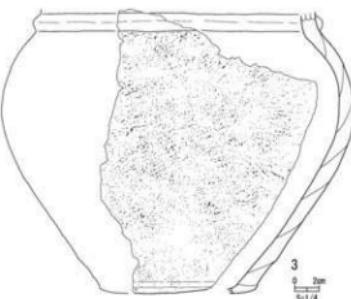
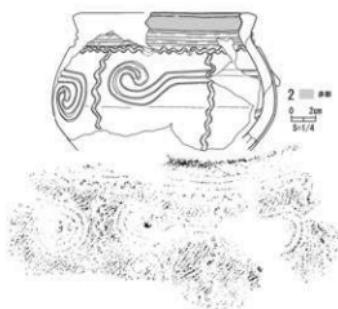
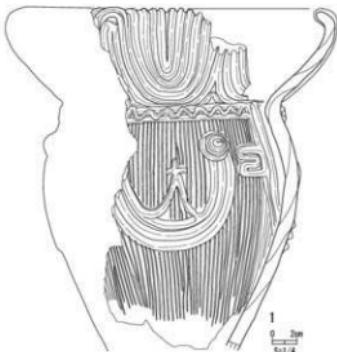
第45図 16号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



第46図 16号住居出土遺物 (1536-A・B、1621以外は1/3)



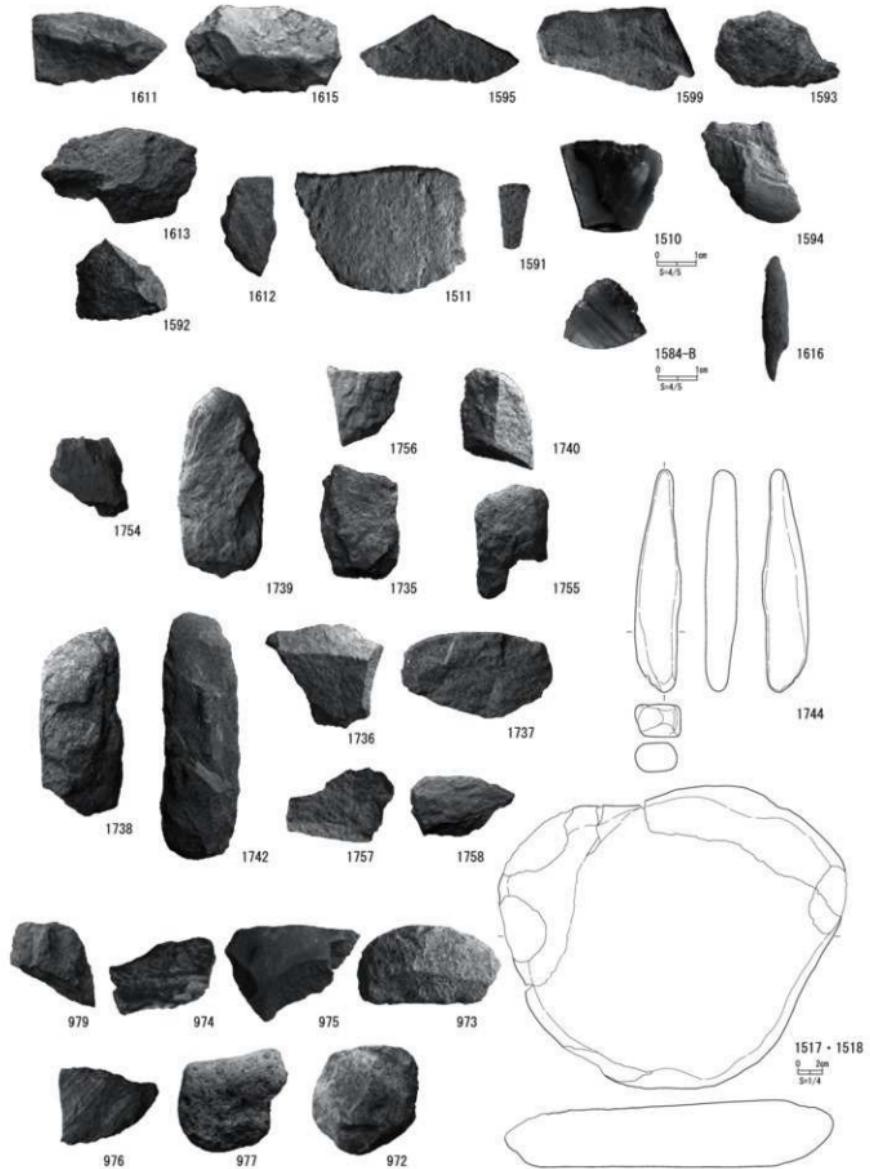
1層 1092/3(裏面)に1093/3(前面)が10%、焼土5%、炭化材1%混じる。シルト粘土。粘性やあり、ややしまる。



第47図 17号住居・出土遺物

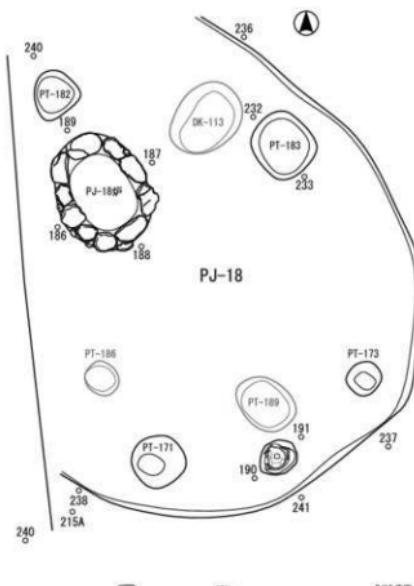


第48図 17号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



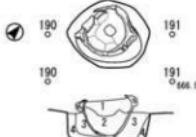
第49図 17号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

PJ-18(1/60)



埋土 1092/2(黒褐)に1095/8(黄褐)が混在する。
シルト粘土、粘性ややあり、しまる。

埋甕(1/30)



1層 10M2/3(黒板)に10M3/3(暗板)があり、7m大の花崗岩、炭化材が少々

2番 10M2/2(黒糸)に10M2/3(黒糸)が10%、授化材1%混じる。シルト粒土。

3種 10M2/3(濃縮)に10M2/2(濃縮)が3滴になる。シルト粒土-粘性やや

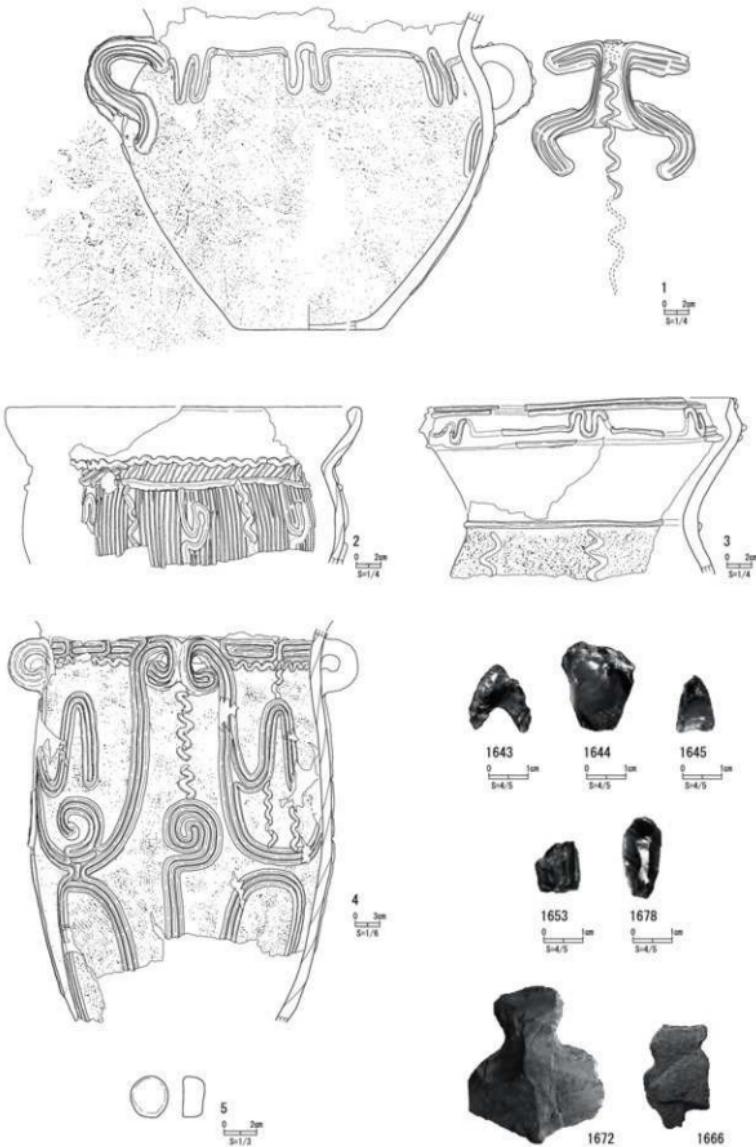
1992/3(第3回)に1994年(第3回)の演習にあ、シルト敷土・利根川の

（略）

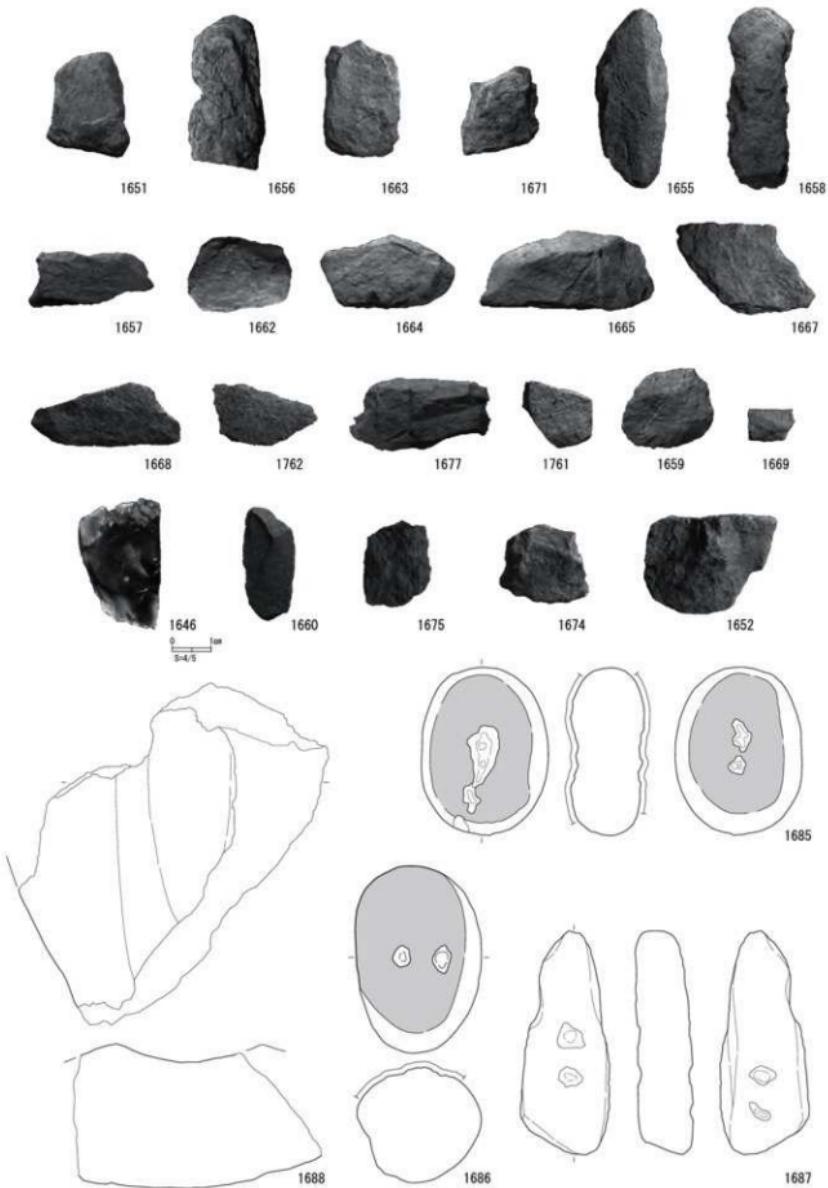
地山 10M/2(高周)に10M/3(低周)が10%, 10M/6(高)が7%近くなる。シルト粒土、粘性ややあり、ややしまる。

¹⁸⁹O / ¹⁸⁶O

第50図 18号住居

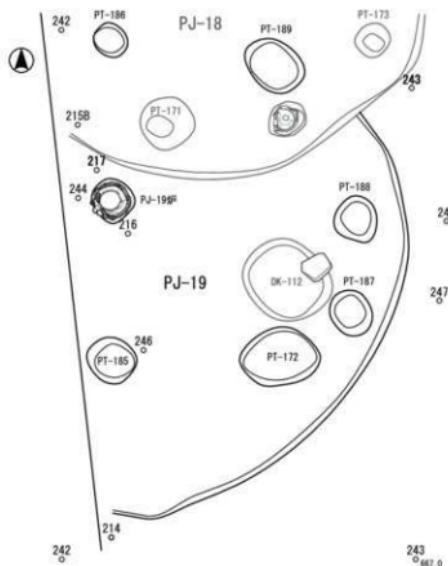


第51図 18号住居出土遺物 (1672、1666は1/3)

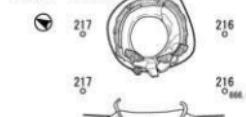


第 52 図 18 号住居出土遺物 (1646 以外は 1/3)

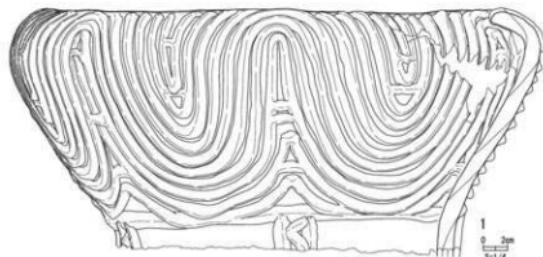
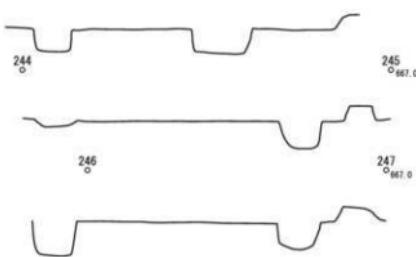
PJ-19 (1/60)



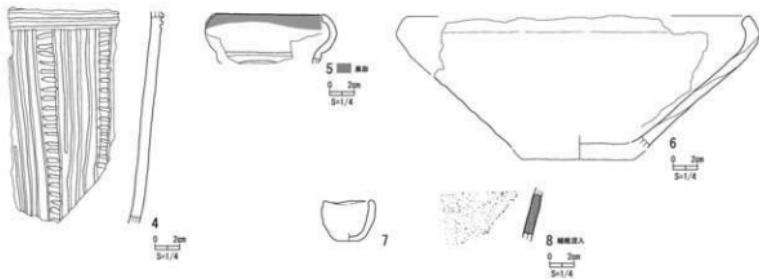
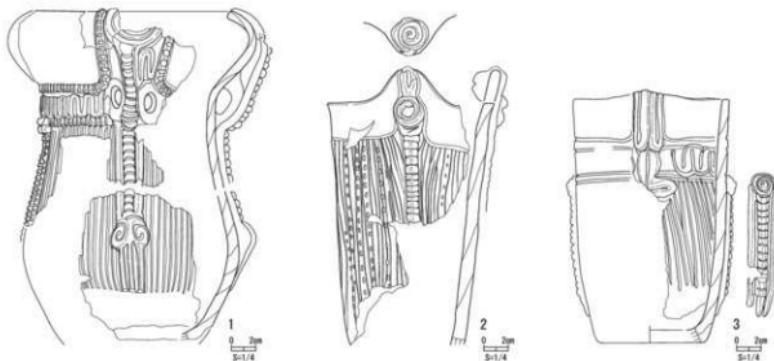
埋葬炉 (1/30)



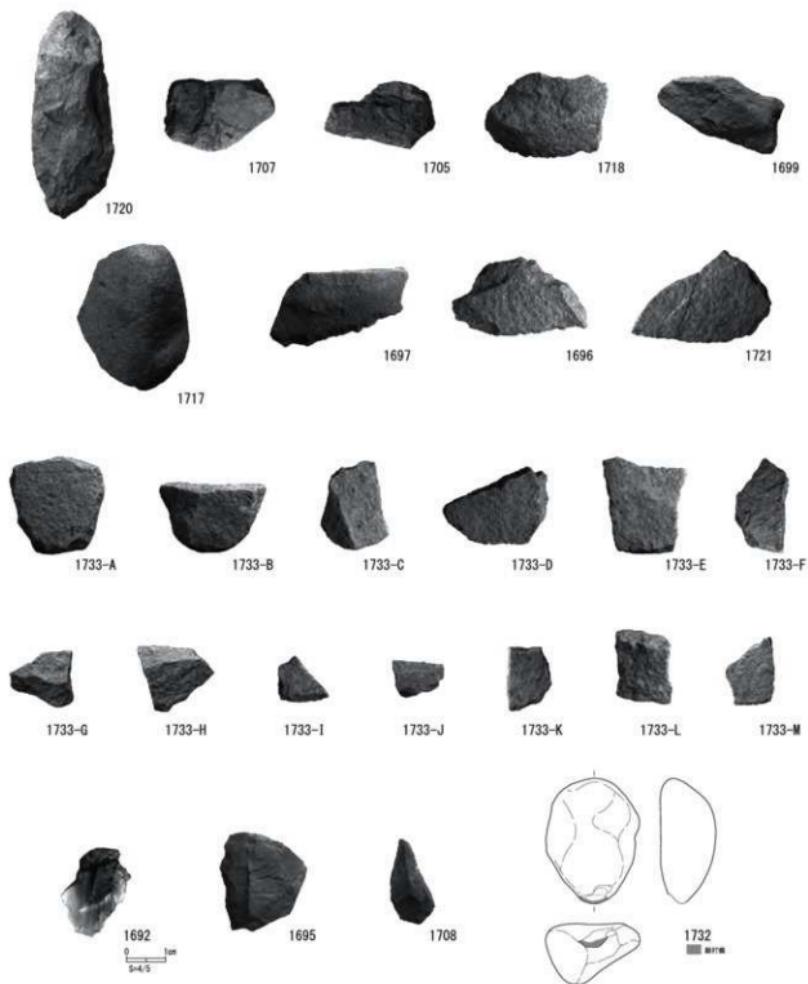
1層 10H2/2(黒褐色)に10H4/2(灰褐色)が7cm、花崗岩粒5%、炭化物5%、成土過程なし。シルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
2層 10H2/2(黒褐色)に10H4/2(灰褐色)が4cm、花崗岩粒5%、炭化物5%、混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
地山 10H2/2(黒褐色)に10H4/4(灰褐色)が10cm、10H4/2(灰褐色)が5cm、花崗岩粒混じる。シルト粘土、粘性ややあり、しまる。



第 53 図 19 号住居・出土遺物



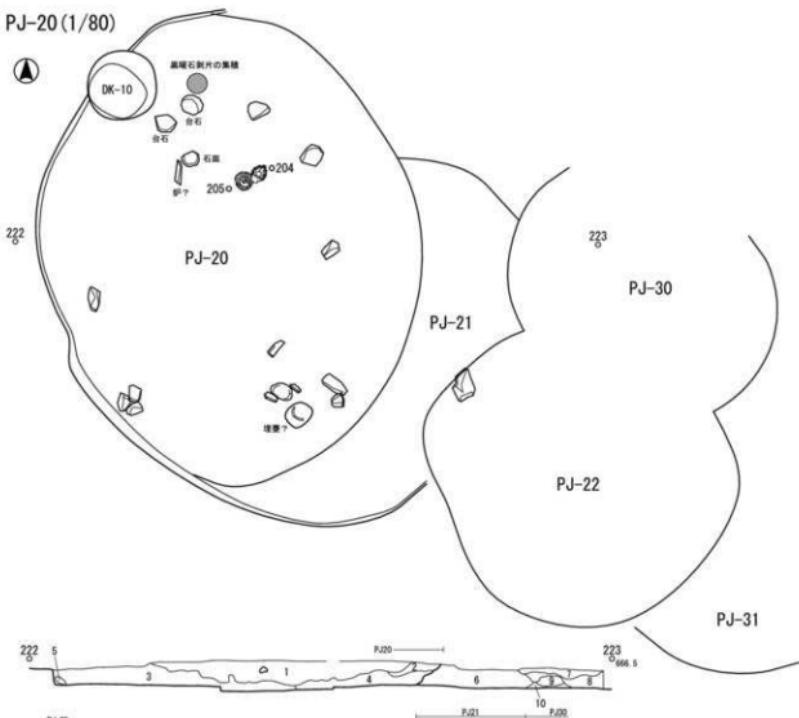
第54図 19号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



第 55 図 19 号住居出土遺物 (1692 以外は 1/3)

PJ-20 (1/80)

Ⓐ



PJ-20

- 1層 10m/4(0.5m)に10m/2(基盤)が9%、砂質(1m~4m)が9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 2層 10m/4(4m)に10m/2(基盤)が9%、10m/4(0.5m)に10m/2(基盤)が9%、砂質(1m~2m)が9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 3層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、砂質(1m~3m)が9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 4層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、砂質(1m~3m)が9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 5層 10m/2(基盤)に砂質1m程度のものが9%混じる。シルト粘土。しまる。

PJ-21

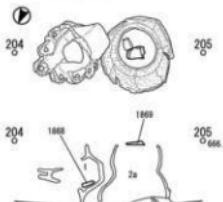
- 6層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、砂質1m程度のものが9%混じる。シルト粘土。しまる。

PJ-22

- 7層 10m/4(4m)に10m/2(基盤)が9%、10m/4(0.5m)に10m/2(基盤)1m程度のものが9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 8層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、10m/4(0.5m)が9%、砂質(1m~1.5m)が9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 9層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、砂質1m程度のものが9%混じる。シルト粘土。しまる。
- 10層 10m/2(基盤)に10m/4(0.5m)が9%、砂質1m程度のものが9%混じる。シルト粘土。しまる。

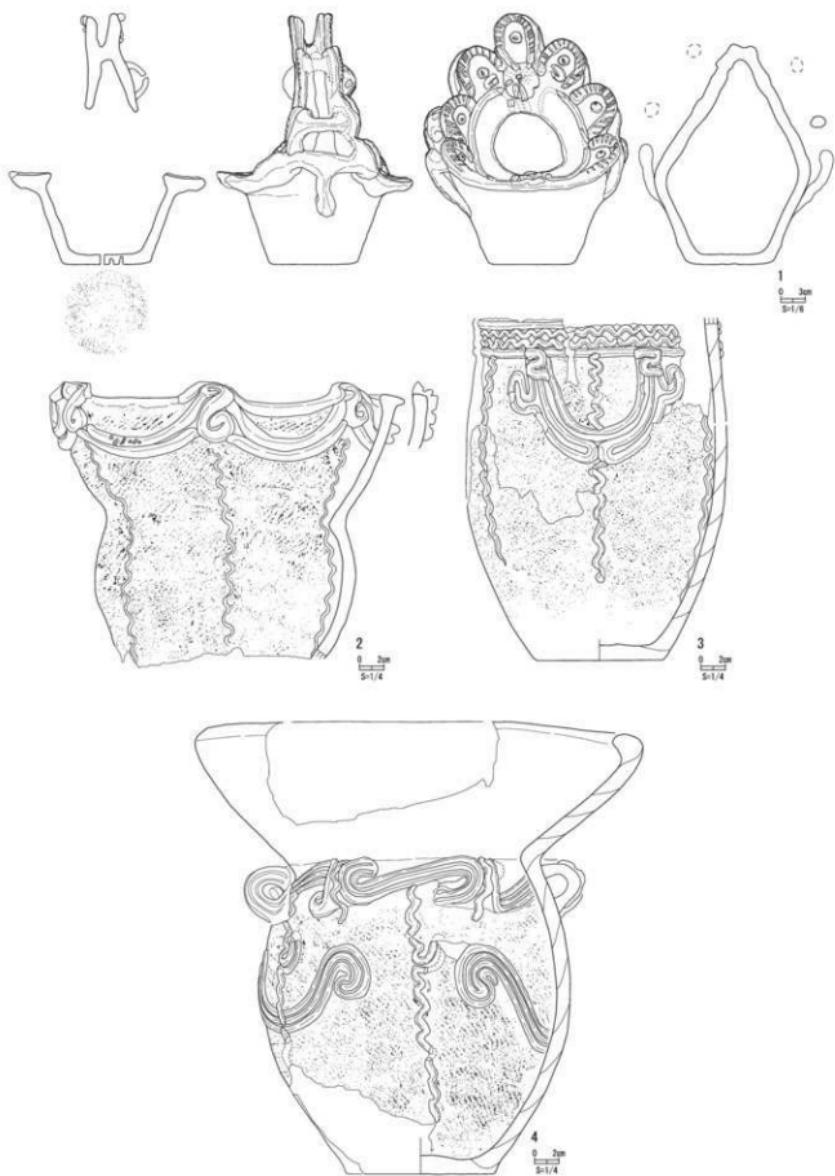
遺物出土状況 (1/20)

Ⓑ

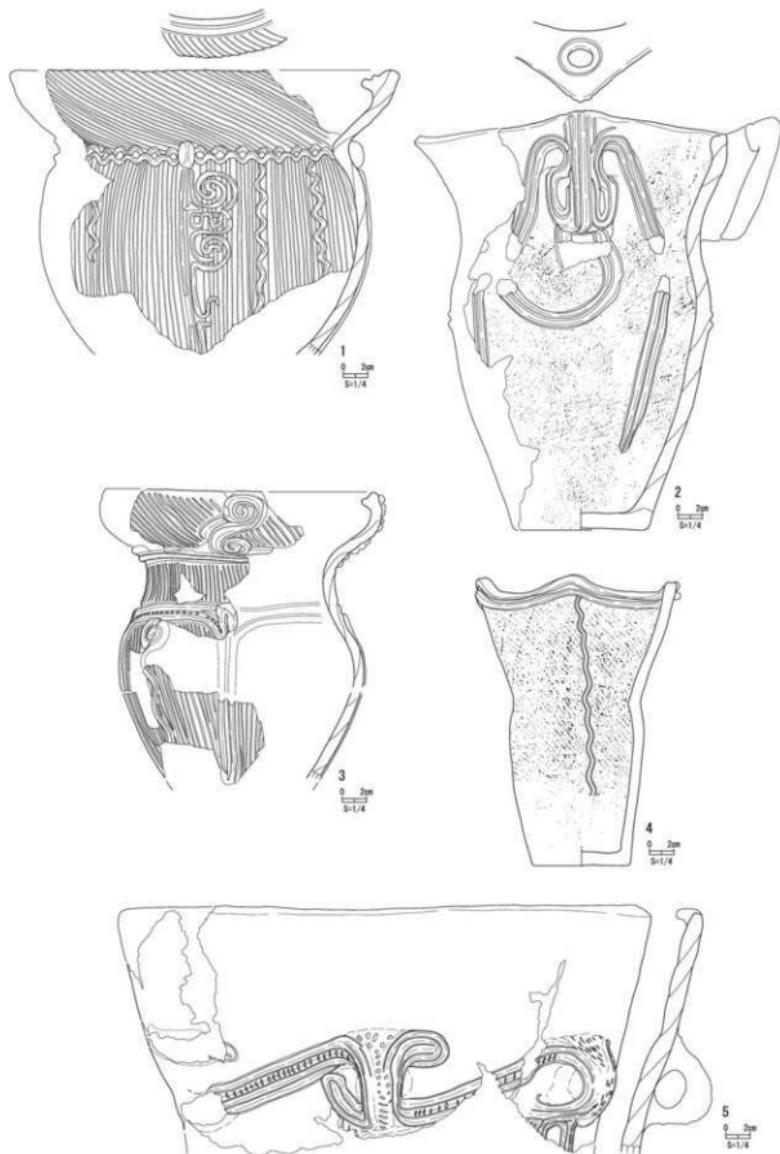


- 1層 10m/2(基盤)に10m/6(基盤)が9%、10m/1(基盤)が9%混じる。シルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
2層 10m/2(基盤)に10m/6(基盤)が9%、10m/1(基盤)が9%、花崗岩碎屑(3m~10m)が9%混じる。シルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 3層 10m/2(基盤)に10m/6(基盤)が9%混じる。粘性よりやや高い、シルト粘土。粘性ややあり、しまる。
4層 10m/2(基盤)に10m/6(基盤)が9%混じる。粘性よりやや高い、シルト粘土。粘性ややあり、しまる。
- * 砂利手土器、骨壺共に中の土質は同じ。また住居の壁土も同じ。

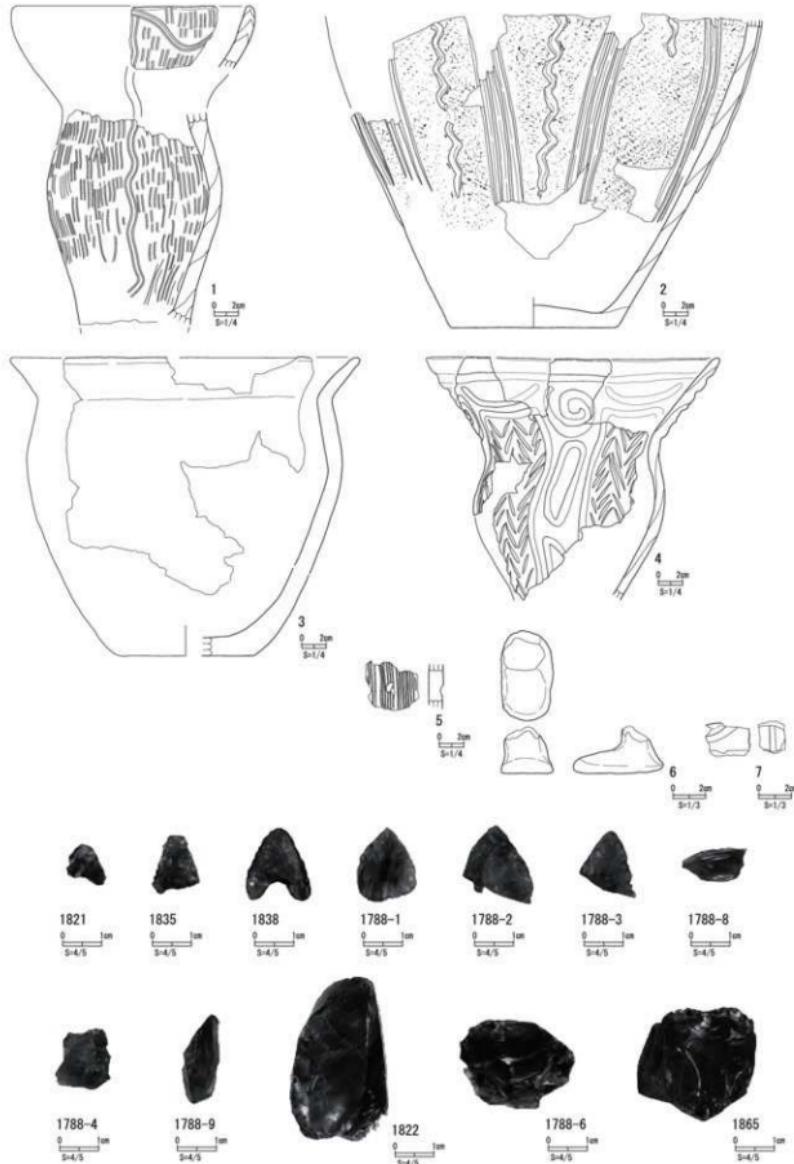
第 56 図 20 号住居



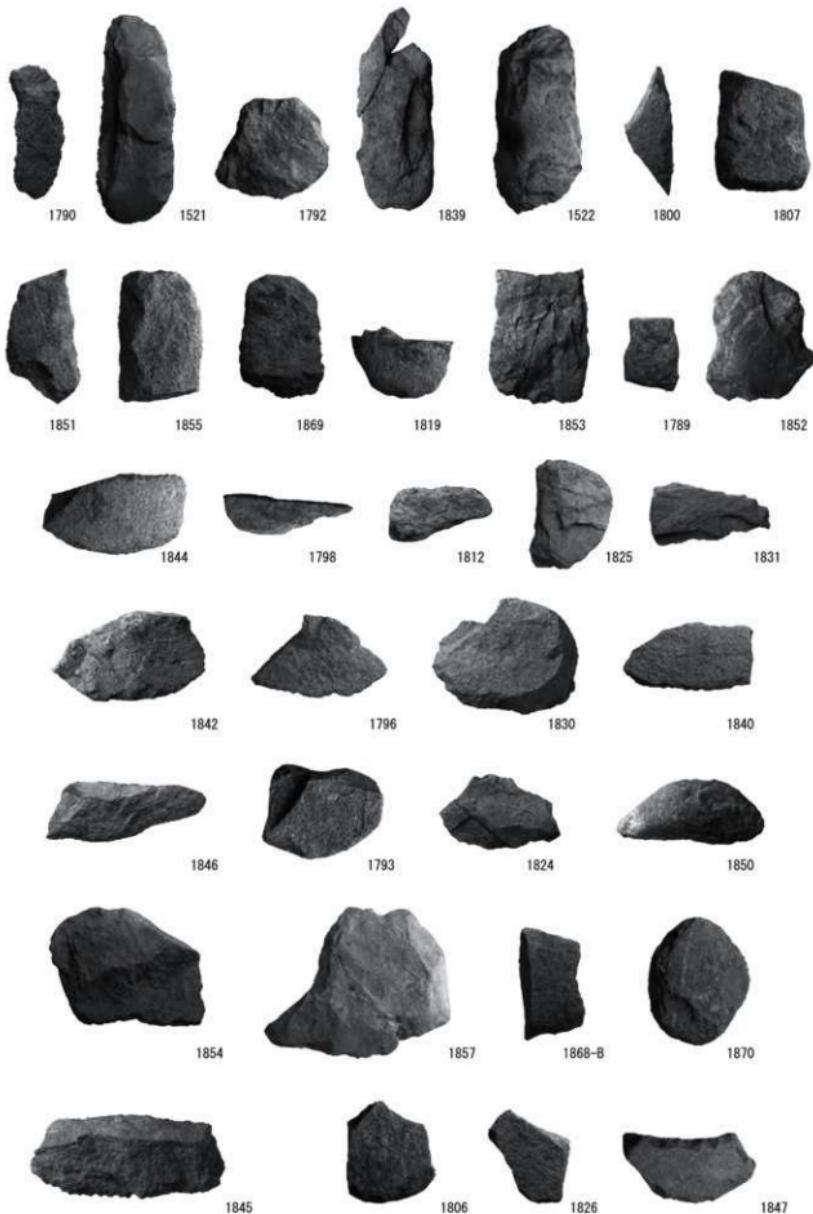
第 57 図 20 号住居出土遺物



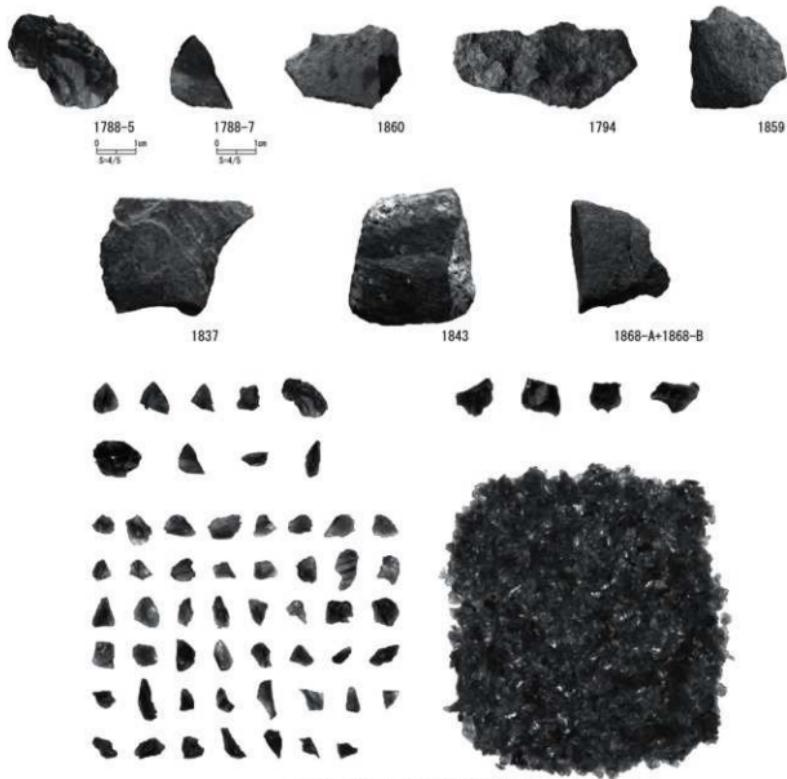
第 58 図 20 号住居出土遺物



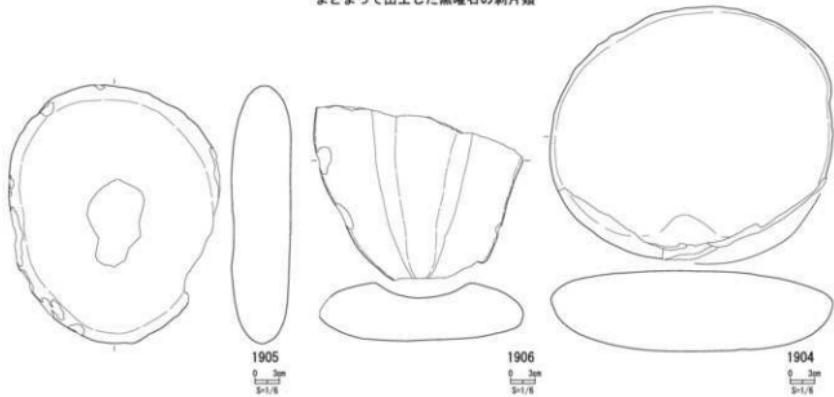
第59図 20号住居出土遺物



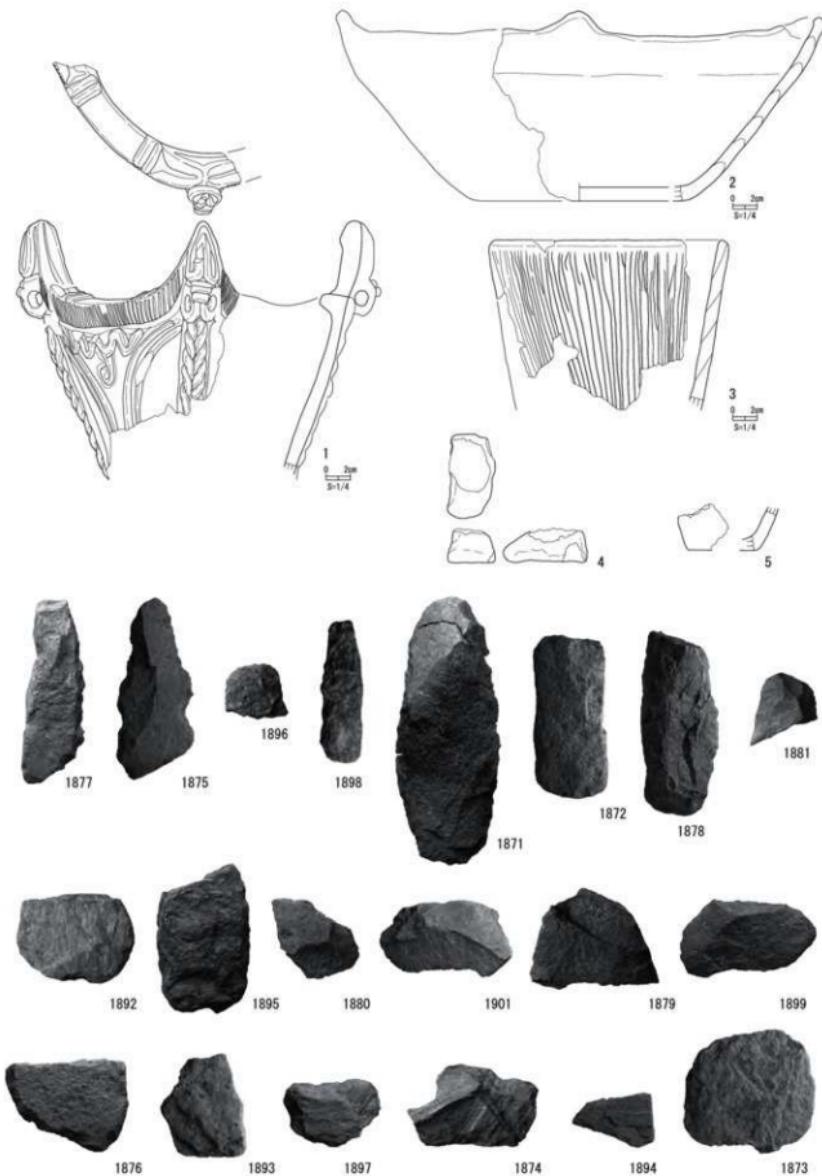
第 60 図 20 号住居出土遺物 (1/3)



まとまって出土した黒曜石の剥片類

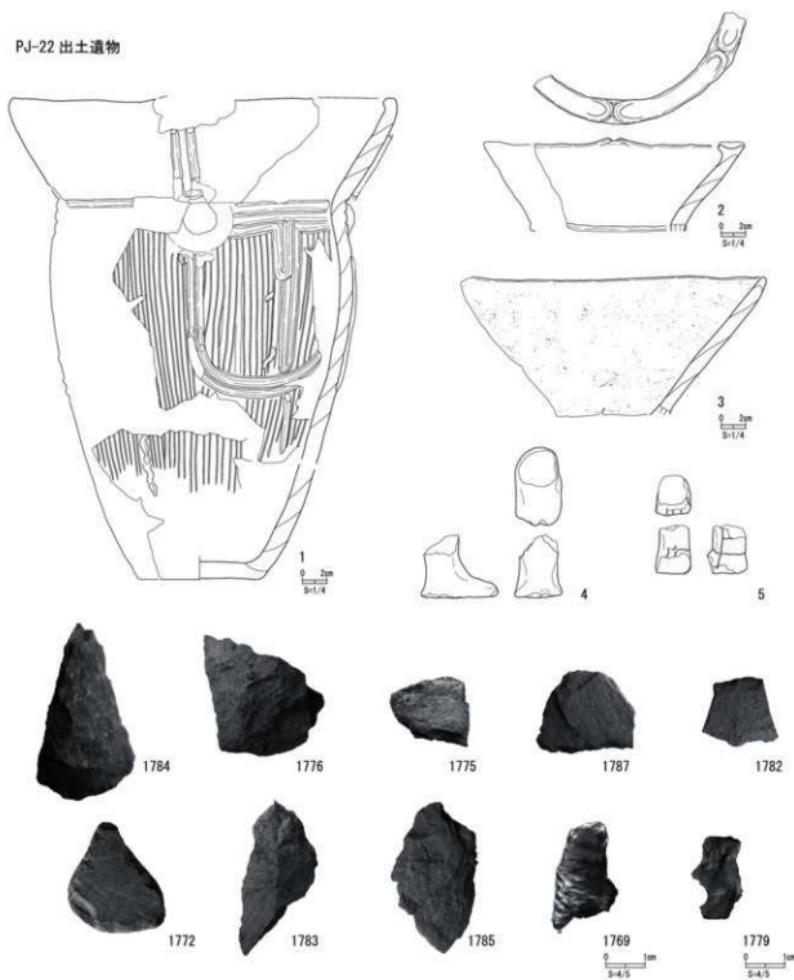


第 61 図 20 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



第62図 21号住居出土遺物 (1、2、3以外は1/3)

PJ-22 出土遺物



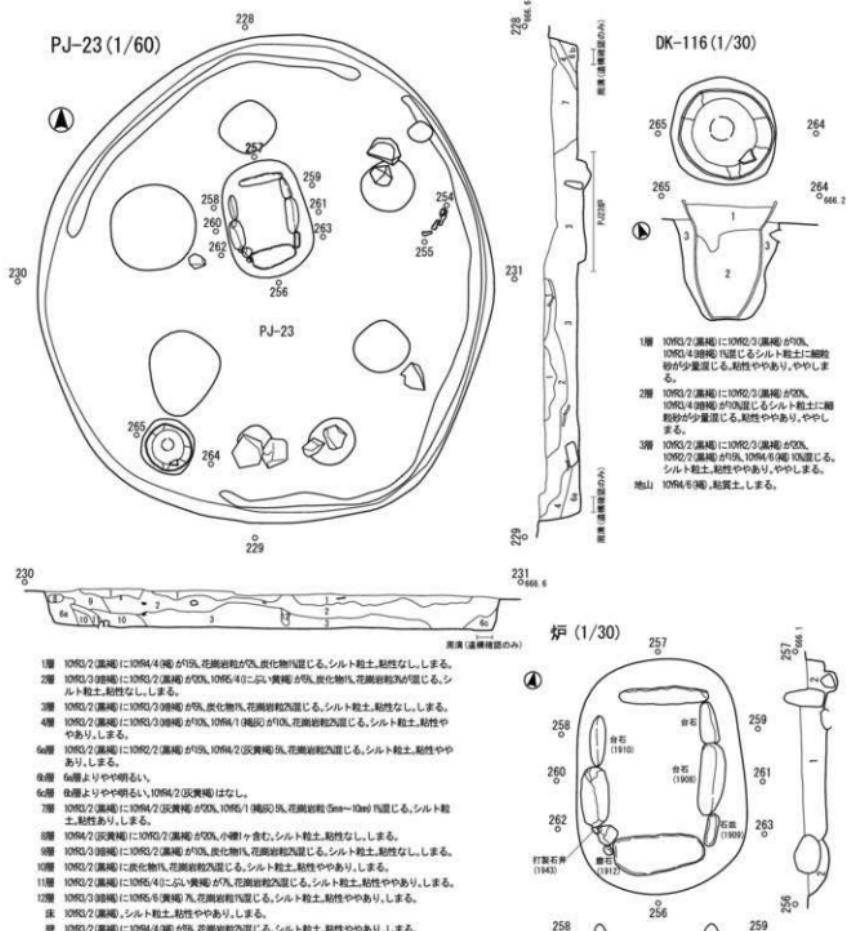
PJ-31 出土遺物



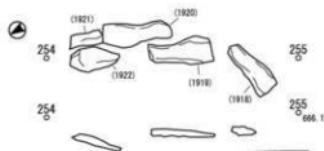
PJ-32 出土遺物



第 63 図 22 号・31 号・32 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）

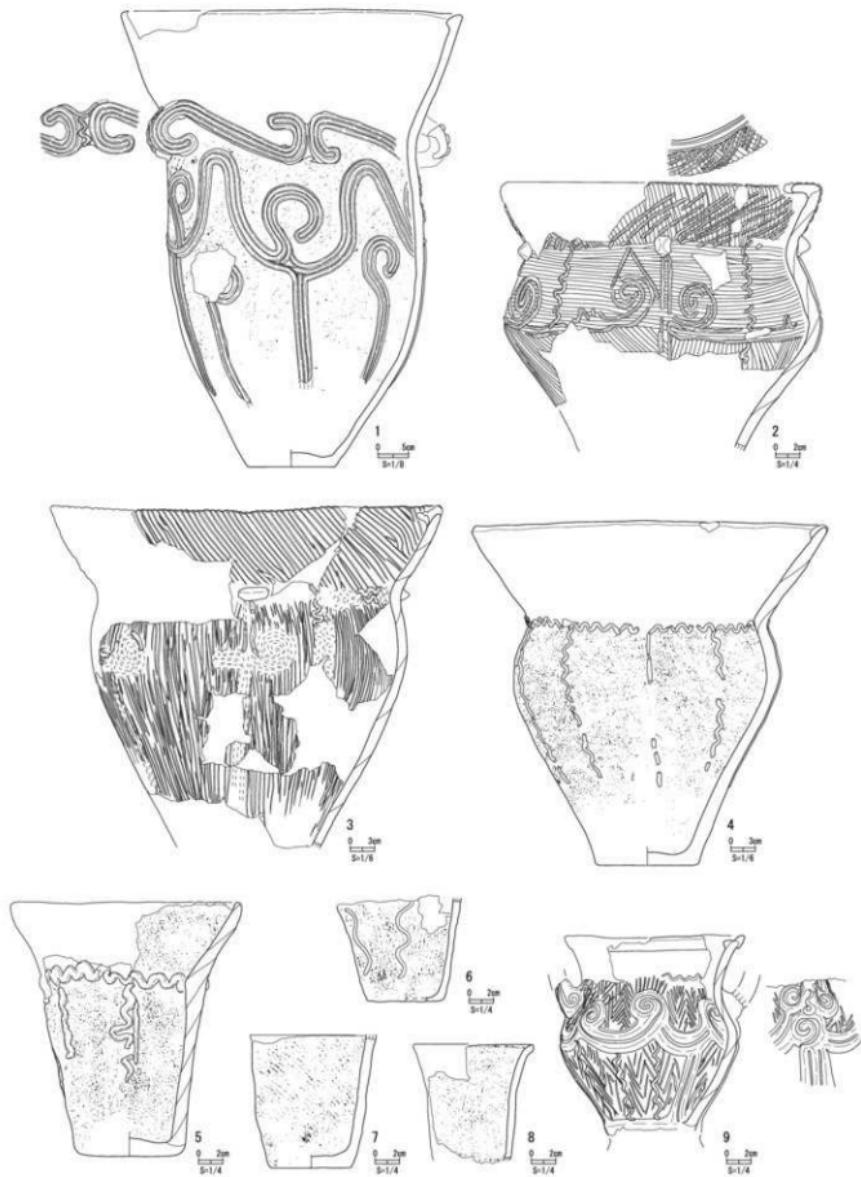


遺物出土狀況 (1/10)

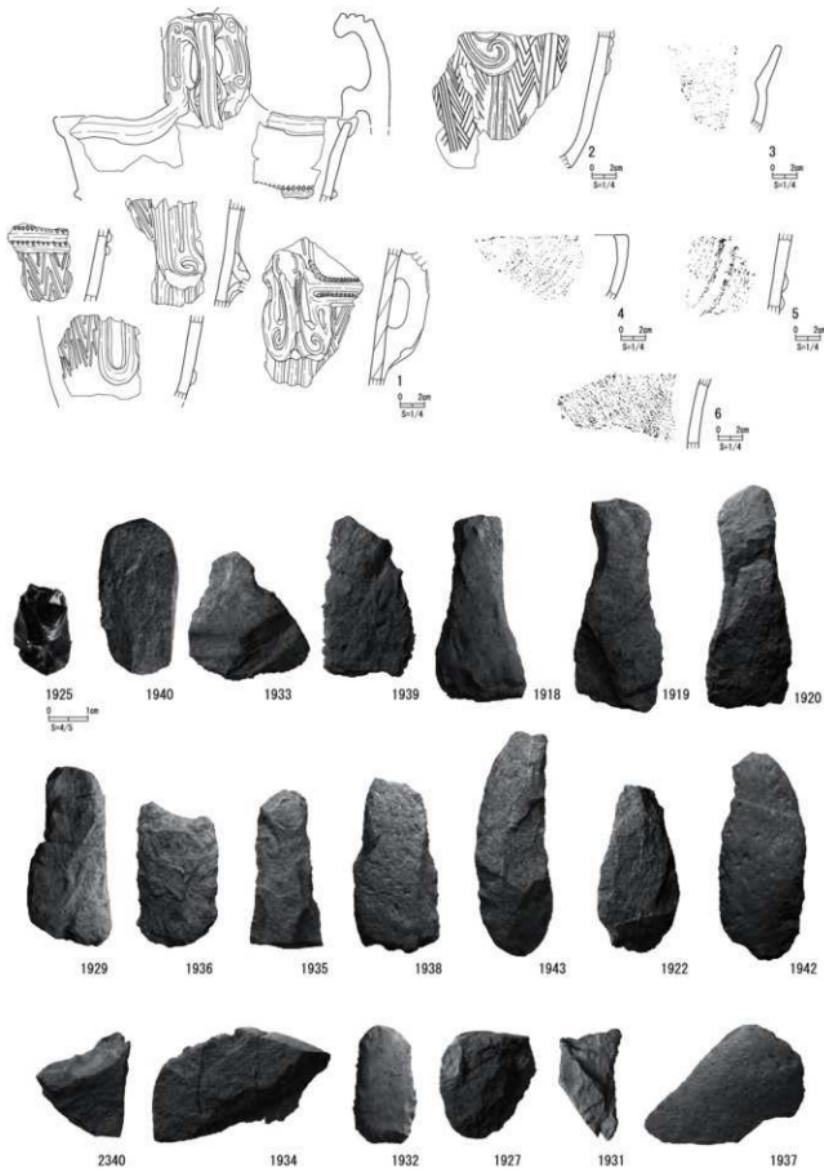


1番 10R2/3(黒褐色)に10R3/3(暗緑)が5%、10R5/6(黄緑)が5%、花崗岩粒約9%、鐵土色を呈する。シルト粒土、粘性土やあります。しまる。
2番 10R3/2(黒褐色)に10R3/3(暗緑)が10%、花崗岩粒約5%を呈する。シルト粒土、粘性土やあります。しまる。

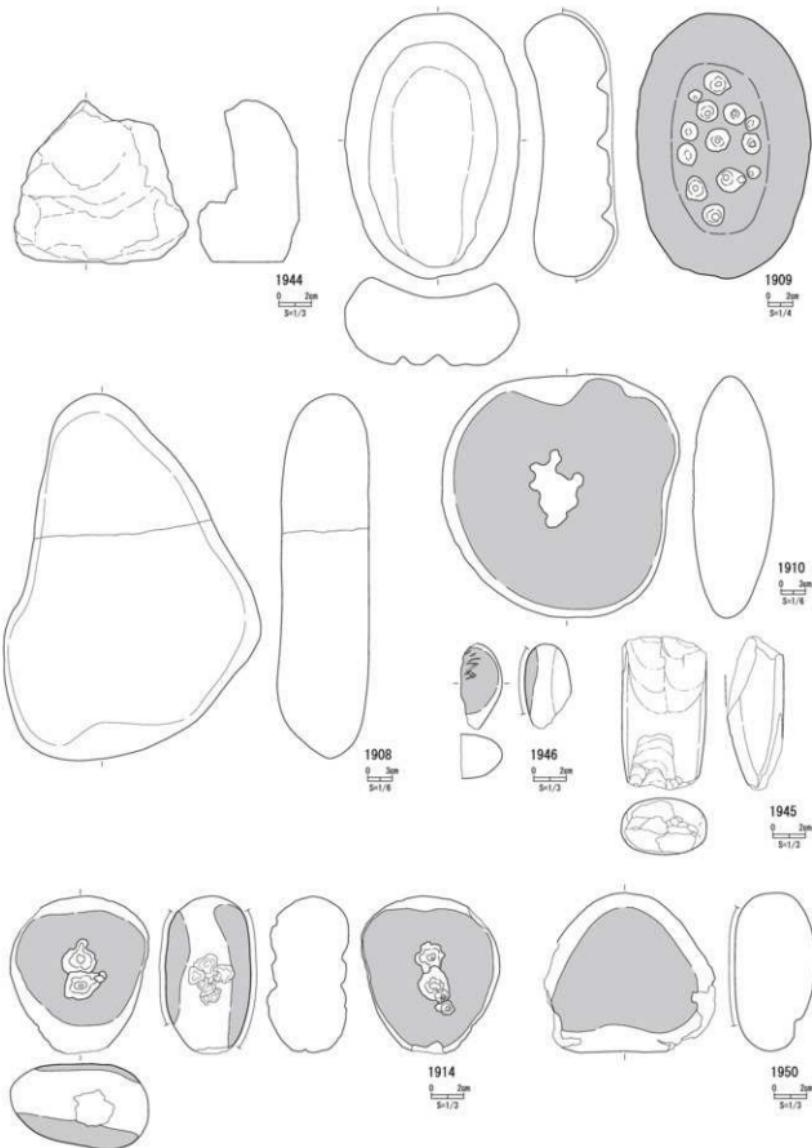
第64図 23号住居



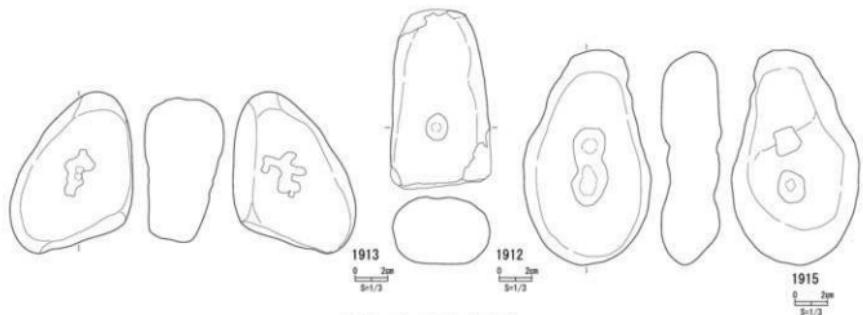
第 65 図 23 号住居出土遺物



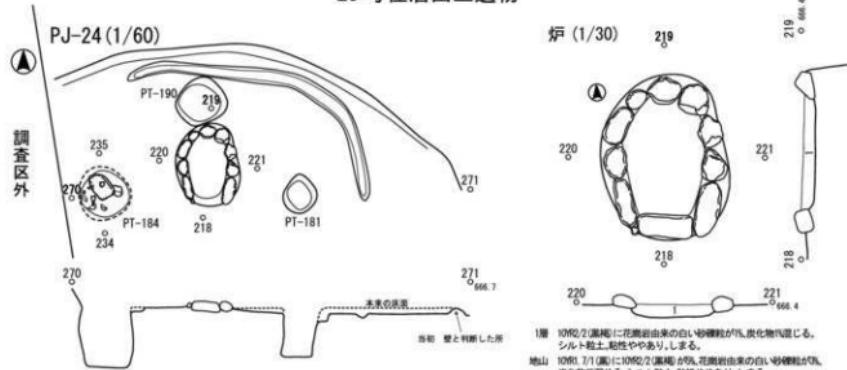
第 66 図 23 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



第 67 図 23 号住居出土遺物

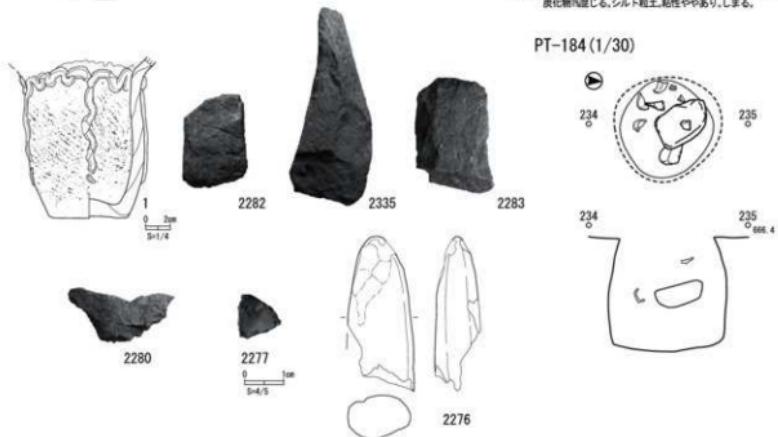


23号住居出土遺物

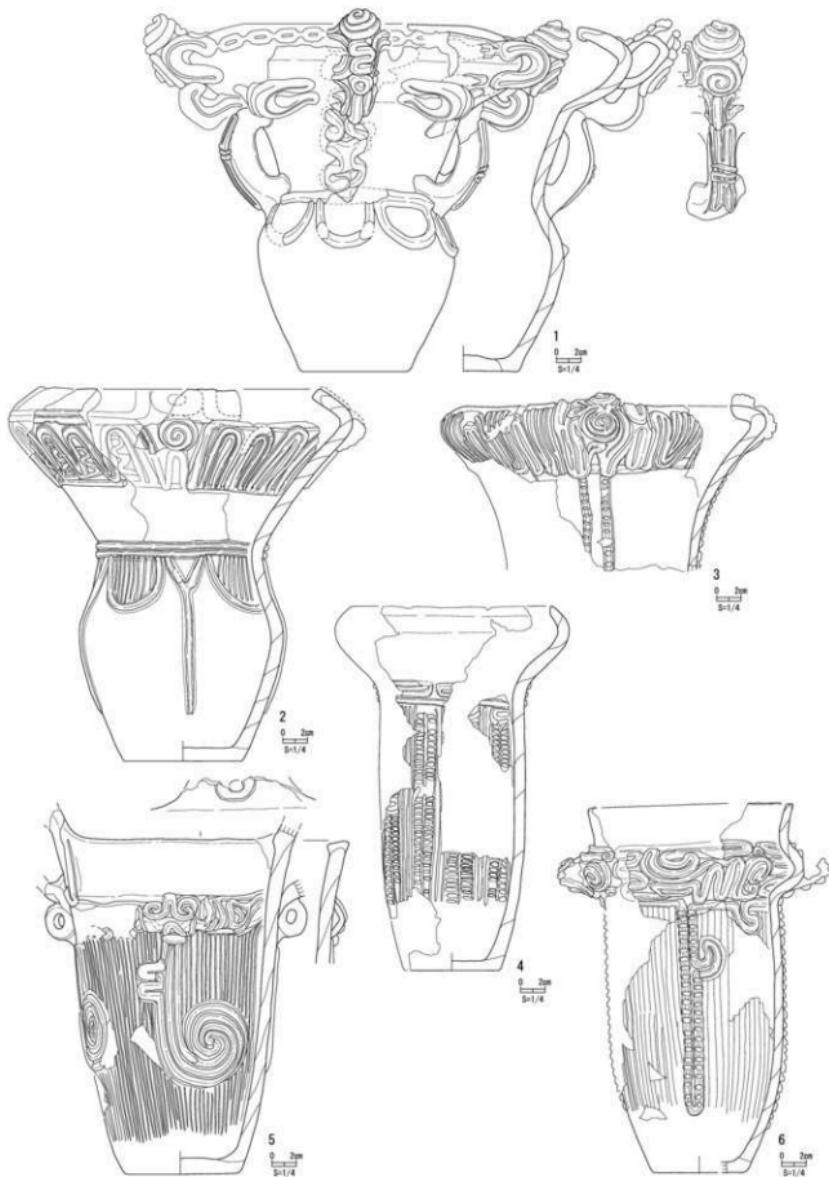


1層 10F2/2(黒褐色)に花崗岩由来の白い砂礫が混入。炭化物混じる。
シルト粘土、粘性ややあり。しまる。

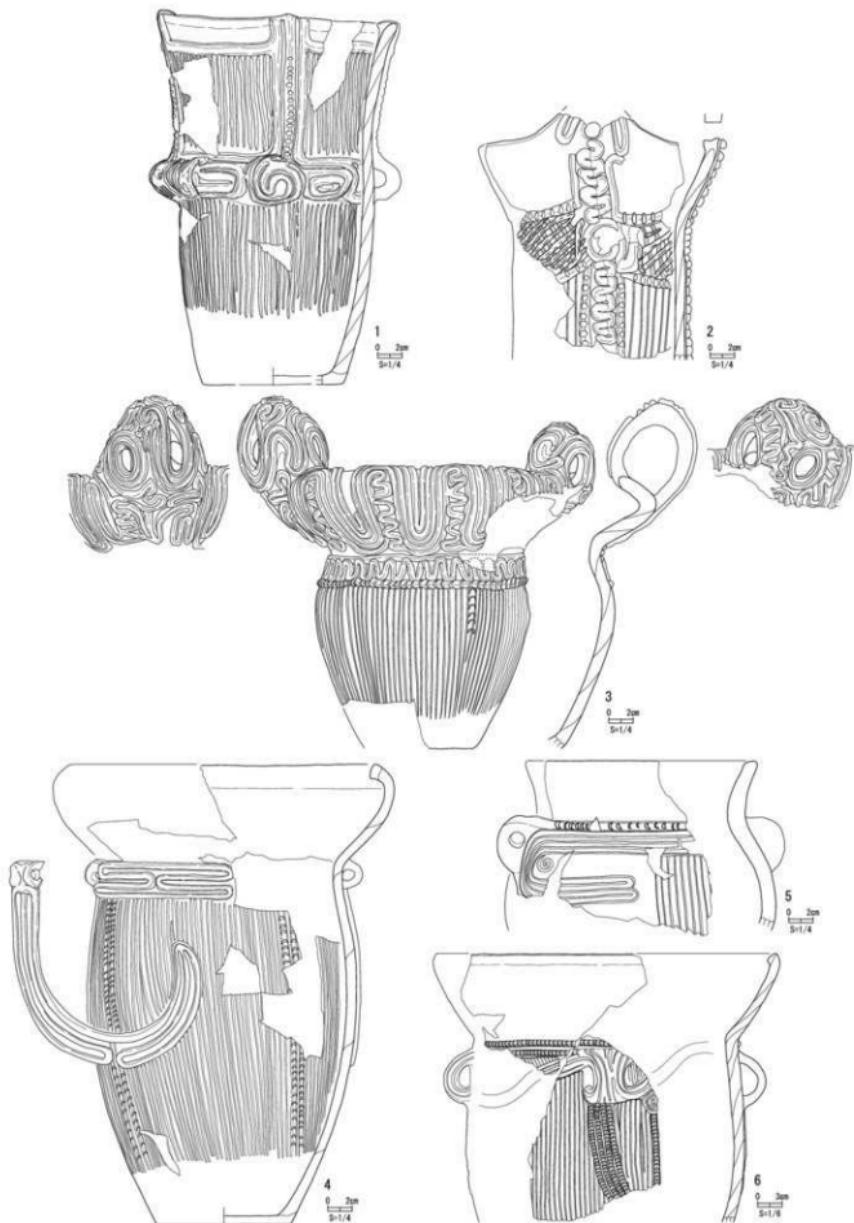
地山 10F1/7(黒)に10M2/2(黒褐色)があり。花崗岩由来の白い砂礫が混入。
炭化物混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。



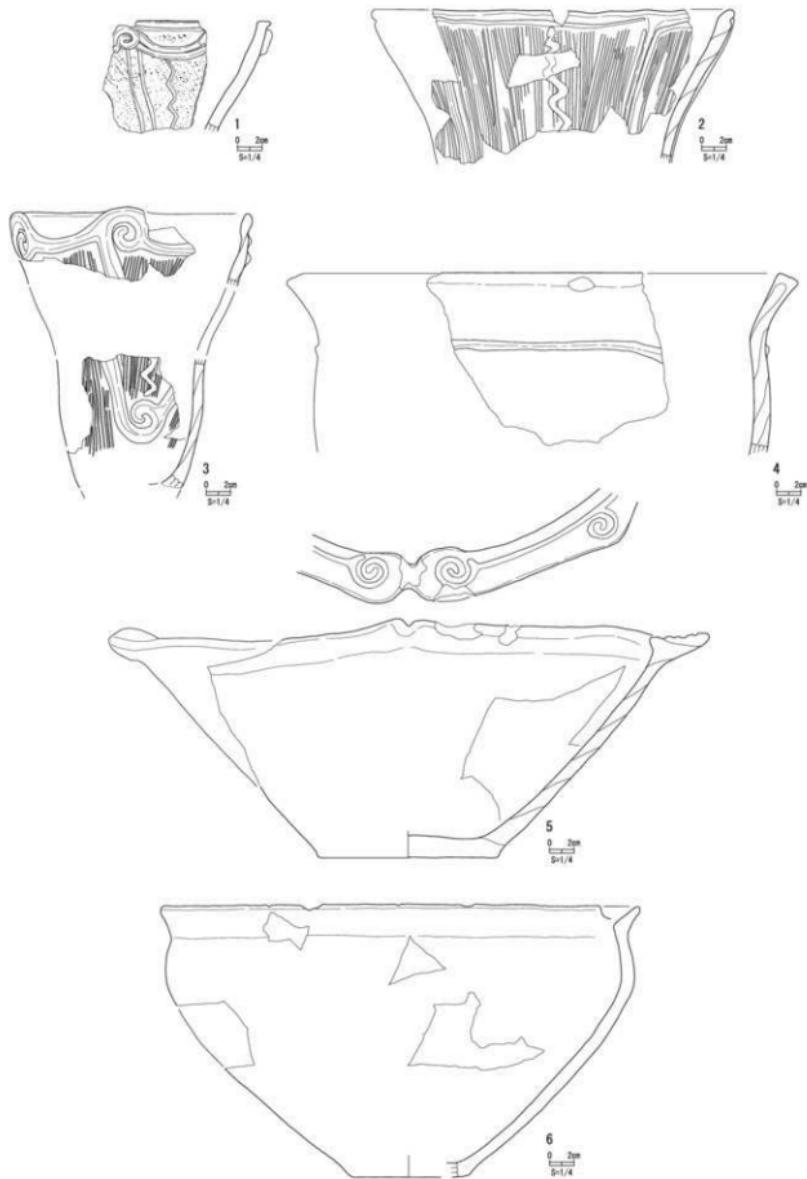
24号住居・出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



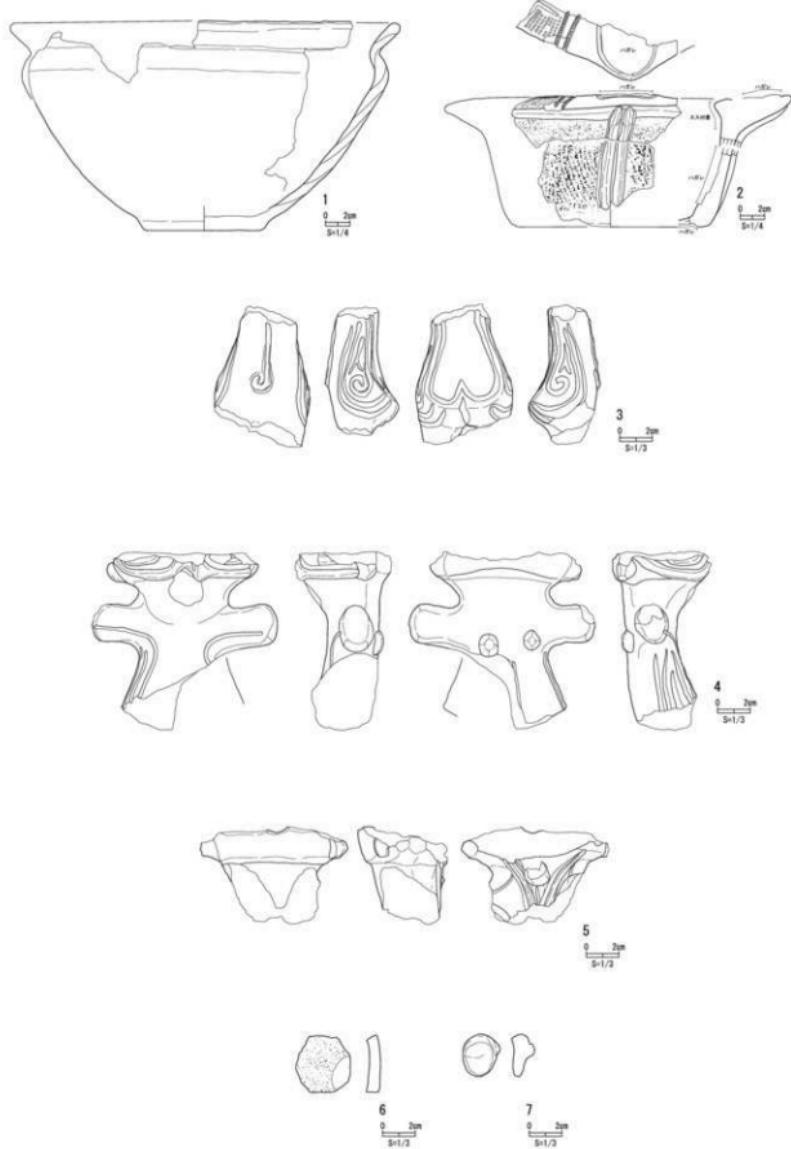
第69図 25号住居出土遺物



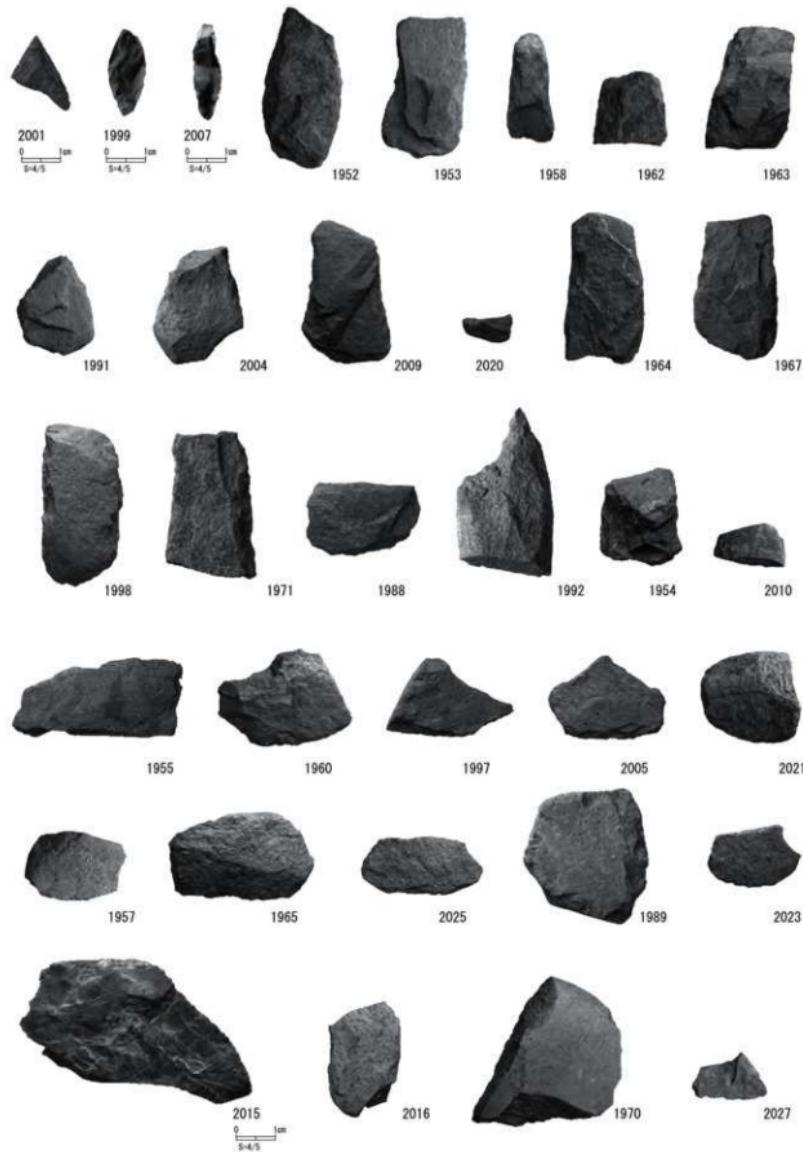
第70図 25号住居出土遺物



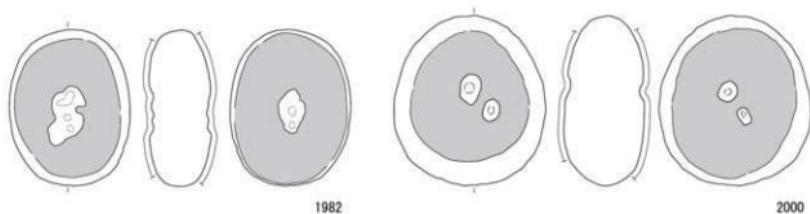
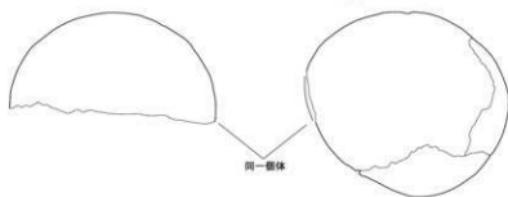
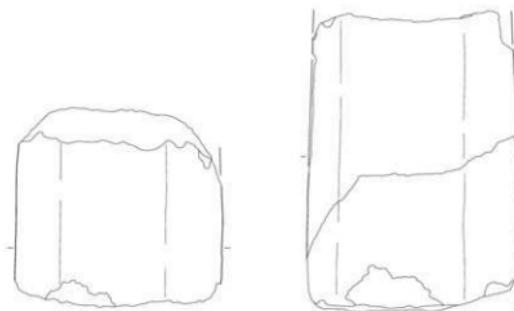
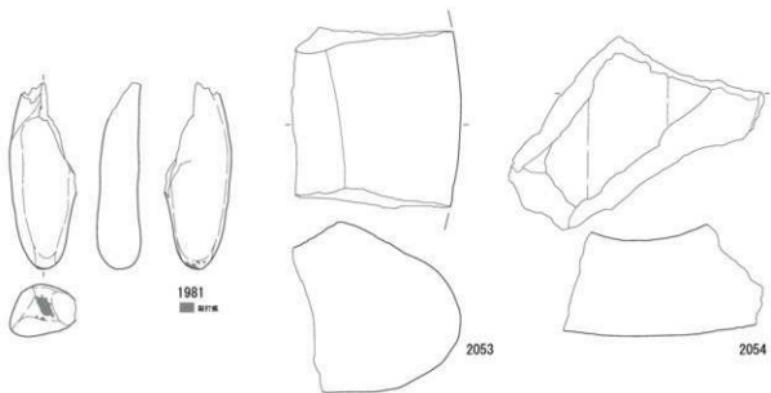
第 71 図 25 号住居出土遺物



第 72 図 25 号住居出土遺物

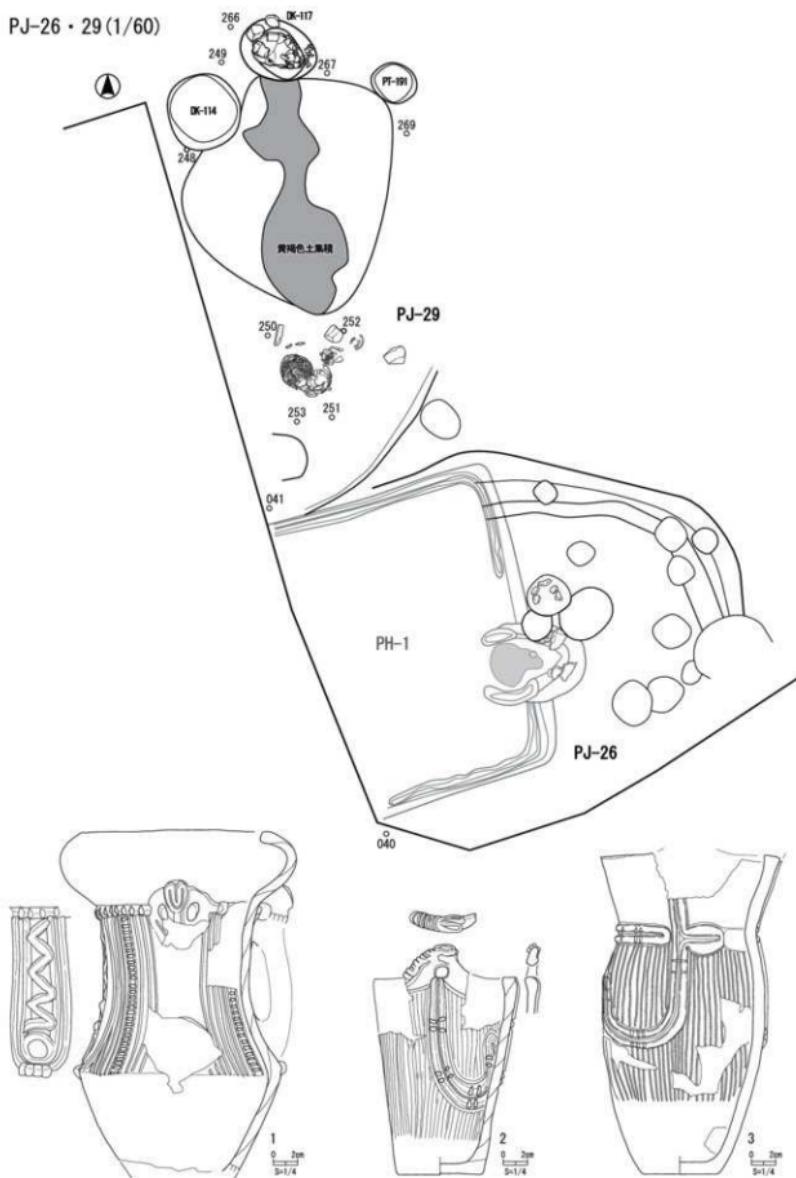


第73図 25号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

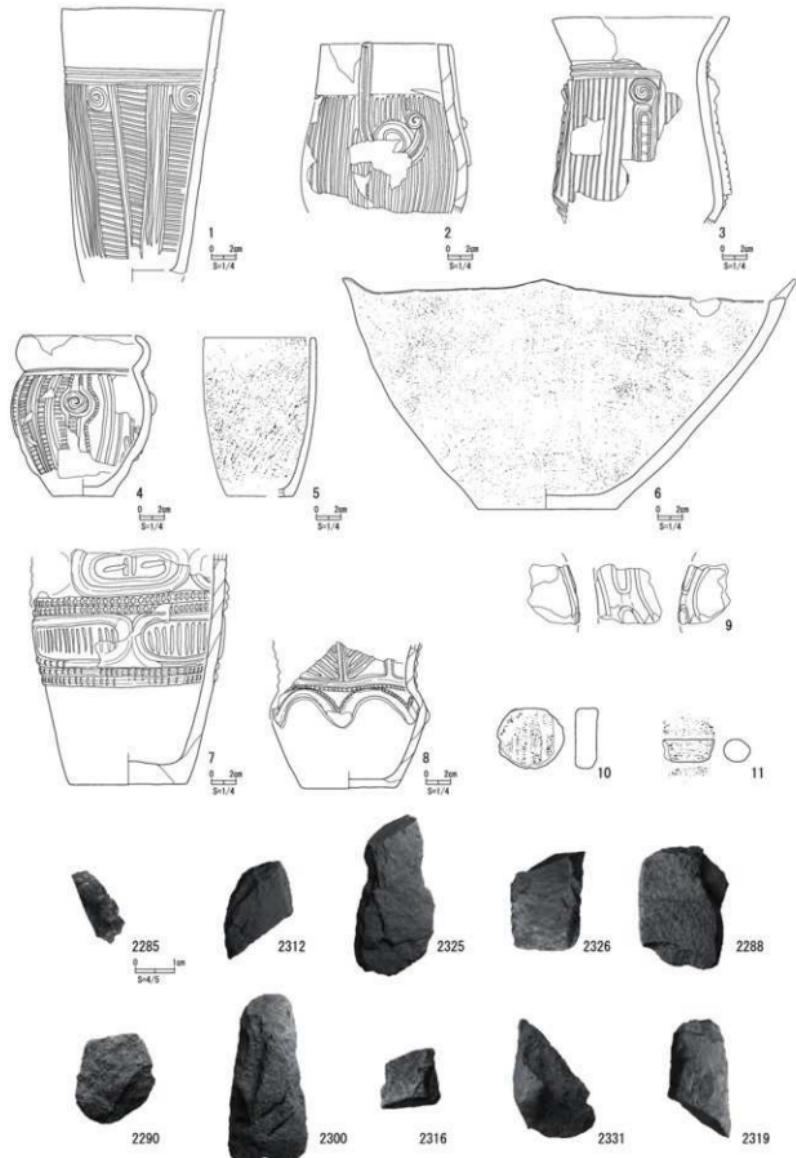


第 74 図 25 号住居出土遺物 (2051 以外は 1/3)

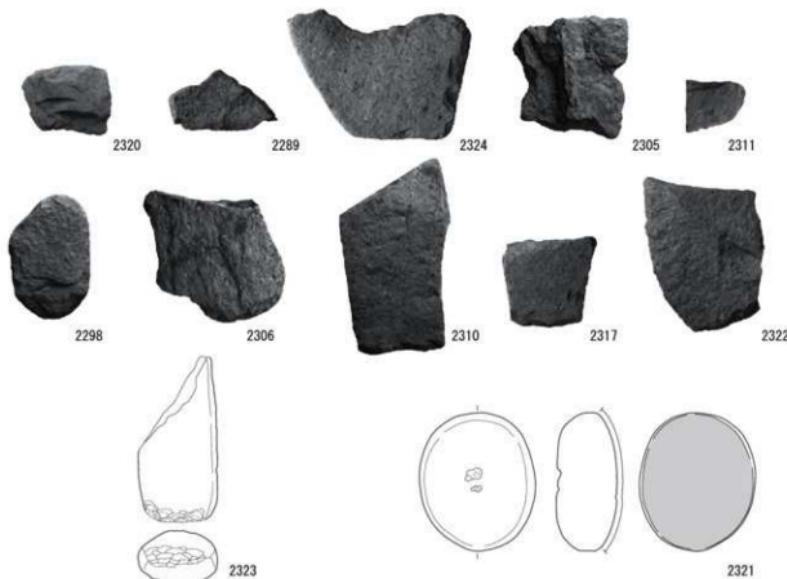
PJ-26・29(1/60)



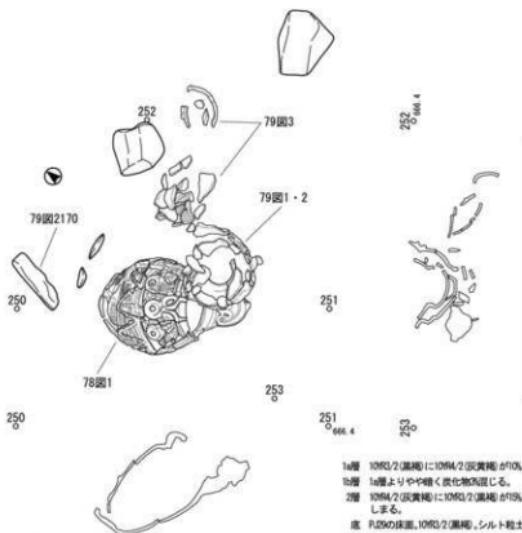
第75図 26号・29号住居・26号住出土遺物



第 76 図 26 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）

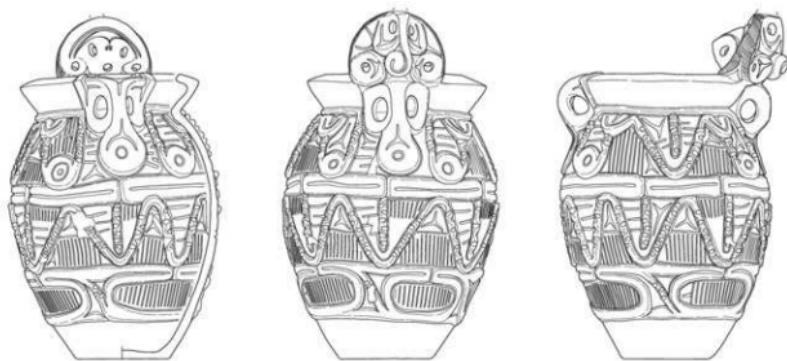
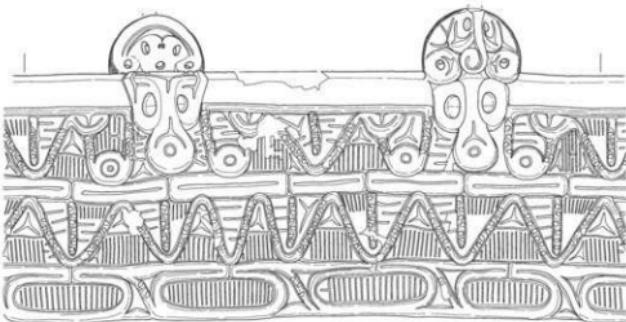


26号住居出土遺物 (1/3)



1a層 10FQ2(黒褐色)に10FQ4/2(灰黒褐色)が10%、炭化物のみ混じる。シルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
1b層 1a層よりやや暗く炭化物のみ混じる。
2層 10FQ4/2(灰黒褐色)に10FQ2(黒褐色)が10%、炭化物のみ混じる。シルト粘土、砂粒を多く含む。粘性なし。
底 10FQ4(灰褐色)、10FQ3/2(黒褐色)、シルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。

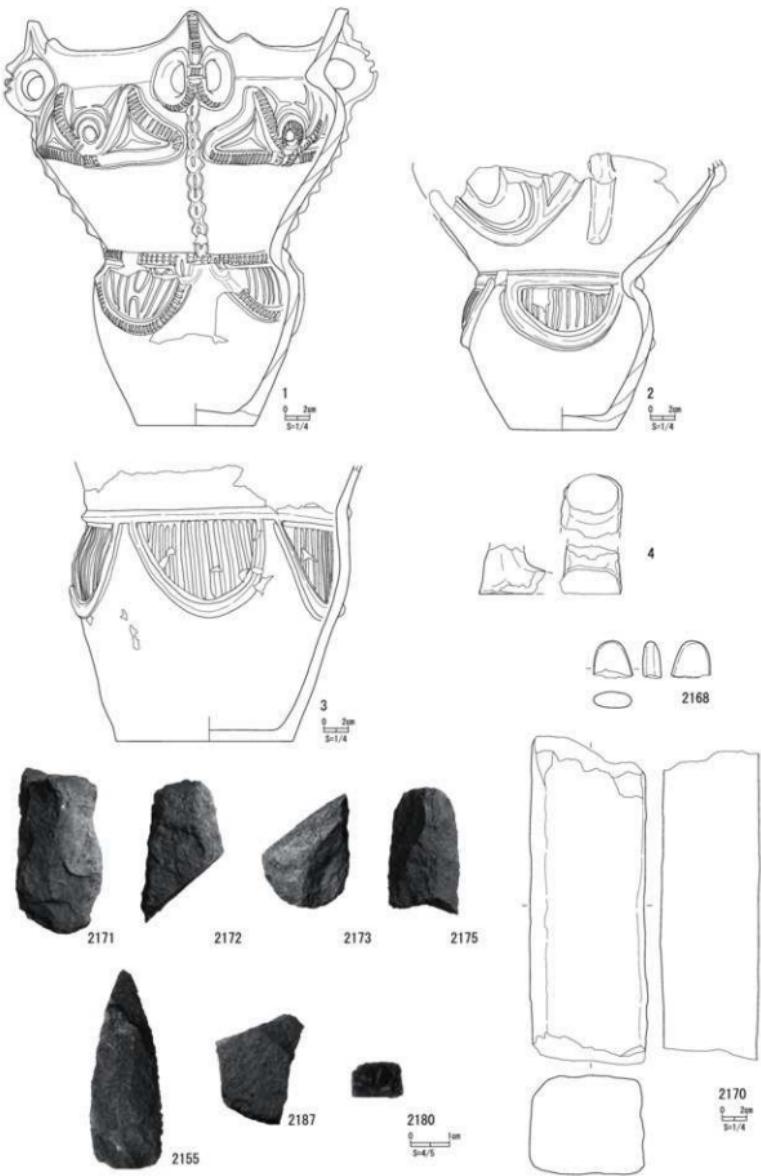
29号住居遺物出土状況 (1/20)



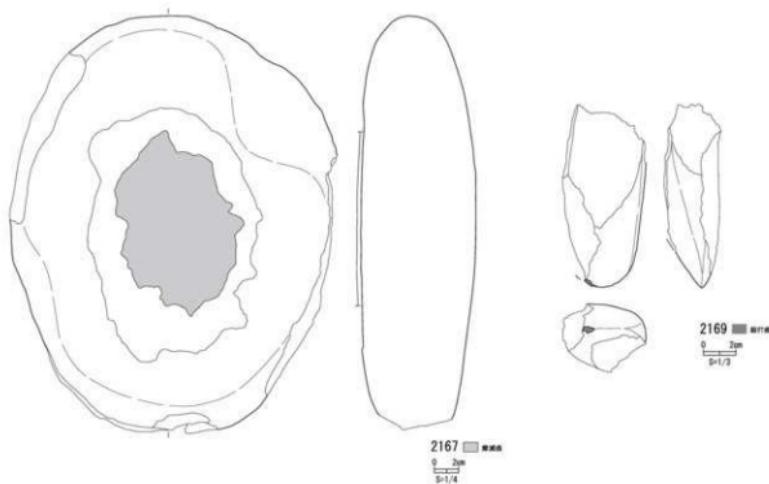
人面装飾付土器の出土状況



第 78 図 29 号住居出土遺物

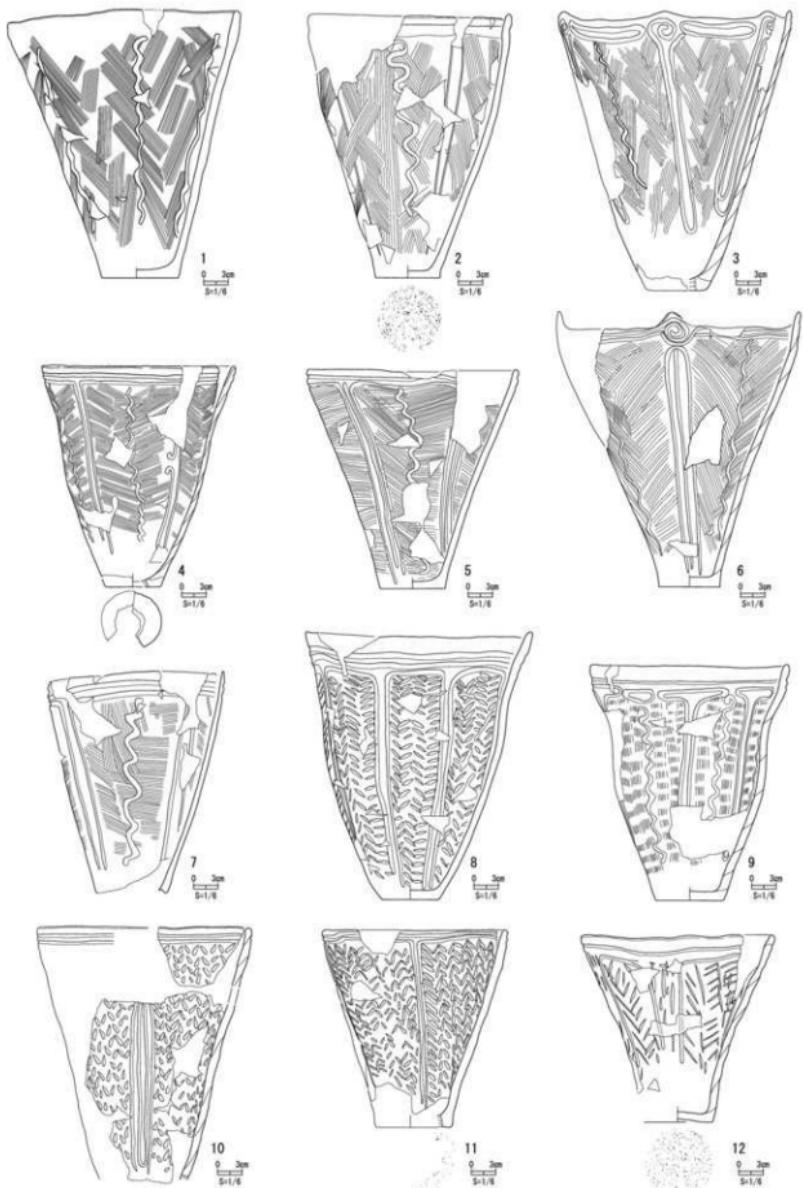


第79図 29号住居出土遺物（縮尺つき以外は1/3）

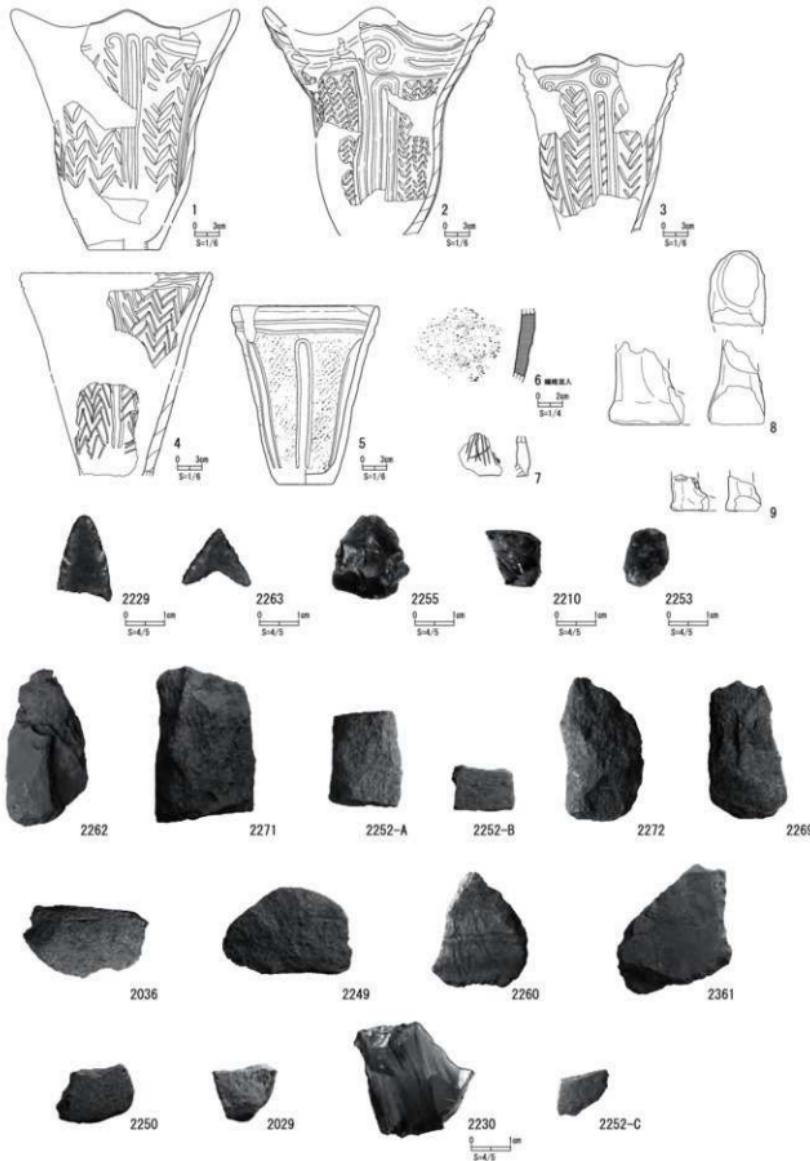


人面装飾付土器出土時の状況

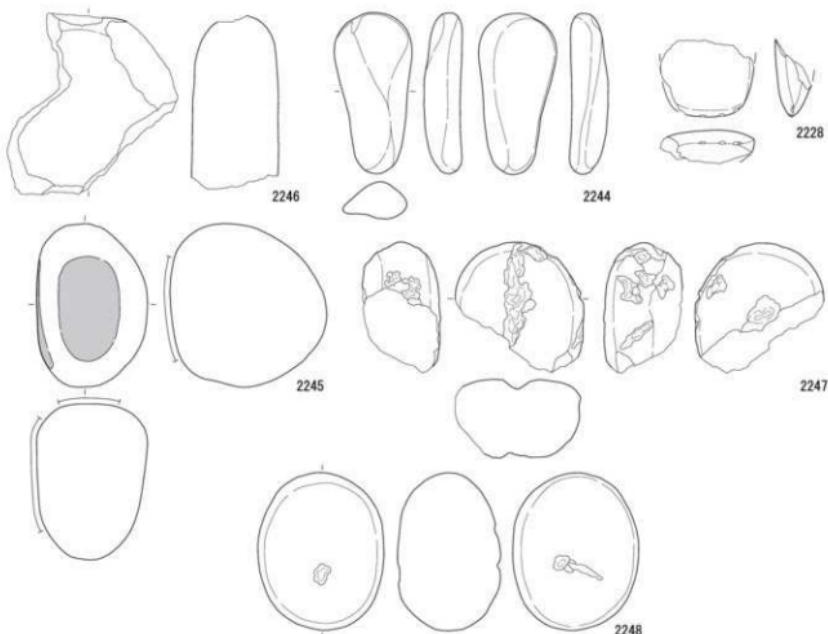
第 80 図 29 号住居出土遺物



第 81 図 27 号居住出土遺物

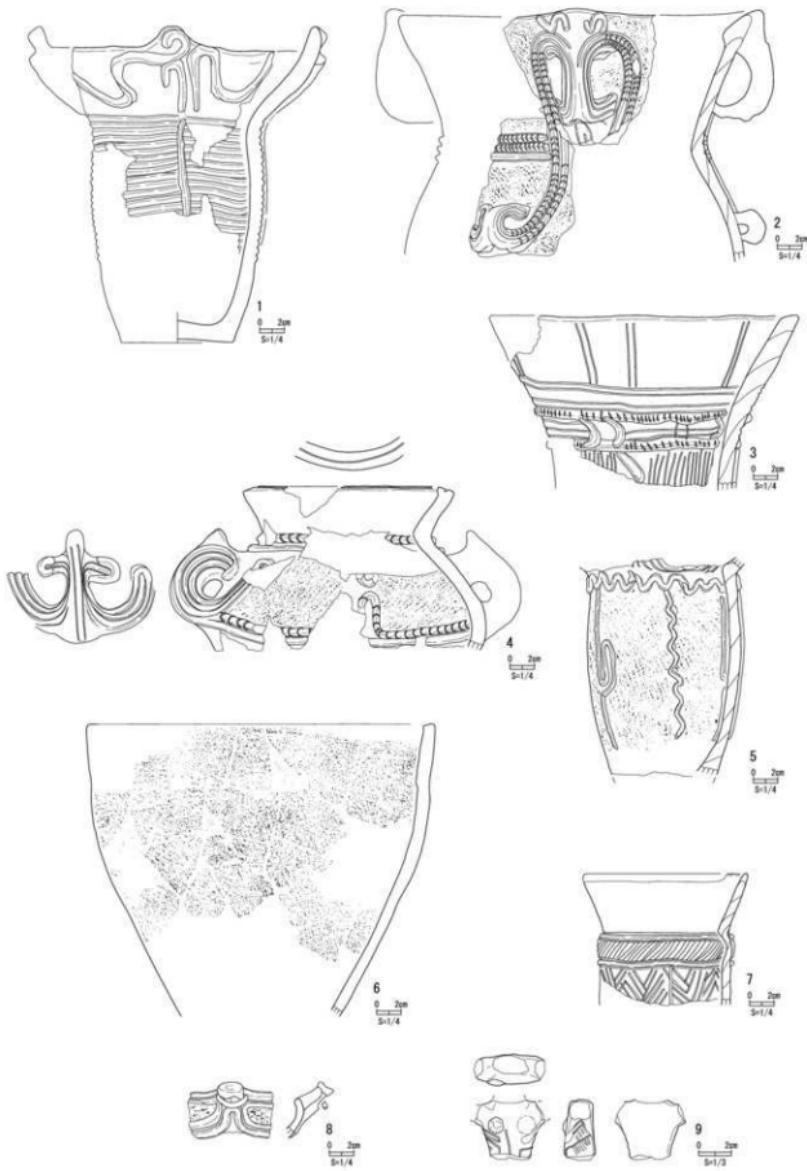


第 82 図 27 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



27号住居遺物出土状況

第83図 27号住居出土遺物 (1/3)



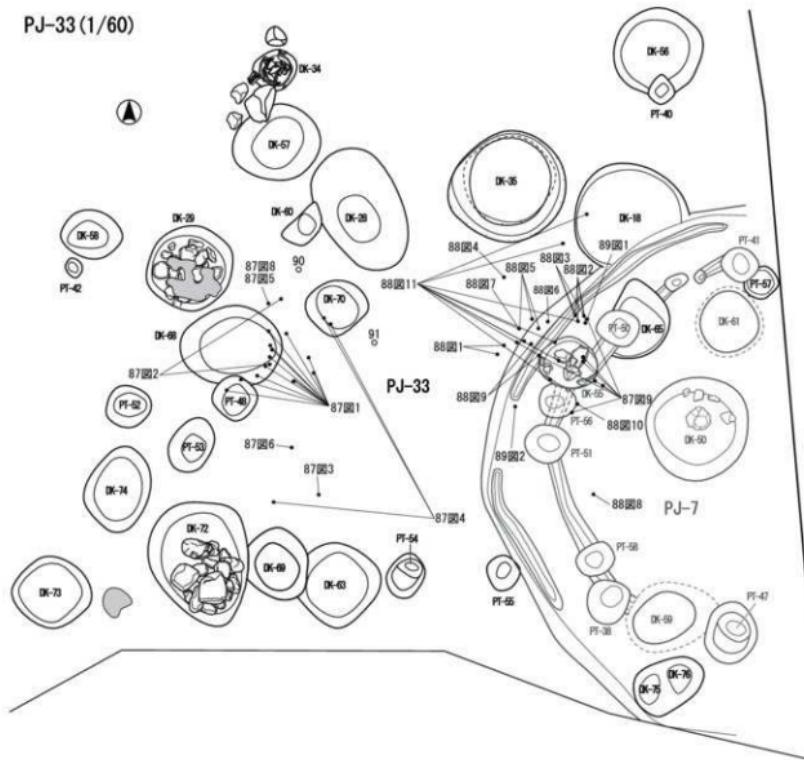
第 84 図 28 号住居出土遺物



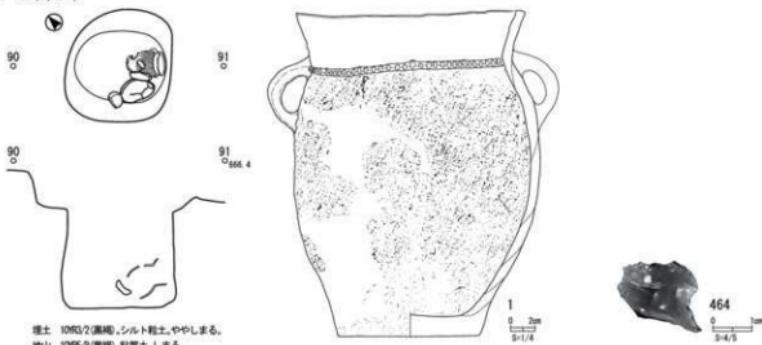
作業風景

第 85 図 28 号住居出土遺物 (2195、2220 以外は 1/3)

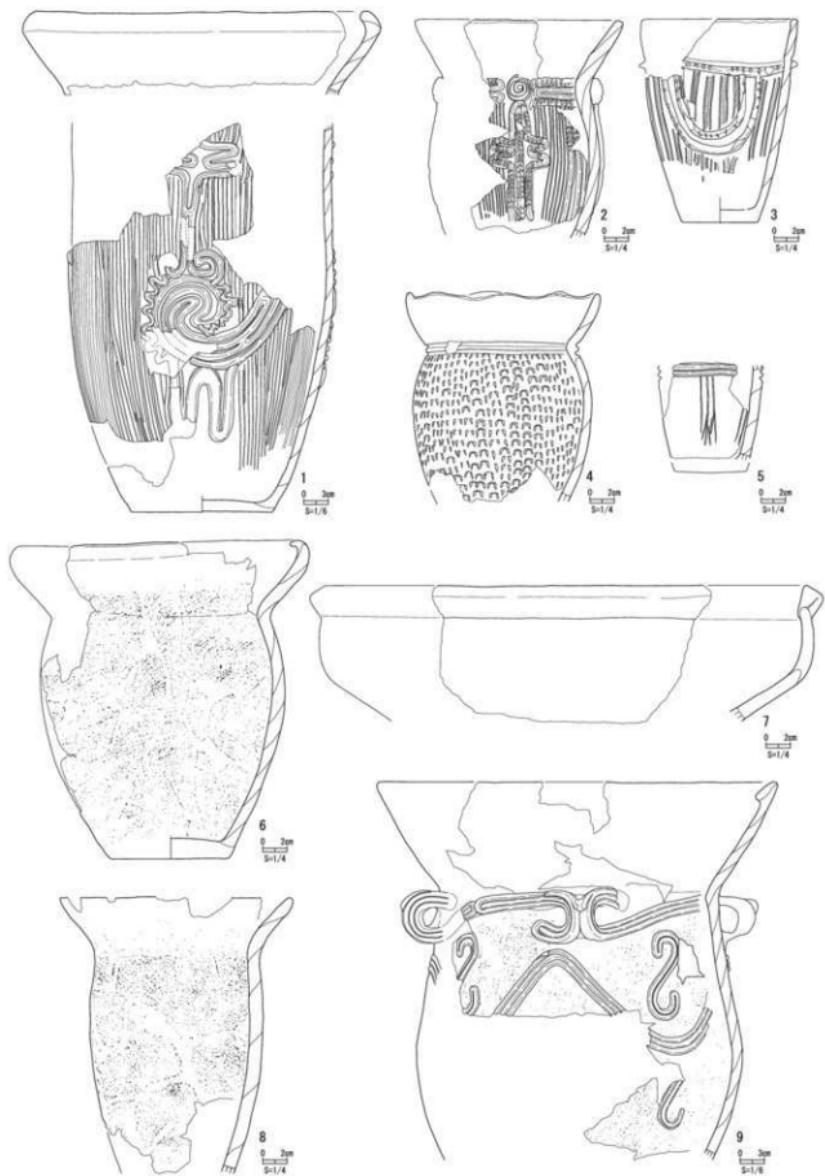
PJ-33 (1/60)



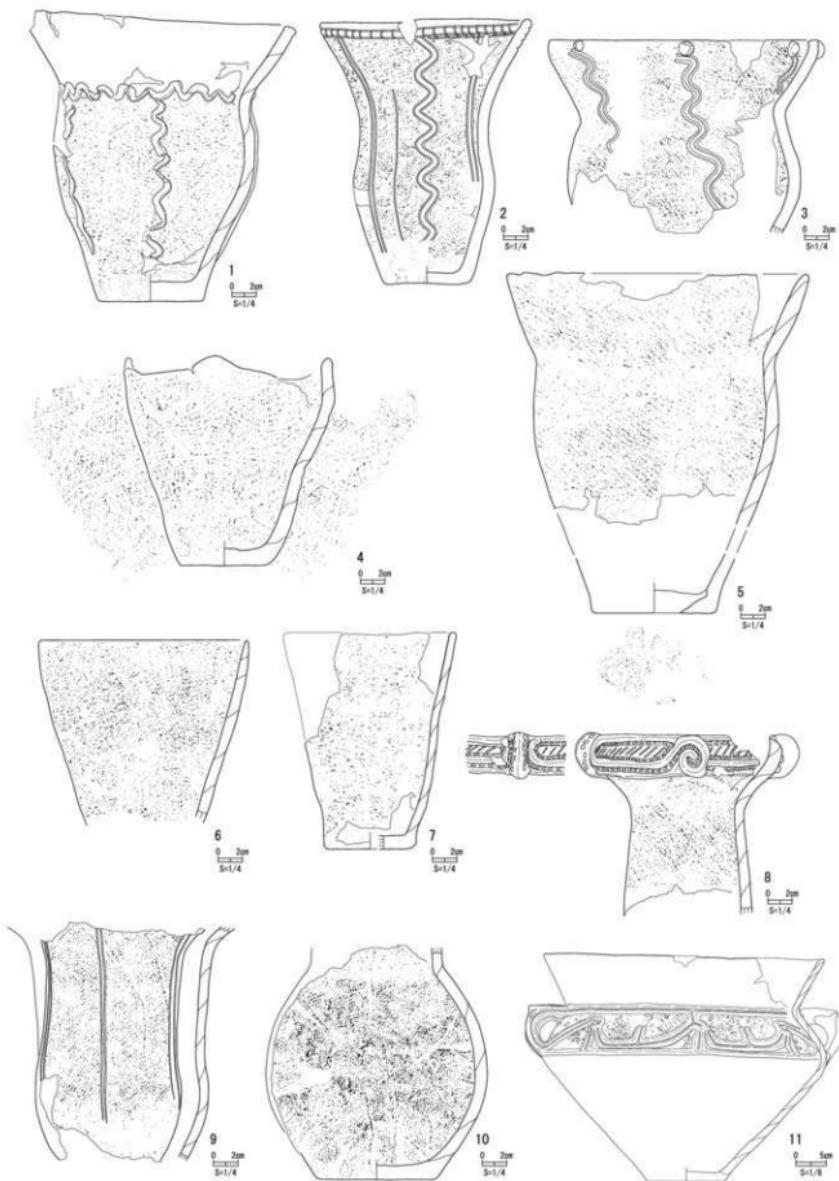
DK-70 (1/30)



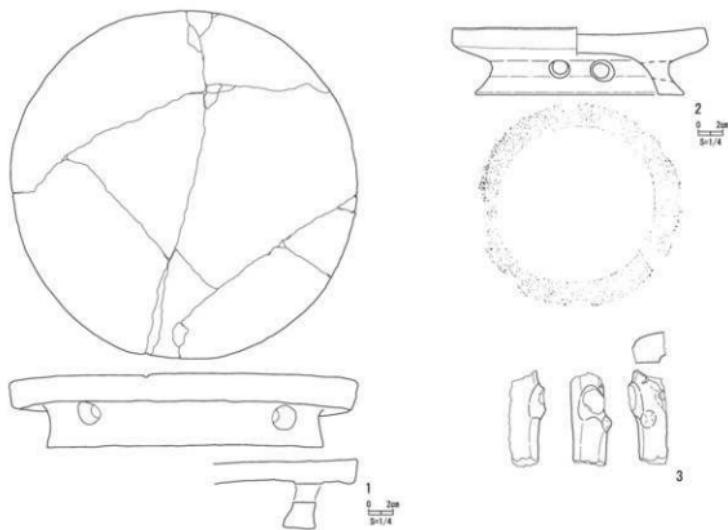
第 86 図 33 号住居・出土遺物



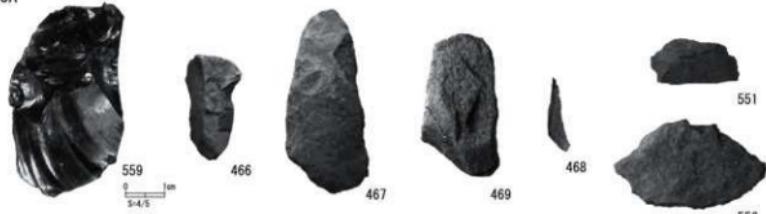
第 87 図 33 号住居出土遺物



第88図 33号住居出土遺物



33A



559
0-1cm
S-4/5

466

467
469

468

551

556



566-A
0-1cm
S-4/5

566-B
0-1cm
S-4/5

566-C
0-1cm
S-4/5

550
0-1cm
S-4/5

33B



583-B
0-1cm
S-4/5

483
0-1cm
S-4/5

595

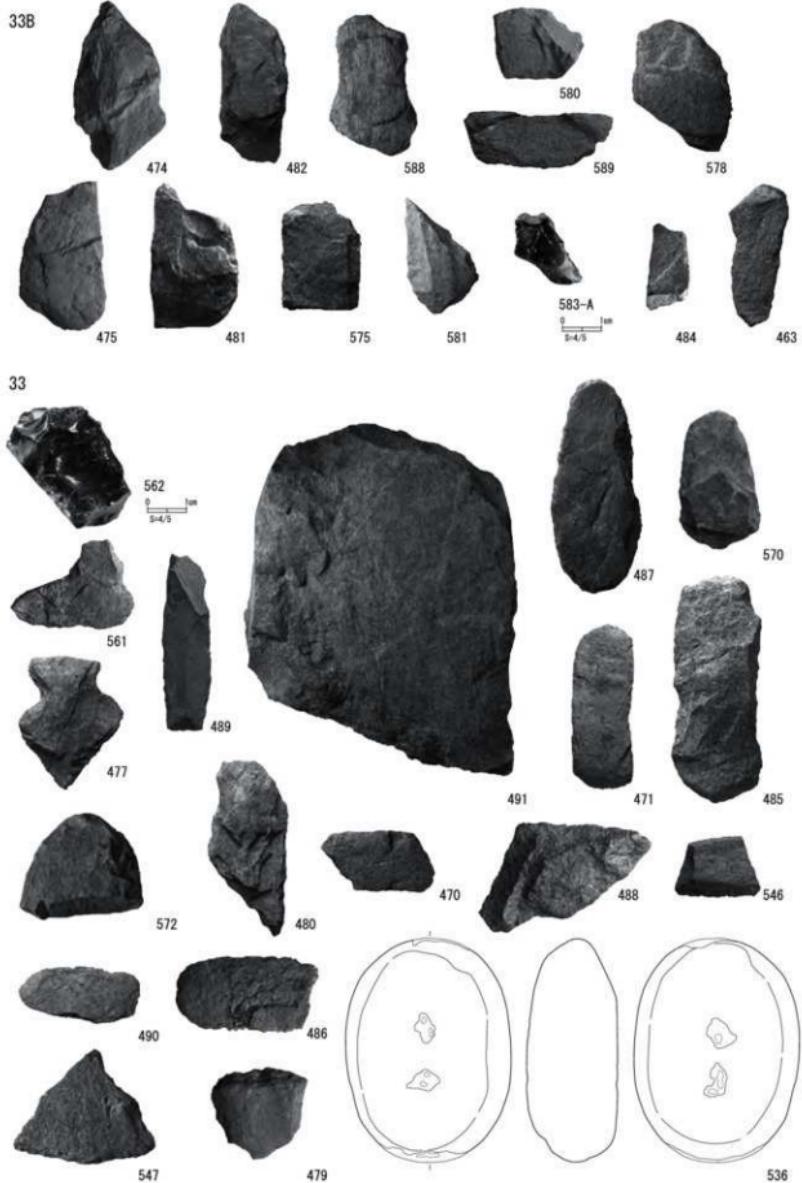
594

473

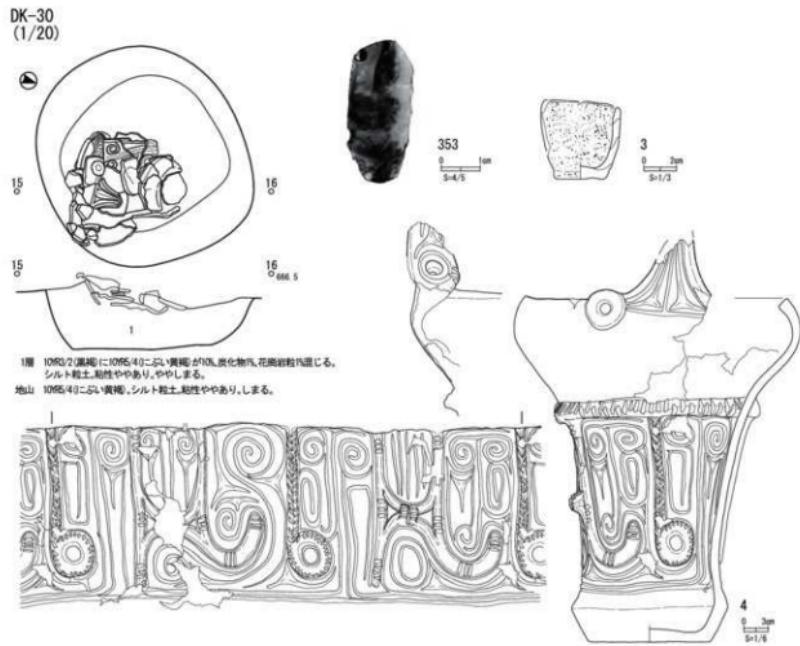
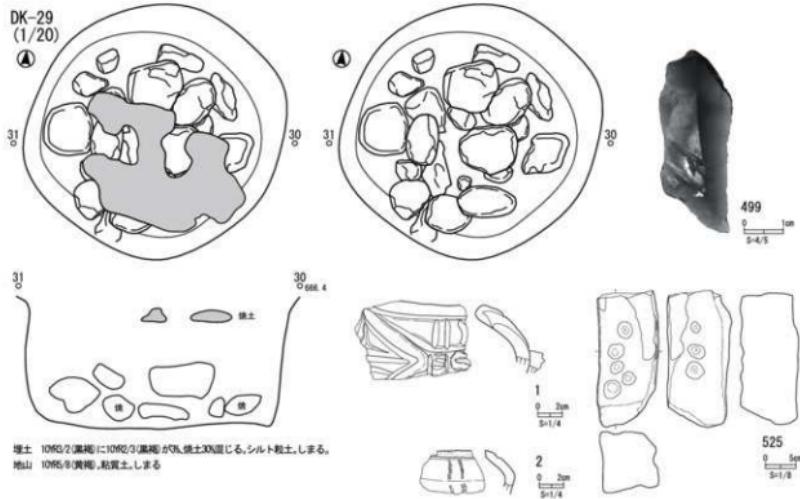
476

531

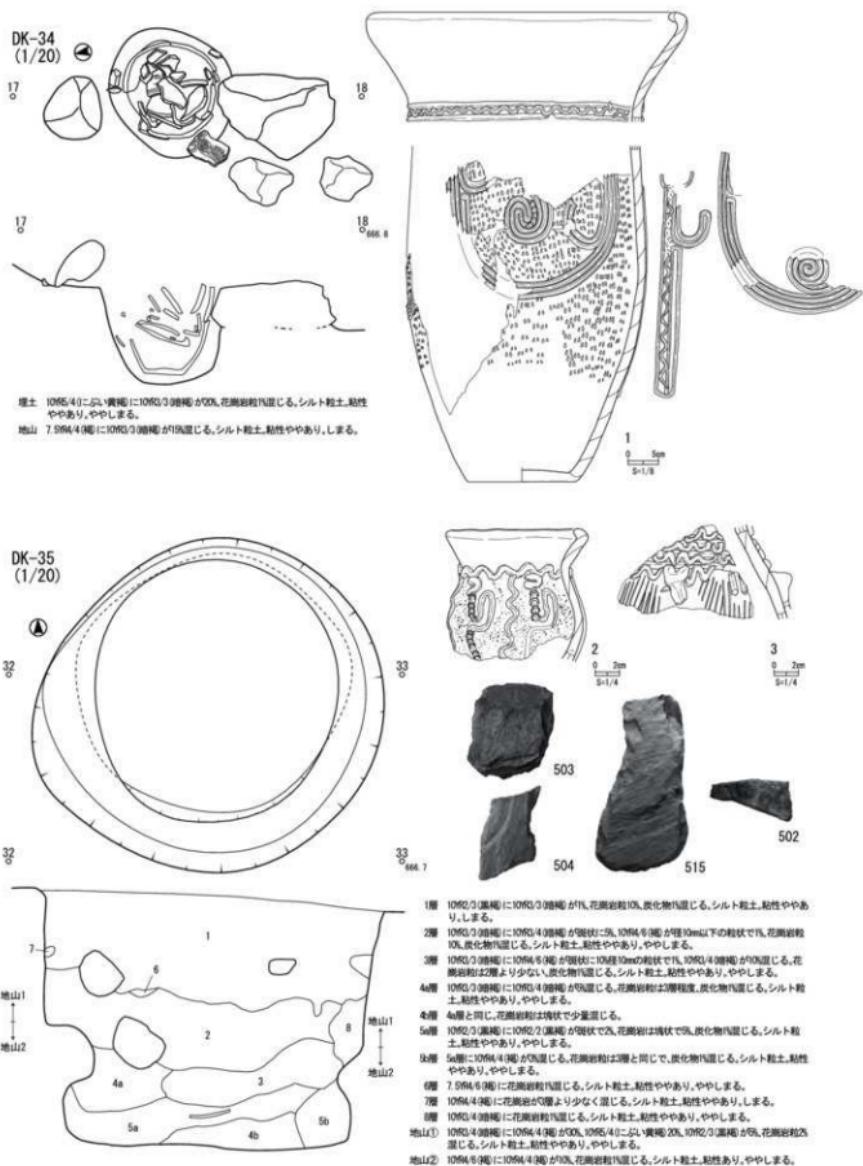
第 89 図 33 号住居出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



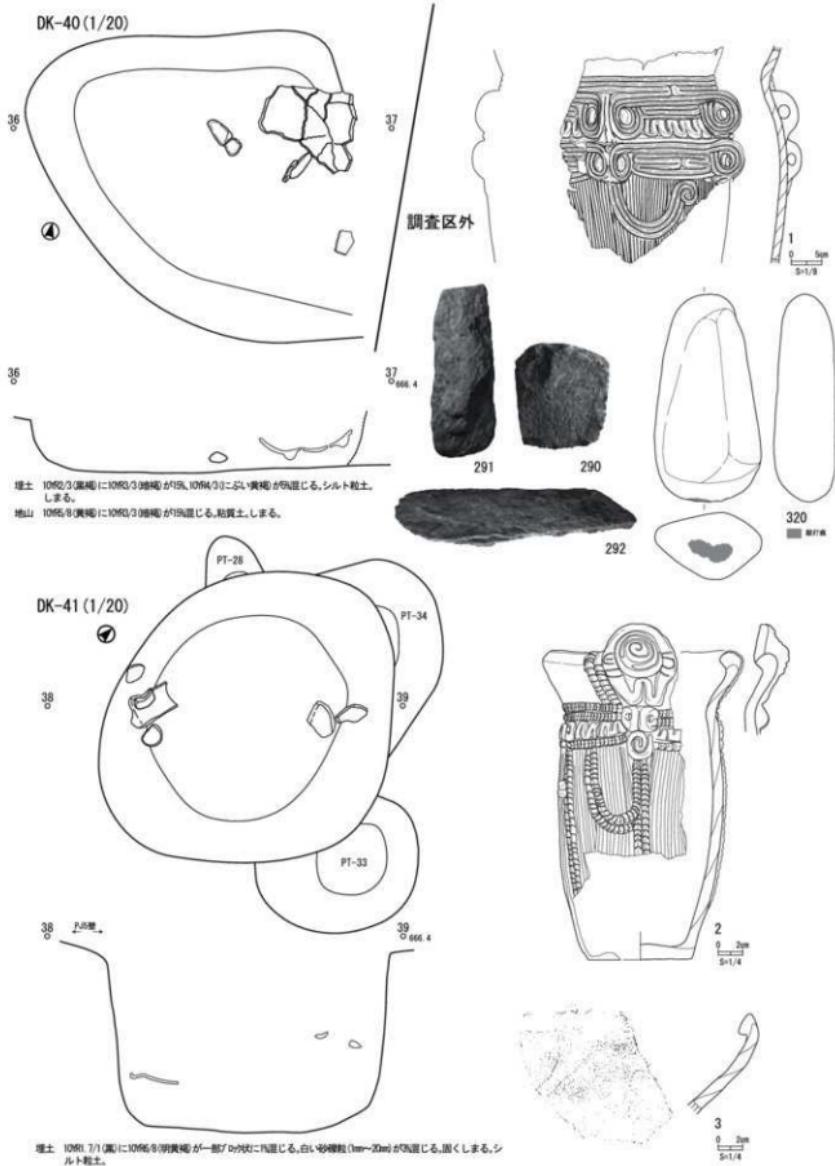
第 90 図 33 号住居出土遺物 (583-A、562 以外は 1/3)



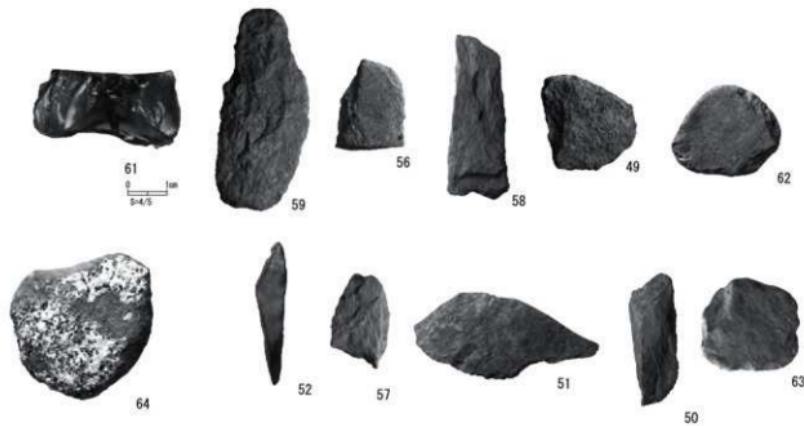
第91図 29号土坑・30号土坑



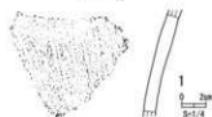
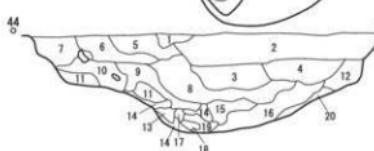
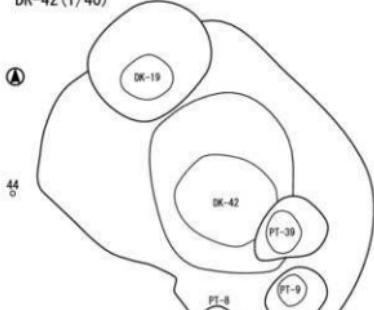
第 92 図 34 号土坑・35 号土坑（遺物は縮尺つき以外は 1/3）



第 93 図 40 号土抗・41 号土抗（遺物は縮尺つき以外は 1/3）



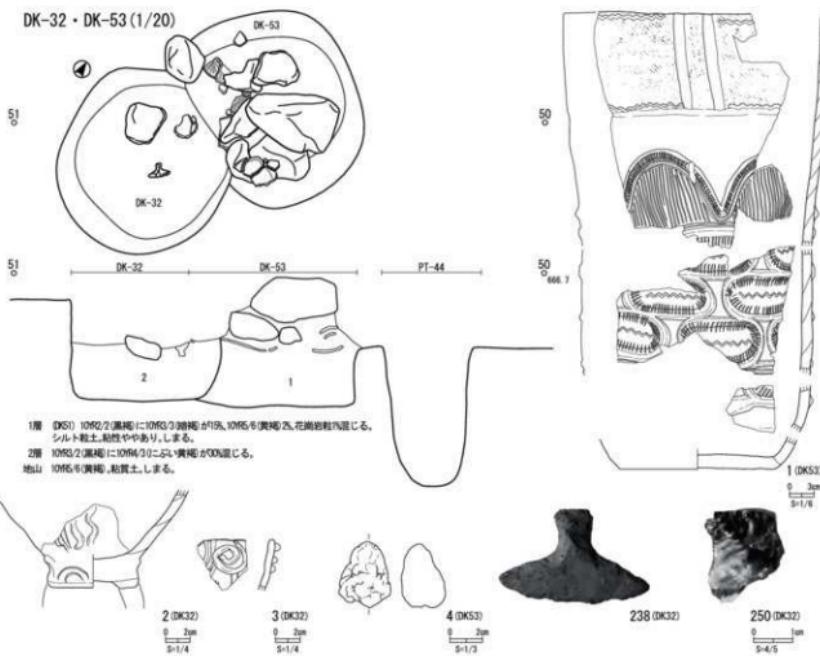
DK-42 (1/40)



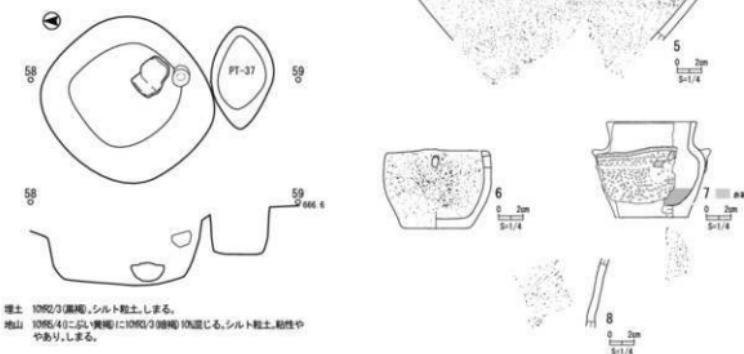
- 1層 1095-2(灰黄褐色)に1095-1(灰白)が0cm、1095-2(灰黄褐色)が0cm、花崗岩粒が10%混じる。シルト粘土(砂粒含む)、粘性なし。しまる。
 2層 1095-2(黒褐色)に1095-2(灰黄褐色)が0cm、炭化物5%、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性なし。しまる。
 3層 1095-2(黒褐色)に1095-2(灰黄褐色)が0cm、炭化物5%、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性なし。しまる。
 4層 1095-2(黒褐色)に1095-4(暗褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
 5層 1095-2(灰褐色)に1095-4(暗褐色)が0cm、1095-2(灰黄褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性なし。しまる。
 6層 1095-4(灰褐色)に1095-5(黄褐色)が0cm、1095-3(暗褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
 7層 1095-2(灰黄褐色)に1095-2(灰褐色)が0cm、花崗岩粒5mm~10mmが10%混じる。シルト粘土、粘性なし。しまる。
 8層 1095-4(灰褐色)に1095-5(黄褐色)が0cm、花崗岩粒2mmの砂粒含む、1095-2(黒褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
 9層 1095-2(暗褐色)に1095-5(黄褐色)が0cm、1095-1(暗褐色)が0cm、花崗岩粒10%混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
 10層 1095-2(黒褐色)に1095-2(灰黄褐色)が0cm、花崗岩粒5%混じる。シルト粘土、粘性なし。しまる。
 11層 1095-2(暗褐色)に1095-6(黄褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土、粘性ややあり。ややしまる。
 12層 1095-2(暗褐色)に1095-4(暗褐色)が0cm、1095-5(黄褐色)が0cm、1095-5(灰黄褐色)が0cm、花崗岩粒5%混じる。シルト粘土、粘性ややあり。ややしまる。
 13層 1095-2(暗褐色)に1095-5(黄褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。粘質土。しまる。
 14層 1095-6(黄褐色)が0cm、粘質土。しまる。
 15層 1095-2(暗褐色)に1095-4(灰褐色)が0cm、1095-2(暗褐色)が0cm、花崗岩粒10%混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。
 16層 1095-1(黒褐色)に1095-7(暗褐色)が0cm、1095-6(黄褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。粘質土。ややしまる。
 17層 1095-2(灰黄褐色)に1095-6(黄褐色)が0cm、シルト粘土、粘性なし。ややしまる。
 18層 1095-2(暗褐色)が0cm、粘質土。しまる。
 19層 1095-6(黄褐色)に1095-6(黄褐色)が0cm、花崗岩粒が混じる。シルト粘土(砂粒含む)、粘性なし。ややしまる。
 20層 1095-9(黄褐色)が0cm、粘質土。しまる。

第 94 図 41 号土抗・42 号土抗（遺物は縮尺つき以外は 1/3）

DK-32・DK-53(1/20)

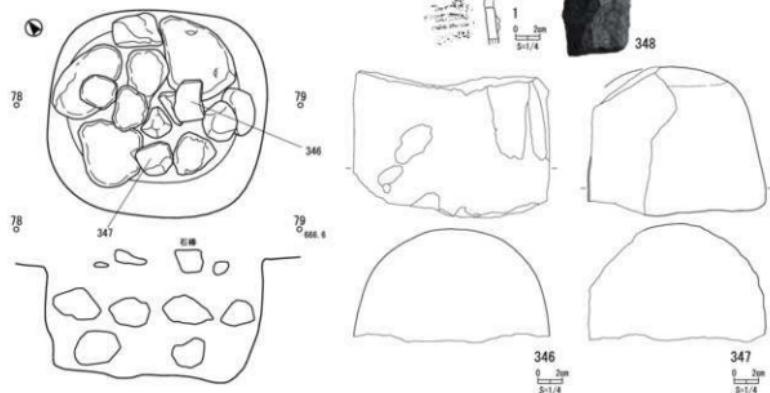


DK-54(1/20)



第95図 32号土坑・53号土坑・54号土坑

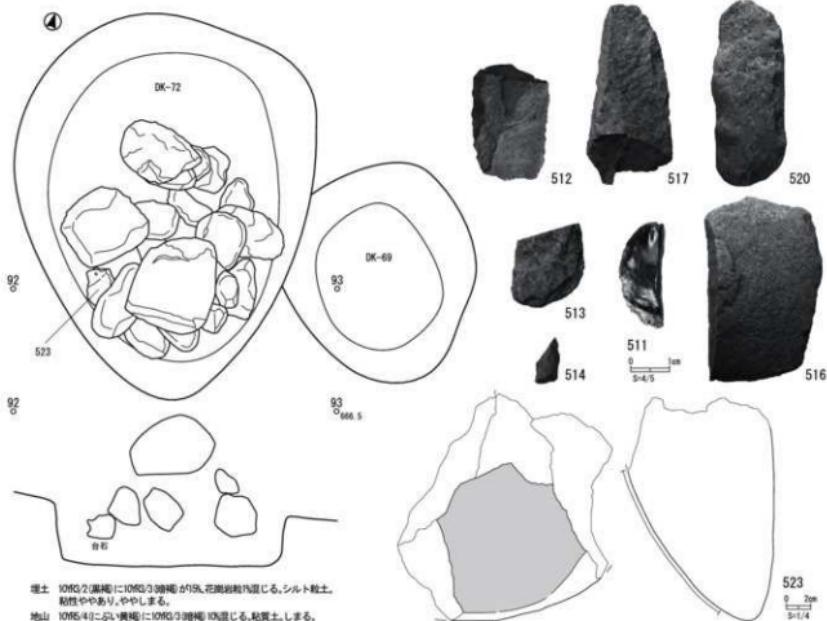
DK-64 (1/20)



堆土 10H2/2(黒褐色)に10H2/3(暗褐色)10c.10H5(黄褐色)7%。
花崗岩粒、皮膜物質混じる。シルト粘土、粘性やや
あり、やわらか。

地山 10H5/8(黄褐色)、粘質土、しめる。

DK-72 (1/20)

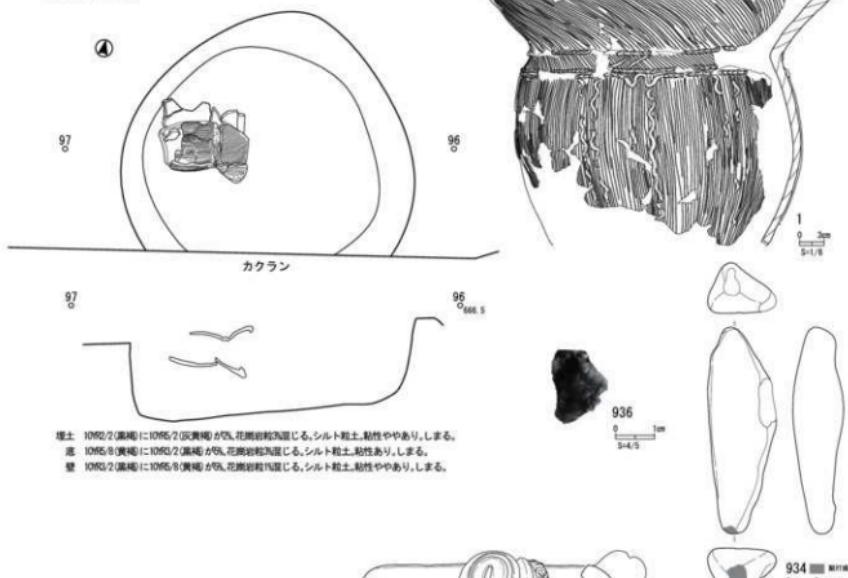


堆土 10H2/2(黒褐色)に10H2/3(暗褐色)7%、花崗岩粒内混じる。シルト粘土、
粘性ややあり、やわらか。

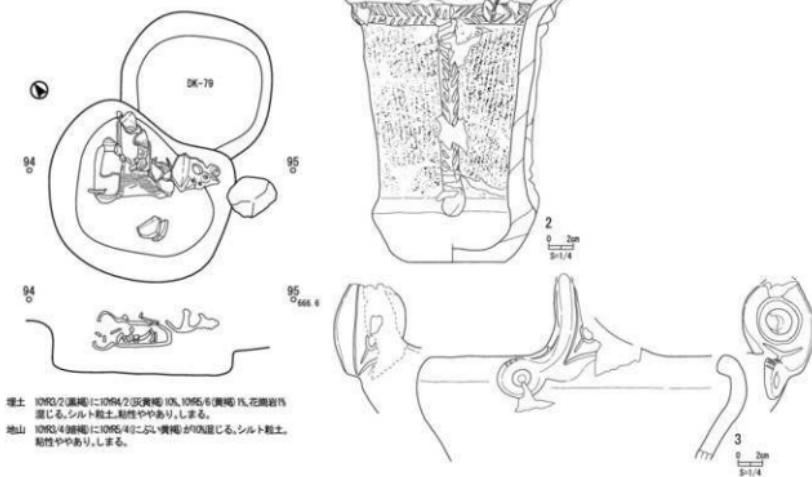
地山 10H5/4(こぶし状)に10H5/3(暗褐色)10%混じる。粘質土、しめる。

第 96 図 64 号土抗・72 号土抗（遺物は縮尺つき以外は 1/3）

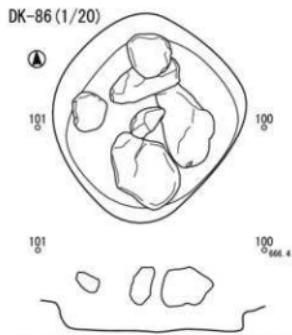
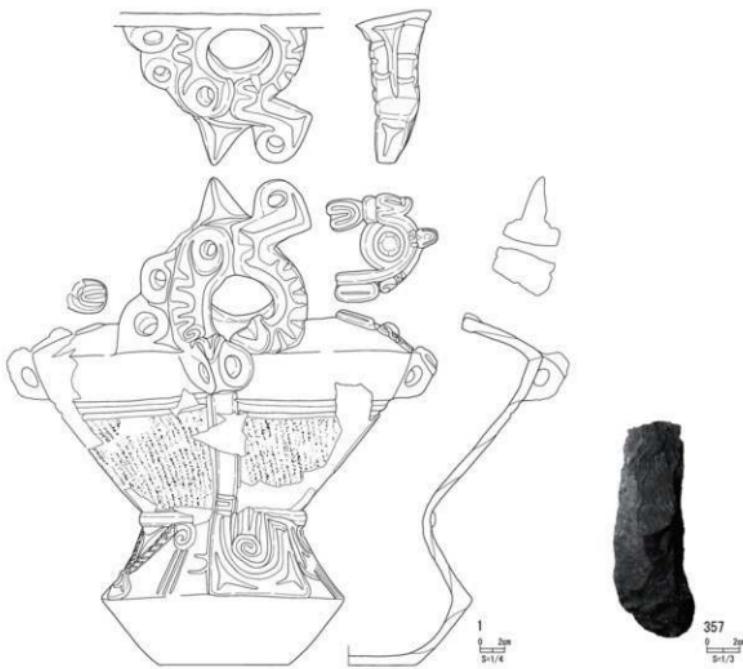
DK-77 (1/20)



DK-78 (1/20)



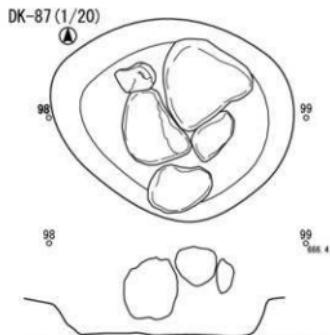
第 97 図 77 号土坑・78 号土坑



堆土 1062.2(黒褐色)に1060.2(暗緑褐色)が1%、1065.4(土)に1%、黄褐色)が1%、
灰化物を混じる。シルト粘土、粘性ややあり。しまる。

底 1065.9(黄褐色)に1062.2(暗緑褐色)が約1%混じる。粘質土。しまる。

壁 1062.2(暗緑褐色)に1065.4(土)に1%、黄褐色) 1%、灰化物を混じる。シルト
粘土、粘性ややあり。しまる。

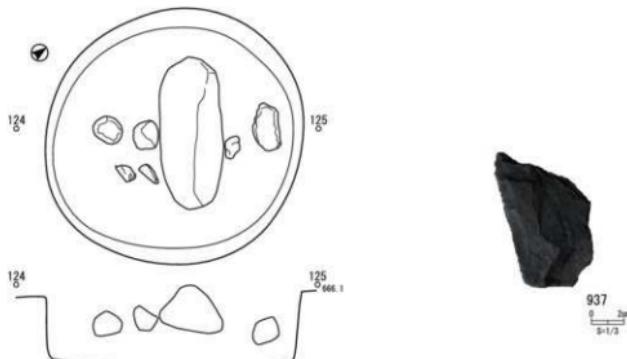


堆土 1062.2(黒褐色)に1061.2(暗緑褐色)が約1%、1065.9(黄褐色)が1%混じる。シルト
粘土、粘性ややあり。しまる。

地山 1065.9(黄褐色)、粘質土。しまる。

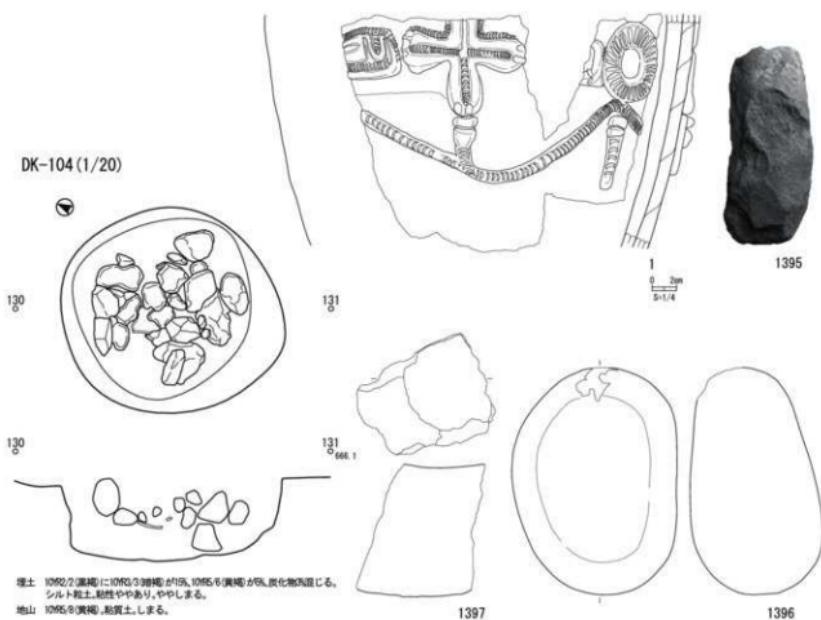
第 98 図 78 号土坑出土遺物・86 号土坑・87 号土坑

DK-103 (1/20)



埋土 1093/1(高周)に1096/9(中黄褐)が充満する。シルト粘土、粘性やあり。しまる。
地山 1096/9(中黄)、粘質土。しまる。

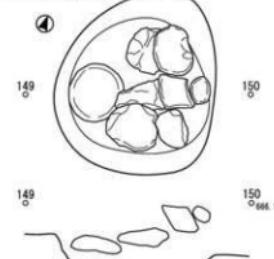
DK-104 (1/20)



埋土 1092/2(高周)に1093/3(暗褐)が充満、1095/6(黄褐)が充満物を含む。
シルト粘土、粘性やあり、ややしまる。
地山 1095/6(黄褐)、粘質土。しまる。

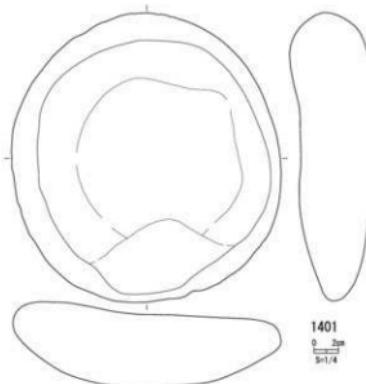
第 99 図 103 号土坑・104 号土坑（遺物は縮尺つき以外は 1/3）

DK-109 (1/20)

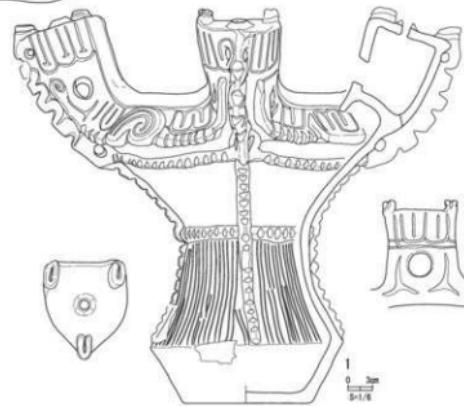
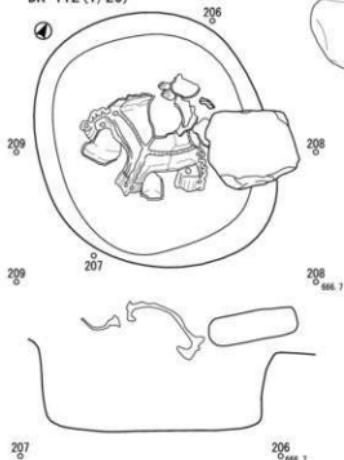


埋土 10R6(3) 深掘に10R6(9) 黄褐色、凸面に盛る。シルト粒土。
粘性ややあり。しまる。

地山 10R6(9) 黄褐色、粘質土。しまる。



DK-112 (1/20)



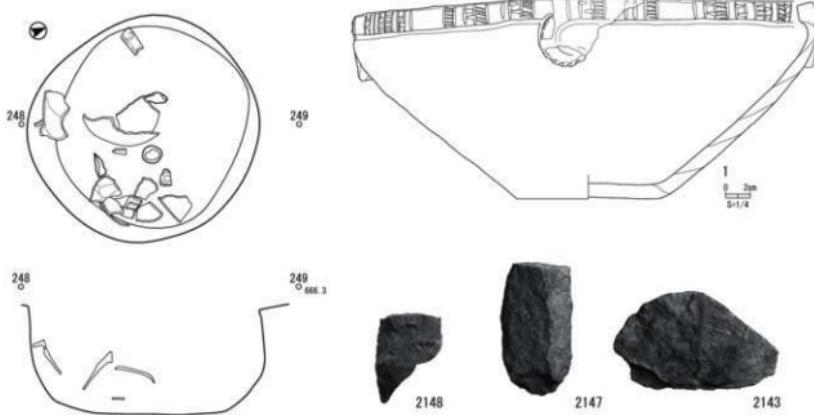
埋土 10R6(2) 深掘に10R6(2) 淡黄褐色、石漠岩
粒(砂岩の塊含む)が混じる。シルト粒
土。粘性ややあり。しまる。

地山 10R6(2) 深掘、シルト粒土。粘性ややあり。
しまる。



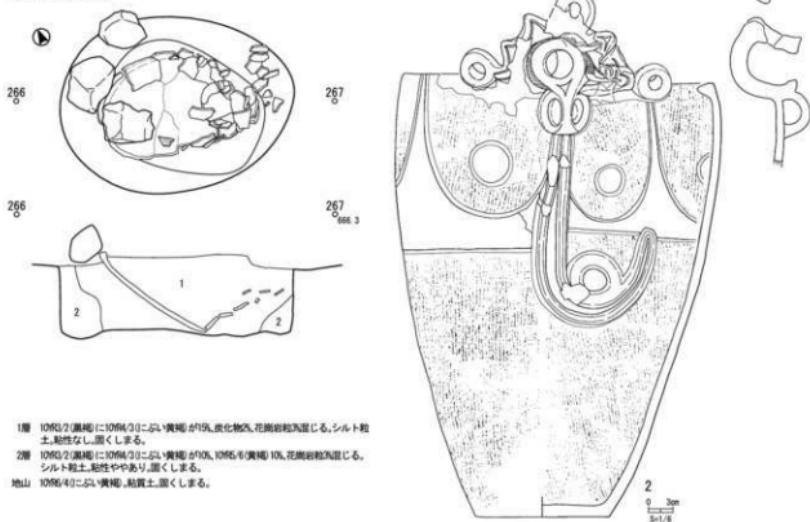
第 100 図 109 号土抗・112 号土抗 (1401、1 以外は 1/3)

DK-114 (1/20)



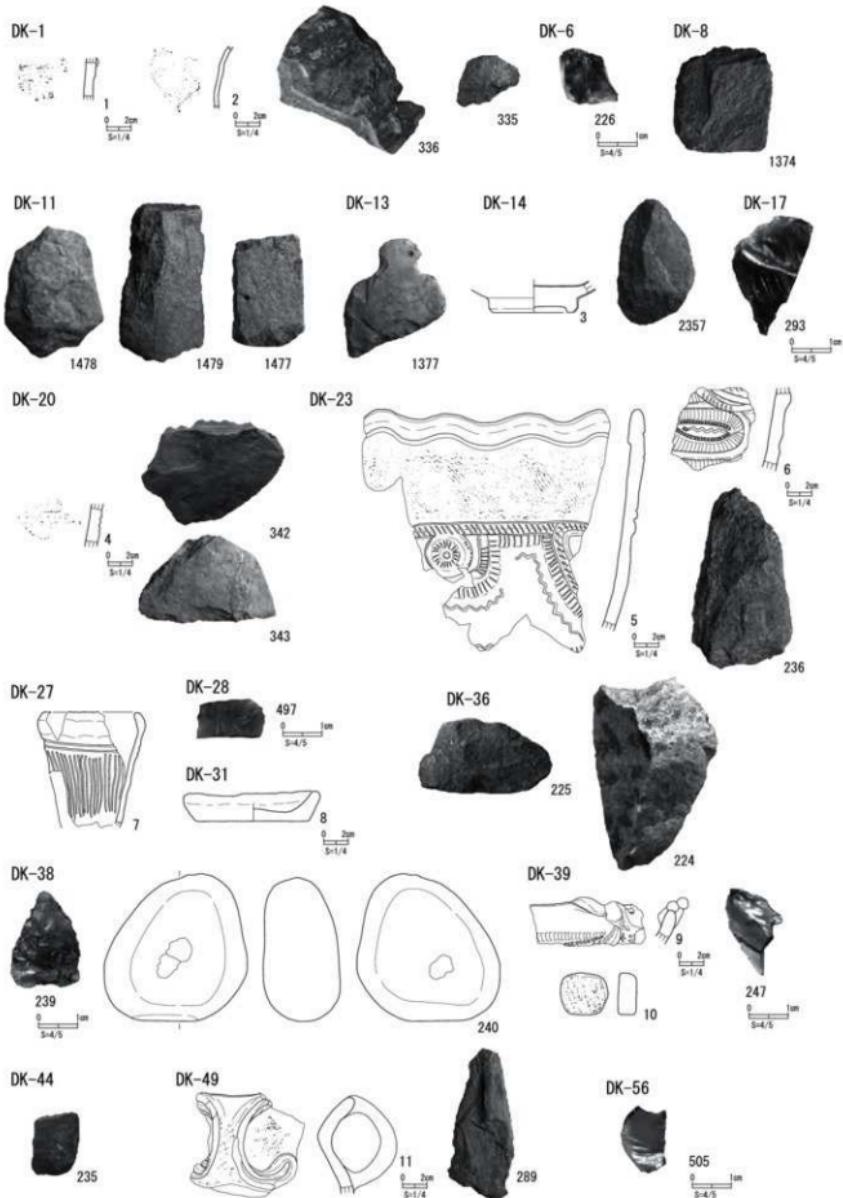
埋土 1052/1(黒褐色)に1052/4(暗緑色)20, 1054/4(暗緑色)10, 硫化物混じる。シルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
地山 1054/6(暗緑色)、粘質土、ややしまる。

DK-117 (1/20)



1層 1050/2(黒褐色)に1054/3(こぶし状黄褐色)が10%程度化物5%、花崗岩砕屑を含む。シルト粘土、粘性なし、固くしまる。
2層 1050/3(黒褐色)に1054/3(こぶし状黄褐色)が10%, 1055/6(黄褐色)10%、花崗岩砕屑を含む。シルト粘土、粘性ややあり、固くしまる。
地山 1056/4(こぶし状黄褐色)、粘質土、固くしまる。

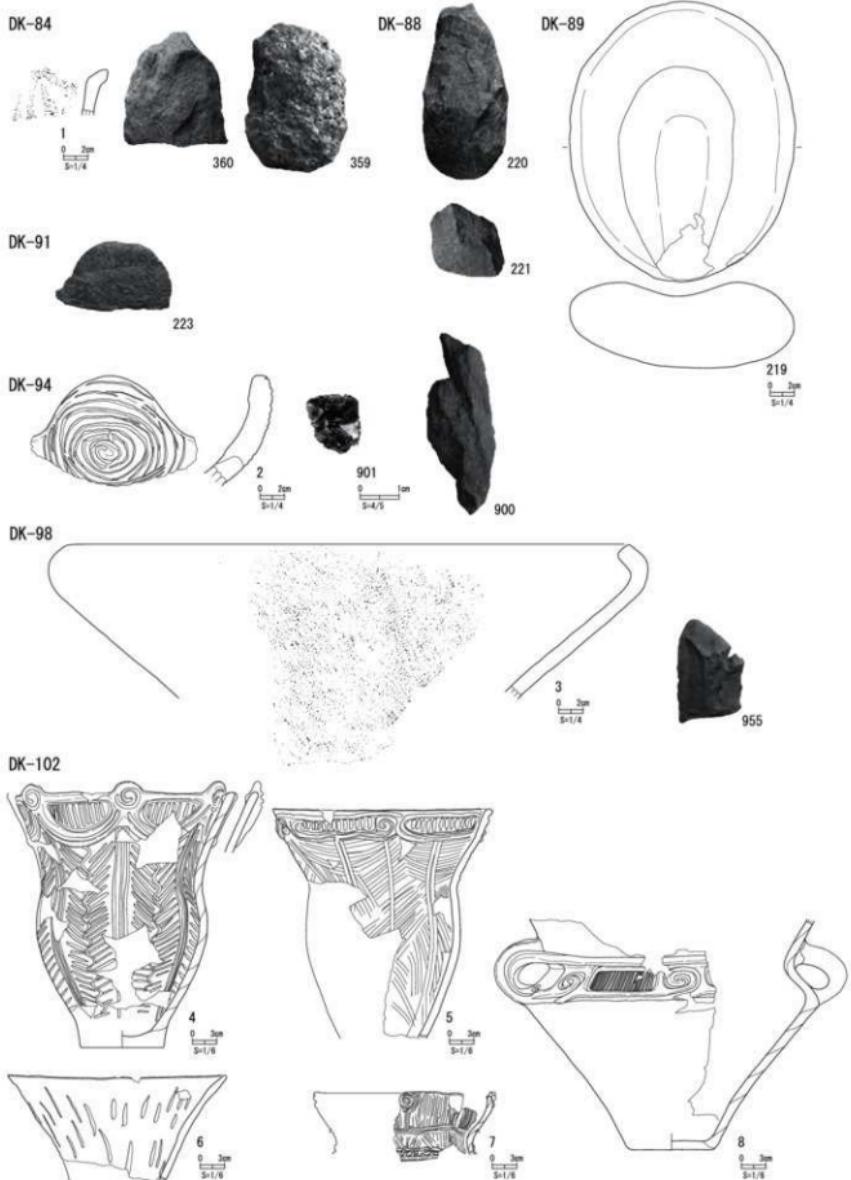
第 101 図 114 号土抗・117 号土抗 (1、2 以外は 1/3)



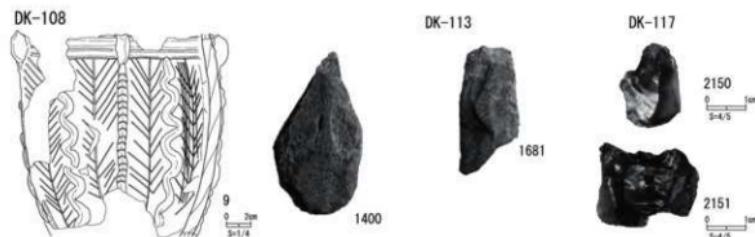
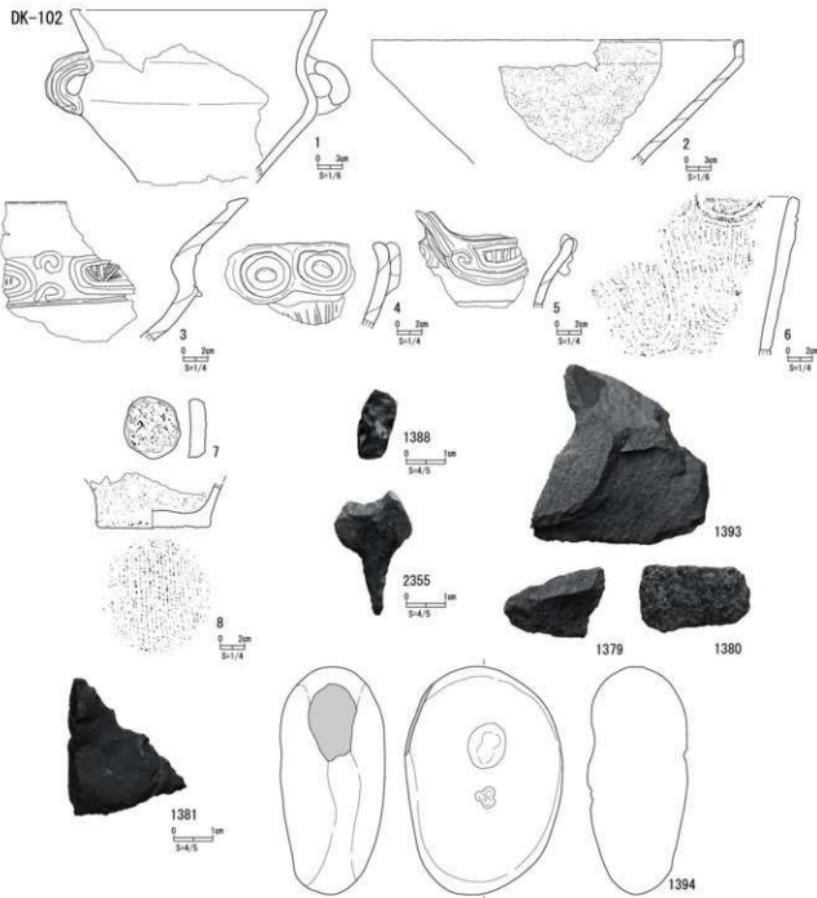
第 102 図 土抗出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



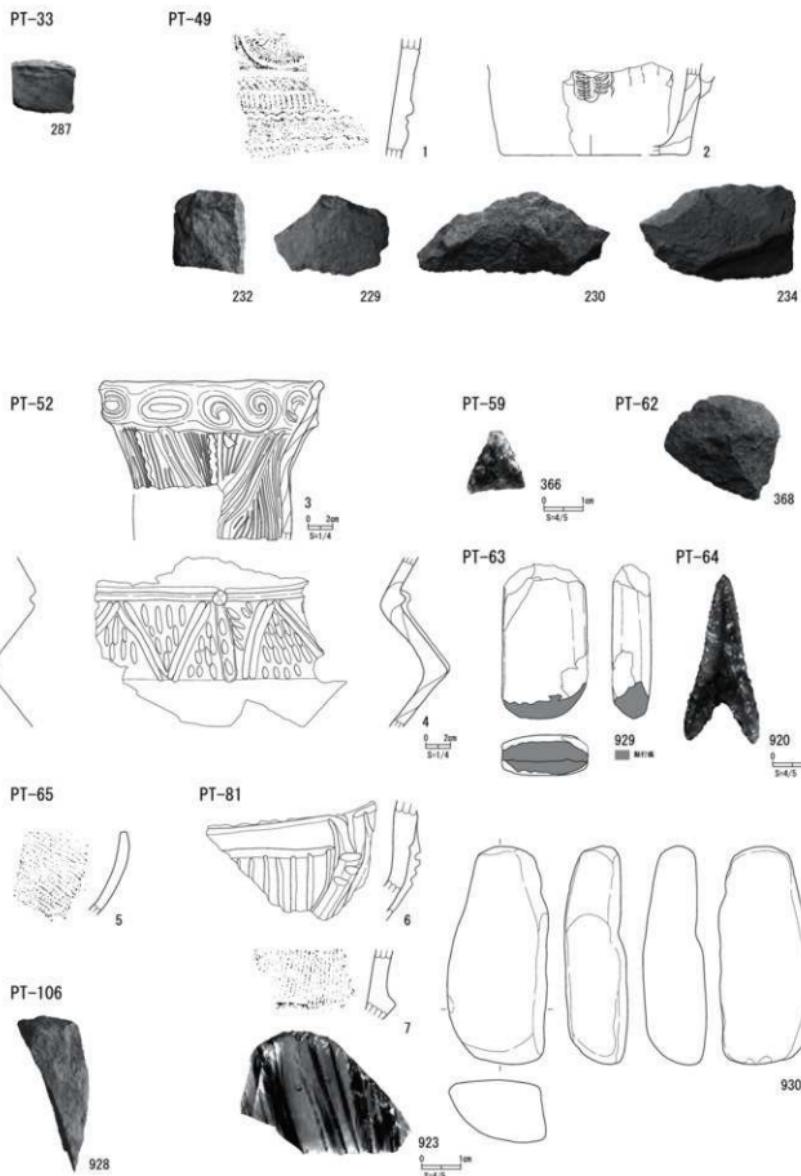
第 103 図 土抗出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



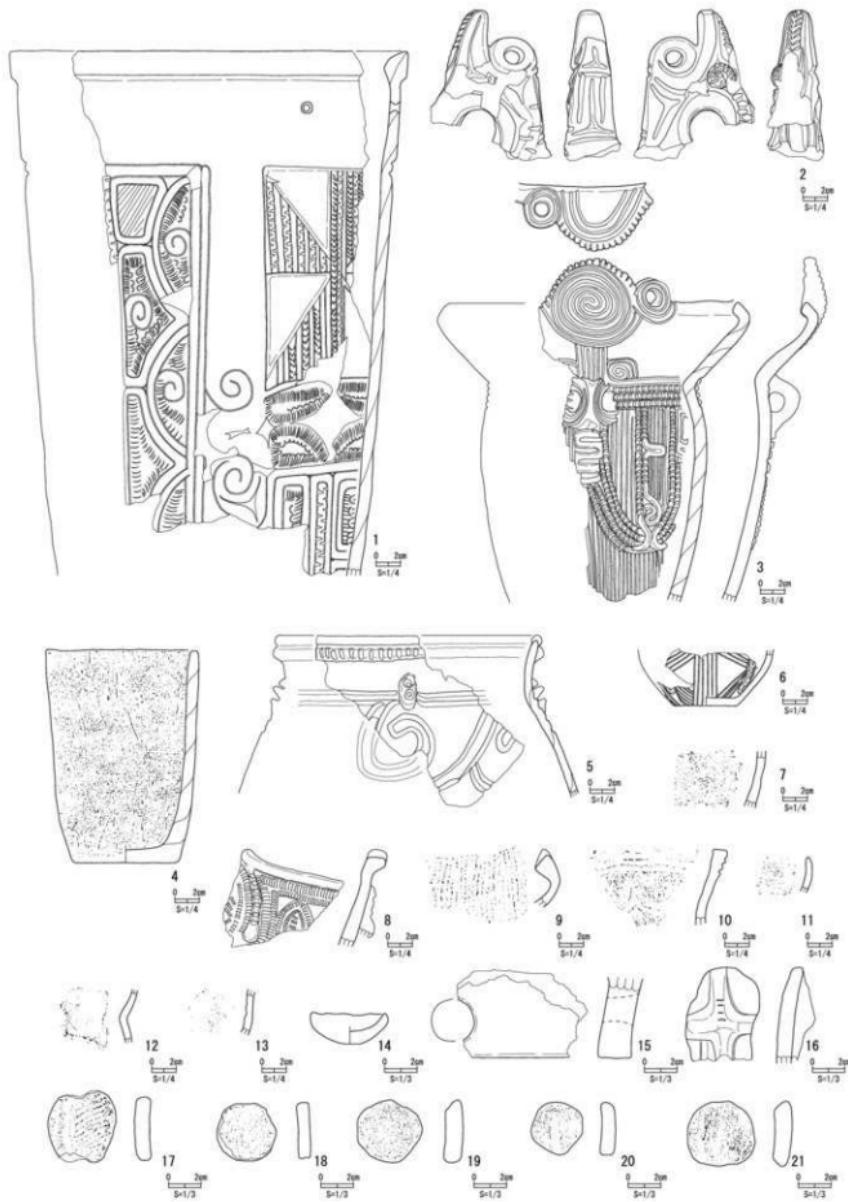
第 104 図 土抗出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



第 105 図 土抗出土遺物（縮尺つき以外は 1/3）



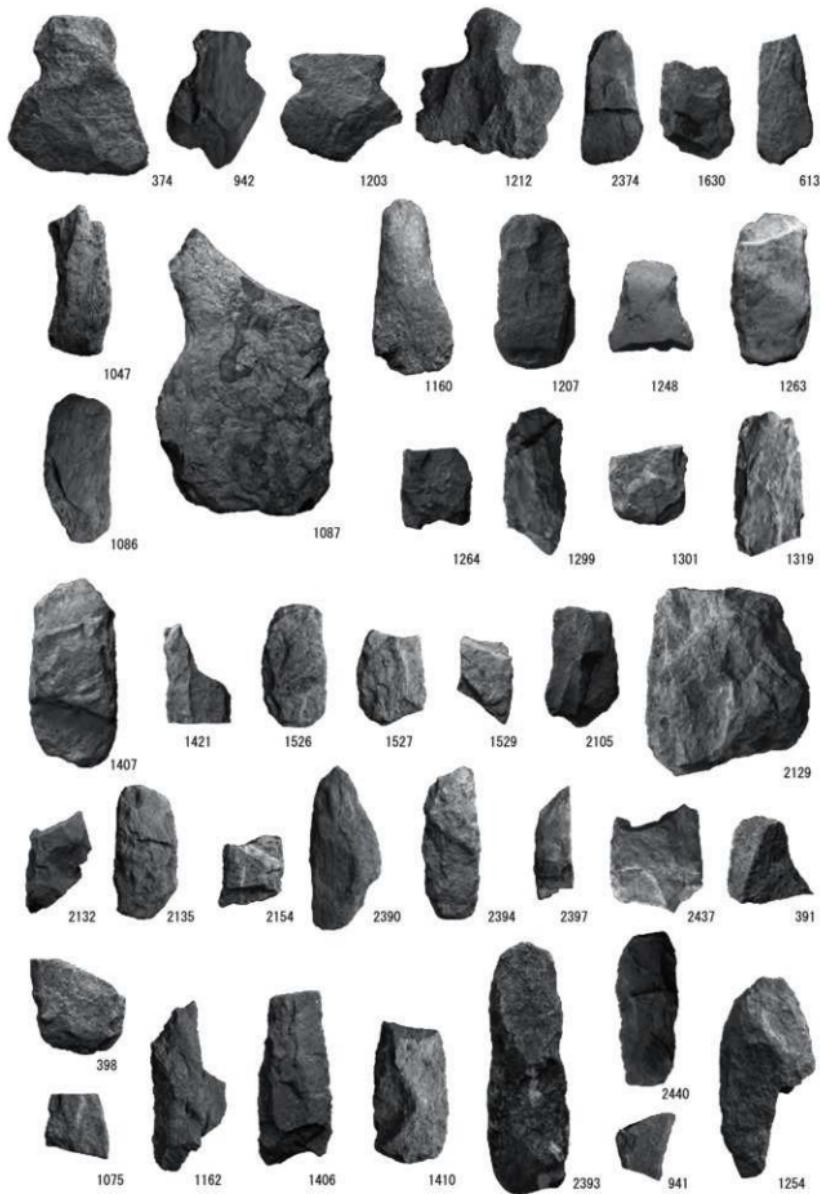
第106図 ピット出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



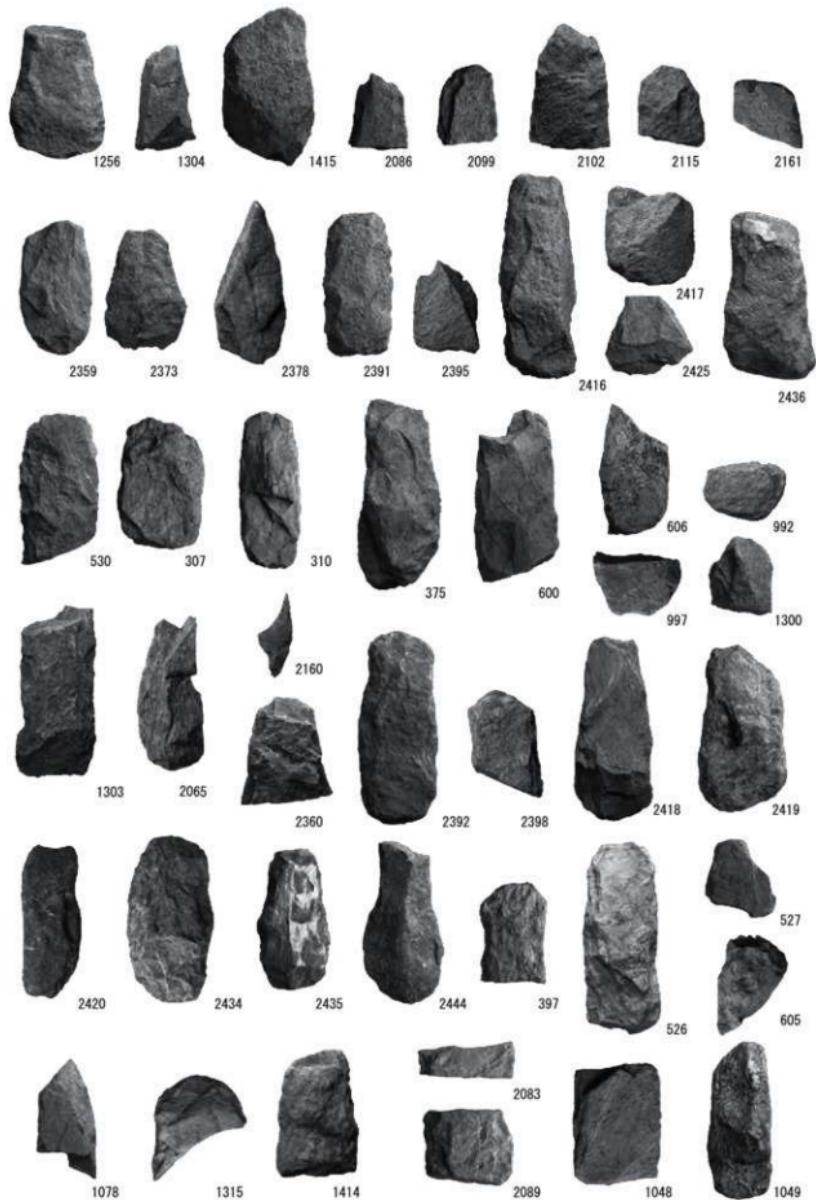
第107図 遺構外出土遺物



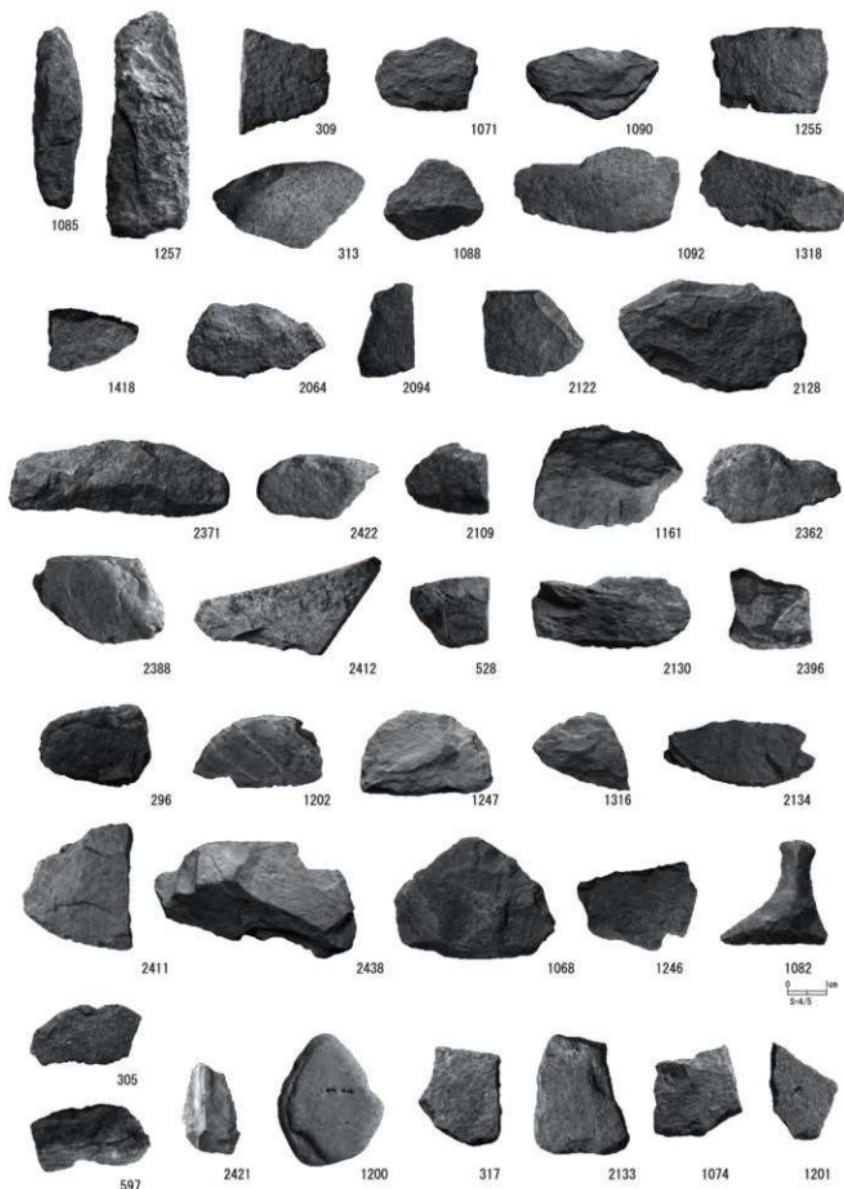
第 108 図 遺構外出土遺物（縮尺つき以外は 1/1.25）



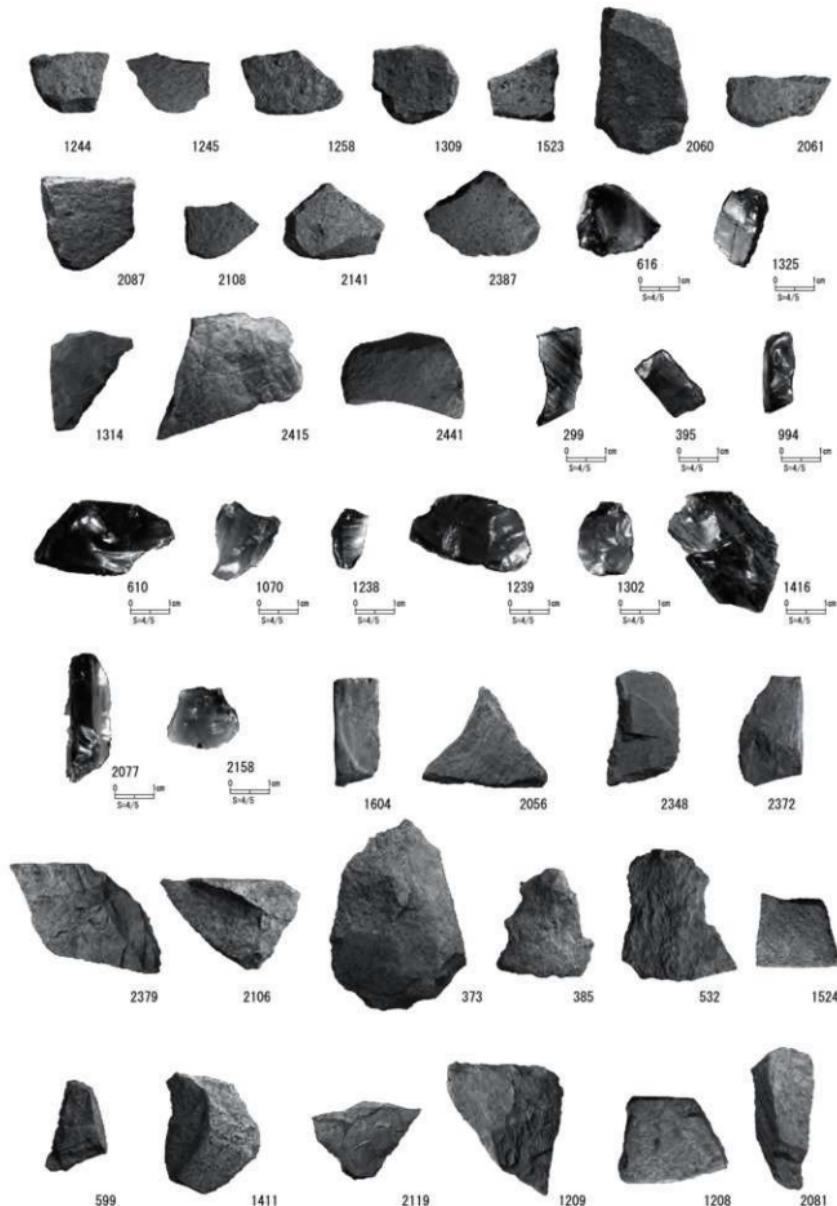
第 109 図 遺構外出土遺物 (1/3)



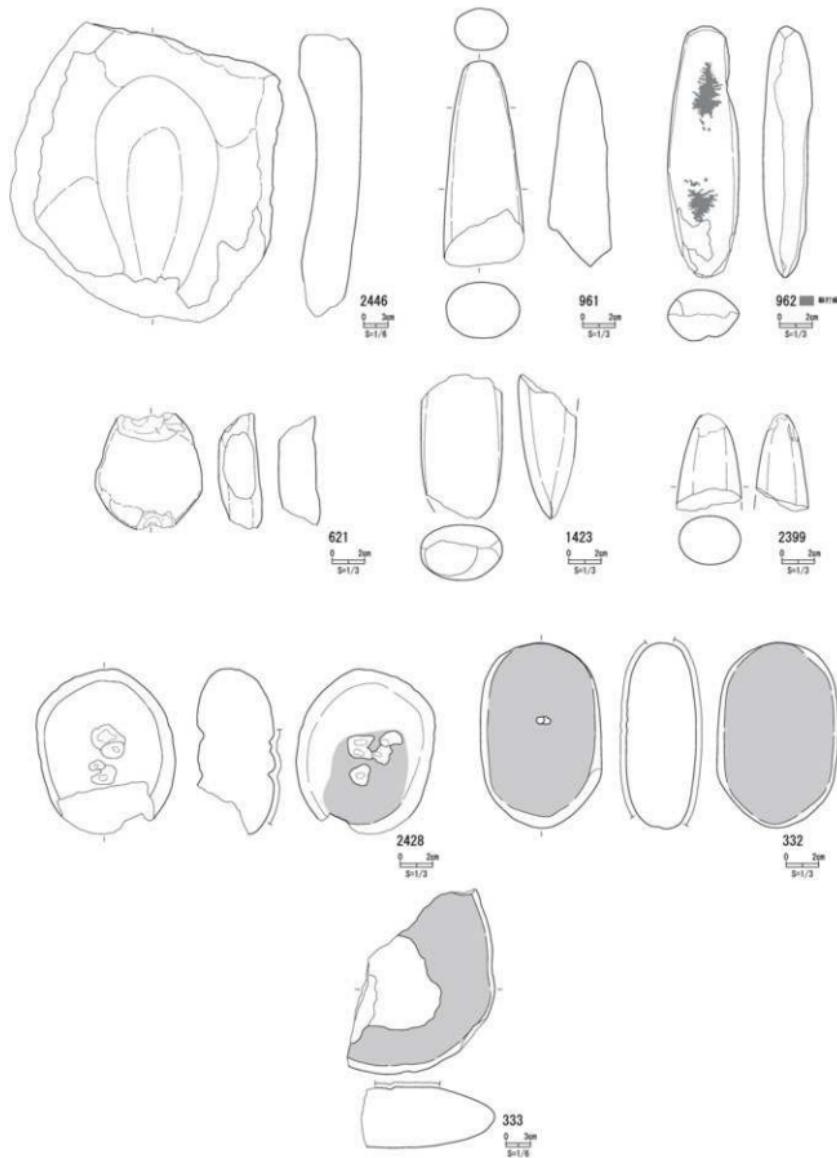
第110図 遺構外出土遺物 (1/3)



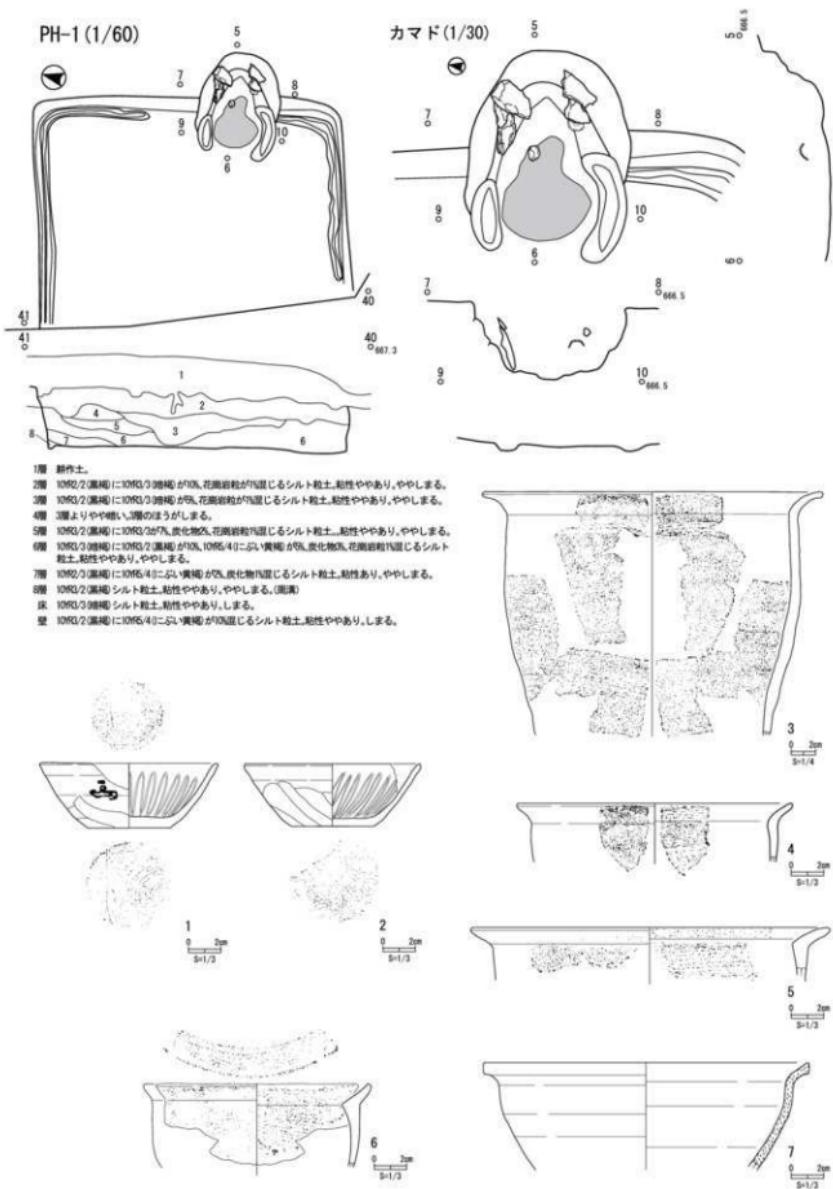
第 111 図 遺構外出土遺物 (1082 以外は 1/3)



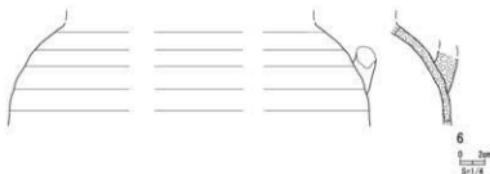
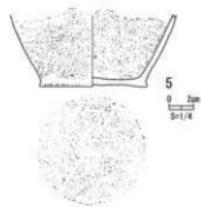
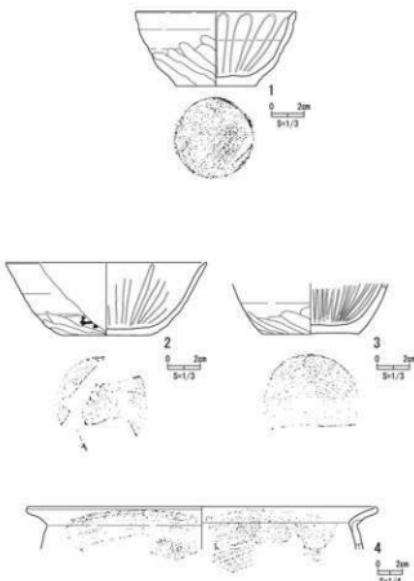
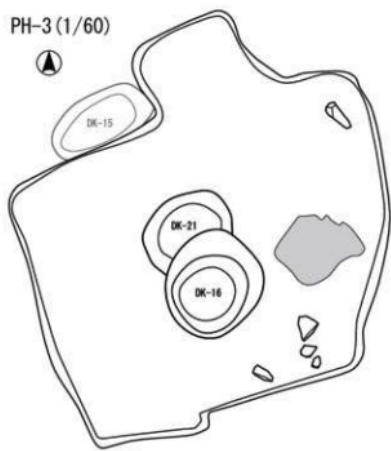
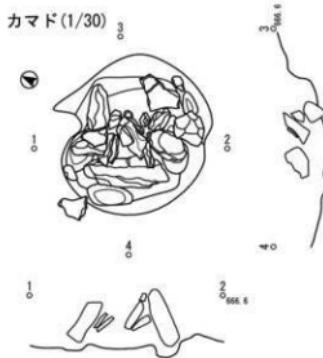
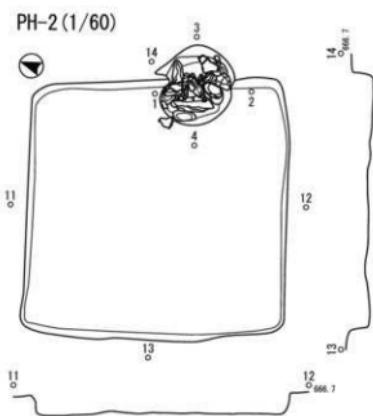
第112図 遺構外出土遺物（縮尺つき以外は1/3）



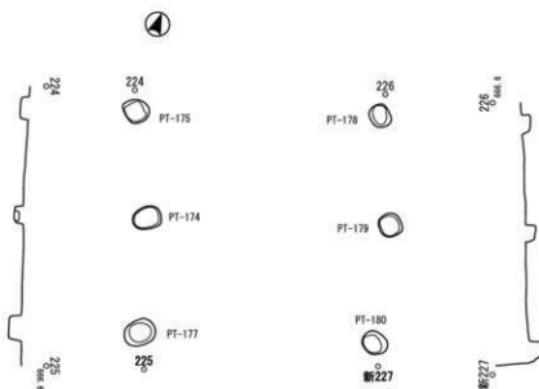
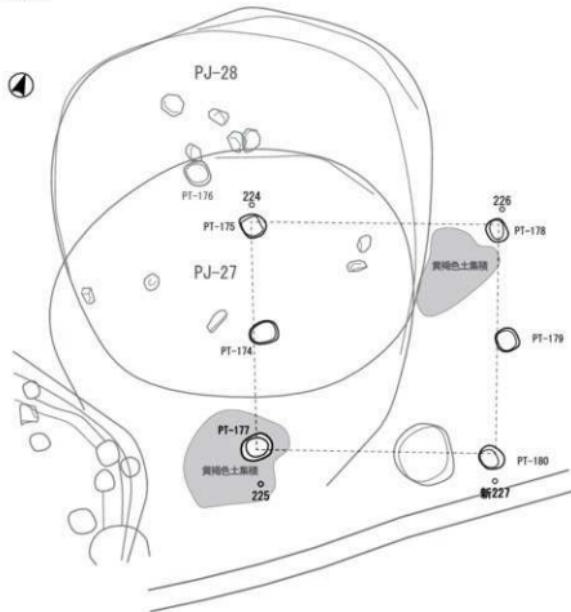
第113図 遺構外出土遺物



第114図 1号住居・出土遺物



第 115 図 2 号住居・出土遺物 3 号住居・出土遺物



第 116 図 1 号掘建柱建物

遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
DK-001	G-2-8	135 × 134	24	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	井戸尻式?破片4。後期?破片1、削器2、剝片1
DK-002	H-2-3	160 × 150	18	エ	土色なし。	土師器破片1、要破片1
DK-003	H-1-25	110 × 113	30	エ	10YR2/3(緑褐色)に10YR4/4(緑褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	中期土器破片5
DK-004	H-2-7	120 × 117	15	エ	土色なし。	
DK-005	H-2-10	147 × 123	44	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(緑褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	曾利式?破片7
DK-006	4住内	146 × 136	54	エ	10YR2/3(緑褐色)に10YR4/4(緑褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	4号住居と6号住居を切る近世以降の円形土坑。中期土器破片16、黒曜石剥片3、黒曜石製研磨器1
DK-007	G-2-9	120 × 116	27	エ	土色なし。	轟内式破片1
DK-008	E-2-17	136 × 137	76	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%、10YR2/1(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。	曾利式?破片1、井戸尻式破片1、打製石斧1、黒曜石と頁岩の剥片1点ずつ。13号土坑と重複
DK-009	E-2-22	135 × 132	77	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	近世以降の円形土坑。16号住居を切る。井戸尻式破片多数、頁岩とホルンフェルスの剥片
DK-010	20住北東壁	110 × 114	83	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が15%混じる。	井戸尻式破片1、曾利式?破片1、黒曜石剥片1
DK-011	16住内	130 × 120	70	オ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片多数、打製石斧。近世以降の円形土坑と思われ。16号住居を切る。
DK-012	G-2-16	140 × 140	53	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%、シルト粒土。しまる。	近世以降の円形土坑。中期土器破片1、井戸尻式破片1、平安時代の土器破片2、磨石1、剝片3、黒曜石剥片1
DK-013	E-2-17	118 × 100	27	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%混じる。シルト粒土。しまる。	DK-9と切り合う。井戸尻式破片1、曾利式?破片1、頁岩製粗糰大形石甃1
DK-014	B-3-15	97 × 93	90	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が15%混じる。シルト粒土。しまる。	近世以降の円形土坑。中期土器破片14、青磁板破片1、剝片1、黒曜石剥片1
DK-015	H-2-7	130 × 74	22	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/2(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	中期土器破片2
DK-016	3住内	125 × 110	58	ウ	10YR3/4(緑褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR2/3(黒褐色)が3%混じる。シルト粒土。しまる。	平安時代の土器要破片10
DK-017	H-3-11	115 × 123	18	エ	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/2(黒褐色)が10%、10YR4/6(褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。	PT-1に切られる。黒曜石剥片1
DK-018	G-3-18	110 × 114	45	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が7%、10YR4/6(褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	近世以降の円形土坑。井戸尻式と曾利式?、曾利IV式土器破片出土。
DK-019	H-2-8	90 × 90	58	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が5%混じる。シルト粒土。しまる。	DK-42と切り合う。加曾利E式破片1、平滑な縁1
DK-020	G-2-25	95 × 80	40	カ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粒土。しまる。	中期土器破片1、素刃削器1、削器1
DK-021	3住内	110 × 78	30	ウ	10YR4/4(褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%混じる。シルト粒土。しまる。	DK-16に切られる。
DK-022	H-3-6	70 × 74	23	カ	土色なし。シルト粒土。ややしまる。	
DK-023	H-3-6	92 × 85	30	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%混じる。シルト粒土。	井戸尻式破片3、轟内式大形破片1、打製石斧1、黒曜石剥片2、鍵1。6号住居に切られる轟内式期の土坑
DK-024	H-3-6	90 × 78	15	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、10YR4/6(褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
DK-025	H-3-6	54 × 63	26	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%混じる。ややしまる。	DK-27と切り合う
DK-026	欠番					
DK-027	G-3-10	100 × 115	40	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK-25と切り合う。曾利I式期のミニチュア土器
DK-028	H-3-8	50 × 30	52	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が10%、10YR2/3(黒褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	井戸尻式?の小破片。黒曜石剥片3点
DK-029	G-3-3	92 × 100	42	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	轟内式地盤土塊を模出。下層で花崗岩壁多數。井戸尻式破片、黒曜石剥片1、多孔石1。
DK-030	G-2-21	80 × 80	2	ウ	10YR2/3(黒褐色)。ややしまる。	井戸尻式の深鉢1個体、ミニチュア土器、黒曜石剥片1
DK-031	H-3-1	80 × 50	23	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%混じる。シルト粒土。しまる。	黒曜石剥片1、黒曜石原石1
DK-032	H-3-2	76 × 73	42	エ	下層: 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が30%混じる。上層: 10YR3/2(黒褐色)。シルト粒土。しまる。	曾利II式破片19、粗製石臼1、黒曜石の剥片2、安山岩の碎片1、DK-53を切る。
DK-033	H-3-1	48 × 44	30	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が3%混じる。シルト粒土。しまる。	井戸尻式3段階で曾利I式の両瓦窓1個体

第2表 土坑ピット調査表

遺構 番号	位置	幅 (cm)	深さ (cm)	断面 形状	覆土色	備考(遺物など)
DK-034	G-3-9	53 × 40	22	ウ	10YR3/2(黒褐色)	曾利Ⅱ式の深鉢を複数した遺構を便宜上、DK34とした。削平された住居に付随する理器と推測される。土器は2個体あり、1個体は復元できるが、1個体は大型破片のみ
DK-035	G-3-13	140 × 130	105	カ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が15%、10YR4/3(にぶい黄褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	曾利Ⅰ式新段階の土器破片。縦状土坑。貯藏穴か
DK-036	4住内	110 × 110	13	エ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が5%、10YR4/4(褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片8、素刃削器1、削器1
DK-037	欠番					
DK-038	6住内	64 × 40	45	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が15%、10YR4/3(にぶい黄褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	6号住居貯藏穴か。DK-39に切られる。井戸尻式破片10、磨石類1、黒曜石製石頭1、安山岩の碎片2
DK-039	6住南壁	95 × 100	46	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が20%、10YR4/3(にぶい黄褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	DK-38を切る。6号住居を切る。麻内式と井戸尻式破片多数、土製円盤1、素刃削器1、黒曜石製石頭2、安山岩の碎片7
DK-040	H-3-17	130以上 × 126	30	エ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が15%、10YR4/3(にぶい黄褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	曾利Ⅰ式の深鉢破片、削器1、打製石斧1、磨石類1、円錐状石器1が出土
DK-041	5住内	138 × 115	72	カ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が7%、10YR4/2(灰黒褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	5号住居と柱穴を切る。曾利Ⅰ式古段階の深鉢1個体、ほか破片多数、打製石斧4、削器2、素刃削器1、ハンマー1
DK-042	H-2-13	290 × 210	80	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が10%、10YR4/4(褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	DK-19を切る。曾利Ⅴ式破片1、中期破片10、削器2
DK-043	H-3-13	103 × 83	28	エ	10YR3/2(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が5%、10YR2/2(黒褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。しまる。	
DK-044	6住内	89 × 54	42	カ	10YR3/2(黒褐色)に10YR3/4(黒褐色)が35% 混じる。シルト粒土。しまる。	DK-39と切り合う。井戸尻式破片5、素刃削器1
DK-045	4住内	70 × 72	88	オ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が35% 混じる。 シルト粒土。ややしまる。	4号住居の貯藏穴。井戸尻式破片2、中期破片33、打製石斧2、削器1
DK-046	4住内	66 × 70	86	イ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が35% 混じる。	4号住居の貯藏穴。井戸尻式破片4、曾利Ⅰ式新段階の大形破片、素刃削器1、削器1、打製石斧3、チャート製石器1、削片1、磨石片1、敲石1、鍛造加工の円盤状石器1
DK-047	4住内					
DK-048	H-2-12	58 × 31	20	ウ	土色なし。	PT-45・PT-46と同一遺構。
DK-049	H-3-12	78 × 66	22	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が10% 混じる。シルト粒土。しまる。	PT-32と切り合う。曾利Ⅰ式の把手破片、打製石斧
DK-050	7住内	120 × 110	26	エ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が30%、10YR4/3(にぶい黄褐色)が10% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	7号住居の理器。伊体土器あり
DK-051	0-2-25	75 × 58	32	エ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が35% 混じる。シルト粒土。しまる。	中期中葉土器破片1
DK-052	欠番					
DK-053	H-2-2	80 × 68	44	ウ	土色なし。	DK-32に切られる。麻内尻式大形破片1、粘土塊
DK-054	0-2-25	70 × 63	29	ウ	10YR2/3(黒褐色)。シルト粒土。しまる。	曾利Ⅳ式の赤彩した小形土器破片1
DK-055	7住内	73 × 63	58	ウ	10YR3/2(黒褐色)に10YR3/4(黒褐色)が混じる。 シルト粒土。しまる。	7号住居の貯藏穴。井戸尻式期の小形鉢破片、打製石斧、削片。出土土器はDK-59出土土器と接合する。
DK-056	0-3-19	100 × 103	22	エ	10YR4/3(褐色)に10YR2/4(黒褐色)が15% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT-40に切られる。井戸尻式3段階か曾利Ⅰ式の破片、麻内式破片、黒曜石製石斧1
DK-057	G-3-9	96 × 80	25	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5% 混じる。 シルト粒土。ややしまる。	井戸尻式2段階か曾利Ⅰ式の破片、打製石斧破片1、素刃削器1、黒曜石製石斧が出土
DK-058	0-2-23	74 × 52	28	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が15% 混じる。 シルト粒土。ややしまる。	PT-42に切られる。井戸尻式破片1
DK-059	7住内	80 × 82	70	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%、炭化物が1% 混じる。 シルト粒土。ややしまる。	井戸尻式2段階の土器破片がDK-55出土土器と接合。素刃削器1、打製石斧破片1、大型粗製石器1、7号住居の貯藏穴
DK-060	G-3-8	50 × 30	40	ウ	土色なし。	
DK-061	7住内	66 × 65	69	オ	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/2(灰黒褐色)が15% 混じる。 シルト粒土。しまる。	麻内式破片3、打製石斧1、7号住居の貯藏穴
DK-062	G-2-17	62 × 55	20	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/2(灰黒褐色)が20% 混じる。 シルト粒土。ややしまる。	麻内式破片2、磨石1
DK-063	33住内	96 × 94	13	エ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5% 混じる。シルト粒土。しまる。	中期土器破片2

第2表 土坑ピット観察表

遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
DK-064	6-2-13	90 × 85	45	ウ	10YR2/2(黒褐色)	井戸尻式破片3、安山岩の石棒破片2、打製石斧1
DK-065	7住内	90 × 90	62	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が10%混じる。	PT-50に切られる。井戸尻式破片、7号住居の古い貯蔵穴か。
DK-066	6-2-11	103 × 64	39	カ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が3%混じる。シルト粘土。しまる。	井戸尻式の大形破片2、打製石斧3、素刃削器1
DK-067	6-1-23	75 × 80	17	カ	10YR2/4(暗褐色)に10YR6/3(にぶい黄褐色)が5%、10YR4/4(褐色)が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。	
DK-068	33住内	114 × 96	30	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が5%、10YR4/4(褐色)が3%混じる。	PT-48に切られる。井戸尻式3段階か菅原1式破片。石皿破片1、打製石斧1
DK-069	33住内	83 × 75	13	エ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粘土。しまる。	DK-63を見る。
DK-070	33住内	63 × 60	85	ウ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粘土。ややしまる。	菅原3式破片、黒曜石剝片、33号住居の貯蔵穴か。
DK-071	6-2-8	90 × 80	23	ウ	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/6(褐色)が40%混じる。シルト粘土。ややしまる。	井戸尻式の浅鉢破片1
DK-072	33住内	158 × 120	23	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%混じる。シルト粘土。しまる。	疊多し、井戸尻式3段階の深鉢3個体、台石、打製石斧3、黒曜石削面椎石器1
DK-073	6-2-21	80 × 88	20	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。シルト粘土。しまる。	中期土器破片1、鹿石1、打製石斧1
DK-074	33住内	100 × 67	19	エ	10YR2/3(黒褐色)。シルト粘土。	藤内式破片、縫辺加工の円盤状石器、打製石斧
DK-075	7住内	56 × 45	52	ウ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粘土。しまる。	DK-76と切り合う。中期土器小破片、7号住居の柱穴
DK-076	7住内	43 × 35	51	ウ	10YR2/1(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が7%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	DK-75と切り合う。中期土器小破片、7号住居の柱穴
DK-077	F-2-20	120	32	ウ	10YR2/1(黒褐色)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	菅原3式の重弧文土器、PT-63と重複。
DK-078	6-2-12	80 × 76	20	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が3%混じる。	井戸尻式2段階の深鉢3個体、打製石斧1、黒曜石剝片1
DK-079	6-2-17	60 × 60	24	エ	粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
DK-080	F-2-15	100 × 90	29	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/6(褐色)が2%、10YR2/1(黒褐色)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	中期土器破片2
DK-081	9住北壁	91 × 87	27	ウ	10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐色)が2%混じる。	井戸尻式破片2、真泊削片1、9号住居と重複。
DK-082	F-2-7	75 × 55	38	エ	10YR2/1(黒)に10YR4/2(灰褐色)が3%、10YR4/6(褐色)が2%混じる。	井戸尻式破片3
DK-083	9住内	65 × -	25	エ	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐色)が1%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	中期土器破片1、9号住居と重複
DK-084	6-2-23	180 × -	93	ウ	10YR2/3(黒褐色)に2.5Y7/4(浅黄)が2%、10YR4/2(灰褐色)が1%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	藤内式破片1、中期中葉破片6、打製石斧片1、花崗岩の碎片1、鍵1
DK-085	D-2-22	200 × 130	66	ウ	10YR2/1(黒)に2.5Y7/6(明黄褐色)が2%、10YR5/3(にぶい黄褐色)が1%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
DK-086	F-2-12	77 × 72	12	エ	黒褐色土ににぶい黄褐色土の小ブロックが混じる	花崗岩塊6
DK-087	F-2-12	100 × 82	17	エ	黒褐色土ににぶい黄褐色土の小ブロックが混じる	花崗岩塊5
DK-088	4住内	59 × 50	50	オ	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	4号住居と6号住居に切られる。井戸尻式破片1、打製石斧1、素刃削器1
DK-089	4住内	70 × 55	31	エ		藤内式・戸尻式破片2、石皿破片1、4号住居の柱穴
DK-090	4住内	59 × 50	22	-	10YR2/2(黒褐色)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式破片4
DK-091	4住内	53 × 50	22	ウ	土色なし。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式破片6、削器1
DK-092	12住内	82 × 77	54	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が25%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
DK-093	12住内	100 × 90	11	エ	10YR1/7(1黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式3段階か菅原1式土器破片1、12号住居と重複。
DK-094	10住南壁	80 × 76	45	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	埋土下層に花崗岩、波状口縁土器の波瀾部破片。
DK-095	10住内	76 × -	30	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が10%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	10号住居より古い、PT-95と切り合う。井戸尻式破片12、シルト剥片1、砂岩剝片1。
DK-096	欠番					
DK-097	F-2-1	95 × -	20	エ	10YR1/7(1黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式?破片3
DK-098	12住内	80 × 82	24	エ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式?浅鉢破片1、真泊削片1、黒曜石剝片1、12号住居と重複。
DK-099	12住内	38 × 38	40	ウ	10YR2/3(黒褐色)。	
DK-100	14(11)住内	45 × 40	50	ウ	10YR2/1(黒)に10YR1/2(黒褐色)が7%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性あり。シルト粘土。ややしまる。	背面、11号住居・14号住居を切る。土器、底の一部(10 × 6cm)が柱の重みで固くしまっていた。

第2表 土坑ピット観察表

遺構 番号	位置	縦 (cm)	深さ (cm)	断面 形状	覆土色	備考(遺物など)
DK-101	14住(11 住)西 壁	100 × 100	40	ウ	I0YR2/1(黒)にI0YR3/3(暗緑)が7%、I0YR5/6(黄緑) が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式3段階か菅利Ⅰ式破片1、頁岩剥片1、11号住居と 重複。14号住居を切る。
DK-102	E-2-15	365 × 225	100	工	I0YR3/2(黒緑)にI0YR2/1(黒)が7%、I0YR5/8(黄緑) が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	菅利Ⅲ式破片。菅利Ⅱ式破片は13号住居からの混入か、削器1、 13号住居を切る。
DK-103	F-2-16	105	33	工	I0YR3/1(黒緑)にI0YR2/1(黒)が7%、I0YR5/8(黄緑) が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式破片2
DK-104	E-2-25	96 × 83	35	工	I0YR2/1(黒緑)にI0YR4/1(黒)が10%、I0YR6/8(明黄緑) が10%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	硬が充填され、その下層から井戸尻式3段階破片2、石器破 片1、磨石類1、打製石斧1が出土
DK-105	14住(11 住)内	90 × 90	25	工	I0YR4/2(灰黄緑)にI0YR6/8(明黄緑)が20%、 I0YR2/1(黒)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	11号住居・14号住居を切る。
DK-106	14住(11 住)内	80 × 80	93	オ	I0YR2/1(黒)にI0YR5/6(黄緑)が1%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-142と切り合う。井戸尻式3段階破片11、14号住居の貯 藏穴。
DK-107	15住内	68 × 60	55	オ	I0YR2/2(黒緑)にI0YR6/8(明黄緑)が15%ほどまだらに 混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-143と切り合う。中期土器破片1、15号住居の貯藏穴、 灰状土器1、14号住居を切る。
DK-108	E-2-20	63 × 48	20	工	I0YR2/3(黒緑)にI0YR6/8(明黄緑)が15%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	中期土器破片1、菅利Ⅲ式土器破片1、打製石斧1、黒曜石剥片2、 I02号土坑の黄褐色土集積の下で検出
DK-109	E-2-20	77 × 65	15	工	I0YR3/1(暗緑)にI0YR5/6(黄緑)が5%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	大きな砾が8個ほど詰まっていた。石皿破片? 1、磨石類1、 灰状土器1、14号住居を切る。
DK-110	F-3-11	91 × 88	20	工	I0YR2/2(黒緑)にI0YR4/4(褐)が2%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	圓盤、12号住居よりも古い
DK-111	15住内	48 × 40	60	オ	I0YR4/3(にぶん黄緑)にI0YR2/2(黒緑)が7%、 I0YR6/8(明黄緑)が1%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。 しまる。	15号住居の貯藏穴
DK-112	19住内	107 × 94	37	工	I0YR2/2(黒緑)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	19号住居を切る。多層窓タイプの深鉢が横倒しで出土
DK-113	18住内	96 × 73	47	工	I0YR2/3(黒緑)にI0YR6/8(明黄緑)が3%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式3段階か菅利Ⅰ式破片1、黒曜石剥片
DK-114	C-2-12	95 × 92	43	エ	I0YR1/7/1(黒)にI0YR5/6(黄緑)が5%混じる。 粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式2段階の浅鉢と深鉢2個体。24号住居と29号住居 と重複。
DK-115	欠番					
DK-116	23住内	65 × 60	60	ウ	粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	23号住居裡設土器。菅利Ⅱ式のX字把手付大型深鉢を正位に 埋設。
DK-117	C-2-12	95 × 73	30	エ	I0YR2/2(黒緑)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式の深鉢大型破片1、24号住居・29号住居と重複
PT-001	H-3-11	36 × 30	32	イ	I0YR3/2(黒緑)にI0YR2/3(黒緑)が5%混じる。シルト 粘土。しまる。	柱痕
PT-002	H-3-16	47 × 37	30	ア	I0YR2/3(黒緑)にI0YR2/2(黒緑)が5%混じる。	柱痕
PT-003	4住内	50 × 25	62	ア	I0YR3/2(黒緑)にI0YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粘土。 しまる。	藤内式? 破片1
PT-004	4住内	50 × 60	70	ア	I0YR2/2(黒緑)にI0YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粘土。 しまる。	藤内式破片1、中期土器破片3
PT-005	H-2-20	44 × 44	33	イ	I0YR3/2(黒緑)。シルト粘土。	
PT-006	H-2-19	40 × 38	35	イ	I0YR3/2(黒緑)。シルト粘土。しまる。	井戸尻式破片4、黒曜石剥片
PT-007	H-2-18	58 × 45	40	ア	I0YR3/2(黒緑)。シルト粘土。しまる。	
PT-008	H-2-12	30 × 26	68	ア	I0YR3/3(暗緑)にI0YR3/4(暗緑)。シルト粘土。ややし まる。	
PT-009	H-2-12	56 × 50	73	イ	I0YR3/3(暗緑)にI0YR3/4(暗緑)。シルト粘土。ややし まる。	
PT-010	4住内	40 × 40	70	ア	I0YR3/2(黒緑)にI0YR3/4(暗緑)が3%混じる。シルト 粘土。しまる。	PT-10がPT-11を切る。削器1
PT-011	4住内	50 × 20	55	イ	I0YR3/2(黒緑)にI0YR3/4(暗緑)。シルト粘土。しまる。	藤内式と井戸尻式破片2、剥片1
PT-012	5住内	34 × 30	60	ア	土色なし。	5号住居柱穴か
PT-013	4住内	70 × 68	74	イ	I0YR3/2(黒緑)にI0YR3/3(暗緑)が5%混じる。シルト 粘土。しまる。	柱痕。井戸尻式? 破片5
PT-014	4住内	53 × 36	70	イ	I0YR2/3(黒緑)にI0YR2/2(黒緑)が5%混じる。シルト 粘土。しまる。	PT-10を切る。井戸尻式破片2、剥片2
PT-015	6住内	55 × 44	37	イ	I0YR2/2(黒緑)にI0YR3/3(暗緑)が5%混じる。シルト 粘土。しまる。	

第2表 土坑ピット観察表

遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-016	4住内	26 × 73	66	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	井戸戸式破片9、大型粗製石器1、黒曜石剥片1、砂岩碎片1
PT-017	4住内	40 × 37	60	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。柱痕複数。井戸戸式破片3、打製石斧1
PT-018	4住内	50 × 44	70	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が5%、10YR4/4(褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	DK-69を切る。井戸戸式破片10、剥片2、黒曜石製の両極石器1
PT-019	4住内	44 × 43	74	イ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT-14に切られる。19号住居柱穴
PT-020	6住内	45 × 30	70	イ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が30%、10YR4/4(褐色)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。DK-39とDK-44と重複
PT-021	6住内	55 × 46	45	イ	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。中期土器破片1
PT-022	4住内	40 × 36	40	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-023	4住内	25 × 20	58	ア	1層: 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が3%混じる。 2層: 10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が3%混じる。 シルト粒土。ややしまる。	PT-24を切る。
PT-024	4住内	70 × 60	76	ア	シルト粒土。ややしまる。	PT-23に切られる。中期土器破片1、黒曜石剥片2、黒曜石製両極石器1、丸い花崗岩1
PT-025	4住内	40 × 50	70	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が5%混じる。	
PT-026	4住内	36 × 28	60	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が混じる。	
PT-027	5住内	50 × 23	41	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴
PT-028	5住内	40 × 30	70	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	5号住居柱穴か。柱痕あり。中期土器破片7
PT-029	4住内	25 × 18	78	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。中期土器破片5、黒曜石製両極石器1、剥片4、板状の安山岩の縁辺を加工した円盤状石器1
PT-030	4住内	23 × 22	20	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が15%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-031	6住内	43 × 40	64	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。井戸戸式破片2
PT-032	H-3-12	39 × 39	25	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱痕
PT-033	5住内	60 × 50	65	ア	黒褐色土	5号住居柱穴か。砂岩剥片1、削器1、ホルンフェルス剥片1
PT-034	5住内	65 × 60	66	ア	黒褐色土	5号住居柱穴か。
PT-035	5住内	60 × 48	75	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が30%混じる。シルト粒土。ややしまる。	黒曜石剥片1、5号住居柱穴か。
PT-036	G-3-5	45 × 45	13	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-037	G-2-24	17 × 13	36	イ	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が30%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-038	7住内	45 × 45	73	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%、灰化物が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱痕を複数。7号住居の柱穴。土器破片4、剥片3、削器1
PT-039	H-2-12	64 × 45	30	イ	土色なし。	
PT-040	G-3-19	28 × 28	43	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	
PT-041	7住内	40 × 37 柱痕: 19 × 19	71	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT-57を切る。柱痕複数。井戸戸式破片2、7号住居柱穴
PT-042	G-2-23	27 × 21	28	ア	10YR2/3(黒褐色)。シルト粒土。ややしまる。	DK-58を切る。
PT-043	4住内	46 × 41	90	ア	10YR2/3(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴
PT-044	4住内	41 × 40 柱痕: 20 × 18	59	ア	1層: 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が混じる。 2層: 10YR2/3(黒褐色)。シルト粒土。ややしまる。	6号住居柱穴。柱痕。中期土器破片1
PT-045	4住内	43 × 40	78	イ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粒土。ややしまる。	素刃削器1、削器1
PT-046	4住内	33 × 36	70	イ	10YR2/2(黒褐色)。シルト粒土。ややしまる。	
PT-047	7住内	70 × 56 柱痕: 22 × 22	62	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。	柱痕複数。7号住居柱穴。大型粗製石器1、剥片3、黒曜石剥片1
PT-048	33住内	50 × 46	55	イ		井戸戸式か營利I式期の淺鉢。33号住居の柱穴か。

第2表 土坑ピット観察表

遺構 番号	位置	縦 (cm)	深さ (cm)	断面 形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-049	4住内	93 × 66	56	ア	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/2(灰黒褐)が混じる。シルト粒土、やわらか。	縫合式と井戸尻式の破片16、素刃削器2、6号住居より出いビットか。
PT-050	7住内	45 × 50	74	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が5%混じる。	DK-65を切る。7号住居柱穴
PT-051	7住内	57 × 40 柱底: 23 × 15	83	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/3(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土、やわらか。	7号住居柱穴、柱底あり
PT-052	33住内	43 × 43	10	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(黒褐色)が10%混じる。シルト粒土、やわらか。	曾利Ⅲ式深鉢
PT-053	33住内	60 × 50	70	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(黒褐色)が5%混じる。シルト粒土、やわらか。	打製石斧1、33号住居の柱穴か
PT-054	33住内	48 × 40	14	イ	土色なし。シルト粒土。	
PT-055	33住内	35 × 35	28	ア	土色なし。	曾利Ⅱ式鉢片。
PT-056	7住内	39 × 30	50	イ	土色なし。	7号住居の柱穴
PT-057	7住内	34 × 33	12	イ	土色なし。	
PT-058	7住内	45 × 40 柱底: 27 × 28	70	ア	10YR2/3(黒褐色)。	柱底検出。打製石斧1、7号住居柱穴。打製石斧は埋土上層で出土し、住居本体に隣接する遺物である可能性あり。
PT-059	6-2-17	29 × 23	10	ア	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が75%混じる。シルト粒土。	PT-61に切られる。黒曜石製石頭1
PT-060	6-2-17	34 × 25	23	ア	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が75%混じる。シルト粒土。	PT-61に切られる。頁岩剥片1
PT-061	6-2-17	38 × 18	49	ア	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が75%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	PT-59・60・62を切る。井戸尻式? 破片1
PT-062	6-2-22	41 × 30	38	ア	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が75%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	PT-61に切られる。磨石1・素刃削器1
PT-063	F-2-15	60 × 60 柱底: 23 × -	54	ア	埋土、10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(くろい黄褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%、無化粧が1%混じる。 柱底: 10YR2/2(黒褐色)に10YR5/2が3%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	深さ45cmで柱底検出。DK-77に切られる。井戸尻式3段階か曾利Ⅱ式土器破片・中崩土器破片・蛇紋岩製磨石斧1・黒曜石剥片1
PT-064	F-2-2	43 × 43	27	ア	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。やわらか。	黒曜石製石頭1
PT-065	F-2-2	34 × 30	29	ア	埋土、10YR3/2(黒褐色)に10YR4/6(褐)が2%混じる。 柱底: 10YR2/3(黒褐色)に10YR4/6(褐)が2%混じる。粘性あり。シルト粒土。やわらか。	柱底を検出。井戸尻式? の精製小形土器。
PT-066	F-2-7	42 × 35	22	ア	10YR2/1(黒)に10YR3/2(黒褐色)が2%、10YR5/3(明黄褐色)が1%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	石器
PT-067	F-2-18	35 × 32	32	イ	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	
PT-068	F-2-18	48 × 36	40	ア	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	
PT-069	F-2-18	40 × 39	29	ア	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	
PT-070	9住内	75 × 55	37	ア	10YR2/1(黒)に10YR3/2(黒褐色)が10%、10YR5/3(明黄褐色)が2%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	DK-63を切る。中期土器破片6。9号住居と重複。
PT-071	4住内	33 × 28	63	ア	10YR2/2(黒褐色)。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	DK-69を切る。
PT-072	4住内	55 × -	72	イ	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	PT-49・73と切り合が、切り合い不明。井戸尻式破片6・素刃削器1・円彫彫
PT-073	4住内	42 × 42	68	イ	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片1
PT-074	4住内	35 × 30	18	-	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が3%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	DK-90に切られる。
PT-075	6住内	30 × 26	21	イ	土色なし。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	PT-49と切り合。
PT-076	10住内	43 × 42 柱底: 22 × 15	57	ア	埋土、10YR2/1(黒褐色)に10YR4/2(灰黒褐色)が2%、10YR2/1(黒)が1%混じる。 柱底: 10YR1.7/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が2%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	柱底
PT-076B	10住内		57	ア	埋土: 10YR2/1(黒褐色)に10YR4/2(灰黒褐色)が2%、10YR2/1(黒)が1%混じる。 柱底: 10YR1.7/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が2%混じる。粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	柱底
PT-077	F-2-11	40 × 37 柱底: 22 × 18	50	ア	埋土: 10YR2/1(黒)、柱底: 10YR1.7/1(黒)、粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	柱底
PT-078	10住内	72 × 70	40	ア	埋土: 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が7%混じる。	
PT-078B	10住内	35 × 30	40	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(黒褐色)が3%混じる。	PT-76を切る。石器あり
PT-079	10住内	36 × 36 柱底: 13 × 12	90	-	埋土: 10YR2/1(黒褐色)に10YR1.7/1(黒)が20%混じる。 柱底: 10YR1.7/1(黒)、粘性やわらか。シルト粒土。しまる。	柱底

第2表 土坑ピット観察表

透構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-080	10住内	35 × 36	48	ア	10YR3/3(暗褐色)。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	
PT-081	F-2-16	60 × 54 柱径: 33 × -	56	イ	壤土: 10YR3/3(暗褐色) 柱底: 10YR2/2(黒褐色)。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	柱底を検出。井戸尻式破片3・黒曜石剥片・原石3。9号住居に切られる。
PT-082	10住内	35 × 32 柱径: 20 × 20	90	オ	壤土: 10YR2/2(黒)に 10YR3/2(暗褐色)が20%混じる。 柱底: 10YR2/1(黒)。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	柱底
PT-083	10住内	52 × 44 柱径: 23 × 23	44	オ	壤土: 10YR2/2(黒褐色)に 10YR6/8(明黄褐色)が10%混じる。 柱底: 10YR2/1(黒)。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	柱底
PT-084	F-2-11	96 × 83	35	ア	土色なし。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	
PT-085	F-2-17	24 × 24	20	イ	土色なし。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	黒曜石剥片2
PT-086	10住内	37 × 36	63	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/3(暗褐色)が3%混じる。粘性あり。 シルト粒土。しまる。	
PT-087	10住内	52 × 50	47	-	土色なし。	DK-94に切られる。
PT-088	10住内	38 × 38	58	ア	10YR2/2(黒褐色)。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	PT-86に切られる。理土中に黄色い貼土を検出
PT-089	10住内	26 × 24 柱径: 12 × -	48	ア	壤土: 10YR4/3(にじいろい黃褐色)。 柱底: 10YR2/2(黒褐色)に 10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。 粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	PT-86に切られる。柱底
PT-090	10住内	38 × 29	60	イ	土色なし。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	PT-78に切られる。
PT-091	10住内	16 × 15	35	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/3(暗褐色)が3%混じる。粘性あり。 シルト粒土。固くしまる。	
PT-092	9住内	49 × 46	55	イ	10YR2/2(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が2%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。固くしまる。	砂岩と頁岩の剥片2、砂岩製打製石斧1点
PT-093	12住内	52 × 46	63	イ	10YR2/3(暗褐色)に 10YR2/2(黒褐色)が2%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。しまる。	
PT-094	12住内	69 × 62	83	オ	10YR2/2(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が10%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。しまる。	
PT-095	10住内	47 × 40	80	オ	壤土: 10YR2/2(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が20%混じる。 粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	DK-95を切る。小形深鉢が斜めになって出土
PT-095B	10住内	35 × 35	30	オ	土色なし。	
PT-096	12住内	39 × 39	62	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が5%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。しまる。	打製石斧出土
PT-097	12住内	40 × 36	67	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が5%混じる。	
PT-098	12住内	54 × 48	63	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が5%混じる。	柱底
PT-099	F-3-13	36 × 31	27	イ	土色なし。	
PT-100	12住内	38 × 35	28	イ	土色なし。	
PT-101	10住内	44 × 43	22	イ	土色なし。	
PT-102	9住内	40 × 40	72	ア	壤土: 10YR2/2(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が3%混じる。 柱底: 10YR2/3(黒褐色)に 10YR2/2(黒褐色)が3%混じる。	柱底
PT-103	10住内	38 × 28	80	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が3%混じる。	PT-95に切られる。雷利?破片1、PT-95と重複。10号住居の柱穴か。
PT-104	14住(II 住)内	58 × 46	46	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が3%、10YR4/6(褐) が1%混じる。	井戸尻式3段階破片8、14号住居柱穴
PT-105	12住内	42 × 25	38	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/3(暗褐色)が1%混じる。	PT-106に切られる。
PT-106	12住内	38 × 23	36	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が3%混じる。	PT-105を切る。井戸尻式2段階か3段階の破片12、砂岩製 打製石斧破片1、12号住居の柱穴か。
PT-107	10住内	30 × 28	32	イ	土色なし。	雷利?破片3、10号住居廻溝内小ビットか。
PT-108	9住内	35 × 35 柱径: 17 × 16	54	ア	壤土: 10YR2/3(黒褐色)に 10YR3/2(黒褐色)が10%混じる。 柱底: 10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/6(褐)が10%混じる。	底部で柱底確認。
PT-109	14住(II 住)内	34 × 30	60	ア	10YR2/3(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が5%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。ややしまる。	雷利?破片1、9号住居柱穴と重複。
PT-110	14住(II 住)内	30 × 23	56	ア	10YR2/2(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が5%混じる。粘性や やあり。シルト粒土。ややしまる。	
PT-111	14住(II 住)内	15 × 10	10	ア	10YR3/2(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が5%混じる。	軽之内式?破片1
PT-112	14住(II 住)内	30 × 20	32	ア	10YR2/2(黒褐色)に 10YR4/4(褐)が5%混じる。	中堀土器破片1、黒曜石剥片1、9号住居・11号住居・14号 住居と重複。

第2表 土坑ピット観察表

遺構 番号	位置	縦 (cm)	深さ (cm)	断面 形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-113	12住内	45 × 38	52	ア	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(褐)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-114を切る。
PT-114	15住内	41 × 26	40	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐)が10%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。固くしまる。	
PT-115	14住(11 住)内	58 × 45	24	ア	10YR2/3(暗褐色)に10YR4/6(褐)が5%混じる。	中期土器底部破片1
PT-116	14住(11 住)内	40 × -	65	ア	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。粘性あり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式3段階の深鉢大形破片が出土
PT-117	14住(11 住)内	40 × 30	54	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が3%混じる。粘性あり。シルト粘土。しまる。	
PT-118	14住(11 住)内	26 × 26	65	ア	10YR3/3(暗褐色)に10YR4/6(褐)が10%混じる。粘性あり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式破片10、14号住居の柱穴
PT-119	14住(11 住)内	60 × 60	70	イ	実測面参照。	14号住居跡藏穴。曾利I式古段階破片多数。打製石斧が出土
PT-120	13住内	55 × 46	55	イ	埋土、10YR2/1(黒)に10YR6/8(明黄褐色)が2%混じる。柱底、10YR1/7/1(黒)に10YR6/8(明黄褐色)が1%混じる。粘性あり。シルト粘土。しまる。	柱痕複数。中期土器破片1、13号住居柱穴
PT-121	14住(11 住)内	45 × -	53	イ	埋土、10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。柱底、10YR1/7/1(黒)に10YR5/6(黄褐色)が1%以下混じる。粘性あり。シルト粘土。しまる。	OK-100を切る。柱痕複数。中期土器破片1、13号住居柱穴
PT-122	14住(11 住)内	50 × 50	54	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が20%、10YR5/6(黄褐色)が10%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-123	13住内	45 × 42	55	イ	10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が7%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	黒曜石剝片、13号住居柱穴
PT-124	12住内	40 × 40	78	-	10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-125	14住(11 住)内	29 × 29 柱幅: 20 × 20	55	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-126を切る。底部で柱痕確認。
PT-126	14住(11 住)内	40 × 35	38	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が30%、10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。シルト粘土。しまる。	
PT-127	14住(11 住)内	30 × -	32	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が15%、 10YR2/1(黒)が7%混じる。シルト粘土。しまる。	
PT-128	14住(11 住)内	55 × 36	35	イ	10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が10%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。シルト粘土。しまる。	井戸尻式3段階か曾利I式破片1、真裏製打製石斧1、ホルンフェルス製削器1、11号住居柱穴
PT-129	13住裏 壁	32 × 32	72	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR5/6(黒褐色)が10%、10YR2/1(黒)が5%混じる。シルト粘土。しまる。	13号住居柱穴
PT-130	15住内	30 × 28	53	ア	10YR3/3(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が25%、10YR6/8(明黄褐色)が5%、10YR1/7/1(黒)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-131に切られる。
PT-131	15住内	25 × 25	48	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が7%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-130・132を切る。12号住居柱穴
PT-132	15住内	40 × -	46	イ	10YR6/8(明黄褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%、 10YR1/7/1(黒)が15%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-133	14住(11 住)内	43 × 25 柱幅: 10 × 10	53	イ	埋土、10YR6/8(明黄褐色)に10YR2/1(黒)が25%、 10YR3/2(黒褐色)が15%混じる。 柱底、10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	底部で柱痕確認。井戸尻式破片4、14号住居の柱穴
PT-134	14住(11 住)内	47 × 40 柱幅: 23 × 18	46	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が40%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。 柱底、10YR2/1(黒)に10YR2/1(黒)が40%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	底部で柱痕確認。
PT-135	14住(11 住)内	55 × 55 柱幅: 23 × 21	52	イ	埋土、10YR2/2(黒褐色)に10YR1/7/1(黒)が5%、 10YR6/8(明黄褐色)が5%混じる。 柱底、10YR2/2(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	底部で柱痕確認。中期土器破片3
PT-136	14住(11 住)内	47 × 46	25	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR6/6(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-137	15住内	46 × -	73	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/2(黒)が7%、10YR5/8(黄褐色)が7%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-138に切られる。
PT-138	15住内	50 × 30	80	イ	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/1(黒褐色)が10%、10YR5/8(黄褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-137を切る。
PT-139	15住内	60 × -	40	ア	10YR3/1(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が7%、炭化物が15%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	井戸尻式か曾利I式破片2、15号住居の柱穴。

第2表 土坑ピット観察表

遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-140	15住内	40 × 32	60	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%混じる。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	15号住居の柱穴。中期土器破片2
PT-141	15住内	50 × 50	60	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粒土。しまる。	中期土器破片1、15号住居の柱穴
PT-142	14住(11住)内	33 × -	45	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が3%、10YR1/1(黒)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	DK-106と切り合う。
PT-143	15住内	50 × -	50	ア	10YR2/3(暗褐色)に10YR5/8(黄褐色)が5%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	DK-107と切り合う。
PT-144	15住内	43 × 34	63	イ	10YR2/1(黒褐色)に10YR2/1(黒)が15%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	中期土器破片2、15号住居の柱穴
PT-145	15住内	45 × 35	30	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片1、15号住居の柱穴
PT-146	15住内	64 × 62	70	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%、10YR5/8(黄褐色)が3%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片1、15号住居の柱穴
PT-147	12住内	39 × 39	50	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片1、15号住居柱穴か。
PT-148	12住内	40 × 32	50	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が4%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。固くしまる。	
PT-149	15住内	30 × -	67	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR6/6(黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-151に切られる。PT-151が一番新しい。 PT-149、150の切り合いは不明。15号住居の柱穴、井戸尻式破片2
PT-150	15住内	35 × -	67	イ	10YR2/3(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が3%、10YR5/6(黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-151に切られる。
PT-151	15住内	30 × 28	67	イ	10YR2/3(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が7%、10YR2/2(黒褐色)が5%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-149・150を切る。
PT-152	15住内	49 × -	40	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が3%、10YR6/2(灰青褐色)が2%、10YR4/2(灰青褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-146と切り合う。
PT-153	15住内	47 × 31	55	ア	10YR2/1(黒)に10YR2/2(黒褐色)が5%、10YR6/8(明黄褐色)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	
PT-154	15住内	30 × -	40	オ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が5%、10YR5/8(黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	穴の上部は黄色い土で埋め戻されている。 PT-151に切られる。PT-151の上部に位置。中期土器破片1、15号住居の柱穴
PT-155	E-2-24 柱底: 27 × 27	52 × 51 柱底: 27 × 27	32	オ	堆土: 10YR2/2(黒褐色)に10YR3/2(暗褐色)が2%、10YR5/8(黄褐色)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	
PT-156	15住内	53 × 48 柱底: 25 × 21	60	ア	堆土: 10YR3/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が7%、10YR6/8(明黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	
PT-157	15住内	46 × 44 柱底: 20 × 18	57	ア	堆土: 10YR2/1(黒)に10YR3/2(暗褐色)が2%、10YR5/6(黄褐色)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	柱底部分は土が非常に固くしまっていた。
PT-158	17住内	67 × 50	54	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が10%、10YR4/2(灰青褐色)が3%、10YR7/8(黄褐色)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	15号住居の柱穴。PT-159を切る。井戸尻式破片3
PT-159	15住内	55 × 50	64	オ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(灰青褐色)が5%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	炭化物φ 3cmが出土。
PT-160	15住内	39 × 26	25	イ	10YR2/2(黒褐色)。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-146に切られる。
PT-161	14住(11住)内	26 × 26	23	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	井戸尻式破片5
PT-162	17住内	55 × 52	44	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/2(灰青褐色)が5%、10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-163を切る。曾利I式破片1
PT-163	17住内	70 × 60	50	ウ	10YR2/2(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が5%、10YR2/2(黒褐色)が3%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-162に切られる。大きな石。
PT-164	17住内	37 × 37 柱底: 25 × 22	50	イ	堆土: 10YR3/2(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が25%、10YR6/8(明黄褐色)が3%、炭化物が1%混じる。柱底: 10YR2/1(黒)に10YR2/2(暗褐色)が7%、10YR6/8(明黄褐色)が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	15号住居の柱穴。PT-165を切る。井戸尻式破片3が出土しているが、柱底に帰属するか、PT-164に帰属するか不明。
PT-165	17住北 西壁	50 × -	50	ア	10YR2/3(暗褐色)に10YR2/2(黒褐色)が30%、10YR6/8(明黄褐色)が2%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	PT-164に切られる。15号住居の柱穴
PT-166	15住内	44 × 39 柱底: 31 × 28	39	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が40%、炭化物が1%混じる。粘性やややあり。シルト粒土。しまる。	穴の形が上から 20cm の所で段になり、小さくなる。

第2表 土坑ピット観察表

遺構番号	位置	径(cm)	深さ(cm)	断面形状	覆土色	備考(遺物など)
PT-167	15住内	50×40	30	イ	10YR3/1(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-156と切り合う。
PT-168	15住内	50×35	40	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%, 10YR6/8(明黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-169・170を切る。14号住居の柱穴。
PT-169	15住内	40×40	52	イ	10YR4/2(灰黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%, 10YR6/8(黄褐色)が1%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-168に切られる。井戸尻式?破片1、14号住居の柱穴。
PT-170	15住内	35×-	50	オ	10YR3/3(緑褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%, 10YR6/8(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-168に切られる。菅利I式古殿壇破片2、14号住居柱穴
PT-171	18住内	44×40	43	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が20%, 10YR3/1(黒褐色)が10%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-172	19住内	96×68	40	イ	10YR1/7/1(黒)に10YR1/8(黄褐色)が5%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-173	18住内	40×40	55	ア	10YR2/1(黒褐色)に10YR6/8(明黄褐色)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-174	27住内	45×36 柱底、20 ×18	15	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	PT-174・175・177・178・179・180でHO-01を構成。中期土器破片9
PT-175	HO-1	37×35 柱底、23 ×18	30	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	HO-01柱穴。中期土器破片4
PT-176	27住内	42×36	16	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	中期土器破片7、27号住居・28号住居に重複。平安時代のピッカ。
PT-177	HO-1	32×35 柱底、23 ×19	22	イ	埋土、10YR6/8(明黄褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5%, 10YR1/7/1(黒)が7%混じる。 柱底、1/1/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-178	HO-1	35×29	16	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-179	C-3-11	39×37	18	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-180	HO-1	35×34	22	イ	10YR1/7/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	中期土器破片3、平安時代の土師器裏破片1。平安時代の掘立柱建物跡の一部
PT-181	24住内	46×43	60	イ	10YR2/1(黒)。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	菅利I式破片1、24号住居の柱穴
PT-182	18住内	52×52	52	イ	10YR3/1(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が7%, 10YR6/8(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-183	18住内	77×72	46	ア	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化物が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	菅利I式土器破片、石器、黒曜石、花崗岩が出土
PT-184	24住内	63×58	70	イ	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(緑褐色)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	菅利II式標印の小形土器1個体、打製石斧1、24号住居の柱穴か。
PT-185	19住内	60×56	47	イ	10YR2/1(黒)に10YR4/6(褐)が2%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-186	18住内	46×40 柱底、24 ×20	46	イ	埋土、10YR5/6(黄褐色)に10YR2/1(黒)が3%混じる。 柱底、10YR2/1(黒)に10YR4/2(灰黒褐色)が5%, 10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-187	19住内	55×53	35	ア	土色なし。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-188	19住内	55×51	35	イ	土色なし。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-189	18住内	73×59	32	イ	土色なし。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	
PT-190	24住内	58×58	100	イ	10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	土坑底面に硬あり。土坑底部破片1、24号住居柱穴
PT-191	0-2-17	51×49	50	イ	10YR2/1(黒)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。粘性ややあり。シルト粘土。しまる。	

第2表 土坑ピット観察表

図版番号	機関先 通名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
7図01	PJ-04 PT-18	PT-10 一括	深鉢形	(23.6)	-	-	227	内: 7.5R6/3 外: 7.5R4/2	石英、白色、灰青、赤色、黑色 色植物粒子が混じる	柱穴 PT-18 で出土。口唇部に円錐状の突起。
7図02	PJ-04 PT-18	PT-10 一括	深鉢形	-	-	-	158	内: 7.5R6/4 外: 7.5R4/3	長石、石英、雲母、黑色 色植物粒子が混じる	柱穴 PT-18 で出土。口縁部と梯形文状の文様 の中間を割りとて、口縁部と梯形文状文様を 浮き立たせている。
7図03	PJ-04 DK-45	DK-45 一括	深鉢形	-	-	-	115	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/4	白色、灰色、赤色、黑 色植物粒子が混じる	4号住居跡窓穴と思われる 45 号土坑で出土。 低平の隆帯と縄文地文
7図04	PJ-04 PT-72	PT-72 一括	深鉢形	-	-	-	92	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/3	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	柱穴 PT-72 で出土。沈線で弧線を描出
7図05	PJ-04 PT-73	PT-73 一括	深鉢形	-	-	-	117	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/6	石英、石英、赤色、黑 色植物粒子が混じる	柱穴 PT-73 で出土。53 号土坑出土土器 (96 図01) と同一個体。
7図06	PJ-04 H-2-24	PJ-4 一括、 H-2-24	鉢	(15.2)	-	-	129	内: 7.5R6/3 外: 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	口唇部を棒状工具により押さえて小剣みな波 状とし、2 本の貼り付け隆起を垂下させる。 垂下隆起は 4 単位とされる。内面に撲付 有
7図07	PJ-04	PJ-4 一括	深鉢形	-	-	6.6	306	内: 7.5R6/3 外: 7.5R6/6	長石、石英、黒色、赤 色植物粒子が混じる	梯形文土器の底部破片。隆起梯形文のなかに 横沈線を施す
7図08	PJ-04	PJ-4 5	深鉢形	-	-	-	230	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/2	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	深鉢口縁部の突起とメガネ状把手の手縫。4 号住居戸上の理土下層で出土。幅広で低い隆 帶と沈線を施す。
7図09	PJ-04	PJ-4 一括	深鉢形	-	-	-	79	内: 7.5R6/3 外: 7.5R6/3	長石、赤色、白色、黑 色植物粒子が混じる	幅広沈線で渦巻文、三叉文を施す
7図10	PJ-04	PJ-4 一括	浅鉢形	-	-	-	124	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/4	長石、赤色、黒色、灰 色植物粒子が混じる	口縁屈曲部に幅広のつまみ隆起を貼り付け。
7図11	PJ-04	PJ-4 一括	ミニ チュア 土器	-	-	-	10	7.5R6/4	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	ミニチュア土器。口縁直下に焼成前の穿孔あり。 有孔焼成土器のミニチュアか
7図12	PJ-04	PJ-4 一括	深鉢形	-	-	-	68	7.5R6/4	長石、石英、白色、赤色、黑 色植物粒子が混じる	深鉢口縁部の人口突起部分の破片。埋土中か ら出土。突起下端の内側面は平滑に研磨整形成 されている。目と口に穿孔。後縁部は隆起を 貼り付けて交互刺突。突起内面もナデ調整さ れている。
7図13	PJ-04	PJ-4 42, PJ-4 43	土偶	-	-	-	51	10R6/2	長石、石英、赤色植物 粒子が混じる	土偶の腹部以下の破片。右脚部とそれ以外に 削られた筋片が複合。45 号土坑南西あたりの埋 土中、床面から 25cm ほど深いで出土。沈線 による施文、破片状態であるが自立する。右 脚底面は網代模様か?
7図14	PJ-04	PJ-4 一括	土偶	-	-	-	24	10R6/2	長石、石英、雲母、黑 色植物、白色植物粒子 が混じる	土偶の右腕と思われる破片。幅広の沈線によ る施文
7図15	PJ-04	PJ-4 一括	土偶	-	-	-	25	10R6/2	長石、石英、雲母、黑 色植物、白色植物粒子 が混じる	土偶の脚部破片。底面は凸状に湾曲している
9図01	PJ-05	PJ-5 12	深鉢形	(24.5)	-	-	261	内: 7.5R6/2 外: 10R6/4	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	太い粘土組を貼り付けて垂下文を描出。細い 粘土組で横棒横円文を描出。縫隙に沿って キヤタビラーラー文を施す。小波状文は押引きで 描出。無口部は指揮部を明確に残す。
9図02	PJ-05	PJ-5 一括	深鉢形	-	-	-	246	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/2	長石、石英、灰白色 色植物粒子が混じる	太い粘土組を貼り付けて口縁部に横円状の区 画を描出し、角押文で縫取り
9図03	PJ-05	PJ-5 一括	深鉢形	-	-	-	59	内: 5R6/4 外: 2.5R6/6	長石、石英、灰白色、 赤色、黑色植物粒子が 混じる	半截竹管と押引で格子目状文様を描出
9図04	PJ-05	PJ-5 一括	深鉢形	-	-	-	63	内: 10R6/1 外: 10R6/1	長石、白色、黑色 色植物粒子が混じる	細い粘土組を貼り付けて Y 字状の懸垂文を描 出し、半截竹管の平行沈線で縫取り。三角の 印刷文あり。縄文地文
9図05	PJ-05	PJ-5 一括	深鉢形	-	-	-	292	内: 5R6/6 外: 5R6/4	長石、石英、雲母、黑 色植物粒子が混じる	粘土組の貼り付けて区画を描出し、キヤタビ ラーラー文と押引による小波状文で埋填する。
9図06	PJ-05	PJ-5 一括	深鉢形	-	-	-	48	7.5R6/3	長石、石英、乳白色 色植物粒子が混じる	深鉢口縁部に付けられた人面状突起の破片と 思われる
9図07	PJ-05	PJ-5 17	ミニ チュア 土器	-	-	(3.0)	56	10R6/1	長石、石英、乳白色 色植物粒子が混じる	南壁沿いの埋土下層で出土。縄文地文のミニ チュア土器

第3表 土器観察表

図版番号	補遺表 遺物名	注記	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	器面の 色調	施土質	観察所見
9図08	PJ-05	PJ-5 28	深鉢形	-	-	20.0	862	596/6	長石、石英、乳白色、黒色鉱物粒子が混じる	低平な隆帯で横円文を抽出。
11図01	PJ-06	DK-47 ズ 1 DK-47 一 括	深鉢形	21.6	34.4	11.6	2722	内: 1094/2 外: 7.595/3	長石、石英、雲母、灰白色、黒色鉱物粒子が混じる	11図02の土器とともに杯北側の床面上で、横側になつて出土。角状の突起には円形凹みと三叉文が施される。円形凹みは貫通していない。口縁部の小さな円形突起も貫通していない。器面文様は波線文による。内部裏ともきわめて磨かれている。口縁部と底下半部に煤付着あり
11図02	PJ-06	PJ-6 15, Pj-4 一 括、10-316, H-3-7、H-3- 9	深鉢形	(41.8)	-	-	2387	内: 7.596/3 外: 1094/2	長石、石英、雲母、乳白色、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	幅広隆帯を貼り付け、隆帯上を矢羽状の鉄みを施す。渦巻文と三叉文は波線文で抽出。文様間にには波線文を充填
11図03	PJ-06	DK-47 一括	深鉢形	(18.8)	-	-	220	内: 1096/6 外: 1094/3	長石、石英、灰白色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部屈曲部から上面に文様帯。幅広隆帯でX字状の文様と複層文を抽出。その周囲は波線文。屈曲部には波状の刻み文様
11図04	PJ-06	PJ-6 一括	深鉢形	-	-	-	85	内: 1094/2 外: 1094/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部が強く屈曲内溝する深鉢の口縁部破片。外面に煤付着あり
12図01	PJ-06	PJ-4 1	深鉢形	-	-	-	343	内: 1095/4 外: 1094/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	多喜窯タイプの4半位大形突起の破片
12図02	PJ-06	PJ-4 一 括、Pj-6 一 括、H-2-24, H-2-23	浅鉢形	-	-	-	195	内: 594/3 外: 595/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁屈曲部に幅広のつまみ隆帯を貼り付け。マメ科種子の圧痕あり
12図03	PJ-06	PJ-4 一括、 Pj-6 17	鉢	-	-	-	57	内: 7.597/6 外: 597/6	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	内外面に赤色と黒色の色彩あり。
12図04	PJ-06	PJ-6 7	深鉢形	-	-	-	377	内: 1096/4 外: 7.596/4	長石、石英、雲母、灰白色、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	大形の柄形文土器の底部付近の破片、低平の隆帯で弦紋文を抽出し、波線文で充填
12図05	PJ-06	PJ-6 2	深鉢形	-	-	-	355	内: 1094/3 外: 7.592/1	長石、石英、赤色、灰白色鉱物粒子が混じる	隆縫と隆帯で文様を抽出した後に条線地文を施す
12図06	PJ-06	PJ-6 4	器台	(20.8)	3.0	(21.8)	183	内: 7.596/4 外: 7.596/5	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	器台破片。台上面の中央寄りは平滑に磨かれていって、台部側縁と裏面には丁度調整。側面部は回転によりやや縮れし、线条痕が強調される。
16図01	PJ-07	DK-50 ズ 1, G-3-13	深鉢形	(19.2) 底縁	-	-	2770	内: 595/4 外: 595/4	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	7号住居炉体土器。柄形文土器の底部と頂上半を割りとつて炉体土器としている。上端の割離面の一部には割り口を整めた箇所があり、内外器面はよく被熱風化したようにほみえない。種子圧痕あり
16図02	PJ-07	PJ-7 14, G-44、G-3- 13、G-3-12	深鉢形	23.3	-	-	665	内: 1095/3 外: 1095/4	長石、石英、灰白色、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	幅広の割離隆帯を口縁部に貼り付け。口縁内部は柄状に内側に突出する。
16図03	PJ-07 DK-59	DK-59 一括	深鉢形	(29.0)	-	-	620	内: 595/3 外: 595/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	口唇部に円形凹み文をつけた大小の突起。円形凹みは貫通していない。文様は幅広弦紋で抽出。
16図04	PJ-07	IG-405	深鉢形	-	-	-	195	内: 7.594/2 外: 7.595/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	口縁突起から幅広隆帯を垂直。斜めに下ろし、隆帯とを交互に刻す。細い沈縫による矢羽状文様で装飾。隆帯部は口縁で取り除かれた。外面に煤付着あり
16図05	PJ-07	PJ-7 40	深鉢形	-	-	-	280	内: 7.594/1 外: 7.595/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部から口縁にかけての破片と思われる。三角の突起と、幅広隆帯を貼り付けて文様を抽出。外面には煤付着
16図06	PJ-07	IG-46	深鉢形	-	-	-	67	内: 1096/3 外: 1092/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	貼り付ける隆帯で横円文と円形突起を施す。三角押文で縁取り。内部裏とも丁寧に磨いている
16図07	PJ-07 DK-55	DK-55 ズ 1, DK-59 一括、 PJ-7 40	鉢	16.5	10.3	8.8	586.0	1094/1	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	貯藏穴と判断した55号土坑で出土。口縁直下に細い波線文をめぐらせる。内外面とも丁寧なミガキ調整
16図08	PJ-07	PJ-7 一括	土器片	-	-	-	29	1095/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	土器破片であるが、非常に磨耗して本来の内外器面が失われ、薄くなっている。四角に整形したようにもみえ、なんらかの道具として使用した可能性がある

第3表 土器観察表

図版番号	傳承先追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	出土質	観察所見
18図01	PJ-09	PJ-9 7, PJ-9 4, F-3-2	深鉢形	(25.0)	-	-	961	内：7.5R6/4 外：5R6/3	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子が混じる	口縁部に断面が三角形になる高い隆起を貼り付けて横円区画文と渦巻文を描出。縄文地文。縄条縦文を施文後に口縁部に貼り付け。隆起の横円区画文内に縄文を充填。腹部には縦方向の磨り溝があるが、施文意図があるのか分からず。内面ミガキ調整
18図02	PJ-09	F-2-22	深鉢形	(16.6)	-	-	178	内：7.5R6/3 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子が混じる	縄文地文施文後に頭部と腹部に土器縁を貼り付け、波状文様を描出。外面は暖鉢付近。内面は頭部が大径よりや下に帯状に煤に埋れ着。
18図03	PJ-09	PJ-9 10	深鉢形	-	-	8.2	1455	内：10R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子が混じる	カマド南東の床面で倒立しになって出土。頭部は小さな把手状の貼り付け文と半截竹管による擬隆起を連結。頭部は細い粘土縁を波状文に貼り付け。縄文地文。外面底部近くは丁寧に横ミガキ調整。内面は風化が進んでいる。
18図04	PJ-09	PJ-9 1	深鉢形	-	-	6.5	774	内：7.5R6/2 外：2.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子、花崗岩片が混じる	伊南側の床面上に横置して出土。口縁部から腹部近くまでに縄文地文を施した後、細い粘土縁を貼り付けて頭部背面と花崗岩下文を描出。頭部あたりの土器内面に帯状に煤が付着。
18図05	PJ-09	PJ-9 9, PJ-9 10, PJ-9 13, PJ-9 一括, F-3-3	深鉢形	18.4	-	-	1273	内：7.5R6/3 外：2.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子が混じる	伊東側の床面から10cmほど浮いて出土。小形の縦目文土器。口縁部は半截竹管の平行沈線で斜行する複数縞縁を出し、その上に細い粘土縁を斜めに貼り付けて籠目状を表現。縄文は口唇正面に及ぶ。頭部と腹部は細い粘土縁を波状文に貼り付け。地文は半截竹管の平行沈線による擬垂綫。頭部に4枚位の小突起を貼り付け。粘土縁を細く垂下させ、渦巻文を描出。口縁部内外面と頭部内面に頭部に帯状に煤付着。
18図06	PJ-09	IG-483	深鉢形	-	-	5.3	356	内：7.5R6/4 外：5R6/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	伊南側の復土で出土。小形の縦目文土器。表面には凹凸がされた痕跡あり。口縁部は細い粘土縁を棒状に目状に貼り付けて縦目文を描出。頭部は縦条縦文を施文後に細い粘土縁を貼り付けて渦巻文、蛇行垂下文を描出。頭部に小突起。土器内面の頭部から底部にかけて煤付着。
19図01	PJ-09	PJ-9 13, PJ-9 8, F-3-3	深鉢形	(17.0)	-	-	229	内：5RQ3 外：5R4/6	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子が混じる	頭部に粘土縁を横位にめぐらせ、その間を半截竹管による平行沈線で斜行する複数縞縁を充填。頭部は半截竹管による縦条縦文地文に細い粘土縁を波状文に貼り付け。内面は丁寧なミガキ調整。外邊の頭部付近。内面は口縁部と腹部中位に煤付着。
19図02	PJ-09	PJ-9 9, PJ-9 13, PJ-9 一括, F-3-3	小型深鉢形	-	-	6.0	470	内：10RQ/2 外：5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	小形の重弧文土器。頭部と腹部に細い粘土縁を波状文に貼り付け。ボタン状のねりり付け文。半截竹管の平行沈線を横位に施す。施し文と擬縞縁を描出。内面はミガキ調整。
19図03	PJ-09	PJ-9 7	深鉢形	-	-	11.0	1632	内：10R6/2 外：10R6/4	長石、石英、黒色、赤色植物粒子が混じる	縄文地文。腹部は磨きが進んでいる
19図04	PJ-09	PJ-9 3, PJ-9 2, PJ-9 4, F-3-2	深鉢形	(26.2)	(52.2)	10.2	1440	内：10R6/2 外：10R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物、赤色植物粒子、花崗岩片が混じる	伊南側の堆土中でばらばらな破片状態で出土。口縁部に小突起が何個か。単位数は不明。口縁部に弧状の隆脊、頭部に隆起の崩骨文を貼り付け文。縄条縦文を施文。さらに沈縞で渦巻き渦巻文を施文。内外面に煤付着。特に頂部から底部にかけての内面に油脂状光沢があり発泡したようなタール状模様が厚く付着。土器の大きさのわりに器壁が薄い。口唇部は内側にむかって斜めにそぎ落とされるように傾き、三角形に削り出している。
19図05	PJ-09	F-2-22	深鉢形	-	-	-	185	内：5R6/3 外：5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子、角が丸くなっているチャート並角鏡が混じる	幅広縞帶で弦縞と渦巻き状突起を描出後、縄条縦文を施文。内外面に煤付着。唐草文系土器
19図06	PJ-09	F-2-22	深鉢形	-	-	-	44	内：7.5RQ/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に細い粘土縁を貼り付けて渦巻文を描出後、縄文地文を施文。内面はミガキ調整

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
19図07	PJ-09	F-2-22, F-2-23	深鉢形	-	-	-	120	内: 10M3/2 外: 5M5.6	長石、石英、雲母、黒色。 赤色鉱物粒子が混じる。	縄文地文を施文後に幅広の沈縫で渦巻文と弦線を追出。次絞間に列点文を追加する箇所もある。内面は丁寧な横ミガキ調整。後削ぎ之内式か。
19図08	PJ-09	PJ-9 11	鉢	(17.3)	8.9	7.7	361	内: 7.5M4/2 外: 7.5M6/3	長石、石英、雲母、黒色。 赤色鉱物粒子、灰白色 碎片が混じる。	炉東側の埋土で出土した鉢。縄文地文。内外面ともに横ミガキ調整。
19図09	PJ-09	F-2-22	浅鉢形	(35.6)	-	-	354	内: 5M4/4 外: 5M4.6	長石、石英、雲母、赤色。 黒色鉱物粒子が混じる。	内外面とも丁寧な横ミガキ調整。
19図10	PJ-09	PJ-9 一括	有孔環付土器	(11.6)	-	-	133	5M6.6	長石、石英、雲母、黒色。 赤色鉱物粒子が混じる。	頭部に三角形の鋸。その上に焼成前の穿孔があり。内外面に赤彩あり。
19図11	PJ-09	F-2-22	ミニチュア	(7.4)	-	-	5	内: 7.5M6/3 外: 10M4/2	長石、石英、雲母、赤色。 黒色鉱物粒子が混じる。	ミニチュア土器の口縁部破片。外面は縱方向の捺ナデ調整、内面は横方向のナデ調整。
22図01	PJ-10	PJ-10 13, F-3-9, F-3-7	深鉢形	(19.8)	-	-	1048	内: 5M5/2 外: 5M6/4	石英、灰白色、赤色。 黒色鉱物粒子が混じる。	半截竹管で平行沈縫を施す。規隆帯を追出。規隆帯上に爪形押引を施す。半截竹管による縦条線地文を最初に施す。内面はやや粗なミガキ調整。外面口縁部から肩部にかけて煤付帯。
22図02	PJ-10	F-3-8	深鉢形	18.0	-	-	887	内: 7.5M6.6 外: 7.5M6.8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。	頭部に隆起と細い粘土縫を貼り付け。表面は粘土板を分割した部分を貼り付いた後、縦次緞地文を施す。外面は口縁部から頂部にかけて煤付帯。内面には煤は残存していない。
22図03	PJ-10	PJ-10 2, F-3-3	深鉢形	-	-	9.5	904	内: 7.5M6/4 外: 7.5M6/8	長石、石英、雲母、赤色。 黒色鉱物粒子が混じる。	地床伊西側の埋土で出土。2本の陰茎を貼り付けた後に条縞地文を施す。内面は難なナデ調整。
23図01	PJ-10	PJ-10 6, F-3-8	深鉢形	23.0	37.5	9.0	4012	10M7/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子。花崗岩片 が混じる。	PJ10 の他の床面ではばらばらに割れて出土。2 単位の大きな水煙突手と2単位の小水煙突手。頭部は半截竹管による平行沈縫の縦条線地文、8 単位の爪子状穂部文。内外面共に非常に風化している。
23図02	PJ-10	PJ-10 5	深鉢形	(24.7)	35.3	11.0	2349	内: 5M4/1 外: 5M6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。	地床伊東側の床面で横倒しに割れて出土。2 単位の水煙突突起と2単位の水煙突。半截竹管の平行沈縫による縦条線地文。内外面とも丁寧なミガキ調整。外表面は風化が進んでいい。
23図03	PJ-10	PJ-10 5, PJ-10 6, F-3-9	深鉢形	-	-	-	678	内: 10M4/2 外: 10M5/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。	粘土板を棒状工具で分割して塗出した跡を貼り付いた後に縦条線地文を施す。隆帯上に爪形押引を施す。内面は丁寧なミガキ調整。外面の頭部付近と内面の頭部最大径付近に煤付帯。
23図04	PJ-10	PJ-10 15, F-3-8	深鉢形	15.0	-	-	992	内: 7.5M6.6 外: 5M6/6	長石、石英、雲母、赤色。 黒色鉱物粒子が混じる。	住居南端の埋土で出土。頭部と脚部に隆帯を貼り付け。文様を追出後、頭部に「一本つ細い縦紋線を充填」で土文とする。口縁部内面にマツ科種子圧痕あり。
24図01	PJ-10	DK-96 一括, PJ-10 一括, PJ-10 25, PJ-10 24, PJ-9 一括, PJ-12 一括, F-3-9, F-3-3, F-3-2	深鉢形	(23.0)	-	-	1541	内: 5M4/3 外: 5M4/4	赤色、黒色鉱物粒子、 花崗岩片、黒曜石片が 混じる。	住居南端の埋土中でばらばらの破片となって出土。破片には二次被熱痕がある。口縁部に板状起皮を付け。突起の表面に「隆帯文様」を貼り付け。頭部は粘土板で横縞地文と渦巻文と組み合せる。頭部貼り付けて後に半截竹管による縦条線地文を施す。外面口縁部から頭部、内面の頭部最大径よりやや下に煤付帯。
24図02	PJ-10	PJ-10 4	深鉢形	(25.2)	-	-	619	内: 7.5M6/2 外: 7.5M6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。	地床伊西側。床面から 25 cmほど浮いて、横倒しに割れて出土。頭部に粘土縫を 3 本をめぐらせ、その間に波状にも貼り付け。4 単位に割れた粘土縫の垂れ垂。半截竹管による縦条線地文。外表面頭部を中心に煤付帯。内面は頭部下半分に煤付帯。
24図03	PJ-10	PJ-10 3	深鉢形	-	-	10.0	1646	内: 7.5M5/6 外: 5M5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子。花崗岩片 が混じる。	地床伊西側。床面から 25 cmほど浮いて、横倒しに割れて出土。頭部に粘土縫を 3 本をめぐらせ、その間に波状にも貼り付け。4 単位に割れた粘土縫の垂れ垂。半截竹管による縦条線地文。外表面頭部を中心に煤付帯。内面は頭部下半分に煤付帯。

第3表 土器観察表

図版番号	機関名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	出土質	観察所見
24 図 04	PJ-10	PJ-10 6, PJ-10 12, F-3-6	深鉢形	13.7	21.5	7.2	943	内：7.5M4/2 外：5M5/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子、花崗岩片が混じる	PJ 9 西の床面で花崗岩片とともに割れた状態で出土。頭部と肩部に半截竹管による3本の縦縫線をめぐらせて凹面を充填する。上の区画内には1本、下の区画内には3本の竹管押引縦垂文が施文される。内面はさほど風化していないが、口縁内側だけ帯状に風化が進んでいる
24 図 05	PJ-10 PT-95	PT-95 図 1	深鉢形	-	-	5.7	546	内：7.5M4/2 外：7.5M6/3	長石、石英、雲母、赤色植物粒子が混じる	PJ 9 の土壌中から逆位出土。底部に焼成後の穿孔があり、頭部と肩部に縦縫文による沈縫線をめぐらして凹面を充填する。上部工具で刻みを入れる。焼成文は1本ずつ施文した継次線。縦垂文は4箇位。内面はナデ調整。外面頭部から頸部下位に保有層。
24 図 06	PJ-10	PJ-10 一括、 F-3、F-3-6	深鉢形	-	-	-	242	内：7.5M4/2 外：7.5M6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	小形のわりに器壁が厚い。頭部に粘土組を発現し貼り付け。ヘラ状工具で上から交互に押さえて、波状形態を整えている。波状形態の下は半截竹管押引文を二列施文。頸部は半截竹管の緑条縫地文を最後に施文。様子注意あり。
24 図 07	PJ-10	PJ-10 10	深鉢形	9.5	-	-	370	内：7.5M6/2 外：7.5M4/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	地床伊南側の埋土で出土。棒状工具で1本ずつ施文した継次線地文。内面はミガキ調整
24 図 08	PJ-10	PJ-10 一括	土脚円盤	-	-	-	45	内：7.5M6/1 外：7.5M6/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	剪利式の水煙把手の渦巻文部を破片を転用した土脚円盤。穿孔は水煙把手に元来施文されていた焼成前穿孔。縁辺は打ち欠き後に整形している。
24 図 09	PJ-10	F-3-4	ミニチュア土器	-	-	-	8	内：7.5M7/4 外：7.5M6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	細い沈線で縦縫地文を施したミニチュア土器の破片
24 図 10	PJ-10	F-3-6	不明	-	-	-	16	内：7.5M6/4 外：7.5M6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	環形の外表面はミガキ調整。ミニチュア土器か？
24 図 11	PJ-10	Ig-258	耳杯	3.4	1.8	-	12	5M8/1	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	地床伊北側の投部との境界で出土。10号住居前に帰属しない可能性あり。赤色と黒色の部分が部分的に残る
24 図 12	PJ-10	PJ-10 23	耳杯	3.0	1.9	-	13	10M4/1	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	PJ83 と PJ90 の間の周溝内で出土した耳杯。全体に赤色が残る
26 図 01	PJ-11	PJ-14 5	小型深鉢形	(13.8)	-	-	181	内：7.5M4/2 外：5M5/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	やや肥厚した口縁部から2本の剥み隆脊が垂下。板条縫地文は捲き貼り付けに1本ずつ沈縫を施文。内面はヨコナデ調整。外表面の口縁部から頸部中位に保有層。内面は胴部下位から下に保有層。
26 図 02	PJ-11	PJ-11 8	深鉢形	-	-	7.4	692	内：5M8/3 外：5M4/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	II 号住居伊南東の埋土下層で出土。頭部に幅広の隆脊2本を貼り付け。中央の隆脊上には細い粘土組と格子目状に貼り付け。頭部文様等の下端を整えている。頭部に2本の細い粘土組を貼り付け。4単位の垂下式とする。半截竹管による継次縫地文を最後に施文。内外面とも難なずテ調整
26 図 03	PJ-11	PJ-11 14, F-3-1、PJ-11 11-3	小型深鉢形	-	-	(8.5)	842	内：5M4/2 外：5M6/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	II 号住居伊南の埋土下層で出土。頭部に幅広の隆脊2本を貼り付け。中央の隆脊上には細い粘土組と格子目状に貼り付け。下の隆脊は神祇工具で刻みを入れる。洞部はメガネ状の小突起から垂下する隆脊を貼り付け。地文は隆脊貼り付け後に半截竹管の平行沈縫を施文。外面部頭部から頸部中位に保有層。内面は頭部以下が黒化し、底部付近に焦が付着。
26 図 04	PJ-11	PJ-11 一括	深鉢形	-	-	-	60	内：7.5M2/2 外：7.5M4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	二段に膨らんだ頭部と思われる破片。細い粘土組を格子目状に貼り付け。三つ編み状の施めた粘土組2列を垂下させた単位文。
26 図 05	PJ-11	PJ-14 49, PJ-14 一括、 PJ-11 14, F-3-1、F-2- 22	浅鉢形	(36.0)	-	-	570	7.5M4/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	伊周邊ではばらばらの破片になって出土。口唇部に粘土組をU字状に貼り付け。単位数は不明だが2単位か4単位だろう。外表面はヨコナデ調整。口唇上面と内面は横ミガキ調整。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
26図06	PJ-11 DK-100	DK-100 団1 ～6・9～ 12 团16～ 17・19～ 22, PJ14～ 22, 23・26、 PJ11-17, PJ-15～16, 1642・443, F-2-21, E-2-25	深鉢形	(38.5)	-	-	8570	内: 10φ6.2 外: 10φ4.1	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	100号土坑上の埋土下層ではばらばらの破片状態で出土。口縁部から頭部にかけて隆帯で渦巻文、メガネ突起などを描出。くらんだけ頭部の下には断面三角形の大きい隆帯をめぐらせて半截竹管で削りを施す。その下には粘土組で貼り付けて交互剥離で調整を試みる。底面は粘土組で人体文様と垂下文様。地文は粘土組工具で深い横縞線を刻み、半截竹管でを整え、頭部は磨き仕上げている。内面と外側の縁部はミガキ調整。外側は口縁部から頭部中位まで煤が剥がれ付着している。
26図07	PJ-11	F-3-6	土偶	-	-	-	43	7.5φ6.1	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	11号住居もしくは15号住居埋土に帰属する土偶破片。頭部右側あたりの破片で、側面と背面に沈線による文様あり。
26図01	PJ-12	PJ-12 9, PJ-12 10, F-3-12	深鉢形	(14.6)	-	-	245	内: 7.5φ6.5 外: 9φ6.6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	頭部は隆帯を貼り付けて上下から交互剥離し波状とする。波状は粗雑な施文で刻み隆帯のように見える箇所もある。頭部に粘土組を貼り付けた垂下文。地文は1本ずつ施文した絞条線。内面とガキ調整
26図02	PJ-12	PJ-12 26, PJ-12 一括	深鉢形	-	-	10.2	633	内: 7.5φ6.1 外: 7.5φ6.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	頭部に2本の刻み隆帯を垂下させる。地文は幅広の波状線。内面ともガキ調整。脇曲部内面に光沢のある煤が付着。
26図03	PJ-12	PJ-12 22, F-3-12	深鉢形	-	-	9.0	395	内: 10φ6.4 外: 10φ7.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子、花崗岩片が混じる	1本ずつ描いた絞条線地文。底部内面が煤で黒変
29図01	PJ-12	PJ-12 30	小型深鉢形	-	-	7.0	189	内: 7.5φ4.2 外: 10φ7.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	頭部に垂下隆帯。地文は1本ずつ施文した緞沈線。底部はややむき落気味に形成されている。内面ともミガキ調整。
29図02	PJ-12A PT-96	PT-96 一括	深鉢形	-	-	-	25	内: 7.5φ6.5 外: 7.5φ6.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	波状口縁の小形深鉢。縞文地文。内外面とも煤で黒変している
29図03	PJ-12	PJ-12 31	深鉢形	-	-	-	392	10φ4.2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	多喜度タイプの深鉢の口縁部突起。口縁との接合部できれいにはがれた破片。塔状突起にも煤が付着
29図04	PJ-12	PJ-12 28, PJ-12 8, PJ- 12 10, PJ- 12 15, PJ- 12 20, PJ-12 33, P J-12 一括, P J-15 一括, I G-469, I G-478, I G-454, I G-452, I G-464, F-3-12, F-3-16	有孔陶 付土器	(25.2)	-	-	5430	内: 7.5φ4.2 外: 7.5φ4.3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	伊周辺の埋土で出土した大形の有孔陶付土器破片。頭部最大径は50cm近い。幅広で高い隆帯を貼り付けて文様を描出。赤彩が部分的に残る。
29図05	PJ-12	PJ-12 一括	鉢	(18.0)	-	-	94	内: 7.5φ6.5 外: 7.5φ6.3	長石、石英、雲母、黒色植物粒子がわずかに混じる	頭部と両部に隆帯による区画文。隆帯上に刻み。区画内を押引で縫取るよう精円文描き。沈線文、三叉文等を施文
29図06	PJ-12	PJ12 12	深鉢形	-	-	-	352	内: 10φ4.6 外: 7.5φ6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	多喜度タイプの深鉢の口縁部と思われる破片。屈曲して張り出した頭部に刻み隆帯で横円形文面を描出し、そのなかに粘土を貼り付けて立体的な文様を施文
29図07	PJ-12	I G-461	深鉢形	-	-	-	180	内: 5φ2.1 外: 7.5φ4.3	長石、石英、赤色、黒色植物粒子、花崗岩片が混じる	12号住居内の埋土で出土した折式土器。口縁部から口縁部に隆帯を貼り付け。口縁部文様は垂下文様。
29図08	PJ-12	PJ-12 10, PJ-12 20, F-3-12	器台	-	-	17.0	413	内: 10φ4.3 外: 7.5φ6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	器台の脚部破片。台部との接合部できれいにはがれている。脚部底面は回転により磨耗している。マメ科種子痕跡あり
30図01	PJ-12B DK-110	DK-110 ズ3, DK-110 ズ1, DK-110 ズ2, DK-110 ズ4, DK-110 一括	深鉢形	17.0	25.2	9.6	2443	内: 10φ6.3 外: 10φ4.2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	12号住居炉(DK110)内で割られたような形状で出土した。隆帶で口縁部に隆帯を貼り付け。頭部は隆帯をめぐらせる。頭部の底面は押引で取り、内面ともミガキ調整。外側口縁部から底部まで煤付着

第3表 土器観察表

図版番号	備考先追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	出土質	観察所見
30図02	PJ-126 PT-96	PJ-96一括	土製円盤	縦3.7	横3.9	厚0.8	15	内: 7.5R6/2 外: 7.5R6/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	縫合部の縫合線を充填した区画文部分の破片を利用した土製円盤。縫合部を研磨して整形している
32図01	PJ-13	PJ-13 10, PJ-13 一括, 16-445, 16- 235, 16-56, E-2-10	深鉢形	-	26.0	9.4	1445	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に幅広の隆帯を貼り付けてメガネ状区画文を描出し、縫合線を充填。頭部は縫合地文を施文した後、5本の蛇行線を垂下させる。内面は丁寧なミガキ調整。
32図02	PJ-13	PJ-13 30, PJ-13 一 括, PJ-13 I, E-2-10	深鉢形	(22.5)	-	-	880	内: 7.5R6/3 外: 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	102号坑上部で出土。4単位の波状口縁。口縁部に縫合で円文と弧線文を描出し、単次線を充填。弧線文内に短い隆帯をさらに区画される。頭部は2本一組の垂下で区画し、矢羽状の捺印地文を施文。内面は丁寧なミガキ調整。内外面の口縁部から底部まで焼がる所的に付着
32図03	PJ-13	PJ-13 8, PJ-13 一 括, E-2-10, F-2-1	深鉢形	(18.2)	-	-	296	内: 7.5R6/3 外: 7.5R6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	13号住居伊上の埋土中で出土。口縁部に縫合で弧線文と渦巻文を施文。2本一組の幅広口縁で縫合部と区画文、内面は丁寧なミガキ調整。口縁部から底部最大径付近までの内外面に焼付着。
32図04	PJ-13	PJ-13 7, 16-475, 16- 445	深鉢形	(20.5)	-	-	316	内: 7.5R6/2 外: 7.5R6/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	13号住居伊上の埋土中で出土。口縁部に2本の縫合でなぎ弧線文を描出し、単次線を充填。頭部は2本の平行線をめぐらせ、その下に単次線を充填して弧線文を施文。内面はミガキ調整。外面は頭部附近、内面は口縁部から底部最大径付近までに焼付着。
33図01	PJ-13	PJ-13 12, PJ-13 23, PJ-13 38, PJ-13 一括	深鉢形	20.6	20.0	8.4	457	内: 7.5R6/2 外: 7.5R6/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	住居南半の埋土中で出土。おそらく4単位となる波状口縁で、波状部の内面には指先でへこませた痕みがある。地文は結晶縞文。
33図02	PJ-13	PJ-13 13, E-2-10, 16- 445, 16-65	深鉢形	(19.6)	-	-	807	内: 5R6/1 外: 5R6/3	長石、石英、赤色、黒色植物粒子が混じる	13号住居伊南側の埋土中で出土。口縁部2本一組の隆帯を貼り付けて、肥厚した縫合部に成形し、幅広口縁で渦巻文と区画文を施文。縫合の単次線を充填。沈文が充填されず無文のままの区画文である。頭部は漆塗手状の捺印文と小刻みに蛇行する垂下文を施文。半截竹管で矢羽状の捺印地文を施文。
33図03	PJ-13	PJ-13 2, E-2-10	深鉢形	24.5	-	-	1395	内: 7.5R6/2 外: 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	伊南側の埋土中で出土。口縁部に幅広の隆帯を貼り付けて肥厚させ、6単位の突起をつける。頭部は口縁には縫合の沈文で渦巻文を施文。頭部は2本一組の平行線と蛇行線を垂下し、その後の矢羽状の捺印で埋める。頭部には横走縞線をめぐらせ、渦巻文を施文。蛇行平行線を最後に施文。
33図04	PJ-13	16-465, 16- 56, E-2-10	深鉢形	19.9	25.4	8.8	847	内: 5R6/2 外: 5R6/8	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	埋土中で出土。大木Bd式を模倣したような器形と文様模様をとる深鉢で、地文は多絞地文に覆われている。メガネの突起は2単位と思われるが、2単位の渦巻の突起がつく。頭部内面に局所的に焼が付着する
33図05	PJ-13	PJ-13 18, PJ-13 6, PJ- 13 8, PJ- 13 7, PJ-13 15, 16-445, 16-475, 16- 473, E-2-10	深鉢形	(50.0)	50.7	(11.0)	8750	内: 7.5R6/4 外: 7.5R7/8	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子、花崗岩片が混じる	伊南側の埋土中で出土。口唇上面から頭部までの口縁部は半截竹管で斜行する縫合線を描出する。口唇上面に斜行線をめぐらせる。頭部以下はまず半截竹管で縫合線を施文し、器面を分割した後に斜行线条を描く。その後に頭部に波状縞線、頭部に渦巻文、懸垂文などを貼り付ける。局所的に器面分割に失敗?し、斜行线条の上から縫合線を上書き施文した箇所がある。
33図06	PJ-13	PJ-13 33, 16-56	深鉢形	-	-	-	223	内: 10R6/2 外: 10R6/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	口縁部に隆帯を貼り付けてメガネ状の区画文を描出し、縫合線を充填。区画文の連続部は波状口縁となり、円錐の溝みが施文される。頭部は兩垂状点文を施文。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追記名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
33 図 07	PJ-13	F-2-6	深鉢形	-	-	-	116	内：7.5φ6/2 外：2.5φ4/4	長石、石英、赤色、黒色磁物粒子が混じる	口唇部の内側に粘土縫を貼り付けて、口唇部を内側に膨らませている。口唇上面に接合部を利用して深く細い沈縫をめぐらせる。口縁部には3本の隆起をめぐらす。その間でヘラ状工具で削った短い線を充填する。頭部には半截竹管の平行沈縫をめぐらせ、口縁部文様との間に縦文地文を施す。口唇部上面に煤付着。内面ミガキ調整
33 図 08	PJ-13	F-2-1 PJ-13 -括 E-2- 20 E-2- 25	深鉢形	-	-	-	79	内：7.5φ6/1 外：7.5φ6/3	長石、石英、赤色、黒色磁物粒子が混じる	ヘラ状工具の刻突地文。深鉢頭部中位くらいの破片で、内外面に煤付着
33 図 09	PJ-13	PJ-13 3	両耳壺	(36.0)	-	-	1073	内：10φ6/1 外：7.5φ6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	頭部に把手を貼り付け、縦文地文を施し、沈縫で頭部に区画文を描出す。外側の頭部から頭部下位にかけて、内面は最大径より下位に埋付着
34 図 01	PJ-13	PJ-13 20, PJ-13 9, PJ-13 -括	両耳壺	-	-	-	804	10φ5/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	13号住居伊南側の埋土中で出土。口縁部が外反し、頭部でくびれ、頭部がソロハニ状に屈曲する器形の両耳壺。頭部から頭部曲面部にかけて隆起を貼り付け、済巻文と区画文を描出し、単次線文を充填する。頭部から頭部曲面部にかけて把手が付くと思われるがはがれて欠損している。
34 図 02	PJ-13	PJ-13 5	深鉢形	-	-	-	137	内：10φ5/4 外：10φ6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	102号土坑上で、13号住居正面高さよりやや高い位置で出土。隆起を貼り付けてやや膨脹させた口縁部に沈縫と刻突文字を描出し、口縁部正面に厚く煤が付着。後期前業、壙之内式土器破片
34 図 03	PJ-13	PJ-13 -括	ミニチュア	5.6	-	-	18	内：7.5φ6/3 外：7.5φ7/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	手づくね成形のミニチュア土器。
36 図 01	PJ-14 PT-116	PT-116 図2, PT-116 図3	深鉢形	28.0	28.0	-	2405	内：10φ4/3 外：10φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子、花崗岩片が混じる	14号住居の柱穴PT116埋土で大きな破片の状態で出土した。口縁部から口縁部に粘土縫を貼り付けて小済巻文と二字状文様を描く。口縁部の小済巻文をつなぐように口縁上面に沈縫が施されされる。口縁部は粘土を貼り付けて半截竹管で締集合地文を施す。頭部腹面の立脚的ヘラ状効果を作出している。口縁部の二字状文様から頭下位に2本一緒に垂下縫を4個貼り付け。張り出した頭下位には横彫文を腰帶で描出し、縦沈縫を充填する。内面は丁寧なミガキ調整。外表面は全体が黒漆、内面は口縁部の底面部に煤が局的に付着している。
36 図 02	PJ-14	PJ-14 3, PJ- 14 2, PJ- 14 1, PJ- 14 41, PJ- 14 42, PJ- 14 6, PJ- 14 7, PJ-14 -括, PJ-11 9, PT-116 24, PT-116 25	深鉢形	30.0	-	-	4230	内：10φ6/3 外：10φ5/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子、花崗岩片が混じる	14号住居伊南東の11号住居床面より低い埋土下層で出土。口縁部と頭部に隆起を貼り付けて済巻文、波線文などを描出し、メガネ状の小把手の穴は貫通していない。小把手から隆起を貼り付けた部分が残っている。地盤は1本ずつ交叉した沈縫。縦沈縫を充填する。外表面全体と内面の底面部より土位が黒変化している
36 図 03	PJ-14	PJ-14 18, PJ-14 19, PJ-14 29, PJ-14 21, PJ-14 - 括, PJ-11 8, E-3-5, E-2- 25	深鉢形	20.2	28.5	7.5	1964	内：7.5φ4/2 外：5φ5.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	伊南側の埋土下層で出土。4巻位の波状口縫で波状腹下に隆起を貼り付いた口縁部粘土縫を描出し、口縁部文様の間に済巻文と二字状文をつなぐが、頭部により粘土縫を貼り付いた波状文が描かれる。口縁部は玉字状の円文もしくは済巻文が描かれる。頭部は頭部の外縫の沈縫をめぐらせる。二ワトリの頭のように入れた口縁部文様から頭部には隆起系縫が断ち切られる。頭部は半截竹管で平行沈縫が充填され、縦彫文をつなぐように横方向に沈縫文様が施文される。底面は隆起-地文-水平波状文。
36 図 04	PJ-14	PJ-14 14, PJ-14 48, PJ-14 -括, PJ-11 -括	深鉢形	15.7	28.0	9.0	1239	5φ5.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子、錫色の岩片が混じる	炉近くとPT115付近の埋土下層で出土。頭部に2本の平行沈縫をめぐらす。頭部に沈縫で済巻文、梯子状文様、縦沈縫を描出。内面ミガキ調整。外表面は頭部中位より上が黒変化している。

第3表 土器観察表

図版番号	傳承先追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見	
36図05	PJ-14	PJ-14 一括	深鉢形	-	-	-	459	内：10φ5/4 外：10φ2/2 10φ4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子。加工片が混じる	口唇部断面を三角形に肥厚させ、陥帯を貼り付けて波浪部と垂下文を描出。頭部には口縁部垂下文から連続する刺み陥帯をめぐらせる。底部は沈線の文様が施される。内面は鍔などミガキ調整。	
36図06	PJ-14 PT-119	PT-119 一括	深鉢形	-	-	-	175	内：7.5φ4/2 外：7.5φ2/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	14号住居陥窓穴と判断したPT119の埋土で出土。口縁部に粘土絆を貼り付けて立体的で中空の渦巻を作出している。	
36図07	PJ-14 PT-133	PT-133 一括	深鉢形	-	-	-	151	7.5φ5/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	鰐らしだけ伝文様陥窓もつも深部の破片。14号住居陥窓穴PT133埋土で出土。底らしだけ頭部に焼い粘土絆で格子状文様を焼き、下端部に粘土絆をめぐらせて区画する。頭部との境に小さなガネ状突起を添付。頭部は1本ずつ施文した鰐沈線地文。内面ミガキ調整	
36図08	PJ-14	F-2-21	深鉢形	-	-	-	72	内：7.5φ4/2 外：7.5φ2/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部がY字型・屈曲する深鉢と思われる破片。屈曲部の接合面できれいに割れている。直立口縁直下の屈曲部に陥帯と逆V字形の陥帯を貼り付け、半截竹管で押引き。外外面は丁寧なミガキ調整。内外面に赤色と黒色の塗彩が附着的に残る。	
36図09	PJ-14 PT-169	PT-169 一括 PT-169 一括	深鉢形	-	-	-	7.3	102	内：7.5φ6/4 外：5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	粘土絆を貼り付けた垂下文と沈線文様
37図01	PJ-14 PT-119	PT-119 一括	土偶	-	-	-	165	10φ5/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	14号住居陥窓穴と判断したPT119の埋土上層で出土。頭部、両腕、脚部が欠損。陥帯状の盛り上がりで正中縦を表現し、側面から背部部に沈線文様を描出する。器面は風化してざらついているが沈線部に赤色の塗彩が残る。元来、沈窓内のみを彩色したかは不明。腹部にはがれがあるが、本来は盛り上がった腹部を表現する粘土の貼り付けがあったかもしれない。	
37図02	PJ-14	PJ-14 一括	土偶	-	(6.1)	-	63	10φ2/1	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	14号住居埋土一括で取上げたが、11号住居に帰属する可能性もある。土偶の右下半身の破片。右脚部先端は火焼。文様は幅広の沈線で描出される。傾方向の割れ面には粘土絆の接合面が観察される。	
37図03	PJ-14 PT-119	PT-119 一括	土偶	-	-	-	11	5φ4/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子がわざかに混じる	14号住居陥窓穴と判断したPT119の埋土で出土した土偶の前部破片。胎土質、調整が37図04と類似し、同一個体かもしれない。	
37図04	PJ-14	PJ-14 45	土偶	-	-	-	14	5φ2/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子がわざかに混じる	14号住居埋土下層で出土した土偶の右腕部破片。頭部との接合箇所にソニケット状の突起を作出している。頭部へつながる沈線文様が施文される。	
39図01	PJ-15 PJ-15 1, PJ-15 5, PJ-15 6, PJ-15 8, PJ-15 17, PJ-15 31, PJ-15 55, PJ-15 一括, F-3-8		深鉢形	-	(50.0)	-	4688	内：10φ2/1 外：10φ7/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中に破片となって散在して出土。頭部に粘土絆貼り付けの波文とメガネ状突起を貼付。メガネ状突起のは貫通していない。頭部には隆起で人体文のような文様と円文を施文。地文は1本ずつ施文した条線文。陥帯貼り付け+条線地文の施文頭。	
39図02	PJ-15	PJ-17 33	深鉢形	21.4	35.5	10.4	3330	内：7.5φ6/3 外：7.5φ4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	15号住居頭部。PT164上面の埋土で出土。頭部に3本の横縞と2本の波状隆起。頭部から腰部に垂下する刺み陥帯。頭部から下垂するJ字形縞文と條文。地文は半截竹管による縞条縞。腰縞+地文の施文頭。内面ミガキ調整。外面口縁部から頭部中位に押付帶。	
39図03	PJ-15	PJ-15 55	深鉢形	(14.6)	25.9	7.8	980	内：7.5φ6/3 外：7.5φ6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に2本の陥帯をめぐらせ、頭部にも陥帯文様を貼付する。地文は半截竹管による平行沈線の条縞文。陥帯は半截竹管による平行沈線文。施文は鍔など印象だが、内面は丁寧に施されている。口縁部外面が黒墨。	

第3表 土器観察表

図版番号	地質学的構成	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	地質質	観察所見
39図04	PJ-15	PJ-15 54	深鉢形	16.5	22.3	7.2	1272	内: 10φ2/外: 5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	PJ15付近の埋土中に出土。口縁部に2本一組の垂直隙縫を2枚位貼り付け、頭部に横巻きと横位の引手彫。波文状をめぐらせる。側面部にはひし形の文様を複数枚貼り出。波文は半截竹管による平行波文線で斜く走る文様。頭部～一帯の施文跡。内面ミガキ調整。内面の頭部最大位置から底部にかけて煤が厚く付着。
39図05	PJ-15	PJ-15 99、PJ-15 93、PJ-15 一括	深鉢形	11.4	16.0	5.2	562	内: 5φ6/2外: 5φ6/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	15号住居伊上家の床高さで出土した小形の深鉢。頭部に半截竹管で形状を整えた唇部をめぐらせ。その下に粘土を貼り付けて、半截竹管の頭部の平行波文を貼り、短い縦線を連続させる。さらにはその下端に半截竹管による深く平衡波文線による縦波文線を区切る。頭部に粘土を貼り付いた小さな文字状があり、そこから頭部に2位単の施文が垂下する。地文は半截竹管による条綾文。内面にはガラス調整。外面の口部唇部から頭部にかけて、内面の口部唇部から底部にかけて煤付着。
39図06	PJ-15	PJ-15 一括	深鉢形	-	-	7.0	1149	内: 5φ0/2外: 5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	埋土中に出土。口縁部と底部が欠損。頭部と底部に粘土を貼り付けて波文状、渦巻文などを施文。地文は半截竹管による条綾文。頭部貼り付け一帯の施文跡。外側の頭部から脇部最大位置にかけて煤が付着。
39図07	PJ-15	PJ-15 61、PJ-15 一括	深鉢形	13.4	18.3	6.8	624	内: 7.5φ2/1外: 5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	15号住居伊奥側の埋土下層で横倒しになつて出土。口縁部に2本一組の隙縫を2枚位垂下させる。頭部は頭部で横様の横円文を貼り付けて、頭部は4脚の脚部を刻み唇部を垂下させる。地文は半截竹管による條綾文。頭部～一条綾の施文跡。内面ナガタ調整。口縁部から頭部の内面に煤が薄く付着。
40図01	PJ-15	PJ-15 一括、PJ-15 35、PJ-15 30	深鉢形	13.5	20.2	6.5	567	内: 7.5φ4/4外: 5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	15号住居の奥壁付近の埋土中に出土。頭部に2本の隙縫を貼り付ける。地文は半截竹管による条綾文。内面ナガタ調整。頭部の内面から底部にかけて光沢のある煤が付着。
40図02	PJ-15	PJ-15 32、PJ-15 33、PJ-15 60、PJ-15 40	深鉢形	19.0	-	-	898	内: 7.5φ5/2外: 7.5φ5/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	伊北側の埋土中に広く散在して出土。4単位の波文口縁。波文部から唇部を頭部に垂下させ、波文部側面は通常縦文式でなく、頭部に横様の隙縫をめぐらせず、波文部に合せさせて粘土の小突起を貼付。この内突起から頭部に刻み唇部を垂下させる。地文は半截竹管の条綾で、半截竹管による割込みアケツセントをつける。内面ミガキ調整。外面全体と口縁部内面の内面に煤が付着。
40図03	PJ-15	PJ-15 一括、E-3-14	深鉢形	14.5	-	-	739	内: 10φ5/2外: 5φ4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	洞部に半截竹管で幅広の平行波文を描き、沈縫部に半截竹管と埋土隙縫を整形し、2段おきに内面膏押縫を引する。頭部の下にはアクリセントのような小さな貼付があるが、ほとんどは剥がれてしまつて形状が分かれらない。おそらく種類のひし字形状付で唇部を形成させる効果があったのだろう。外口縁部、内面の頭部から底部にかけて煤付着。
40図04	PJ-15	PJ-17 19、PJ-17 16、PJ-17 一括	深鉢形	12.3	18.5	6.4	286	内: 10φ4/4外: 7.5φ5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	15号住居東端、Pj15とPj16付近で出土した。出土位置から15号住居遺跡と判断した。半截竹管による平行波文で渦巻文、横、横斜めの地文を描く。外側の口縁部、内面の頭部中央から底部にかけて保有者。とくに底部内面には薄く光沢のある灰化物が付着している。
40図05	PJ-15	PJ-15 一括	深鉢形	13.5	-	-	543	内: 7.5φ4/2外: 7.5φ5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	埋土中に出土。4単位波状口縁の波文部から刻み唇部を垂下させる。波文部側面をめぐらす隙縫の底文でつなぐ。縦文地文。内面底部に灰化物が薄く付着。
40図06	PJ-15	PJ-15 56	深鉢形	14.0	17.0	(7.0)	904	内: 2.5φ4/2外: 2.5φ5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色磁物粒子が混じる	Pj131の上面の埋土中に出土。器表が乾いて硬さになり、始めた時に施した相似な縦文地文。内面ナガタ調整。口縁部の内面が墨黒。

第3表 土器觀察表

図版番号	機械式追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	出土質	観察所見
40図07	PJ-15	PJ-15 54	深鉢形	-	-	-	361	内：5.5R6.3 外：5.5R6.6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	頭部から底部にかけての破片。頭部に幅広縫合を貼り付け。上下から押さえられて波状文を描出。底部に隆帯によじらせる縫合と垂垂文。垂下する隆帯は斜めでなく、粘土縫合を貼り付けて有節縫合を描出している。底部最も大径位置の内面に発泡して光沢のある炭化物が厚く付着している。
40図08	PJ-15	PJ-15 一括、E-3-19	深鉢形	-	-	-	645	内：5.5R6.5 外：7.5R6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	頭部文様に格子目文を施す。格子目はまず器面上に半截竹管で斜めに描き、その上に焼く粘土縫合を貼り付けで描出する。格子目の上に下端は斜めでなく、粘土縫合を貼り付けて区切る。頭部は1本一組の波状縫合帯に波状縫合文を繰取り、近乎半の移動隆帯の内部にも粘土縫合の波状文と渦巻文。地文は半截竹管による縦縞文。隆帯一地文の拘文頬。
40図09	PJ-15	PJ-15 96、 PJ-15 41、 PJ-15 92	浅鉢形	(43.0)	-	-	562	7.5R3.2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	埋土中で出土。口唇部上面に直角貼付文を施す。内外裏ともミガリと調整
40図10	PJ-15	E-3-20	器台	-	-	14.2	78	内：7.5R6.3 外：7.5R6.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	15号住居南東角の埋土中で出土した器台脚部破片。台脚との接合部できれいにこがれていっている。脚部底面は回転による磨耗が認められる。
40図11	PJ-15	E-3-20	器台	-	-	16.4	152	内：7.5R6.6 外：7.5R6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	15号住居南東角の埋土中で出土した器台脚部破片。高さのある脚部底面には凹ヶ所に透かし穴がある。脚部底面には回転による磨耗と絆痕感が確認される。
40図12	PJ-15	E-3-20	小形土器	-	-	-	9	内：7.5R6.3 外：7.5R6.3	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	小さなメガネ状把手がつくな深鉢形と思われる小形土器破片。
40図13	PJ-15	PJ-17 15	ミニチュア土器	4.0	4.2	4.5	65	5.5R6.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	15号住居南東角のPT15B上面の埋土で出土した。出土位置から15号住居遺物と判断されたが、17号住居に帰属する可能性もある。器壁が厚く重量感のある手づなのミニチュア土器
40図14	PJ-15	E-3-20	土偶	-	-	-	55	5.5R6.6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子、小さな円窓が混じる	15号住居南東角の埋土中で出土した土偶右脚部破片。脚部との接合部に次線文様あり。
40図15	PJ-15	F-3-7	土製円盤	縦3.6	横3.1	厚0.8	13	内：10R6.2 外：10R6.2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	縦縞地文で縫合がはられた痕跡のある土器破片を利用した土製円盤。縁辺は直角整形している。
40図16	PJ-15	PJ-15 一括	土製円盤	縦2.8	横3.1	厚1.0	12	内：7.5R6.3 外：7.5R6.2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	縦縞地文の土器破片を使用した土製円盤と思われる破片だが、縫合部は打ち欠いたままで研磨整形していない。
44図01	PJ-16	PJ-16 18、 PJ-16 7、PJ- 16 8、PJ-16 一括、16- 131、E-3-2	深鉢形	(35.0)	-	-	7976	内：5.5R6.4 外：7.5R6.3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	16号住居埋土中でばらばらの破片状態で出土。口縁部頂部から縫合部に太い縫合を垂下させ、頭部にメガネ状把手を付け。そこから脚部に3本一組の隆帯を垂下させる。頭部には扁平で幅広の粘土縫合を貼り付け、棒状工具で割みを入れる。地文は口縁背面で幅広い凹縞を施す。頭部に描かれた円文、三角文は地文施文後に盛り消し技法による。縫合部は打ち欠いたままに黒墨。
44図02	PJ-16	PJ-16 64、 PJ-16 19、 PJ-16 8、 E-3-1	深鉢形	(37.6)	67.3	(16.4)	9050	内：7.5R6.4/2 外：7.5R6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	埋土中でばらばらの破片が散在して出土。脚部上半は縫合と粘土縫合を貼り付けて刻み縫合などを描す。空間に渦巻文、三叉文、円文を次線で施す。脚部下位に隆帯をめぐらせて区画し、その下に縦縞地文を施す。底部内面が厚状に黒墨。
45図01	PJ-16	PJ-16 30、 PJ-16 37、 E-3-2	深鉢形	(21.0)	-	-	2720	内：7.5R6.2 外：7.5R6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	頭部に1単位の把手がつく複合文土器。複合文は粘土板を貼り付けて棒状工具で分割して3本一組の縫合を描す。膨らんだ底部は半截竹管の縦縞文。口縁部上面に縫合部貼り付け文。
45図02	PJ-16	PJ-16 32、 E-3-6、E-3- 7	深鉢形	(24.7)	25.0	9.0	1087	内：2.5R4.1 外：2.5R6.1	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	口縁部から底部屈曲部に刻み縫合を垂下させる。頭部に刻み縫合をめぐらせる。地文は半截竹管の縦縞文。口縁部上面に縫合部貼り付け文。
45図03	PJ-16	PJ-16 31、 E-3-7	深鉢形	-	-	7.2	969	内：7.5R6.3 外：5.5R6.4	長石、石英、赤色、黒色植物粒子が混じる	頭部に隆帯をめぐらせ、頭部に4単位の隆帯懸垂文。地文は半截竹管の縦縞文。

第3表 土器観察表

図版番号	横葉先追様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
45図04	PJ-16	PJ-16 30, E-3-2	深鉢形	-	-	7.0	286	内：7.5R3/3 外：5R5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	半截竹管の粗雑な縦条線地文。内面には輪積み痕が残る。
45図05	PJ-16	PJ-16 14, PJ-16 一括	深鉢形	8.2	13.0	6.6	359	内：5R4/1 外：5R4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中で出土。2単位の波状口縁の片方の波頂部から1本の縫合を垂下させる。美濃國表面の波状部から垂下する縫合ではない。波頂部から左側に沈継により4單位の弧線文を施文。外腹側ナメ調整。内腹側ナメ調整。
45図06	PJ-16	PJ-16 54, PJ-16 一括, E-3-7	深鉢形	17.0	-	-	200	内：7.5R3/3 外：7.5R3/2	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中で出土した標器形の土器破片。縫合が薄く縫合は丹念に巻き上げられている。口縁部は波状になるらしいが形状が不明。口縁部から直状縫合帶に三つ編み状縫合線文を下させ。原口縫合粘土紐の波状文を合わせる。胴部に施された渦巻き付きの透し文字は細い粘土紐を貼り付けて、縫合工具でなでて整形している。
45図07	PJ-16	PJ-16 1, PJ-16 10	深鉢形	-	-	-	524	内：7.5R5/2 外：5R4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に前面三角形の縫合を貼り付け。頭部に陥落帯で垂下文と中凹区画文を施文。その際を単沈継と渦巻文、三叉文で充填する。外腹口縁部に光沢のある爆付看。
45図08	PJ-16	PJ-16 17, E-3-7	深鉢形	-	-	-	158	内：7.5R5/4 外：5R5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	陥落帯で懸垂文と人体文様の文様を描出し、その間に口縁の渦巻文と三叉文で充填する。内面の底部近くに炭化物が薄く付着。
45図09	PJ-16	PJ-16 一括	土偶	-	-	-	42	7.5R2/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中で出土した土偶の右肩部と思われる破片。胴部先端は欠損。側面と背面側に幅広辺の文様を施文。
45図10	PJ-16	PJ-16 28, PJ-16 29, E-3-7	耳栓	2.6	1.6	3.0	8	内：2.5R4/8 外：2.5R5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中で出土した小さな耳栓。全体に赤彩されている。
47図01	PJ-17B	PJ-17 25, PJ-17 18	深鉢形	(27.0)	-	-	1000	内：5R5/2 外：5R5/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子、花崗岩片が混じる	口縁部の繩文は1本ずつ粘土紐を貼り付けて、半截竹管を利用している。頭部に本体の粘土紐をめぐらせ、間に波状縫合を施す。頭部に1束一組の縫合でJ文字を4単位推出す。胴部では半截竹管による多縫。階級一致文の施文網。外腹の口縁部から頭部最大部にかけて保有看、内面は頭部から頭部下方にかけて局所的に黒変、炭化物が付着。
47図02	PJ-17B	PJ-17 46, IG-511, E-3- 22, E-3-17, E-3-21	鉢	15.0	-	-	466	内：7.5R4/4 外：7.5R3/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に半截竹管の平行沈継をめぐらせ。その下に細い粘土紐の波状隆起を模倣。縫合に貼り付け。胴部に縫合を貼り付ける横方向に連続する渦巻文を施文。縫合地文。陥落帯渦巻文→縫合地文→粘土紐の波状貼付の文様。内面は丁寧なミガキ調整。外腹の口縁部沈継より上と口唇上面、内面に赤彩が局所的に残る。
47図03	PJ-17C	IG-527	鉢	-	-	12.8	416	内：10R4/2 外：10R6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に陥落をめぐらせる。縫合地文は器面が乾いて硬化し始めた頃に施文している。内面ミガキ調整。
48図01	PJ-17B	PJ-17 72, E-3-22, IG- 506	深鉢形	19.0	20.3	8.3	804	内：10R5/3 外：10R4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁に二段の割突列、地文は縫合。頭部くびれの上部に幅広で浅い凹線で縫合文を施文。くびれ下半は削先文のような統一感のない文様が施文される。内面のくびれ以下に炭化物が局所的に付着。
48図02	PJ-17	PJ-17 30	浅鉢形	(41.8)	-	-	469	内：10R6/4 外：7.5R6/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	肥厚された口唇。口縁部に幅広の陥落を貼り付け。指先で押さえた割込みを施す。内面は丁寧なミガキ調整。外腹は鍛打ミガキ調整。われ面に大きなマメ科種子圧痕あり。
48図03	PJ-17B	IG-502	突起	-	-	-	363	10R4/3	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	I号号住居とした範囲で出土した深鉢口縁部の人面突起。左目が眞似していない。人面突起のみを打ち出したものか。
48図04	PJ-17	PJ-17 一括	ミニチュア土器	4.7	4.7	3.6	26	内：7.5R3/2 外：7.5R4/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	手づくね成形のミニチュア土器

第3表 土器観察表

図版番号	機器先端名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
51 図 01	PJ-18	PJ-18 ウメガメズ 1	両耳壺	-	-	12.0	4090	内：10H4/4 外：10H4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	18号住居南壁に正位で埋設されていた埋甕。口縁部と底部が打ち欠かれている。頭部につけられた2単位の把手をつなぐように、横に連続する「二字文様を貼り、粘土紐付で描出し。把手上から頭部に粘土紐の蛇行文様が貼付。垂直下する。縄文地文。把手貼付二縄文地文→粘土紐貼り付けの施文理。
51 図 02	PJ-18	PJ-18 17, PJ-18 10, PJ-18 1, D-2-14, D-2-9	深鉢形	30.0	-	-	617	内：7.5H6/6 外：10H5/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子。花崗岩片が混じる	住居全体に碎片が散在して出土。頭部に粘土紐を波状、斜行、水平にめぐらせて頭部文様を描出。頭部には小字記も貼付される。頭部は粘土紐で進行、「二字の文様を施文。地文は半軽竹管の直線、粘土紐貼付→一縄文地文の施文。口縁部から頭部の外側に光沢のある炭化物が局所的に付着。
51 図 03	PJ-18	PJ-18 26, PJ-18 16, PJ-18 14, 1G-60, 1G-61	深鉢形	24.5	-	-	557	内：10H5/3 外：10H4/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	18号住居仰側の埋土下層で散在して出土。口縫部に粘土紐を貼り付けM字文と横長弦文を描き、頭部までの間は無地で、頭部に粘土紐の区画。頭部は縄文地文に平行蛇縄文。頭部隆線→一縄文地文→平行蛇縄文の施文。口縫部外側から口唇にかけて周筋部に埋甕帯。
51 図 04	PJ-18	PJ-18 14, PJ-18 16, PJ-18 26, PJ-18 6, PJ- 18 1, PJ-18 25, PJ-18 30, PJ-18 一括、1G- 116, D-2-14	深鉢形	-	-	-	10100	内：10H6/6 外：10H6/6	長石、石英、黒色植物粒子。貝岩？の亜共構が混じる	炉と埋甕の間の埋土下層でつぶれた状態で出土。二字押手付の具足痕。まず縄文地文を施文し、その後に把手、頭部文様、頭部人体文、波状垂轍文、渦巻き垂轍文を貼り付け。内面の頭部下位に厚く炭化物が付着。
51 図 05	PJ-18	PJ-18 一括	土製円盤	縦2.5	横2.3	厚1.3	9	内：7.5H6/6 外：5H6/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	縄文の土器破片を利用した土製円盤。周縁は研磨型。
53 図 01	PJ-19	PJ-19 理ヨウ ウサギズ 1	深鉢形	43.5	-	-	6250	内：10H6/6 外：10H6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子。花崗岩片が混じる	19号住居伊体土器。頭部や下位の輪縫み接合部で水平に打ち欠いている。口縫部の重裏文は、まるで掌状成形された口唇部で、溝帯をもつて輪縫みを形成する。その輪縫みの内側を輪縫り重裏文と呼ぶ。さらに手形竹管で整形している。重裏文の下端は頭部に隆筋をめぐらせて区切るが、頭部隆筋を先に貼り付いている。頭部から頭部に隆筋を下文。口縫部の内外面に水平の帯状裏文である。口唇部の一部が焼く風化しているが、二次熟熱の痕跡は認められない。
54 図 01	PJ-19	PJ-19 3, PJ- 19 9, PJ-19 7, PJ-19 一 括、DK-112 ズ 1	深鉢形	(20.0)	-	-	967	内：10H4/1 外：5H4/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縫部から頭部、頭部へと隆筋を貼り付けて立体的な文様を描出している。口縫部から頭部へつながる剥り落削は、ヘラ状工具で隆筋を剥りむくように施文。口縫部の円柱から頭部へ下する隆筋は短いほど節隆筋で頭部へ有節隆筋を描出し。頭部は波状文はヘラ状工具で上下から交叉し切り込むようにして整形している。頭部地文は1本ずつ施文した条縫文。内面はミガキ調整。
54 図 02	PJ-19	PJ-19 4, PJ- 19 7, PJ-19 12, 1G-63, 追跡一括	深鉢形	13.5	-	-	524	内：5H4/2 外：5H4/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	波状口縫の内面に粘土紐を巻き上げた渦巻文を貼付し、口縫部外側の渦巻まで隆筋をつなぐ。さらに頭部へ有節隆筋で頭部へ下する。頭部は1本ずつ施文した条縫地文で縦方向の剥突列を追加する。頭部の一端に平行蛇縄間に単次縫を連続施文した様子状況下文あり。頭部内面の下半にうすく炭化物が付着。
54 図 03	PJ-19	PJ-19 3, PJ-19 7, PJ-19 一括、 1G-63	深鉢形	12.8	20.6	(8.4)	511	内：10H4/2 外：10H5/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	口縫部から頭部に隆筋を貼り付いた垂轍文、粘土紐貼り付けの渦巻文と有節隆筋。頭部の波状文は沈縫で施文している。地文は1本ずつ陥入した複縫合沈縫。外面口縫部に保付窓。頭部内面下半が黒変。
54 図 04	PJ-19	PJ-19 16	深鉢形	-	-	-	227	内：7.5H6/4 外：10H2/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	埋土出土の深鉢頭部破片。先がやや実った工具による沈縫で文様を施文。
54 図 05	PJ-19	PJ-19 一括	深鉢形	11.0	-	-	33	内：7.5H4/3 外：10H4/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子。貝岩？の亜円盤が混じる	縄文の口縫部外面に黒色の塗彩？が残る。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先 遺構名	注記	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	器面の 色調	施土質	観察所見
54図06	PJ-19	PJ-19 一括	浅鉢形	31.0	-	11.0	776	内：7.5R3/3 外：7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	洞部がソロバン五形に屈曲する後鉢で、屈曲部で割られたものの割れ面上端を研磨整形して口縁を再生している。屈曲部の外面に保付着
54図07	PJ-19	PJ-19 一括	ミニチュア土器	3.2	2.7	1.8	15	内：7.5R5/6 外：7.5R5/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	手づくね成形のミニチュア土器
54図08	PJ-19 PT-187	PT-187 一括	深鉢形	-	-	-	24	内：10R7/4 外：10R7/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。 細縫を混入している	PT187で出土した前回前篇、中越式土器破片。胎土に繊維を多く含み、割れ面は黒色を呈する。乱雜な格子目文様を施す。内面はナメ調整で、接頭仕上げが施されている。胎土は直線的(?)外反するが、わずかに刻突列がめぐるようにもみえる。
57図01	PJ-20	PJ-20 23	釣手土器	24.1	31.0	10.6	3530	内：5R4/2 外：5R5/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	床面よりやや浮いて、伏せとともに出土した伏せ土器。横倒しになって出土した。二芯型で、花びら状の突起をもつ釣手。釣手の基部に棒状柱土で3本脚状の貼り口縁。内面に爆付帶は観察されない。底面外側に径5mmほどの小枝の圧痕が6箇所あり、うち1箇所は内面まで貫通して穴が開いている。
57図02	PJ-20	PJ-20 25	深鉢形	29.0	23.5	-	2730	5R6/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	床面上に逆位に置かれた状態で出土した伏せ土器。底部下位を水平に打ち込んでいる。太い隆帯でU縫合で1単位の渦巻き突起を2ヶ、2本の隆帯で連結する。頭部は縞文式文に蛇行沈線。内面ミガキ調整。隆帯一縫文地文一蛇行沈線の施文様。
57図03	PJ-20	PJ-20 11, E-3-21, D-3-5	深鉢形	-	-	10.4	2293	内：7.5R6/4 外：7.5R4/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に隆帯波状文と水平の區画。頭部は3本一組の縫合による二字文。二字文の上部には太い粘土柱でS字貼り點付。U文字内に編かい粘土柱で蛇行文。縞文地文。隆帯・隆縫一縫文地文の施文様。外面の洞部最大径は下位から底部にかけて黒変。光沢のある炭化物も微量に付着。
57図04	PJ-20	PJ-20 51, PJ-20 13, PJ-20 18, PJ-20 12, PJ-20 14, PJ-20 2, PJ-20 29, PJ-20 17, PJ-20 24, PJ-20 24, PJ-20 97, PJ-20 98, PJ-20 一括, D-2-25, D-2- 19, D-3-5	深鉢形	(36.6)	37.2	12.0	4290	内：7.5R5/2 外：7.5R4/4	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	ばらばらの破片になって出土した小判の二字 把手の深鉢。頭部の3本一組の横貼隆帯文は 粘土柱で貼り付け半截竹管で3分割して整 形した複形隆帯。粘土柱による円筒形に蛇 行文とU縫合。頭部に縲張粘土柱貼り付けた波 状文とU縫合。内面ミガキ調整。外側の口縁部から頭部最大径に かけて局所的に保付着。内面の最大径近くに 局所的に炭化物が跡付着。種子圧痕あり。
58図01	PJ-20	PJ-20 46, PJ-21 7, PJ-23 30, PJ-23 一括, D-3-5	深鉢形	32.0	-	-	1470	内：7.5R5/3 外：7.5R7/6	長石、石英、雲母、赤色 黒色鉱物粒子が混じる	口縁上面に半截竹管で整形した2本の複形 をめぐらせる。口縁部の斜行文はやわらかい 器表は半截竹管で薄く平行線を刻み、裏縫 縫を抽出。頭部に縲張粘土柱貼り付けた波 状文とU縫合。頭部にも粘土柱による渦巻き 渦巻文と蛇行文。本文は半截竹管による縲 縫地文一縫文地文の施文様。内面ミガキ調整。 内面の最大径近くに 局所的に保付着。
58図02	PJ-20	PJ-20 8, PJ-20 14, PJ-20 10, PJ-20 一括	深鉢形	(25.5)	34.4	(11.0)	2030	内：10R5/2 外：5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	4単位の波状口縁の波腹部に把手を貼付し。 頭部に隆帯が垂下する。はがれて欠損している が、頭部にも小さな二字文把手が貼付されて いるかと思われる。波腹部の口唇上面には把手 手内の空洞につながる円孔と穴が開いてい る。二字文縫文地文を施文した後に把手、隆 帯文を貼付。外側口縁部に保付着。外側の底部 付近に水平、垂直に爆付着。
58図03	PJ-20	PJ-20 86, PJ-20 88, PJ-20 47, PJ-20 10, D-3-5, D-3- 9, D-3-4	深鉢形	(22.0)	-	-	1178	内：5R7/4 外：5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	唐草文系土器。口縁部と頭部は1本ずつ描文 した深い平行沈縫地文。口縁部に隆帯渦巻文。 頭部は渦巻区面文と渦巻文。2本一組の区面 隆帯内に刻突穴。隆帯一地文の施文縫。外面 口縁部から頭部に局所的な爆付着。

第3表 土器観察表

図版番号	機械先端名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
58図04	PJ-20	PJ-20 1, D-2-24, D-3-4	深鉢形	16.7	23.9	8.0	1162	内：7.5R6/6 外：5R6/8	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	口縁部に2本の隆線を貼り付け。4単位波状口縁の波頂部から半截竹管による蛇行沈線を垂らす。縄文地文。地文一路線貼付一蛇行沈線の施文順。内部ミガキ調整。外面の口縁部から崩くびれにかけて局所的に煤付着。
58図05	PJ-20	PJ-20 31, PJ-20 37, PJ-20 38, DK-1一括	深鉢形	42.0	-	-	4470	内：10R6/4 外：10R6/6	長石、石英。黒色植物粒子が混じる	難なつくりのX字把手付大形深鉢の破片。横口縁に連なるX字把手から底部に隆脊帯下文。把手上に刻文。底面は無文の部分と縄文を施す部分がある。
59図01	PJ-20	PJ-20 20, PJ-20 46, PJ-20 47, PJ-20 48, D-2-25	深鉢形	(20.0)	-	-	734	内：7.5R6/3 外：5R6/4	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	縄壁が厚く重量感がある土器。口縁部に平行沈線の弦紋。底部に蛇行沈線と垂れ下伏沈線。内部ミガキ調整。外面ミガキ調整。
59図02	PJ-20	DK-10 — E-2- 21, E-3-17, D-2-25, PJ- 20 2, PJ- 20 51, PJ- 20 57, PJ- 20 一括	深鉢形	-	-	13.6	3230	内：10R6/2 外：5R6/6	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	縄文地文に3本一組の隆脊と蛇行隆筋。地文施文が先。底部内面下部に水平に厚く炭化物が付着。炭化物は光沢があり発泡している。
59図03	PJ-20	PJ-20 56 - 35 - 9 + 13 - 36 - 99 + 33 - 34 - 一括。 E-3-1	鉢	(28.6)	(24.5)	11.0	1398	内：5R4/2 外：7.5R6/3	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	無文の鉢形土器。外面ヨコナデ調整。内面ミガキ調整。
59図04	PJ-20	PJ-20 65, D-3-3, D-3-4	深鉢形	24.0	-	-	796	内：5R6/6 外：5RQ/3	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	口縁直下に幅広凹線をめぐらせて、H字形区画文内にハの字文。区画文の側面に渦巻文と縦横円文。
59図05	PJ-20	D-2-25	深鉢形	-	-	-	28	内：7.5R6/2 外：5R6/6	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	柔線地文の底部破片。種子圧痕あり。
59図06	PJ-20	D-2-25	土偶	-	-	-	32	10R 4/2	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	土偶左脚部破片。底面は平坦で自立する土偶と思われる。
59図07	PJ-20	PJ-20 一括	土偶	-	-	-	10	7.5R6/4	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	土偶頭部の小破片。頭部中心に通る芯棒の痕跡がある。破片の上下端は接合部で割れ、面部(芯棒の反対側)は折るようになされている。背面側(?)に弦紋。腹部側は剥れて欠損。
62図01	PJ-21	PJ-21 28, PJ-21 16, PJ-21 27, PJ-21 26, D-3-21	深鉢形	(29.8)	-	-	938	内：7.5R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	高い4単位の波状口縁の波頂部から蛇頭状文様とメガネ状把手。三つ編み状隆脊帯文が垂下する。波頂部の間は横の單次輪を並べて施文。口唇上面に三叉文と2本一組の渦巻文。底部に隆脊を張り付けた弦文状と弧彎文。三角の大な尖起の内面側は三角形に落削されている。
62図02	PJ-21	PJ-21 28	浅鉢形	(40.0)	15.6	(18.0)	838	内：7.5R6/3 外：7.5R6/2	長石、石英、雲母。赤色、黒色植物粒子が混じる	小さな波頂部をもつ波状口縁の浅鉢。内外面ミガキ調整。種子圧痕あり。
62図03	PJ-21	PJ-21 21, PJ-21 9, PJ-22 一括。 D-3-9, D-3-4 D-3-14	深鉢形	19.6	-	-	710	内：7.5R6/3 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母。赤色、黒色植物粒子が混じる	半截竹管による継縫線。内面ヨコナデ調整
62図04	PJ-21	PJ-21 一括	土偶	-	-	-	30	10RQ/1	長石、石英、雲母粒子が混じる	土偶の左脚部破片。脚部底面は歪んでいて歪くがたつく。
62図05	PJ-21	PJ-21 一括 ミニチュア土器	-	-	-	-	8	内：5R6/6 外：7.5RQ/1	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	丁寧に器面をナデ調整したミニチュア土器破片
63図01	PJ-22	PJ-22 1, PJ- 22 18, PJ- 22 2, D-3- 23, D-3-12	深鉢形	(31.8)	(39.4)	10.2	2238	内：7.5R6/3 外：5R6/4	長石、石英。黒色植物粒子が混じる	口縁部に小さな波状部があるらしく、そこから隆脊の垂下文、底部に円形の附文。脚部に2本一組の隆脊の垂下文。地文は半截竹管の条線地文。隆脊一地文の施文順。内面ミガキ調整
63図02	PJ-22	PJ-22 一括。 D-3-12	深鉢形	21.6	-	-	241	内：7.5R6/2 外：7.5R6/3	長石、石英、雲母。黒色植物粒子が混じる	頭部で割れた深鉢口縁部破片と思われる。口唇上面に落着でX字状文様を貼付。内外面ミガキ調整。口唇上面に局部的に煤付着。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
63 図 03	PJ-22	PJ-22 9, PJ-22 15, PJ-20 49, D-3-23, IG-6	浅鉢形	25.4			1004	内 : 2.5R4/6 外 : 2.5R4/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	内外面ミガキ調整
63 図 04	PJ-22	PJ-22 一括	土偶	-	-	-	34	SIRG/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	土偶の右脚部破片。脚部底面は広く平坦で自立する土偶の破片であろう。
63 図 05	PJ-22	PJ-22 一括	土偶	-	-	-	16	SIRG/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	土偶の左脚部破片。足先は欠損。長い絞りで施文。
65 図 01	PJ-23	DK-116 図 1	埋甕	56.0	75.0	14.2	24000	SIRG/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	23号住居埋甕。正面に埋設したX字把手付大形深林。底面から頭部が突出していた。頭部側面に内面から凹き削った穿孔あり。頭部文様は粘土板を半截竹管で分割、修繕、縁帯一縦文地文の施文頃。内外面とも風化が少ない。
65 図 02	PJ-23	PJ-23 一括、 PJ-23 46、 PJ-23 5、PJ-23 25、PJ-23 7、PJ-23 30、PJ-23 20、PJ-24、C-2-25、 24、C-2-25、 16-70、C-2- 21、C-2-22、 C-2-17、 C-3-5	深鉢形 (26.3)	-	-	-	1780	内 : 10R5/3 外 : 10R6/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	埋土中で出土した格子目文土器。口唇上面に半截竹管で整形した貼付落書き2本がめぐる。口縁部の格子目は墨がやわらかいうちに半截竹管で斜行する平行沈線を施文して斜行線を描き、そのうえに細い粘土紐を貼り付けて格子目を描画する。頭部からごく頭部最大径まで半截竹管による横方向の平行沈線。頭部最大径以下は縱方向と斜向の平行沈線を地文とする。頭部からごく頭部最大径まで半截竹管による横方向の平行沈線。頭部最大径以下は縱方向と斜向の平行沈線を地文とする。頭部に細い粘土紐を貼り付けて渦巻文、蛇行垂下文を施文。半截竹管の平行沈線、斜行沈線一粘土紐貼付の施文頃。内面ミガキ調整。外面の頭部最大径付近に局所的に煤付着。
65 図 03	PJ-23	PJ-23 一括、 PJ-23 11、 28、30、29、 31、26、10、 33、56、20、 15, PH-2 一括、10- 66, 10-66, C-3-5, C-3- 15, D-2-21, C-2-25	深鉢形	47.4	-	-	6730	10R7/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部斜行文は半截竹管による報復窓。頭部と頭部に細い粘土紐を貼り付けて渦巻文、渦巻き文、垂下文を施文。地文は半截竹管の条線文。内外面とも裏面が風化している。
65 図 04	PJ-23	PJ-23 30、 PJ-23 23、 PJ-23 22、 PJ-23 21、 PJ-23 一括	深鉢形	44.0	42.0	12.8	9700	内 : 10R6/6 外 : 10R4/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	住居南端の埋土下層でつぶれた状態で出土した深甕。縦文地文に細い粘土紐で頭部と頭部に波状文を貼付。縦文一波状文の施文頃。器壁が厚く、大きさのわりに重量感がある。
65 図 05	PJ-23	PJ-23 34、 PJ-23 一括	深鉢形 (18.9)	20.8	9.1	-	1176	内 : SIRG/4 外 : SIRG/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	縦文地文で頭部と頭部に縁帯波状文。地文一縦文の施文頃。外面部頭部から口縁部に煤付着。
65 図 06	PJ-23	PJ-23 一括、 PJ-23 37	深鉢形	-	-	6.3	175	内 : 7.5R4/3 外 : 7.5R5/4	長石、石英、雲母、赤色、 黒色鉱物粒子が混じる	縦文地文に蛇行沈線。内面ミガキ調整。
65 図 07	PJ-23	PJ-23 36	深鉢形	-	-	6.5	436	7.5R6/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	縦文地文の小形深鉢。種子圧痕あり
65 図 08	PJ-23	PJ-23 12	深鉢形	9.4	-	-	85	内 : 10R7/4 外 : 10R1/3	長石、石英、雲母、赤色、 黒色鉱物粒子が混じる	住居中央の埋土中で出土した純文地文の小形土器。内面ミガキ調整。
65 図 09	PJ-23	PJ-23 45	深鉢形	15.0	-	-	805	内 : 10R2/2 外 : 10R5/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	住居中央付近の埋土中で出土した唐草文土器。高台状の脚部がくらいいが欠損。口縁内面に蓋止めのように縁帯をめぐらせる。口唇は外側に縁帯を貼り付けて肥厚させる。口唇部から頭部に把手がつづくが欠損。頭部は縁帯で横に連結する渦巻文と懸垂文を施文。蛇行沈線あり。地文は矢羽状の条線文。把手基部から口唇へ連なる縁帯の際に刻まれた施文。縁帯一縦文地文の施文頃。横連続渦巻き縁帯の上下で矢羽状条線地文の大引きが異なる。外面の口縁部から頭部最大径にかけて局所的に煤付着。内面は口縁部から底部の全面に薄く灰化物が付着。

第3表 土器観察表

図版番号	備考追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
66図01	PJ-23	PJ-23 一括、PJ-23 25、PJ-23 6、C-2-25	深鉢形	-	-	-	1078	内：7.5R6/1 外：7.5R6/3 S9R7/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	はらばらの破片で出土した唐草文系土器。口縁部に縦長のメガネ状突起が付く。口唇の外面と内面に隆帯を貼り付けて肥厚させる。頭部から肩部にかけて縦長の把手がつく。同部は隆帯焼文と矢羽状線地文。隆帯一地文の施文頸。
66図02	PJ-23	PJ-23 一括、PJ-23 25	深鉢形	-	-	-	132	内：10R2/2 外：5R5/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	腰帶による渦巻き懸垂文と矢羽状の条線地文。唐草文系土器、隆帯一条縦地文の施文頸。
66図03	PJ-23	PJ-23 一括	深鉢形	-	-	-	43	内：10R6/3 外：10R4/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	縦文地文の深鉢口縁部破片
66図04	PJ-23	PJ-23 一括	鉢	-	-	-	59	内：10R4/2 外：10R2/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	縦文地文の鉢形と思われる土器破片。内面には丁寧なミガキ調整
66図05	PJ-23	I6-561	深鉢形	-	-	-	47	内：2.5V7/3 外：2.5V4/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	長脚瓶の瓶頸部破片。縦文地文を施文後に2本の隆帯をミガキ調整。二次被熱により灰色に変色している
66図06	PJ-23	PJ-23 一括	深鉢形	-	-	-	60	内：7.5R3/2 外：5R5/8	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	深鉢底部破片。多軸筋状体による地文か。
68図01	PJ-24 PT-184	PJ-184 一括、PT-184 ズ2、PT-184 ズ4、PT-184 ズ5、PT-184 ズ7、	深鉢形	-	-	6.2	517	内：5R4/1 外：5R5/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	粘土縞で頭部と胴部に軸行文。縦文地文。縦文一粘土縞結付の施文頸。
69図01	PJ-25	PJ-25 73. PJ-25 79	深鉢形	(18.5)	29.5	9.0	3038	内：7.5R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に4単位の渦巻き突起と小把手をつけた。さらに2ヶ所に把手孔をつける。2ヶ所に立体的な波状隆帯文を垂下させる。胴部くびれに隆帯をめぐらせ、胴下半は隆帯で瓶頸部文を描出。瓶頸文内には無文のまま残される。口縁部に粘土縞を貼り付けた箇状丸とそのほかの文様が施文されているがほとんど剥落している。本器は口縁部全体が立体的な貼付工具で覆われていたと思われる。外側の頭部から腰帯下半のくびらみにかけて局所的に煤け付着。内面はくびれの下に水平に薄く炭化物が付着。
69図02	PJ-25	PJ-25 37、 PJ-25 93、 PJ-25 102、 PJ-25 116、 PJ-25 91、 PJ-25 40、 PJ-25 90	深鉢形	22.2	36.0	10.0	2382	内：7.5R4/3 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、赤色	口縁部に粘土縞を貼付した箇状文と渦巻文。頭部くびれに2本の腰帯をめぐらせ。胴下半は瓶頸文とY字状垂下線。外側のくびれ以下に局所的に煤付着。内面のくびれ下に水平に炭化物が付着。
69図03	PJ-25	PJ-25 27、 PJ-25 116、 PJ-25 一括、 PJ-25 102、 PJ-25 91、 C-3-9、C-3-10	深鉢形	(22.0)	-	-	596	内：10R6/4 外：5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に粘土縞を貼り付けて渦巻文と襦袢文を描出。頭部に2本の刻み隆帯を垂下させる。内面ミガキ調整。外側底部下半に局所的な煤付着。瓶頸破片の下端に横方向の次級もしくは次級線文のミガキ調整があり、底部との境を区画し、底部は大きく張る器形になると思われる。
69図04	PJ-25	PJ-25 39、 PJ-25 一括、 C-3-15、C-3-13、 C-3-9	深鉢形	(19.2)	29.0	8.0	860	内：5R5/4 外：5R3/1	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	頭部は隆帯区画文、胴部は次級の梯子状文と縦次級。内面ミガキ調整。
69図05	PJ-25	PJ-25 一括、 PJ-25 32、 PJ-25 35、 PJ-25 113、 PJ-25 111、 C-3-9	深鉢形	19.0	-	9.6	2300	内：5R4/1 外：5R4/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に2単位の穿孔のある突起がついて欠損。頭部に中空で立体的な渦巻文と襦袢文を貼り付け。波頂部下にミガキ状把手をつける。頭部は3本腰帯の渦巻きY字垂下線文を4単位貼付。この腰帯は粘土縞を棒状工具で分割塑形して施文。地文は半截竹管の束縛。内面ミガキ調整。
69図06	PJ-25	PJ-25 8、 PJ-25 97、 PJ-25 一括、 PJ-25 76、 C-3-14、 C-3-13	深鉢形	16.8	30.4	7.4	1376	内：7.5R4/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	頭部に渦巻文、円文、把手状突起を施文した中空で立体的な装飾帯を貼付。頭部に4単位の刻み隆帯を垂下させる。地文は半截竹管の束縛。貼付文一地文の施文頸。内面ミガキ調整。外側装饰帯と頭部下半に局所的に煤付着。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺表 追様名	注記	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	器面の 色調	施土質	観察所見
70図01	PJ-25	PJ-25 一括、 PJ-27 73, 16-613	深鉢形	20.0	30.8	11.4	2070	内：10M4/4 外：10M6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に隆帯を2本めぐらせ、4単位の隆帯垂下文を貼付。肩部中央に渦巻文、横円文などを描いた立体的中空の装飾帯をめぐらせて肩部を上下に分離している。地文は頭部上半は1本ずつ施文した絞沈線。下半は半截竹管を用いた柔線文。貼付文→地文の施文様。
70図02	PJ-25	PJ-25 118, PJ-25 5, 16-73, C-3- 14	深鉢形	(20.0)	-	-	679	内：10M3/1 外：10M3/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	波状口縁の底面部から頭部にかけて粘土縫を貼り付けた波状文と垂下文。頭部には粘土組の渦巻き状突起と椅子目文。椅子目文の上下端には伸びる隆帯。底部渦巻から頭部へ粘土組の波状文と刻み隆帯を垂下させる。地文は棒状工具で1本ずつ施文した絞沈線。貼付文→地文の施文様。内面ミガキ調整。
70図03	PJ-25	PJ-25 54, PJ-25 33, PJ-25 49, 16-150	深鉢形	27.3	-	-	2500	内：5M5/2 外：5M4/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に2単位の水煙状小突起。突起は中空。口縁部は粘土紐を貼り付けで半截竹管で整形した複文様。頭部に無文隆帯と刻み隆帯をめぐらせ、その間に波状縁線を貼付。地文は半截竹管の絞沈線。地文内に2ヶ所だけ骨分割的な押文文が強調されている。貼付文→地文の施文様。外側の口縁部上面に局所的に構付着。内側の頭部最大径付近に局所的に炭化物が薄く付着。
70図04	PJ-25	PJ-25 一 括、PJ- 25 44, PJ- 25 43, PJ- 25 53, PJ- 25 100, PJ- 25 59, PJ- 25 126, PJ- 25 86, PJ- 25 102, PJ- 25 67, PJ- 25 93, PJ- 25 90, PJ- 25 42, PJ- 25 55, C-3- 10, C-3-9	深鉢形	25.0	37.7	11.0	2938	内：5M4/2 外：5M4/3-3/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に隆帯区面文と2単位の小把手。把手から頭部に2単位のJ字型垂文が貼付される。この垂文は粘土紐を1本ずつ貼り付け。地文は半截竹管の条線で4ヶ所に押付施文される。内面ナデ調整。外側の口縁部に水平の煤付着。器壁が薄く大きさのわりに軽い。
70図05	PJ-25	PJ-25 113, PJ-25 34	圓耳壺	(19.0)	-	-	515	内：10M4/3 外：10M4/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に押引隆帯。メガメ状把手の穴は貫通していない。底部文様は半截竹管による平行沈線。
70図06	PJ-25	PJ-25 59, PJ-25 102, PJ-25 112, PJ-25 45, PJ-25 116, C-3-10, C-3-15	深鉢形	(41.6)	-	-	1278	内：10M6/3 外：10M5/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に2本の刻み隆帯をめぐらせ、X字型把手を貼り付け。肩部は1本→地文の刻み隆帯垂文。地文は半截竹管による捺縞。隆帯貼り付け→地文の施文様。
71図01	PJ-25	IG-607	深鉢形	-	-	-	138	内：7.5M4/4 外：7.5R3/3	長石、石英、雲母粒子が混じる	口縁部に隆帯を貼り付けたメガネ状区面文と渦巻文施文。肩部は渦巻文面に平行沈線と蛇行沈線。縞文地文→隆帯貼付→沈線の施文順。
71図02	PJ-25	PJ-25 59, PJ-25 一括, PJ-25 10, PJ-25 9, IG- 653, C-3-10, C-3-9, C-3- 5, D-3-1	深鉢形	(29.8)	-	-	1568	内：7.5M6/4 外：10M6/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	器面を丁字形区面文で分割し、区面文間に隆帯を垂下させる。地文は4本→単位の網目状工具による条縞地文。
71図03	PJ-25	IG-609, IG- 608, IG-605, C-3-14	深鉢形	(19.8)	-	-	639	内：2.5M5/4 外：5M5/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	低い隆帯による渦巻文と垂文様。頭部には4~5本→細の網目状工具による条縞地文と蛇行沈線。口縁部隆帯→地文→蛇行沈線の施文順。内面ミガキ調整。
71図04	PJ-25	PJ-25 12	鉢	(42.0)	-	-	575	内：7.5R3/1 外：7.5M4/3	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に隆帯をめぐらせた無文の鉢形土器。外側ヨコナデ。内面ミガキ調整

第3表 土器観察表

図版番号	機械式追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	出土質	観察所見
71図05	PJ-25	PJ-25 1, PJ-25 79, PJ-25 2, PJ-25 122, PJ-25 80, PJ-25 53, PJ-25 88, PJ-25 54, PJ-25 一括	浅鉢形	(49.5)	19.6	14.6	2250	内: 7.5M6/2 外: 7.5M6/3	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	波状の口縁部を屈曲、外反させて口縁上面の平坦面に沈線で渦巻文を施文。内外面ミガキ調整。底面は磨耗している。
71図06	PJ-25	PJ-25 一括, PJ-25 25, PJ-25 51, PJ-25 113, PJ-25 91, PJ-25 24, PJ-25 26, PJ-25 81, PJ-25 34, PJ-25 120, C-3-4, C-3-10, C-3-9	浅鉢形	38.4	21.5	(9.6)	3070	内: 7.5M6/6 外: 7.5M6/8	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	無文の浅鉢。内面ミガキ調整、外面ナデ調整。
72図01	PJ-25	PJ-25 一括, 96・19・20・100	浅鉢形	(32.0)	17.0	(9.8)	1150	内: 2.5M6/3 外: 2.5M6/4	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	無文の浅鉢。外面ナデ調整、内面ミガキ調整。底部は使用時の移動によるとと思われる摩滅が著しい。
72図02	PJ-25	PJ-25 94, PJ-25 21, PJ-25 80, PJ-25 一括	鉈土手盤	(29.7)	-	(16.0)	502	内: 10M6/2 外: 10M6/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	鉈手が欠損しているが、残存した破片から二重形の鉈土器と思われる。身部の頂上面に沈線と割れ文。底面内にも割れ目を施文する。柄部から身部へ2本の落帯を垂下、縄文地文。落帯一縦文・落帯脇ナデ調整の施文頃。身部内面の上端に局所的に煤が付着。
72図03	PJ-25	PJ-25 41	土偶	-	-	-	160	10M6/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	頭部とその後部付近から脚部付け根まで右側の崩壊破片。正中綫は粘土柱の取り付け、側面と背面は輪広沈線・施文。頭部は頸長、棒状の粘土塊を接合して形成している。
72図04	PJ-25	PJ-25 29	土偶	-	-	-	338	5M6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	残存する頭部には瓦の表現がある。後頭部は落帯と沈線で施文。頭部内面にナデ調整と指痕压痕があり、頭部は中空であつたことが分かる。腹部中心に沈線、側面と背面は沈線で施文。頭部は頸長、棒状の粘土塊を接合して成形している。
72図05	PJ-25	PJ-25 97	土偶	-	-	-	166	7.5M6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	大型土偶の頭部破片。顔面側は口の穿孔が残るのみ。頭部内面は中空である。背筋の各筋にV字形の落帯文と施文。
72図06	PJ-25	C-3-10	土製円盤	縦3.5	横3.3	厚0.7	10	7.5M6/6	長石、石英、雲母粒子が混じる	無文土器破片を使用した土製円盤。周縁は打ち欠いたまま。内面に灰化物が付着。
72図07	PJ-25	PJ-25 一括	焼成粘土塊	-	-	-	6	5M6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	鏡指と人差し指でつまんだような形の焼成粘土塊。指痕圧痕が残る。
75図01	PJ-26	PJ-26 10, PJ-26 34, PJ-26 39, PJ-26 50, PJ-26 40, PJ-26 一括	深鉢形	(15.5)	-	-	1283	内: 5M6/4 外: 7.5M6/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に刻み落帯。頭部に隆帯で縱横円文と波状文を施文させる。地文は半截竹管で深く平行沈線を刻み、その間に擬腰盤文のように描出。頭部にミガキ状把手が付く。把手直下から頭部下半にかけて横状把手のような貼付文があったようだが剥落し欠損。
75図02	PJ-26	PJ-26 21, PJ-26 一括, B-2-24	深鉢形	(12.6)	18.8	7.0	308	内: 7.5M6/1 外: 7.5M6/6 7.5M4/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、赤色の安山岩片が混じる	穿孔したや突起をもつ小形の深鉢。突起上に網目状粘土紐を貼り付け。蛇頭様文様と有節筒縞。口縁部と頭部は深い沈線で施文。突起の穴から頭部にJ字落帯文が垂下。落帯にはところどころに棒状工具を押された跡みが残される。地文は半截竹管の条線文。落帯一地文・落帯脇ナデ調整の施文頃。
75図03	PJ-26	PJ-26 33, PJ-26 一括	深鉢形	14.0	(26.5)	6.5	1247	内: 7.5M6/6 外: 7.5M7/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に2単位の小突起が貼付されていたようだが剥落している。この小突起から頭部へ落帯のJ字垂下文。頭部に2本の落帯をめくらせる。地文は1本ずつ施文した象線文。落帯一地文・落帯脇脇ナデ調整の施文頃。内面ナデ調整

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先道様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
76図01	PJ-26	PJ-26 35	深鉢形	13.0	(23.5)	(8.0)	1111	内：7.5R6/2 外：7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	器面を丁寧にミガキ調整した後に沈線で文様を施文。内面ミガキ調整。
76図02	PJ-26	PJ-26 50, 40, 37, 一括, B-3-4	深鉢形	10.4	-	-	517	内：5R6/4 7.5R6/1 外：7.5R6/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部から底部に「丁字彫帶」下文と沈線の消巻文。地文は棒状工具で「木」字ずつ施文した擬沈線。墳頂一地文の文様。内面ミガキ調整。頭部と大径の内側に帯状に炭化物が付着。
76図03	PJ-26	PJ-26 28, 一括、PH-1 -B-10- 18, B-2-18, B-2-24	深鉢形	13.0	-	-	528	内：7.5R6/2 外：7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に「丁」字の隆起をめぐらせ。頭部に消巻き隆起と刻み隆線を施す。頭部下端に「木」字模様をめぐらせる。地文は半截竹管によじらぎ文。墳頂一地文の文様頃、内面ナデ調整。
76図04	PJ-26	PJ-26 39	深鉢形	9.5	13.2	5.0	481	内：7.5R6/2 外：2.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部から頭部に「丁字彫帶」下文を貼付。頭部に消巻き隆起と刻み隆線を施す。頭部は推進済み地文を貼り付け。地文は棒状、押S1、刺剣で描き分ける。頭部貼り付けは剥落しており、正確な文様が分からなくなっている。
76図05	PJ-26	PJ-26 9, PJ-26 一括	深鉢形	9.1	13.0	5.4	258	内：10R4/2 外：10R5/4	長石、石英、雲母、赤色鉱物粒子が混じる	綴文地文の小形の深鉢。
76図06	PJ-26	PJ-26 50, PJ-26 一括	浅鉢形	37.0	19.4	11.2	2147	7.5R6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	小さな波底部をもつ波状口縁の浅鉢。外面ナデ調整。内面ミガキ調整。
76図07	PJ-26	PJ-26 17, PJ-26 37, PJ-26 33	深鉢形	-	-	9.6	1164	内：7.5R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部と区画する水平溝帯をめぐらせ。溝帯で横円文を描く。横円文内には沈線で施文。
76図08	PJ-26	PJ-26 38, 一括	深鉢形	-	-	7.6	251	内：7.5R6/1 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	底部がソロバン状に張る藝術的深鉢。頭部と底辺の境界に溝帯と押引縁をめぐらす区画。頭部は粘土紐を貼付して矢羽羽文様を描す。区画下には溝帯で連続横線文を描出す。上縁を押引縁。内外面ミガキ調整。頭部から底部下半部の内面に底部に局的に炭化物が付着。
76図09	PJ-26	PH-1 一括	土偶	-	-	-	36	10R4/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	土偶の左脇腹あたりの破片。側面から背面に幅広沈線で施文。頭部は棒状粘土塊を接合して成形。
76図10	PJ-26	PJ-26 一括	土製円盤	幅3.7	横4.1	厚1.4	24	内：10R4/2 外：10R5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	井戸尻式と思われる土器穂被を使用した土製円盤。周縁は研磨整形している。
76図11	PJ-26	PJ-26 28	不明	-	-	-	7	10R6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	沈線で施文した棒状の土製品。土偶の側ににして断面が丸く長い。
78図01	PJ-29 DK-15	DK-115 一 括、DK-115 ズ3、DK-115 ズ2、DK-115 ズ1、B-2-15	深鉢形	23.0	56.0	15.4	1000	内：10R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	29号住居裏土中で斜めになってしまって出土したほぼ完形の深鉢。口縁部に「人面突起」。頭部に大きめのメガネ状把手。頭部に隆起をめぐらせる。頭部下の文様帶には「丁字彫帶」と「消巻き」。頭部下位の文様帶は「交互彫突起」と「消巻き」。頭部下位の文様帶は「横縞文」。地文は上縁は把手のようにより表現される。メガネ状把手とその上の隆起は対になる2単位ごとに、隆起を刻む表現と横縞文が充填される。人面突起の最頭部は欠損。
79図01	PJ-29	DK-115 ズ2、 B-2-20	深鉢形	26.2	34.0	9.7	3650	内：7.5R6/3 外：7.5R6/2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	78図01の深鉢の上に重なって出土した細部文土器。4単位差口縁の波底部にメガネ状把手。把手から頭部くびれに「頭部隆起帯」が下する。把手間は隆起の三角文、円文と捺三叉文。頭部くびれに「刻み隆起をめぐらせ。その下は横縞形文。椭圓形の上縁は把手のようにより表現される。メガネ状把手とその上の隆起は対になる2単位ごとに、隆起を刻む表現と横縞文が充填されている。
79図02	PJ-29	DK-115 ズ2、 DK-115 一 括、B-2-20	深鉢形	-	-	8.6	1639	内：7.5R6/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	78図01の深鉢の横で出土。頭部くびれの上半は低い溝帯で文様を描出。くびれ部に溝帯をめぐらせ。下半は横縞形文。器面は各種状の擦痕が残る工具でナデ調整。内面底部上半に帯状に煤付着。
79図03	PJ-29	DK-115 ズ1、 PJ-29 4	深鉢形	-	-	14.5	2280	内：7.5R6/6 外：7.5R6/5	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	78図01の深鉢の横で出土。頭部と帯形文。種子伝痕あり
79図04	PJ-29	16-19	土偶	-	-	-	60	10R5/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	土偶頭下半の破片か、もしくは片脚の破片。底面は広く平坦で自立する。

第3表 土器観察表

図版番号	機械式追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
81 図 01	PJ-27	PJ-27 47, PJ-27 49, PJ-27 90, PJ-27 91, C-3-1	深鉢形	29.0	33.0	9.5	3610	7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	9本一組の棚衝状工具による繊杉条線地文に蛇行沈線。内面口縁部と底部付近に帯状に擦付層。
81 図 02	PJ-27	PJ-27 32, PJ-27 51, PJ-27 39, PJ-27 134, PJ-27 35, 16-155, C-3-6	深鉢形	25.0	32.5	8.0	2280	内：7.5R7/8 外：7.5R7/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に幅広の凹線をめぐらせ。頂部を2本の垂直下弦で区画。底面は10本一組の幅広い棚衝状工具による繊杉条線地文に蛇行沈線を加える。区面文→地文→蛇行沈線の施文層。底部に網代底。
81 図 03	PJ-27	PJ-27 105, PJ-27 104, C-3-1, B-3-4	深鉢形	28.5	34.3	7.4	2040	10R6/6	長石、石英、黒色植物粒子が混じる	4単位の波状口縁の波頂部に凹線渦巻き垂下文。口縁部に精円文。底部は7~8本一組の棚衝状工具による繊杉条線地文。1ヶ所だけ蛇行沈線が施文されている。区面凹線文→蝶形地文→蛇行沈線文の施文層。
81 図 04	PJ-27	PJ-27 30, PJ-27 121, PJ-27 21, PJ-27 59, PJ-27 20, PJ-27 34, PJ-27 34, PJ-27 31, PJ-27 33, PJ-27 30, C-3-1, B-3-5, PF-174, 16-624, 16-623	深鉢形	(23.8)	27.2	(7.0)	1352	内：7.5R4/4 外：10R6/4	長石、石英、雲母、赤色、黒色植物粒子が混じる	口縁部に凹線をめぐらせ。頂部をII字状に区画し、蛇行沈線文と扇手状垂下文を施す。地文は8本一組の棚衝状工具による繊杉条線文。区面文→地文→蛇行沈線の施文層。底部は丁寧なミガキ調整。底部は埋手のように穿孔されている。
81 図 05	PJ-27	PJ-27 一括, PJ-27 82, PJ-27 83, PJ-27 80, PJ-27 81, C-3-1, C-3-6	深鉢形	26.0	27.0	8.0	1650	内：10R6/3 外：10R6/2	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に沈線をめぐらせ。頂部をII字状に区画。地文は7本一組の棚衝状工具による繊杉条線文。蛇行沈線文が垂下する。区面文→地文→蛇行沈線の施文層。
81 図 06	PJ-27	PJ-27 60, PJ-27 30, PJ-27 115, PJ-27 118, B-3-5, B-3-10, C-3-1	深鉢形	29.8	34.0	7.5	2550	内：10R5/8 外：10R7/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	4単位の波状口縁の波頂部に凹線渦巻文。そこから逆字垂下文。地文は5本一組のやや疊なる棚衝状工具による繊杉条線地文。蛇行沈線を垂下させる。区面文→地文→蛇行沈線の施文層。内面ミガキ調整
81 図 07	PJ-27	PJ-27 44, 50, 42, 48, 127, 58, 54, 51, 一括, PJ-27 95, C-3-2, C-3-7, C-3-6, 16-573	深鉢形	21.3	-	-	1333	7.5R7/6	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁に凹線をめぐらせ。頂部をII字状に区画。地文は8本一組の棚衝状工具による繊杉条線文。蛇行沈線を垂下する。内面ミガキ調整
81 図 08	PJ-27	PJ-27 一括, PJ-27 100, PJ-27 98, PJ-27 79, PJ-27 96, PJ-27 135, PJ-27 97, 16-222, C-3-1, B-3-5	深鉢形	28.0	33.0	7.0	2910	7.5R6/8	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に2本の凹線をめぐらせ。頂部をII字状に8等分に区画。ハの字文を施す。内面ナデ調整
81 図 09	PJ-27	PJ-27 104, PJ-27 99, PJ-27 105, 16-17, B-3-5	深鉢形	24.5	29.2	8.4	1570	7.5R6/8	長石、石英、雲母、黒色植物粒子が混じる	口縁部に凹線をめぐらせ。横円文を施す。頂部は垂下文と横円文が融合したような文様で区画。横部地文は6本一組の棚衝状工具による短条線。蛇行沈線を垂下させる。区面文→地文→蛇行沈線文の施文層

第3表 土器観察表

図版番号	備考(追様名)	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
81 図 10	PJ-27	PJ-27 一 括。PJ-27 122, PJ-27 18, PJ-27 62, PJ-27 93, 10-626, 16-627, 16- 13, B-3-10, C-3-1, C-3- 6	深鉢形	(26.5)	-	-	858	内: 10R7/4 外: 10R8/3	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	口縁部に 1 本の凹線をめぐらせ、肩部を II 字状に区画。区画文間にには絞長横円文。ハの 字文地文。内面ミガキ調整
81 図 11	PJ-27	PJ-27 一 括。PJ- 27 67, PJ- 27 32, PJ- 27 86, PJ- 27 34, PJ- 27 91, PJ- 27 90, PJ- 27 26, PJ- 27 31, PJ- 27 19, PF- 174, C-3-1	深鉢形	22.0	24.3	9.2	1470	内: 10R6/4 外: 10R7/4	長石、石英、雲母、黒 色工物洗が混じる	口縁部に沈線をめぐらせ、肩部を II 字状に 区画。区画文間にハの字文を施文。底部に網代張。
81 図 12	PJ-27	PJ-27 一 括。PJ-27 19, PJ-27 37, PJ-27 39, PJ-27 40, PJ-27 36, PJ-27 14, 16-624, 16-622, 16- 621, B-3-15, C-3-6	深鉢形	24.0	23.1	8.4	1461	10R7/6	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	口縁部に凹線をめぐらせ、肩部を凹線で II 字状に区画し、ハの字文を施文する。施文は 乱離で、区画の側隔も一定していない。内面 は乱離なナデ調整。底部に木葉痕
82 図 01	PJ-27	PJ-27 109, 112, 一括。 PJ-26 49, 46, 一括。 16-584, 16- 582, 16-583, B-3-5, B-3- 4, B-2-23	深鉢形	(27.4)	-	(8.4)	1519	内: 10R6/4 外: 10R6/6	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	4 単位波状口縁の波頂部から凹線の縱横円と 横手状の垂下文。口縁部に横線円文。肩部に まばらなハの字文を施文。
82 図 02	PJ-27	PJ-27 124, 7, 14, 32, 13, 134, 15, 34, 21, 23, 24, 30, 115, 一括。 B-3-10, B-3- 15, C-3-1	深鉢形	(28.5)	-	-	1423	内: 2.5R6/6 外: 5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	4 単位波状口縁の波頂部に凹線渦巻文と垂 下文。肩部を II 字状に区画し、小さなハの 字文を施文。種子圧痕あり
82 図 03	PJ-27	PJ-27 32, 33, 27, 一括。C-3-6	深鉢形	(20.6)	-	-	652	内: 7.5R6/4 外: 5R6/6	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	4 単位波状口縁の波頂部に渦巻文。波頂部 は垂手状文で連結。肩部は垂リ字状に区画。 区画文間に長い垂リ字もしくは横円文。地文 はハの字文。地文・区画文の施文頗
82 図 04	PJ-27	PJ-27 一括。 PJ-27 94, PJ-27 112, PJ-27 113, PJ-27 22, PJ-27 10, 16-633, 16- 583, B-3-4, B-3-5, C-3- 6	深鉢形	(23.2)	-	-	727	7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子。赤色の岩 片が混じる	口縁部下に幅広の出縫をめぐらせ。肩部は II 字状に区画内にハの字文を施文。
82 図 05	PJ-27	PJ-27 33, PJ-27 86, PJ-27 31, C-3-1	深鉢形	18.0	22.0	6.5	1106	内: 2.5R6/3 外: 2.5R7/8	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	口縁部に 2 本の凹線をめぐらせ。肩部は逆 II 字状文で区画する。地文は純文。純文地文 - 凹線区画文の施文頗。
82 図 06	PJ-27	PJ-27 19	深鉢形	-	-	-	47	内: 10R7/6 外: 10R6/6	長石、石英、黒色鉱 物粒子が混じる。繊維を 多量に含む	前期前段と思われる無文土器の崩部破片。器 面には繊維、木材?の圧痕がみられる
82 図 07	PJ-27	B-3-4	三二 チニア 土器	-	-	-	5	内: 5R6/6 外: 5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	手づくね成形のミニチュア土器。外側は細い 沈線文様
82 図 08	PJ-27	B-3-5	土偶	-	-	-	47	10R5/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	土偶右脚部破片。脚部底面は広く平坦で自立 する土偶の脚部と思われる。

第 3 表 土器観察表

図版番号	傳属先遺物名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
82 図 09	PJ-27	G-3-1	土偶	-	-	-	10	7.5R5/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	右脚と思われる破片。
84 図 01	PJ-28	PJ-27 66, PJ-27 89, PJ-27 65, G-2-21, G-3-1, G-2-16	深鉢形	(23.0)	26.2	9.4	1340	内：5R5/6 外：2.5R6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	小さな波状部のある波状口縁に筒部で曲線文様を描出。頭部に隆起唇下文。筒部に半截竹管を深く刻んだ擬隆起をめぐらせる。垂下脚等一式の施文様。器壁が厚く、大きさのわりに重量感がある。魯利Ⅱ式期に所産と思われるが型を外れた土器。種子圧痕あり
84 図 02	PJ-28	PJ-26 17, PJ-26 25, PJ-26 一括, PJ-24 一括	深鉢形	(31.0)	-	-	651	7.5R4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	低い波状口縁の波頂部に把手と波状降線がつき、底部につけられた小把手と腰帶が連結する。頭部に3本の隆起をめぐらせる。隆起上の刺みは半截竹管の跡跡。筒部一式の施文様。頭部に施文様。頭部に所産的に焼付帯。
84 図 03	PJ-28	PJ-26 20	深鉢形	(25.4)	-	-	767	内：2.5R6/4 外：7.5R4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に半截竹管の施文様を施す。頭部に刻み腰帶と平行沈綫をめぐらせる。頭部は半截竹管の刻み腰帶と平行沈綫。施文技法から魯利Ⅱ式期の所産と推測されるが、魯利式の範型から外れる。器壁も厚く重量感がある。外面口縁部から頭部に保有痕。
84 図 04	PJ-28	PJ-26 8, PJ-27 42, G-2-21, G-2-22, G-3-2	両耳壺	17.3	-	-	1390	7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口唇上面に次線をめぐらせる。頭部に刻み腰帶と無文隆起をめぐらせる。3本一組の波降線は半截竹管による彫形降線。把手下端から脚部を斜方に刻み腰帶と無文隆起をめぐらせて把手間を連結する。施文地文。頭下半部無文。隆起一式の施文頭。内面ミガキ調整
84 図 05	PJ-28	PJ-26 14	深鉢形	-	-	-	985	内：7.5R4/2 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部と底部を久く。口縁部には半截竹管で粗雑な重気孔が描かれていたらしい。頭部に粘土紐の波文文。肩部に腰帯等と蛇行降綫文。施文地文。地文一粘土紐貼付の施文頭。内面は丁寧なミガキ調整。
84 図 06	PJ-28	PJ-26 24, 133, 60, 56, 一括、PJ-27 60, 56, 一括, G-3-2, G-3-1, G-3-7	深鉢形	30.4	-	-	1336	内：7.5R4/2 外：7.5R6/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	地文は多軸錐状体と思われる。8cm 間隔に繰り波長の長い輪節状の斜行綫文
84 図 07	PJ-28	PJ-27 34, PJ-27 29, PJ-27 9, PJ-27 28, PJ-27 一括	深鉢形	13.8	-	-	322	内：7.5R4/4 外：7.5R6/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	頭部を成形段階で内側から膨らませ。斜行虎咬を充填。下は腰帯をめぐらせる。頭部は失羽羽の次線文。沈綫はヘラ状工具の1本描き。内面はミガキ調整。
84 図 08	PJ-28	G-2-22	深鉢形	-	-	-	61	内：7.5R6/6 外：10R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に粘土紐を貼り付けた区面文と小突起。区面内は綴文。綴文を先に施している。
84 図 09	PJ-28	G-3-7	土偶	-	-	-	30	7.5R6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	正面と側面に細い次線で文様を施す。背面は無文。
86 図 01	PJ-33A	DK-70 一括	深鉢形	18.4	26.4	11.6	2220	内：10R6/3 外：10R6/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	33A号住居の柱穴の可能性がある70号土坑で、花崗岩とともに出土。頭部に2単位の把手を貼付し、肩ひれ等をめぐらせる。綴文地文。頭部が大きく欠損している。内面に乳白色の粘性土がこびりついている。種子圧痕あり。
87 図 01	PJ-33A	16-265, 16-334, 16-284, 16-367, 16-375, 16-376, 16-398, 16-399, 16-400, 16-279, 16-341, 16-340, 16-280, 16-339, DK-34, G-2, G-3-2, G-3-7, G-3-8, 2849-1パンチ	深鉢形	(41.0)	-	17.3	6826	内：7.5R6/4 外：7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部は欠損。頭部に1本ずつ腰帶を貼り付けた渦巻き藝術などを描出。粘土紐で波状腰帶を貼付する。地文は半截竹管もしくは2本一組の工具による条線。隆起一式の施文頭。内面ミガキ調整。

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追様名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
87図02	PJ-33A	IG-210, IG-338, G-3-8, G-3-13, G-3-7	深鉢形	(16.9)	-	-	470	内: 10φ3/2 外: 10φ5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に刻み落帯。無文落帯。横長楕円文を施文し落書き文を貼付。渦巻きから頭部へ押引落書きを垂下させる。底部は半截竹管の条継地文。
87図03	PJ-33A	IG-413	深鉢形	12.9	16.6	6	496	内: 10φ4/2 外: 10φ2/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	断面が△角形の落書きを口縁部にめぐらせ。頭部にS字状文を施出。頭部は平行な半截竹管?による落書き沈線。柄部の沈線部には工具の擦痕が残り、条継文文のように見える。陰窓一沈線の施文頭、内外面の口縁部から底部にかけて保付着。
87図04	PJ-33A	IG-366, IG-211, IG-47, 26φ4-1パンチ	深鉢形	15.8	-	-	585	内: 10φ5/3 外: 7.9φ6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	4瓣形と思われる低い波状口縁。頭部は竹管の深い切線を2本めぐらせ、凹縫線を擬唇縫状に施出。頭部地文は半截竹管の先端を傾方向に連続刺突。内面ミガキ調整
87図05	PJ-33A	IG-368	深鉢形	-	-	-	76	10φ5/2	長石、石英、雲母、赤色鉱物粒子が混じる	半截竹管による施文
87図06	PJ-33A	IG-372	深鉢形	(22.7)	26.2	9.7	1360	内: 7.5φ5/4 外: 5φ6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	まばらな純文地文
87図07	PJ-33A PT-48	PT-48 一括	浅鉢形	(42.0)	-	-	620	内: 7.5φ5/4 外: 7.9φ5/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口唇部を折り返して底厚させた浅鉢。内外面とも丁寧なミガキ調整
87図08	PJ-33A	IG-368	深鉢形	19.0	-	-	1300	内: 7.5φ4/4 外: 7.9φ7/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	まばらな純文地文。口縁部と頭部に局所的に焼付着。
87図09	PJ-33B	PJ-7 一括、PJ-7 39, PJ-7 38, 16-296, 16-297, 16-302, 16-300	深鉢形	(49.2)	-	-	6706	内: 7.5φ5/3 外: 7.9φ5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	純文地文のX字把手付大形深鉢。頭部は3本一組の格形落帯で間に展開する文様を施出。空間に2本一組落帯の逆S字文様。純文地文一腰窓の施文頭。
88図01	PJ-33B	PJ-7 6, 10-303, G-3-13	深鉢形	22.0	23.5	8.4	1800	内: 7.5φ5/3 外: 7.5φ6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	純文地文を施文後に粘土絆の波状文を頭部と頭部に貼付。内面底下半部に炭化物が付着。
88図02	PJ-33B	PJ-7 15, PJ-7 13, PJ-7 1, 16-294, G-3-13	深鉢形	17.2	21.8	7	1042	内: 10φ3/1 外: 5φ5/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に半截竹管の押引沈線をめぐらせ、頭部に平行沈線、蛇行沈線を垂下させる。純文地文。純文一沈線の施文頭。内面ミガキ調整
88図03	PJ-33B	PJ-7 1, PJ-7 15, 16-294, G-3-13	深鉢形	22.2	-	-	1380	内: 2.9φ4/6 外: 2.9φ2/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部にボタン状貼付文を8単位程度。そこから半截竹管による蛇行沈線を垂下させる。純文地文。地文一貼付文一平行沈線の施文頭。頭部最大径の内面に帯状に炭化物が厚く付着。
88図04	PJ-33B	16-291, G-3-13	深鉢形	17.0	17.0	7.2	940	内: 7.5φ4/2 外: 7.5φ6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	4瓣位の波状口縁。口縁部に2本の沈線をめぐらせ。頭部上部に連弧文、頭部下部に2本の沈線をめぐらせ。沈線垂下文。純文地文。純文一沈線の施文頭。外面口縁部に帯状に焼付着。内面全体に保付着。
88図05	PJ-33B	PJ-7 11, PJ-7 10, 16-292	深鉢形	(24.6)	(28.0)	(10.2)	1962	内: 5φ4/2 外: 5φ5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	純文地文。内面の頭部下半に局所的に炭化物が付着。
88図06	PJ-33B	16-293, G-3-10	深鉢形	17.3	-	-	880	内: 10φ4/2 外: 5φ4/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	純文地文。内面の頭部中位あたりに帯状に炭化物が厚く付着。
88図07	PJ-33B	PJ-7 一括、PJ-7 10, G-3-16, G-3-17	深鉢形	(14.2)	17.8	7.2	493	内: 7.5φ4/3 外: 2.5φ4/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	純文地文。内面の口縁部やや下から底部まで炭化物が付着
88図08	PJ-33B	PJ-7 32	深鉢形	14.0	-	-	695	内: 10φ5/3 外: 7.5φ6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁に2単位の耳たぶ状の突起と2単位の隣帝巻きを貼付。それらの際を渦巻きから延びる落書きで横円形に区画。横円区画内にはヘラ状工具による斜引沈線。落書きは棒状工具の押引刺突。頭部との境目に落書きをめぐらせる。頭部から頭部に大きさすぼまり、頭部には純文地文。内面ミガキ調整。口縁部から頭部へ僅く剥れる器部、口縁部の耳たぶ状貼付文、隣帝巻の刺突など、席草文系土器、伊都地方の土器の影響を感じさせる。

第3表 土器観察表

図版番号	機械式追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
88 図 09	PJ-33B	PJ-7 9, 10-302	深鉢形	-	-	-	755	内: 7.5R4/3 外: 7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部から胴部にかけて褪色。胴長感のある胴部に純文地文と平行波線文。純文一辺縁の施文様。内面底面下半に局部的に虎毛目付着。
88 図 10	PJ-33B	PJ-7 5	短縦巻	-	-	9.6	1015	内: 7.5R4/2 外: 7.5R4/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部が直線的に立ち上がり、頭部が膨らむ壺形土器。純文地文。内面ミガ子調整。内面の一部に色彩彩色が残る。塗彩したのか、赤色顔料を保管していたことによるのか。
88 図 11	PJ-33B	PJ-7 3, PJ-7 4, PJ-7 10, PJ-7 12, PJ-7 13, PJ-7 14, PJ-7 15-21, 16-302, 16-289, 16-288, 6-3-13, DK-18 一括	両耳壺	45.7	37.5	12.8	7000	10R9/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	2 単位の X 字状把手。把手の上面、X 交差部には穴が開いている。把手横に把手横に2本落葉が横に配置し、把手どうしを連結する。頭部空間に純文地文を施す。頭部境界の屈曲部に粘土を貼り付けで屈曲を強調している。隆等一綱文の施文様。内面ミガ子調整。外面の口縁部から底部までの間に虎毛目付着、内面の屈曲部から底部底面まで虎毛目付着。
89 図 01	PJ-33B	PJ-7 39	器台	28.6	5.6	22.1	3060	内: 外: 10R6/3 10R3/1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	7 号住居内に落ち込んで出土した器台で、帶利口式期の 3-38 号器に帰属させた。台脚周縁は角が削られて滑軟しているが底部表面に使用痕は観察されない。底部底面には回転擦痕が認められる。大形のマコ種で圧痕あり。
89 図 02	PJ-33B	16-299	器台	25.0	55.0	17	1620	7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	台部の一部を欠損した器台。台脚周縁と中央部がやや滑軟している。底部には 2 個一组の透かし穴と 2 単位あけられた。底部底面は回転使用による擦痕が認められる。
89 図 03	PJ-33B	PJ-7 一括	土偶	-	-	-	24	7.5R5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	土偶の頭部と半身の胸片。へこんだ口とふくらんだ右肩、右腕部が確認できる。頭部は棒状粘土塊の接合面で割れている。
91 図 01	DK-29	DK-29 一括	深鉢形	-	-	-	136	内: 10R4/2 外: 7.5R6/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	29 号土坑出土。大きく述べ口縁部に隆起の X 字文様と沈線の三叉文などを施す。
91 図 02	DK-29	DK-29 一括	鉢	-	-	-	21	10R4/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	29 号土坑出土。口縁部内側に修形土器と思われる破片。薄手で内外面ミガ子調整。口縁部に細い合背沈線を施し、下端を凹線で区画。その下に 2 列の斜切文。
91 図 03	DK-30	6-2-21	ミニチュア土器	(5.8)	5.9	3.0	38	内: 7.5R6/4 外: 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子、真岩小砾が混じる	外面綫ナギ、内面ヨコナギ調整のミニチュア土器
91 図 04	DK-30	DK-30 一括、DK-30 ズ 1, 16-104	深鉢形	32.5	(49.3)	15.0	6000	内: 10R7/6 外: 10R6/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	30 号土坑で横倒しになって出土。口縁部に円形の窪みのある大きな突起と波状文、腹部に断面三角形の窪み隆起、頭部は矢羽状突起のみの隆起と沈線文様。外面底部下半と内面底部屈曲部に付着。
92 図 01	DK-34	DK-34 ズ 2, PJ-10 一括、2849-1 善地、0-3-4-8-12, 1-2-23, 16-269	深鉢形	52.6	-	-	16550	内: 7.5R6/2 外: 7.5R6/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	34 号土坑出土で、埋設土器の可能性が高い。正位で出土し、口縁部周縁が内側に落ち込んでいる。頭部は腰帶をめぐらせて、内部に波状滑軟層、頭部は粘土板を貼したものと思われる修復接合と隆起の善地、地文は兩面状列点文。外面の頭部下半に局所的に煤付着。
92 図 02	DK-35	DK-35 一括	深鉢形	11.6	-	-	685	内: 10R6/3 外: 10R6/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部と胴部に粘土縁を貼り付け波状文などを施す。純文地文。粘土縫合貼付一地文の施文頭か
92 図 03	DK-35	DK-35 一括	深鉢形	-	-	-	106	内: 10R6/1 外: 10R2/2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に横筋の階級と波状隆線を段段重ね、半截竹管の絆縫文。腰帶貼付一地文の施文頭
93 図 01	DK-40	DK-40 一括、DK-40 ズ 1, DK-40 ズ 2		-	-	-	3210	内: 10R6/4 外: 10R4/2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	40 号土坑で石器とともに、内面を上にして出土。頭部二段にメガネ状把手を貼付。頭部には薄い粘土板を貼り付け、半截竹管で整形した隆起がめぐらし、その間に横筋が貼付される。把手から頭部に 3 本一组の修形隆起の巻き巻き Z 文字が施す。文字は半截竹管による絆縫文。頭部 Z 文字貼付一地文一頭部腰帶整形の絆縫文頭にみえる。

第 3 表 土器観察表

図版番号	横葉先端種名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
90 図 02	DK-41	DK-41 一括、 DK-41 ズ1、 PJ-5 一括	深鉢形	16.3	27.5	8.5	905	内 : 7.5R6/6 外 : 5M6/6	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	41号土坑壁際の土坑底面から浮いた埋土中で、破片状態で出土した。口縁部に渦巻き突起と竹縄押引による割み落帯。下の底面部に小さなメガネ状把手。把手穴は貫通していない。頭部に刻み落帯と波状文。頭部から2本一组の刻み落帯の墨垂文。墨垂文は6単位。地文は半截竹管の条線文。内面ナデ調整。内面の肩下半から底部にかけて炭化物付着。
90 図 03	DK-41	DK-41 ズ2		-	-	-	170	内 : 7.5R2/6 外 : 7.5R6/6	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	
94 図 01	DK-42	DK-42 一括	深鉢形	-	-	-	94	内 : 10R8/4 外 : 10R7/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	短沈線を粗雑に施した土器。曹利V式か
95 図 01	DK-53	DK-53 一括、 DK-53 8, DK- 53 1, DK- 53 5, DK-53 4, DK-53 7, H-3-2	深鉢形	(33.0)	-	(19.0)	3167	内 : 7.5R6/3 外 : 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	53号土坑確認面で破片となって出土。口縁部に墨垂文を施し、横縫状沈線を繰り取り。口縁部墨垂文を2本の広辺埋込しして縦方向に分割している。口縁部墨垂文の内側はコマナデ調整で小さな段差を作出。頭部は落帯と粘土板を貼り付けて大きな山形文を推出し、その下に墨垂による精円文を四段配置する。横円文落帯は爪形押引文で締取り、区間に内張状沈線。
95 図 02	DK-32	DK-32 一括、 DK-53 6	脚付深 鉢形	-	-	-	360	内 : 7.5R7/6 外 : 5M7/8	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	条線地文に蛇行落帯。細部は欠損しているが、割れ部は研磨整形されている。
95 図 03	DK-32	DK-32 一括	深鉢形	-	-	-	14	内 : 7.5R7/6 外 : 7.5R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	32号土坑出土。口縁部に粘土板の渦巻き文。棒状工具で2本一组の弦線文。渦巻文から平行沈線が墨下。外面に採出窓。
95 図 04	DK-53	DK-53 一括	焼成粘 土塊	幅4.1	横3.2	厚2.7	20	10R7/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	乳白色の色調を呈する焼成粘土塊。
95 図 05	DK-54	DK-54 一括 6-2-25	浅鉢形	(27.6)	-	-	436	内 : 10R7/4 外 : 10R6/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	無文の浅鉢。外面は継、斜めのナデ調整、内面はヨリナデ調整。
95 図 06	DK-54	DK-54 図1	深鉢形	8.5	6.5	5.6	188	内 : 10R6/2 外 : 7.5R5/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	縦文地文で口縁部に穴2単位が穿孔された小 形土器。外表面は丁寧に磨かれ、赤彩が易所 的に残る。
95 図 07	DK-54	DK-54 一括	壺形土 器	(7.4)	7.8	(6.0)	70	7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	肩が僅かで屈曲する小形の壺形土器。肩部と その下の粘土板が貼付。下段の落帯はほとんど 剥離しているが、頸部が墨垂きもしくは円 文にならざる。小さな把手付属していった可 能性もある。地文は刻文変形。内面は丁寧な ミガキ調整。内面の底部附近にごくわずか な赤色顔料が残る。
95 図 08	DK-54	DK-54 一括	深鉢形	-	-	-	15	内 : 10R4/2 外 : 7.5R6/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	54号土坑出土。腰下で外表面は半截竹管の失羽 状墨線文。曹利V式か
96 図 01	DK-64	DK-64 一括	突起	-	-	-	14	内 : 7.5R5/6 外 : 7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	64号土坑出土。透かし穴がある大きな突起の 破片と被われる。墨垂と沈線。破片の上下、 左右が分からぬ。
96 図 02	DK-72	DK-72 一括	深鉢形	-	-	-	25	内 : 10R5/3 外 : 10R4/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	72号土坑出土。頭部と思われる箇所に刻み落 帯
97 図 01	DK-77	DK-77 一括	深鉢形	45.5	-	-	3745	内 : 10R5/4 外 : 10R4/3	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	77号土坑の埋土中で横倒しになって出土した 斜行文土器。口縁部と頭部の斜行文は半截竹 管による平行沈線。頭部は細い粘土板を横子 目に沿うように貼付。頭部の2本の粘土板を めぐらせる。脚部も粘土板の番下文。地文は 半截竹管の条線文。地文・粘土板・貼付の施文 順。内面の肩部下部に局所的に煤付着。
97 図 02	DK-78	DK-78 ズ3、 IG-307	深鉢形	16.5	29.7	8.3	2740	内 : 7.5R4/2 外 : 5M5/4	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	口縁部に渦巻き落帯を貼付。口縁部、頸部と 頭部に失羽状の斜行落帯を貼付。縞文文。
97 図 03	DK-78	DK-78 一括、 DK-78 ズ3、 IG-308	深鉢形	(24.2)	-	-	971	内 : 7.5R5/3 外 : 7.5R4/2	長石、石英、雲母、黒 色鉱物粒子が混じる	78号土坑確認面で出土。口縁部に穴のある突 起。突起側面に沈線の三叉文と円文。

第3表 土器観察表

図版番号	機械先追跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
98 図 01	DK-78	DK-78 一括、 DK-78 ズ 1、 DK-78 ズ 2、 DK-79 一括、 0-2-17, 10- 102, 10-307, 10-308	深鉢形	(18.0)	40.0	10.6	3080	内：5.984/2 外：5.985/4	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	78 号土坑確認面で横倒しになって出土。口縁部に動物畫匠の大形突起。口縁上面に半球状の貼付文とそれを抱くような捺文様。口縁部から底部の屈曲部に 4 単位の把手。底部括れ上半は捺文地文、下半は隆帯と凹線で文様を抽出。
99 図 01	DK-104	DK-104 ズ 1、 DK-104 ズ 2、 DK-104 ズ 3	深鉢形	-	-	-	931	内：5.985/6 外：5.984/4	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	隆帯と粘土板を貼付した立体的な文様と爪形 刻み隆帯、内面は 3 ナメ調整。内面に局部的 に炭化物が薄く付着。
100 図 01	DK-112	DK-112 図 3、 DK-112 図 6、 DK-112 図 7、 DK-112 図 8、 DK-112 図 10, DK-112 ズ 11, DK- 112 ズ 12, DK-112 ズ 13、 DK-112 図 13, P1-19.3, P1-19 一括、 16-65、通路 一括	深鉢形	28.4	48.8	15.6	10300	内：5.985/4 外：5.984/2	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	112 号土坑で口縁部を下に斜めになって出土。 傍らには大きな花崗岩が出土した。底部は表 土剥ぎ作業と道標棒を投げて出し、一部は 失われてしまった。いわゆる多面窓タイプの大 形突起を 4 単位。口縁部に既せた深鉢形、 口縁部から底部括れ、底部にかけて棹状工具 で押された隆帯が強目。複位に貼付される。 底部くびれ下の地文は半截竹管の条線文。
101 図 01	DK-114	DK-114 ズ 1、 DK-114 一括	浅鉢形	37.5	16.5	11.6	2540	2.5986/6	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	114 号土坑埋土中ではばらばらの破片となっ て出土した鉢形で、肥厚させた口縁部に 4 単 位の C 字状貼付文。口縁部は複の短辺縫と棒子 状文、内面裏ミガキ調整
101 図 02	DK-117	DK-117 ズ 1、 16-675, 16- 681, 16-676	深鉢形	39.0	64.8	16.8	10500	内：5.986/3 外：5.984/3	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	口縁部に大きなメガネ状突起と環状突起 2 单 位。口縁部下の把手から底部へ複帝逆 J 字文 が垂下。周縁部は純文地文で、廢川消し? トナ デ円文、U 字状文様を抽出。内面の頭下半 部に局部的に煤付着。
102 図 01	DK-1	DK-1 一括	深鉢形	-	-	-	11	内：10.985/3 外：5.986/8	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	1 号土坑出土。小破片で廃棄している。隆帯 貼付文と捺線文。井戸戻式か呂利 1 式古段階
102 図 02	DK-1	DK-1 一括	深鉢形	-	-	-	10	内：10.984/2 外：10.987/4	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	渾手でまばらに純文地文施される。内面はミ ガキ調整だが指痕圧痕が残る。
102 図 03	DK-14	DK-14 一括	青磁碗	-	-	(5.2)	43	7.597/1	質實の微密な胎土	青磁碗の底部破片。削り出し高台
102 図 04	DK-20	DK-20 一括	深鉢形	-	-	-	20	内：10.986/6 外：10.987/1	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	20 号土坑出土。破片の上下は分からず。純 文、沈線、沈線波状文。内面は丁寧なミガキ 調整。
102 図 05	DK-23	PJ-6 一括、 PJ-14 一 括、19-272, H-3-6, H-3- 7, G-3-15	深鉢形	-	-	-	810	7.5986/6	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	小さな波状が連続する口縁部に純文施文。蓋 面は捺線文。純文帯の下は隆帯と押引の円文、 三角文。さらに下には横円区画文が配置され る。
102 図 06	DK-23	DK-23 一括	深鉢形	-	-	-	70	内：7.5986/6 外：7.5986/4	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	I02 図 05 と同じ個体の破片。頭下半部の横円 区画文。
102 図 07	DK-27	DK-27 一括、 G-3-3	深鉢形	(6.0)	-	-	51	内：10.986/4 外：10.985/2	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	小形の深鉢形土器。口縁部に半截竹管の平行 沈線をめぐらせ、底部は複の平行沈線。手づ くね成形で壁盤はでこぼこしている。
102 図 08	DK-31	DK-31 一括	深鉢形	11.2	2.5	9.2	199	7.5986/6	長石、石英、雲母、黒 色磁物粒子が混じる	31 号土坑出土。底部破片で割れ面が研磨整形 されている。
102 図 09	DK-39	DK-39 一括	深鉢形	-	-	-	72	内：2.5986/8 外：2.5986/4	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	39 号土坑出土。口縁部に粘土絆をねじって貼 付。隆帯三角文と押引。
102 図 10	DK-39	DK-39 一括	土製円盤	縦 2.6	横 2.9	厚 1.1	12	内：5.982/2 外：5.984/3	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	39 号土坑出土。純文地文の土器破片を使用し た土製円盤。周縁を研磨整形。
102 図 11	DK-49	16-320	深鉢形	-	-	-	218	内：7.5986/3 外：7. 5986/1	長石、石英、黒色磁物 粒子が混じる	49 号土坑確認面出土。口縁部に貼付された X 字把手破片。把手下部から底部に純文施文。

第 3 表 土器観察表

図版番号	横葉美道器名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
103図01	DK-57	DK-57 一括	深鉢形	-	-	-	75	内: 1095.3 外: 1095.4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部に平行沈線をめぐらせる
103図02	DK-66	DK-66 一括	深鉢形	-	-	-	172	内: 7.5R2/1 外: 7.5R5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	66号土坑出土。口沿があまり大きくな深い深鉢片だが壁面が非常に厚い。破片の上下が分からぬが、隆帯本部に円文を施文し、底部がソロバンミ状に張る器形か、半截竹管の平行沈線。施文は難な印象を受けた。
103図03	DK-66	I-6-216	深鉢形	-	-	-	59	内: 7.5R2/1 外: 7.5R5/6	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	G-2-17 グリッドで地土したが、66号土坑出土の 103図02 と同一個体である
103図04	DK-66	DK-66 一括	深鉢形	-	-	-	110	内: 1094/1 外: 7.5R2/5	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	隆帯に円文。三叉文と三日文様を斜刻。内面ミガキ調整。井戸尻式
103図05	DK-68	I-6-370	深鉢形	-	-	7.5	224	内: 1095/3 外: 1095/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	68号土坑確認面で出土。内面底部に炭化物付着。器形から曾利式と思われる。
103図06	DK-68	DK-68 一括	深鉢形	-	-	-	22	内: 7.5R4/2 外: 5R5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	68号土坑出土。被文線と交叉割刻による波状文を施文した小形の深鉢。井戸尻式 3段階か曾利I式古段階
103図07	DK-71	DK-71 一括	鉢	-	-	-	91	内: 7.5R5/6 外: 7.5R4/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	71号土坑出土。口縁内面にわずかな線を作出。外腹は継文地文。内面ミガキ調整。
103図08	DK-74	DK-74 一括	深鉢形	-	-	-	81	内: 7.5R4/1 外: 5R5/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	74号土坑出土。半截竹管で深く刻んだ沈線で器面を三角に区画し、短辺側と竹管先端を施文した花びら文様。頭部下部は隆帯を貼付して器面を区画し、隆帯上に短辺と花びら文様を施文。内面ミガキ調整。瓶内式のバトルル・土器
103図09	DK-82	DK-82 一括	深鉢形	-	-	-	132	内: 7.5R4/4 外: 10R2/2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	深鉢の突起破片。外腹は深く刻んだ沈線と刻み隆帯で立体的文様を描出し、内腹は大きめの窪みの圓錐を斜刻三叉文で囲む。上面に三叉文。内外面とも丁寧なミガキ調整。外腹に局所的に爆付帯
104図01	DK-84	DK-84 1	深鉢形	-	-	-	21	内: 7.5R2/2 外: 7.5R4/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	84号土坑出土。口縁部に刻み隆帯で施文。隆帯は本部からやや突出部で突出する。半截竹管先端を剥突して、短辺側を加えた花びら文様。口唇部から内腹に爆付帯
104図02	DK-94	DK-94 一括	深鉢形	-	-	-	307	内: 5R5/4 外: 5R0/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	大形土器の口縁部頂部破片。半截竹管で渦巻き文を描出。
104図03	DK-98	DK-98 一括	浅鉢形	(46.0)	-	-	597	内: 1095/3 外: 10R3/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	継文地文。内面は横ミガキ調整
104図04	DK-102	(DK-102 一括, PJ-13 30, E-2-15)	深鉢形	28.0	32.4	10.2	2360	内: 7.5R6/4 外: 10R5/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	6横幅と思われる波状口縁の逆傾部に渦巻文。口縁部に隆帯の粗文。継文内は複次絞で充填。頭部は矢羽の凹回文。蛇行切跡。内面頭部以下に炭化物付着。
104図05	DK-102	(DK-102 一括, DK-102 A, DK-102 7, PJ-13 A, PJ-13 5, PJ-13 30, PJ-13 一括, E-2-10)	深鉢形	27.0	-	-	1399	内: 7.5R6/4 外: 7.5R7/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	頭部は隆帯と凹線で横円文と渦巻文を描き、短辺側を充填。頭部は半截竹管の垂下式と横、斜めの平行沈線。内面の頭下部に局所的に炭化物が付着。
104図06	DK-102	(DK-102 一括, DK-102 A, DK-102 3)	深鉢形	26.9	-	-	495	内: 1095/3 外: 10R5/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	まばらに短辺線を施した深鉢。曾利V式か、それとも曾利II→Ⅳ式の兩重状列点文の崩れか
104図07	DK-102	DK-102 一括, PJ-13 5	深鉢形	(21.0)	-	-	174	内: 5R4/3 外: 5R4/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部から頭部へ粘土紐の渦巻き垂下文。頭部には粘土紐と波状文をめぐらせて文様帶を区画。口縁部と頭部文様帶は半截竹管の平行沈線。頭部文様帶内の充填文は棒状工具による1本ずつ施文した沈線もある。
104図08	DK-102	DK-102 4., DK-102 一括	両耳壺	-	-	11.0	2890	内: 7.5R6/8 外: 7.5R6/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	2位相の把手。頭部は隆帯を貼付した渦巻文と長方形区間に棒状工具による横沈線を充填。外腹脛曲部以下に爆付帯。内面口縁部から底部に爆、炭化物付着

第3表 土器観察表

回数 番号	傳承先 遺跡名	注記	種類	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	器面の 色調	胎土質	観察所見
105 回 01	DK-102	DK-102 一 括、DK-102 5	両耳壺	(31.4)	-	-	1437	内：10φ6/3 外：10φ6/3	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	X字状の把手を 2 単位貼付。内外面ナデ調整。 口縁部内面に水平、帯状に保付着。
105 回 02	DK-102	DK-102 3, E-2-10, 1G- 445	深鉢形	(46.0)	-	-	712	7.5φ5/4	長石、石英、雲母、赤色、 黒色鉱物粒子が混じる	屈曲した口縁部。底状地文。内面は丁寧な ミガキ調整
105 回 03	DK-102	DK-102 3	壺	-	-	-	234	10φ4/2	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	肩部に粘土組を貼付し、屈曲を強調。頸部文 様帶は凹線の渦巻文、横円文。内面ミガキ調 整
105 回 04	DK-102	DK-102 一括	深鉢形	-	-	-	139	内：7.5φ4/2 外：7.5φ6/4	長石、石英、黒色鉱 物粒子が混じる	肥厚帯口縁に凹線で円文と貫通しない穴。周 部地文は半截竹管の模様文。
105 回 05	DK-102	PJ-13 31	深鉢形	-	-	-	88	7.5φ6/4	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	穴の開いたて突起から縁部につながる隆帯で 渦巻き弧線文。口唇上面に凹線。内面は丁寧 なミガキ調整
105 回 06	DK-102	DK-102 一括	深鉢形	-	-	-	205	内：10φ5/4 外：10φ6/4	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	口縁部は棒状工具による二重沈線で弧線文。 頸部上面はリズム面を施し、短沈線を充填。 波状口縁になるかも
105 回 07	DK-102	E-2-15	土製円盤	縦 3.8	横 3.4	厚 1.0	16	内：7.5φ4/3 7.5φ6/2 外：7.5φ6/3	長石、石英、雲母、赤色、 黒色鉱物粒子が混じる	縄文地文の土器破片を利用した土製円盤。周 縁部を研磨整形している。
105 回 08	DK-102	PJ-13 34	深鉢形	-	-	9.4	250	10φ2/4	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	中頸部か後頸と思われる深鉢底部破片。網代 底あり
105 回 09	DK-108	1G-481, E-2-20	深鉢形	-	-	-	655	内：7.5φ4/2 外：7.5φ6/6	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	頸部に隆帯と半截竹管の平行沈線をめぐら せ、6 単位と思われる耳たぶ状の貼付。頸 部は刻み横線を波状横線を垂下。頸部地文は 深く削んだ矢羽状沈線。隆縫貼付一地文の施 文頸。内面頸下半部に灰化物の付着
106 回 01	PT-49	PT-49 一括	深鉢形	-	-	-	69	内：7.5φ6/4 外：5φ4/2	長石、石英、雲母、赤色、 黒色鉱物粒子が混じる	4 号住居、6 号住居と重複する PT49 出土。隆 帯の横円文と刻み隆縫、筋歯状次沈線と押引。 麻内式
106 回 02	PT-49	PT-49 一括	深鉢形	-	-	(11.7)	78	内：5φ4/1 外：5φ6/4	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	押引で縁取りした隆縫ある土器底部。4 号 住居と重複する PT49 で出土
106 回 03	PT-52	PT-52 一括	深鉢形	18.0	-	-	420	内：5φ4/2 外： 7.5φ5/4	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	33 号住居と重複する PT52 で出土した肥厚側 口縁の深鉢。口縁部に隆縫を貼り付けた。指 先でなでた凹線で横円文、渦巻文を施文。頸部 は隆縫を貼付し、筋歯を捺すたび文様。指先 で施文した凹線蛇行文。地文は半截竹管の条 線。隆縫一隙線地文—隆縫脇のナナデの施文 頸。内面ミガキ調整
106 回 04	PT-52	PT-7 一括, 1G-275, 1G- 47, 6-3-2, 道跡一括	壺	-	-	-	775	2.5φ5.8	長石、石英、雲母。黒 色鉱物粒子が混じる	33 号住居内の PT52 にあたる地点で出土。頸 部と肩部が屈曲するリバウンド鉢形で、頸部 に隆縫をめぐらせ、そこから筋状隆縫が垂下 する。頸部地文は棒状工具でなでた凹線で 三角に区画し、そのなかを列点で充填する。
106 回 05	PT-65	PT-65 一括	鉢	-	-	-	19	7.5φ3/1	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	小形の鉢形器形の土器と思われる破片。純文 地文。内面は丁寧なミガキ調整。内外面に彩 色と思われる黒色部が残る。
106 回 06	PT-81	PT-81 一括	深鉢形	-	-	-	111	内：7.5φ6/2 外：7.5φ6/4	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	井戸尻式の桶形文土器の底部付近の破片。隆 帯の桶形文の端部は手のような表現。太い縦 沈線を充填。
106 回 07	PT-81	PT-81 一括	深鉢形	-	-	-	43	内：5φ1/1 外：7.5φ6/6	長石、石英、黒色鉱物 粒子が混じる	底部がソロバン王状に張る井戸尻式土器。純 文地文

第3表 土器観察表

図版番号	補遺先追捺名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	施土質	観察所見
107図01	追撃外	I-491, I-493, E-3-4	深鉢形	(32.6)	-	-	2090	内: 5.9R5.8 外: 2.5R5.8	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	E-2-18とE-3-4グリッド出土。口縁部は粘土を貼って肥厚させ、胴部文様帶との間に網継ぎ段差を設けている。胴部文様区画は三角形、菱形の模刻と平行線の深い施文により半肉彫風の文様を描出している。口縁部に補修孔あり。外面無文部はミガキ調整
107図02	追撃外	H-3-6	深鉢形	-	-	-	293	7.5R6.4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	井戸尻式土器の動物意匠文突起。種子伝頃あり。H-3-6グリッド出土
107図03	追撃外	I-412	深鉢形	(23.5)	-	-	819	内: 7.5R5.2 外: 7.5R6.3	長石、石英、黒色鉱物粒子、花崗岩片、灰色岩片が混じる	F-2-10グリッド出土。口縁部に渦巻き施文の突起と穴の開いた小突起。頭部に把手と鉤み落差。把手は4重位と思われる。胴部は螺旋を貼付し、押引。地部は半斜方格子の条紋文。口縁部突起内面にも施文。条線地文一層線押引の施文。
107図04	追撃外	I-286, G-3-14	深鉢形	12.5	17.4	8.6	970	内: 5R4.4 外: 5R6.6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	33B号住居北側のG-3-14グリッドで出土。33号住居に埋蔵する土器の可能性があるが、追撃扱いとした。
107図05	追撃外	I-484, E-2-14, E-2-19	深鉢形	(21.2)	-	-	380	内: 7.5R7.4 外: 7.5R6.6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に回線をめぐらせ、棒状工具を押し付けた短回線の剥み落差を貼付。頭部にU字状貼付文。回線で連続する渦巻き文を施文。内外面は達なミガキ調整。
107図06	追撃外	G-2-19	深鉢形	-	-	5.0	69	内: 10R2.2 外: 10R0.6	長石、石英、雲母粒子が混じる	把手ミガキ調整。額状隆起と次級格子目文。後期組内式、外面頭部下部に局所的に煤付着。内面正面下部に炭化物付着。
107図07	追撃外	E-3-3, E-3-2	深鉢形	-	-	-	41	内: 10R3.2 外: 7.5R6.6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。細縞を多く含む	胎土に繊維を混入。櫛状工具による波状文を施文。内面はU字型調整で指壓痕は目立たない。前期前葉、中葉式併行期の土器
107図08	追撃外	H-3-9	深鉢形	-	-	-	89	内: 7.5R6.3 外: 10R4.3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	波状口部になる深鉢形。肥厚させた口縁部の波状部から剥み落差が垂下。その周辺はキャタピラー文。指壓式→新道式か
107図09	追撃外	H-3-9	深鉢形	-	-	-	60	内: 10R3.2 外: 10R4.3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	波状の内面口縁の深鉢形で縄文地文。胎土内に炭化物が混じる。
107図10	追撃外	G-3-3	深鉢形	-	-	-	53	内: 7.5R6.1 外: 7.5R6.6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁に凹線3本をめぐらせ、その下にU字一筋の凹筋の連弧文。地文は縄文の側面圧痕か。内面ミガキ調整
107図11	追撃外	F-3-1	ミニチュア土器	-	-	-	7	内: 10R0.1 外: 10R3.2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	口縁部に渦巻きをめぐらせ、頭部に緩、斜めの沈線。
107図12	追撃外	I-305	深鉢形	-	-	-	13	7.5R6.1	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	薄手で器面を丁寧に磨いている。破片の上下が分離しないが、表面上方は削り斜面。下側は並列した横円文。角しくは波状文。G-2-14グリッド出土。後期前葉の土器か
107図13	追撃外	I-171	ミニチュア土器	-	-	-	12	内: 5R6.8 外: 7.5R6.6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	細次線を扭屈部にめぐらせ、その下に矢羽状の施文。
107図14	追撃外	追跡一括	ミニチュア土器	4.8	2.2	-	21	10R2.2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	浅鉢形器のミニチュア土器。表土剥ぎ取り作業中に出土。
107図15	追撃外	I-244	器台	-	-	-	102	7.5R6.2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	透かし穴のある器台筒部破片。台部との接合部で割れている。F-3-15グリッドの搅乱中で出土
107図16	追撃外	G-3-11	深鉢形	-	-	-	40	7.5R6.6	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	剝み落差による文様をもつ深鉢の頭部破片。井戸尻式か。破片全体が水をかけて研磨したように磨耗している。
107図17	追撃外	E-2-13	土器片錠	幅4.2	横3.9	厚1.0	22	内: 5R5.3 外: 5R6.4	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	13号住居南東のE-2-13グリッドで出土。平行弦文と縄文地文を施文した井戸尻式と思われる土器破片を利用した土器片錠。側脚と欠き込み部を研磨整している
107図18	追撃外	I-562	土器円盤	幅3.5	横3.6	厚0.8	13	7.5R6.4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	無文土器破片を利用した土器円盤。周縁部は研磨整形

第3表 土器観察表

図版番号	傳承先 遺跡名	注記	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	器面の色調	胎土質	観察所見
107 図 19	道横外	E-3-9	土製円盤	縦3.9	横3.9	厚1.1	17	内: 7.5R6/4 外: 5R6/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	無文土器破片を利用した土製円盤。周縁部は打ち欠いたまま
107 図 20	道横外	F-3-1	土製円盤	縦3.2	横3.1	厚0.9	11	内: 7.5R6/8 外: 5R6/8	長石、石英、黒色鉱物粒子。灰色の岩片が混じる	太い沈線を施した土器破片を利用した土製円盤。周縁部を研磨整形している。
107 図 21	道横外	F-3-13	土製円盤	縦4.0	横4.1	厚1.1	22	内: 5R2/1 外: 5R4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	無文の土器破片を利用した土製円盤。周縁部を研磨整形している。
108 図 01	道横外	G-3-11	土偶	-	-	-	43	10R4/2	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	水で強く洗ったように表面が荒れしている。耳たぶに穿孔があり、2つの鼻穴とへこんで口、膨らんだ乳房、右腕筋元が確認できる。
108 図 02	道横外	F-3-14	土偶	-	-	-	36	10R4/2	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	細い粘土柱を貼り付けて眉と鼻筋を表現。目と口は刺突による。額にでっぱった耳を穿孔する。後頭部にも穿孔のある貼り付け。
108 図 03	道横外	G-3-95	土偶	-	-	-	21	7.5R6/6	長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子。花崗岩片が混じる	小形で粗陋なつくりの土偶破片。12号住居北側の埋立部分で出土。棒状工具の刺突で目、口を表現し、小さな粘土柱を貼り付けて乳房を施す。
108 図 04	道横外	F-2-8	内耳土器	(30.2)	4.3	(28.0)	86	内: 7.5R6/4 外: 10R4/2	長石、石英、雲母、赤色、黒色鉱物粒子が混じる	内耳土器破片。外面に焼付着。底部外面は風化してざらつく
108 図 05	道横外	G-3-56	碗	-	-	4.0	104	外: 10R7/4	白く緻密な珪質の胎土	F-3-5 グリッド捲かから出土した瀬戸産と思われる天正系窯の底盤片、外側ケズリ調整、削り出し台面。内面は黑色釉。
114 図 01	PH-01	PH-I カマドズ1, PH-I カマドズ2	坏	10.8	4.0	5.2	100	5R6/8	赤色、白色、黒色鉱物粒子が少し混じる緻密な胎土	甲斐型坏。カマド内で二つの被片に割れて出土。「西」?墨書きあり。みこみ部に+字形の線刻。外面下半はヘラケズリ、内面放射状暗文、底部回転糸切り痕
114 図 02	PH-01	PH-I 1	坏	10.8	3.9	5.0	60	5R6/8	赤色、白色、黒色鉱物粒子が少し混じる緻密な胎土	甲斐型坏。カマド近くの南壁沿いで出土。外面上半ヘラケズリ、内面放射状暗文、底部回転糸切り痕
114 図 03	PH-01	PH-I 2, カマド、一括、G-2-18	ロクロ裏	(28.0)	-	-	487	内: 5R4/6 外: 5R5/6	雲母、長石、石英、黒色鉱物粒子が多く混じる	ロクロ整形の土師器裏。カキメ調整を省略した製品と思われる。未調整の接合箇所もあり
114 図 04	PH-01	PH-I 一括	裏	(17.0)	-	-	8	7.5R6/6	赤色、白色、黒色の鉱物粒子が少し混じるややちついた胎土	甲斐型の小形裏。内面カキメ調整。胎土質は坏、皿の胎土に類似する
114 図 05	PH-01	PH-I 一括	裏	(22.1)	-	-	33	内: 10R2/3 外: 10R2/2	雲母、長石、石英、黒色鉱物粒子が多く混じる	甲斐型裏。内外面カキメ調整
114 図 06	PH-01	PH-I 一括	裏	(14.0)	-	-	37	内: 5R2/1 外: 5R5/8	雲母、長石、石英、黒色鉱物粒子が多く混じる	甲斐型の小形裏。内外面カキメ調整。口縁部内面に焼付着あり
114 図 07	PH-01	PH-I 一括	須恵器裏	(20.0)	-	-	61	内: 2.5S5/1 外: 2.5S5/1	白色鉱物粒子が少し混じる胎土で、気泡が目立つ	内外面ロクロ調整。外面は輪郭みの凹凸が目立つ
115 図 01	PH-02	PH-2 I	坏	9.9	4.1	4.9	78	内: 5R6/6 外: 5R6/6	赤色、白色、黒色の鉱物粒子が少し混じる緻密な胎土	甲斐型坏。外面下半ヘラケズリ、底面ヘラケズリ、内面放射状暗文、底面に十字形の線刻あり
115 図 02	PH-03	PH-3 一括、PH-3 2	坏	12.4	4.5	5.4	87	7.5R7/6	赤色、白色、黒色の鉱物粒子が少し混じる緻密な胎土	甲斐型坏。判断不可の墨書きあり。外面下半ヘラケズリ、底面回転糸切り後ヘラケズリ、内面放射状暗文
115 図 03	PH-03	PH-3 I	坏	-	-	5.8	57	5R6/6	赤色、白色、黒色の鉱物粒子が少し混じる緻密な胎土	甲斐型坏。外面下半ヘラケズリ、底面糸切り後ヘラケズリ、内面放射状暗文
115 図 04	PH-03	PH-3 一括	裏	(28.4)	-	-	38	5R6/4	雲母、長石、石英、黒色鉱物粒子が多く混じる	甲斐型裏の口縁部破片。内外面カキメ調整
115 図 05	PH-03	PH-3 3P	裏	-	-	8.8	128	内: 5R2/2 外: 5R4/6 外: 5R2/4	雲母、長石、石英、黒色鉱物粒子が多く混じる	甲斐型裏の底部破片。内外面カキメ調整。底部木葉痕
115 図 06	PH-03	PH-3 一括	灰釉裏	-	-	-	83	内: 2.5S5/1 外: 2.5S5/1	白色鉱物粒子が混じるやや焼成で緻密な胎土	把手付裏の肩部破片。内外面ロクロ調整。裏部上面に自然陥が付着。外面は灰白色の釉面

第3表 土器器観察表

第4表 石器組成表

第4表 石器粗製表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PQ(磨耗度)	備考
7 図 0146	PJ-04	PJ-04	小形石鏟	黒曜石	47.5	12.9	7.4	3.68	4.0	3d	左側縁、右側縁	
7 図 0145	PJ-04	PJ-04	複刃石器	黒曜石	27.6	18.1	6.7	1.53	2.7	A2	無し	
7 図 0156	PJ-04	PT-24	複刃石器	黒曜石	13.2	14.8	10.6	0.90	0.7	A1	無し	
7 図 0157	PJ-04	PT-18	複刃石器	黒曜石	29.0	18.6	14.1	1.56	6.4	C1	無し	
7 図 0327	PJ-04	H-2-24	複刃石器	黒曜石	22.5	10.3	8.1	2.18	1.7	C2	無し	
7 図 0151	PJ-04	PJ-04	複刃石器	石英岩	27.2	14.0	7.2	1.94	2.4	C2	無し	
7 図 0158	PJ-04	DK-46 図 2	小形複製石鏟	Fe-t	40.6	49.8	7.7	0.82	12.2	A1	無し	
7 図 0165	PJ-04	PT-16	中・大型粗製石鏟	頁岩	91.6	43.9	8.8	2.09	33.7	A1	無し	
7 図 0108	PJ-04	PJ-04 23	中・大型粗製石鏟	Fe-t/2a	64.7	82.0	13.3	0.79	50.0	A3	左側縁、右側縁、刃部？(風化?)	
8 図 0109	PJ-04	PJ-04 22	中・大型粗製石鏟	Fe-t/2a	52.0	67.3	11.7	0.77	28.9	A3	無し	
8 図 0116	PJ-04	PJ-04	中・大型粗製石鏟	Fe-t/2a	69.3	44.1	8.4	1.57	20.6	B6	表面：彌み下部	
8 図 0097	PJ-04	PJ-04 21	打製石斧	細粒砂岩	139.3	51.9	20.6	2.68	175.0	BLIRIKUJI	右側縁：上部／正面：上部	
8 図 0099	PJ-04	IG-317	打製石斧	細粒砂岩	117.6	57.6	24.6	2.04	183.0	BLIRIKUJI	無し	
8 図 0101	PJ-04	PJ-04 38	打製石斧	細粒砂岩	147.3	59.0	21.7	2.48	211.0	BLIR(2+3+4) KUJI	左側縁：下部／右側縁：下部／正面	
8 図 0107	PJ-04	IG-095	打製石斧	細粒砂岩	47.1	37.1	13.6	1.27	24.6	BLIRIKUJI	無し	
8 図 0134	PJ-04	PJ-04	打製石斧	細粒砂岩	82.1	49.2	23.2	1.67	101.0	BLIRKUJI	無し	
8 図 0135	PJ-04	PJ-04	打製石斧	細粒砂岩	96.5	50.1	21.0	1.90	90.5	BLIRIKUJI	正面：中央～下部／裏面：中央～下部	
8 図 0172	PJ-04	DK-45 図 1	打製石斧	細粒砂岩	161.1	55.9	29.3	2.88	270.0	BLIRKUJI	左側縁：中央～下部／右側縁：中央～下部／正面：中央～下部／裏面：中央～下部	
8 図 0137	PJ-04	PJ-04	打製石斧	頁岩	90.3	58.6	11.4	1.54	48.1	BLIRIKUJI	左側縁：中央	
8 図 0094	PJ-04	PJ-04 11	打製石斧	Fe-t/2a	107.1	48.7	18.4	2.20	109.0	B(2+3)R KUJI	左側縁：下部／右側縁：下部／正面	
8 図 0095	PJ-04	PJ-04 19	打製石斧	Fe-t/2a	81.2	38.4	8.7	2.12	34.7	BLIRIKUJI	風化が著しく、難解が問題	
8 図 0096	PJ-04	PJ-04 44	打製石斧	Fe-t/2a	74.6	43.4	11.2	1.72	31.4	BLIRIKUJI	無し	
8 図 0131	PJ-04	PJ-04	打製石斧	Fe-t/2a	83.7	51.4	19.2	1.63	102.0	BLIRKUJI	無し	
8 図 0132	PJ-04	PJ-04	打製石斧	Fe-t/2a	77.6	51.3	12.5	1.51	58.0	BLIRIKUJI	無し	
8 図 0133	PJ-04	PJ-04	打製石斧	Fe-t/2a	90.0	43.0	11.8	1.66	42.0	ALIROKUJI	無し	
8 図 0136	PJ-04	PJ-04	打製石斧	Fe-t/2a	58.1	41.0	11.6	1.42	27.4	BLIRIKUJI	正面：下部／裏面：下部	
8 図 0170	PJ-04	DK-46 図 1	打製石斧	Fe-t/2a	109.1	53.7	12.5	2.03	85.3	BLIRKUJI	右側縁：下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部	
8 図 0171	PJ-04	DK-45	打製石斧	Fe-t/2a	100.8	49.8	22.2	2.02	140.0	ALIRIKUJI	正面：上部～中央／裏面：上部～下部	
8 図 0106	PJ-04	PJ-04	打製石斧	粘板岩	25.5	34.1	15.2	0.75	10.2	BLIRIKUJI	無し	
8 図 0110	PJ-04	PJ-04	模刃形石器	細粒砂岩	54.8	50.4	11.8	1.09	27.6	DOR(1+2)	無し	
8 図 0112	PJ-04	PJ-04	模刃形石器	細粒砂岩	58.3	100.9	14.8	0.58	78.7	DOR(1+2)	無し	
8 図 0113	PJ-04	PJ-04	模刃形石器	細粒砂岩	47.4	86.0	10.9	0.55	45.0	DOR(2+3)	無し	
8 図 0161	PJ-04	DK-46	模刃形石器	細粒砂岩	43.6	73.7	8.6	0.59	22.7	DOR	無し	
8 図 0173	PJ-04	DK-45	模刃形石器	細粒砂岩	46.9	96.5	14.8	0.49	65.7	DOR	無し	
8 図 0176	PJ-04	PT-45	模刃形石器	細粒砂岩	72.8	123.2	18.6	0.59	135.0	DOR	無し	
8 図 0104	PJ-04	PJ-04 20	模刃形石器	頁岩	45.8	122.2	13.2	0.37	43.8	DOR(2+3)	正面：下端／裏面：下端	
8 図 0324	PJ-04	H-2-22	模刃形石器	頁岩	59.4	83.2	12.1	0.71	53.7	DOR	無し	
8 図 0159	PJ-04	DK-46	模刃形石器	Fe-t/2a	44.0	91.8	10.8	0.40	46.6	DOR	無し	
8 図 0178	PJ-04	PT-45	鍛造石器	頁岩	48.2	127.8	14.8	0.38	75.0	A	無し	
8 図 0149-A	PJ-04	PJ-04	小形二次的剝離のある剥片	黒曜石	31.7	40.5	10.0	0.78	7.5	無し		
8 図 0149-B	PJ-04	PJ-04	小形不規則剝離のある剥片	黒曜石	19.4	19.0	5.2	1.02	1.6	無し		
8 図 0105	PJ-04	PJ-04 16	中・大型二次的剝離のある剥片	細粒砂岩	75.3	71.3	29.3	1.06	182.0	無し		
8 図 0139	PJ-04	PJ-04	中・大型二次的剝離のある剥片	頁岩	60.6	31.2	9.9	1.94	19.5	無し		
8 図 0160	PJ-04	DK-46	中・大型二次的剝離のある剥片	頁岩	54.4	70.7	14.2	0.77	43.4	無し		
8 図 0141	PJ-04	PJ-04	中・大型二次的剝離のある剥片	Fe-t/2a	88.9	62.0	11.0	1.43	70.7	無し		
8 図 0177-A+B	PJ-04	PT-72	中・大型不規則剝離のある剥片	細粒砂岩	61.8	102.3	29.3	0.60	118.0	無し		
8 図 0115	PJ-04	PJ-04	中・大型不規則剝離のある剥片	細粒砂岩	50.1	50.7	11.3	0.99	24.3	無し		

第 5 表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
8 図 0174	PJ-04	DK-46 図5	中・大型不規則削 離のあらわし剥片	細粒砂岩	84.4	90.8	25.1	0.90	180.0	無し		
8 図 0177-A	PJ-04	PT-72	中・大型不規則削 離のあらわし剥片	細粒砂岩	84.2	69.6	24.9	0.92	105.2	無し		PJ-04 の 177-B と接合
8 図 0138	PJ-04	PJ-04	中・大型不規則削 離のあらわし剥片	頁岩	88.0	48.3	18.9	1.82	89.9	無し		
8 図 0114	PJ-04	PJ-04	中・大型不規則削 離のあらわし剥片	粘土質頁岩	49.5	51.6	10.7	0.96	26.5	右側縫		
8 図 0111	PJ-04	PJ-04	流れをうつ削離の あらわし剥片	細粒砂岩	62.2	65.4	18.0	0.95	76.9	末端		
10 図 0035	PJ-05	PJ-05	石窓	黒曜石	14.5	14.1	4.1	1.03	0.5	4M1F-5	無し	
10 図 0036	PJ-05	PJ-05	複形石器	黒曜石	17.2	11.5	4.5	1.50	0.6	A1	無し	
10 図 0037	PJ-05	PJ-05	複形石器	黒曜石	24.8	15.1	5.3	1.64	1.2	C1	無し	
10 図 0038	PJ-05	PJ-05	複形石器	黒曜石	22.2	14.5	6.6	1.32	1.7	B1	無し	
10 図 0039	PJ-05	PJ-05	複形石器	黒曜石	14.6	12.4	5.8	1.17	0.8	A1	無し	
10 図 0040	PJ-05	PJ-05	複形石器	黒曜石	15.6	16.8	5.6	0.90	1.1	A1	無し	
10 図 0041-B	PJ-05	PJ-05	小形石器	黒曜石	35.6	18.5	9.1	1.86	4.7	無し		
10 図 0030	PJ-05	PJ-05	中・大型組製石器	粘土質頁岩	38.7	60.0	6.7	0.65	13.0	A3	無し	
10 図 0222	PJ-05	PJ-05 01	打製石斧	粘土質頁岩	97.4	33.3	16.8	2.92	59.0	ALIR02+2IKU1	左側縫：中央～下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部	
10 図 0018	PJ-05	PJ-05 21	打製石斧	細粒砂岩	112.6	50.9	16.8	2.21	109.0	BLIR0K1J2	左側縫：下部／右側縫：下部／正面：上部／裏面：下部	
10 図 0019	PJ-05	PJ-05 15	打製石斧	細粒砂岩	131.2	52.8	15.3	2.49	129.0	BLIR0K1J1	無し	
10 図 0020	PJ-05	PJ-05 06	打製石斧	細粒砂岩	41.7	67.8	14.6	0.85	60.0	DLIR0K1J1	正面：下部？／裏面：下部？	
10 図 0021	PJ-05	PJ-05 25	打製石斧	細粒砂岩	52.8	55.3	12.8	0.95	48.0	ALIR0K1J1	正面：下部？／裏面：下部？	
10 図 0034	PJ-05	PJ-05 29	打製石斧	細粒砂岩	121.4	45.3	18.2	2.68	129.0	ALIR0K1J1	正面：上部～下部／裏面：上部～下部	
10 図 0017	PJ-05	PJ-05 07	打製石斧	細粒砂岩	132.7	47.9	24.5	2.79	197.0	BLIR0K1J1	左側縫：中央～下部／右側縫：中央～下部／正面：裏面：中央～下部	
10 図 0009	PJ-05	PJ-05	打製石斧	頁岩	45.7	40.4	18.1	1.13	47.0	BLIR0K1J1	正面：上部	
10 図 0010	PJ-05	PJ-05	打製石斧	頁岩	84.6	45.9	12.5	1.84	54.0	BLIR0K1J1	右側縫：下部／右側縫：下部／正面：中央／裏面：上部、下部	
10 図 0011	PJ-05	PJ-05 30	打製石斧	頁岩	101.7	55.5	13.5	1.83	103.0	BLIR0K1J1	正面：中央／裏面：中央	
10 図 0012	PJ-05	PJ-05 02	打製石斧	頁岩	86.1	36.2	11.1	2.38	41.0	BLIR0K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
10 図 0005	PJ-05	PJ-05 26	打製石斧	粘土質頁岩	102.0	48.7	11.3	2.08	65.0	DLIR0K1J1	無し	
10 図 0006	PJ-05	PJ-05 24	打製石斧	粘土質頁岩	128.7	58.9	21.2	2.19	202.0	BLIR0K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
10 図 0007	PJ-05	PJ-05 03	打製石斧	粘土質頁岩	97.8	40.2	15.7	2.43	74.0	BL(2+3+4)K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
10 図 0008	PJ-05	PJ-05 14	打製石斧	粘土質頁岩	114.8	44.3	12.5	2.59	78.0	BLIR0K1J1	正面：下部／裏面：下部	
10 図 0014	PJ-05	PJ-05 14	打製石斧	粘土質頁岩	82.8	25.5	15.1	2.33	53.9	ALIR0K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
10 図 0003	PJ-05	PJ-05 08	打製石斧	粘土質頁岩	88.3	48.8	12.2	1.81	58.0	ALIR0K1J1	無し	
10 図 0015	PJ-05	PJ-05 22	打製石斧	粘土質頁岩	90.5	60.5	16.0	1.50	106.0	ALIR0K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
10 図 0028	PJ-05	PJ-05 19	複形石器	細粒砂岩	47.1	74.2	10.5	0.86	36.0	0300	無し	
10 図 0025	PJ-05	PJ-05	複形石器	頁岩	51.6	98.7	11.0	0.52	67.9	0202	無し	
10 図 0034	PJ-05	PJ-05	複形石器	粘土質頁岩	58.8	46.8	14.2	1.25	34.0	0002	無し	
10 図 0027	PJ-05	PJ-05	複形石器	粘土質頁岩	35.7	61.9	5.9	0.58	13.0	0202	無し	
10 図 0028	PJ-05	PJ-05 31	側縫石器	安山岩	76.4	67.9	24.5	1.16	214.0	無し		
10 図 0043	PJ-05	PJ-05	小形不規則削離の あらわし剥片	黒曜石	30.0	22.0	11.7	1.37	5.2	無し		石核素材
10 図 0016	PJ-05	PJ-05 23	中・大型不規則削 離のあらわし剥片	細粒砂岩	53.7	91.6	14.1	0.59	50.0	無し		打製石斧の調整削片素材
12 図 0275	PJ-06	H-3-6	石窓	黒曜石	21.7	17.4	3.5	1.25	0.8	2020f1-fb	無し	
12 図 0211	PJ-06	DK-47	複形石器	黒曜石	16.8	11.2	4.5	1.53	0.5	B1	無し	
12 図 0218	PJ-06	PT-29	複形石器	黒曜石	16.9	16.1	3.8	1.05	0.8	A1	無し	
12 図 0253-A	PJ-06	H-3-9	複形石器	黒曜石	28.0	11.6	9.0	2.41	2.7	C1	無し	
12 図 0265-A	PJ-06	H-3-14	複形石器	黒曜石	21.4	14.7	7.0	1.46	1.8	B1	無し	
12 図 0265-B	PJ-06	H-3-14	複形石器	黒曜石	22.8	9.9	6.9	2.29	1.6	A1	無し	
12 図 0154	PJ-06	PJ-04 09	小形粗製石器	石英岩	71.5	40.2	10.6	1.76	32.5	A1	無し	
12 図 0207	PJ-06	PJ-04 28	中・大型粗製石器	細粒砂岩	107.5	43.6	14.5	2.46	59.6	A2	無し	
12 図 0072	PJ-06	PJ-06 09	中・大型粗製石器	細粒砂岩	80.2	40.1	13.7	2.00	30.0	A1	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編成 道模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PO(磨耗度)	備考	
12 図 0262	PJ-06	H-3-14	中・大形粗石器	鶴見砂岩	76.2	71.7	10.7	1.06	46.7	A2	無し		
12 図 0103	PJ-06	PJ-04 12	打製石斧	緑色岩	96.0	26.2	13.3	3.29	41.1	ALIRIKUJI	左側縁：上部、下部／右側縁：上部、下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部		
12 図 0098	PJ-06	PJ-04 27	打製石斧	鶴見砂岩	118.5	53.8	13.8	2.20	103.0	ALIRIKUJI	左側縁：中央～下部／右側縁：中央～下部／正面：中央～下部	抉りあり	
12 図 0100	PJ-06	PJ-04 4	打製石斧	鶴見砂岩	96.0	48.3	14.7	1.99	70.2	BLIRIKUJI	正面：上部～下部／裏面：上部～下部		
12 図 0102	PJ-06	PJ-04 24	打製石斧	鶴見砂岩	58.2	39.7	17.8	1.47	54.7	BLIRIKUJI	正面：上部／裏面：上部		
12 図 0070	PJ-06	PJ-06 09	打製石斧	鶴見砂岩	45.8	51.6	13.7	0.88	33.0	BLIRIKUJI	無し		
12 図 0190	PJ-06	PJ-04 14	打製石斧	鶴見砂岩	133.6	50.8	24.0	2.64	196.0	ALIRIKUJI	左側縁：上部、下部／右側縁：上部、下部／正面：上部～下部／裏面：下部		
12 図 0191	PJ-06	PJ-04 27	打製石斧	鶴見砂岩	143.7	61.9	16.0	2.22	180.0	ALIRIKUJI	無し		
13 図 0192	PJ-06	PJ-04 32	打製石斧	鶴見砂岩	130.4	52.9	15.6	2.46	130.0	BLO + 4RIKUJI	左側縁：下部／右側縁：上部～下部／正面：上部～下部／裏面：下部		
13 図 0193	PJ-06	PJ-04 33	打製石斧	鶴見砂岩	80.0	51.3	16.4	1.56	72.0	BLO + 4RIKUJI	左側縁：中央～下部／右側縁：下部／正面：中央～下部／裏面：中央～下部		
13 図 0197	PJ-06	PJ-04 34	打製石斧	鶴見砂岩	88.3	59.5	18.8	1.48	84.8	BLIRIKUJI	左側縁：下部／右側縁：下部／裏面：下部		
13 図 0213	PJ-06	PJ-07	IT-17	打製石斧	鶴見砂岩	107.5	54.2	16.9	1.96	123.0	BLIRIKUJI	右側縁：中央～下部／正面：上部～下部	
13 図 0260	PJ-06	H-3-14	打製石斧	鶴見砂岩	61.5	41.9	19.2	1.47	53.9	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0270	PJ-06	H-3-0	打製石斧	鶴見砂岩	77.9	51.4	16.6	1.52	67.6	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0281	PJ-06	H-3-7	打製石斧	鶴見砂岩	47.3	53.0	9.3	0.89	30.2	BLIRIKUJI	正面：上部／裏面：上部		
13 図 0153	PJ-06	PJ-04 02	打製石斧	頁岩	72.9	56.4	13.1	1.29	79.5	ALIRIKUJI	左側縁：下部／右側縁：下部／正面：下部／裏面：下部		
13 図 0071	PJ-06	PJ-06 19	打製石斧	頁岩	131.5	54.1	23.1	2.43	160.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0189	PJ-06	PJ-04 15	打製石斧	頁岩	120.6	51.9	25.2	2.32	182.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0195	PJ-06	PJ-04 18	打製石斧	頁岩	82.9	50.2	14.9	1.67	58.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0196	PJ-06	PJ-04 06	打製石斧	頁岩	87.9	58.7	12.8	1.50	71.3	BLIRIKUJI	右側縁：上部／正面：上部～下部	裏面基部中央に流れを作り刻離あり	
13 図 0199	PJ-06	PJ-04 07	打製石斧	頁岩	118.4	58.5	17.2	2.02	118.0	BLIRIKUJI	左側縁：下部／右側縁：下部／正面：中央～下部／裏面：中央～下部		
13 図 0209	PJ-06	DK-47 1	打製石斧	頁岩	89.5	45.7	16.6	1.96	82.1	ALIRIKUJI	正面：下部／裏面：下部		
13 図 0269	PJ-06	H-3-3	打製石斧	頁岩	64.9	26.1	12.8	2.31	33.5	BLIRIKUJI	左側縁：上部～中央／右側縁：上部～中央／正面：上部～中央／裏面：上部～中央		
13 図 0329	PJ-06	H-3-14	打製石斧	頁岩	70.6	48.6	14.5	1.45	57.5	BLIRIKUJI	正面：上部？		
13 図 0065	PJ-06	PJ-05 11	打製石斧	鶴見砂岩	109.5	66.3	18.7	1.65	123.0	BLIRIKUJI	風化が著しく、観察が困難		
13 図 0066	PJ-06	PJ-06 10	打製石斧	鶴見砂岩	83.0	51.1	12.6	1.62	69.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0069	PJ-06	PJ-06 03	打製石斧	鶴見砂岩	127.1	47.7	15.4	2.66	110.0	ALIRIKUJI	風化が著しく、観察が困難		
13 図 0083	PJ-06	PJ-06	IT-17	打製石斧	鶴見砂岩	42.6	47.4	15.3	0.90	40.0	BLIRIKUJI	無し	
13 図 0187	PJ-06	PJ-04 26	打製石斧	鶴見砂岩	122.7	42.2	12.5	2.91	72.5	ALIRIKUJI	正面：上部～下部？		
13 図 0268	PJ-06	H-3-3	打製石斧	鶴見砂岩	74.1	29.9	16.2	2.48	36.4	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0067	PJ-06	PJ-06 09	打製石斧	鶴見砂岩	62.2	47.5	18.6	1.31	64.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0068	PJ-06	PJ-06 16	打製石斧	鶴見砂岩	87.5	55.5	18.9	1.47	67.0	BLIRIKUJI	風化が著しく、観察が困難		
13 図 0080	PJ-06	PJ-06	IT-17	打製石斧	鶴見砂岩	63.7	62.8	21.4	1.01	72.0	BLIRIKUJI	無し	
13 図 0081	PJ-06	PJ-06	IT-17	打製石斧	鶴見砂岩	85.0	44.6	12.4	1.91	62.0	BLIRIKUJI	正面：下部？／裏面：下部？	
13 図 0094	PJ-06	PJ-06	IT-17	打製石斧	鶴見砂岩	65.4	44.3	17.6	1.48	63.0	BLIRIKUJI	右側縁：中央／正面：中央	
13 図 0188	PJ-06	PJ-04 35	打製石斧	鶴見砂岩	157.8	66.0	20.3	2.39	190.0	BLIRIKUJI	無し		
13 図 0196	PJ-06	PJ-04 13	打製石斧	鶴見砂岩	108.6	54.0	20.2	2.01	140.0	BLIRIKUJI	伴生全画面？風化？		
13 図 0271	PJ-06	H-3-3	打製石斧	鶴見砂岩	82.9	50.7	19.6	1.65	88.1	ALIRIKUJI	風化が著しく、観察が困難		
14 図 0194	PJ-06	PJ-04 31	模刃形石器	鶴見砂岩	44.7	96.7	22.4	0.46	91.0	D0E	無し		
14 図 0200	PJ-06	PJ-04 17	模刃形石器	鶴見砂岩	51.8	97.7	13.1	0.53	30.0	D0E	無し		
14 図 0201	PJ-06	PJ-04 36	模刃形石器	鶴見砂岩	52.7	94.4	13.9	0.56	73.2	D0E	無し		
14 図 0202	PJ-06	PJ-04 03	模刃形石器	鶴見砂岩	58.3	76.1	15.6	0.75	50.1	D0E	無し		
14 図 0204	PJ-06	PJ-04 30	模刃形石器	鶴見砂岩	108.5	156.8	12.1	0.69	64.0	D0E(1+2)	無し		
14 図 0255-A	PJ-06	H-3-9	模刃形石器	鶴見砂岩	44.8	65.0	11.3	0.69	30.1	D0E	無し		
14 図 0272	PJ-06	H-3-3	模刃形石器	鶴見砂岩	40.2	46.8	10.9	0.86	24.9	D0E	無し		
14 図 0079	PJ-06	PJ-06	模刃形石器	鶴見砂岩 安山岩	44.3	68.1	9.7	0.65	23.0	D0E	無し		

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 造模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考	
14 図 0062	PJ-06		横刃形石器	粘板岩	50.1	38.1	8.5	1.31	20.0	0062	無し	打製石斧の調整削片素材	
14 図 0077	PJ-06		横刃形石器	粘板岩	62.8	99.3	23.7	0.63	161.0	0062	無し		
14 図 0203	PJ-06	PJ-04 08	横刃形石器	粘板岩	46.6	126.7	11.2	0.53	114.0	006(I+2)	無し		
14 図 0257	PJ-06	H-3-9	横刃形石器	粘板岩	39.5	57.8	9.1	0.68	19.9	006(I+2)	無し		
14 図 0073	PJ-06	PJ-06 01	横削形石器	細粒砂岩	51.7	108.6	16.9	0.48	90.0	A	正面・下端・裏面・下端		
14 図 0065	PJ-06	PJ-06	絆石	細粒砂岩	71.7	65.1	18.6	1.10	143.0		無し		
14 図 0334	PJ-06	H-3-9	絆石	安山岩	63.1	54.3	17.9	1.16	81.5		無し		
14 図 0217	PJ-06	PT-029	側縫石器	安山岩	44.4	42.3	14.0	1.05	41.5		正面・全面(少し傾り上がっている箇所のみ)		
14 図 0267	PJ-06	H-3-9	側縫石器	安山岩	51.3	49.4	9.9	1.04	22.3		無し		
14 図 0152	PJ-06	PJ-04 25	小形二次的剝離のある剝片	墨岩	16.9	20.5	5.6	0.82	1.6		無し		
14 図 0092	PJ-06	PJ-06 19	小形不規則剝離のある剝片	墨岩	23.6	23.7	5.5	1.00	1.8		無し		
14 図 0253-B	PJ-06	H-3-9	小形不規則剝離のある剝片	墨岩	12.1	14.9	4.3	0.81	0.6		無し		
14 図 0280	PJ-06	H-3-6	小形不規則剝離のある剝片	墨岩	21.9	10.6	4.1	2.07	0.7		無し		
14 図 0259	PJ-06	H-3-14	中・大形二次的剝離のある剝片	頁岩	36.0	47.1	11.7	0.76	15.8		無し		
14 図 0076	PJ-06	PJ-06	中・大形不規則剝離のある剝片	細粒砂岩	58.3	51.2	10.1	1.14	22.0		無し		
14 図 0205	PJ-06	PJ-04 10	中・大形不規則剝離のある剝片	細粒砂岩	92.8	85.0	16.2	1.09	109.0		無し		
14 図 0255-B	PJ-06	H-3-9	中・大形不規則剝離のある剝片	細粒砂岩	40.1	50.7	12.4	0.79	22.2		無し		
14 図 0078	PJ-06	PJ-06	中・大形不規則剝離のある剝片	粘板岩	57.4	37.1	11.8	1.55	26.0		無し		
14 図 0252	PJ-06	H-3-9	まれをうら剝離のある剝片	頁岩	68.5	72.2	18.8	0.95	96.7		無し		
16 国 0418	PJ-07	DK-059	楔形石器	墨岩	17.6	16.7	9.9	0.94	2.8	C1	無し		
16 国 0410	PJ-07	PT-047	中・大型組製石器	細粒砂岩	91.0	43.1	10.5	2.11	42.6	A1	無し		
16 国 0422	PJ-07	DK-059	中・大型組製石器	粘板岩	52.6	65.3	9.0	0.81	34.6	A3	無し		
16 国 0437	PJ-07	PJ-07 18	中・大型組製石器	粘板岩	123.1	76.7	17.3	1.61	129.0	A2	風化が激しく、経験が困難		
16 国 0412	PJ-07	PT-058	打製石斧	頁岩	65.0	33.8	10.0	1.97	24.0	BLIR(KO)JI	右側縫：上部～中央 / 右側縫：上部～下部		
16 国 0421	PJ-07	DK-059	打製石斧	頁岩	95.9	42.6	18.3	2.25	87.7	DLIR(KO)JI	無し		
16 国 0423	PJ-07	DK-061	打製石斧	細粒砂岩	66.9	55.5	14.2	1.21	50.0	ALIR(KO)JI	無し		
17 国 0425	PJ-07	IG-267	打製石斧	細粒砂岩	119.8	55.2	19.5	2.17	168.0	BLIR(KO)JI	左側縫：下部 / 中央～下部 / 細縫：中央～下部		
17 国 0426	PJ-07	IG-274	打製石斧	粘板岩	90.3	49.8	15.7	1.81	79.8	BLIR(KO)JI	(注)正面		
17 国 0427	PJ-07	打製石斧	粘板岩	80.7	43.6	18.4	1.83	80.1	NLIR(KO)JI	無し			
17 国 0433	PJ-07	打製石斧	粘板岩	75.6	46.0	15.1	1.64	52.1	BLIR(KO)JI	無し			
17 国 0435	PJ-07	PJ-07 16	打製石斧	粘板岩	87.6	37.7	17.9	2.32	81.5	DK-059	左側縫：上部～中央？ / 右側縫：上部～中央 / 細縫：上部～中央？ / 細縫：上部～中央？		
17 国 0436	PJ-07	PJ-07 17	打製石斧	粘板岩	96.5	57.2	12.0	1.69	72.0	BLIR(KO)JI	無し		
17 国 0428	PJ-07	横刃形石器	細粒砂岩	62.9	99.9	11.5	0.63	75.0	0062	無し			
17 国 0438	PJ-07	DK-059	PJ-07 19	横刃形石器	細粒砂岩	81.8	66.1	33.5	1.20	145.0	0062	未端	
17 国 0406	PJ-07	PT-038	横刃形石器	粘板岩	53.3	91.4	10.6	0.58	37.7	0062	無し		
17 国 0434	PJ-07	PJ-07	横刃形石器	粘板岩	33.6	55.8	8.9	0.60	16.7	0061	無し	打製石斧の調整削片素材	
17 国 0445	PJ-07	PJ-07 42	横刃形石器	粘板岩	66.5	99.3	8.0	0.67	52.9	0062	無し		
17 国 0542	PJ-07	G-3-18	横刃形石器	粘板岩	69.9	114.1	19.7	0.61	142.0	0062	無し		
17 国 0441	PJ-07	PJ-07 26	横刃形石器	粘板岩	56.8	120.4	11.7	0.47	36.3	0062	無し		
17 国 0544	PJ-07	G-3-18	中・大形二次的剝離のある剝片	頁岩	46.1	38.6	6.0	1.19	13.2		無し		
17 国 0415	PJ-07	DK-059	中・大形二次的剝離のある剝片	粘板岩	99.8	86.7	24.7	1.15	240.0		無し		
17 国 0420	PJ-07	DK-059	中・大形不規則剝離のある剝片	粘板岩	60.7	48.3	6.5	1.26	21.0		無し		

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考	
17 図 0404-A PT-08	PT-07 PT-08	小粒不規則刮削の ある鉄片	黒曜石	17.5	12.5	3.5	1.40	0.5		無し			
17 図 0404-B PT-08	PT-07 PT-08	小粒不規則刮削の ある鉄片	黒曜石	16.3	11.7	4.3	1.39	0.6		無し			
17 図 0404-C PT-08	PT-07	小粒不規則刮削の ある鉄片	黒曜石	16.3	13.0	3.2	1.25	0.4		無し			
17 図 0540	PT-07	G-3-17	小粒不規則刮削の ある鉄片	黒曜石	20.8	18.4	5.1	1.13	1.3		無し		
19 図 0636	PJ-09	石鏃形製品	黒曜石	22.7	21.9	3.1	1.49	1.4	4651-2b	無し			
19 図 1153	PJ-09	F-3-3	複数石器	珪質岩	23.1	26.9	9.2	0.86	5.9	上：下：A1/左： 右：G2	無し		
19 図 0630 PT-10	PJ-09 PT-10	複数石器	黒曜石	13.9	14.9	4.3	0.93	0.7	上：下：C1/左： 右：C1	無し			
19 図 1111	PJ-09	F-2-22	複数石器	黒曜石	21.4	20.4	8.0	1.05	2.7	B1	無し		
19 図 1154	PJ-09	F-3-3	複数石器	黒曜石	15.1	9.4	2.7	1.61	0.4	C1	無し		
19 図 1107	PJ-09	F-2-22	中・大形粗粒石器	細粒砂岩	45.0	63.3	12.4	0.72	29.4	A1	無し		
19 図 0659	PJ-09	I-G-45b	打製石器	頁岩	90.3	37.0	15.7	2.44	66.8	BLIRKUJ1	無し	右側縫再生	
19 図 0643	PJ-09	PJ-09	打製石器	頁岩	53.2	31.7	8.7	1.68	17.0	BLIRKUJ1	無し		
19 図 0655	PJ-09	PJ-09	打製石器	頁岩	52.7	43.6	15.0	1.21	44.3	BLIRKUJ1	風化が著しく、観察が困難		
19 図 1062	PJ-09	F-2-17	打製石器	頁岩	95.3	42.6	15.5	2.24	61.6	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1108	PJ-09	F-2-22	打製石器	頁岩	73.8	54.1	9.6	1.36	40.2	BLIRKUJ1	風化が著しく、観察が困難		
20 国 1116	PJ-09	F-2-23	打製石器	頁岩	75.3	45.7	14.0	1.65	55.6	BLIRKUJ1	風化が著しく、観察が困難		
20 国 1117	PJ-09	F-2-23	打製石器	頁岩	77.0	46.4	14.2	1.66	57.8	BLIRKUJ1	表面：中央/裏面：中央		
20 国 1144	PJ-09	F-3-3	打製石器	頁岩	55.5	35.2	10.0	1.58	25.7	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1127	PJ-09	F-3-1	打製石器	頁岩	58.2	47.5	14.3	1.23	38.6	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1132	PJ-09	F-3-1	打製石器	頁岩	59.7	46.7	16.2	1.28	55.1	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1133	PJ-09	F-3-1	打製石器	頁岩	44.7	29.5	8.1	1.51	12.1	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1135	PJ-09	F-3-1	打製石器	頁岩	48.6	15.0	9.6	3.25	7.4	BLIRKUJ1	無し		
20 国 0632	PJ-09	I-G-42b	打製石器	細粒砂岩	153.1	59.5	22.4	2.57	231.0	BLIRKUJ1	表面：上部～下部		
20 国 1104	PJ-09	F-2-22	打製石器	細粒砂岩	73.3	50.7	10.4	1.45	51.8	BLIRKUJ1	正面：下部/裏面：下部		
20 国 1113	PJ-09	F-2-22	打製石器	砂岩	40.4	46.0	13.2	0.88	21.4	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1148	PJ-09	F-3-3	打製石器	砂岩	112.0	58.4	29.1	1.92	184.4	B1.2 + 3 + 4/ B2 + 4KUJ1	無し		
20 国 1149	PJ-09	F-3-3	打製石器	砂岩	96.4	41.2	21.2	2.10	94.1	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1128	PJ-09	F-3-1	打製石器	砂岩	80.6	49.6	23.9	1.22	76.4	BLIRKUJ1	右側縫：上部/正面：上部/裏面：上部	左側縫再生	
20 国 1098	PJ-09	F-2-21	打製石器	砂岩	110.0	50.1	21.4	2.19	105.0	BLIRKUJ1	左側縫：中央～下部/右側縫：下部/ 正面：下部/裏面：下部		
20 国 0640	PJ-09	I-G-42	打製石器	砂岩	88.9	51.6	15.3	1.68	72.7	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1151	PJ-09	F-3-3	打製石器	砂岩	112.1	51.8	14.8	1.52	70.3	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1063	PJ-09	F-2-17	打製石器	細粒砂岩	43.2	57.7	16.2	0.75	41.1	BLIRKUJ1	無し		
20 国 1109	PJ-09	F-2-22	打製石器	細粒砂岩	57.5	42.2	17.9	1.36	54.8	ALIRKUJ1	無し		
20 国 0650	PJ-09	PJ-09	横刃形石器	頁岩	49.2	64.1	11.2	0.77	34.2	D0R	無し		
20 国 1150	PJ-09	F-3-3	横刃形石器	頁岩	42.6	41.2	9.2	1.03	17.3	D0R	無し		
20 国 1130	PJ-09	F-3-1	横刃形石器	頁岩	70.9	105.5	19.5	0.67	144.0	D0R	無し		
20 国 0655	PJ-09	I-G-53	横刃形石器	細粒砂岩	49.4	63.9	27.4	0.77	88.6	D0R	無し		
20 国 0649	PJ-09	PJ-09	横刃形石器	細粒砂岩	50.5	68.2	9.4	0.74	36.7	D0R	無し		
20 国 1120	PJ-09	F-2-23	横刃形石器	細粒砂岩	47.9	74.9	14.9	0.64	52.6	D0R	無し		
20 国 1099	PJ-09	F-2-21	横刃形石器	細粒砂岩	57.3	117.3	13.9	0.49	65.7	D0R	無し		
20 国 1129	PJ-09	F-3-1	横刃形石器	砂岩	39.5	79.6	10.6	0.50	28.2	D0R	無し		
20 国 0633	PJ-09	I-G-52	横刃形石器	頁岩	80.6	63.7	12.6	0.95	55.3	D0R	無し		
20 国 0641	PJ-09	PJ-09	横刃形石器	頁岩	40.8	57.8	8.0	0.71	19.0	D0R	無し		
20 国 1145	PJ-09	F-3-3	横刃形石器	頁岩	52.2	71.9	20.0	0.73	70.6	D0R	無し		
20 国 0634	PJ-09	PJ-11	16	縦刃形石器	頁岩	70.1	80.0	10.3	0.88	54.5	A	無し	
20 国 1131	PJ-09	F-3-1	側縫石器	頁岩	63.8	84.3	17.4	0.76	113.0		正面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）/裏面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）		
20 国 1134	PJ-09	F-3-1	側縫石器	頁岩	42.9	61.0	7.4	0.70	22.0		正面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）/裏面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）		
20 国 1096	PJ-09	F-2-21	側縫石器	頁岩	76.1	46.0	20.4	1.70	76.2		無し		

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 造模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
20 図 1147	FJ-09	F-3-3	側縫石器	粘板岩	粘板岩	70.3	49.3	21.3	1.49	96.2	無し	
20 図 1119	FJ-09	F-2-23	中・大形二次的剖離のあら片	頁岩	頁岩	69.9	51.5	8.1	1.36	30.7	無し	
20 図 1152	FJ-09	F-3-3	中・大形二次的剖離のあら片	頁岩	頁岩	63.8	55.9	14.4	1.14	46.2	無し	
20 図 1097	FJ-09	F-2-21	中・大形二次的剖離のあら片	砂岩	砂岩	59.8	53.5	14.6	1.12	62.6	無し	
21 図 1064	FJ-09	F-2-17	中・大形二次的剖離のあら片	粘板岩	粘板岩	78.6	38.1	13.9	2.06	37.4	無し	
21 図 1140	FJ-09	F-3-2	中・大形二次的剖離のあら片	粘板岩	粘板岩	122.5	62.5	27.8	1.96	183.0	無し	
21 図 1155	FJ-09	F-3-3	小形不規則剖離のあら片	黒曜石	黒曜石	13.2	17.7	6.5	0.74	1.1	無し	
21 図 1126	FJ-09	F-3-1	小形不規則剖離のあら片	黒曜石	黒曜石	20.4	21.0	9.4	0.97	1.3	無し	
21 図 0653	FJ-09	FJ-09 底下 19	中・大形不規則剖離のあら片	頁岩	頁岩	66.2	48.1	15.5	1.38	56.9	無し	
21 図 1093	FJ-09	F-2-21	中・大形不規則剖離のあら片	粘板岩	粘板岩	67.0	59.0	8.2	1.14	35.2	無し	
21 図 1100	FJ-09	F-2-21	中・大形不規則剖離のあら片	粘板岩	粘板岩	52.9	49.5	9.9	1.07	26.8	無し	
21 図 1094	FJ-09	F-2-21	中・大形不規則剖離のあら片	綠色岩	綠色岩	34.1	15.9	2.82	47.5		正面、左半分、右側縫上部／裏面 右半分	打製石斧用
21 図 1095	FJ-09	F-3-21	流れを伴う剖離のあら片	細粒砂岩	細粒砂岩	71.1	73.4	16.0	1.32	92.6	無し	
24 図 0636	FJ-10	10-430	小形精製石器	粘質頁岩	粘質頁岩	50.2	48.2	8.4	1.04	11.9	A3	正面、刃部／裏面、刃部
24 図 0621	FJ-10 PT-70	PT-70 3	中・大型粗製石器	頁岩	頁岩	81.0	46.3	9.1	1.75	35.8	A1	無し
24 図 0637	FJ-10	PT-10 16	中・大型粗製石器	頁岩	頁岩	120.0	68.7	19.0	1.75	112.0	A1	無し
25 図 0816	FJ-10	PT-10	板形石器	黒曜石	黒曜石	25.8	13.0	7.7	1.96	2.3	B1	無し
25 図 0825	FJ-10 PT-83	PT-83	板形石器	黒曜石	黒曜石	18.6	16.4	4.9	1.14	1.0	C1	無し
25 図 0639	FJ-10 PT-96	PT-96 横 2	中・大形石錐	頁岩	頁岩	112.3	58.1	15.4	1.93	96.7	2a	側縫～末端（錐部先端）
25 図 0620	FJ-10 PT-70	PT-70 1	打製石斧	頁岩	頁岩	67.7	34.3	8.2	1.96	22.5	BLIRIKIJI	無し
25 図 0624	FJ-10 PT-90	PT-90	打製石斧	頁岩	頁岩	137.6	52.7	25.7	2.61	213.0	BLIRIKIJI	無し
25 図 0634	FJ-10 PT-10 14	PT-10 14	打製石斧	頁岩	頁岩	67.9	47.2	12.6	1.44	45.6	BLIRIKIJI	風化が著しく、觀察が困難
25 図 0642	FJ-10	PT-10	打製石斧	頁岩	頁岩	47.5	29.7	12.2	1.20	31.6	ALIRIKIJI	風化が著しく、觀察が困難
25 図 1190	FJ-10	F-3-8	打製石斧	頁岩	頁岩	84.3	62.2	33.9	1.36	165.0	BLIRIKIJI	無し
25 図 1191	FJ-10	F-3-8	打製石斧	頁岩	頁岩	108.4	37.1	13.0	3.02	46.2	BLIRIKIJI	正面、下部／裏面、中央～下部
25 図 1188	FJ-10	F-3-8	打製石斧	細粒砂岩	細粒砂岩	79.9	57.8	28.9	1.36	122.0	BLIRIKIJI	無し
25 図 1196	FJ-10	F-3-8	打製石斧	細粒砂岩	細粒砂岩	74.4	46.3	8.1	1.61	25.5	BLIRIKIJI	無し
25 図 1197	FJ-10	F-3-8	打製石斧	細粒砂岩	細粒砂岩	61.6	48.7	11.8	1.26	44.4	BLIRIKIJI	無し
25 図 0613	FJ-10	PT-10	打製石斧	粘板岩	粘板岩	99.1	39.1	17.6	2.54	74.8	BLIRIKIJI	風化が著しく、觀察が困難
25 図 0614	FJ-10	PT-10	打製石斧	粘板岩	粘板岩	99.3	45.8	10.7	2.17	49.9	BLIRIKIJI	正面、上部～下部／裏面、下部
25 図 0633	FJ-10	PT-10 23	機刃朴石器	粘板岩	粘板岩	42.4	91.6	10.6	0.45	43.9	DMH(1+2)	無し
25 図 0612	FJ-10	PT-10	機刃朴石器	粘板岩	粘板岩	69.1	107.3	15.3	0.64	104.0	DMH(1+2)	無し
25 図 0810	FJ-10	PT-10	側縫石器	泥岩	泥岩	55.2	47.2	15.9	1.17	56.6		正面、全面（少し盛り上がりでいる箇所のみ）/裏面、全面（少し盛り上がりでいる箇所のみ）
25 図 0631	FJ-10	FJ-10 斧溝内 側縫石器	側縫石器	泥岩	泥岩	53.4	68.3	12.5	0.76	58.0		正面、全面（少し盛り上がりでいる箇所のみ）
25 図 0835	FJ-10	FJ-10 22	側縫石器	頁岩	頁岩	75.5	49.5	10.8	1.52	59.5		無し
25 図 0845	FJ-10	側縫石器	側縫石器	頁岩	頁岩	65.8	45.4	12.2	1.45	49.1		正面、全面（少し盛り上がりでいる箇所のみ）/裏面、全面（少し盛り上がりでいる箇所のみ）
25 図 0809	FJ-10	FJ-10	側縫石器	頁岩	頁岩	42.2	63.7	6.0	0.68	17.8		無し
25 図 0811	FJ-10	FJ-10	側縫石器	頁岩	頁岩	49.8	51.8	16.7	0.96	46.8		無し
25 図 1193	FJ-10	F-3-8	中・大形二次的剖離のあら片	泥岩	泥岩	52.1	69.6	12.3	0.75	48.1		無し
25 図 0628	FJ-10 PT-86	PT-86	中・大形不規則剖離のあら片	頁岩	頁岩	51.3	51.4	8.2	1.00	22.8		無し
25 図 1192	FJ-10	F-3-8	中・大形不規則剖離のあら片	粘板岩	粘板岩	66.2	75.4	17.5	0.38	72.6		無し
25 図 0819	FJ-10 PT-70	PT-70 2	流れを伴う剖離のあら片	頁岩	頁岩	74.9	54.6	10.0	1.37	39.9		無し

第5表 打製石器観察表

図版番号	編 造 様	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考
27 図 1029	PJ-11	E-3-5	石鏡未製品	黒曜石	27.1	19.1	9.6	1.42	4.3	分類不可	無し	
27 図 1029	PJ-11	E-2-5	複数石器	黒曜石	19.1	11.3	5.7	1.70	0.3	A1	無し	
27 図 1171	PJ-11	F-3-6	複数石器	黒曜石	15.3	14.1	5.8	1.08	0.9	A1	無し	
27 図 0916	PJ-11	PJ-10 20	中・大型粗製石器	頁岩	58.3	57.2	9.0	1.02	29.7	A4	無し	
27 図 0897	PJ-11	PJ-11 7	中・大型粗製石器	鈍物砂岩	73.5	55.2	11.2	1.33	46.7	A6	表面：溝み部	
27 図 1043	PJ-11	E-3-5	中・大型粗製石器	砂岩	65.0	75.8	16.0	0.86	57.1	B3	無し	
27 図 0993	PJ-11	IG-447	中・大型粗製石器	板状岩	79.8	66.6	17.9	1.20	77.6	A6	無し	
27 図 0905	PJ-11 PT-12B	打製石斧	頁岩	59.8	54.2	13.4	1.10	53.7	B1RJKUJ	無し		
27 図 0908	PJ-11	PJ-14 6	打製石斧	頁岩	121.1	55.7	15.3	2.17	116.0	B1RJKUJ	無し	
27 図 0912	PJ-11	PJ-14 52	打製石斧	頁岩	71.3	47.3	13.5	1.51	52.6	B1RJKUJ	無し	
27 図 0933	PJ-11 PT-92	打製石斧	砂岩	106.7	70.7	34.9	1.51	314.0	A1R(2+3+4) K1R2	無し		
27 図 0907	PJ-11	PJ-15 9	打製石斧	鈍物砂岩	86.1	49.7	13.9	1.73	76.4	B1RJKUJ	無し	
27 図 0898	PJ-11	打製石斧	緑色岩	38.6	35.3	9.8	1.10	9.2	B1RJKUJ	無し		
27 図 0909	PJ-11	PJ-14 12	打製石斧	板状岩	103.4	54.6	26.6	1.90	139.0	B1RJKUJ	無し	
27 図 0917	PJ-11	PJ-10 19	打製石斧	板状岩	86.6	41.1	15.8	2.11	57.7	B1RJKUJ	無し	
27 図 1042	PJ-11	E-3-5	打製石斧	板状岩	45.8	56.0	11.3	0.82	34.9	B1RJKUJ	正面：上部／裏面：上部	
27 図 1034	PJ-11	E-2-5	複数石器	頁岩	71.4	75.0	21.0	0.95	92.6	D1R2	無し	
27 図 0910	PJ-11	PJ-14 54	複数石器	頁岩	46.1	72.3	10.5	0.64	51.3	D1R2	無し	
27 図 0906	PJ-11 PT-12B	複数石器	鈍物砂岩	86.1	85.5	10.4	0.96	45.4	D1R2	無し		
27 図 0895	PJ-11	PJ-11 5P	側縫石器	泥岩	42.4	44.5	15.3	0.95	28.3		正面：全面（少し盛り上がっていいる箇所のみ）裏面：全面（少し盛り上がっていいる箇所のみ）	
27 図 0896	PJ-11	PJ-11 5P	側縫石器	泥岩	58.8	57.1	14.3	1.03	51.0		無し	
27 図 0915	PJ-11	PJ-10 21	側縫石器	泥岩	62.4	65.2	21.6	0.96	96.0		正面：全面（少し盛り上がっていいる箇所のみ）	
27 図 0992	PJ-11	PJ-11 2	側縫棘突器	砂岩	65.4	111.1	17.1	0.59	96.6	A1	無し	
27 図 1030	PJ-11	E-2-5	小斜・次元的剝離のある石片	黒曜石	25.0	7.3	5.4	3.45	0.3		無し	
27 図 1169	PJ-11	F-3-6	小斜・次元的剝離のある石片	黒曜石	29.2	17.4	9.4	1.68	2.6		無し	
27 図 1172	PJ-11	F-3-6	小斜・次元的剝離のある石片	黒曜石	31.5	17.9	6.7	1.76	2.3		無し	
27 図 0914	PJ-11	IG-54	中・大型不規則剝離のある石片	鈍物砂岩	61.0	63.2	13.5	0.96	56.4		無し	
27 図 1033	PJ-11	E-2-5	丸ねじ状・うき跡のある石片	頁岩	99.4	81.2	26.9	1.22	157.0		無し	
30 国 1223	PJ-12	F-3-2	石鏡未製品	黒曜石	13.3	14.7	4.6	0.90	0.5	分類不可	無し	
30 国 1222	PJ-12	F-3-2	複数石器	黒曜石	17.5	13.7	3.8	1.28	0.8	B1	無し	
30 国 1226	PJ-12	F-3-2	複数石器	黒曜石	17.4	12.5	8.2	1.29	1.4	A1	無し	
30 国 1272	PJ-12	F-3-17	複数石器	黒曜石	15.3	13.7	5.6	1.11	0.9	B1	無し	
30 国 1273	PJ-12	F-3-17	複数石器	黒曜石	13.4	9.5	4.7	1.41	0.5	A1	無し	
30 国 1274	PJ-12	F-3-17	小形石核	黒曜石	31.6	34.1	31.0	0.90	21.9		無し	
30 国 1292	PJ-12	F-3-17	中・大型粗製石器	頁岩	67.0	101.5	12.8	0.66	52.4	A3	無し	
30 国 0669	PJ-12	IG-695	打製石斧	頁岩	77.4	43.3	18.0	1.79	70.2	B1RJKUJ	無し	
30 国 1280	PJ-12	F-3-17	打製石斧	頁岩	129.4	40.0	14.6	3.23	89.8	B1RJKUJ	無し	
30 国 1281	PJ-12	F-3-17	打製石斧	頁岩	109.6	52.3	13.3	2.10	74.3	A1R(2+3)R2 + 3R3	無し	
30 国 1283	PJ-12	F-3-17	打製石斧	頁岩	56.8	33.9	10.0	1.67	20.7	B1RJKUJ	風化が著しく、観察が困難	
30 国 1285	PJ-12	F-3-17	打製石斧	頁岩	46.5	56.0	21.7	0.83	63.0	B1RJKUJ	正面：下部／裏面：下部	
30 国 1287	PJ-12	F-3-17	打製石斧	頁岩	60.4	51.4	7.0	1.18	29.7	B1RJKUJ	左側縫・下部／右側縫・下部／正面 右側縫・右側刃部にかけて 熱焼が差しい	
30 国 0670	PJ-12	IG-466	打製石斧	砂岩	106.1	52.5	21.9	2.02	136.0	A1RJKUJ	無し	
31 国 1228	PJ-12	F-3-12	打製石斧	砂岩	38.3	54.7	11.1	0.70	27.7	B1RJKUJ	無し	
31 国 1230	PJ-12	F-3-12	打製石斧	砂岩	69.8	59.5	16.2	1.26	68.4	B1RJKUJ	無し	
31 国 1231	PJ-12	F-3-12	打製石斧	砂岩	76.2	46.2	15.6	1.65	60.5	B1RJKUJ	無し	
31 国 1233	PJ-12	F-3-12	打製石斧	砂岩	53.5	44.8	16.0	1.19	44.8	B1RJKUJ	無し	
31 国 1278	PJ-12	F-3-17	打製石斧	砂岩	73.9	50.3	14.7	1.47	62.7	B1RJKUJ	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	備風造模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅比	重量 g	分類	PO(消耗度)	備考
31 図 0664	PJ-12	JG-470	打製石斧	粘土陶器	132.4	45.6	19.8	2.90	161.0	AL(3+4)RJKIJ1	左側縁：上部／右側縁：上部／正面 上部～下部／裏面：上部～下部	基部再生
31 図 1232	PJ-12	F-3-12	打製石斧	粘土陶器	35.2	50.2	24.0	0.70	60.5	BLRJKIJ1	左側縁：中央？／裏面：中央？	
31 図 1279	PJ-12	F-3-17	打製石斧	粘土陶器	62.7	76.0	15.5	0.83	88.8	ALRJKIJ1	無し	
31 図 1282	PJ-12	F-3-17	打製石斧	粘土陶器	94.5	58.6	18.2	1.61	127.0	BLRJKIJ1	無し	
31 図 1284	PJ-12	F-3-17	打製石斧	粘板岩	72.6	52.9	15.0	1.37	77.9	BLRJKIJ1	無し	
31 図 1286	PJ-12	F-3-17	楕円形石器	頁岩	43.1	95.2	15.1	0.45	64.5	DIK(I+2)	無し	
31 図 0677	PJ-12	PJ-12.2	楕円形石器	粘土陶器	52.1	84.7	13.7	0.62	70.0	0362	裏面：上部～中央	
31 図 1277	PJ-12	F-3-17	楕円形石器	砂岩	66.2	59.7	18.0	1.11	67.1	0362	無し	
31 図 1288	PJ-12	F-3-17	楕円形石器	砂岩	53.7	99.1	13.8	0.54	70.5	0362	無し	
31 図 1289	PJ-12	F-3-17	楕円形石器	砂岩	51.6	80.8	12.5	0.64	52.8	0362	無し	
31 図 0671	PJ-12	IG-462	楕円形石器	泥岩	61.1	125.2	16.9	0.49	124.0	0262	正面：全面／裏面：全面	
31 図 1236	PJ-12	F-3-12	側縁石器	泥岩	62.9	64.8	21.0	0.97	137.0		正面：全面（少し傾り上がっている 箇所のみ）	
31 図 1291	PJ-12	F-3-17	側縁石器	泥岩	47.3	50.3	20.8	0.94	51.7		正面：全面（少し傾り上がっている 箇所のみ）	
31 図 1290	PJ-12	F-3-17	側縁石器	頁岩	33.8	70.0	12.0	0.46	31.0	A	正面：下部	
31 図 0679	PJ-12	PJ-12	中・大形二次的削 離のある鋸片	粘土陶器	55.8	52.3	11.5	1.07	48.6		無し	
31 図 0686	PJ-12	PJ-12	小形不規則削離の ある鋸片	黒曜石	17.3	19.3	2.4	0.90	0.5		無し	
31 図 0687	PJ-12	PJ-12	小形不規則削離の ある鋸片	黒曜石	23.7	22.6	6.0	1.01	2.6		無し	
31 図 0680	PJ-12A PT-96	打製石斧	砂岩	134.5	49.5	21.7	2.22	165.0	ALIRO + 4IKIJ1	左側縁：上部／右側縁：上部／正面 上部／裏面：上部		
31 図 0688	PJ-12A PT-94	楕円形石器	砂岩	67.7	87.5	21.2	0.77	139.0	0362	無し		
31 図 0686	PJ-12A PT-93	小形不規則削離の ある鋸片	黒曜石	23.2	17.5	5.6	1.33	1.3		無し		
31 図 0687	PJ-12A PT-94	流れを作り削離の ある鋸片	粘土陶器	35.9	68.0	12.6	0.53	36.4		無し		
31 図 0849	PJ-12B PT-96	楕円形石器	砂岩	36.8	91.7	12.2	0.40	40.1	0262	無し		
31 図 0688	PJ-12B PT-96	打製石斧	粘土陶器	140.1	56.1	22.9	2.50	166.0	BLRJKIJ1	左側縁：下部／右側縁：下部／正面 中央～下部／裏面：中央～下部		
34 図 2350	PJ-13	F-2-6	石器	黒曜石	25.4	14.7	3.7	1.73	0.9	IAIJ-5	無し	
34 図 1331	PJ-13	PJ-13	楢形石器	黒曜石	18.3	19.4	7.8	0.94	1.6	A1	無し	
34 図 1332	PJ-13	PJ-13	楢形石器	黒曜石	17.5	16.4	6.1	1.07	1.5	上：右：下：G1／左：	無し	
34 図 1334	PJ-13	PJ-13	楢形石器	黒曜石	26.3	18.9	8.9	1.39	2.4	C1	無し	
34 図 1335	PJ-13	PJ-13	楢形石器	黒曜石	17.6	11.4	4.3	1.54	0.4	C3	無し	
34 図 1339	PJ-13	E-2-10	楢形石器	黒曜石	18.0	11.8	6.4	1.53	1.3	X2	無し	
34 図 1357	PJ-13	IG-477	楢形石器	石英岩	39.8	25.0	15.4	1.59	15.2	B1	無し	
34 図 1340	PJ-13	E-2-10	小形石核	黒曜石	31.0	26.9	11.0	1.15	9.1		無し	
34 図 1360	PJ-13	E-2-5	中・大形楢形石器	頁岩	119.4	62.6	12.7	1.91	86.5	A8	無し	
34 図 1344	PJ-13	PJ-13.25	中・大形楢形石器	粘土陶器	67.0	91.2	16.1	0.74	79.6	A3	無し	
34 図 1346	PJ-13	PJ-13.39	打製石斧	頁岩	89.7	48.3	16.3	1.86	89.4	BL(2+3+4) K1J1	左側縁：下部／右側縁：下部	
34 図 1352	PJ-13	PJ-13	楢形石器	粘土陶器	45.1	76.1	7.6	0.59	21.3	0362	無し	
34 図 1364	PJ-13	E-2-10	楢形石器	泥岩	42.6	51.2	10.5	0.85	23.8	0362	無し	
34 図 1342	PJ-13	PJ-13.17	楢形石器	粘土陶器	65.8	93.2	14.9	0.71	104.0	D(1+2)M2	無し	
34 図 1351	PJ-13	PJ-13	楢形石器	粘土陶器	51.3	85.1	11.3	0.90	53.7	D(1+2)M3	無し	
34 図 1361	PJ-13	F-2-6	楢形石器	粘土陶器	60.5	63.8	10.8	0.95	36.9	0260	無し	打製石斧の調整副石素材
34 図 1350	PJ-13	PJ-13	楢形石器	粘土陶器	50.4	74.5	14.9	0.68	43.9	0260	無し	
34 図 1347	PJ-13	PJ-13	楢形石器	粘板岩	45.5	83.6	12.1	0.54	37.4	0362	無し	
34 図 1348	PJ-13	PJ-13	楢形石器	粘板岩	38.4	56.1	12.5	0.65	26.1	0362	無し	
34 図 1336	PJ-13	PJ-13	小形二次の削離の ある鋸片	黒曜石	33.9	32.5	16.6	1.04	13.9		無し	
34 図 1329	PJ-13	PJ-13	小形不規則削離の ある鋸片	黒曜石	42.3	23.6	4.2	1.79	3.9		無し	
34 図 1330	PJ-13	PJ-13	小形不規則削離の ある鋸片	黒曜石	24.2	15.6	4.7	1.56	1.1	正面：中央～下部／右側縁		

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PQ(磨耗度)	備考
34 図 1333	PJ-13	PJ-13	小形不規則刮削の ある石片	墨岩石	22.4	19.8	5.6	1.13	1.8	無し		
34 図 1366	PJ-13	PT-123	小形不規則刮削の ある石片	墨岩石	23.7	13.5	4.5	1.75	1.0	無し		
34 図 1345	PJ-13	PJ-13 37	中・大型不規則刮削の ある石片	粘着力強	69.2	71.9	17.1	0.96	108.0	無し		
37 図 0662	PJ-14 PT-168	PJ-168	複数石器	墨岩石	15.4	7.9	4.2	1.96	0.1	E1	無し	
37 図 0672	PJ-14 PT-179	PT-179	複数石器	墨岩石	20.4	11.1	6.9	1.83	1.5	A1	無し	
37 図 0721	PJ-14	PJ-14	複数石器	墨岩石	10.4	14.1	3.6	0.73	0.5	A1	無し	
37 図 0675	PJ-14 PT-179	PT-179	打製石斧	頁岩	116.3	61.3	14.9	1.90	118.0	BLRK1J1	無し	
37 図 0677	PJ-14 PT-179	PT-179	打製石斧	頁岩	46.2	51.6	12.8	0.90	38.5	BLRK1J1	正面：上部／裏面：上部	
37 図 0714	PJ-14	PJ-14	打製石斧	頁岩	62.8	41.8	11.2	1.50	44.5	BLRK1J1	風化が著しく、觀察が困難	
37 図 0676	PJ-14 PT-179	PT-179	打製石斧	細粒砂岩	67.6	37.8	23.3	1.79	64.6	BLRK1J1	無し	
37 図 0724	PJ-14	PJ-14 27	打製石斧	泥岩	94.7	54.4	18.4	1.74	103.0	BLRK1J1	左側面：中央～下部／右側縁：上部～下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部	
37 図 0656	PJ-14 DK-100	DK-100	打製石斧	粘着力強	46.0	57.4	18.6	0.80	56.1	BLRK1J1	無し	
37 図 0667	PJ-14 DK-106	DK-106	打製石斧	粘着力強	77.0	49.9	19.7	1.54	70.4	BLRK1J1	無し	
37 図 0715	PJ-14	PJ-14	打製石斧	粘着力強	63.4	49.3	11.0	1.29	36.0	BLRK1J1	無し	
37 図 0729	PJ-14	PJ-14 34	打製石斧	粘着力強	88.9	46.3	16.3	1.96	79.9	BLRK1J1	無し	
37 図 0664	PJ-14 PT-169	PT-169	横刃形石器	頁岩	52.2	70.8	5.1	0.74	22.8	D002	正面：全面／裏面：全面	
37 図 0727	PJ-14	PJ-14 50	横刃形石器	頁岩	52.4	101.5	14.4	0.52	76.6	D002	無し	打製石斧の調整剝片素材
37 図 0709	PJ-14	PJ-14	横刃形石器	細粒砂岩	49.7	52.1	12.2	0.95	30.6	D002	無し	
37 図 0710	PJ-14	PJ-14	横刃形石器	細粒砂岩	44.9	58.9	9.7	0.76	30.6	D002	無し	
37 図 0697	PJ-14 PT-166	PT-166	模刃形石器	細粒砂岩	43.0	83.6	10.6	0.51	37.5	D002	無し	
37 図 0665	PJ-14 DK-106	DK-106	模刃形石器	粘着力強	62.5	87.6	14.9	0.71	95.9	D002	正面：打点側	
37 図 0666	PJ-14 DK-106	DK-106	模刃形石器	粘着力強	37.1	71.3	9.3	0.52	23.1	D002	無し	打製石斧の調整剝片素材
37 図 0726	PJ-14	PJ-14 44	模刃形石器	粘着力強	49.4	75.7	12.0	0.65	46.1	D002	無し	打製石斧の調整剝片素材
37 図 0725	PJ-14	PJ-14 37	模刃形石器	粘着力強	52.1	112.3	18.0	0.46	105.0	D1(+) + 2)D2	無し	
37 図 0659	PJ-14 PT-125	PT-125	鍛練線石器	細粒砂岩	71.5	58.4	17.4	1.22	64.9	A	無し	打製石斧の調整剝片素材？
37 図 0674	PJ-14 PT-119	PT-119	鍛練線石器	頁岩	47.7	88.4	16.6	0.54	55.3	A	無し	
37 図 0707	PJ-14	PJ-14	側縫石器	砂岩	42.9	53.4	13.4	1.18	59.3	無し		
37 図 0681	PJ-14 PT-119	PT-119	側縫石器	泥岩	40.0	61.0	14.2	0.66	41.8	無し		
37 図 0705	PJ-14	PJ-14	側縫石器	泥岩	60.2	30.1	12.0	2.00	32.5	無し		
37 図 0706	PJ-14	PJ-14	側縫石器	泥岩	65.1	62.7	14.8	1.04	74.8	無し		
37 図 0708	PJ-14	PJ-14	側縫石器	泥岩	63.3	49.6	14.8	1.29	63.1	無し		
37 図 0711	PJ-14	PJ-14	中・大型三次的削 離のある石片	泥岩	41.0	83.4	22.5	0.49	75.5	無し		
37 図 0730	PJ-14	PJ-14 32	中・大型二次的削 離のある石片	粘着力強	59.0	74.6	23.2	0.79	119.0	無し		
37 図 0673	PJ-14 PT-119	PT-119	小形不規則刮削の ある石片	墨岩石	15.0	14.1	3.5	1.06	0.6	無し		
37 図 0660	PJ-14 PT-125	PT-125	中・大型不規則削 離のある石片	細粒砂岩	38.1	51.4	15.3	0.74	28.2	無し		
37 図 0716	PJ-14	PJ-14	流れを伴う刮削の ある石片	細粒砂岩	66.1	49.9	16.5	1.02	50.9	無し		
41 図 0965	PJ-15	E-3-20	石鎚	墨岩石	21.2	13.4	4.5	1.58	0.9	44D1(-)b	無し	
41 図 1002	PJ-15	E-3-14	石鎚	墨岩石	18.1	15.5	2.8	1.17	0.2	34D1(-)b	無し	
41 図 1005	PJ-15	E-3-15	石鎚	墨岩石	19.6	12.2	3.3	1.61	0.6	分類不可	無し	
41 図 0763	PJ-15	PJ-15 2	石鎚	墨岩石	18.8	13.3	2.8	1.42	0.4	24D1(-)b	無し	
41 図 0775	PJ-15	PJ-15	石鎚	墨岩石	18.4	15.0	3.1	1.22	0.3	28D2(-)b	無し	
41 図 0780	PJ-15	PJ-15	石鎚	墨岩石	19.9	13.4	4.0	1.48	0.8	44F1(-5	無し	
41 図 1008	PJ-15	E-3-15	石鎚未製品	墨岩石	17.5	11.6	6.0	1.51	0.9	分類不可	無し	

第 5 表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
41 図 1213	PJ-15	F-3-11	石器未製品	黒曜石	15.7	14.9	3.9	1.05	0.6	分類不可	無し	
41 図 1059	PJ-15	E-3-10	楔形石器	黒曜石	16.8	10.7	5.4	1.57	0.6	B1	無し	
41 図 0689	PJ-15 DK-107	DK-107	楔形石器	黒曜石	13.3	12.2	2.9	1.09	0.4	A1	無し	
41 図 0690	PJ-15 DK-107	DK-107	楔形石器	黒曜石	18.0	12.6	3.9	1.43	0.5	A1	無し	
41 図 1496	PJ-15	PJ-17 12	小型粗製石器	珪質頁岩	74.0	33.4	10.1	2.22	22.6	A1	無し	
41 図 0744	PJ-15	PJ-15	中・大型粗製石器	砂岩	76.3	75.0	13.7	1.04	57.1	A8	無し	
41 図 1020	PJ-15	E-3-15	中・大型粗製石器	珪質頁岩	58.7	59.2	9.1	0.99	32.3	B3	無し	
41 図 1011	PJ-15	E-3-15	打製石斧	頁岩	41.8	43.8	10.7	0.95	22.0	BLIRKUJ1	正面・下部	
41 図 1012	PJ-15	E-3-15	打製石斧	頁岩	40.9	45.7	15.0	1.07	42.6	BLIRKUJ1	正面・下部	
41 図 1016	PJ-15	E-3-15	打製石斧	頁岩	56.3	20.6	6.2	2.73	9.4	BLIRKUJ1	無し	
41 図 1217	PJ-15	F-3-11	打製石斧	頁岩	40.0	73.1	14.8	0.55	49.1	BLIRKUJ1	無し	
41 図 1270	PJ-15	F-3-16	打製石斧	頁岩	69.1	29.6	9.5	2.34	25.7	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0743	PJ-15	PJ-15	打製石斧	頁岩	74.6	29.3	11.0	2.55	24.6	BLIRKUJ1	左側縁・下部／右側縁・下部／正面 中央～下部／裏面・中央～下部	
41 図 0748	PJ-15	PJ-15	打製石斧	頁岩	85.9	54.8	14.2	1.57	74.3	BLIRKUJ1	風化が著しく、経歴が困難	
41 図 0767	PJ-15	PJ-15	打製石斧	頁岩	94.2	53.8	13.7	1.75	68.0	BL(2+3)RKUJ1	右側縁・下部／右側縁・下部／正面 中央～下部／裏面・上部～下部	
41 図 0768	PJ-15	PJ-15	打製石斧	頁岩	55.1	52.2	18.6	1.04	64.1	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0781	PJ-15	PJ-15 90	打製石斧	頁岩	89.2	65.1	15.2	1.37	93.0	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0789	PJ-15	PJ-15	打製石斧	頁岩	72.7	29.1	20.3	1.86	65.6	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0791	PJ-15	PJ-15 20	打製石斧	頁岩	56.5	51.2	14.2	1.10	56.1	BLIRKUJ1	風化が著しく、経歴が困難	
41 図 0795	PJ-15	PJ-15 21	打製石斧	頁岩	70.8	51.9	10.5	1.36	45.3	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0761	PJ-15	PJ-15 18	打製石斧	矽角岩	109.3	51.6	17.6	2.12	102.0	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0771	PJ-15	10-451	打製石斧	矽角岩	104.9	59.3	19.2	1.77	116.0	BLIRKUJ1	無し	上部・右側縁が折損か
41 図 1219	PJ-15	F-3-11	打製石斧	砂岩	56.9	63.5	17.9	1.06	53.6	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0747	PJ-15	PJ-15	打製石斧	砂岩	40.0	42.9	10.6	1.14	34.7	BLIRKUJ1	左側縁・下部／右側縁・下部／正面 下部／裏面・下部	
41 図 0796	PJ-15	PJ-15	打製石斧	砂岩	97.9	51.8	16.8	1.89	101.0	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0787	PJ-15	PJ-15	打製石斧	砂岩	90.6	47.1	19.4	1.99	116.0	BLIRKUJ1	左側縁・中央～下部／右側縁・中央～下部 ～下部／正面・中央～下部／裏面・中央～下部	
41 図 0792	PJ-15	PJ-15 44	打製石斧	砂岩	66.1	43.4	17.9	1.52	58.2	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0794	PJ-15	PJ-15 34	打製石斧	砂岩	89.6	45.7	22.6	1.96	125.0	BL(2+3)KUJ1	無し	
41 図 0794	PJ-15	PJ-15 95	打製石斧	砂岩	115.5	51.1	23.8	2.26	145.0	BLIRKUJ1	左側縁・下部／右側縁・下部／正面 下部／裏面・下部	
41 図 0797	PJ-15	PJ-15 47	打製石斧	砂岩	78.9	45.6	15.8	1.73	59.7	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0798	PJ-15	PJ-15 19	打製石斧	砂岩	50.2	49.1	15.6	1.02	49.7	BLIRKUJ1	左側縁・上部・正面：上部・裏面 上部	
41 図 1013	PJ-15	E-3-15	打製石斧	砂岩	124.7	45.0	22.7	2.77	158.0	BL(2+3+4) (2+3)KUJ1	正面：中央～下部／裏面：中央～下部	
41 図 1497	PJ-15	PJ-17 14	打製石斧	砂岩	94.8	43.7	25.4	2.17	132.2	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0745	PJ-15	PJ-15	打製石斧	矽角岩	49.6	46.5	17.5	1.07	46.1	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0752	PJ-15	PJ-15	打製石斧	矽角岩	49.3	38.4	10.7	1.36	27.7	BLIRKUJ1	無し	
41 図 0785	PJ-15	PJ-15	打製石斧	矽角岩	76.5	47.5	15.5	1.61	72.7	BLIRKUJ1+4KUJ1	無し	
41 図 0790	PJ-15	PJ-15 26	打製石斧	矽角岩	82.1	44.0	17.4	1.86	84.3	BLIRKUJ1	無し	
42 国 0800	PJ-15	PJ-15 52	打製石斧	矽角岩	102.7	51.6	19.0	2.06	109.0	BLIRKUJ1	無し	
42 国 1015	PJ-15	E-3-15	打製石斧	矽角岩	75.4	46.9	15.1	0.75	25.4	BLIRKUJ1	無し	
42 国 1495	PJ-15	PJ-17 11	打製石斧	矽角岩	105.7	40.1	15.4	2.64	73.0	BLIRKUJ1	正面：下部／裏面：上部～下部	
42 国 0750	PJ-15	PJ-15	打製石斧	粘板岩	56.6	34.4	13.2	1.85	27.5	BLIRKUJ1	裏面・下部	
42 国 1014	PJ-15	E-3-15	打製石斧	粘板岩	60.1	41.4	13.6	1.45	39.1	BLIRKUJ1	無し	
41 国 1269	PJ-15	F-3-16	楔刃形石器	頁岩	35.9	78.5	6.5	0.46	16.4	0302	末尾	
42 国 0759	PJ-15	PJ-15	楔刃形石器	頁岩	45.3	87.9	23.4	0.52	83.2	0308(I+2)	無し	
42 国 0782	PJ-15	PJ-15 87	楔刃形石器	頁岩	78.0	112.8	15.9	0.89	153.0	0302	無し	
42 国 0786	PJ-15	PJ-15	楔刃形石器	矽角岩	70.0	66.6	11.1	1.06	69.6	0302	無し	
41 国 1054	PJ-15	E-3-10	楔刃形石器	砂岩	46.5	82.4	10.8	0.57	43.1	0302	無し	
41 国 1060	PJ-15	E-3-10	楔刃形石器	砂岩	45.3	76.7	10.3	0.59	39.2	0308(I+2)	無し	
42 国 1018	PJ-15	E-3-15	楔刃形石器	砂岩	39.0	91.7	10.2	0.43	34.1	0302	打製石斧の調整剝片素材	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PO(磨耗度)	備考
41 図 1220	PJ-15	F-3-11	刮石	砂岩	63.0	40.4	19.7	1.04	109.0		無し	
42 図 0697	PJ-15 PT-139	PT-139	縫隙鍼石器	結晶片岩	45.2	54.4	17.3	0.83	27.1	A	無し	
42 図 0699	PJ-15 PT-164 PT-165	PT-164 PT-165	縫隙鍼石器	細粒砂岩	118.7	65.8	26.0	1.80	192.0	A	無し	打製石斧軸用
42 図 0754	PJ-15		縫隙鍼石器	砂岩	41.7	77.2	8.5	0.54	23.9	A	無し	
42 図 0755	PJ-15		縫隙鍼石器	砂岩	47.9	126.2	11.9	0.38	67.1	A	無し	
42 図 0764	PJ-15		縫隙鍼石器	砂岩	59.9	63.2	20.8	0.95	91.4	A	無し	
42 図 0770	PJ-15 PJ-15 45	PJ-15 PJ-15 45	縫隙鍼石器	砂岩	71.5	86.7	15.9	0.82	100.2	A	無し	
42 図 1019	PJ-15 E-3-15	E-3-15	縫隙鍼石器	砂岩	48.0	70.2	24.7	0.66	61.3	A	無し	
42 図 0799	PJ-15 36	PJ-15 36	縫隙鍼石器	細粒砂岩	48.2	97.3	15.4	1.00	65.7	A	未端	
42 図 0801	PJ-15 PJ-15 39	PJ-15 PJ-15 39	縫隙鍼石器	細粒砂岩	60.2	92.8	20.8	0.65	105.0	A	無し	
41 図 1269	PJ-15	F-3-18	側刃石器	細粒砂岩	52.1	56.6	12.6	1.03	48.4		無し	
41 図 1216	PJ-15	F-3-11	側刃石器	灰岩	46.9	56.7	13.2	0.83	24.5		無し	
42 図 0766	PJ-15		側刃石器	灰岩	84.0	59.0	24.0	1.43	137.0		無し	
42 図 0691	PJ-15 PT-156	PT-156	小籽不規則剝離の ある結晶片岩	黑曜石	31.0	23.9	5.8	1.30	2.7		無し	
42 図 0692	PJ-15 PT-152	PT-152	小籽不規則剝離の ある結晶片岩	黑曜石	33.4	22.0	8.4	1.52	3.2		無し	
42 図 0696	PJ-15 PT-139	PT-139	小籽不規則剝離の ある結晶片岩	黑曜石	22.3	12.3	4.8	1.68	1.1		無し	
42 図 0777	PJ-15		小籽不規則剝離の ある結晶片岩	黑曜石	20.5	12.9	4.0	1.59	0.8		無し	
42 図 0778	PJ-15		小籽不規則剝離の ある結晶片岩	黑曜石	23.4	21.0	8.5	1.11	2.3		無し	
42 図 1009	PJ-15	E-3-15	中・大形不規則剝 離のある剝片	頁岩	78.8	49.0	11.9	1.61	42.9		正面：中央～下部／裏面：中央～下 部	打製石斧軸用
42 図 1021	PJ-15	E-3-15	中・大形不規則剝 離のある剝片	花崗岩類	46.2	40.5	12.8	0.76	41.0		正面：全面	打製石斧軸用
42 図 1496	PJ-15 PJ-17 27	PJ-17 27	中・大形不規則剝 離のある剝片	頁岩	42.3	94.2	12.8	0.45	77.0		無し	
42 図 0687	PJ-15 DK-107	DK-107	中・大形不規則剝 離のある剝片	細粒砂岩	96.0	30.3	9.7	3.17	22.9		無し	
42 図 0802	PJ-15	PJ-15 29	中・大形不規則剝 離のある剝片	細粒砂岩	101.8	75.1	22.5	1.36	152.0		正面：左半分	
42 図 0746	PJ-15		中・大形不規則剝 離のある剝片	砂岩	58.9	61.6	10.7	0.96	40.2		無し	
41 図 1218	PJ-15	F-3-11	中・大形不規則剝 離のある剝片	結晶片岩	41.4	81.5	11.5	0.51	38.6		無し	
42 図 0785	PJ-15		中・大形不規則剝 離のある剝片	板状灰岩	59.4	75.9	18.2	0.78	81.1		無し	
42 図 0666	PJ-15 DK-107	DK-107	流れぞうり剝離の ある結晶片岩	頁岩	63.6	62.7	13.6	1.01	45.2		無し	
45 図 1443	PJ-16	PJ-16	複斜石器	黑曜石	18.0	16.2	4.9	0.99	0.9	A1	無し	
45 図 1444	PJ-16	PJ-16	複斜石器	黑曜石	17.6	10.1	3.8	1.73	0.5	上・下・右1/ 左1 G1/ 左	無し	
45 図 1534	PJ-16	E-3-2	複斜石器	黑曜石	14.3	14.1	3.2	1.01	0.4	C1	無し	
45 図 1560	PJ-16	E-3-2	複斜石器	黑曜石	17.9	21.0	7.2	0.85	1.5	C1	無し	
45 図 1619	PJ-16	E-3-6	複斜石器	黑曜石	22.5	15.5	10.6	1.46	2.7	B1	無し	
45 図 1620	PJ-16	E-3-6	複斜石器	黑曜石	13.2	7.5	6.5	1.77	0.5	C1	無し	
45 図 1553	PJ-16	E-3-2	小籽七様	石英岩	55.5	31.6	20.7	1.76	38.2		無し	
45 図 1442	PJ-16 PJ-16 45	PJ-16 45	中・大形粗削石器	頁岩	105.4	51.0	12.8	2.07	56.5	A1	右側縁、刃部先端	
45 図 1425	PJ-16	PJ-16 2	打製石斧	頁岩	125.8	37.4	9.5	3.36	48.8	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1426	PJ-16	PJ-16 3	打製石斧	頁岩	96.2	47.8	16.5	2.05	107.8	A1 RIKIJI	左側縁：中央～下部／右側縁：下部 ／正面：下部？／裏面：下部？	
45 図 1429	PJ-16	PJ-16 12	打製石斧	頁岩	113.3	40.4	12.8	2.81	64.6	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1431	PJ-16	PJ-16 38	打製石斧	頁岩	89.6	59.1	14.2	1.63	94.3	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1433	PJ-16	PJ-16 41	打製石斧	頁岩	95.2	55.1	13.9	1.73	99.0	B1 R(2+3) K1 J1	無し	
45 図 1437	PJ-16	PJ-16 57	打製石斧	頁岩	76.4	41.7	17.8	1.84	66.8	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1440	PJ-16	PJ-16 64	打製石斧	頁岩	73.0	49.8	10.1	1.47	47.3	A1 RIKIJI	左側縁：下部／正面：下部 右側縁再生	
45 図 1453	PJ-16	PJ-16	打製石斧	頁岩	42.3	54.2	8.2	0.78	22.3	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1541	PJ-16	E-3-2	打製石斧	頁岩	79.6	50.6	13.6	1.57	82.6	A1 RIKIJI	無し	
45 図 1542	PJ-16	E-3-2	打製石斧	頁岩	74.4	43.5	20.2	1.71	67.8	A1 RIKIJI	裏面：中央	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
46 図 1623	PJ-16	E-3-8	打製石斧	頁岩	91.8	43.0	14.3	2.14	67.2	BLJRKJ+4EJKJ	無し	
46 図 1439	PJ-16	E-16 6I	打製石斧	細粒砂岩	107.7	51.3	14.0	2.10	106.0	BLJRKJ	左側縁：上部～中央／右側縁：上部 上部：上部～中央／裏面：上部～中央	
46 図 1435	PJ-16	E-16 43	打製石斧	砂岩	154.4	65.2	23.3	2.37	248.0	BLJRKJ	左側縁：中央～下部／右側縁：下部 上部：下部／裏面：下部	
46 図 1544	PJ-16	E-3-2	打製石斧	砂岩	57.3	37.4	16.8	1.53	44.4	BLJRKJ	無し	
46 図 1545	PJ-16	E-3-2	打製石斧	砂岩	64.2	48.1	9.6	1.33	40.2	BLJRKJ	刃部再生	
46 図 1577	PJ-16	E-3-7	打製石斧	砂岩	39.5	42.8	9.8	0.92	15.7	BLJRKJ	正面：下部／裏面：下部	
46 図 1446	PJ-16	E-16	打製石斧	粘土質頁岩	81.5	47.3	18.2	1.75	94.7	BLJRKJ	無し	
46 図 1448	PJ-16	E-16	打製石斧	粘土質頁岩	73.5	48.5	19.6	1.52	83.7	BLJRKJ	無し	
46 図 1546	PJ-16	E-3-2	打製石斧	粘土質頁岩	82.3	55.9	22.4	1.11	74.5	BLJRKJ	右側縁：上部／正面／上部／裏面 上部	
46 図 1547	PJ-16	E-3-2	打製石斧	粘土質頁岩	71.0	47.9	25.1	1.48	96.0	BLJRKJ	無し	
46 図 1451	PJ-16	E-16	打製石斧	粘土質頁岩	73.3	44.5	13.7	1.65	64.0	BLJRKJ	無し	
46 図 1548	PJ-16	E-3-2	打製石斧	粘土質頁岩	68.3	42.5	12.6	1.61	50.0	BLJRKJ	無し	
46 図 1456	PJ-16	E-16	周縁加工石器	砂岩	57.5	62.7	14.0	0.92	64.4		周縁を削離によって円形に整形	
46 図 1563	PJ-16	E-3-3	模刃形石器	頁岩	63.5	57.4	9.2	1.11	25.9	0002	無し	
46 図 1434	PJ-16	E-16 42	模刃形石器	細粒砂岩	49.0	102.2	15.9	0.46	80.6	0001	打製石斧の調整剝片素材	
46 図 1562	PJ-16	E-3-3	模刃形石器	粘土質頁岩	48.5	62.2	8.1	0.76	18.8	0290	無し	
46 図 1455	PJ-16	E-16	側縫石器	泥岩	58.5	68.7	16.8	0.85	67.2			
46 図 1549	PJ-16	E-3-2	側縫石器	泥岩	54.7	48.4	12.9	1.13	39.1		無し	
46 図 1550	PJ-16	E-3-2	側縫石器	泥岩	49.6	47.6	17.6	1.06	40.6		無し	
46 図 1551	PJ-16	E-3-2	側縫石器	泥岩	60.4	66.6	19.2	0.91	97.4		無し	
46 図 1552	PJ-16	E-3-2	側縫石器	泥岩	56.3	41.4	16.5	1.36	43.1		無し	
46 図 1565	PJ-16	E-3-3	側縫石器	泥岩	42.2	40.7	12.2	1.04	26.2		無し	
46 図 1566	PJ-16	E-3-3	側縫石器	泥岩	45.7	49.2	10.5	0.93	25.5		正面：全面（少し盛り上がりがっている箇所のみ）	
46 図 1576	PJ-16	E-3-7	側縫石器	泥岩	50.9	59.8	11.3	0.85	44.6		無し	
46 図 1624	PJ-16	E-3-6	側縫石器	泥岩	44.4	54.2	10.8	0.82	21.5		無し	
46 図 1536-B	PJ-16	E-3-2	小形二次的剝離のある剝片	黒曜石	18.5	22.3	5.7	0.83	2.0		無し	石器未製品（両端タイプ）の可塑性
46 図 1447	PJ-16	E-16	中・大形二次的剝離のある剝片	粘土質頁岩	69.5	46.8	22.0	1.49	81.7		無し	
46 図 1449	PJ-16	E-16	中・大形二次的剝離のある剝片	粘土質頁岩	127.3	47.1	23.1	2.70	166.8		無し	
46 図 1450	PJ-16	E-16	中・大形二次的剝離のある剝片	粘土質頁岩	32.9	79.0	12.5	0.42	30.0		無し	
46 図 1536-A	PJ-16	E-3-2	小形不規則剝離のある剝片	黒曜石	23.1	10.2	7.4	2.27	1.1		無し	
46 図 1621	PJ-16	E-3-8	小形不規則剝離のある剝片	黒曜石	35.4	14.9	6.8	2.37	2.7		無し	
46 図 1454	PJ-16	E-16	中・大形不規則剝離のある剝片	頁岩	105.5	57.2	18.6	1.85	92.3		無し	
46 図 1554	PJ-16	E-3-2	中・大形不規則剝離のある剝片	頁岩	42.3	70.4	9.1	0.60	25.0		無し	打製石斧の調整剝片素材
46 図 1625	PJ-16	E-3-6	中・大形不規則剝離のある剝片	頁岩	51.5	61.3	7.1	0.84	25.9		無し	
46 図 1564	PJ-16	E-3-3	中・大形不規則剝離のある剝片	砂岩	50.1	59.9	8.8	0.84	24.0		無し	
48 図 1023	PJ-17	E-3-18	複形石器	黒曜石	38.8	24.5	13.5	1.59	10.2	(C)	無し	
48 図 1491	PJ-17	E-17 1	打製石斧	頁岩	113.7	43.3	15.3	2.63	76.9	ALJRKJ	左側縁：下部／右側縁：下部／正面 下部：裏面／下部	
48 図 1494	PJ-17	E-17	打製石斧	細粒砂岩	40.6	22.3	11.1	1.26	18.1	BLJRKJ	無し	
49 図 0979	PJ-17	E-3-19	打製石斧	砂岩	53.4	53.4	15.4	1.00	35.4	BLJRKJ	無し	
48 図 1488	PJ-17	E-17 3I	打製石斧	砂岩	134.7	66.9	25.5	2.01	181.7	BLJRKJ	右側縁：中央～下部／右側縁：下部 上部：上部～下部／裏面：上部～下部	
48 図 1490	PJ-17	E-17 3I	打製石斧	砂岩	68.9	51.8	27.8	1.33	117.2	BLJRKJ	正面：中央／裏面：中央	
49 図 0974	PJ-17	E-3-19	模刃形石器	頁岩	48.9	66.4	10.5	0.74	26.1	0002	無し	
49 図 0975	PJ-17	E-3-19	模刃形石器	頁岩	60.2	84.1	14.3	0.72	76.4	0002	無し	
49 図 0973	PJ-17	E-3-19	模刃形石器	砂岩	50.3	90.1	15.1	0.56	76.8	0002	無し	
48 図 1026	PJ-17	E-3-18	模刃形石器	砂岩	74.2	133.3	15.4	0.56	166.0	0 (1+2)(M+1+2)	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PQ(磨耗度)	備考
48 図 1489	PJ-17	E-3-17	横刃形石器	粘土質	42.4	90.4	22.3	0.47	67.4	D0R(I+2)	無し	
49 図 0976	PJ-17	E-3-19	横刃形石器	粘土質	49.0	62.9	7.1	0.78	24.9	D0R	無し	
49 図 0977	PJ-17	E-3-19	敲石	安山岩	65.1	66.8	28.0	0.95	148.0			
49 図 1025	PJ-17	E-3-18	鐵鍛鍊石器	砂岩	59.7	39.0	7.4	1.53	14.8	A	無し	
49 図 0972	PJ-17	E-3-19	周縁加工石器	粘土質	68.4	66.0	19.9	1.04	123.0		無し	周縁を造形する斜面に よって五角形に整形
48 図 1024	PJ-17	E-3-18	側縁石器	泥岩	33.8	47.4	10.9	0.71	14.4		無し	
48 図 1027	PJ-17	E-3-18	中・大型二次的削 離のある剝片	頁岩	47.9	50.4	15.1	0.96	34.0		無し	
48 図 1022	PJ-17	E-3-18	小斜面削離剥離の ある剝片	黑曜石	27.6	14.3	8.0	1.90	2.2		無し	
48 図 1487	PJ-17	E-3-17	中・大型不規則削 離のある剝片	砂岩	90.8	80.3	15.7	1.13	82.9		右側縁	
48 図 1584-A	PJ-17	E-3-17	楔形石器	黑曜石	18.4	13.8	5.6	1.18	0.9	上・下・斜 / 左 右 C2	無し	
48 図 1607	PJ-17	E-3-22	楔形石器	黑曜石	18.3	25.2	8.4	0.90	2.0	A1	無し	
48 図 1600	PJ-17	E-3-17	中・大型粗製石器	頁岩	26.1	46.2	10.3	0.56	12.1	C3	無し	
48 図 1601	PJ-17	E-3-17	中・大型粗製石器	粘土質	57.2	59.7	13.3	0.96	35.9	A3	無し	
48 図 1513	PJ-17	I0-509	打製石斧	頁岩	66.5	46.5	9.8	1.06	51.2	B1R0K1J1	無し	
48 図 1597	PJ-17	E-3-17	打製石斧	頁岩	75.8	43.2	15.8	1.75	56.1	B1R0K1J1	無し	
48 図 1598	PJ-17	E-3-17	打製石斧	頁岩	96.2	42.2	22.4	2.33	94.1	B1R0K1J1	右側縁：下部／正面 下部	
48 図 1610	PJ-17	E-3-22	打製石斧	頁岩	84.2	52.3	10.4	1.61	64.9	B1R0K1J1	右側縁：上部～中央／正面 中央／裏面：上部～中央	
48 図 1506	PJ-17	PJ-17 41	打製石斧	砂岩	92.4	42.2	14.0	2.19	63.1	B1R0(I+3)K1J1	左側縁：中央～下部／右側縁：下部 正面：上部～下部	
48 図 1507	PJ-17	PJ-17 47	打製石斧	砂岩	101.2	59.3	16.7	1.71	110.1	B1R0(I+3)K1J1	無し	
48 図 1508	PJ-17	PJ-17 71	打製石斧	砂岩	99.2	50.9	17.3	1.95	111.0	B1R0K1J1	無し	
48 図 1596	PJ-17	E-3-17	打製石斧	砂岩	87.9	69.1	16.6	1.27	123.0	B1R0K1J1	無し	
48 図 1614	PJ-17	E-3-22	打製石斧	砂岩	128.7	45.3	22.0	2.84	165.0	B1R0K1J1	左側縁：中央～下部／右側縁：中央 ～下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部	左側縁再生
48 図 1512	PJ-17	I0-499	打製石斧	粘土質	118.2	45.5	13.4	2.59	91.8	A1R0(I+4)K1J1	風化が著しく、觀察が困難	
48 図 1504	PJ-17	PJ-17 36	打製石斧	綠色岩 相	111.0	59.9	20.6	1.99	133.7	B1R0(I+4)K1J1	右側縁：下部／正面：下部／裏面： 下部	右半分は折れた状態で再利 用
48 図 1505	PJ-17	PJ-17 39	打製石斧	粘土質	114.9	56.0	12.0	2.05	78.3	B1R0K1J1	無し	
49 図 1611	PJ-17	E-3-22	横刃形石器	頁岩	45.6	83.6	16.7	0.55	42.9	D0R	無し	打製石斧断片素材
49 図 1615	PJ-17	E-3-22	横刃形石器	頁岩	54.6	96.8	24.0	0.56	113.0	D0R	無し	
49 図 1595	PJ-17	E-3-17	横刃形石器	細粒砂岩	42.8	96.2	21.3	0.44	65.1	D0R	無し	
49 図 1599	PJ-17	E-3-17	横刃形石器	砂岩	52.0	90.1	13.7	0.53	71.9	D0R	無し	
49 図 1593	PJ-17	E-3-17	横刃形石器	粘土質	47.9	77.1	9.7	0.62	27.6	D0R	無し	打製石斧の調整剝片素材
49 図 1613	PJ-17	E-3-22	横刃形石器	砂岩	59.5	96.3	13.6	0.62	66.5	D0R	無し	
49 図 1592	PJ-17	E-3-17	鐵鍛鍊石器	粘土質	51.4	57.8	12.4	0.89	36.8	B	無し	
49 図 1612	PJ-17	E-3-22	側縁石器	粘土質	62.3	35.3	16.5	1.77	47.5		無し	
49 図 1511	PJ-17	I0-495	側縁石器	泥岩	79.7	106.4	12.8	0.75	131.2		無し	
49 図 1591	PJ-17	E-3-17	側縁石器	泥岩	40.8	19.5	11.6	2.10	9.6		無し	
49 図 1510	PJ-17	I0-630	小斜面削離剥離の ある剝片	黑曜石	23.0	27.4	7.3	0.87	4.5		無し	
49 図 1584-B	PJ-17	E-3-17	小斜面削離剥離の ある剝片	黑曜石	18.2	21.4	3.9	0.85	1.3		無し	
49 図 1594	PJ-17	E-3-17	中・大型不規則削 離のある剝片	砂岩	63.3	61.5	10.7	1.03	22.8		無し	
49 図 1616	PJ-17	E-3-22	廢純化のある剝片	頁岩	77.8	17.1	5.5	4.55	7.1		下端	
49 図 1754	PJ-17	D-3-20	周縁石器	細粒砂岩	49.4	49.5	11.4	1.00	31.0	A1	無し	打製石斧軸用
49 図 1739	PJ-17	I0-524	打製石斧	頁岩	117.9	54.1	15.6	2.18	117.2	B1R0K1J1	左側縁：下部／右側縁：中央～下部	
49 図 1756	PJ-17	D-3-20	打製石斧	頁岩	49.6	46.3	8.7	1.07	21.5	B1R0K1J1	無し	
49 図 1735	PJ-17	I0-517	打製石斧	細粒砂岩	72.2	50.3	16.0	1.44	75.4	B1R0K1J1	無し	
49 図 1740	PJ-17	I0-530	打製石斧	砂岩	62.9	45.7	17.2	1.37	47.0	B1R0K1J1	無し	
49 図 1755	PJ-17	D-3-20	打製石斧	砂岩	70.6	45.9	19.2	1.54	62.4	B1R0K1J1	左側縁：下部／右側縁：下部／正面 下部／裏面：下部	
49 図 1738	PJ-17	I0-544	打製石斧	粘土質	116.7	52.6	19.6	2.22	150.8	A(L2 + 3 + 4) B(L2 + 3 + 4) C(L2 + 3 + 4)	正面：上部～下部／裏面：上部～下 部	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
49 図 1742	PJ-170	IG-020	打製石斧	粘土鉱石	152.6	50.2	22.1	3.04	199.5	AL18R00J1	無し	
49 図 1736	PJ-170	IG-539	橢円形石器	砂岩	64.7	73.0	22.4	0.89	90.0	0301	無し	
49 図 1737	PJ-170	IG-521	橢円形石器	砂岩	54.5	93.3	19.6	0.58	60.8	0302	無し	
49 図 1757	PJ-170	0-3-20	橢円形石器	砂岩	46.8	66.5	6.2	0.70	18.4	0302	無し	
49 図 1758	PJ-170	0-3-20	橢円形石器	頁岩	37.5	64.4	10.6	0.58	24.2	0300	無し	
51 国 1643	PJ-18	PJ-18	石錐	黒曜石	17.7	16.2	2.6	1.00	0.5	442b1-1b	無し	
51 国 1644	PJ-18	PJ-18	楔形石器	黒曜石	23.4	19.2	6.3	1.22	2.7	A1	無し	
51 国 1645	PJ-18	PJ-18	楔形石器	黒曜石	14.9	9.9	9.9	1.50	1.3	A1	無し	
51 国 1653	PJ-18	PJ-18	楔形石器	黒曜石	13.2	11.1	5.1	1.19	0.8	A1	無し	
51 国 1678	PJ-18 PT-183	PT-183	楔形石器	黒曜石	21.3	10.3	7.7	2.07	1.6	C1	無し	
51 国 1672	PJ-18 PT-183	PT-183 国 5	中・大形組製石器	頁岩	90.1	64.5	17.1	1.16	106.0	A3	無し	
51 国 1666	PJ-18	PJ-18	中・大形組製石器	砂岩	64.5	41.0	7.3	1.57	17.4	A1	無し	
52 国 1651	PJ-18	PJ-18	打製石斧	頁岩	45.5	52.0	9.5	1.26	39.7	BL18R00J1	無し	
52 国 1656	PJ-18	PJ-18 21	打製石斧	頁岩	95.8	48.0	12.4	1.99	59.7	BL18R00J1	無し	
52 国 1663	PJ-18	PJ-18	打製石斧	頁岩	72.8	48.3	12.6	1.51	54.6	BL18R00J1	無し	
52 国 1671	PJ-18	IG-42	打製石斧	頁岩	55.2	48.3	9.8	1.14	32.1	BL18R00J1	無し	
52 国 1655	PJ-18	PJ-18	砂錐	砂岩	110.8	45.8	13.9	2.42	88.9	AL(3+4)R302J2	無し	
52 国 1658	PJ-18	PJ-18 34	打製石斧	砂岩	112.8	42.0	12.6	2.69	84.2	AL20(3+4)R30J1	正面・上部一下部／正面・下部 抉りあり	左側縫再生
52 国 1657	PJ-18	PJ-18 26	橢円形石器	頁岩	35.0	77.7	6.3	0.45	17.6	0302	無し	
52 国 1662	PJ-18	PJ-18	橢円形石器	頁岩	47.2	64.4	10.7	0.73	36.7	0300	無し	
52 国 1664	PJ-18	PJ-18	橢円形石器	頁岩	45.8	83.4	7.7	0.56	34.7	0302	無し	
52 国 1665	PJ-18	PJ-18	橢円形石器	頁岩	50.0	107.6	19.8	0.46	85.9	0302	無し	
52 国 1667	PJ-18	PJ-18	橢円形石器	頁岩	57.9	86.0	12.0	0.67	60.9	0302	無し	
52 国 1668	PJ-18	PJ-18	橢円形石器	細粒砂岩	40.6	92.4	11.3	0.44	47.1	030(2+3)	無し	
52 国 1760	PJ-18	0-2-14	橢円形石器	砂岩	38.7	64.9	5.6	0.60	15.0	0302	打抜例、末期	
52 国 1677	PJ-18 PT-183	PT-183	橢円形石器	シート岩(頁岩)	46.0	88.0	13.5	0.52	55.5	0200	無し	
52 国 1761	PJ-18	0-2-14	側縫石器	黒曜石	41.9	43.6	15.0	0.96	25.5		無し	
52 国 1659	PJ-18	PJ-18	中・大形二段式の剥離のある剝片	頁岩	50.2	57.0	7.8	0.88	22.0		無し	
52 国 1669	PJ-18	PJ-18	中・大形二段式の剥離のある剝片	粘板岩	20.5	29.2	6.1	0.70	6.4		無し	
52 国 1646	PJ-18	PJ-18	小形不規則剥離のある剝片	黒曜石	33.8	21.1	8.0	1.80	4.5		無し	
52 国 1660	PJ-18	PJ-18	中・大形不規則剥離のある剝片	頁岩	70.5	32.6	7.9	2.16	14.9		左側縫。右側縫	
52 国 1675	PJ-18 PT-183	PT-183 国 8	中・大形不規則剥離のある剝片	頁岩	55.2	42.7	10.8	1.29	25.5		打製石斧の復元剥片素材	
52 国 1674	PJ-18 PT-183	PT-183 国 7	中・大形不規則剥離のある剝片	粘板岩	49.3	55.5	11.4	0.89	35.2		無し	
52 国 1652	PJ-18	PJ-18 5	流れをもつて剝離のある剝片	砂岩	62.5	82.7	27.2	0.75	140.6		無し	
54 国 1725	PJ-19	PJ-19 17	中・大型組製石器	頁岩	60.7	90.4	16.1	0.67	59.5	A3	正面・横み部上部、刃部／裏面・刃部	
54 国 1698	PJ-19	PJ-19	打製石斧	頁岩	108.1	83.5	19.9	1.30	76.4	AL18R00J1	無し	
54 国 1700	PJ-19	PJ-19	打製石斧	頁岩	95.9	40.3	11.9	2.38	57.6	AL18R00J1	正面・上部一下部／裏面・上部～下部	
54 国 1701	PJ-19	PJ-19	打製石斧	頁岩	40.3	52.5	11.7	0.77	35.3	AL18R00J1	正面・下部／裏面・下部	左側縫再生
54 国 1719	PJ-19	PJ-19 10	打製石斧	頁岩	46.1	37.7	10.6	1.22	18.2	AL18R00J1	無し	
54 国 1702	PJ-19	PJ-19	打製石斧	粘板岩	29.8	23.6	9.8	0.96	11.7	AL18R00J1	無し	
54 国 1703	PJ-19	PJ-19	打製石斧	細粒砂岩	57.9	43.9	16.2	1.32	48.1	AL18R00J1	無し	
54 国 1731	PJ-19 PT-106	PT-106	打製石斧	細粒砂岩	76.0	62.1	21.1	1.22	121.0	AL18R00J1	左側縫・下部／右側縫・下部／正面・下部／裏面・下部	
54 国 1703	PJ-19	PJ-19	打製石斧	砂岩	73.1	48.1	16.2	1.52	61.3	AL18R00J1	無し	
54 国 1709	PJ-19	PJ-19	打製石斧	砂岩	72.1	46.4	19.4	1.55	58.9	AL18R00J1	正面・上部／裏面・上部	
54 国 1722	PJ-19	PJ-19 15	打製石斧	砂岩	111.3	48.4	15.4	2.30	121.8	AL(2+3+4)R30J1	左側縫・上部／右側縫・上部／正面・上部一下部／裏面・上部～下部	
54 国 1726	PJ-19	IG-64	打製石斧	砂岩	100.1	56.3	28.8	1.78	177.9	BL(2+3)R30J1	無し	
54 国 1706	PJ-19	PJ-19	打製石斧	粘土鉱石	64.1	32.8	7.8	1.96	10.7	AL18R00J1	無し	

第5表 打製石器觀察表

図版番号	編成 道模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考
55 図 1720	PJ-19	PJ-19-11	打製石斧	黒田154	128.2	51.5	20.5	2.49	142.0	BLRK1J1	無し	刃部再生
55 図 1707	PJ-19	PJ-19	打製石斧	粘板岩	45.5	69.1	14.3	0.66	48.1	BLRK1J1	風化が甚しく、觀察が困難	
55 図 1705	PJ-19	PJ-19	横刃形石器	真岩	42.3	46.5	13.3	0.82	42.0	D3E	無し	
55 図 1718	PJ-19	PJ-19-10	横刃形石器	砂岩	53.0	76.1	12.9	0.70	58.8	D3E	無し	
55 図 1699	PJ-19	PJ-19	横刃形石器	黒田154	51.6	77.5	15.0	0.67	49.6	D3E	無し	
55 図 1717	PJ-19	PJ-19-1	軋石	砂岩	90.8	69.5	49.8	1.31	304.0		無し	
55 図 1697	PJ-19	PJ-19	鍛錬石器	細粒砂岩	49.7	85.8	14.7	0.58	60.3	B	無し	
55 図 1696	PJ-19	PJ-19	鍛錬石器	砂岩	48.8	83.8	7.3	0.58	33.6	A	無し	
55 図 1721	PJ-19	PJ-19-10	鍛錬石器	砂岩	57.9	86.5	6.9	0.67	36.5	A	無し	
55 図 1733-A	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	60.8	59.1	15.8	1.03	88.1		無し	
55 図 1733-B	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	44.1	65.9	20.3	0.67	66.5		正面・全周(少し盛り上がりしている箇所のみ) / 背面・全周(少し盛り上がりしている箇所のみ)	
55 図 1733-C	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	55.4	42.2	29.7	1.31	49.2		正面・全周(少し盛り上がりしている箇所のみ)	
55 図 1733-D	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	49.2	65.6	15.6	0.75	79.5		無し	
55 図 1733-E	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	60.2	52.5	19.1	1.15	92.6		無し	
55 図 1733-F	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	58.8	33.1	15.3	1.78	36.9		無し	
55 図 1733-G	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	35.5	39.8	9.3	0.89	15.5		正面・全周(少し盛り上がりしている箇所のみ) / 背面・全周(少し盛り上がりしている箇所のみ)	
55 図 1733-H	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	41.2	47.7	11.1	0.86	21.7		無し	
55 図 1733-I	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	29.1	31.4	13.6	0.90	13.8		無し	
55 図 1733-J	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	24.2	32.5	11.5	0.74	9.4		無し	
55 図 1733-K	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	40.1	27.4	9.8	1.46	11.2		無し	
55 図 1733-L	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	46.5	35.6	19.0	1.31	31.6		無し	
55 図 1733-M	PJ-19	PJ-19	側縫石器	泥岩	41.9	31.2	11.1	1.34	15.3		無し	
55 図 1692	PJ-19	PJ-19	小形手造削剝離の ある剥片	高麗岩	23.4	18.1	7.2	1.29	1.7		無し	
55 図 1695	PJ-19	PJ-19	中・大形二重的削 離のもの剥片	頁岩	61.5	54.0	18.4	1.14	65.9		無し	
55 図 1708	PJ-19	PJ-19	流れの伴う剝離の ある剥片	頁岩	52.5	27.9	10.5	1.88	11.8		無し	
59 図 1821	PJ-20	D-2-5	石鏡	高麗岩	11.0	10.4	2.4	1.06	0.3	4A/F-5	左側縫?右側縫?	
59 図 1835	PJ-20	PJ-20-56	石鏡	高麗岩	15.4	12.5	3.8	1.23	0.5	4A/F-5	無し	先端再生?
59 図 1838	PJ-20	PJ-20-53	石鏡	高麗岩	19.0	17.0	4.4	1.12	1.1	3B2b1-1b	無し	
59 図 1788-1	PJ-20	PJ-20-53	石鏡未製品	高麗岩	19.5	15.6	3.1	1.25	0.8	4B1c	無し	
59 図 1788-2	PJ-20	PJ-20-53	石鏡未製品	高麗岩	20.4	18.3	4.3	1.11	0.9	分類不可	無し	
59 図 1788-3	PJ-20	PJ-20-53	石鏡未製品	高麗岩	17.4	14.8	2.8	1.18	0.5	分類不可	無し	
59 図 1788-0	PJ-20	PJ-20-53	石鏡未製品	高麗岩	9.2	16.9	6.7	0.55	0.8	分類不可	無し	
59 図 1788-4	PJ-20	PJ-20-53	楔形石器	高麗岩	15.8	14.6	3.7	1.09	0.7	AII	無し	
59 図 1788-9	PJ-20	PJ-20-53	楔形石器	高麗岩	23.6	9.3	7.4	2.54	1.7	C1	無し	
59 図 1822	PJ-20	D-2-5	楔形石器	高麗岩	41.9	24.8	17.2	1.69	19.8	B2	無し	
59 図 1788-6	PJ-20	PJ-20-53	小形石鏡	高麗岩	23.2	29.8	9.8	0.78	6.6		無し	
59 図 1865	PJ-20	PJ-20	小形石鏡	高麗岩	28.6	31.2	27.8	0.92	14.0		無し	
60 国 1790	PJ-20	PJ-20	中・大形粗面石點	砂岩	83.6	34.9	9.7	2.40	28.0	E1	正面・拂み部→刃部・裏面・拂み部 →一部	
60 国 1521	PJ-20	PJ-16-52	打製石斧	頁岩	129.0	49.7	16.6	2.60	127.7	BLRDK1J1 + E1K1J1	正面・上部～下部、裏面・上部～下 部	
60 国 1792	PJ-20	PJ-20	打製石斧	頁岩	63.8	71.5	13.1	0.89	71.4	BLRDK1J1	無し	
60 国 1839	PJ-20	PJ-20-84	打製石斧	頁岩	126.2	49.2	13.9	2.6	95.8	BLRDK1J1	無し	
60 国 1522	PJ-20	PJ-16-53	打製石斧	細粒砂岩	117.6	56.2	20.1	2.09	145.4	BLRDK1J1	無し	
60 国 1800	PJ-20	PJ-20	打製石斧	砂岩	80.2	31.1	19.9	2.58	40.0	BLRDK1J1	無し	
60 国 1867	PJ-20	D-3-5	打製石斧	砂岩	75.5	59.2	17.6	1.27	117.6	BLRDK1J1	無し	
60 国 1851	PJ-20	PJ-20-81	打製石斧	砂岩	84.0	46.8	18.9	1.79	35.6	BLRDK1J1	正面・上部～中央・裏面・中央 右側縫。刃部再生	
60 国 1855	PJ-20	PJ-20-27	打製石斧	砂岩	82.4	53.4	23.2	1.54	121.0	AII2 + BLRDK1J1	正面・上部～中央、裏面・上部～中 央失	
60 国 1869	PJ-20	PJ-20-32	打製石斧	砂岩	77.5	93.8	13.6	1.44	75.4	BLRDK1J1	無し	
60 国 1819	PJ-20	D-2-5	打製石斧	黒田154	44.8	63.2	11.3	0.71	35.7	BLRDK1J1	無し	
60 国 1853	PJ-20	PJ-20-102	打製石斧	黒田154	84.3	63.3	18.5	1.33	101.0	BLRDK1J1	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
60 図 1789	FJ-20		打製石斧	粘板岩	45.9	34.8	11.8	1.32	26.2	BLIRKIJU	無し	
60 図 1852	FJ-20	66	打製石斧	粘板岩	81.4	68.3	21.3	1.19	122.0	BLIRKIJU	無し	
60 図 1844	FJ-20	20-42	破刃形石器	安山岩	51.0	89.2	16.2	0.57	77.8	0002	無し	
60 図 1798	FJ-20		破刃形石器	頁岩	26.0	79.9	5.9	0.32	12.0	0002	無し	
60 図 1812	FJ-20	9-2-4	破刃形石器	頁岩	33.1	65.2	7.2	0.51	17.7	0002	無し	打製石斧の調整削除素材
60 図 1825	FJ-20	D-2-24	破刃形石器	頁岩	68.1	51.9	10.4	1.30	37.5	0002	無し	
60 図 1831	FJ-20	20-74	破刃形石器	頁岩	39.4	74.9	5.6	0.53	18.2	0 (1+2)M2	無し	
60 図 1842	FJ-20	20-58	破刃形石器	頁岩	56.7	96.0	10.3	0.59	55.4	0002	無し	
60 図 1796	FJ-20	PJ-20	破刃形石器	砂岩	51.9	84.1	6.4	0.62	24.3	0002	末端	
60 図 1830	FJ-20	PJ-20 43	破刃形石器	砂岩	72.6	90.5	17.2	0.43	111.1	0 (3M+1+2)	無し	
60 図 1840	FJ-20	PJ-20 44	破刃形石器	砂岩	40.0	80.6	6.5	0.53	26.9	0002	末端	
60 図 1846	FJ-20	PJ-20 60	破刃形石器	砂岩	40.0	100.2	16.6	0.40	54.9	0002	無し	
60 図 1793	FJ-20		破刃形石器	粘板岩	59.3	75.5	14.3	0.79	71.7	0002	無し	
60 図 1824	FJ-20	D-2-25	破刃形石器	粘板岩	46.2	75.9	7.3	0.61	24.5	000 (1+2)	無し	
60 図 1850	FJ-20	PJ-20 63	破刃形石器	粘板岩	41.5	91.4	19.4	0.45	62.1	0002	無し	剥片の可能性
60 図 1854	FJ-20	PJ-20 7	破刃形石器	粘板岩	74.5	96.8	21.4	0.77	143.0	0002	無し	
60 図 1857	FJ-20	PJ-20 5	破刃形石器	粘板岩	94.5	115.8	14.1	0.82	145.0	0002	無し	
60 図 1866-B	FJ-20	PJ-20 4	破刃形石器	粘板岩	72.0	40.0	34.1	1.80	72.3	0002	無し	FJ-20 の 1866-A と接合
60 図 1870	FJ-20	10-11	磨縫加工石器	燧石	79.7	63.6	23.7	1.28	161.0		無し	磨縫を造りを作り斜面に よって精円形に整形
60 図 1845	FJ-20	PJ-20 45	磨縫石器	砂岩	53.2	126.4	17.3	0.44	121.0	A	上端 / 下端	
60 図 1806	FJ-20	D-3-5	側縫石器	泥岩	63.6	55.2	22.0	1.15	93.6		無し	
60 図 1826	FJ-20	D-2-24	側縫石器	泥岩	56.2	50.8	13.2	1.15	34.1		無し	
60 図 1847	FJ-20	PJ-20 69	側縫石器	泥岩	44.2	82.7	18.2	0.53	77.8		無し	
61 図 1788-5	FJ-20	PJ-20 53	小形二次的剝離の ある剝片	黑曜石	25.1	29.3	9.0	0.86	4.2		無し	
61 図 1788-7	FJ-20	PJ-20 53	小形二次的剝離の ある剝片	黑曜石	19.2	16.4	3.7	1.17	0.7		無し	
61 図 1860	FJ-20	PJ-20 77	中・大形二次の剝離 のある剝片	砂岩	52.7	72.8	12.3	0.72	45.3		無し	
61 図 1794	FJ-20		中・大形不規則剝離 のある剝片	砂岩	114.5	54.2	20.1	2.11	90.6		無し	打製石斧用
61 図 1859	FJ-20	PJ-20 96	中・大形不規則剝離 のある剝片	砂岩	64.1	60.4	10.0	1.06	39.6		無し	
61 図 1837	FJ-20	PJ-20 15	中・大形不規則剝離 のある剝片	粘板岩	74.6	95.1	14.9	0.78	117.0		無し	
61 図 1843	FJ-20	PJ-20 16	流れを作る剝離の ある剝片	砂岩	86.4	79.8	26.5	1.06	244.0		無し	
61 図 1866- A6	FJ-20	PJ-20 4	流れを作る剝離の ある剝片と剝片の 接着資料	粘板岩	72.2	61.5	24.3	1.17	106.0		無し	
62 国 1877	FJ-21	PJ-21 22	中・大型磨製石器	粘板岩	114.4	40.2	14.1	2.85	70.6	B2	無し	
62 国 1875	FJ-21	PJ-21 19	打製石斧	頁岩	112.0	49.0	15.3	2.31	81.5	BL (2+3)R (0)JU	無し	石器の可能性
62 国 1896	FJ-21	D-3-9	打製石斧	頁岩	36.1	39.5	10.7	0.89	20.9	BLIRKIJU	無し	
62 国 1879	FJ-21	D-3-9	打製石斧	頁岩	89.0	28.0	11.2	3.19	32.6	BLIRKIJU	無し	
62 国 1871	FJ-21	PJ-21 21	打製石斧	細粒砂岩	166.7	66.1	27.4	2.52	276.0	AL2R (0)JU	左側縫：上部 / 右側縫：上部	
62 国 1872	FJ-21	PJ-21 4	打製石斧	砂岩	101.8	47.6	18.2	2.14	111.5	AL (2+3)R (0)JU	右側縫：下部 / 正面：上部～下部 / 裏面：下部	
62 国 1878	FJ-21	PJ-21 31	打製石斧	砂岩	115.1	49.3	25.6	2.34	156.3	AL2R (2+4)R (0)JU	無し	
62 国 1881	FJ-21		打製石斧	粘板岩	45.6	41.8	20.6	1.09	31.2	BLIRKIJU	無し	
62 国 1895	FJ-21	D-3-9	打製石斧	粘板岩	56.4	73.3	12.5	0.77	79.2	BLIRKIJU	無し	
62 国 1895	FJ-21	D-3-9	打製石斧	粘板岩	62.9	58.8	18.6	1.59	134.6	ALIRKIJU	無し	
62 国 1888	FJ-21		模刃形石器	頁岩	50.3	54.1	8.2	0.56	20.1	0 (1+2)M2	無し	
62 国 1901	FJ-21	D-3-9	模刃形石器	細粒砂岩	48.0	82.5	12.5	0.56	61.4	0002	無し	
62 国 1879	FJ-21	PJ-21 73	模刃形石器	粘板岩	63.5	80.5	30.1	0.79	111.0	0002	無し	
62 国 1899	FJ-21	D-3-9	模刃形石器	粘板岩	48.1	86.2	17.4	0.56	65.7	0002	無し	
62 国 1876	FJ-21	PJ-21 23	側縫石器	泥岩	58.4	76.6	16.9	0.36	92.0		無し	
62 国 1893	FJ-21	D-3-9	中・大型二次の剝離 のある剝片	安山岩	64.6	53.5	12.7	1.21	56.2		無し	
62 国 1897	FJ-21	D-3-9	中・大型二次の剝離 のある剝片	粘板岩	42.7	60.5	17.7	0.71	45.2		無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考	
62 図 1874	PJ-21	PJ-21 1B	中・大型不規則削 離のあら片	頁岩	51.8	81.0	16.9	0.64	57.8	無し			
62 図 1894	PJ-21	D-3-9	中・大型不規則削 離のあら片	粘土質	34.9	51.2	8.8	0.66	12.4	無し			
62 図 1873	PJ-21	10	流れ合わせた剝離の あら片	頁岩	77.4	82.0	9.9	0.94	86.9	無し			
63 図 1784	PJ-22	PJ-22	打製石斧	頁岩	110.2	61.8	15.0	1.78	107.0	B(IRIKU)	無し		
63 図 1776	PJ-22	1G-663	打製石斧	砂岩	75.8	34.9	27.9	1.01	148.0	B(IRIKU)	無し		
63 図 1775	PJ-22	D-3-12	後刃形石器	頁岩	44.0	49.9	14.5	0.88	39.2	D(I+Z)	無し		
63 図 1767	PJ-22	PJ-22 13	横刃形石器	頁岩	52.1	61.7	9.3	0.85	32.0	D(I+Z)	無し		
63 図 1782	PJ-22	PJ-22	横刃形石器	砂岩	42.2	47.5	9.2	0.91	17.3	D(I+Z)	無し		
63 図 1772	PJ-22	D-3-13	側縁石器	細粒砂岩	69.9	59.7	16.5	1.17	85.5	無し			
63 図 1783	PJ-22	PJ-22	側縁石器	砂岩	95.8	50.7	19.1	1.89	76.6	無し			
63 図 1785	PJ-22	PJ-22	中・大型二重的削 離のあら片	砂岩	90.7	53.7	10.2	1.75	45.5	無し		「二次的削離」は剝離時の削 離面か	
63 図 1769	PJ-22	D-3-17	小斜面削離剝離の あら片	墨岩	29.1	18.5	6.0	1.57	2.2	無し			
63 図 1779	PJ-22	PJ-22	小斜面削離剝離の あら片	墨岩	21.7	13.4	3.2	1.62	0.7	無し			
66 図 1925	PJ-23	PJ-23	楔形石器	墨岩	24.0	15.2	8.2	1.59	2.0	C1	無し		
66 図 1940	PJ-23	PJ-23 61	両端石器	砂岩	97.4	50.4	20.8	1.90	135.0	A2	無し	左側縁の棟上に流れを伴う 剝離あり	
66 図 1933	PJ-23	PJ-23 60	中・大型粗製石器	頁岩	79.8	75.1	12.2	1.06	62.4	A3	無し		
66 図 1939	PJ-23	PJ-23 68	中・大型粗製石器	頁岩	101.7	59.2	13.3	1.72	76.9	A1	無し		
66 図 1918	PJ-23	PJ-23 1	打製石斧	頁岩	116.2	57.2	18.1	2.03	120.0	B(I+Z)R(I+Z) KUJ	無し		
66 図 1919	PJ-23	PJ-23 2	打製石斧	頁岩	133.2	56.5	14.0	2.36	112.0	B(I+Z)R(I+Z)KUJ	無し		
66 図 1920	PJ-23	PJ-23 3	打製石斧	頁岩	139.0	54.5	14.7	2.55	101.0	B(I+Z)R(I+Z)KUJ	無し		
66 図 1929	PJ-23	PJ-23	打製石斧	頁岩	111.6	53.4	12.6	2.09	89.9	B(RK)UJ	左側縁：中央～下部 / 右側縁：中央 ～下部		
66 図 1936	PJ-23	PJ-23 43	打製石斧	頁岩	91.2	51.6	11.9	1.77	66.3	A(LIR)KUJ	無し		
66 図 1935	PJ-23	PJ-23 51	打製石斧	砂岩	99.2	46.3	25.9	2.14	138.0	B(I+Z)R(I+Z) KUJ	無し		
66 図 1938	PJ-23	PJ-23 50	打製石斧	砂岩	109.2	54.3	19.1	2.01	140.0	B(I+Z)R(I+Z) KUJ	左側縁：中央～下部 / 右側縁：中央 ～下部		
66 図 1943	PJ-23	PJ-23 1	打製石斧	砂岩	140.4	49.9	23.5	2.81	161.0	B(I+Z)R(I+Z) KUJ	左側縁：中央～下部 / 右側縁：中央 ～下部		
66 図 1922	PJ-23	PJ-23 5	打製石斧	砂岩	104.9	51.8	15.0	2.03	82.5	B(IR)KUJ	無し		
66 図 1942	PJ-23	PJ-23 53	打製石斧	砂岩	129.5	55.7	21.2	2.33	155.0	B(I+Z)R(I+Z) KUJ	正面：中央～下部 / 背面：中央～下 部		
66 図 2340	PJ-23	G-2-20	横刃形石器	頁岩	65.9	58.7	18.3	1.12	44.4	D(I+Z)	無し		
66 図 1934	PJ-23	PJ-23 35	横刃形石器	砂岩	71.7	110.1	15.2	0.65	78.0	D(I+Z)	無し		
66 図 1932	PJ-23	PJ-23	ヘラ状石器	頁岩	73.7	40.1	10.7	1.84	39.7	無し			
66 図 1927	PJ-23	PJ-23	中・大型二重的削 離のあら片	綠色砂岩	67.5	60.1	17.5	1.12	81.9	無し			
66 図 1931	PJ-23	PJ-23	中・大型不規則削 離のあら片	頁岩	69.8	39.6	10.3	1.76	26.6	無し		打製石斧軸用	
66 図 1937	PJ-23	PJ-23 2	中・大型不規則削 離のあら片	頁岩	74.9	99.5	10.3	0.75	70.8	無し			
66 図 2282	PJ-24	PJ-24 5	打製石斧	球状頁岩	58.7	40.6	11.8	1.44	42.3	B(IR)KUJ	正面：下部 / 背面：下部 左側縁：右側縁再生		
66 図 2335	PJ-24	PT-184	PT-184 図 3	打製石斧	頁岩	123.6	52.4	17.4	2.36	107.1	B(IR)KUJ	左側縁：下部 / 右側縁：下部 / 正面 背面：下部	
66 図 2283	PJ-24	PJ-24 6	打製石斧	砂岩	72.2	49.6	16.9	1.45	69.0	B(RK)UJ	左側縁：上部 / 右側縁：上部 / 正面 背面：上部		
66 図 2280	PJ-24	PJ-24 3	側縁鍛錬石器	砂岩	34.7	66.2	7.6	0.52	14.9	A	無し		
66 図 2277	PJ-24	PJ-24	小斜面削離剝離の あら片	墨岩	11.8	11.3	4.6	1.05	0.2	無し			
73 国 2001	PJ-25	G-3-4	石鎚	頁岩	19.6	15.5	2.7	1.27	0.2	42b(I-1b)	無し		
73 国 1999	PJ-25	1G-23	楔形石器	墨岩	22.7	10.0	6.5	2.26	1.2	C3	無し		
73 国 2007	PJ-25	G-3-9	小形石鎚	墨岩	25.2	8.0	5.2	3.16	0.8	2F	未吸（椎部先端）		
73 国 1952	PJ-25	PJ-25 43	打製石斧	頁岩	101.1	50.5	15.0	2.00	94.1	B(IR)KUJ	左側縁：下部 / 右側縁：下部 / 背面		
73 国 1953	PJ-25	PJ-25 69	打製石斧	頁岩	88.2	54.5	11.5	1.62	53.2	B(IR)KUJ	無し		
73 国 1958	PJ-25	PJ-25 58	打製石斧	頁岩	68.2	29.7	10.5	2.29	26.8	B(IR)KUJ + 3(K)J 1	右側縁：下部 / 背面：下部		

第 5 表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
73 図 1962	PJ-25	PJ-25_60	打製石斧	頁岩	47.0	46.1	16.8	1.02	45.3	BLIRIKUJI	無し	右側縫再生
73 図 1963	PJ-25	PJ-25_70	打製石斧	頁岩	76.7	56.0	23.6	1.37	114.0	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1991	PJ-25	10-571	打製石斧	頁岩	42.4	48.5	10.7	1.29	37.5	BLIRIKUJI	右側縫：下部／正面：下部	
73 図 2000	PJ-25	0-3-8	打製石斧	頁岩	71.5	55.9	11.8	1.26	48.2	BLIRIKUJI	無し	
73 図 2009	PJ-25	0-3-9	打製石斧	頁岩	89.5	56.1	14.0	1.60	74.8	BLIRIKUJI	左側縫：下部／右側縫：下部／正面：下部	
73 図 2020	PJ-25	0-3-15	打製石斧	頁岩	18.3	21.4	6.8	0.86	3.9	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1964	PJ-25	PJ-25_115	研磨砂舟	細粒砂岩	94.5	50.3	16.2	1.88	99.6	BL(2+3)R(2+3)KUJI	右側縫：中央／右側縫：中央	
73 図 1967	PJ-25	PJ-25_65	打製石斧	細粒砂岩	90.9	52.7	11.7	1.73	69.5	BLIRIKUJI	左側縫：下部／右側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
73 図 1998	PJ-25	10-594	打製石斧	細粒砂岩	101.5	51.6	14.9	1.97	113.0	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1971	PJ-25	PJ-25_85	打製石斧	砂岩	92.3	57.0	17.3	1.62	104.0	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1968	PJ-25	10-568	打製石斧	砂岩	46.4	71.1	12.2	0.65	50.3	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1992	PJ-25	10-596	打製石斧	砂岩	105.3	61.1	21.2	1.72	127.0	BLIRIKUJI	左側縫：中央～下部／裏面：中央～下部	
73 図 1954	PJ-25	PJ-25_75	打製石斧	粘土質砂岩	61.1	51.3	25.6	1.19	86.1	BLIRIKUJI	無し	
73 図 2010	PJ-25	0-3-10	打製石斧	粘土質砂岩	28.1	45.0	12.7	0.62	18.6	BLIRIKUJI	無し	
73 図 1955	PJ-25	PJ-25_71	研磨砂舟	頁岩	50.0	105.4	13.4	0.47	78.0	OBM(I+Z)	無し	
73 図 1960	PJ-25	PJ-25_77	研磨砂舟	頁岩	61.0	63.6	10.2	0.73	39.3	OBK2	無し	
73 図 1997	PJ-25	10-566	研磨砂舟	頁岩	50.9	78.2	11.1	0.65	33.3	OBK2	末端	
73 図 2005	PJ-25	0-3-8	研磨砂舟	頁岩	52.4	72.9	8.7	0.72	36.3	OBK2	無し	
73 図 2021	PJ-25	10-515	研磨砂舟	頁岩	57.2	62.4	22.9	0.30	95.6	OBK2	無し	
73 図 1957	PJ-25	PJ-25_57	研磨砂舟	砂岩	43.7	63.4	15.0	0.69	43.0	OBK2	無し	
73 図 1965	PJ-25	PJ-25_118	研磨砂舟	砂岩	55.8	90.4	12.6	0.62	73.7	OBK2	右側縫	
73 図 2025	PJ-25	0-3-15	研磨砂舟	砂岩	37.0	76.3	9.8	0.48	31.5	OBK2	無し	打製石斧の調整削片素材
73 図 1969	PJ-25	10-571	側縫石器	泥岩	84.3	77.8	18.6	1.08	196.0		三面：全面（少し擦り上りがっている箇所のみ）/裏面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）	
73 図 2023	PJ-25	0-3-15	側縫石器	泥岩	39.5	57.9	7.5	0.68	17.9		無し	不規則剥離のある削片の可塑性
73 図 2015	PJ-25	0-3-14	小形不規則剥離のある削片	珪質頁岩	36.4	60.1	9.2	0.61	17.1		無し	
73 図 2016	PJ-25	0-3-14	中・大形不規則剥離のある削片	頁岩	72.2	46.1	13.8	1.59	56.3		正面：下部／左側縫	打製石斧軸用
73 図 1970	PJ-25	PJ-25_105	中・大形不規則剥離のある削片	細粒砂岩	92.7	93.6	33.2	1.00	245.0		無し	
73 図 2027	PJ-25	0-3-10	中・大形不規則剥離のある削片	粘土質砂岩	30.0	46.7	6.4	0.64	7.5		無し	
76 図 2285	PJ-26	Ph-1	石器未製品	黑曜石	19.0	13.9	3.4	1.36	0.5	分類不可	無し	
76 図 2312	PJ-26	PJ-26	打製石斧	頁岩	61.1	42.2	11.5	1.41	35.0	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2325	PJ-26	PJ-26_15	打製石斧	頁岩	100.6	50.7	11.6	1.96	62.8	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2326	PJ-26	PJ-26_23	打製石斧	頁岩	62.1	47.1	12.4	1.32	51.2	BLIRIKUJI	右側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
76 図 2296	PJ-26	Ph-1	打製石斧	砂岩	76.8	56.6	14.4	1.36	67.3	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2290	PJ-26	Ph-1	打製石斧	砂岩	56.6	49.8	14.9	1.14	43.7	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2300	PJ-26	B-2-24	打製石斧	砂岩	105.4	49.9	20.4	2.11	121.0	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2316	PJ-26	PJ-26	打製石斧	砂岩	36.2	27.3	16.8	1.02	23.8	BLIRIKUJI	無し	
76 図 2331	PJ-26	PJ-26_42	打製石斧	砂岩	74.0	51.3	21.1	1.44	54.3	BLIRIKUJI	左側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
76 図 2319	PJ-26	10-578	打製石斧	粘土質砂岩	74.3	39.8	17.7	1.87	56.0	BLIRIKUJI	無し	
77 国 2320	PJ-26	10-576	块状石器	研磨砂舟	44.2	55.9	7.3	0.79	21.9	OBK2	打製石斧の調整削片素材	
77 国 2289	PJ-26	Ph-1	研磨砂舟	砂岩	37.9	68.1	13.4	0.56	30.4	OBK2	無し	
77 国 2324	PJ-26	PJ-26_11	研磨砂舟	安山岩	81.5	114.5	19.0	0.71	220.0	OBK2	無し	
77 国 2305	PJ-26	PJ-26	块状石器	砂岩	76.6	71.8	19.0	1.07	90.3	OBK2	打製石斧軸用	
77 国 2311	PJ-26	PJ-26	研磨砂舟	頁岩	32.9	37.1	6.2	0.89	8.8	OBK2	末端	
77 国 2298	PJ-26	B-2-23	周縁加工石器	砂岩	77.7	50.8	12.4	1.53	62.2		無し	周縁を走る伴う剝離によって規則的に整形
77 国 2306	PJ-26	PJ-26	側縫石器	安山岩	82.6	89.2	16.6	0.93	97.8		無し	
77 国 2310	PJ-26	PJ-26	側縫石器	安山岩	122.2	69.7	13.6	1.75	154.7		無し	
77 国 2317	PJ-26	PJ-26	側縫石器	安山岩	56.8	58.9	16.2	0.97	68.5		正面：全面（少し擦り上りがっている箇所のみ）/裏面：全面（少し擦り上がっている箇所のみ）	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編 道 模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考
77 図 2322	PJ-26	S-5	側縁石器	安山岩	96.1	75.1	21.2	1.28	205.0	無し		
82 図 2229	PJ-27	B-3-5	石鏡	黒曜石	22.5	14.5	4.1	1.56	1.0	EBIIb2-2b	無し	
82 図 2263	PJ-27	PJ-27 70	石鏡	黒曜石	15.4	17.9	2.9	0.86	0.3	34Bb1-2e	無し	
82 図 2255	PJ-27	PJ-27	石鏡未製品	黒曜石	21.9	19.9	7.4	1.10	2.4	40Fc	無し	
82 図 2210	PJ-27	C-2-21	複射石器	黒曜石	15.0	14.6	7.3	1.03	1.2	上:下:斜/左:右:直	無し	
82 図 2253	PJ-27	PJ-27	複射石器	黒曜石	15.4	11.8	6.4	1.31	1.1	A1	無し	
82 図 2262	PJ-27	PJ-27 67	打製石斧	真岩	97.8	51.5	19.2	1.90	89.2	BLIRIKIJU	右側縁:下部/正面:下部/裏面:下部	
82 図 2271	PJ-27	PJ-27 138	打製石斧	結晶片岩	97.4	63.1	30.4	1.54	244.0	BLIRIKIJU	無し	
82 図 2252-A	PJ-27	PJ-27	打製石斧	砂岩	60.0	46.2	19.9	1.30	82.3	BLIRIKIJU	無し	
82 図 2252-B	PJ-27	PJ-27	打製石斧	砂岩	29.3	39.7	13.5	0.74	25.3	BLIRIKIJU	無し	
82 図 2272	PJ-27	I0-606	打製石斧	砂岩	89.4	32.2	21.7	1.71	111.0	ALIRIKIJU	無し	
82 図 2269	PJ-27	PJ-27 131	打製石斧	結晶片岩	96.1	49.9	11.0	1.22	57.1	BLIRIKIJU	左側縁:下部/右側縁:下部/正面:下部/裏面:下部	
82 図 2036	PJ-27	C-3-6	横刃石刀器	砂岩	45.7	78.0	8.8	0.59	33.8	D0E	無し	
82 図 2249	PJ-27	PJ-27	横刃石刀器	砂岩	54.8	80.4	15.3	0.68	75.0	D0E	無し	
82 図 2260	PJ-27	PJ-27 16	横刃石刀器	結晶片岩	71.2	59.4	13.9	1.20	56.7	B	無し	打製石斧の誤認剥片素材?
82 図 2361	PJ-27	I0-688	側縁石器	真岩	81.1	71.6	15.5	1.13	127.0		無し	
82 図 2250	PJ-27	PJ-27	側縁石器	砂岩	37.7	48.6	16.4	0.78	30.5		正面:全面(少し盛り上がりがっている箇所のみ)/裏面:全面(少し盛り上がりがっている箇所のみ)	
82 図 2029	PJ-27	C-3-1	側縁石器	真岩	36.7	40.3	12.9	0.91	24.1		正面:全面(少し盛り上がりがっている箇所のみ)/裏面:全面(少し盛り上がりがっている箇所のみ)	
82 図 2230	PJ-27	B-3-5	小斜不規則剥離のあら剥片	黒曜石	30.3	31.6	10.1	0.96	5.8		無し	
82 図 2252-C	PJ-27	PJ-27	中・大型不規則剥離のあら剥片	砂岩	29.2	32.0	6.2	0.91	5.7		無し	
85 図 2199	PJ-28	PJ-28 12	中・大型粗製石點	真岩	58.2	49.6	11.1	1.17	27.1	A3	無し	
85 図 2044	PJ-28	C-3-2	打製石斧	真岩	73.6	47.7	14.3	1.58	71.4	ALIRIKIJU	無し	
85 図 2205	PJ-28	I0-639	打製石斧	砂岩	82.9	52.9	17.4	1.57	90.2	BLIRIKIJU	無し	
85 図 2196	PJ-28 2	打製石斧	砂岩	104.9	49.4	23.9	2.12	153.0	BLIRIKIJU	無し		
85 図 2198	PJ-28	PJ-28 6	打製石斧	砂岩	99.2	54.8	20.4	1.81	137.0	BLIRIKIJU	左側縁:下部	
85 図 2202	PJ-28	I0-690	打製石斧	砂岩	114.7	51.0	18.9	2.25	127.0	BL(2+3)R(2+3)KIJU	左側縁:下部/右側縁:下部/正面:下部/裏面:下部	
85 図 2041	PJ-28	C-3-2	横刃石刀器	真岩	42.5	79.3	7.2	0.54	25.2	D0E	無し	
85 図 2042	PJ-28	C-3-2	横刃石刀器	結晶片岩	47.9	77.3	14.0	0.62	40.9	D0E	無し	
85 図 2195	PJ-28	PJ-28	小斜一次的剥離のあら剥片	黒曜石	19.2	18.1	8.2	1.06	1.9		無し	
85 図 2206	PJ-28	I0-638	中・大型二次的剥離のあら剥片	真岩	58.7	58.4	22.1	1.01	74.9		無し	
85 図 2220	PJ-28	C-2-22	小斜不規則剥離のあら剥片	黒曜石	21.6	18.3	4.9	1.18	1.4		無し	
79 国 2171	PJ-29	PJ-29 1	打製石斧	細粒砂岩	103.9	54.5	24.1	1.91	146.0	BL(2+4)R(2+4)KIJU	無し	
79 国 2172	PJ-29	PJ-29 2	打製石斧	砂岩	89.7	52.1	19.3	1.72	84.7	BL(2+3)R(2+3)KIJU	無し	
79 国 2173	PJ-29	PJ-29 3	打製石斧	砂岩	71.6	55.5	19.0	1.29	66.3	ALIRIKIJU	正面:下部/裏面:下部	
79 国 2175	PJ-29	I0-678	打製石斧	砂岩	79.4	45.1	23.4	1.76	95.3	BLIRIKIJU	無し	
79 国 2155	PJ-29	C-2-11	横刃石刀器	結晶片岩	124.0	45.9	9.3	2.70	59.8	B		打製石斧転用
79 国 2187	PJ-29	C-2-16	側縁石器	真岩	68.7	55.5	20.3	1.24	82.4		無し	
79 国 2180	PJ-29	B-2-15	小斜不規則剥離のあら剥片	黒曜石	9.6	13.8	3.3	0.70	0.4		無し	
63 国 2050	PJ-31	I0-551	打製石斧	砂岩	100.7	51.4	24.3	1.96	141.0	BL(2+3)KIJU	無し	
63 国 2047	PJ-32	C-3-23	側縁石器	真岩	66.8	50.1	16.6	1.33	46.2		無し	
90 国 0962	PJ-33	G-3-3	複射石器	黒曜石	32.0	31.5	17.7	1.02	13.7	E1	無し	
89 国 0583-B	PJ-33	G-3-12	複射石器	黒曜石	19.2	14.5	5.0	1.33	1.0	□	無し	
89 国 0483	PJ-33	I0-384	小斜石核	黒曜石	25.8	21.6	17.9	1.20	8.8		無し	
89 国 0559	PJ-33	G-3-2	小斜石核	黒曜石	49.6	31.5	20.1	1.57	25.1		無し	
90 国 0561	PJ-33	G-3-3	中・大型粗製石點	真岩	61.7	77.3	16.9	0.80	48.4	A1	無し	
89 国 0466	PJ-33	I0-65	中・大型粗製石點	結晶片岩	65.4	34.8	15.6	1.88	35.1	A6	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
90 図 0477	PJ-33	10-377	中・大形縫合石器	粘板岩	10.2	65.4	18.8	1.27	76.9	A1	無し	
90 図 0489	PJ-33	10-392	中・大形縫合石器	緑色岩	10.3	31.8	14.0	3.47	54.9	A1	左側縫(刃部)、右側縫(刃部)	
90 図 0491	PJ-33	10-395	中・大形縫合石器	粘板岩	218.5	170.1	65.8	1.35	230.0		無し	
89 図 0467	PJ-33 PT-053	10-65	打製石斧	頁岩	114.7	52.8	18.8	2.17	124.0	BL2R(K)J1	左側縫:中央～下部/正面:中央～下部	
90 図 0487	PJ-33	10-389	打製石斧	頁岩	133.5	57.7	10.7	2.31	87.2	BL1R(K)J1	無し	
90 図 0570	PJ-33	0-3-11	打製石斧	頁岩	86.7	51.1	16.0	1.70	86.4	BL(2+3+4)KJ1	ほぼ全面風化?	
89 図 0595	PJ-33	0-3-13	打製石斧	頁岩	46.3	39.8	17.8	1.16	43.2	BL1R(K)J1	無し	
89 図 0469	PJ-33	10-273	打製石斧	細粒砂岩	85.1	50.0	25.1	1.76	129.0	BL1R(3+4)KJ1	正面:中央～下部	左側縫再生
90 図 0471	PJ-33	10-359	打製石斧	細粒砂岩	102.4	39.6	10.2	2.59	52.3	BL1R(3+4)KJ1	無し	
90 図 0485	PJ-33	10-387	打製石斧	細粒砂岩	140.4	57.2	24.1	2.46	219.0	BL1R(K)J1	左側縫:上部～中央/正面:上部～中央/裏面:上部～中央	右側縫再生
90 図 0572	PJ-33	0-3-11	打製石斧	細粒砂岩	66.6	76.7	20.7	0.87	125.0	BL1R(K)J1	無し	
89 図 0595	PJ-33	0-3-13	打製石斧	細粒砂岩	96.7	41.9	16.2	2.31	81.9	BL1R2(K)J2	無し	
89 図 0468	PJ-33	10-209	打製石斧	粘板岩	44.9	16.4	5.7	2.74	2.9	BL1R(K)J1	左側縫:下部/正面:下部	
89 図 0473	PJ-33	10-373	打製石斧	粘板岩	110.5	45.4	12.6	2.44	70.2	BL1R(K)J1	正面:中央～下部/裏面:下部	
89 図 0476	PJ-33	10-376	打製石斧	粘板岩	104.0	35.3	13.2	2.94	57.6	BL1R(K)J1	無し	
90 図 0480	PJ-33 PT-055	10-380	打製石斧	粘板岩	109.2	50.5	21.6	2.16	107.0	BL2R(K)J1	無し	
89 図 0531	PJ-33	10-345	打製石斧	粘板岩	100.5	65.5	18.3	1.53	151.0	BL1R(K)J1	無し	
90 図 0474	PJ-33	10-374	打製石斧	粘板岩	104.9	57.6	14.0	1.82	85.8	BL1R(K)J1	無し	
90 図 0482	PJ-33	10-383	打製石斧	粘板岩	99.7	43.9	24.2	2.27	116.0	AL1R(K)J1	無し	
90 図 0588	PJ-33	0-3-13	打製石斧	粘板岩	87.7	55.2	7.4	1.59	45.1	BL1R(K)J1	正面:上部～下部	
89 図 0551	PJ-33	0-3-2	横刃形石器	頁岩	29.2	55.4	7.1	0.53	11.6	0002	無し	
90 図 0580	PJ-33	0-3-12	横刃形石器	頁岩	44.7	56.9	11.8	0.78	36.2	00R(1+2)	打製石斧の調整剖面材	
90 図 0470	PJ-33	10-359	横刃形石器	細粒砂岩	39.1	71.0	10.5	0.55	26.7	0002	無し	
90 図 0488	PJ-33	10-390	横刃形石器	細粒砂岩	67.5	105.2	18.4	0.84	96.0	02R0	無し	
90 図 0546	PJ-33	0-3-1	横刃形石器	細粒砂岩	38.7	53.7	8.5	0.72	21.0	0002	無し	不規則削離の程度は微弱
90 図 0490	PJ-33	10-390	横刃形石器	粘板岩	35.5	75.7	5.7	0.47	20.1	0002	無し	打製石斧の調整剖面材
89 図 0556	PJ-33	0-3-2	横刃形石器	粘板岩	56.6	95.6	10.0	0.59	50.9	0002	無し	
90 図 0589	PJ-33	0-3-13	横刃形石器	粘板岩	36.2	92.9	12.2	0.39	39.2	0002	無し	
90 図 0486	PJ-33	10-388	研磨縫合器	緑色岩	47.9	88.6	9.3	0.54	53.3	A	無し	
90 図 0578	PJ-33	0-3-12	研磨縫合器	頁岩	82.2	62.4	13.9	1.22	75.6	A	無し	
90 図 0547	PJ-33	0-3-1	側縫石器	安山岩	70.5	86.6	8.7	0.81	53.9		無し	
90 図 0475	PJ-33	10-375	中・大形二次的剝離のある剖片	粘板岩	92.5	54.4	13.6	1.70	69.7		無し	
90 図 0481	PJ-33	10-381	中・大形二次的剝離のある剖片	粘板岩	91.0	55.4	14.8	1.64	97.7		無し	
90 図 0575	PJ-33	0-3-12	中・大形二次的剝離のある剖片	粘板岩	68.7	50.9	10.7	1.25	46.9		無し	
90 図 0581	PJ-33	0-3-12	中・大形二次的剝離のある剖片	粘板岩	72.3	46.4	14.9	1.56	36.7		無し	
88 図 0464	PJ-33 DE-070	0-6-70	小形不規則剝離のある剖片	黑曜石	18.7	21.8	3.9	0.86	0.9		無し	
89 図 0566-A	PJ-33	0-3-7	小形不規則剝離のある剖片	黑曜石	22.6	22.7	6.6	1.00	1.3		無し	
89 図 0566-B	PJ-33	0-3-7	小形不規則剝離のある剖片	黑曜石	35.2	27.5	8.0	1.28	6.0		無し	
89 図 0566-C	PJ-33	0-3-7	小形不規則剝離のある剖片	黑曜石	34.1	28.5	11.1	1.20	6.7		無し	
90 図 0583-A	PJ-33	0-3-12	小形不規則剝離のある剖片	黑曜石	18.7	17.7	4.7	1.06	1.0		無し	
89 図 0550	PJ-33	0-3-2	小形不規則剝離のある剖片	石英岩	15.4	21.7	8.5	0.71	5.0		無し	
90 図 0484	PJ-33	10-384	中・大形不規則剝離のある剖片	花崗岩	54.5	26.6	8.6	2.05	18.3		不規則剝離の程度は微弱	
90 図 0463	PJ-33	PJ-07.8	流れを伴う剝離のある剖片	細粒砂岩	86.7	37.6	12.1	2.36	33.6		無し	
90 図 0479	PJ-33	10-379	流れを伴う剝離のある剖片	粘板岩	57.4	60.0	11.9	0.96	40.9		無し	
102 図 0336	DK-001	DK-I	横刃形石器	粘板岩	92.7	92.8	8.5	1.00	70.7	02R2	無し	
102 図 0335	DK-001	DK-I	中・大形二次的剝離のある剖片	粘板岩	32.7	39.4	8.4	0.83	10.2		無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編 属 道 模	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考	
102 図 0226 DK-06	複形石器		黒曜石	14.0	15.5	4.9	0.96	1.1	A1	無し			
102 図 1374 DK-008	DK-008	両縁石器	砂岩	66.8	62.5	10.2	1.07	64.2	A1	無し	打製石斧軸用		
102 図 1478 DK-011	DK-011	打製石斧	真岩	81.9	41.7	17.6	1.33	101.8	B1JIRIKIJU	無し			
102 図 1479 DK-011	DK-011	打製石斧	砂岩	98.8	53.8	25.3	1.84	146.2	B1JIRIKIJU	無し			
102 図 1477 DK-011	DK-011	側縁石器	真岩	70.6	45.7	14.1	1.54	80.0	A1	無し			
102 図 1377 DK-013	DK-013	I	中・大形粗粒石器	真岩	74.3	64.0	9.5	1.16	42.7	A1	無し		
102 図 2357 DK-14	DK-14	中・大形不規則削離のある剝片	砂岩	77.6	48.0	15.0	1.62	49.9	A1	無し			
102 図 0293 DK-017	DK-17	小形石器	黒曜石	31.3	21.4	5.7	1.47	2.1	Zn	無し			
102 図 0342 DK-20	DK-20	縦溝式石器	粘板岩	64.4	87.7	9.5	0.73	61.7	B	無し			
102 図 0343 DK-20	DK-20	横刃石器	粘板岩	55.7	86.1	13.6	0.65	76.5	D0M2	無し			
102 図 0236 DK-23	DK-23	打製石斧	粘板岩	112.1	64.7	21.1	1.75	157.0	B1JIRIKIJU	正面：上部～下部／裏面：上部～下部			
102 図 0497 DK-028	DK-28	石器未製品	黒曜石	10.5	17.9	2.8	0.59	0.5	D0M2	分類不可	無し		
91 図 0499 DK-29	DK-29	小形不規則削離のある石器	黒曜石	47.4	19.5	7.3	2.43	4.9	A1	無し			
91 図 0353 DK-30	DK-30	小形不規則削離のある石器	黒曜石	37.2	17.9	5.5	2.06	3.4	A1	無し			
95 図 0238 DK-32	DK-32	中・大形粗粒石器	粘板岩	60.1	94.0	14.4	0.64	48.6	A1	正面：刃部			
95 図 0250 DK-32	DK-32	小形不規則削離のある石器	黒曜石	24.8	21.1	6.0	1.18	2.2	A1	無し			
92 図 0503 DK-35	DK-35	打製石斧	真岩	80.2	54.9	15.6	1.10	65.4	B1JIRIKIJU	無し			
92 図 0504 DK-35	DK-35	打製石斧	砂岩	59.4	38.7	9.6	1.53	24.3	B1JIRIKIJU	左側縁：中央／右側縁：中央／正面 中央／裏面：中央			
92 図 0515 DK-35	DK-35	打製石斧	真岩	110.8	59.1	11.8	1.88	91.2	B1JIRIKIJU	左側縁：下部／右側縁：下部／正面 下部／裏面：下部			
92 図 0502 DK-35	DK-35	打製石斧	粘板岩	37.0	51.4	11.0	0.53	16.2	B1JIRIKIJU	無し			
102 図 0225 DK-36	DK-36	横刃石器	粘板岩	47.8	83.5	17.8	0.57	72.8	D0M2	無し			
102 図 0224 DK-36	DK-36	中・大形不規則削離のある剝片	花崗岩	120.9	78.1	48.2	1.55	322.0	A1	無し			
102 図 0239 DK-38	DK-38	石器未製品	黒曜石	25.5	18.6	6.8	1.37	2.5	2A1/B1a	無し			
102 図 0247 DK-39	DK-39	小形不規則削離のある石器	黒曜石	22.7	15.1	4.6	1.50	0.5	A1	無し			
93 図 0291 DK-40 3	DK-40 3	打製石斧	粘板岩	108.1	41.7	19.0	2.59	89.2	B1JIRIKIJU	左側縁：下部／右側縁：下部			
93 図 0290 DK-40 4	DK-40 4	横刃石器	細粒砂岩	87.3	60.1	17.8	1.12	101.0	D0M2	正面：上部～下部			
93 図 0292 DK-40 2	DK-40 2	横刃石器	細粒砂岩	37.5	150.1	14.2	0.25	77.6	D0M2	不規則削離の程度は微弱			
94 図 0061 DK-41	DK-41	小形石核	黒曜石	20.4	38.1	12.3	0.54	9.2	A1	無し			
94 図 0059 DK-41	DK-41	打製石斧	細粒砂岩	126.1	59.2	13.1	2.13	109.0	B1(2+4)K1Q2J	正面：上部～下部／裏面：上部～下部			
94 図 0056 DK-41	DK-41	打製石斧	粘板岩	57.5	44.9	9.5	1.28	32.0	B1JIRIKIJU	無し			
94 図 0058 DK-41	DK-41	横刃石器	細粒砂岩	102.4	39.5	10.8	2.59	54.0	B1JIRIKIJU	無し			
94 図 0049 DK-41	DK-41	打製石斧	粘板岩	58.0	63.0	9.0	0.90	35.0	D0M2	打製石斧の調整剝片素材			
94 図 0002 DK-05 13	DK-05 13	敲石	細粒砂岩	56.7	67.3	20.0	0.84	86.0	A1	無し	右側縁に連続的二次的削離あり		
94 図 0064 DK-04 15	DK-04 15	敲石	細粒砂岩	91.7	89.7	20.0	1.02	231.0	A1	無し			
94 図 0052 DK-41	DK-41	敲石	真岩	89.2	21.4	13.4	4.17	22.0	A1	無し	上下端に両側削離		
94 図 0057 DK-41	DK-41	中・大形二次的削離のある剝片	粘板岩	59.5	37.3	8.1	1.60	18.3	A1	無し	打製石斧の調整剝片素材		
94 図 0051 DK-41	DK-41	縦溝式石器	粘板岩	55.0	115.4	17.6	0.48	79.7	A1	無し			
94 図 0050 DK-41	DK-41	流れ毛うろく剥離のある石器	真岩	82.5	31.5	10.6	2.62	28.0	A1	正面：打点側～末端			
94 図 0063 DK-04 09	DK-04 09	二次的削離のある剝片	細粒砂岩	58.0	62.2	21.1	0.93	95.0	A1	無し			
94 図 0054 DK-42	DK-42	横刃石器	粘板岩	45.4	80.5	12.3	0.56	40.0	D0M2	無し			
94 図 0355 DK-42	DK-42	中・大形不規則削離のある石器	粘板岩	42.8	52.4	5.5	0.82	15.4	A1	無し			
102 図 0235 DK-44	DK-44	中・大形不規則削離のある石器	真岩	40.5	29.1	5.2	1.39	7.7	A1	裏面：下部			
102 図 0289 DK-049	DK-049	10-329	中・大形不規則削離のある石器	粘板岩	92.7	40.8	10.1	2.27	34.2	A1	無し	打製石斧軸用	
102 図 0505 DK-56	DK-56	小形石核	黒曜石	17.5	12.2	2.3	1.44	0.3	A1	無し			
103 図 0508 DK-57	DK-57	小形石核	黒曜石	25.3	33.7	15.1	0.75	9.7	A1	無し			
103 図 0506 DK-57	DK-57	打製石斧	粘板岩	78.9	59.1	20.2	1.34	104.0	B1JIRIKIJU	無し			

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考	
103 図 0567	DK-57	中・大形不規則削離のある剝片	頁岩	77.4	77.5	15.5	1.00	80.3		無し			
96 図 0348	DK-64	打製石斧	細粒砂岩	65.1	42.6	17.4	1.49	60.9	AL2RIKIJ1	無し			
103 図 0350	DK-66	磨痕鋸石器	細粒砂岩	68.5	104.8	13.2	0.65	102.0	A	無し			
103 図 0349	DK-66	打製石斧	粘板岩	111.2	52.5	14.9	2.12	112.0	BL1RIKIJ1	標面と区別つかない	扁平砂岩材		
103 図 0352	DK-66	打製石斧	頁岩	134.6	59.7	19.1	2.26	142.0	BL1RIKIJ1	正面・下部・裏面・下部			
103 図 0351	DK-66	中・大形不規則削離のある剝片	粘板岩	87.0	56.0	15.2	1.55	71.6		無し			
103 図 0519	DK-66	10-371	打製石斧	粘板岩	102.3	46.3	15.4	2.21	90.9	AL1RIKIJ1	左側縁：中央～下部／右側縁：中央～下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部		
96 図 0510	DK-072	DK-72	複形石器	黑曜石	18.4	16.9	6.5	1.09	1.4	A1	無し		
96 図 0509	DK-072	DK-72	小形石核	黑曜石	17.7	21.6	10.5	0.82	2.9		無し		
96 図 0512	DK-072	DK-72	打製石斧	細粒砂岩	72.5	49.3	20.0	1.47	71.1	AL1RIKIJ1	無し		
96 図 0517	DK-072	10-362	打製石斧	細粒砂岩	112.1	54.8	18.7	2.05	104.0	BL1RIKIJ1	無し		
96 図 0520	DK-072	10-391	打製石斧	細粒砂岩	116.7	47.6	17.3	2.45	123.0	AL1RIKIJ1	左側縁：上部～下部／右側縁：上部～下部／正面：上部～下部／裏面：下部		
96 図 0513	DK-072	DK-72	打製石斧	粘板岩	52.8	46.1	11.1	1.15	28.1	BL1RIKIJ1	左側縁：下部／正面：上部～下部／裏面：下部		
96 図 0514	DK-072	DK-72	打製石斧	粘板岩	29.3	15.9	6.4	1.84	2.6	BL1RIKIJ1	右側縁：中央		
96 図 0511	DK-072	DK-72	小形不規則削離のある剝片	黑曜石	27.8	12.4	4.6	2.24	1.1		無し	高橋石核素材か	
96 図 0516	DK-072	10-360	中・大形不規則削離のある剝片	粗粒砂岩	115.2	74.5	19.3	1.55	170.0		無し		
103 図 0372	DK-073	10-265	磨痕鋸石器	細粒砂岩	51.3	111.8	16.4	0.46	110.0	A	正面：左半分		
103 図 0522	DK-074	10-415	絆石	砂岩	71.2	62.1	17.9	1.15	96.4		無し		
103 図 0521	DK-074	10-414	磨痕鋸石器	頁岩	112.4	45.4	11.7	2.47	72.8	A	正面：上部～下部／裏面：上部～下部	打製石斧転用	
97 図 0336	DK-077	DK-77	小形不規則削離のある剝片	黒曜石	19.4	14.9	4.1	1.32	0.8		無し		
98 図 0357	DK-078	DK-78	打製石斧	頁岩	134.4	51.9	22.7	2.59	169.0	(BL(3+4)RIKIJ1)	左側縁：中央～下部／正面：中央～下部		
104 図 0360	DK-084	DK-84	打製石斧	細粒砂岩	72.0	65.1	21.5	1.11	131.0	BL1RIKIJ1	無し		
104 図 0359	DK-084	DK-84	打製石斧	花崗岩	93.3	65.1	19.9	1.43	142.0	BL1RIKIJ1	無し		
104 図 0220	DK-088	DK-88	打製石斧	細粒砂岩	109.7	54.6	20.8	2.01	167.0	BL1RIKIJ1	左側縁：下部／右側縁：下部／正面：下部／裏面：下部		
104 図 0221	DK-088	DK-88	中・大形不規則削離のある剝片	細粒砂岩	46.4	47.0	13.7	0.99	27.5		無し		
104 図 0223	DK-091	DK-91	縫刃形石器	粘板岩	44.7	73.2	8.9	0.61	33.2	DK002	無し		
104 図 0901	DK-094	DK-94	複形石器	黑曜石	15.6	14.1	3.3	1.11	0.5	A1	無し		
104 図 0900	DK-094	DK-94	奥丸手掛け削離のある剝片	粘板岩	110.9	44.9	14.4	2.47	60.6		無し		
104 図 0955	DK-098	DK-98	中・大形不規則削離のある剝片	頁岩	64.8	42.2	9.4	1.53	22.6		正面：左半分		
105 図 1388	DK-102	E-2-15	複形石器	黑曜石	18.3	10.6	3.4	1.72	0.3	C1	無し		
105 図 2355	DK-102	E-2-15	小形石核	頁岩	32.7	20.6	6.8	1.56	2.8	1e	無し		
105 図 1393	DK-102	10-487	中・大型組合せ石器	細粒砂岩	111.5	10.9	27.2	1.01	262.0	A3	無し		
105 図 1379	DK-102	DK-102	縫刃形石器	細粒砂岩	44.3	62.7	12.6	0.71	27.9	DK002	無し	打製石斧の調整剝離素材	
105 図 1380	DK-102	DK-102	縫刃形石器	砂岩	45.3	73.1	11.3	0.62	45.0	DK002	無し		
105 図 1381	DK-102	DK-102	小形不規則削離のある剝片	F-t	37.4	30.8	9.4	1.21	6.3		無し		
99 図 0307	DK-103	DK-103	中・大形不規則削離のある剝片	頁岩	84.4	61.8	12.7	1.37	63.9		正面：上部～下部／裏面：上部～下部	打製石斧転用	
99 図 1395	DK-104	DK-104 図 4	打製石斧	頁岩	123.4	56.6	26.0	2.18	228.0	(BL(2+3)R2+DK1KIJ1)	左側縁：下部／右側縁：中央～下部／裏面：下部		
105 図 1400	DK-108	DK-108	打製石斧	細粒砂岩	101.9	56.7	20.2	1.80	118.0	BL1RIKIJ2	左側縁：下部／右側縁：中央～下部／裏面：下部		
100 図 1691	DK-112 図 2	DK-112 図 2	打製石斧	頁岩	71.6	52.7	16.1	1.36	54.9	BL1RIKIJ1	無し		
100 図 1690	DK-112	DK-112	中・大形不規則削離のある剝片	砂岩	41.4	32.1	10.5	1.25	17.8		無し		
105 図 1681	DK-113	DK-113	打製石斧	粘板岩	80.4	38.0	15.2	2.12	43.9	BL1RIKIJ1	正面：中央／裏面：中央		
101 図 2148	DK-114	DK-114	打製石斧	細粒砂岩	56.7	41.8	18.3	1.35	41.5	BL1RIKIJ1	無し		
101 図 2147	DK-114	DK-114	打製石斧	砂岩	83.3	45.3	18.1	1.84	86.2	BL1RIKIJ1	左側縁：中央～下部／右側縁：中央～下部／裏面：下部		
101 図 2143	DK-114 図 2	DK-114 図 2	縫刃形石器	頁岩	64.8	101.6	14.9	0.64	96.6	DK002	無し		

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(磨耗度)	備考
105 図 2150	DK-117	DK-117 図 面取り上げ	楔形石器	黒曜石	22.1	17.1	9.7	1.29	2.4	A2	無し	
105 図 2151	DK-117	DK-117 図 面取り上げ	小形石核	黒曜石	22.1	26.9	11.9	0.82	6.9		無し	
106 図 0287	PT-010	横刃形石器	黒曜石	34.1	40.1	10.1	0.85	13.7	D02	無し		
106 図 0232	PT-049	PT-049 (5)	打製石斧	黒曜石	53.0	46.4	14.6	1.14	51.0	ALIRIKUJI	無し	
106 図 0229	PT-049	PT-049	鍛鍊石器	黒曜石	51.1	71.6	8.9	0.71	36.7	A	無し	
106 図 0230	PT-049	PT-049	横刃形石器	楔形石器	53.7	120.3	17.3	0.45	96.6	D02	表面下部 打製石斧の調整削片素材	
106 図 0234	PT-049	PT-049 (6)	横刃形石器	楔形石器	61.8	97.9	18.4	0.63	130.0	D02	無し	
106 図 0366	PT-059	PT-59	石器	黒曜石	16.7	15.2	3.0	1.10	0.6	4A1a	無し	
106 図 0368	PT-062	PT-62 中・大型不規則削 込みのあと削片	細形石器	65.8	72.2	15.7	0.91	60.5		無し		
106 図 0920	PT-064	10-260	石器	黒曜石	43.9	20.0	4.1	2.20	1.5	IA1b1-1b	無し	
106 図 0923	PT-061	PT-61	小形一次的剝離 ある剥片	黒曜石	32.6	44.4	3.9	0.73	5.1		無し	
106 図 0929	PT-106	PT-106	打製石斧	楔形石器	97.5	45.9	18.4	2.12	59.0	BLIRIKUJI	無し	
106 図 0930	遺構外	0-2-22	石器	黒曜石	13.5	8.5	2.4	1.59	0.5	分類不可	無し	
106 図 1249	遺構外	E-3-14	石器	黒曜石	18.5	14.0	3.7	1.32	0.6	2A1b1-2a	無し	
106 図 1250	遺構外	E-3-14	石器	黒曜石	18.6	9.7	3.1	1.92	0.3	分類不可	無し	
106 図 1419	遺構外	E-2-22	石器	黒曜石	26.5	14.5	4.2	1.84	1.1	1E1b2-2b	無し	
106 図 1533	遺構外	E-3-1	石器	黒曜石	23.6	15.1	3.3	1.56	0.9	4B1a	無し	先端再生
106 図 1629	遺構外	E-3-11	石器	黒曜石	23.4	15.0	3.1	1.56	0.7	1B1b1-2b	無し	
106 図 2349	遺構外	0-3-21	石器	黒曜石	17.3	16.6	3.2	1.04	0.6	3A1b2-2a	無し	
106 図 2370	遺構外	TP-1	石器	黒曜石	20.4	13.2	3.3	1.55	0.3	1A1b1-2a	無し	
106 図 2430	遺構外	遺跡一括	石器	黒曜石	27.4	11.7	2.7	2.35	0.4	4B1b1-2a	無し	
106 図 2431	遺構外	遺跡一括	石器	黒曜石	22.0	14.2	3.5	1.55	0.3	1A1b1-2a	無し	
106 図 0607	遺構外	0-3-10	石器	珠質真珠	21.1	17.5	3.8	1.20	0.8	4A1b1-2a	無し	
106 図 1069	遺構外	F-2-14	石器未断品	黒曜石	15.0	22.5	5.8	0.70	1.7	4A1c	無し	
106 図 2407	遺構外	遺跡一括	石器未断品	黒曜石	20.7	15.0	8.2	1.38	2.0	2A1/M6	無し	
106 図 0312-A	遺構外	H-3-12	楔形石器	黒曜石	19.8	11.9	4.5	1.67	1.0	C2	無し	
106 図 0312-B	遺構外	H-3-13	楔形石器	黒曜石	21.6	15.7	7.3	1.38	1.8	C1	無し	
106 図 0312-C	遺構外	H-3-13	楔形石器	黒曜石	18.7	17.3	5.2	1.08	1.4	B1	無し	
106 図 0312-D	遺構外	H-3-13	楔形石器	黒曜石	14.9	12.3	4.0	1.21	0.7	C1	無し	
106 図 0316	遺構外	H-3-1	楔形石器	黒曜石	14.4	11.7	5.1	1.23	0.5	A1	無し	
106 図 0387-A	遺構外	G-2-17	楔形石器	黒曜石	14.6	11.8	5.6	1.24	0.8	C1	無し	
106 図 0387-B	遺構外	G-2-17	楔形石器	黒曜石	15.8	10.5	7.5	1.50	0.9	C2	無し	
106 図 0388	遺構外	G-2-18	楔形石器	黒曜石	16.6	13.9	4.4	1.20	1.2	B2	無し	
106 図 0392	遺構外	G-2-22	楔形石器	黒曜石	14.3	16.5	4.1	0.87	1.0	C1	無し	
106 図 0402	遺構外	H-2-2	楔形石器	黒曜石	18.1	17.3	3.2	1.05	0.9	A1	無し	
106 図 0991	遺構外	E-3-25	楔形石器	黒曜石	28.2	23.5	5.7	1.20	2.9	A1	無し	
106 図 0600	遺構外	G-3-10	楔形石器	黒曜石	12.2	11.2	3.4	1.09	0.3	A2	無し	
106 図 1080	遺構外	F-2-8	楔形石器	黒曜石	19.0	12.0	5.4	1.58	0.8	C1	無し	
106 図 1602	遺構外	E-3-21	楔形石器	黒曜石	17.1	11.2	6.8	1.52	0.8	A1	無し	
106 図 2068	遺構外	G-3-5	楔形石器	黒曜石	16.5	11.1	11.4	1.49	1.2	A1	無し	
106 図 2072	遺構外	G-3-20	楔形石器	黒曜石	13.8	16.4	3.9	0.84	0.5	A1	無し	
106 図 2076	遺構外	G-3-3	楔形石器	黒曜石	17.3	16.7	4.0	1.04	0.9	A1	無し	
106 図 2110	遺構外	G-3-10	楔形石器	黒曜石	17.9	11.5	5.4	1.56	1.0	C2	無し	
106 図 2369	遺構外	TP-1	楔形石器	黒曜石	13.7	14.1	5.3	0.97	0.8	B1	無し	
106 図 2406	遺構外	遺跡一括	楔形石器	黒曜石	19.9	19.1	7.4	1.04	2.3	B1	無し	
106 図 2103	遺構外	G-3-10	両様石器	砂岩	57.0	48.5	15.9	1.17	48.6	A1	無し	打製石斧軸用
106 図 0378	遺構外	G-4-16	両様石器	粘板岩	80.2	52.6	10.8	1.52	51.7	A1	無し	打製石斧軸用
106 図 1066	遺構外	F-2-16	両様石器	泥岩	65.3	26.3	10.8	2.48	24.1	A2	無し	
106 図 2404	遺構外	遺跡一括	小形石核	黒曜石	24.2	6.7	3.4	3.61	0.6	3e	無し	
106 図 2138	遺構外	PH-2	小形石核	黒曜石	29.4	25.7	21.4	1.14	15.1		無し	
106 図 2405	遺構外	遺跡一括	小形石核	黒曜石	23.2	25.0	8.3	0.92	4.4		無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(消耗度)	備考
108 図 2433	遺跡外	遺跡一括	小形粗製石器	ナット	57.2	59.6	11.3	0.96	31.3	A4	無し	
108 図 1159	遺跡外	F-3-4	中・大形粗製石器	頁岩	53.4	68.7	12.3	0.76	39.1	M	無し	
108 図 1305	遺跡外	F-3-18	中・大形粗製石器	頁岩	50.7	56.0	7.2	0.96	22.5	A3	正面：撫内部～刃部／裏面：刃部	
108 図 1404	遺跡外	H-111	中・大形粗製石器	頁岩	48.9	48.9	12.9	1.00	28.2	A3	無し	
108 図 2121	遺跡外	H-667	中・大形粗製石器	頁岩	70.0	76.6	9.5	0.91	49.2	C3	無し	
108 図 2432	遺跡外	遺跡一括	中・大形粗製石器	砂岩	42.8	75.0	10.5	0.84	48.4	M	無し	
108 図 1165	遺跡外	H-297	中・大形粗製石器	粘土質砂岩	39.6	62.7	9.7	0.60	34.6	A3	無し	
108 図 2439	遺跡外	遺跡一括	中・大形粗製石器	粘土質砂岩	70.3	45.2	9.5	1.50	40.7	N	無し	分鋼打製石斧の可動性
108 図 2100	遺跡外	D-3-21	中・大形粗製石器	粘土質砂岩	55.4	31.8	10.6	1.74	20.4	A6	無し	
109 図 0374	遺跡外	H-319	中・大形粗製石器	粘土質砂岩	104.8	86.6	19.8	1.21	171.0	M	無し	
109 図 0942	遺跡外	H-106	中・大形粗製石器	粘土質砂岩	85.9	61.1	10.3	1.41	47.7	A2	無し	
109 図 1203	遺跡外	F-3-9	中・大形粗製石器	細粒砂岩	67.2	75.5	8.6	0.89	50.9	A3	無し	
109 図 1212	遺跡外	H-252	中・大形粗製石器	砂岩	90.3	90.9	19.2	1.03	129.0	M	正面：撫内部、右刃部／裏面：撫内部、左刃部	
109 図 2374	遺跡外	TH-1 6	打製石斧	凝灰岩	81.1	36.3	11.5	2.17	38.6	B1(RIKU)J1	左側縁：上部～下部／裏面：上部～下部	
109 図 1630	遺跡外	E-3-12	打製石斧	珪質頁岩	61.2	46.1	18.3	1.33	58.0	B1(RIKU)J1	正面：下部／裏面：下部	
109 図 0613	遺跡外	G-3-14	打製石斧	頁岩	80.6	34.7	10.2	2.22	36.1	B1(G-4)RIKU)J1	無し	
109 図 1067	遺跡外	E-3-9	打製石斧	頁岩	92.2	29.3	13.8	2.37	58.9	A1(G-4)RIKU)J1	無し	
109 図 1086	遺跡外	F-2-3	打製石斧	頁岩	81.1	41.8	11.2	2.20	54.4	B1(RIKU)J1	無し	左側縁再生？
109 図 1067	遺跡外	F-2-3	打製石斧	頁岩	109.1	31.0	1.62	69.6	696.0	Q1(RIKU)J1	風化が著しく、輕擦が困難	巨大打製石斧
109 図 1166	遺跡外	H-262	打製石斧	頁岩	108.3	50.0	23.1	2.17	133.0	B1(RIKU-2+3)RIKU)J1	無し	
109 図 1207	遺跡外	H-199	打製石斧	頁岩	95.6	50.1	14.4	1.91	87.1	B1(2+3)RIKU)J1	左側縁：中央～下部／右側縁：上部～下部／裏面：上部～下部	
109 図 1248	遺跡外	F-3-13	打製石斧	頁岩	56.8	52.4	14.2	1.06	48.4	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1263	遺跡外	H-350	打製石斧	頁岩	94.2	49.8	12.3	1.89	83.8	B1(RIKU)J1	風化が著しく、輕擦が困難	
109 図 1264	遺跡外	F-3-15	打製石斧	頁岩	50.7	44.5	16.0	1.14	46.2	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1299	遺跡外	F-3-18	打製石斧	頁岩	91.2	39.2	18.0	2.33	76.0	B1(2+3)RIKU)J1	正面：上部～下部	
109 図 1301	遺跡外	F-3-18	打製石斧	頁岩	49.6	48.5	12.1	1.00	36.2	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1319	遺跡外	F-3-20	打製石斧	頁岩	89.2	42.6	9.6	2.05	52.6	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1407	遺跡外	H-489	打製石斧	頁岩	116.5	54.9	17.8	2.12	137.0	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1421	遺跡外	E-2-22	打製石斧	頁岩	61.8	41.6	11.9	1.49	30.7	A1(RIKU)J1	無し	
109 図 1526	遺跡外	E-3-1	打製石斧	頁岩	75.9	40.6	11.4	1.86	47.7	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1527	遺跡外	E-3-1	打製石斧	頁岩	59.4	43.0	9.5	1.38	29.6	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1529	遺跡外	E-3-1	打製石斧	頁岩	54.6	34.5	9.2	1.58	21.4	A1(RIKU)J1	無し	
109 図 2103	遺跡外	D-3-1	打製石斧	頁岩	74.5	45.9	20.1	1.86	86.1	B1(RIKU)J1	右側縁：中央／正面：中央／裏面：中央	
109 図 2129	遺跡外	H-692	打製石斧	頁岩	116.5	101.4	24.3	1.15	329.0	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 2132	遺跡外	H-654	打製石斧	頁岩	63.1	40.7	17.0	1.55	37.3	B1(RIKU)J1	風化が著しく、輕擦が困難	
109 図 2135	遺跡外	H-620	打製石斧	頁岩	82.1	40.3	14.9	2.06	65.4	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 2154	遺跡外	O-2-1	打製石斧	頁岩	44.8	40.7	10.4	1.10	21.1	A1(RIKU)J1	無し	
109 図 2390	遺跡外	遺跡一括	打製石斧	頁岩	101.4	44.3	14.6	2.29	61.5	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 2396	遺跡外	遺跡一括	打製石斧	頁岩	94.3	36.8	18.3	2.56	75.7	B1(RIKU-2+3)RIKU)J1	無し	
109 図 2397	遺跡外	遺跡一括	打製石斧	頁岩	70.2	25.0	18.1	2.81	33.4	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 2437	遺跡外	遺跡一括	打製石斧	頁岩	67.2	57.1	11.7	1.18	52.2	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 0391	遺跡外	O-2-21	打製石斧	細粒砂岩	54.5	53.0	20.2	1.03	55.4	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 0396	遺跡外	G-2-11	打製石斧	細粒砂岩	59.5	58.8	19.4	1.01	74.1	B1(RIKU)J1	左側縁：下部／右側縁：下部／正面：下部／裏面：下部	
109 図 1075	遺跡外	F-2-13	打製石斧	細粒砂岩	46.6	29.4	13.0	1.03	25.2	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 1162	遺跡外	F-3-4	打製石斧	細粒砂岩	105.1	47.0	13.0	2.24	60.6	A1(RIKU)J1	無し	
109 図 1406	遺跡外	H-485	打製石斧	細粒砂岩	107.9	46.1	14.7	2.34	94.4	B1(RIKU)J1	右側縁：上部～下部／正面：上部～下部／裏面：上部～下部	
109 図 1410	遺跡外	E-2-11	打製石斧	細粒砂岩	80.0	46.9	15.4	1.87	77.2	B1(RIKU)J1	無し	
109 図 2393	遺跡外	遺跡一括	打製石斧	細粒砂岩	106.2	52.3	21.9	2.99	176.0	B1(RIKU-2+3)RIKU)J1	左側縁：中央～下部／右側縁：中央／正面：正面／裏面：上部～下部	
109 図 2440	遺跡外	遺跡	打製石斧	細粒砂岩	96.6	39.1	13.8	2.44	57.6	B1(RIKU)J1	正面：中央～下部／裏面：上部～中央	

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PQ(磨耗度)	備考
109 図 0941	遺構外	I-18B	打製石斧	砂岩	42.0	36.9	14.4	1.14	22.6	BLIRIKUJI	無し	
109 図 1254	遺構外	E-3-14	打製石斧	砂岩	124.0	59.3	27.1	2.09	176.0	BLIRIKUJI	左側縫：中央／正面：上部	
110 図 1256	遺構外	I-40I	打製石斧	砂岩	82.2	59.1	17.5	1.39	112.6	BLIRIKUJI	左側縫：中央～下部／右側縫：中央～下部／正面：下部	
110 図 1304	遺構外	F-3-18	打製石斧	砂岩	65.2	37.6	12.6	1.73	38.3	BLIRIKUJI	無し	右側縫再生
110 図 1415	遺構外	E-2-16	打製石斧	砂岩	97.8	37.4	26.0	1.70	164.0	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2096	遺構外	B-3-14	打製石斧	砂岩	47.5	36.6	15.9	1.30	31.6	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2099	遺構外	B-3-19	打製石斧	砂岩	50.0	37.3	11.3	1.34	26.2	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2102	遺構外	D-3-10	打製石斧	砂岩	77.4	49.9	21.0	1.55	90.0	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2115	遺構外	D-2-19	打製石斧	砂岩	50.6	41.5	11.5	1.22	27.4	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2161	遺構外	B-2-12	打製石斧	砂岩	42.6	42.0	8.2	0.99	18.9	BLIRIKUJI	正面：上部／裏面：上部	
110 図 2359	遺構外	I-688	打製石斧	砂岩	83.0	44.8	14.8	1.85	71.4	ALIRIKUJI	無し	
110 図 2373	遺構外	TP-1	打製石斧	砂岩	74.3	50.9	21.9	1.46	84.1	BLIRIKUJI	正面：中央～下部／裏面：中央～下部	
110 図 2378	遺構外	TP-2	打製石斧	砂岩	100.8	44.4	15.3	2.27	71.4	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2391	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	88.4	43.7	14.7	2.02	68.7	ALIRIKUJI	正面：下部	
110 図 2395	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	57.4	40.9	12.8	1.40	30.9	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2416	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	126.5	48.2	20.4	2.62	156.0	BLIRIKUJI	無し	右側縫再生
110 図 2417	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	81.2	55.5	19.1	1.10	67.4	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2425	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	49.0	54.3	8.8	0.90	26.2	BLIRIKUJI	無し	
110 図 2436	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	103.0	57.3	21.0	1.80	156.0	BLIRIKUJI	正面：下部	
110 国 0530	遺構外	I-27G	打製石斧	難燃砂岩	93.2	49.5	19.4	1.88	111.0	ALIRIKUJI	右側縫：上部／正面：上部～中央／裏面：上部～中央	
110 国 0307	遺構外	H-3-12	打製石斧	砂岩	71.1	51.5	14.1	1.51	90.5	BLIRIKUJI	無し	
110 国 0310	遺構外	H-2-13	打製石斧	砂岩	76.8	38.3	19.5	2.53	78.7	ALIR(2+3)KUJI	無し	
110 国 0375	遺構外	I-38S	打製石斧	砂岩	117.3	51.4	21.1	2.28	140.0	BLIRIKUJI	左側縫：下部／右側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
110 国 0600	遺構外	G-3-6	打製石斧	砂岩	106.2	52.9	17.1	2.01	130.0	BLIR(3+4)KUJI	無し	
110 国 0606	遺構外	G-3-10	打製石斧	砂岩	80.8	43.6	16.2	1.85	69.5	BLIRIKUJI	右側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
110 国 0992	遺構外	E-3-25	打製石斧	砂岩	76.1	51.0	10.9	0.72	24.9	BLIRIKUJI	無し	
110 国 0997	遺構外	E-3-13	打製石斧	砂岩	39.5	54.4	11.9	0.73	31.1	BLIRIKUJI	左側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
110 国 1300	遺構外	F-3-18	打製石斧	砂岩	48.7	39.8	18.4	1.22	43.4	BLIRIKUJI	無し	
110 国 1303	遺構外	F-3-18	打製石斧	砂岩	106.1	90.1	16.5	2.12	111.0	ALIRIKUJI	無し	
110 国 2065	遺構外	C-3-5	打製石斧	砂岩	95.2	41.3	21.4	2.31	67.9	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2160	遺構外	C-2-12	打製石斧	砂岩	52.0	21.4	9.4	2.43	8.3	BLIRIKUJI	右側縫：下部／正面：下部／裏面：下部	
110 国 2360	遺構外	I-69	打製石斧	砂岩	66.6	56.5	23.5	1.18	94.6	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2392	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	119.1	49.7	15.8	2.40	122.0	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2398	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	60.0	46.6	14.1	1.42	43.0	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2418	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	113.4	48.6	18.3	2.33	124.0	BLIRIKUJI	正面：下部／裏面：下部	
110 国 2419	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	102.9	55.4	18.3	1.06	110.0	BLIR(3+4)KUJI	無し	
110 国 2420	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	94.7	37.3	12.9	2.54	58.4	BLIRIKUJI	正面：下部／裏面：下部	
110 国 2434	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	103.0	53.7	17.9	1.92	106.0	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2435	遺構外	遺跡一絆	打製石斧	砂岩	97.2	45.5	15.6	1.92	77.7	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2444	280-I: 善始 裏-I: 残	打製石斧	砂岩	100.4	50.3	23.2	2.00	106.0	BLIRIKUJI	無し		
110 国 0097	遺構外	G-2-22	打製石斧	難燃砂岩	63.4	41.8	13.9	1.52	54.1	BLIRIKUJI	無し	
110 国 0526	遺構外	I-68	打製石斧	難燃砂岩	118.5	48.4	22.5	2.45	151.0	BLIRIKUJI	無し	
110 国 0627	遺構外	I-68	打製石斧	難燃砂岩	48.3	43.8	8.7	1.10	21.1	BLIRIKUJI	無し	
110 国 0605	遺構外	G-3-10	打製石斧	難燃砂岩	63.0	42.7	18.9	1.47	46.2	BLIR(3+4)KUJI	無し	
110 国 1078	遺構外	F-2-11	打製石斧	難燃砂岩	73.6	36.9	15.3	1.99	41.0	BLIRIKUJI	無し	左側縫再生
110 国 1315	遺構外	F-2-21	打製石斧	難燃砂岩	65.4	58.7	14.4	1.11	49.7	BLIRIKUJI	無し	
110 国 1414	遺構外	E-2-16	打製石斧	難燃砂岩	78.9	50.9	17.4	1.55	86.6	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2083	遺構外	D-3-15	打製石斧	難燃砂岩	22.9	59.9	12.9	0.38	24.0	BLIRIKUJI	無し	
110 国 2089	遺構外	D-3-18	打製石斧	難燃砂岩	47.4	55.6	15.7	0.85	57.2	BLIRIKUJI	無し	

第5表 打製石器観察表

図版番号	種属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	P0(損耗度)	備考
110 図 1048	遺構外	E-3-9	打製石斧	シリト 岩	75.7	55.0	15.3	1.38	80.2	A1R1K0J1	左側縁・中央	
110 図 1049	遺構外	E-3-9	打製石斧	珪化木質	97.3	40.3	19.4	2.41	83.4	B1A1D3 + E1K1J1	無し	
111 図 1065	遺構外	F-2-3	打製石斧	珪化木質	112.2	31.7	18.9	3.54	69.2	A1L2R0K1J1	(ほぼ全面?)風化?	
111 図 1257	遺構外	H-400	打製石斧	珪化木質	139.9	51.8	25.2	2.70	204.0	B1L2 + C3 + 4) R(2 + 3)K1J1	無し	
111 図 0309	遺構外	H-3-13	楕円形石器	細粒砂岩	56.4	65.4	12.5	0.86	45.0	0302	無し	
111 図 0313	遺構外	H-3-1	楕円形石器	細粒砂岩	53.9	63.9	13.6	0.57	57.8	0302	無し	不規則削除の程度は微弱
111 図 1071	遺構外	F-2-14	楕円形石器	細粒砂岩	45.7	63.4	8.2	0.72	28.5	0302	無し	
111 図 1068	遺構外	F-2-18	楕円形石器	細粒砂岩	50.9	61.5	11.4	0.83	34.3	0302	無し	
111 図 1069	遺構外	F-2-20	楕円形石器	細粒砂岩	44.8	61.8	12.7	0.55	53.6	0302	無し	
111 図 1092	遺構外	F-2-20	楕円形石器	細粒砂岩	52.0	102.1	8.4	0.52	52.5	0302	無し	
111 図 1256	遺構外	H-394	楕円形石器	砂岩	52.7	72.7	10.2	0.72	57.5	0302	正面・上部~下部	
111 図 1318	遺構外	F-2-20	楕円形石器	砂岩	50.4	63.9	11.5	0.54	43.9	0302	無し	
111 図 1416	遺構外	E-2-20	楕円形石器	砂岩	39.1	55.9	12.1	0.70	29.3	0302	無し	
111 図 2064	遺構外	O-3-5	楕円形石器	砂岩	46.6	65.6	14.3	0.54	55.4	0302	無し	
111 図 2069	遺構外	O-3-8	楕円形石器	砂岩	56.1	35.5	9.2	1.6	22.1	0302	無し	
111 図 2122	遺構外	H-664	楕円形石器	砂岩	53.5	62.6	11.7	0.86	37.7	0302	無し	
111 図 2128	遺構外	H-693	楕円形石器	砂岩	69.8	115.8	21.2	0.65	168.0	0302	無し	
111 図 2371	遺構外	H-1	楕円形石器	砂岩	41.1	136.3	15.5	0.35	111.0	0302	打凸面 / 実端	打製石斧の調整削片素材
111 図 2422	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	砂岩	40.0	75.7	12.2	0.5	44.3	0302	無し	
111 図 2109	遺構外	O-3-10	楕円形石器	砂岩	42.9	54.5	19.5	0.79	40.7	0302	無し	
111 図 1161	遺構外	F-3-4	楕円形石器	珪化木質	64.4	92.3	14.1	0.70	67.5	0302	無し	
111 図 2362	遺構外	H-609	楕円形石器	珪化木質	49.1	65.2	12.1	0.58	44.3	0302	無し	
111 図 2388	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	珪化木質	54.7	81.4	19.4	0.67	97.5	0302	無し	
111 図 2412	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	珪化木質	61.1	115.5	24.4	0.53	136.0	0302	右側縁の一端に多面にぶつぶつ削除あり	
111 図 0528	遺構外	H-90	楕円形石器	點状岩	44.3	49.0	9.8	0.90	22.6	0302	無し	
111 図 2130	遺構外	H-691	楕円形石器	點状岩	44.5	66.1	18.6	0.45	82.0	S09(I + 2)	無し	
111 図 2396	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	點状岩	50.4	51.6	12.1	0.36	39.4	0302	無し	
111 図 0296	遺構外	H-321	楕円形石器	真岩	69.2	51.4	11.3	1.35	44.2	0302	実端	
111 図 1205	遺構外	F-3-9	楕円形石器	真岩	46.1	80.4	11.1	0.57	37.9	0302	無し	
111 国 1247	遺構外	F-3-13	楕円形石器	真岩	52.6	62.1	11.6	0.64	57.3	0302	無し	
111 国 1316	遺構外	H-41	楕円形石器	真岩	46.5	60.2	13.9	0.81	41.0	0302	無し	
111 国 2134	遺構外	H-621	楕円形石器	真岩	41.2	93.1	8.6	0.44	37.6	0302	打製石斧の調整削片素材	
111 国 2411	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	真岩	78.4	68.1	9.4	1.15	55.3	0302	無し	
111 国 2438	遺構外	遺跡一括	楕円形石器	真岩	72.5	124.4	23.1	0.58	192.0	0302	打凸側	楕円石器の可能性
111 国 1068	遺構外	H-410	楕円形石器	珪化木質	75.4	99.4	15.5	0.78	121.0	S08(I + 2)	無し	
111 国 1246	遺構外	F-3-13	楕円形石器	珪化木質	55.1	72.8	7.4	0.75	36.4	S03(I + 2)	無し	
111 国 1085	遺構外	H-259	圓形石器	珪質砂岩	27.1	27.9	6.8	0.97	3.2	0302	無し	橢円石器の形態
111 国 0305	遺構外	H-3-12	側縫縁石器	細粒砂岩	38.8	70.2	9.0	0.55	21.3	A	無し	
111 国 0597	遺構外	G-3-4	側縫縁石器	點状岩	40.6	74.8	8.9	0.54	30.1	A	無し	
111 国 2421	遺構外	遺跡一括	側縫縁石器	真岩	56.0	35.7	15.6	1.57	27.3	A	無し	
111 国 1200	遺構外	F-3-9	側縫石器	細粒砂岩	81.8	66.2	18.4	1.24	141.0	0302	無し	
111 国 0317	遺構外	H-3-17	側縫石器	安山岩	61.7	51.5	9.2	1.20	40.0	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 2133	遺構外	H-628	側縫石器	安山岩	74.4	58.9	21.9	1.36	140.0	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1076	遺構外	H-205	側縫石器	安山岩	56.9	54.6	17.4	1.0	72.4	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1201	遺構外	F-3-9	側縫石器	安山岩	62.3	42.0	16.7	1.46	42.3	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1244	遺構外	F-3-13	側縫石器	安山岩	37.9	48.9	11.8	0.77	33.5	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1245	遺構外	F-3-13	側縫石器	安山岩	37.3	51.6	6.8	0.72	13.6	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1258	遺構外	F-3-14	側縫石器	安山岩	39.9	63.4	10.0	0.63	29.8	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1309	遺構外	F-3-21	側縫石器	安山岩	49.0	53.5	11.9	0.92	41.8	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		
111 国 1523	遺構外	E-3-1	側縫石器	安山岩	45.0	43.7	14.8	1.03	42.3	正面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)/ 側面・全面(少し擦り上がっている箇所のみ)		

第5表 打製石器観察表

図版番号	編属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	長幅 比	重量 g	分類	PQ(磨耗度)	備考
112 図 260	遺構外	D-3-7	側縁石器	泥岩	91.0	57.9	25.7	1.57	159.0	無し		
112 図 261	遺構外	D-3-24	側縁石器	泥岩	32.2	64.4	14.6	0.50	45.2	無し		
112 図 267	遺構外	D-3-14	側縁石器	泥岩	58.4	58.4	25.2	1.00	96.7	無し		
112 図 2108	遺構外	D-3-10	側縁石器	泥岩	35.3	45.9	11.1	0.77	17.8	無し		
112 図 2141	遺構外	PH-2	側縁石器	泥岩	49.2	62.8	18.1	0.78	58.6	正面：全面（少し盛り上がっていいる箇所のみ）裏面：上部		
112 図 2387	遺構外	遺跡一括	側縁石器	泥岩	54.6	71.7	19.1	0.76	70.2	正面：全面（少し盛り上がっていいる箇所のみ）裏面：上部		
112 図 0616	遺構外	G-3-19	小形二次的剝離の ある剝片	黒曜石	18.9	21.6	6.0	0.86	1.9	無し		
112 図 1325	遺構外	F-3-10	小形二次的剝離の ある剝片	黒曜石	20.5	14.2	5.8	1.45	1.2	無し		石器の可能性
112 図 1314	遺構外	F-3-21	中・大型二次的剝離の ある剝片	頁岩	61.4	52.4	9.6	1.17	21.4	無し		
112 図 2415	遺構外	遺跡一括	中・大型二次的剝離の ある剝片	頁岩	78.5	90.3	19.1	0.87	130.0	無し		
112 図 2441	遺構外	表探	中・大型二次的剝離の ある剝片	頁岩	57.7	74.1	20.2	0.76	88.7	無し		
112 図 0299	遺構外	H-3-2	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	25.6	11.8	4.2	2.16	1.0	無し		
112 図 0395	遺構外	G-2-22	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	17.7	18.4	5.5	0.96	1.0	無し		
112 図 0994	遺構外	E-3-12	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	21.1	8.4	5.1	2.53	0.3	無し		
112 図 0610	遺構外	G-3-14	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	19.6	36.1	15.7	0.54	7.8	無し		
112 図 1070	遺構外	F-2-14	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	20.4	17.7	4.4	1.15	1.1	無し		
112 図 1238	遺構外	F-3-13	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	15.7	9.8	3.6	1.60	0.3	無し		
112 図 1239	遺構外	F-3-13	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	20.1	31.3	6.6	0.64	4.7	無し		
112 図 1302	遺構外	F-3-18	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	19.3	14.4	4.1	1.33	0.9	無し		
112 図 1416	遺構外	E-2-19	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	31.2	28.7	6.0	1.09	3.9	無し		
112 図 2077	遺構外	G-3-3	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	33.3	12.1	6.3	2.76	2.1	無し		
112 図 2158	遺構外	G-2-12	小形不規則剝離の ある剝片	黒曜石	16.2	18.6	5.6	0.87	1.6	無し		
112 図 1604	遺構外	E-3-21	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	67.0	29.1	14.7	2.31	37.4	無し		
112 図 2056	遺構外	D-3-1	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	63.2	77.5	6.3	0.82	26.5	無し		
112 図 2348	遺構外	G-2-10	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	71.7	44.7	9.2	1.61	36.6	正面：中央・裏面：上部～下部	打製石斧軸用	
112 図 2372	遺構外	TP-1-1	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	68.1	40.2	13.2	1.69	36.2	無し		
112 図 2379	遺構外	遺跡一括	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	68.6	93.2	13.2	0.74	68.6	無し		
112 図 2106	遺構外	D-3-10	中・大型不規則剝離の ある剝片	砂岩	56.7	86.6	30.6	0.66	85.1	無し		
112 図 0373	遺構外	IG-3/3	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘土質灰岩	118.2	84.3	18.5	1.40	228.0	無し		
112 図 0385	遺構外	G-2-17	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘土質灰岩	68.0	60.2	14.5	1.13	41.0	無し	不規則剝離の程度は微弱	
112 図 0532	遺構外	IG-3/6	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘土質灰岩	81.7	71.1	14.7	1.15	80.1	無し		
112 図 1524	遺構外	E-3-1	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘土質灰岩	46.1	52.6	17.8	0.88	45.4	無し		
112 図 0599	遺構外	G-3-4	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘板岩	56.5	38.4	8.7	1.47	19.3	無し	打製石斧軸用	
112 図 1411	遺構外	E-2-11	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘板岩	75.1	59.1	11.3	1.27	49.1	無し		
112 図 2119	遺構外	IG-1/2	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘板岩	48.5	67.3	10.3	0.72	28.6	無し		
112 図 1209	遺構外	IG-5/6	中・大型不規則剝離の ある剝片	頁岩	82.5	72.1	18.5	1.14	89.4	無し		
112 図 1208	遺構外	IG-2/5	中・大型不規則剝離の ある剝片	粘板岩	53.9	68.1	16.1	0.79	70.9	無し		
112 図 2081	遺構外	D-3-15	壊れを伴う剝離の ある剝片	粘板岩	87.6	39.0	15.0	2.25	48.0	無し		

第5表 打製石器観察表

図版番号	埋蔵 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚み mm	重量 g	備考
8 図 0143	PJ-04	PJ-04	磨製石斧	緑色岩	60.0	40.0	21.0	91.4	全体に敲打痕あり
10 図 0001	PJ-05	IG-003	磨石類	安山岩	119.0	90.0	50.0	736.0	表面に敲打痕があり、やや平滑に摩耗している。一端部が割れたように平坦になっている
14 図 0075	PJ-06	PJ-06 II	石皿	安山岩	-	-	97.0	1880.0	埋土出土の破片。擦り面は平滑に摩耗している。
14 図 0233	PJ-06	PJ-06 06	石製斧頭	蛇紋岩	70.6	34.8	2.9	7.0	6号住居炉南側、PJ-09 上の埋土下層で出土。「の」字形石製品の破損品に穿孔して再生したもの。器表面は非常に平滑に研磨整形され、研磨時の線彫痕が観察される。表面には穿孔孔が複数ある。
17 図 0452	PJ-07	PJ-07 41	台石	安山岩	281.0	123.0	58.0	3610.0	PJ-03 の傍竈Ⅱ式器があるとまとめて出土した地点に近い位置で出土しているため、PJ-03 に帰属する可能性がある。被伏の安山岩で片面は平坦であるが、明瞭な使用痕は認められない。形状から台石を考える。
17 図 0453	PJ-07	IG-45	磨製石斧	蛇紋岩	58.0	25.0	13.0	34.1	PJ-03 に帰属する可能性あり 擦り切り技法により素材を形成した小型磨製石斧
17 図 0449	PJ-07	PJ-07 29	磨製石斧	緑色岩	24.0	20.0	8.0	4.0	PJ-01 直上で出土。小形磨製石斧の基部破片。丁寧に研磨整形している。
17 図 0450	PJ-07	PJ-07 35	磨製石斧	緑色岩	101.0	29.0	15.0	67.3	炉壺上で出土。基部が破損したため、調整用削にて再生し継続して使用したと思われる。調整剝削と折削部は、再生のための研磨が認められる。
17 図 0446	PJ-07	PJ-07	磨石類	安山岩	108.0	87.0	67.0	701.0	埋土出土。表面に敲打痕。
17 図 0447	PJ-07	PJ-07 20	磨石類	安山岩	91.0	72.0	34.0	320.0	住居南西隅、DK5 付近の壁際、埋土中で出土。表面に敲打痕があり、平滑に摩耗している。
17 図 0451	PJ-07	PJ-07 44	磨石類	安山岩	98.0	77.0	39.0	397.0	許藏穴(DK5) 埋土上部で出土。片面に明瞭な敲打痕があり、平滑に摩耗している。黒色に変色した部分がある。被熱感か
17 図 0448	PJ-07	PJ-07 28	磨石類	砂岩	100.0	76.0	36.0	469.0	PJ-01 直上で出土。細粒砂岩を使用しているため器表面が風化し、摩耗値は観察されない。表面に敲打痕がある。
21 図 0058	PJ-08	F-2-23	石棒	細粒砂岩	39.0	40.0	23.0	86.8	炉北側の埋土中で出土。小形の石棒片。被熱変色し打ち割られている。節理面で割れています。
21 図 0262	PJ-09	PJ-09	台石	安山岩	110.0	293.0	100.0	19800.0	PJ-16 南西の床面に置かれるようにして出土。片面が平滑に摩耗している
21 図 0622	PJ-09	PJ-09 19	磨石類	安山岩	82.0	85.0	47.0	379.0	炉南側、PJ-02 南側の床面で出土。両面に深い敲打痕と弱い磨耗あり
21 図 0624	PJ-09	PJ-09 18	磨石類	安山岩	108.0	76.0	47.0	601.0	住居北西隅、DK8 近くの壁際、埋土下層で出土。表面に敲打痕があり。それを擦り清めようとして平滑に摩耗している
21 図 0623	PJ-09	IG-433	磨石類	細粒砂岩	107.0	65.0	52.0	567.0	住居南西隅、PJ-08 東側の埋土下層で出土。全体に弱い磨耗が認められる
21 図 0625	PJ-09 19	扁平丸石	砂岩	245.0	174.0	65.0	3570.0	炉の北西角に立てて炉石として使用されていた扁平丸石。顯著な使用痕は認められない	
25 図 0650	PJ-10	PJ-10 23	石棒	凝灰岩	245.0	165.0	132.0	7500.0	PJ-03 と PJ-09 の間の箇園内で、真柱 192 とともに出土。被熱し、割られている。
25 図 0947	PJ-10	PJ-10	磨石類	砂岩	86.0	77.0	59.0	538.0	埋土出土。片面が非常に平滑に摩耗し、裏面も摩耗している。被熱したのであらうか器底に破碎と変色が認められる。
25 図 0948	PJ-10	PJ-10 9	磨石類	砂岩	126.0	47.0	35.0	263.0	東壁沿い、PJ-08 と箇園の間の床面で出土。片面には敲打痕があり、平滑に磨耗している
25 図 0949	PJ-10	PJ-06 基盤 図 3	磨石類	砂岩	81.0	67.0	43.0	337.0	PJ-05 に隣接する PJ-03 埋土上部で出土。PJ-10 に帰属しない可能性あり。裏面が風化し磨耗の有無はわからない
27 図 0919	PJ-11	PJ-14 56	石皿	安山岩	85.0	107.0	71.0	579.0	住居北東隅、PJ-10 南側の床面で出土。裏面が風化し想定される位置で出土した石皿破片。片面は平滑に磨耗し、裏面には敲打痕あり。
27 図 0890	PJ-11	PJ-11 5	磨石類	安山岩	88.0	76.0	39.0	429.0	炉北東側、炉と PJ-117 にはさまれた位置で、11号住居床面と想定される高さで出土。裏面には敲打痕があり、著しく平滑に磨耗している
31 図 0884	PJ-12	IG-453	磨製石斧	緑色岩	59.0	40.0	34.0	83.5	12A 号住居北東側の埋土下層で出土。全体に敲打整形痕あり。基部が平滑に摩耗している。一部斜面が剥離している。二次被熱あり
31 図 0885	PJ-12	PJ-12 35	磨石類	安山岩	109.0	54.0	48.0	452.0	炉北西側の埋土下層で出土。裏面と側面に敲打痕。片面はわずかに摩耗している。
31 図 0887	PJ-12	PJ-12 16	磨石類	安山岩	-	100.0	50.0	538.0	炉西側の埋土下層で出土。裏面と側面に敲打痕。片面はわずかに摩耗している。
31 図 0959	PJ-12	F-3-17	磨石類	安山岩	74.0	55.0	33.0	166.0	炉東側の埋土中で出土。使用痕は認められないが、壊れた形状である
31 図 0886	PJ-12	PJ-12 34	磨石類	砂岩	91.0	73.0	47.0	496.0	炉北西、PJ-10 直上の床面で出土。片面に敲打痕あり。裏面が風化して磨耗の有無は不明
34 図 1369	PJ-13	PJ-13 19	ハンマー	細粒砂岩	119.0	42.0	32.0	234.0	PJ-123 北側の埋土下層で出土。片面に穿孔孔があり、裏面には敲打痕あり。器全体が平滑に磨耗している。
34 図 1367	PJ-13	PJ-13 11	磨石類	安山岩	115.0	57.0	43.0	514.0	炉南側の埋土下層で出土。片面に穿孔孔があり、裏面には敲打痕あり。器全体が平滑に磨耗している。

第 6 表 磨製石器観察表

図版番号	帰属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚み mm	重量 g	備考	
34 図 1370	PJ-13	28	磨石類	安山岩	77.0	64.0	33.0	223.0	PT129 南側、DK102 ブラン内の床面よりや下がった位置で出土。両面が平滑に磨耗している。	
34 図 1368	PJ-13	16	磨石類	花崗岩	90.0	90.0	53.0	695.0	炉南側の理土下層で磨耗された土器破片のまとまりとともに出土。使用痕は認められない。	
34 図 1371	PJ-13	E-2-10	礫	頁岩	65.0	26.0	14.0	41.6	炉上の理土下層で出土。全体が平滑に磨耗しているが、線条痕は認められない。	
37 図 0700	PJ-14	31	磨製石斧	緑色岩	124.0	59.0	38.0	451.0	炉と PT161 の底の床面で出土。研磨仕上げだが全体に敲打整形痕が残る。一部に芯整形の剥離も残る。	
37 図 0683	PJ-14	DK-106	磨石類	花崗岩類	109.0	58.0	42.0	430.0	貯藏穴 DK106 理土出土	
42 図 0733	PJ-15	86	ハンマー	細粒砂岩	105.0	33.0	27.0	117.0	南壁沿い、PT149 南東の床面上の理土中で出土。下端部に敲打痕あり。	
42 図 0737	PJ-15	27	ハンマー	細粒砂岩	100.0	39.0	30.0	177.0	炉上の理土中で出土。下端部に敲打痕あり。	
42 図 0960	PJ-15	E-3-10	ハンマー	細粒砂岩	130.0	32.0	31.0	166.1	炉西側の理土中で出土。両端に敲打痕	
43 図 1503	PT-162	1	石柱	安山岩類	215.0	192.0	115.0	4700.0	15 号住居南東壁沿いの PT162 で出土。	
43 図 0808	PJ-15	磨製石斧	細粒砂岩	49.0	47.0	11.0	29.5	理土中で出土。丁寧に研磨整形された乳房状石斧の破片		
43 図 0684	PJ-15	DK-107	磨製石斧	緑色岩	71.0	33.0	13.0	25.1	貯藏穴 DK107 理土出土。刃部に刃口ぼれあり	
43 図 0732	PJ-15	PJ-15	磨製石斧	緑色岩	141.0	50.0	38.0	435.0	理土中で出土。裏面が丁寧に研磨整形された乳房状石斧。刃部の大きな刃口ぼれは研磨されて磨耗している。小さな刃口ぼれあり。基部の剥れも再研磨されていることから、使用による破損を修正したものと思われる。	
43 図 0734	PJ-15	22	磨石類	安山岩	97.0	82.0	46.0	546.0	PT144 東側の理土中で出土。両面に敲打痕と磨耗あり。	
43 図 0735	PJ-15	PJ-15	磨石類	安山岩	131.0	56.0	49.0	578.0	理土出土。二面に敲打痕。三面に磨耗あり。	
43 図 1501	PJ-15	PJ-17	28	磨石類	安山岩	38.4	75.0	32.0	88.0	PT164 上面の理土中で出土。片面に磨耗あり
43 図 1502	PJ-15	PJ-17	17	磨石類	安山岩	99.0	75.0	38.0	482.0	PT158 南側の床面で出土。表面に敲打痕があり、非常に平滑に磨耗している。
43 図 0736	PJ-15	PJ-15	磨石類	花崗岩類	140.6	125.0	65.0	2135.0	両面が平滑に磨耗している	
43 図 0739	PJ-15	PJ-15	磨石類	花崗岩類	92.0	76.0	59.0	527.0	PT158 と両室の間の理土中で出土。片面に敲打痕と磨耗あり。被熱破砕している。	
43 図 1500	PJ-15	PJ-17	21	磨石類	花崗岩類	103.0	67.0	40.0	372.0	南東壁沿い、PT158 と PT164 の中间地点の床面で出土。片面に敲打痕と磨耗痕が認められる。
43 図 0736	PJ-15	PJ-15	磨石類	砂岩	88.0	80.0	60.0	396.0	炉南東側の住居中央、理土下層で出土。表裏面に敲打痕あり。	
46 図 1471	PJ-16	PJ-16	磨石類	安山岩	79.0	72.5	46.0	353.0	側面は敲打整形痕が残る。両面とも磨耗してやや平滑になっている	
46 図 1472	PJ-16	PJ-16	磨石類	安山岩類	101.0	87.0	45.0	514.0	片面に敲打痕 片面は平滑に磨耗している	
46 図 1581	PJ-16	E-3-7	磨石類	安山岩類	98.0	81.0	51.0	379.0	両側に深い凹みあり。右面の凹みは穿孔したもの。両面にも磨り面あり。	
49 図 1517	PJ-178	炉 周 囲 3	台石	安山岩	249.0	265.0	55.0	4750.0	炉北辺の炉石に使用されていた台石。1518 と接合（大きさは接合後のもの）	
49 図 1518	PJ-178	43	台石	安山岩	249.0	265.0	55.0	629.0	炉南辺の炉石に使用されていたと思われる台石。1517 と接合（大きさは接合後のもの）	
49 図 1744	PJ-17C	H-657	ハンマー	砂岩	137.0	27.0	20.0	110.8	都鈴砂岩で器面が風化し使用痕が観察できないが、棒状の形状からハンマーと認定した。	
52 図 1688	PJ-18	24	石皿	安山岩	212.0	(190.0)	(88.0)	3190.0	PT173 北側の床面で出土。表裏から意図的に打ち削られているか。二次被熱による風化あり。削り面は平滑に磨耗している。	
52 図 1685	PJ-18	31	磨石類	安山岩	104.0	76.0	46.0	516.0	炉西辺の炉石間の隙間に埋めるように置かれた磨石。表裏面は敲打痕があり。やや平滑に磨耗している。	
52 図 1686	PJ-18	12	磨石類	安山岩	115.0	77.0	70.0	755.0	炉の南東側の床面で出土。断面が三角状になる円錐で、敲打痕が片面にある。	
52 図 1687	PJ-18	20	敲き石	砂岩	136.0	55.0	34.0	417.0	PT189 上の理土下層出土。表裏が平坦な棒状の表裏面に敲打痕あり。	
55 図 1732	PJ-19	ハンマー	花崗岩類	78.0	58.0	38.0	180.0	理土出土。下端部に敲打痕あり		
61 図 1905	PJ-20	104	石皿	安山岩	318.0	260.0	73.0	9700.0	伏見と釣手寺が出土した地點の北西。伊の可能性がある仮面で出土した石皿。中央を副打して凹みを設けている。埋藏はない。	
61 図 1906	PJ-20	103	石皿	安山岩	216.0	258.0	71.0	4750.0	20 号住居内の南端。炉西側の炉石と並んで出土した石皿。板状に成形された安山岩製で、片面はよく磨耗している。	

第 6 表 磨製石器観察表

図版番号	傳属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚み mm	重量 g	備考
61 図 1904	PJ-20 106		台石	安山岩	349.0	312.0	100.0	14000.0	I04の石皿の北側で出土。この石皿の北端で黒曜石の片剥、チップが集積している。表面とも顕著な使用痕は認められない。全体に被熱し、側縁は割れている。
67 図 1944	PJ-23 32		原石	石英岩	100.0	107.0	70.0	828.0	炉北西角の上、表面から30cmほど浮いた位置で出土。一部が打ち欠かれているが加工・使用痕は認められない。全体に灰色にくすんでひび割れし、加熱された可能性がある
67 図 1909	PJ-23 炉西 6		石皿	安山岩	219.0	143.0	77.0	2810.0	伊南東角の炉石として使用されていたやや小形の石皿。表面に多孔状の凹みあり
67 図 1908	PJ-23 炉東 6		台石	安山岩	451.0	318.0	114.0	23500.0	伊東角の炉石に使用されていた。全体が円錐状に平滑で顕著な使用痕は認められない。
67 図 1910	PJ-23 炉西 42		台石	安山岩	297.5	288.0	98.0	11700.0	炉西側の炉石に使用されていた。中央部に敲打痕あり
67 図 1946	PJ-23 52		土器底 磨き	細粒砂 岩	52.0	25.0	28.0	45.6	南壁際の床面出土。全体が非常に平滑に磨耗し光沢を生じている。一部に絆条痕がある
67 図 1945	PJ-23 44		磨製石斧	細粒砂 岩	96.0	51.5	35.0	98.9	炉南側の屋下帯で出土。刃部に大きな刃こぼれあり。基部側の刃頭は、折損後の修理の跡か刃先の修理か、剥離面の場合は摩滅して角が失くなっているから鉛削されただと思われる。折損部には敲打痕あり、角が丸くなっている。
67 図 1914	PJ-23 48		磨石類	安山岩	97.0	85.0	43.0	538.0	伊東側の床面出土。表裏面に深く発達した敲打痕があり、平滑に磨耗している。側面と小口面にも敲打痕あり
67 図 1950	PJ-23 DK-116		磨石類	安山岩	98.0	106.0	49.0	636.0	DK-116 領域。埋設土器内で出土。片面に磨耗痕が発達している
68 図 1913	PJ-23 64		磨石類	花崗岩	90.0	79.0	50.0	487.0	住居南東端の柱穴直上で出土。両面に弱い敲打痕あり。磨耗は認められない
68 図 1912	PJ-23 炉 3		磨石類	砂岩	111.0	62.0	41.0	509.0	伊南西北角部の石皿の側面を埋めないように立てられていた。やや鈍角の砂岩を使用。片面に敲打痕があり磨耗した磨石類を分類したが、細長く扁平な形状、表裏面が平滑に磨耗。あるいは研磨され、側面に敲打痕がされていることから、在地製作された磨石斧の破損品を乾燥したとも考えられる
68 図 1915	PJ-23 49		磨石類	砂岩	132.0	77.0	39.0	564.0	北東柱穴上の埋下土器。器面が風化して表料の有無はわからない
68 図 2276	PJ-24		磨製石斧	砂岩	96.0	40.0	29.0	119.1	炉上の屋下帯で出土。剥離成形段階の剝離面が基部周辺に残る
74 図 1981	PJ-25 121	ハンマー	真岩	(115.0)	(40.0)	(27.0)	162.0	小口端部に弱い敲打痕がみられる。棒状の形状からハンマーと認定した。	
74 図 2053	PJ-25 107		石皿	安山岩	(107.0)	(102.0)	106.0	1472.0	擦り面は平滑に磨耗している。
74 図 2064	PJ-25 65		石皿	安山岩 輝	(119.0)	(107.0)	89.0	1160.0	擦り面は非常に平滑に磨耗している。裏面も使用によるためか、平滑に磨耗している。
74 図 2051	PJ-25 106		石柱	花崗岩 輝	(160.0)	170.0	90.0	3200.0	109/110と同一個体。被熱して割れている
74 図 2051	PJ-25 [109-110]		石柱	花崗岩 輝	(236.0)	(173.0)	148.0	9000.0	108と同一個体。被熱して破壊し、割れている
74 図 1982	PJ-25 43		磨石類	安山岩	96.0	74.0	38.0	405.0	両面に敲打痕と磨耗あり
74 図 2000	PJ-25 10-570		磨石類	安山岩	105.0	93.0	48.0	599.0	表裏面は敲打痕があり。やや平滑に磨耗している
77 図 2233	PJ-26 7	磨製石斧	細粒砂 岩	99.0	47.0	31.0	212.0	刃部は刃こぼれ。刃部は研磨整形されているが、身部は敲打整形痕が残る。側面に削石として転用された際に生じたと思われる深い敲打痕あり。	
77 図 2321	PJ-26 4	磨石類	安山岩	85.0	72.0	32.0	318.0	片面は敲打痕がありやや磨耗している。裏面は平滑に磨耗している	
83 図 2246	PJ-27 72		台石	安山岩	112.0	105.0	56.0	784.0	台石の破片。片面が平滑に磨耗している。
83 図 2244	PJ-27 46		棒状椎	砂岩	99.0	43.0	22.5	137.0	扁平、棒状の椎。片面がやや平滑に磨耗している。
83 図 2228	PJ-27 B-3-5		磨製石斧	綠色岩	(47.0)	(58.0)	(21.0)	53.3	刃部に刃こぼれ。使用による折損か
83 図 2245	PJ-27 64		磨石類	安山岩	101.0	88.0	96.0	879.0	表裏面に磨耗あり。
83 図 2247	PJ-27 88		磨石類	安山岩	80.0	78.0	48.0	296.0	表裏面に深く発達した敲打痕があり。側面にも敲打痕が認められる
83 図 2248	PJ-27 130		磨石類	砂岩	97.0	78.0	61.0	751.0	花崗岩小塊が混じる粗粒の砂岩で、風化が進み使用痕が判別しにくいか表裏面に表示したより多くの敲打痕があると思われる。
85 図 2192	PJ-28 10-632		磨製石斧	綠色岩	(48.0)	42.0	-	33.0	刃部付近の破片と思われる。刃部を破壊した磨製石斧の刃部を再生して使用した際に削られたものと推測される
85 図 2190	PJ-28 19		磨製石斧	細粒砂 岩	(89.0)	50.5	39.0	237.0	刃部に大きな刃こぼれあり。体部中央で折り割っている。
85 図 2191	PJ-28 28-9		磨製石斧	細粒砂 岩	(89.0)	57.0	-	132.0	刃部に刃こぼれあり。
79 図 2168	PJ-29 10-690	円鏡	真岩	23.0	24.0	11.0	7.7	全体がやや滑に磨耗し。光沢が生じている。小形磨製石斧の基部に似るが、磨製石斧ではない。	

第6表 磨製石器観察表

図版番号	帰属 遺構	注記	器種	石材	長さ mm	幅 mm	厚み mm	重量 g	備考
79 図 2170	PJ-29	PJ-29 5	角柱状鍬	安山岩	271.0	97.0	82.0	3800.0	217の深鉢の北側で出土した。表面が風化していわきにくいが、敲打整形していると思われる。
80 図 2167	PJ-29	PJ-29 6	台石	安山岩	340.0	269.0	95.0	12860.0	217の深鉢の北東 In ほどの理土中で斜めになって出土。作業面は敲打整形され、中央部は磨削している。石皿の未成品なのか、こいつら形状の板状の石皿なのか判断がつかない。
80 図 2169	PJ-29	Ig-577	磨製石斧	緑色岩	113.0	50.0	43.0	245.0	刃部は丁寧に研磨整形され、身部は敲打整形面が少し残る。意図的な破壊のため崩れと思われる。
90 図 0536	PJ-33	Ig-344	磨石類	砂岩	13.7	10.2	5.6	1206.0	粗粒の砂岩で器面が風化しているが、表面面に敲打痕あり
91 図 0525	DK-029	DK-29	多孔石	砂岩	225.0	101.0	107.0	3150.0	DK29 北壁沿いの底面で出土。表面に凹みあり。被熱して変色し、表面が風化している。
102 図 0240	DK-038	DK-38	磨石類	花崗岩	91.0	88.0	41.0	550.0	土坑確認面よりやや下がった理土中で出土。表面に敲打痕あり
93 図 0320	DK-040	DK-40 図 4	敲石	緑色砂岩	128.0	66.0	41.0	460.0	DK40 中央の底面で出土。端部に弱い敲打痕があり、全体が平滑に磨耗している。
103 図 0345	DK-062	DK-62	磨石類	安山岩	100.0	75.0	52.0	555.0	DK62 理土上層で出土。片面と側面に磨耗あり
96 図 0346	DK-064	DK-64	石棒	安山岩	121.0	161.0	92.0	2490.0	347 と同一個体。DK64 理土上層出土。被熱して赤く変色し研磨している。削った後で被熱している。
96 図 0347	DK-064	DK-64	石棒	安山岩	123.0	146.0	97.0	2470.0	346 と同一個体。DK64 理土上層出土。敲打整形された石棒の基部と思われる破片。被熱して変色している。
103 図 0524	DK-68	DK-68	石皿	安山岩	-	-	52.0	2630.0	DK68 底面で出土。擦り面は凸凹が激しい。表面は使用によるものか摩耗している。擦り面の凹みは擦り面再生の目立つて立っているものかもしれない。もしくは轟丸石の台石を石皿に加工して直したものか。
96 図 0523	DK-72	DK-72	台石	安山岩	187.0	176.0	12.0	3815.0	DK72 理土下層で出土。擦着した使用法認められない
97 図 0934	DK-77	DK-77	ハンマー	緑色砂岩	127.5	41.0	32.5	171.0	小口端部が平滑になっていて敲打痕と思われる。棒状の形状からハンマーと決定した。
104 図 0219	DK-89	DK-89	石皿	安山岩	231.0	185.0	73.0	4090.0	DK89 理土下層で出土。擦り面は平滑に摩耗している。
105 図 1394	DK-102	DK-102 2	磨石類	安山岩	140.0	97.0	62.0	883.0	片面に敲打痕があり平滑に摩耗。側面の一部が平滑に摩耗し平坦面ができる。表面は研磨のみ
99 図 1397	DK-104	DK-104 図 6	石皿	安山岩	75.0	85.0	82.0	505.0	石皿の破片。画面が平滑に摩耗している。
99 図 1396	DK-104	DK-104 図 5	磨石類	花崗岩	140.0	101.0	83.0	1660.0	使用痕は認められない。
100 図 1401	DK-109	DK-109 図 1	石皿?	砂岩	237.0	220.0	71.0	5200.0	石皿状に片面が凹み、弱い摩耗痕が認められる。
100 図 1403	DK-109	DK-109 図 2	磨石類	安山岩	108.0	89.0	46.0	658.0	表面裏と側面に敲打痕。表面裏は弱く摩耗している。
100 図 1402	DK-109	DK-109 図 2	块状耳飾	滑石	98.0	35.0	7.0	7.1	折頸面を再研磨して再生している
106 図 0929	PF-63	IG-411	磨製石斧	蛇紋岩	96.0	53.0	25.0	242.0	刃部と斧部を接続した三面式磨製石斧を複合。転用した石器。基部は敲打整形により多孔孔を有する形状で再生させた。刃部は打製石器の刃部のように剥離再生させられ、剥離の跡には、器体と軸方向に平行な継縫線を伴う磨滅痕が観察される。打製石器のように使用されたものか。
106 図 0930	PF-81	PF-81	磨石類	安山岩	135.0	61.0	39.0	468.0	器皿全体が凹みを含めて非常に平滑に摩耗している。
113 図 2446	道標外	道標一 括	石皿	花崗岩	373.0	337.0	78.0	14880.0	凹んだ面がよく摩耗している。ぼろぼろした状態の花崗岩。
113 図 0621	道標外	G-3-10	石皿	千枚岩	72.0	66.0	26.0	179.0	抉部はシャープで磨耗が認められない。未使用品もしくは編織用の鍼と思われる
113 図 0961	道標外	IG-348	磨製石斧	緑色岩	125.0	50.0	38.0	368.0	全面が研磨整形されている
113 図 0962	道標外	F-3-18	磨製石斧	緑色岩	155.0	44.0	32.0	301.0	片面はきれいに研磨整形されているが、表面は剝離成形のまま若干、研磨した程度の上に、不整形である。2ヶ所に鉋石として使用したような敲打痕がある。敲打痕がある場合は保有者としていうに光沢のある黒紫色調が広がる。
113 図 1423	道標外	IG-406	磨製石斧	緑色岩	98.0	50.0	34.0	191.0	石材は密度極めて高い砂岩でもしない。刃部の上からたたき割ったような剝離面が残る。身部の表面も意匠的な破壊と思われる。刃部はきれいに研磨整形され、身部は敲打整形痕と荒成形時の剝離面が残る。
113 図 2399	道標外	道標一 括	磨製石斧	緑色岩	90.0	40.0	31.0	291.0	折損後に基部をハンマーに転用しているかも。
113 図 2428	道標外	道標一 括	磨石類	安山岩	102.0	83.0	41.0	441.0	片面に磨耗痕が認められる。
113 図 0332	道標外	IG-322	磨石類	緑色砂岩	119.0	75.0	43.0	590.0	敲打痕が認められるが、それを擦り消すように表面裏と側面が平滑に摩耗している。
113 図 0333	道標外	IG-142	轟丸石	安山岩	229.0	101.0	70.0	3450.0	片面の中央部に敲打痕あり

第 6 表 磨製石器観察表

圧痕の「種」は識別可能な場合は種名、属名で記載し、識別困難な場合は科名を記した。不明としたものは植物種子だが種、属、科が同定できなかったものも記述する。マメ科圧痕のうち種が識別される試料は1種子、半分に割れるなどしたものは子葉と分類し、種子か子葉か判別できないものは空欄とした。マメ科圧痕の「ヘ」は完全に形状が確認できた試料は△、部分的に確認された試料は○、確認できない時は×と記載し、ヘンかどうか識別できない試料は空欄とした。付録(B)に良好な圧痕試料のレプリカ画像を収録したので、参照いただきたい。

DD 収録 試料 番号	圧痕 番号	圧痕観察所見 () は現存値、() <は予測値、空欄は測定不可								土器情報										
		部位	種	長 mm	幅 mm	厚 mm	ヘ ン	長 mm	厚 mm	所見	注記	母 サンプル No.	実 測 番 号	重 量 g	報告書 番号	時期	型式名			
1	OKU-171	ササゲ属	(4.6)	3.1	3.5	△				6-039-01-2021	PJ-5 10			543		縦文中期後葉	持穴式			
2	OKU-196	ダイズ属	6.7	(3.7)	4.5	△	2.4	(0.6)		6-039-01-2021	0-3-2			11		縦文中期後葉	持穴式			
OKU-198		マメ科	10.6	(5.1)	x				ダイズ属?	6-039-01-2021	0-3-12			26		縦文中期中葉	藤内式2段階			
3	OKU-059	ササゲ属	6.0	3.2	0.6	△	(2.3)	0.8		6-039-01-2021	16-48L E-3-4	266	2090	107 図 1		縦文中期中葉	藤内式			
4	OKU-108	黒果 Xanthium属	5.6	(2.3)	4.1	x				6-039-01-2021	16-61B	106 100 が 同一	72			縦文中期中葉	藤内式			
OKU-152		種子	不 ^明	7.3	6.4					6-039-01-2021	0-3-6			47		縦文中期中葉	藤内式			
OKU-162		種子	2.1		1.7	x			エゴマ?	6-039-01-2021	0-3-15			28		縦文中期中葉	藤内式			
12	OKU-52	核	ミズキ	5.3	(4.0)	4.4										縦文中期中葉	藤内式			
12	OKU-53b	不 ^明	7.2	1.8	2.9				東洋の特有の? 1	6-039-01-2021	DK-47 1. DK-47 1. 同一	45	2722	11 図 1		縦文中期後葉	舟戸式2段階			
12	OKU-54b	不 ^明	9.7		4.4											縦文中期後葉	舟戸式2段階			
OKU-35b		マメ科	11.7	4.9	6.5	x			ダイズ属?											
OKU-39		種子	2.5	(1.6)	2.1	x			エゴマ?	6-039-01-2021	DK-50 1. G-3-13 が 同一	128	2770	16 図 1		縦文中期後葉	舟戸式2段階			
OKU-40		マメ科							ダイズ属?											
OKU-41		マメ科	5.0	(2.0)	3.6				ダイズ属?											
OKU-42		マメ科	5.8	(2.7)	3.5				ダイズ属?											
11	OKU-65	種子	ササゲ属	6.1	(3.4)	3.3	○	2.0	0.6	複皮剥かれ有	6-039-01-2021	DK-15 1. PJ-29 4	6-~45 が 同一	389	2260	79 図 3		縦文中期後葉	舟戸式2段階	
11	OKU-66	種子	ササゲ属	6.2	3.1	0.2	○	2.6	0.8	複皮剥かれ有	6-039-01-2021									
11	OKU-67	マメ科	(5.1)	3.2	5.2	x														
11	OKU-46	殻	堅果類	(4.8)	(2.9)															
13	OKU-066	種子	2.0	(2.3)	x				エゴマ? 測定値 示不 ^明	6-039-01-2021	PJ-46			10		縦文中期後葉	舟戸式2段階			
14	OKU-150	種子	ササゲ属	5.7	3.4	3.7	○	2.5	0.8	複皮剥かれ有	6-039-01-2021	PJ-7			20		縦文中期後葉	舟戸式2段階		
15	OKU-160	ササゲ属	5.5	(2.7)	3.1	△				6-039-01-2021	PJ-7			21		縦文中期後葉	舟戸式2段階			
16	OKU-172	種子	ササゲ属	6.4	3.6	0.6	○	2.8	0.7	複皮剥かれ有	6-039-01-2021	PJ-6 38	(17) 17 が 同一	39			縦文中期後葉	舟戸式2段階		
16	OKU-173	エゴマ?	2.5	2.0	2.4	x														
17	OKU-168	エゴマ?	2.3	(1.5)	2.0	x				6-039-01-2021	H-3-3			8		縦文中期後葉	舟戸式2~3段階			
18	OKU-210	ササゲ属	4.7	3.1	0.3	○	2.4	0.6		6-039-01-2021	F-3-12	230 211 が 同一		19			縦文中期後葉	舟戸式2~3段階		
18	OKU-211	ササゲ属	5.4	3.2	2.6	△	(1.3)	0.8												
19	OKU-74	殻	堅果類	(4.3)	0.6					6-039-01-2021	H-3-9			51	60	107 図 9		縦文中期後葉	舟戸式2段階	
OKU-212		種?	4.7	3.2	2.6	x				6-039-01-2021	PJ-4 1			29	343	12 図 1		縦文中期後葉	舟戸式	
OKU-73		マメ科	4.6	3.6	3.3	x			ササゲ属?	6-039-01-2021	PJ-4-15, PJ-6 -16, H-2-94, H-2-22			9	195	12 図 2		縦文中期後葉	舟戸式	
5	OKU-01b	種子	ダイズ属	11.3	4.8	7.0	○	3.7	1.2	複皮剥かれ有	6-039-01-2021	PJ-17-30			283	409	46 図 2		縦文中期後葉	舟戸式
6	OKU-19-1ab	ダイズ属								6-039-01-2021	PJ-21			19-1, 19-2 が 同一	316	938	62 図 1		縦文中期後葉	舟戸式
6	OKU-19-2	ダイズ属	5.3	3.1	0.7	△														
7	OKU-20b	種子	ササゲ属	7.0	3.8	3.9	○	2.3	0.7	複皮剥かれ有										
7	OKU-21b	種子	ササゲ属	7.4	3.6	3.9	△	2.6	0.8	複皮剥かれ有										
7	OKU-22b	種子	ササゲ属	6.8	4.0	4.4	△	2.4	0.8	複皮剥かれ有										
7	OKU-23b	種子	ササゲ属	7.8	4.4	5.0	△	2.9	1.5	複皮剥かれ有										
7	OKU-24	種子	ササゲ属	7.8	(3.5)	0.9	△	(2.1)	1.0	複皮剥かれ有										
7	OKU-25b	不 ^明																		
7	OKU-26b	種子	ササゲ属	7.0	3.5	3.2	○	2.4	0.8	複皮剥かれ有										
7	OKU-27b	種子	ササゲ属	6.9	3.6	4.1	○	2.3	1.0	複皮剥かれ有										
7	OKU-28b	種子	ササゲ属	7.3	3.7	4.6	○	2.5	0.7	複皮剥かれ有										
7	OKU-29b	種子	ササゲ属	(7.2)	(4.1)	(4.3)	△			複皮剥かれ有	6-039-01-2021	PJ-21-28	20-37 が 同一		317	838	62 図 2		縦文中期後葉	舟戸式
7	OKU-30b	種子	ササゲ属	6.4	4.2	4.3	○	2.3	0.9	複皮剥かれ有										
7	OKU-31b	種子	ダイズ属	10.1	(4.2)	6.2	△			複皮剥かれ有										
7	OKU-32b	種子	ササゲ属	8.1	4.3	4.1	○	2.1	0.9	複皮剥かれ有										
7	OKU-33b	種子	ササゲ属	7.9	4.2	4.7	○	3.4	1.0	複皮剥かれ有										
7	OKU-34	種子	マメ科	6.4	(3.3)	3.8	x			ササゲ属? 複皮 剥かれ有										
7	OKU-36b	種子	ササゲ属	7.0	3.6	3.9	○	2.6	0.8	複皮剥かれ有										
7	OKU-37-1	種子	ササゲ属	7.9	(3.6)	(4.6)	○	3.2	0.9	複皮剥かれ有										
7	OKU-37-2	種子	ササゲ属	6.4	3.2	3.8	△	(1.8)	0.7	複皮剥かれ有										
7	OKU-37-3	種子	マメ科	4.9	4.0	3.7	x			ササゲ属? 複皮 剥かれ有										

第7表 種子圧痕一覧表

DIN 登録 番号 上位 登録 番号	圧痕No.	圧痕観察所見 () は現存値、< > は予測値、空欄は測定不可							土器情報											
		部位	種	長 mm	幅 mm	厚 mm	ヘ ソ	長 mm	厚 mm	所見	注記	同一個体 サンプル No.	実測 番号	重量 g	報告書 番号	時期	型式名			
061-221		不明	5.0 (2.3)	1.7						6-039-01-002	DK-14 X1, DK-14 一括		381	2540	101 図 1	縄文中期後葉	井戸尻式			
061-229		種?	2.2 (1.5)	1.9						6-039-01-002	DK-71 一括	229 ~ 231 D'001~	57	91	102 図 7	縄文中期後葉	井戸尻式			
061-230		不明	5.4 (2.0)	0.9						6-039-01-002	DK-71 一括	229 ~ 231 D'001~								
061-231		種子	不明 (4.0)	1.6																
061-24		不明	2.0 (1.4)							6-039-01-002	測定箇所不明	RU-6				21	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-95		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-6				14	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-98		種子	(1.7) (1.3)		x					6-039-01-002	エゴノ?	RU-6				13	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-99		子葉	マメ科	5.8 (2.0)	(5.8)	x				6-039-01-002	ダイズ属? 1/2 分 に剥離している	RU-6				111	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-102		不明								6-039-01-002	D-025					7	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-104		非種子								6-039-01-002	穿孔痕	RU-6				9	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-105		種子	マメ科	5.8 (2.3)	3.3 (2.9)	x				6-039-01-002	ササゲ属? 稲皮 剥離有り	RU-6				14	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-106		種子	ササゲ属	5.9 (2.8)	3.8 (4.2)	x				6-039-01-002	種皮剥離が 有る 稲皮剥離が 有る 発芽?	RU-6				37	縄文中期後葉	井戸尻式		
8	061-129		マメ科	3.0 (2.0)	3.0 (4.4)	2.6 △	x			6-039-01-002	D-3-25	129 100 g/ D'001~				12	縄文中期後葉	井戸尻式		
8	061-130		種子	ダイズ属	7.0 (2.0)	4.4 (4.6)	6.4 △	(2.0) 1.3		6-039-01-002	種皮剥離が有り									
9	061-137		種子	マメ科	5.0 (4.2)	3.9 (3.1)	x			6-039-01-002	種皮剥離が有り									
9	061-138		種子	マメ科	4.2 (5.6)	3.1 (3.9)	x			6-039-01-002	道跡一括	137 ~ 139 D'001~								
9	061-139		種子	ササゲ属	4.7 (4.3)	3.6 (3.6)	0.5 (0.5)	○	2.2 0.7	6-039-01-002	種皮剥離が有り									
061-161		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-7				55	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-165b		子葉	マメ科	9.9 (3.0)	4.6 (1.0)	x				6-039-01-002	ダイズ属? 1/2 分 に剥離している	RU-7				19	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-176		非種子		4.1 (1.9)	1.8 (1.5)	x				6-039-01-002	木ズの皮?	RU-7 27				94	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-182		種子								6-039-01-002	エゴノ?	RU-7				42	縄文中期後葉	井戸尻式		
061-192		マメ科		5.6 (5.3)	3.3 (3.1)	x				6-039-01-002	ササゲ属?	RU-7				32	縄文中期後葉	井戸尻式		
10	061-154		種子	ササゲ属	7.0 (3.0)	0.5 (4.2)	0.7 (3.0)	△	3.4 1.0	6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-7				11	縄文中期後葉	井戸尻式		
20	061-151		種子	ササゲ属	5.7 (3.1)	2.8 (1.0)	△ (1.7)	0.7		6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-7				16	縄文中期後葉	井戸尻式?		
21	061-155b		種子	ササゲ属	7.3 (3.9)	4.4 (4.4)	△ (4.4)			6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-7				15	縄文中期後葉	井戸尻式~ 雪利1式		
25	061-217		果実	サンショウ属	5.2 (5.0)	5.0 (2.3)	x			6-039-01-002	RU-10, F-3, F-3-2 F-3-2, F-3-3	217 28 g/ D'001~	185	242	24 図 6	縄文中期後葉	雪利1式 新潟県			
25	061-218		種子	サンショウ属	4.3 (3.0)	2.0 (2.7)	3.7 △			6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-15				159	1272	39 図 4	縄文中期後葉	雪利1式 新潟県
24	061-066b		種子	ダイズ属	12.8 (12.6)	4.6 (4.6)	7.2 (7.2)	△	0.5 1.6	6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-15				431	縄文中期後葉	雪利1式 新潟県		
26	061-174		種子	ダイズ属	13.0 (4.6)	6.7 (6.7)	△ (3.2)	0.6 ①		6-039-01-002	種皮剥離が有り 有 り?	RU-10, 15, F-3-6				213	992	23 図 4	縄文中期後葉	雪利1式
061-56		マメ科		6.7 (6.7)	4.2 (4.2)	3.6 (3.6)	x			6-039-01-002	ササケ属?	RU-15, F-3-6								
061-214		マメ科		4.5 (4.5)	2.3 (2.3)	2.6 (2.6)	x			6-039-01-002	植物茎?	RU-10, 20, F-3-2	213 ~ 216	183	43	29 図 11	縄文中期後葉	雪利1式		
061-216		不明					x			6-039-01-002	植物茎?	RU-10, 20, F-3-2								
061-75		マメ科		6.0 (3.2)	3.2 (3.2)	3.2 (3.2)	x			6-039-01-002	ササケ属? 稲皮 剥離有り	RU-10, 20, F-3-2 F-3-2, F-3-3, F-3-4, F-3-5, F-3-6			279	7976	44 図 1	縄文中期後葉	雪利1式	
22	061-02		種子	ササゲ属	5.0 (6.9)	3.2 (4.2)	3.6 (3.9)	△	0.6 ○	6-039-01-002	種皮剥離が有り	06-01-01 D'001~	125	2220	66 図 1	縄文中期後葉	雪利1式			
22	061-03b		種子	ササゲ属	6.9 (6.5)	4.2 (4.0)	3.9 (3.9)	○	0.3 x	6-039-01-002	ササゲ属?	RU-15				21	縄文中期後葉	雪利1式		
061-03		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-15								
23	061-122		種子	サンショウ属	4.4 (4.2)	2.1 (2.1)	3.2 (3.2)	x		6-039-01-002	道跡一括	122, 123 D'001~				29	縄文中期後葉	雪利1式		
23	061-123		果実	サンショウ属	4.6 (4.7)	4.6 (4.6)	4.3 (4.3)	x		6-039-01-002	植物茎?	RU-10, 15, F-3-6								
32	061-76		種子	ダイズ属	9.8 (10.7)	3.6 (4.3)	5.5 (6.2)	△		6-039-01-002	種皮剥離が有り 免?	RU-10, 15, F-3-6								
32	061-77b		種子	ダイズ属	10.7 (10.7)	4.3 (4.3)	6.2 (6.2)	△		6-039-01-002	植物茎?	RU-10, 15, F-3-6								
32	061-78		種子	マメ科	8.4 (8.4)	4.6 (4.6)	6.7 (6.7)	x		6-039-01-002	ダイズ属? 稲皮 剥離有り 免?	RU-10, 15, F-3-6				330	4290	57 図 4	縄文中期後葉	雪利1式 新潟県
061-55		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9, 17, F-3-2				141	961	16 図 1	縄文中期後葉	雪利1式
061-222		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-223		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-224		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-225		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-226		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-227		不明								6-039-01-002	植物茎?	RU-9								
061-72		マメ科		8.3 (1.8)	4.8 (1.8)	4.8 (1.8)	x			6-039-01-002	道跡一括	RU-9, 17, F-3-2				350	26	59 図 5	縄文中期後葉	雪利1式
29	061-220		ササゲ属	6.9 (3.6)	4.2 (3.6)	4.2 (3.6)	△			6-039-01-002	RU-9 一括, RU-13	34	1176	45 図 5	縄文中期後葉	雪利1式				
28	061-219		果実	イノコズチ	3.1 (3.1)	1.4 (1.4)	1.4 (1.4)	x		6-039-01-002	ヒナタイノコズチ 種子? 少し 見えている。	RU-20, 26, F-3-2				344	436	45 図 7	縄文中期後葉	雪利1式
061-205b		種子	マメ科	6.5 (3.6)	0.8 (3.2)	1.2 (3.2)	x			6-039-01-002	種皮剥離が有り	RU-20, 26, F-3-2				406	1340	84 図 1	縄文中期後葉	雪利1式

第 7 表 種子圧痕一覧表

DM 収録 回数 番号	任用年	圧痕観察所見 () は現存、< > は予測値。空欄は測定不可							土器情報										
		部位	種	長 mm	幅 mm	厚 mm	ヘソ	長 mm	厚 mm	所見	注記	同一件体 サンプル No.	実測 番号	重量 g	報告書 番号	時期	型式名		
27	OKU-05b	種子	ダイズ属	13.0	4.6	7.5	○	4.1	1.3	種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-7 39	05-06 07 同一	92	3060	80 図1	縄文中期末期	菅利V式	
27	OKU-05b	種子	ダイズ属	11.2	4.0	5.6	○	4.2	1.3	種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-7 39	05-06 07 同一	92	3060	80 図1	縄文中期末期	菅利V式	
27	OKU-07a	種子	ササゲ属	6.3	4.0	4.0	○	2.9	0.6	種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-25	22						
30	OKU-17a	核	堅果類	(7.0)	(5.1)						6-039-01-2012	PJ-12	73						
OKU-181		マメ科		8.0		3.2					6-039-01-2012	E-0-16	35						
31	OKU-18b	種子	ササゲ属	6.2	(2.9)	(4.3)	△			種皮剥がれ有	6-039-01-2012	E-0-21	187 187 同一	51					
OKU-187		不明																	
OKU-189		種子	マメ科	11.3	4.7	(5.3)	×			ダイズ属? 種皮剥がれ有	6-039-01-2012	遺跡一括	188 189 同一	262					
OKU-190		マメ科		10.8	4.0	7.0	×			ダイズ属?	6-039-01-2012								
33	OKU-10b		ダイズ属	6.9	3.7	4.3	○	(2.4)	1.1										
33	OKU-11b		ダイズ属	4.8	2.4	2.9	○	1.8	0.6										
33	OKU-12		マメ科	5.4	1.9	3.2	×												
33	OKU-14		ダイズ属	(3.4)			○	(1.9)	0.7										
33	OKU-15		ダイズ属	0.8	(2.5)	3.0	○	1.5	0.6		6-039-01-2012	06-102	10- 10 同一	253	2360	104 図4	縄文中期末期	菅利V式	
33	OKU-16		不明							植物茎?									
33	OKU-17	種子	マメ科	(6.1)	(3.5)		×			ダイズ属? 種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-27 26	75						
33	OKU-18	種子	不明	8.2	(3.0)	3.4					6-039-01-2012	PJ-27	35						
OKU-175		非種子	0.3	1.5						ナズミの實?	6-039-01-2012								
34	OKU-81	ササゲ属	(4.7)	4.0	3.9	△	(1.8)	0.6			6-039-01-2012								
OKU-183		種子	不明								6-039-01-2012	0-3-6	55						
OKU-43		種子	不明	4.8	2.8	(2.2)													
OKU-44-1		子葉	マメ科	11.7	(2.6)	6.8	×			ダイズ属? 半分に割られている	6-039-01-2012	PJ-27 47, 49, 90, 91, 0-3-1	41- 44 同一	391	3610	81 図1	縄文中期末期	菅利V式	
OKU-44-2		核	ミズキ	4.6	5.1	3.4				半分に割られている									
OKU-50		種子	マメ科	7.8	4.3	4.8	×			種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-27 31, 32, 33, 27, 一括, 0-3-6	416	652	82 図3	縄文中期末期	菅利V式		
35	OKU-57	種子	サンショウ	4.1	2.6	3.6	○			種皮は剥がれている									
35	OKU-58	種子	サンショウ	3.2	(2.3)	2.3	○			種皮は剥がれている									
35	OKU-59	種子	サンショウ	2.9	2.4	(2.1)	×			種皮は剥がれている									
35	OKU-60	種子	サンショウ	3.9	2.6	3.0	○			種皮は剥がれている									
35	OKU-61b		不明							植物茎?									
35	OKU-62	種子	サンショウ	(4.0)	2.8	0.8	○			種皮は剥がれている									
35	OKU-63	種子	サンショウ	4.0	3.0	(2.2)	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-64	種子	サンショウ	0.6	2.7	2.9	△			種皮は剥がれて									
35	OKU-65	種子	サンショウ	3.9	(2.6)	3.3	○			種皮は剥がれて									
35	OKU-66	種子	サンショウ	4.0	(2.6)	3.1	△			種皮は剥がれて									
35	OKU-67	種子	サンショウ	3.5	(2.6)	2.7	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-68	種子	サンショウ	3.4	(2.5)	2.6	△			種皮は剥がれて									
35	OKU-69	種子	サンショウ	4.3	(2.9)	3.1	○			種皮は剥がれて									
35	OKU-70	種子	サンショウ	3.5	2.7	0.9	△			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-1	種子	サンショウ	0.3	(2.3)	0.6	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-2	種子	サンショウ	4.1	(2.5)	3.1	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-3	種子	サンショウ	(4.0)	(2.7)	(1.7)	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-4	種子	サンショウ	3.9	2.7	(3.8)	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-5	種子	サンショウ	3.5	(2.3)	(2.7)	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-6	種子	サンショウ	3.6	(2.8)	(2.6)	×			種皮は剥がれて									
35	OKU-71-7	種子	サンショウ	3.6	2.8	(2.6)	×			種皮は剥がれて									
OKU-228		不明								6-039-01-2012	B-3-5	417	47	82 図8					
OKU-140		不明								6-039-01-2012	遺跡一括	25							
37	OKU-69	幼果	コナラ属	3.6	3.2		×				6-039-01-2012	PJ-25 8	88 89 同一	12					
37	OKU-90	幼果	コナラ属	4.8	4.4	Q.0													
38	OKU-92	核	ミズキ	4.0	4.4	Q.0													
38	OKU-93	種子	ササゲ属	(4.5)	(2.6)	2.6	○	2.3	0.8	種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-27	47						
OKU-90		種子	2.2		2.0	×				エゴマ?	6-039-01-2012	PJ-25	11						
OKU-87		種子	Q.2	2.0	4.1	×					6-039-01-2012	PJ-6	12						
OKU-91		マメ科	4.4	(2.0)	2.3	×					6-039-01-2012	PJ-27 34	33						
OKU-95		種子	マメ科	(6.7)	3.6	4.4	×			種皮剥がれ有	6-039-01-2012	PJ-27	11						

第7表 種子圧痕一覧表

DIN 4388 ISO 上部 番号	圧痕No.	圧痕観察所見 () は現存値、< > は予測値、空欄は測定不可										土器情報						
		部位	種	長 mm	幅 mm	厚 mm	ヘソ	長 mm	厚 mm	所見	注記		同一個体 グループ No.	実測 番号	重量 g	報告書 番号	時期	型式名
	06U-96	種子	マメ科	6.9	(1.7)	3.9	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-2-11			87		縄文中期	
	06U-97	子葉	マメ科	4.9	(2.0)	(3.5)	×			ダイズ属? 半分 に剥離している	6-030-01-0012	F-2-23			9		縄文中期	
39	06U-98	種子	ササゲ属	7.8	(1.5)	4.0	○	2.5	0.6	種皮剥がれ有	6-030-01-0012	チカラ2 Ⅲ-1			12		縄文中期	
40	06U-112	種子	ササゲ属	7.8	3.9	4.2	○	2.4	0.6	種皮剥がれ有	6-030-01-0012	チカラ2 Ⅲ-2			58		縄文中期	
	06U-114		マメ科	4.9	2.9	2.5	×				6-030-01-0012	F-3-5			130		縄文中期	
41	06U-117	種子		2.3	(1.7)	2.1	×			エゴマ?	6-030-01-0012	F-3-1			111		縄文中期	
	06U-118	不明		3.9	3.4	4.9					6-030-01-0012	F-3-8			10		縄文中期	
	06U-124	不明								植物茎?								
	06U-125	不明								植物茎? 中央穴 がある	6-030-01-0012	F-3-9	134.105 g 同一		46		縄文中期	
	06U-127	不明	(5.6)		(4.3)						6-030-01-0012	F-3-25			44		縄文中期	
	06U-128	不明								植物茎?	6-030-01-0012	F-3-25			14		縄文中期	
42	06U-131	子葉	マメ科	5.0	(2.1)	(5.4)	×			ダイズ属? 半分 に剥離している	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		151		縄文中期	
42	06U-132	種子	ダイズ属	11.5	4.6	6.2	○	4.8	1.7	種皮剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		151		縄文中期	
42	06U-133	種子	マメ科	11.6		5.1	×			ダイズ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		45		縄文中期	
	06U-134a	種子	マメ科	11.5	4.7	6.0	×			ダイズ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		45		縄文中期	
43	06U-135	種子	マメ科	6.2	(1.8)	3.8	×			ダイズ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		16		縄文中期	
43	06U-136	ササゲ属	(5.0)	4.0	3.9	△	2.9	(1.5)		種皮剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-29	131.132 g 同一		16		縄文中期	
44	06U-142	殻	堅果類	3.9	(2.2)						6-030-01-0012	遺跡一括			39		縄文中期	
06U-143		非理子								イモムシの巣?	6-030-01-0012	遺跡一括			15		縄文中期	
45	06U-144	種子	堅果類	(9.0)	(7.6)					クヌギ?	6-030-01-0012	遺跡一括			18		縄文中期	
06U-145		マメ科	(8.4)	5.7		×				ダイズ属?	6-030-01-0012	遺跡一括			9		縄文中期	
46	06U-146	種子	ササゲ属	6.4	4.0	(2.8)	○	2.7	(1.6)	種皮剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-9			31		縄文中期	
	06U-147	種子	マメ科	6.4	(3.7)	4.6	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有 免差 ロ?	6-030-01-0012	F-3-14	142.140 g 同一		32		縄文中期	
	06U-148	種子		2.3	(2.0)	2.4				エゴマ?								
	06U-149	マメ科		5.9	(2.8)	3.3	×			ササゲ属?	6-030-01-0012	F-3-15			17		縄文中期	
	06U-150	種子	マメ科	5.4	(4.6)	(3.7)	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-21			28		縄文中期	
	06U-151	種子	マメ科	5.3	(2.6)	4.8	×				6-030-01-0012	チカラ2 Ⅲ-1			16		縄文中期	
	06U-166	種子	マメ科	5.3	(2.4)	(3.2)	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	H-3-3			50		縄文中期	
	06U-167	種?	(4.4)			3.3					6-030-01-0012	H-3-3			7		縄文中期	
	06U-178	マメ科	(3.6)			4.3	×			ダイズ属?	6-030-01-0012	H-3-9			8		縄文中期	
47	06U-183	種子	ダイズ属	10.6	(3.8)	6.1	△			種皮剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-5	133.134 g 同一		32		縄文中期	
47	06U-184	ダイズ属		5.3	2.9	3.7	○	2.0	0.8		6-030-01-0012	F-3-5	133.134 g 同一		32		縄文中期	
	06U-188	種子	マメ科	(4.4)		(3.7)	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	E-3-22			26		縄文中期	
	06U-191	種子	マメ科	5.6	(3.1)	(3.5)	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-12			10		縄文中期	
	06U-201	種子	不明	(5.5)	(2.5)	(3.6)	×				6-030-01-0012	F-3-12			191		縄文中期	
	06U-203	種子	マメ科	10.2	4.7	7.1	×			ダイズ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-17			46		縄文中期	
48	06U-206	種子	ササゲ属	6.7	3.8	3.6	○	1.8	0.6	種皮剥がれ有								
49	06U-207	マメ科		5.4	(2.8)	3.9	×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-17	206 ~ 208 g同一		139		縄文中期	
49	06U-208	種子	マメ科	5.3	(3.7)		×			ササゲ属? 槌皮 剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-17			10		縄文中期	
	06U-209	マメ科		4.1	(2.5)	3.3	×			種皮剥がれ有	6-030-01-0012	F-3-17			5		平安	
	06U-215	種子	マメ科	6.3	(2.6)	3.3	×				6-030-01-0012	F-3-2						

第7表 種子圧痕一覧表

第4章 理化学分析の目的と結果

本調査では、竹宇1遺跡における植物利用の状況を把握するために縄文土器に残された種子等の圧痕をレプリカ法を用いて分析した。また出土石器の概要を理解するために石器の属性観察を委託した。以下の結果を報告する。

第1節 土器圧痕の調査と結果

竹宇1遺跡で出土した縄文時代中期を主体とする土器を目視により観察し、種子等の顕在する圧痕をシリコンゴム印象剤を用いて象りし、実体顕微鏡で種の同定を行った。さらにデジタルマイクロスコープを用いて圧痕の大きさを計測し、写真を撮影した。使用した実体顕微鏡はWraymer社製LW-710T、デジタルマイクロスコープはHirox社製KH-1300Mである。電子顕微鏡での観察、撮影は時間の制約上、行い得なかった。

土器等には表面で目視できない潜在圧痕の存在が予想されるが、X線撮影は行わなかった。試みにマメ科種子の顕在圧痕3点が確認された33号住居出土の器台(89図1)をX線撮影したところ3点の潜在圧痕が確認された。また土偶についてはX線撮影を行った。

種子圧痕を定量的に考察する場合、出土土器等の全量をX線撮影することが望ましいのはいうまでもないが、時間的、人的コスト、機材、放射線技術等の制約がある。また、X線画像で確認された圧痕像が実際にどのような種類の圧痕なのかを知るためににはCTスキャナーなどでの確認、あるいは土器等を破壊してレプリカを作成するなどの作業が必要となる。このような制約と課題を考慮すると、現時点で試料の全量を対象とした潜在圧痕の確認調査は現実的ではないと考えた。

分析の対象とした試料は、縄文土器140個体(土器の1/3以上が残存するもの)と縄文土器破片25,206点、合計1,138,957g(1,138.9kg)、ミニチュア土器14点294g、器台2個体4,680g、器台破片5点928g、土偶破片27点1,586g、耳栓3点33g、土製円盤13点219g、土器片鍾1点22g、焼成粘土塊2点26g、総重量1,146,745g(1,146.7kg)である。これら土器等の試料全部を観察して得られた各種の顕在圧痕は202点であった。圧痕が検出された試料は土器12個体と土器破片100点の計55,533g、器台1個体3,060gである。土偶などほかの試料では圧痕が検出されなかった。

同定作業は、植物に関心の深い整理作業員がレプリカを実体顕微鏡下で観察し、北杜市内で採集した現生標本と比較して進めた。同定が困難なものについては植物考古学研究者の助言を仰いだ(注1)。同定の結果を第7表に示す。圧痕の検出数が多いため、全点の写真を掲載することはできないが、付録DVDに種子形状が良好に確認された圧痕の写真資料を収録したので参照していただきたい。

マメ科種子圧痕の同定に際しては、あえてダイズ属、ササゲ属までの識別にとどめた。圧痕の大きさから乾燥種子の大きさを復元して、野生種のダイズ属ツルマメ、栽培型のダイズ属ダイズと識別することも可能であるが、最近の分析研究事例により、混入された種子の吸水性の有無により圧痕の大きさに変異が生じることが確認され(中山ほか2015参照)、未熟種子(いわゆる枝豆状態)での利用の可能性も示唆されるなど(佐々木由香氏の教示によるほか工藤ほか2014)、圧痕サイズから単純に簡易体積を求めて野生種と栽培型を区分することはできないと考えた。

同定された圧痕は、ダイズ属、ササゲ属のマメ科種子圧痕が全体の55.94%を占め、サンショウウ11.39%、エゴマ等シソ属4.95%、堅果類3.47%、ミズキ1.49%などとなつた。ほかにヌスピトハギ属、イノコヅチの草本植物種子各1点、小動物の糞と思われる圧痕3点、土器に穿孔した作業痕跡1点がある。

土器に残された種子等の圧痕をどのように評価するかは難しい課題であり、現時点で言及できることがらは限られたであるが、竹宇1遺跡での分析からは以下の点が指摘できる。

第一に、縄文時代中期の土器で検出される植物種子圧痕の半数以上がダイズ属、ササゲ属などのマメ科である点が指摘できる。これは従来の知見に沿うものである。

第二に、エゴマ等のシソ属、サンショウ、ミズキ、堅果類が少ない比率ながらも安定的に検出される点である。ミズキの食用利用の実態は定かではないというが（注2）、ほかの種子、堅果は食用資源である。

第三に、ヌスピトハギ属、イノコヅチといった草本種子の存在が注意される。これらは動物や人の衣服に付着して種子を運搬する植物で、林内から林縁、藪、草地に成育し、9月以降に種子が成熟する。竹宇1遺跡の縄文集落に居住した人々がこれらの植物が生育する環境で活動していたことを示唆すると同時に、土器製作の季節を示す可能性がある。

第四は、食用資源以外の草本植物種子、小動物の糞などが少量検出された点で、このことは土器製作の環境を示唆すると考えられる。現在、北杜市が整理作業を進めている縄文時代前期の櫛口遺跡では、広範な種子種別、圧痕種類が確認されている。これと比較すると竹宇1遺跡では、食用資源以外の圧痕は限定的であり、土器製作が清浄な環境下で行われていたことを示すものと考えられる。

第五に、竹宇1遺跡出土の土偶破片27点を観察し、X線撮影したところ、顎在圧痕、潜在圧痕とともに検出されなかつた。ミニチュア土器、耳栓、焼成粘土塊などでも検出されず、圧痕が検出されたのは土器と器台のみであった。

単純に圧痕の出現率を計算すると、土器と器台の総重量1,144,565gに対して202点の圧痕が検出されているから、土器と器台の重量5,666.1gに対し圧痕1点となる。竹宇1遺跡の土偶は総量で1,586gであるから、出現率は0.3点未満となり、圧痕が全く検出されないのは確率論的には不自然ではない。しかし、別に論考を用意するが、北杜市内で出土した縄文時代中期初頭から晩期末葉までの土偶324点をX線撮影したところ、確実に種子圧痕と思われる試料は1点もなく、わずかに土偶1点に圧痕の可能性がある像がみつかったのみであった。竹宇1遺跡の土偶における圧痕の不検出は、土偶の役割が食物資源との係わりで説明されることが多い状況を勘案すると、単に確率論以上の意味をもつ可能性がある。

第六に、竹宇1遺跡では、藤内式から曾利V式までの土器で種子圧痕が検出され、特定の時期に限定されないことである。調査範囲で検出された遺構の時期に応じて戸井尻式2段階から曾利II式期までの試料が当然多いのだが、藤内式にも曾利V式土器にも圧痕が検出されている。無文土器や無文の破片など、正確な細分時期を絞り込めない土器破片も多いため、今回は細分時期ごとの圧痕の出現率を算出する作業は行わなかつたが、中期末葉から末葉にかけて出現率に大きな違いはないものと推測される。

第七に、同一個体の土器に多くの種子が混入される試料が散見された点である。86図1の土器にはササゲ属とその可能性があるマメ科の顎在圧痕3点、104図4にはダイズ属とその可能性があるマメ科の顎在圧痕6点、62図2にはササゲ属とその可能性があるマメ科の顎在圧痕17点とダイズ属圧痕1点、82図2にはサンショウウの顎在圧痕19点が見出された。同種の種子がまとまって混入する事例はこれまでにも報告されていて（注3）、竹宇1遺跡でもそれらの事例に似た状況が確認された。

以上、竹宇1遺跡における圧痕調査、分析結果から、指摘できる事項を列挙した。種子圧痕の評価についての統一的な考え方方は確立しておらず、なぜ土器や器台のなかにマメ科を中心とした種子の圧痕が検出されるのかの定説もない。地域ごと、遺跡ごとに分析事例を重ねて縄文時代の植物利用と土器製作、圧痕形成に至る多面的な要素の検討が必要である。

注1) 一部の圧痕の同定に際し、佐々木由香氏（株式会社バレオ・ラボ）の教示を得た。記して感謝したい。

注2) 佐々木由香氏のご教示による。

注3) 勝坂遺跡（神奈川県相模原市）では曾利II式併行の連弧文土器1個体にダイズ属ツルマメの顎在圧痕70点が確認され（中山ほか2015）、越後山遺跡（埼玉県和光市）では、加曾利E I式土器1個体にダイズ属を主とする顎在圧痕114点が目視された（金子ほか2015）。日切遺跡（長野県岡谷市）では曾利II式併行の唐草文系土器の大形破片1点にササゲ属種子6点が混入していた（会田ほか2012）。同じ岡谷市の梨久保遺跡の浅鉢にはシソ属種子の顎在圧痕と潜在圧痕1,500点以上が確認

されている（会田ほか2015）。このように越後山遺跡など1個体の土器に多量の種子が混入される事例が知られるようになり、竹芋1遺跡の混入数と格段に異なる。土器に種子を混入させる行為には地城差あるいは行為の意味の差があるものと推測される。

- 会田進・中沢道彦・那須浩郎・佐々木由香・山田武文・奥石甫 2012 「長野県岡谷市目切遺跡出土の炭化種実とレプリカ法による土器種実圧痕の研究」『資源環境と人類』第2号 明治大学黒曜石研究センター紀要
- 会田進・山田武文・佐々木由香・奥石甫・那須浩郎・中沢道彦 2015 「岡谷市内縄文時代遺跡の炭化種実及び土器種実圧痕調査の報告」『長野県考古学会誌』150号 長野県考古学会
- 金子直行・中山誠二・佐野隆 2015 「ダイズ属の種子を混入した縄文土器—埼玉県和光市越後山遺跡出土の圧痕同定一』『埼玉考古』第50号 埼玉考古学会
- 工藤雄一郎・千葉敏朗・佐々木由香・能城修一・小林弘己・鈴木三男 2014 「縄文時代の植物利用の復元画製作」工藤雄一郎編『共同研究 縄文時代の人と植物の関係史』国立歴史民俗博物館研究報告第187集 国立歴史民俗博物館
- 中山誠二・佐野隆 2015 「ツルマメを混入した縄文土器—相模原市勝坂遺跡等の種子圧痕一』『山梨県立博物館研究紀要』第9集 山梨県立博物館

第2節 出土石器の属性観察と分析結果

1 石器の整理方法

竹芋I遺跡で出土した石器のうち打製石器を対象として観察、分析した。対象石器は総数2,234点で、全点を実見したうえで定形石器を中心に抽出し、1,278点を観察し、写真撮影した。石器資料の縮尺は、小形剥片石器類と石製品を4/5、中・大形石器類を1/3で作成した。

小形剥片石器類は、石錐、石蹴未製品、小形石錐、小形精製石匙、小形粗製石匙、楔形石器、小形石核、原石、二次的剥離のある剥片、不規則剥離のある剥片が抽出された。これらの使用石材は、黒曜石、チャート、石英岩などである。

中・大形石器類は、中・大形粗製石匙、打製石斧、両極石器、ヘラ形石器、横刃形石器、中・大形石錐、鋸歯縫石器、周縁加工石器、抉入石器、中・大形石核、二次的剥離のある礫、中・大形二次的剥離のある剥片、中・大形不規則剥離のある剥片、潰れを伴う剥離のある剥片、磨耗痕のある剥片、敲石、側縁石器が抽出された。これらの石材は、頁岩、ホルンフェルス、砂岩、細粒砂岩などである。小形剥片石器類と重複する器種である石錐、粗製石匙、石核、二次的剥離のある剥片、不規則剥離のある剥片については、使用石材によって分類している。これらの石材では、他に調整剥片、剥片、碎片が組成する。

抽出石器は、第2節に記載する分類・観察項目に基づいて属性を観察して観察表を作成し、資料相互の比較検討を容易にした。観察に際しては、石器から読み取った生の情報をそのまま用いることとし、解釈を交えた所見をできる限り排除することで、資料群を第三者が再検討する際、データを活用できるよう心掛けた。

2 抽出資料の器種分類について

石器は、観察によって記録されたデータを用いて、石器群の中からグループを見いだすことで分類した。これらのグループは、これまで慣例的に用いられてきた器種名にできるだけ齟齬の生じないように当てはめ、記載することとした。打製石斧から転用された両極石器、不規則剥離のある剥片、鋸歯縫石器、抉入石器が認識されたが、それぞれの最終的な形態により分類した。

石器種の分類と形態分類の考え方

石鏃

左右側縁の細かな二次的剥離を先端で交差させることで先端を作り出した石器で、側縁と基部の二次的剥離によって鏃形の形状に整えられた小形剥片石器。側縁に用いられる二次的剥離は器体奥に進行する通常の剥離が主である。基部に用いられる二次的剥離は、側縁に用いられる剥離より幅広で急角度となる場合が多い。

○長幅比（長さ／幅）による形態上の分類

1. 1.50以上：縦長の形態をなす石鏃。さらに側縁形状、基部形状によって細分される。
2. 1.20～1.50：やや寸詰まりの形態をなす石鏃。さらに側縁形状、基部形状によって細分される。
3. 1.20以下：長さと幅がほぼ同じ値となる寸詰まりの石鏃。さらに側縁形状、基部形状によって細分される。
4. 不明

○側縁形状による分類

- A1. 両側縁が一連の直線的な側縁形状をなすもの。さらに基部形状によって細分される。
- A2. 直線的な側縁が基部（脚部）で曲線的で外に張り出す縁辺に緩やかに変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- A3. 直線的な側縁が先端で内済し、急激に尖る形状となるもの。さらに基部形状によって細分される。
- A4. 直線的な側縁が基部（脚部）で直線的な縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。
- A5. 直線的な側縁が基部（脚部）で曲線的で外側に張り出す縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。
- A6. 直線的な側縁の途中に後に内側に湾曲する二次的剥離を加えた不規則な側縁形状をなすもの。さらに基部形状によって細分される。
- A7. 直線的な側縁の途中に後に内側に湾曲する二次的剥離を加えて不規則な側縁形状をなすもののうち、基部（脚部）で他の縁辺単位に変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- B1. 両側縁が一連の曲線的な側縁形状をなし、側縁が外側に張り出すもの。さらに基部形状によって細分される。
- B2. 曲線的で外側に張り出す側縁が基部（脚部）で直線的な縁辺に緩やかに変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- B3. 曲線的で外側に張り出す側縁が基部（脚部）で曲線的で外側に張り出す縁辺に緩やかに変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- B4. 曲線的で外側に張り出す側縁が先端で内済し、急激に尖る形状となるもの。さらに基部形状によって細分される。
- B5. 曲線的で外側に張り出す側縁が基部（脚部）で直線的な縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。
- B6. 曲線的で外側に張り出す側縁が基部（脚部）で曲線的で外側に張り出す縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。
- B7. 曲線的で外側に張り出す側縁の途中に後に内側に湾曲する二次的剥離を加えた不規則な側縁形状をなすもののうち、基部（脚部）で他の縁辺単位に変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- B8. 曲線的で外側に張り出す側縁の途中に後に内側に湾曲する二次的剥離を加えて不規則な側縁形状をなすもののうち、基部（脚部）で他の縁辺単位に変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- C1. 両側縁が一連の曲線的な側縁形状をなし、側縁が内側に湾曲するもの。さらに基部形状によって細

分される。

- C2. 曲線的で内側に湾曲する側縁が基部（脚部）で直線的な縁辺に緩やかに変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- C3. 曲線的で内側に湾曲する側縁が基部（脚部）で曲線的で外側に張り出すに緩やかに変換するもの。さらに基部形状によって細分される。
- C4. 曲線的で内側に湾曲する側縁が基部（脚部）で直線的な縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。
- C5. 曲線的で内側に湾曲する側縁が基部（脚部）で曲線的で外側に張り出す縁辺に急激に変換するもの（角が形成される）。さらに基部形状によって細分される。

○基部形状による分類

- a. 基部が平坦となるもの（いわゆる「平基」）
- b1. 基部に深い抉りが認められるもの（いわゆる深い「凹基」）
- b2. 基部に浅い抉りが認められるもの（いわゆる浅い「凹基」）
- f. 不明

○脚部形状による分類

- 1a. 垂下した直線的な脚部側縁からそのまま鋭角に抉り込んだ脚
- 1b. 垂下した曲線的で外側に張り出す脚部縁辺からそのまま鋭角に抉り込んだ脚
- 2a. 一連の直線的な側縁からそのまま鋭角に抉り込んだ脚
- 2b. 一連の曲線的で外側に張り出す側縁からそのまま鋭角に抉り込んだ脚
- 3. 脚部末端でやや鋭角に折り返した平坦な辺を持ち、そこから鋭角に抉り込んだ脚
- 4a. 脚部末端でやや鈍角に折り返した平坦な辺を持ち、そこから鋭角に抉り込んだ脚
- 4b. 脚部末端でやや鈍角に折り返したな曲線的な辺を持ち、そこから鋭角に抉り込んだ脚
- 5. 折れやガジリなどによって形状が読み取れないもの（不明）

石錐未製品

左右側縁の細かな二次的剥離を先端で交差させることで先端を作り出した石器で、側縁と基部の二次的剥離によって錐形の形状に整えはじめられたもの。成形は不十分で比較的大きな二次的剥離が加えられ、部分的に素材縁辺が残される場合がある。素材そのものの問題から厚さが充分に減じられない、あるいは縁辺の角度が急になって除去できないものなど、未製品とはいいながら製品に行きつかない可能性の高いものが含まれる。石錐の分類項目に基部形状の2項目を加えて分類する。

○基部形状による分類

- ※ a～b2までは石錐の基準に準じる。
- c. 基部が弧状に張り出す形態のもの（いわゆる「凸基（円基）」）
 - d. 基部が直線状に張り出す形態のもの（いわゆる「凸基」）
 - e. その他、不整形な形状をなすもの

石錐

剥片の一端を急角度の二次的剥離によって鋭く尖る形態に成形した石器。錐部と摘み部に分かれる場合がある。錐部は、相対する2辺に対して片面あるいは両面に二次的剥離を加えることで、断面三角形、正方形、

台形、菱形などの細い端部が作り出される。

1. 錐部と摘み部の区別が明確なもの
2. 摘み部が明瞭でないながら錐部との区別が可能なものの
3. 棒状をなし、錐部のみで構成されるもの
 - a. 錐部断面が三角形状を呈するもので素材の片面からの二次的剥離で錐部が形成されるもの
 - b. 錐部断面が三角形状を呈するもので素材の両面からの二次的剥離で錐部が形成されるもの
 - c. 錐部断面が三角形状を呈するもので稜上の二次的剥離を含むもの
 - d. 錐部断面が正方形に近い形態をなすもの
 - e. 錐部断面が菱形の形態をなすもの
 - f. 錐部断面が台形の形態をなすもの

小形精製石匙

剥片の一端に両側縁からの抉りを加えて摘み部を作り出す、あるいは両側縁を絞り込む形で棒状の摘み部を作り出した石器。器体部、摘み部ともにほぼ全体が器体奥に進行する二次的剥離によって成形されるものを精製品とした。分類の基準は粗製石匙に準じるものとする。

粗製石匙（小形／中・大形）

剥片の一端に両側縁からの抉りを加えて摘み部を作り出す、あるいは両側縁を絞り込む形で棒状の摘み部を作り出した石器。粗製石匙では摘み部を作り出す抉りが小形の場合二次的剥離、中・大形の場合潰れを伴う剥離によって作り出されていることが多い。その他の辺は潰れを伴う剥離、フェザーエッジ、不規則剥離などで構成される。

○抉りのあり方による分類

- A. 明瞭な深い抉り
- B. 不明瞭な浅い抉り
- C. 不明

○器体部の形態による分類

1. 縦長の形態で両側縁がほぼ並行するもの
2. 縦長の形態で両側縁が斜行するもの
3. 横長の形態で末端辺が水平あるいは緩い弧状をなすもの
4. 横長の形態で末端辺が斜行するもの
5. 縦横比がほぼ同率の形態で末端辺が水平あるいは緩い弧状をなすもの
6. 縦横比がほぼ同率の形態で末端辺が斜行するもの
7. 体部が斜行する形で末端辺も斜行するもの
8. 不明

楔形石器

相対する辺に潰れを伴う剥離が認められる石器。

- A1. 相対する辺がエッジとエッジで構成されるもののうち、それぞれの辺の両方が直線的となるもの。
片側がラフエッジ (R0)、もう片側がスムースエッジ (SM) となる場合が多い (E×E)。
- A2. 相対する辺がエッジとエッジで構成されるもののうち、それぞれの辺の両方あるいは片方が曲線的

で外側に張り出すもの。片側がラフエッジ (R0)、もう片側がスムースエッジ (SM) となる場合が多い (E × E)。

- B1. 相対する辺が平坦面とエッジで構成されるもの。片面の縁辺がラフエッジ (R0)、もう片面の縁辺がスムースエッジ (SM) となる場合が多い (E × F)。
- B2. 相対する辺が平坦面と平坦面で構成されるもの。片面の縁辺がラフエッジ (R0)、もう片面の縁辺がスムースエッジ (SM) となる場合が多い (F × F)。
- C1. 相対する辺が破損面とエッジで構成されるもの。エッジ側はラフエッジ (R0) あるいはスムースエッジ (SM) となる (E × CR)。
- C2. 相対する辺が破損面と平坦面で構成されるもの。平坦面の縁辺はラフエッジ (R0) あるいはスムースエッジ (SM) となる (F × CR)。
- C3. 相対する辺が破損面と破損面で構成されるもの。 (CR × CR)。

石核（小形／中・大形）

打面、作業面その他の面からなる石片。打面への打撃によって作業面に剥片が剥離された痕跡が残される。

原石

石器素材となりうる石材で、二次的剥離や潰れを伴う剥離などの痕跡が認められないもの。

打製石斧

扁平縁あるいは大形剥片を素材として、両側縁に潰れを伴う剥離が認められる石器。

○平面形態による分類

- A. 直線的な両側縁がほぼ並行するもの（いわゆる「短冊型」）
- B. 直線的、あるいは曲線的な両側縁が末広がりの関係にあるもの（いわゆる「振型」）
- C. 直線的、あるいは曲線的な両側縁がほぼ並行するもののうち、器体中央に大きな括れを両側から作り出すもの（いわゆる「分鋼型」）
- D. 不明

○側縁における、面的な潰れを伴う剥離 (FL) の位置による分類

- L(R) 1. FL が側縁には無い
- L(R) 2. FL が側縁の上部（基部側）にある
- L(R) 3. FL が側縁の中央（器体中央）にある
- L(R) 4. FL が側縁の上部（刃部側）にある

○基部における、面的な潰れを伴う剥離 (FL) の有無による分類

- K1. FL が基部に無い
- K2. FL が基部に有る

○刃部における、面的な潰れを伴う剥離 (FL) の有無による分類

- J1. FL が刃部に無い
- J2. FL が刃部に有る

両極石器

相対する辺に潰れを伴う剥離が認められる石器。使用石材が中・大形石器類の石材である点で、楔形石器と区別している。分類の基準は楔形石器に準じるものとする。

ヘラ形石器

大形剥片を素材として、両側縁を連続的な二次的剥離によってヘラ状に成形した石器。

横刃形石器

中・大形二次的剥離のある剥片、不規則剥離のある剥片、潰れを伴う剥離のある剥片のうち、横長剥片を素材として、剥離軸に対向する末端に潰れを伴う剥離、二次的剥離、不規則剥離のいずれかの痕跡が認められる石器を基本とする。(ただし、打点側と末端側の痕跡が逆転したものも横刃形石器に含まれる可能性がある。)

○打点側 (D) の痕跡による分類

- D0. 無加工
- D1. 二次的剥離
- D2. 不規則剥離
- D3. 潰れを伴う剥離

○末端 (M) の痕跡による分類

- M0. 無加工
- M1. 二次的剥離
- M2. 不規則剥離
- M3. 潰れを伴う剥離

鋸齒縁石器

剥片の縁辺の一部を鋸歯状に作り出したもの。

○鋸齒縁のあり方による分類

- A. 一枚あたりの剥離面の大きさ及び打面が微小で、隣り合う剥離面の切り合う面積が小さい
- B. 一枚あたりの剥離面の大きさ及び打面が大きく、隣り合う剥離面の切り合う面積が大きい

周縁加工石器

扁平疊あるいは剥片を素材として、縁辺の大部分に潰れを伴う剥離あるいは二次的剥離が加えられることで円形あるいは梢円形に平面形状が整えられた石器。

抉入石器

剥片の側縁に打製石斧と異なる、V字状の括れを作り出したもの。

二次的剥離のある疊

疊の一部に二次的剥離が認められるもの。

二次的剥離のある剥片（小形／中・大形）

剥片の縁辺に二次的剥離が加えられたもの。

不規則剥離のある剥片（小形／中・大形）

剥片の縁辺に不規則剥離が認められるもの。

潰れを伴う剥離のある剥片

剥片の縁辺に潰れを伴う剥離が認められるもの。

磨耗痕のある剥片

剥片の一部に磨耗痕が認められるもの。

敲石

礫あるいは分割礫、分厚な剥片を素材として、その一部に潰れを伴う剥離が認められるもの。

側縁石器

板状節理の礫の折れ面に潰れを伴う剥離や不規則剥離が認められるもの。

異形石器

ほぼ全面が器体奥にまで進行する連続的二次的剥離によって成形されながら、形状が不定型な石器。

第3節 竹宇1遺跡出土石器のまとめ 特に打製石斧と横刃形石器について

竹宇1遺跡では、遺跡全体で2,234点の石器が出土しており、住居内出土数は1,611点である。そのうち二次的痕跡をもつ石器類及び原石は1,278点である。その内訳は、石鏃29点、石礫未製品15点、小形石錐5点、小形精製石匙1点、小形粗製石匙4点、楔形石器87点、小形石核14点、原石25点、中・大形粗製石匙53点、打製石斧477点、両極石器6点、ヘラ形石器1点、横刃形石器204点、中・大形石錐1点、鉗齒線石器37点、周縁加工石器4点、抉入石器1点、中・大形石核1点、二次的剥離のある礫1点、小形二次的剥離のある剥片12点、小形不規則剥離のある剥片67点、中・大形二次的剥離のある剥片40点、中・大形不規則剥離のある剥片77点、潰れを伴う剥離のある剥片17点、磨耗痕のある剥片1点、敲石10点、側縁石器86点、異形石器1点である。遺構ごとの出土石器数は第4表に提示した。

器種組成は多岐にわたっているが、特に打製石斧と横刃形石器の出土数が突出している。また、器種設定の段階で、打製石斧は形態的多様性、横刃形石器は痕跡上の多様性が認められることがわかつている。そこで分類・観察項目をもとに打製石斧と横刃形石器の特徴を簡潔に述べたい。また、打製石斧と横刃形石器を含めた4石器種の石材の使用状況にも触れたい。

なお、時期に関して以下のことを前提とした。

- ・住居出土の石器は住居に伴うと考え、その時期は表1に示した住居時期に準拠する（注1）。
- ・井戸尻式3段階と曾利I式古段階は同じ段階（井戸尻式3・曾利I式古段階）として扱う。
- ・曾利I式は細分せずに曾利I式にまとめる。
- ・遺構確認のみの住居の帰属時期は不明扱いとする。
- ・17号住居は帰属時期が不明瞭なので、帰属時期は不明扱いとする。

打製石斧

・出土点数（表1、図1）

打製石斧は遺跡全体で477点出土しているが、各時期の1軒あたりの出土点数は、洛沢式期（1軒）に18.0点、井戸尻式2段階（5軒）に18.0点、井戸尻式3・曾利I式古段階（5軒）に16.2点、曾利I式期（3軒）に12.0点、曾利II式期（5軒）に7.4点、曾利III式期（1軒）に1.0点、曾利IV式期（1軒）に6.0点である。新道式期、藤内式期、井戸尻式1段階の出土資料がなく、洛沢式期～井戸尻式1段階の様相は判然としないが、井戸尻式2段階～曾利III式期は緩やかに減少し、曾利III～IV式期は増加に転じる。ただし、曾利III式と曾利IV式期の数値データは1軒の住居をもとに算出されたものである。

住居番号	帰属時期	打製石斧の出土点数	横刃形石器の出土点数
4号住居	井戸尻式2段階	23	9
5号住居	洛沢式期	18	4
6号住居	井戸尻式2段階	32	12
7号住居	井戸尻式2段階	9	7
9号住居	曾利II式期	13	6
10号住居	曾利I式期	11	2
11号住居	曾利I式期	8	2
12号住居	井戸尻式3・曾利I式古段階	17	6
13号住居	曾利III式期	1	8
14号住居	井戸尻式3・曾利I式古段階	9	9
15号住居	井戸尻式3・曾利I式古段階	32	4
16号住居	井戸尻式2段階	22	3
18号住居	曾利II式期	6	8
19号住居	井戸尻式3・曾利I式古段階	14	3
23号住居	曾利II式期	10	2
24号住居	曾利II式期	3	0
25号住居	曾利I式期	17	8
26号住居	井戸尻式3・曾利I式古段階	9	3
27号住居	曾利IV式期	6	2
28号住居	曾利II式期	5	2
29号住居	井戸尻式2	4	0

※帰属時期不明な住居は除く

表1 住居一覧

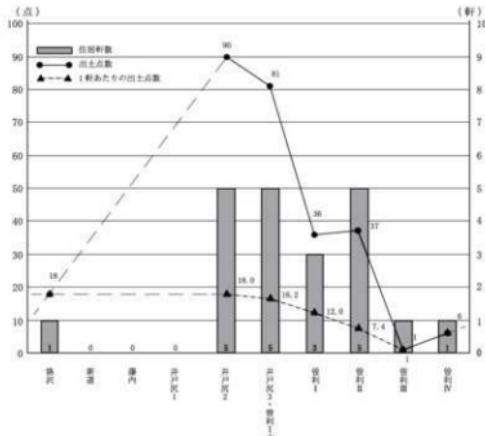


図1 打製石斧の出土点数

・平面形態の構成（図2）

遺跡全体では短冊型（A）が18.9%（90点）、撥型（B）が70.2%（335点）、分銅型（C）が0.2%（1点）、形態不明の資料（D）が10.7%（51点）であり、撥型（B）が大部分を占めます。

時期別にみると、短冊型（A）の占める割合は洛沢式期に38.9%（7点）、井戸尻式2段階に24.4%（22点）、井戸尻式3・曾利I式古段階に17.3%（14点）、曾利I式期に8.3%（3点）、曾利II式期に13.5%（5点）、曾利III式期に0%（0点）、曾利IV式期に16.7%（1点）である。洛沢式～曾利I式期は徐々に減少していくが、曾利I～IV式期は増加傾向にある。ただし、先述したように曾利III式と曾利IV式期の数値データは1軒の住居をもとに算出されたものである。

一方で、撥型（B）の占める割合は洛沢式期に55.6%（10点）、井戸尻式2段階に65.6%（59点）、井戸尻式3・曾利I式古段階に66.7%（54点）、曾利I式期に86.1%（31点）、曾利II式期に86.5%（32点）、曾利III式期に100.0%（1点）、曾利IV式期に66.7%（4点）である。洛沢式～曾利III式期は徐々に増加していくが、曾利III～IV式期に再び減少する。ただし、先述したように曾利III式と曾利IV式期の数値データは1軒の住居をもとに算出されたものである。

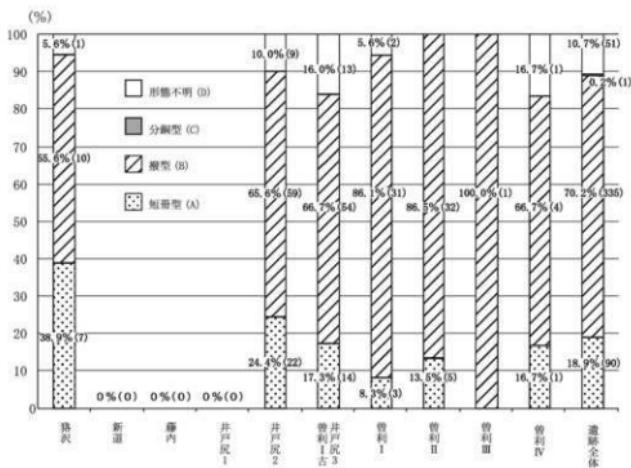


図2 打製石斧の形態構成

・面的潰れを伴う剥離 (FL) (図3, 4)

短縦型 (A) 90点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは49点 (54.4%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いのは41点 (45.6%)である。さらに、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものを位置別にみると、側縁上部 (左、右側縁間わざ) が20点、側縁中央 (左、右側縁間わざ) が34点、側縁下部 (左、右側縁間わざ) があるものが21点、基部が3点、刃部が4点である (注2)。面的潰れを伴う剥離 (FL) は側縁中央に最も多く、次に側縁上部、側縁下部に同程度に認められる。基部、刃部には面的潰れを伴う剥離 (FL) はほとんど認められない。

撥型 (B) 335点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは183点 (54.6%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いのは152点 (45.4%)である。さらに、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものを位置別にみると、側縁上部 (左、右側縁間わざ) が79点、側縁中央 (左、右側縁間わざ) が118点、側縁下部 (左、右側縁間わざ) があるものが49点、基部が8点、刃部が9点である。側縁中央に面的潰れを伴う剥離 (FL) が最も多く認められ、基部、刃部にはほとんど認められない点は、短縦型 (A) と共通する。しかし、側縁上部と側縁下部を比較すると、側縁上部の方が側縁下部より多く認められる点は異なる。

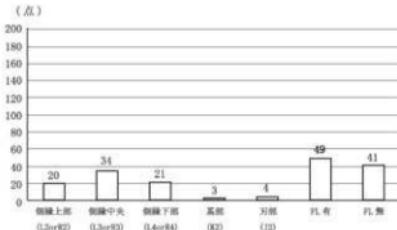


図3 短縦型 (A) 打製石斧の面的潰れを伴う剥離 (FL) の位置と点数

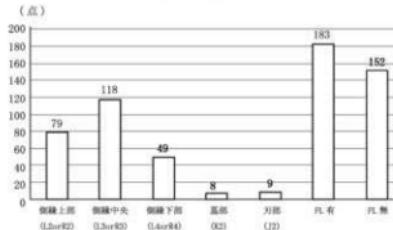


図4 撥型 (B) 打製石斧の面的潰れを伴う剥離 (FL) の位置と点数

・磨耗痕 (PO) (図 5, 6)

短冊型 (A) 90 点中、磨耗痕 (PO) が有るのは 38 点 (42.2%)、磨耗痕 (PO) が無いのは 45 点 (50.0%)、磨耗痕 (PO) の有無が風化等で不明であるのは 7 点 (7.8%) である。さらに、磨耗痕 (PO) が有るものと位置別にみると、正面上面が 19 点、正面中央が 20 点、正面下部が 30 点、裏面上部が 15 点、裏面中央が 16 点、裏面下部が 27 点、左側縁上部が 7 点、左側縁中央が 7 点、左側縁下部が 12 点、右側縁上部が 9 点、右側縁中央が 4 点、右側縁下部が 13 点である (注 3)。磨耗痕 (PO) は下部側に最も多く、次に上部側、中央に同程度に認められる。

撥型 (B) 335 点中、磨耗痕 (PO) が有るのは 117 点 (34.9%)、磨耗痕 (PO) が無いのは 198 点 (59.1%)、磨耗痕 (PO) の有無が風化等で不明であるのは 20 点 (6.0%) である。さらに、磨耗痕 (PO) が有るものと位置別にみると、正面上面が 36 点、正面中央が 51 点、正面下部が 79 点、裏面上部が 31 点、裏面中央が 45 点、裏面下部が 72 点、左側縁上部が 9 点、左側縁中央が 29 点、左側縁下部が 53 点、右側縁上部が 12 点、右側縁中央が 25 点、右側縁下部が 53 点である。磨耗痕 (PO) が下部側に最も多く認められる点は短冊型 (A) と共通する。しかし、上部側と中央を比較すると、中央の方が上部側より多く認められる点は異なる。

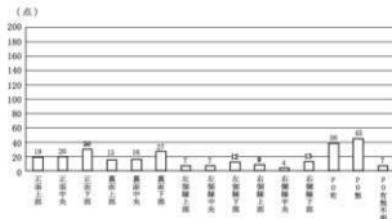


図 5 短冊型 (A) 打製石斧の磨耗痕 (PO) の位置と点数

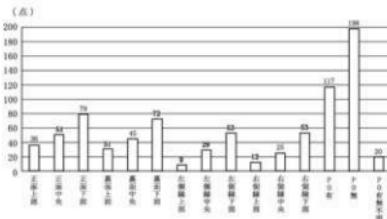


図 6 撥型 (B) 打製石斧の磨耗痕 (PO) の位置と点数

・面的潰れを伴う剥離 (FL) と磨耗痕 (PO) の関連 (表 2, 3)

短冊型 (A) で磨耗痕 (PO) が有る 38 点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは 24 点 (63.2%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いものは 14 点 (36.8%) である。短冊型 (A) で磨耗痕 (PO) が無い 45 点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは 22 点 (48.9%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いものは 23 点 (51.1%) である。

撥型 (B) で磨耗痕 (PO) が有る 117 点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは 78 点 (66.7%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いものは 39 点 (33.3%) である。撥型 (B) で磨耗痕 (PO) が無い 198 点中、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものは 94 点 (47.5%)、面的潰れを伴う剥離 (FL) が無いものは 104 点 (52.5%) である。

短冊型 (A)、撥型 (B) にかかわらず、磨耗痕 (PO) が有る場合、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものと無いものは無いものの約 2 倍認められ、磨耗痕 (PO) が無い場合、面的潰れを伴う剥離 (FL) が有るものと無いものは同程度に認められる。

短冊型 (A)	磨耗痕 (PO) 有り	磨耗痕 (PO) 無し
潰れを伴う剥離 (FL) 有り	24 点 (63.2%)	22 点 (48.9%)
潰れを伴う剥離 (FL) 無し	14 点 (36.8%)	23 点 (51.1%)
	38 点 (100.0%)	45 点 (100.0%)

表 2 短冊型 (A) 打製石斧の磨耗痕 (PO) と
潰れを伴う剥離 (FL) の関連

撥型 (B)	磨耗痕 (PO) 有り	磨耗痕 (PO) 無し
潰れを伴う剥離 (FL) 有り	78 点 (66.7%)	94 点 (47.5%)
潰れを伴う剥離 (FL) 無し	39 点 (33.3%)	104 点 (52.5%)
	117 点 (100.0%)	198 点 (100.0%)

表 3 撥型 (B) 打製石斧の磨耗痕 (PO) と
潰れを伴う剥離 (FL) の関連

●横刃形石器

・出土点数（図7）

横刃形石器は遺跡全体で204点出土しているが、各時期の1軒あたりの出土点数は、貉沢式期（1軒）に4.0点、井戸尻式2段階（4軒）に7.8点、井戸尻式3・曾利I式古段階（6軒）に4.7点、曾利I式期（4軒）に4.0点、曾利II式期（5軒）に6.8点、曾利III式期（1軒）に8.0点、曾利IV式期（1軒）に2.0点である。新道式期、藤内式期、井戸尻式1段階の出土資料がなく、貉沢式期～井戸尻式1段階の様相は判然としないが、井戸尻式2段階～曾利I式期で一度減少し、曾利I～曾利III式期で緩やかに増加に転じ、曾利III～IV式期で再び減少する。ただし、先述したように曾利III式と曾利IV式期の数値データの信頼性には疑問が残る。

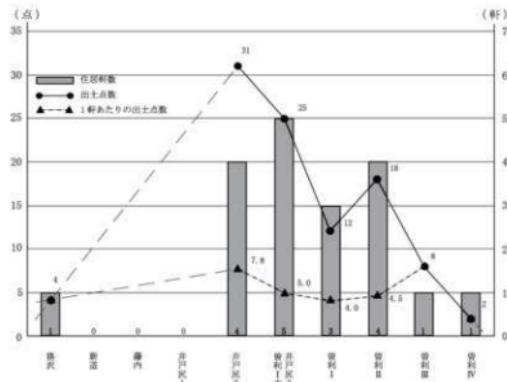


図7 横刃形石器の出土点数

・打点側（D）と末端（M）の痕跡（図8）

DOM2類（打点側：無加工／末端：不規則剥離）あるいはD3M2類（打点側：潰れを伴う剥離／末端：不規則剥離）が多く認められ、DOM2類は、全体の40.7%（83点）、D3M2類は、全体の20.6%（42点）を占める。井戸尻～曾利式期においてもおおむね同様の傾向が見受けられる。

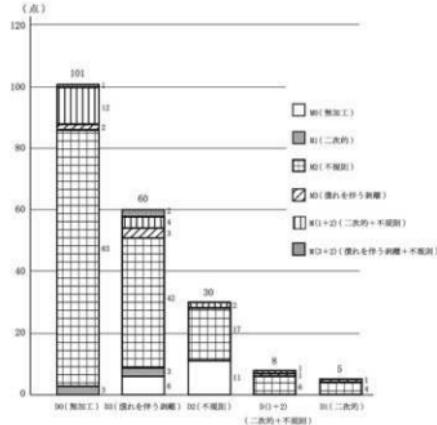


図8 横刃形石器の打点側（D）と末端（M）の痕跡と点数

●石材の利用状況（図9）

・石鎚・石鎌未製品

黒曜石が95.5%（42点）、頁岩が2.3%（1点）、珪質頁岩が2.3%（1点）である。90%以上を黒曜石が占め、黒曜石に偏った石材利用が行われている。

・打製石斧

頁岩が31.4%（150点）、ホルンフェルスが20.5%（98点）、砂岩が20.1%（96点）、細粒砂岩が14.3%（68点）、粘板岩ないし千枚岩が10.1%（48点）、結晶片岩が0.8%（4点）、粗粒砂岩が0.8%（4点）、珪質頁岩が0.4%（2点）、綠色岩が0.4%（2点）、泥岩が0.2%（1点）、綠色岩類が0.2%（1点）、花崗岩が0.2%（1点）、凝灰岩が0.2%（1点）、シルト岩が0.2%（1点）である。頁岩を筆頭に、その他にホルンフェルス、砂岩、細粒砂岩、粘板岩類を主として多様な石材が使用されている。

・横刃形石器

頁岩が25.5%（52点）、ホルンフェルスが22.1%（45点）、細粒砂岩が21.6%（44点）、砂岩が20.1%（41点）、粘板岩類が6.4%（13点）、泥岩が1.0%（2点）、安山岩が1.0%（2点）、シルト岩（泥岩）が1.0%（2点）、粗粒砂岩が0.5%（1点）、緻密質安山岩が0.5%（1点）、粘板岩が0.5%（1点）である。頁岩を筆頭に、その他にホルンフェルス、砂岩、細粒砂岩、千枚岩を主として多様な石材が使用されており、割合が異なるが、石材構成は打製石斧に類似している。

・側縁石器

安山岩が91.8%（79点）、細粒砂岩が2.3%（2点）、砂岩が2.3%（2点）、ホルンフェルスが1.2%（1点）、頁岩が1.2%（1点）、結晶片岩が1.2%（1点）である。80%以上を泥岩が占め、1石材に偏った石材利用が行われている。

以上、打製石斧と横刃形石器を中心にしていくつかの傾向を明らかにしたが、これらが何を意味するのか、その解明が今後の課題であろう。

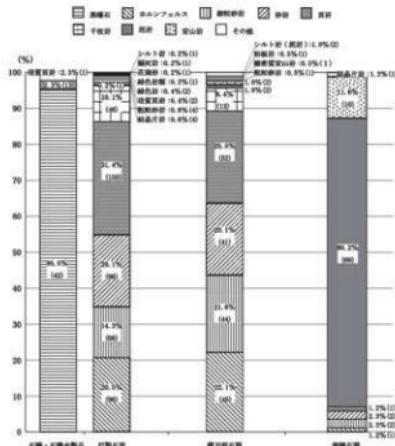


図9 石材の利用状況

注1) 打製石器の分析業務を実施した時点で想定した遺構の時期と、前章で最終的に報告した遺構の時期とが食い違う遺構が生じたが、分析の大意に大きな支障はないものと判断し、以下の分析は原稿のまま掲載した。

注2) 1つの石器に、左側縁上部～中央のように複数の位置で面的剥れを伴う剥離(FL)が認められる場合もあるため、必ずしも「面的剥れを伴う剥離(FL)が有るもの点数」＝「側縁上部、側縁中央、側縁下部、基部、刃部に面的剥れを伴う剥離(FL)が有るもの点数の合計」となるわけではない。

注3) 1つの石器に、左側縁上部～中央のように複数の位置で磨耗痕(Po)が認められる場合もあるため、必ずしも「磨耗痕(Po)が有るもの点数」＝「正面上面、正面中央、正面下部、裏面上面、裏面中央、裏面下部、左側縁上部、左側縁中央、左側縁下部、右側縁上部、右側縁中央、右側縁下部に磨耗痕(Po)が有るもの点数の合計」となるわけではない。

第5章 調査の総括

竹宇1遺跡が所在する釜無川右岸には多数の縄文時代遺跡が知られ、そのうちのいくつかは近年の農業基盤整備事業で発掘調査が行なわれている。ここでは竹宇1遺跡の調査成果を踏まえた総括として、釜無川右岸の地形環境と縄文時代中期遺跡の分布を概観したい。

釜無川右岸の地理環境

白州町は南アルプス（赤石山脈）の前衛、巨摩山地と釜無川に挟まれた釜無川右岸にある。釜無川上流部は北東から南東へ大きく屈曲し、現在の北杜市と富士見町の行政界となっている。行政界以南の釜無川右岸には、高位、中位、低位の段丘が形成され、それらの段丘をさらに釜無川の支流が形成した小規模な河岸段丘（砂礫台地）と扇状地が開析し分断している。

釜無川右岸には、北から流川、松山沢川、神宮川、田沢川、尾白川、沢上沢川、滻道川などが形成した大小の扇状地が連なっている。特に白州町鳥原地区から白州町と武川町の境界にある中山までの間には、釜無川高位段丘面に形成された神宮川扇状地、田沢川扇状地、沢上沢川一滻道川扇状地が広くまとまった扇状地形を形成している。起伏があり水はけのよい扇状地は畑地として利用されることが多いが、農業用水の発達により水田化されたところもある。

現在、釜無川とその支流の河岸段丘は武川町山高地区の顕著な段丘を除くと、扇状地堆積物が覆いかぶさり、扇状地と渾然一体となって地形上の区分がないようにみえるが、縄文時代遺跡の多くが高位段丘に立地している（図1）。このことは、高位段丘面が縄文時代には洪水に見舞われることの少ない安定した微高地であり縄文時代に優先的に選択された可能性と、現在の扇状地は洪水堆積層に覆われて縄文時代の遺跡が不可視となっている可能性とを示唆する。現に堰口遺跡、北原遺跡では洪水堆積層下で縄文時代遺跡が確認されている。

しかし、堰口遺跡、北原遺跡ともに洪水堆積層で覆われていながら過去の耕作等により埋蔵文化財包蔵地の存在が認識され周知されてきた。加えて大原1遺跡のように高位段丘面外に立地する遺跡も少ないながら存在する。こうした点を考慮すると神宮川扇状地、田沢川扇状地の多くは遺跡の空白域と認識してよいようと思われる。

釜無川右岸の縄文時代遺跡

釜無川右岸を高位段丘面ごとに区分し、遺跡の分布状況を概観する。釜無川右岸の高位段丘面は、北から下教来石高位段丘（流川以北）、鳥原高位段丘（流川から松山沢川間）、竹宇高位段丘、台ヶ原中位段丘（尾白川左岸）、根古屋高位段丘（尾白川右岸）、横手高位段丘（沢上沢川・滻道川扇状地を含む）、山高高位段丘（武川町）と呼称する。白州町花水にも縄文時代遺跡があるが、花水地区は釜無川左岸で地形区分は八ヶ岳南麓に属するので省略する。

下教来石高位段丘の遺跡

流川以北の高位段丘面で、板橋遺跡、道明遺跡などが知られる。板橋遺跡は平成21年に民間工場建設に伴い7850m²が発掘調査され、縄文時代前期前葉、中越式期の住居53軒と建物跡（方形柱穴列）8棟、土坑2基、中期末葉曾利式期の住居1軒が調査されている。曾利式期の住居は遺物がなく石圍炉の形状から曾利IV式期以降と推測される。また遺構外で加曾利E IV式土器が出土している。道明遺跡は板橋遺跡の南西に位置する遺跡で曾利式土器が表採されている。

鳥原高位段丘の遺跡

鳥原高位段丘面は地元では鳥原平とよばれ、流川と松山沢川の間、鳥原集落の北側に広がり、上小用遺跡

(教東石民部館跡)などが分布する。鳥原集落の南側に松山沢川が流れ、ここから神宮川までは神宮川扇状地となり、遺跡が確認されていない。

鳥原平遺跡群の主要遺跡である上小用遺跡は、平成 10 年から 11 年に県営畑地帯総合整備事業に伴い農道と切土造成箇所が発掘調査された。流川扇状地は東北東へ開けた広く平坦な地形となっている。上小用遺跡は流川扇状地の北に接する段丘面に立地する。この段丘面の東端には、釜無川谷底低地との間に比高差 40m ほどの崩れた段丘崖がある。段丘面は現在、主に畑地として利用されている。

上小用遺跡の中期集落は段丘面の中央、諒訪神社から東に延びる微高地上に展開する。土地改良事業に先立つ試掘調査では、中期集落は上小用遺跡を中心に台地南端に東西に延びるように分布するとみられるという(杉本充氏の教示による)。記録保存のための発掘調査が実施された範囲内で検出された住居をみると、洛沢式期から住居が出現し曾利 V 式期まで継続する集落と考えられる。時期がある程度推測できる住居は、洛沢式期 1 軒、藤内式期 1 軒、井戸尻式 2 段階 1 軒、井戸尻式 3 段階 8 軒、曾利 I 式古段階 6 軒、曾利 I 式新段階 1 軒、曾利 II 式期 21 軒、曾利 III 式期 1 軒、曾利 IV 式古段階 2 軒、曾利 IV 式新段階 8 軒、曾利 V 式古段階 1 軒である。井戸尻式後半から住居が増加し、曾利 II 式期に急増し、曾利 V 式期に急減する。

そのほか、諸磯式土器が表採された浦門遺跡、曾利式土器が表採された東原遺跡、試掘調査で井戸尻式期の遺構が確認された南沢遺跡が知られる。東原遺跡は上小用遺跡の北に隣接し同一集落と考えられる。上小用遺跡以外は遺構、遺物の分布が希薄な小規模遺跡と見込まれる。

竹宇高位段丘の遺跡

竹宇高位段丘は釜無川右岸の高位段丘のなかでも最も広い段丘面で、神宮川から尾白川までの間を占める。その中央に田沢川が流れ、段丘を開析するように扇状地を形成している。段丘上には北原遺跡、堰口遺跡、竹宇 1 遺跡、桜井 1 遺跡といった規模の大きな遺跡が知られる。北原遺跡、堰口遺跡では縄文時代中期末葉以降に発生した洪水堆積層が確認され、平安時代遺構が洪水堆積層の上位に検出されている。

雜木遺跡は平成 4 年度に県営圃場整備事業に伴い 1200 m²が発掘された遺跡で、田沢川右岸、田沢川扇状地の扇央、標高 680m に位置する。かつての田沢川は大雨ごとに河道を変える暴れ川だったという。発掘調査では平安時代集落のほか、前期末のピット 1 基、前期末の人面装飾付土器破片、十三菩提式併行期と思われる破片、加曾利 E2 式、曾利 IV 式、曾利 V 式土器、氷 I 式、氷 II 式から弥生条痕文系土器、打製石斧、磨石類、土製円盤が出土している。北原遺跡のすぐ北側に位置することから、北原遺跡と一体となって利用された遺跡と考えられる。

北原遺跡は田沢川右岸の扇央に形成された砂礫台地上、標高 680m 位置する。平成 23 年度と 24 年度に県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業北原工区に伴い試掘調査が行なわれ、表土下に厚さ 50 cm 程度で堆積した田沢川洪水砂礫層の下から曾利式期の遺構が確認された。この厚い砂礫層のおかげで遺跡を現状保存して土地改良事業が施工されたので、発掘調査は実施していない。試掘調査では新道式か藤内式、井戸尻式前半段階の土器、曾利 II 式から曾利 V 式土器、加曾利 E III 式土器が出土している。土器が出土した範囲から想定すると上小用遺跡よりは小規模な集落と推測される。

大原 1 遺跡は別荘地造成に伴う発掘調査で五領ヶ台式期の土坑 1 基が検出されている。

竹宇 3 遺跡は、田沢川扇状地の南端、扇央部の砂礫台地上にある遺跡で、曾利 II 式期の小規模集落である。平成 18 年に甲斐駒ヶ岳広域農道工事に伴い発掘調査し、中越期の住居 1 軒、曾利 II 式期の住居 2 軒が発掘された。竹宇 3 遺跡の南東に隣接する堰口遺跡でも曾利 II 式期の住居 1 軒が検出されていて、一帯に曾利 II 式期の住居が散漫に展開すると思われる。その後、土地改良事業のために調査地点の西側で広範に試掘調査を行い、竹宇 3 遺跡から竹宇 1 遺跡までの間に遺跡が所在しないことが確認された。東側には遺構が散漫に分布する可能性がある。

堰口遺跡は竹宇 3 遺跡の南東に隣接する遺跡で、平成 23 年度と 24 年度に県営耕作放棄地解消・発生防

止基盤整備事業に伴い約 2800 m²が発掘調査された。前期前葉の中越式期、神ノ木式期、有尾式期、諸磯 a 式期、諸磯 b 式期と継続する前期主体の大規模な集落跡で、前期住居は 100 軒近く検出されている。諸磯 c 式期になると遺物が出土する程度で、藤内式期の住居 9 軒、曾利 II 式期住居 1 軒が検出された。

縄文時代中期の遺構確認面の上面に厚 50 cm ほどで洪水堆積層が検出された。洪水堆積層は黄褐色粗粒砂層で疊は含まない。平安時代以降の遺構が洪水堆積層の上から掘りこまれており、縄文時代中期末葉以降、平安時代までの間に洪水が発生したことが分かる。

竹宇 1 遺跡は、本書で報告したとおりで、西側に隣接する桜井 1 遺跡と一体となって中期前葉から中期末、さらに後期前葉へと継続する大規模な集落と思われる。本書で報告した調査地点は、住居が複雑に重複し合い、この遺跡が相当な規模と継続性を有することを示している。

ほかに諸磯 C 式土器が表採された大除 3 遺跡、五領ヶ台式土器が表採された大除 2 遺跡、曾利式土器が表採された柳原遺跡などが知られるが、詳細は未調査のため不明である。

台ヶ原中位段丘の遺跡

台ヶ原中位段丘は竹宇高位段丘に連続し、現地形では境界がはつきりしないが、おおむね国道 20 号線付近で区分されると思われる。白須大久保遺跡、中台遺跡などが知られる。

白須大久保遺跡は、平成 19 年度に市道建設に伴い発掘調査し、井戸尻式 3 段階から II 式新段階の集落が検出された。住居の内訳は、井戸尻式 3 段階 2 軒、曾利 I 式期 4 軒、曾利 II 式期 4 軒、曾利式期 1 軒の計 11 軒である。道路幅のみの調査であるから集落全体では数十軒規模の中規模集落と推測される。

白須大久保遺跡の西側に中期中葉、藤内式期から曾利式までの遺物が表採された旧菅原小学校遺跡、新道式土器が表採された中台 1 遺跡、黒浜式、新道式から井戸尻式の遺物が表採された中台 2 遺跡、晚期後半の住居 1 軒が確認された屋敷平遺跡がある。

根古屋高位段丘の遺跡

根古屋高位段丘は尾白川右岸の段丘面で現在は水田となっている。根古屋遺跡、陣ヶ原 1 遺跡などが知られる。根古屋遺跡は、土地改良事業に伴い昭和 59 年に 3000 m²が発掘調査され、8 軒の住居が検出された。時期が分かる住居は、曾利 I 式期 1 軒、曾利 II 式期 1 軒、曾利 IV 式期 3 軒、曾利 V 式期 1 軒である。陣ヶ原 1 遺跡では曾利式期の遺物が表採される。

横手高位段丘の遺跡

横手地区では発掘調査された遺跡が少なく、分布調査で得られた情報以上の詳細は不明である。

宮沢遺跡は尾白川右岸にあり現在は山林である。藤内式から曾利式、さらに後期前葉堀之内式の遺物が表採されている。遺跡内容は全く不明であるが、表採遺物の継続性から考えると、竹宇 1 遺跡 / 桜井 1 遺跡に匹敵する拠点的集落の可能性がある。

上北田遺跡は土地改良事業に伴い平成 3 年に 9500 m²が発掘調査され、前期前葉中越式期の住居 22 軒が検出されている。西之久保遺跡では諸磯 b 式期の住居 1 軒が発掘されている。古御所遺跡は藤内式から曾利式の遺物が表採され、藤内式期の住居 1 軒が発掘されている。発掘調査では早期押型文土器破片も出土した。中原 1・2 遺跡は藤内～井戸尻式の遺物が表採されているが、未調査のため詳細は不明である。

山高・新奥高位段丘の遺跡

山高は大武川右岸の高位段丘で行政区画は北杜市武川町となる。石空川（いしうとろがわ）の左右岸と山高地区に広く平坦な段丘面が広がっている。

真原（さねばら）A 遺跡は営農活動に伴い発掘調査され、曾利 II 式期から曾利 III 式期を主体とした中規模

な環状集落と確認されている。西ノ宮遺跡は平成27年度に土地改良事業に伴う試掘調査が実施され、新道式期と藤内式期の住居1軒が確認された。住居の分布は限定的であり小規模な集落跡と推測される。鴨尾遺跡は発掘調査の履歴がないが、別荘住民が池を掘削した際に加曾利EIV式土器がまとめて出土した。遺跡立地から中期末葉から後期に至る集落跡と推測している。

山高高位段丘には、図幅外に五領ヶ台II式期の集落跡である実原（さねばら）A遺跡、中越式期、藤内式期の住居、曾利V式期の敷石住居1軒が発掘された黒澤遺跡が知られる。

また山高高位段丘のさらに東側、黒澤川右岸には武川町新奥地区が立地する新奥高位段丘があり、中期初頭から曾利式期の大規模な集落跡で数十軒の住居が発掘された向原遺跡が発掘調査されている。

遺跡分布と継続性

つぎに遺跡の継続性を考察に加えたい。表1に釜無川右岸の主要な遺跡の継続性を示した。中期に遺構、遺物が確認されていない遺跡は空白とした。

下教来石高位段丘は、道明遺跡で曾利式期の遺物が表採され、板橋遺跡では曾利V式期の住居1軒が確認されているが、拠点性の高い集落の存在は想定されない状況である。前期前葉の中越式期に板橋遺跡が集落として反復して利用されたものの、その後は集落適地として選択されることが少なかったとみられる。宮ノ前遺跡では小規模ながら試掘調査が2回行われたが遺構、遺物は検出されず、詳細は不明である。

鳥原高位段丘は、上小用遺跡が卓越した継続性と規模を誇り、この地区的拠点的集落とみてよかろう。南沢遺跡は限定的な試掘調査成果しか得られていないが、上小用遺跡を補完するような継続性を示す可能性がある。鳥原高位段丘は、板橋遺跡がある下教来石高位段丘とは対称的で、前期での土地利用は浦門遺跡で諸磯式土器が表採された程度である。

竹宇高位段丘は、堰口遺跡、竹宇3遺跡で中越式期の濃密な土地利用状況が確認され、堰口遺跡が諸磯式期まで反復居住されている。中期初頭から前葉段階では土坑1基が確認された大原1遺跡、遺物が出土した竹宇1遺跡、貉沢式期の住居1軒が調査された竹宇1遺跡、遺構の存在が予想される堰口遺跡、桜井1遺跡で小規模ながらも居住地としての土地利用がうかがえる。その後、堰口遺跡では新道式期から藤内式3段階まで住居が確認されるが、藤内式後半から曾利式初頭まで遺構は確認されていない。堰口遺跡の継続性を補完するように竹宇1遺跡で井戸尻式2段階から複数の住居が出現し、曾利V式期まで断続的に住居が検出される。

北原遺跡は試掘調査で新道式から井戸尻式前半の土器が出土している。遺構は確認されなかつたが、堰口遺跡と竹宇1遺跡の継続性の空白を埋める可能性がある。桜井1遺跡でも試掘調査で貉沢式から井戸尻式までの土器がまとめて出土しており、竹宇1遺跡を補完するとみられる。ただし、桜井1遺跡と竹宇1遺跡は隣接しており、同一遺跡の異なる地点で遺構の主体となる時期が異なっているかもしれない。桜井1では後期堀之内1式、2式土器も出土している。

台ヶ原中位段丘は、白須大久保遺跡のほか調査された遺跡が少なく詳細が分からぬのが、中台1遺跡で前期中葉の土器が表採され、旧菅原小学校では五領ヶ台式土器が確認されている。井戸尻式末から曾利II式期にかけて白須大久保遺跡で集落が営まれ、その継続性は竹宇1遺跡に類似する。中期中葉の遺物が表採されている旧菅原小学校遺跡、中台2遺跡で少ないながらも遺構が検出される可能性があろうが、竹宇高位段丘における堰口遺跡、竹宇1遺跡・桜井1遺跡のような前期、中期段階の継続性が長く、拠点性の高い集落遺跡の存在は想定されない。屋敷平遺跡では晚期末葉、氷I式期の住居1軒と土坑多数が確認されている。

根古屋高位段丘では根古屋遺跡で曾利式期の集落が確認されている。中越式期にも住居1軒が調査されていて前期前葉には居住地として利用されているが、その後、中期末葉までは居住痕跡が確認されないようである。

横手高位段丘は前期前葉に上北田遺跡で住居24軒が調査され、板橋遺跡、堰口遺跡とならぶ集落が形成

されていたが、その後は西之久保遺跡で諸磯 b 式期の住居 1 軒、古御所遺跡で藤内式期の住居 1 軒が確認されるのみとなる。それ以外の遺跡は発掘調査の履歴がないため不明とせざるを得ないが、宮沢遺跡は表採された遺物が後期まで継続し、竹宇 1 遺跡・桜井 1 遺跡に比肩するような拠点的集落である可能性が残されている。横手高位段丘も竹宇高位段丘にならぶほどの面積を有しており、長期継続する拠点的集落が想定されてもよいように思われる。

武川町山高高位段丘では、黒澤遺跡で中越式期の住居 1 軒が調査され、実原 A 遺跡で五領ヶ台式期から新道式期の住居 10 軒、黒澤遺跡でも新道式から藤内式期の住居 3 軒が確認されている。また西ノ宮遺跡でも新道式から藤内式期の遺構が最近の試掘調査で確認された。このように中期初頭から中葉前半までは複数地点で居住痕跡が確認されるが、その後は真原 A 遺跡で曾利 II 式から III 式期の中規模集落が形成されるまで目立った土地利用痕跡が確認されない。

山高高位段丘の状況と対的に、山高高位段丘の南東、黒沢川対岸に位置する新奥高位段丘にある向原遺跡は中越式土器が出土し、中期初頭から中期末葉までの住居 50 軒ほどが発掘調査されている。向原遺跡は外径 80 ~ 90m ほどの環状集落を形成するとみられ、山高高位段丘をふくめた地域の拠点的集落であった可能性があろう。

最後に縄文時代における釜無川右岸の土地利用状況の特徴をまとめておきたい。

第一に目立つのは前期前葉、中越式期の土地利用が際立つ点である。上北田遺跡、堰口遺跡、板橋遺跡は北杜市域でも大規模な集落遺跡であり、これらに比較できる集落は八ヶ岳南麓、茅ヶ岳西麓には知られていない。諸磯 a 式期から b 式期の堰口遺跡も注目される。八ヶ岳南麓の天神 C 遺跡に先行する拠点的集落として重要があろう。

中期になると鳥原高位段丘の上小用遺跡、竹宇高位段丘の竹宇 1 遺跡・桜井 1 遺跡、山高・新奥高位段丘の向原遺跡の拠点的集落が、段丘ごとに出現し長期にわたって集落として利用されるようになる。また竹宇高位段丘の堰口遺跡、北原遺跡、竹宇 1 遺跡・桜井 1 遺跡のように近接する拠点的集落が、維続性において補完的に営まれた可能性もうかがえる。こうした補完関係が今後の調査で確認されていくならば、当該地域の縄文集落の消長は、人口増加、環境変化、あるいは資源分布と資源利用といった縄文時代の生活の根本にかかる要因によるものではなく、河川流路の変化や湧水地の枯渇、堅穴住居建設適地の不足、生活廃棄物の集積、死者や不吉な出来事の発生、燃料材の枯渇など、短期的で突発的、偶発的な出来事に大きく影響されたと考えるのがより適当であるかもしれない。

以上、分布調査、試掘調査の断片的な情報と推測を交えて釜無川右岸の中期遺跡の状況を概観した。当該地域における今後の埋蔵文化財保護、調査、研究、遺跡の理解に資するところがあれば幸いである。

参考文献(紙幅の制約により北杜市刊行の遺跡調査報告書は割愛した)

小林謙一 2008 「縄文土器の年代」 小林達雄編『絶観縄文土器』 アム・プロモーション

杉本充 1997 「大原 1 遺跡」 『八ヶ岳考古 平成 8 年度年報』 北巨摩市町村文化財担当者会

竹田眞人 1997 「山梨県北巨摩郡内における縄文時代中期初頭(五領ヶ台式)土器群の編年」 『八ヶ岳考古 平成 8 年度年報』

新津 健 1986 「第三編 町の歴史 第一章 考古」 『白州町誌』 白州町

野出道孝・清水小太郎 1986 「第二編 自然と環境 第一章 地形と地質」 『白州町誌』 白州町

平山恵・坂口広太 2003 「真原 A 遺跡」 『八ヶ岳考古 平成 14 年度年報』

平山恵・坂口広太 2004 「実原 A 遺跡」 『八ヶ岳考古 平成 15 年度年報』

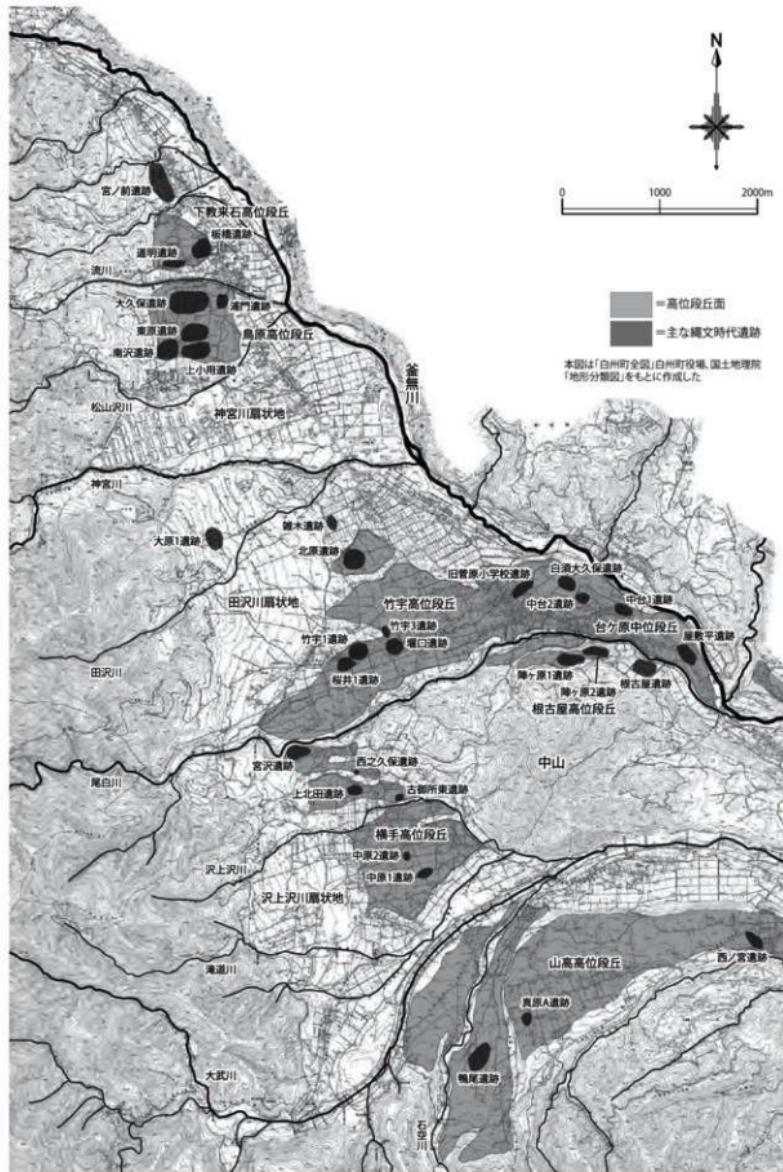


図1 釜無川右岸の高位段丘と主要遺跡分布

表1 箕無川右岸の主要遺跡の継続性

(濃灰色は遺構が確認された時期、薄灰色は遺構が予想される時期、網掛けは遺物が確認された時期、○は表掲土器の型式名のみが分かる時期を示す。数字は調査された住居数を示す。)



調査地点遠景

東上空より。背景や巨摩山地。写真左側は尾白川低地。遺跡は尾白川左岸の田沢川扇状地端に立地する



調査地点遠景

南東上空より。遺跡は写真奥側と左側の田沢川扇状地へ広がると推測される



調査区全景

東上空より。調査区の右端は既に埋め戻されている。調査区の上側に桜井 1 遺跡が所在する



調査区全景

2筆の水田の1筆を調査し、写真下側の水田内の遺構は盛土保存された



4号住居埋土断面
6号住居が重複する



4号住居完掘状況
南側から。石匂炉は6号住居のもの



45号土坑
4号住居貯藏穴



46号土坑
4号住居貯藏穴



5号住居埋土断面

南西から



5号住居完掘状況

東から。左上は6号住居炉



5号住居完掘状況

東から。写真左上が6号住居、上が4号住居



6号住居埋土断面

南西から。中央が炉。上方は5号住居。
下方は4号住居



6号住居完掘状況
南西から



6号住居炉
南から



6号住居遺物出土状況
47号土坑とした柱穴上で出土した井戸尻式土器



蛇紋岩製垂飾の出土状況
6号住居埋土中で出土した



7号住居埋土断面

南西から。器台 33 号住居とした曾利Ⅱ式期の遺構か
ら落ち込んだものと判断した。



7号住居完掘状況

南から。住居の右側半分は現状保存した



7号住居炉半截状況

南から。50 号土坑とした遺構が炉体土器が埋設され、
7号住居の炉と判断した。



7号住居炉体土器の検出状況

南から。写真上方の風化した花崗岩塊は炉石と思わ
れる。



55号土坑
7号住居貯藏穴



59号土坑
7号住居貯藏穴



61号土坑
7号住居貯藏穴



7号住居内の遺物出土状況
北西から。7号住居床面から相当浮いて出土したこれらの器台、土器は33号住居に帰属する



9号住居埋土断面

南から。写真右端の10号住居を掘り下げてしまい、
9号住居全体の埋土断面を撮影できなかった。



9号住居完掘状況

南東から。左下は14号住居と14号住居炉。右下は
10号住居



9号住居炉

南から。花崗岩と安山岩を長方形に並べた炉



9号住居遺物出土状況

南東から。炉周辺の埋土中で古利II式土器がまとまつて出土した。



10号住居埋土断面

南西から。写真右側の理土断面と写真上方の小グリッド断面に大きな擾乱層がみえる



10号住居完掘状況

南から。地床炉の上は擾乱されて床面も失われていた。写真左下は9号住居炉



95号ピット

10号住居南端で検出され、底部穿孔された小形深鉢
が出土した



78号ピット

10号住居の貯蔵穴と思われる。底面近くから石器が
出土した



10号住居遺物出土状況

地床炉周辺で曾利Ⅰ式土器がまとまって出土した。
写真左上は9号住居に帰属する曾利Ⅱ式土器



耳栓の出土状況

10号住居東端の周溝内で出土



11号住居炉の検出状況

南西から。写真右下の礫のまとまりが11号住居炉。
左上は9号住居炉



11号住居炉

14号住居埋土中に11号住居の床面と炉がつくられて
いる



12A号住居完掘状況

南東から。左下は15号住居、上は10号住居。左上に9号住居炉



12A号住居炉

南東から。花崗岩を円形に並べた炉



94号ピット

12A号住居貯蔵穴と思われる



12A号住居埋土断面

南東から。左側は10号住居に切られ、右側は擾乱で破壊されている



12B号住居炉

110号土坑とした遺構を12B号住居炉と判断した



13号住居完掘状況

南から。右は102号土坑



13号住居遺物出土状況

南東から。曾利II式土器が投棄されたような状態で出土した。これらの土器と石器は102号土坑上面に重なっている



13号住居炉

花崗岩の石閉炉。南側の炉石は三角形である



14号住居埋土断面
南東から。右下は15号住居



14号住居完掘状況
南東から。下は15号住居、右上は9号住居



14号住居炉
南から。安山岩と花崗岩を円形に並べた炉



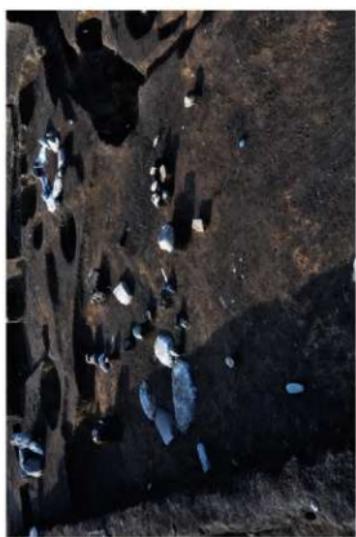
116号ピット
14号住居柱穴。井戸尻式深井がまとめて出土した



119号ビット
14号住居貯蔵穴



106号土坑
14号住居貯蔵穴



14号住居遺物出土状況
東から。右上は9号住居炉。遺物は出土位置と高さ
から11号住居と14号住居とに分別した



土偶の出土状況
119号ビット埋土上層で出土した土偶胸部と胸部破
片。写真左側が14号住居床面



15号住居埋土断面

炉のやや南側に位置する断面を南東から撮影。写真右下は17号住居



15号住居完掘状況

東から。写真上方は14号住居。右側は12号住居



15号住居炉

東から。手前側の炉石は失わっていた



107号土坑

15号住居貯藏穴



111号土坑
15号住居貯蔵穴



15号住居遺物出土状況
炉周辺を東から撮影。遺物は主に埋土で出土した



16号住居の検出状況

東から。炉の左下側は竪穴の輪郭が検出され、右側
は床面より深い地山面まで掘り下げ柱穴を検出した



16号住居炉

東から。花崗岩を並べた炉は現状保存された



16号住居遺物出土状況

炉周辺を南西から撮影。炉周辺の埋土で井戸尻式土器がまとまって出土した。



17号住居埋土断面 1

左側が15号住居



17号住居埋土断面 2

断面1写真から南へ2mずれたグリッド断面。右端の石組は17B号住居炉



17号住居遺物出土状況



17B号住居炉

花崗岩と安山岩で方形石閉炉をつくっている



17号住居全景

南東から。小グリッド単位で地山まで掘り下げたグリッドと埋土を残したグリッドがある



18号住居埋土断面

北東から。左奥が19号住居



18号住居完掘状況

南から



18号住居炉半截状況

南東から。花崗岩と安山岩を構成形にならべた炉



18号住居炉

南から。焼土の発達が弱いのは地山が湿った黒色土であるためだろう



埋甕と遺物の出土状況

南東から。埋甕が突出しているが、床面が判然とせず掘り下げすぎた結果である



埋甕の埋設状況

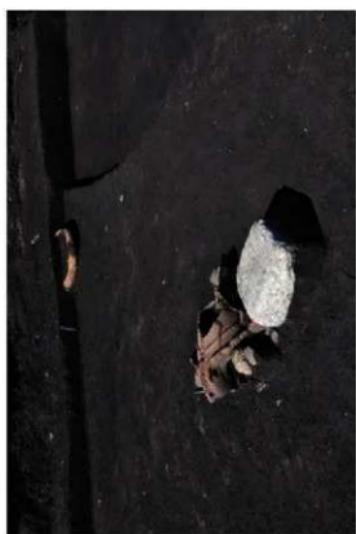
南から。両耳甕が正位で埋設されていた



19号住居埋土断面
北東から。右端が18号住居南壁の分層線



19号住居完掘状況
南から。右上の石壠炉は18号住居



19号住居埋甕炉検出状況
南東から。奥が埋甕炉。手前は112号土坑に伴う土器と礫



19号住居埋甕炉
東から



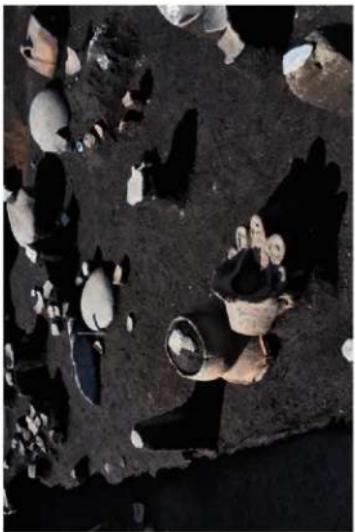
20号住居埋土断面

南東から。20号住居の床面近くまで掘り下げた時点
で撮影。写真右側は21号住居と認定した。



20号住居遺物出土状況

東から。20号住居の炉周辺で釣手土器、伏甕、台石
などが床面高さで出土した。



20号住居遺物出土状況

東から。釣手土器と伏甕の出土状況



20号住居遺物出土状況

北東から。炉石と思われる周辺に台石、石皿がまと
まって出土した。一番手前の台石の左側で多量の黒
曜石剥片が出土した。



20号住居検出状況

東から。写真中央の黒く変色した箇所は 21号住居



20号住居検出状況

南から。20号住居と認識した範囲の南端で埋設土器と炉石と思われる石組を検出した



20号住居南端の埋設土器と石組

南から。炉石と思われる石の傍らでは石皿破片が出上した



20号住居南端の埋設土器

南から。この埋設土器は現状保存したが、わずかにみえる文様から曾利II式の深鉢と思われる



21号、22号、30号、31号、32号住居
調査区南半分の衛観写真。中央に20号、21号、調査
区南端に30号、31号、32号住居が検出された



23号住居埋土断面
南東から



23号住居完掘状況
南から。埋甕と石團炉は発掘し、床面以下は検出の
みで現状保存した

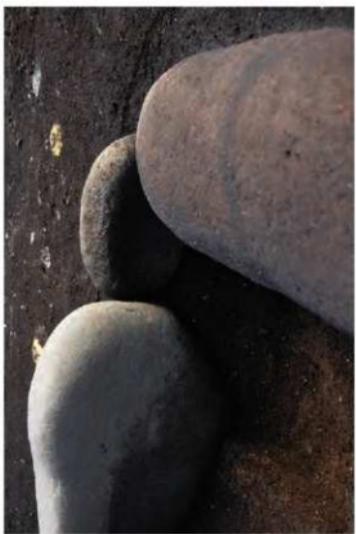


23号住居炉
南から。台石、石皿が炉石として転用されている。
北西角の炉石は炉内に倒れていた



23号住居炉

南西角部には打製石斧と磨石が埋め込まれていた



23号住居炉

南東角の炉石は小形の石皿が転用されていた



23号住居遺物出土状況

埋土中に投棄された遺物が大半であった。右端に埋甕が見える



23号住居埋甕

北から。X字状把手付大形深鉢を正位で埋設した埋甕は住居の主軸から西へずれ、床面から口縁部が突出していた



23号住居埋甕
北から。胴部は意図的に穿孔されていた



24号住居完掘状況
南から。中央下側は住居に切られる 117号土坑



24号住居炉
南東から



25号住居検出状況
北東から。遺物がまとまって出土したが、土器が示す時期幅は広く、遺構が重複していると思われる



25号住居遺物出土状況

北東から。遺構の中心部に曾利Ⅰ～Ⅲ式土器、東から南東側には井戸尻式土器が多い。



25号住居遺物出土状況

東から。遺構の南東側で出土した井戸尻式土器



25号住居遺物出土状況

遺構の北西部で出土した曾利Ⅰ式ないしⅡ式土器



25号住居遺物出土状況

南西から。中央に土偶の頭部から胴部にかけての破片。周囲の土器は曾利Ⅰ式からⅡ式が多い



26号住居完掘状況
南西から。写真的左側は完掘した平安時代の住居。
26号住居は床面まで検出したところで現状保存した



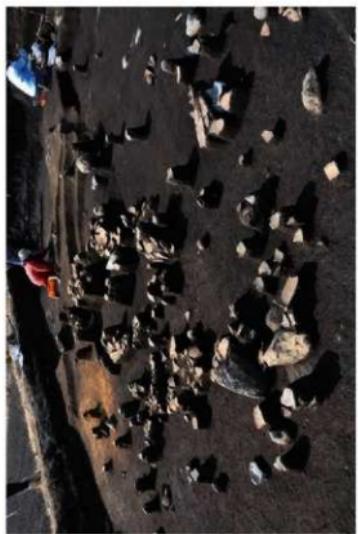
26号住居炉検出状況
南西から。花崗岩が円形に並べられた小形の炉



26号住居遺物出土状況
南から。遺物は住居北東部の埋土中でまとまって出土した



26号住居遺物出土状況
出土した遺物は井戸尻式3段階の土器が主であった



27号住居検出状況
北東から。上は26号住居。この住居は遺物を取り上げて現状保存した



27号住居遺物出土状況
曾利IV式とV式土器がまとめて出土した



28号住居検出状況
北東から。左半分は27号住居



28号住居遺物出土状況
北東から。曾利II式土器が出土。住居は遺物を取り上げて現状保存した



29号住居

東から。柱穴も炉も検出されなかつたが、遺物がまとまるところから住居と認識した



29号住居遺物出土状況

北東から。土器を迅速に取り上げるために周囲を土坑のように発掘したが、住居埋土中で出土した



人面装飾付深鉢の出土状況

北東から。人面装飾付深鉢は埋土中で斜めになつて出土した



29号住居遺物出土状況

南東から。人面装飾付深鉢を取り上げた後の状況。周囲で深鉢破片、石柱破片、台石破片が出土した



33号住居完掘状況

写真上は7号住居。33号住居は炉、柱穴がはっきり検出されなかつた。



33号住居遺物出土状況

南東から。G-3-12 グリッドで曾利II式土器と器台がまとまって出土した。



33号住居遺物出土状況

西から。G-3-8 グリッドでは曾利I式土器がまとまって出土した。



33号住居遺物出土状況

北西から。G-3-13 グリッド



34号土坑

南西から。住居の埋廃の可能性もある土坑



54号土坑

赤彩された小形土器が出土した



77号土坑

曾利II式土器が出土



94号土坑

曾利I式と思われる土器口縁部と礫が出土



102号土坑

南西から。13号住居と重複し、13号住居遺物が埋土中に混入していた



112号土坑

西から。19号住居を切る土坑で多喜庄タイプの井戸戻式土器が花崗岩とともに出土した



114号土坑

北から。24号、29号住居と重複する土坑で、ほぼ完形に復元できる浅鉢の破片がまとまって出土した。



117号土坑

南から。24号、29号住居と重複する土坑で、藤内式土器が斜位で出土した。



1号住居完掘状況
北から



1号住居カマド半截状況
西から。カマド振り方にはやや焼土化した黄褐色土が検出された



1号住居カマド
西から。袖石の一部が残り、環が二つに割れて出土した



2号住居完掘状況
西から



2号住居カマド
南西から



3号住居
西から。平面形は明瞭に確認できなかった



3号住居遺物出土状況
西から。壇底部破片が出土した



1号掘立柱建物
北から

報告書抄録

ふりがな	ちくういちいせき
書名	竹宇1遺跡
副題	県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大除・竹宇工区に伴う埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第41集
著者	佐野隆
発行機関	北杜市教育委員会・山梨県中北農務事務所
編集機関	北杜市教育委員会(学術課埋蔵文化財センター)
所在地/電話	山梨県北杜市明野町上手8310番地 0551-42-1375
印刷所	有限会社小宮山プリント社 山梨県北杜市高根町箕輪新町14
発行日	2016(平成28年)年3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしづくしゅうちょうしらす
所在地	山梨県北杜市白州町白須2849-1番地
位置	北北緯35°48'19" 東経138°19'5"
調査原因	農業基盤整備事業
調査期間	平成24年10月22日から平成25年3月13日
調査機関	北杜市教育委員会(学術課埋蔵文化財センター)
調査面積	1,390 m ²
時期	縄文時代(中期)、平安時代
主な遺構	縄文時代中期(前葉～末葉)の住居28軒、土坑113基、平安時代の住居3軒、掘立柱建物1棟
主な遺物	縄文時代中期(落沢式、藤内式、井戸尻式、曾利式)の土器、石器、土偶、石製装身具、平安時代の土師器、井戸尻式期の人面装飾付深鉢形土器
特記事項	調査地点の一部は現状保存措置を講じた。縄文時代中期前葉から後期中葉に至る拠点的な集落遺跡と推測される

北杜市埋蔵文化財調査報告第 41 集

竹宇 1 遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区大除・竹宇工区に伴う
埋蔵文化財調査報告

2016 年 3 月 25 日印刷

2016 年 3 月 31 日発行

発行 北杜市教育委員会（学術課埋蔵文化財センター）

山梨県北杜市明野町上手 8310 番地

TEL (0551) 42-1375

印刷 有限会社小宮山プリント社

山梨県北杜市高根町箕輪新町 14
